別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾆﾎﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　日本大学							
フリガナ 大学の名称	ﾆﾎﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 日本大学　(Nihon University)							
大学本部の位置	東京都千代田区九段南四丁目８番２４号							
大学の目的	本大学は、日本精神にもとづき、道統をたっとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	生物資源科学部 [College of Bioresource Sciences] 　動物学科 [Department of Zoological Science]	4	136	－	544	学士（生物資源学） 【Bachelor of Bioresource Sciences】	令和5年4月 第1年次	神奈川県藤沢市亀井野1866
	計	－	136	－	544			
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和５年４月設置予定 日本大学大学院 危機管理学研究科 危機管理学専攻　（　8）　（令和４年４月届出予定） スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻　（　8）　（令和４年４月届出予定） 日本大学 生物資源科学部 バイオサイエンス学科　（ 210）　（令和４年４月届出予定） 海洋生物学科　（ 146）　（令和４年４月届出予定） 森林学科　（ 120）　（令和４年４月届出予定） 環境学科　（ 130）　（令和４年４月届出予定） アグリサイエンス学科　（ 140）　（令和４年４月届出予定） 食品開発学科　（ 146）　（令和４年４月届出予定） 国際共生学科　（ 146）　（令和４年４月届出予定） 獣医保健看護学科　（ 80）　（令和４年４月届出予定） 生命農学科（廃止）　（△130） ※令和５年４月学生募集停止 生命化学科（廃止）　（△130） ※令和５年４月学生募集停止 動物資源科学科（廃止）　（△136） ※令和５年４月学生募集停止 森林資源科学科（廃止）　（△130） ※令和５年４月学生募集停止 海洋生物資源科学科（廃止）　（△136） ※令和５年４月学生募集停止 生物環境工学科（廃止）　（△130） ※令和５年４月学生募集停止 食品生命学科（廃止）　（△136） ※令和５年４月学生募集停止 国際地域開発学科（廃止）　（△130） ※令和５年４月学生募集停止 応用生物科学科（廃止）　（△126） ※令和５年４月学生募集停止 くらしの生物学科（廃止）　（△ 80） ※令和５年４月学生募集停止 食品ビジネス学科〔定員増〕　（　10）　（令和５年４月）							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	生物資源科学部 動物学科	143 科目	9 科目	11 科目	163 科目	124 単位	

教員		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	生物資源科学部　動物学科	6 (7)	2 (2)	5 (5)	3 (3)	16 (17)	0 (0)	107 (97)	
		生物資源科学部　バイオサイエンス学科	8 (11)	10 (10)	4 (4)	2 (2)	24 (27)	0 (0)	115 (94)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　海洋生物学科	6 (7)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	14 (15)	0 (0)	112 (96)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　森林学科	5 (6)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	12 (13)	0 (0)	113 (95)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　環境学科	6 (6)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	104 (93)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　アグリサイエンス学科	5 (6)	5 (5)	6 (7)	2 (2)	18 (20)	0 (0)	114 (96)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　食品開発学科	5 (8)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	16 (19)	0 (0)	109 (95)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　国際共生学科	5 (7)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	10 (12)	0 (0)	115 (93)	令和４年４月届出済み
		生物資源科学部　獣医保健看護学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	131 (99)	令和４年４月届出済み
		計	50 (62)	41 (41)	29 (30)	14 (14)	134 (147)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	法学部　法律学科	19 (20)	6 (6)	6 (5)	4 (4)	35 (35)	0 (0)	11 (21)	
		法学部　政治経済学科	10 (10)	5 (6)	6 (5)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	6 (8)	
		法学部　新聞学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	16 (20)	
		法学部　経営法学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	8 (14)	
		法学部　公共政策学科	9 (11)	3 (3)	2 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (9)	
		（一般教育）	13 (13)	10 (10)	2 (2)	5 (5)	30 (30)	0 (0)	113 (146)	
		第二部 法学部　法律学科	3 (3)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	6 (7)	
		（一般教育）	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	14 (22)	
		文理学部　哲学科	3 (3)	4 (5)	0 (0)	2 (2)	9 (10)	0 (0)	10 (10)	
		文理学部　史学科	9 (8)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (12)	2 (2)	36 (36)	
		文理学部　国文学科	9 (10)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	11 (11)	2 (2)	27 (27)	
		文理学部　中国語中国文化学科	5 (7)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	21 (21)	
		文理学部　英文学科	7 (10)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (14)	2 (2)	99 (99)	
		文理学部　ドイツ文学科	6 (7)	1 (2)	0 (0)	2 (0)	9 (9)	1 (1)	21 (21)	
		文理学部　社会学科	10 (11)	1 (1)	0 (0)	3 (1)	14 (13)	2 (2)	20 (20)	
		文理学部　社会福祉学科	5 (5)	1 (2)	0 (0)	2 (1)	8 (8)	1 (1)	14 (14)	
		文理学部　教育学科	9 (9)	3 (2)	0 (0)	2 (2)	14 (13)	2 (2)	58 (58)	
		文理学部　体育学科	14 (11)	0 (3)	0 (0)	5 (3)	19 (17)	1 (1)	13 (13)	
		文理学部　心理学科	10 (12)	1 (2)	0 (0)	3 (1)	14 (15)	1 (1)	25 (25)	
		文理学部　地理学科	6 (7)	2 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	2 (2)	16 (16)	
		文理学部　地球科学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	30 (30)	
		文理学部　数学科	7 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	7 (7)	
		文理学部　情報科学科	8 (8)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	10 (10)	1 (1)	12 (12)	
		文理学部　物理学科	7 (6)	2 (4)	0 (0)	0 (1)	9 (11)	3 (3)	12 (12)	
		文理学部　生命科学科	5 (6)	2 (2)	0 (0)	2 (1)	9 (9)	4 (4)	31 (31)	
		文理学部　化学科	6 (9)	2 (2)	0 (0)	3 (1)	11 (12)	6 (6)	12 (12)	

組	設								
		（一般教育）	2 (3)	8 (8)	0 (0)	9 (6)	19 (17)	0 (0)	31 (31)
		経済学部　経済学科	20 (21)	15 (16)	4 (4)	2 (1)	41 (42)	0 (0)	25 (25)
		経済学部　産業経営学科	15 (16)	7 (7)	7 (6)	2 (1)	31 (30)	0 (0)	19 (19)
		経済学部　金融公共経済学科	9 (10)	0 (0)	2 (1)	4 (3)	15 (14)	0 (0)	5 (5)
		（一般教育）	16 (17)	11 (11)	9 (9)	0 (0)	36 (37)	0 (0)	147 (147)
		商学部　商業学科	19 (19)	12 (12)	4 (3)	0 (0)	35 (34)	0 (0)	34 (35)
		商学部　経営学科	12 (12)	8 (8)	2 (1)	0 (0)	22 (21)	0 (0)	25 (30)
		商学部　会計学科	12 (12)	1 (1)	3 (2)	0 (0)	16 (15)	0 (0)	16 (18)
		（一般教育）	7 (9)	21 (22)	3 (3)	0 (0)	31 (34)	0 (0)	131 (138)
		芸術学部　写真学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	5 (5)	37 (37)
		芸術学部　映画学科	10 (10)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	74 (74)
		芸術学部　美術学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	3 (3)	33 (33)
		芸術学部　音楽学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	7 (7)	82 (82)
		芸術学部　文芸学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	4 (4)	37 (37)
		芸術学部　演劇学科	5 (5)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	10 (10)	6 (6)	78 (78)
		芸術学部　放送学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	6 (6)	33 (33)
		芸術学部　デザイン学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	11 (11)	5 (5)	48 (48)
		（一般教育）	8 (8)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	82 (82)
		国際関係学部　国際総合政策学科	13 (13)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
織		国際関係学部　国際教養学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	21 (21)	0 (0)	0 (0)
		（一般教育）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		危機管理学部　危機管理学科	18 (18)	2 (5)	3 (1)	1 (0)	24 (24)	0 (0)	20 (20)
		（一般教育）	5 (4)	2 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (3)
		スポーツ科学部　競技スポーツ学科	11 (10)	3 (6)	4 (4)	2 (0)	20 (20)	0 (0)	8 (8)
		（一般教育）	6 (7)	2 (2)	3 (4)	0 (0)	11 (13)	0 (0)	14 (14)
		理工学部　土木工学科	10 (10)	8 (8)	0 (0)	4 (2)	22 (20)	3 (3)	51 (51)
		理工学部　交通システム工学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	3 (3)	27 (27)
		理工学部　建築学科	14 (13)	6 (4)	0 (0)	2 (4)	22 (21)	4 (4)	81 (85)
		理工学部　海洋建築工学科	6 (5)	6 (4)	0 (1)	1 (3)	13 (13)	0 (0)	44 (44)
		理工学部　まちづくり工学科	8 (7)	2 (2)	0 (0)	2 (3)	12 (12)	3 (2)	27 (27)
		理工学部　機械工学科	11 (13)	2 (2)	0 (0)	4 (3)	17 (18)	3 (3)	39 (39)
		理工学部　精密機械工学科	8 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (3)	13 (17)	2 (2)	11 (12)
		理工学部　航空宇宙工学科	8 (7)	5 (6)	0 (0)	1 (2)	14 (15)	3 (3)	18 (18)
		理工学部　電気工学科	7 (8)	5 (5)	1 (1)	4 (5)	17 (19)	2 (2)	14 (14)
		理工学部　電子工学科	8 (7)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	14 (13)	2 (2)	17 (17)
		理工学部　応用情報工学科	9 (8)	4 (3)	0 (0)	1 (3)	14 (14)	2 (2)	14 (15)
		理工学部　物質応用化学科	13 (11)	3 (7)	0 (0)	2 (2)	18 (20)	4 (4)	23 (23)
		理工学部　物理学科	18 (17)	2 (3)	0 (0)	2 (3)	22 (23)	0 (2)	5 (5)
の		理工学部　数学科	8 (8)	3 (5)	0 (0)	2 (1)	13 (14)	2 (2)	6 (6)

		（一般教育）	31 (27)	18 (23)	1 (2)	3 (6)	53 (58)	2 (2)	160 (148)
		生産工学部　機械工学科	9 (9)	3 (2)	4 (3)	1 (3)	17 (17)	3 (2)	29 (31)
		生産工学部　電気電子工学科	11 (10)	2 (4)	1 (1)	3 (1)	17 (16)	0 (1)	29 (38)
		生産工学部　土木工学科	11 (10)	1 (4)	3 (1)	2 (2)	17 (17)	3 (2)	26 (27)
		生産工学部　建築工学科	10 (12)	3 (4)	1 (1)	3 (1)	17 (18)	2 (2)	31 (37)
		生産工学部　応用分子化学科	15 (12)	0 (3)	1 (0)	1 (1)	17 (16)	1 (1)	26 (26)
		生産工学部　マネジメント工学科	10 (10)	1 (2)	3 (1)	0 (1)	14 (14)	1 (2)	25 (24)
		生産工学部　数理情報工学科	11 (10)	1 (2)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (1)	17 (17)
		生産工学部　環境安全工学科	9 (9)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	14 (14)	2 (2)	20 (20)
		生産工学部　創生デザイン学科	7 (5)	4 (5)	1 (1)	1 (2)	13 (13)	0 (0)	26 (24)
		（一般教育）	22 (19)	8 (11)	7 (7)	6 (7)	43 (44)	0 (0)	72 (81)
		工学部　土木工学科	6 (6)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	16 (16)
		工学部　建築学科	8 (9)	3 (2)	7 (7)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	24 (24)
		工学部　機械工学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	17 (17)
		工学部　電気電子工学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	11 (11)
		工学部　生命応用化学科	9 (10)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	17 (18)	0 (0)	2 (2)
		工学部　情報工学科	7 (8)	9 (8)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
		（一般教育）	8 (9)	12 (12)	5 (5)	2 (2)	27 (28)	0 (0)	66 (66)
概		医学部　医学科	43 (43)	72 (77)	3 (9)	159 (142)	277 (271)	126 (126)	34 (34)
		（一般教育）	1 (1)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	12 (12)	2 (2)	25 (25)
		歯学部　歯学科	25 (26)	28 (31)	21 (24)	57 (50)	131 (131)	1 (1)	77 (77)
		（一般教育）	5 (5)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	12 (12)	1 (1)	24 (24)
		松戸歯学部　歯学科	22 (21)	18 (22)	41 (45)	46 (38)	127 (126)	0 (0)	33 (33)
		（一般教育）	1 (2)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	11 (11)
		生物資源科学部　食品ビジネス学科	5 (7)	5 (4)	3 (3)	1 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (11)
		生物資源科学部　獣医学科	22 (23)	6 (5)	10 (10)	12 (10)	50 (48)	0 (0)	15 (16)
		（一般教育）	21 (24)	6 (6)	6 (6)	6 (4)	39 (40)	4 (4)	69 (72)
		薬学部　薬学科	26 (27)	11 (6)	10 (14)	15 (15)	62 (62)	0 (0)	26 (26)
		（一般教育）	3 (1)	2 (3)	1 (1)	0 (1)	6 (6)	0 (0)	8 (8)
		通信教育部　法学部	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	15 (15)
		通信教育部　文理学部	1 (1)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	111 (111)
		通信教育部　経済学部	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	17 (17)
		通信教育部　商学部	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	11 (11)
		（一般教育）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合科学研究所	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
		量子科学研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
要	分	計	952 (964)	510 (554)	229 (232)	452 (406)	2142 (2154)	255 (257)	－ (－)
	合　　計		1002 (1026)	551 (595)	258 (262)	466 (420)	2276 (2301)	255 (257)	－ (－)

教員以外の職員の概要

職種	専任	兼任	計
事務職員	1,152人 (1,156)	701人 (710)	1853人 (1,866)
技術職員	109人 (109)	70人 (70)	179人 (179)
図書館専門職員	18人 (19)	64人 (64)	82人 (83)
その他の職員	34人 (36)	120人 (120)	154人 (156)
計	1,313人 (1,320)	955人 (964)	2,268人 (2,284)

校地等

区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	共用
校舎敷地	1,109,823.38㎡	204,483.52㎡	7,462.70㎡	1,321,769.60㎡	日本大学短期大学部 日本大学医学部附属看護専門学校（収容定員240人）（面積基準860㎡） 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校（収容定員105人）（面積基準455㎡） 日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校（収容定員120人）（面積基準500㎡） 日本大学松戸歯学部附属歯科衛生専門学校（収容定員120人）（面積基準500㎡） 日本大学櫻丘高等学校（収容定員1,806人） 日本大学三島高等学校（収容定員2,040人）
運動場用地	887,661.33㎡	81,392.13㎡	13,430.44㎡	982,483.90㎡	
小計	1,997,484.71㎡	285,875.65㎡	20,893.14㎡	2,304,253.50㎡	
その他	77,910.33㎡	17,747.37㎡	0㎡	95,657.70㎡	
合計	2,075,395.04㎡	303,623.02㎡	20,893.14㎡	2,399,911.20㎡	

	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	共用
校舎	1,033,968.36㎡ (3,080.95㎡)	20,216.72㎡ (0㎡)	16,355.03㎡ (0㎡)	1,070,540.11㎡ (3,080.95㎡)	日本大学短期大学部 日本大学医学部附属看護専門学校（収容定員240人）（面積基準860㎡） 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校（収容定員105人）（面積基準455㎡） 日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校（収容定員120人）（面積基準500㎡） 日本大学松戸歯学部附属歯科衛生専門学校（収容定員120人）（面積基準500㎡）

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
	935室	282室	2,044室	62室 （補助職員3人）	12室 （補助職員3人）

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	生物資源科学部　動物学科	14室

図書・設備

新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料点	機械・器具点	標本点
生物資源科学部 動物学科	18,399〔6,981〕 (18,162〔6,925〕)	42,602〔31,476〕 (42,602〔31,476〕)	335〔332〕 (335〔332〕)	55 (55)	309 (335)	0 (0)
計	18,399〔6,981〕 (18,162〔6,925〕)	42,602〔31,476〕 (42,602〔31,476〕)	335〔332〕 (335〔332〕)	55 (55)	309 (335)	0 0

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	54,253.66㎡	6,266	4,175,532

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要
	43,044.5㎡	武道場　プール

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円		
共同研究費等		1,560千円	1,560千円	1,560千円	1,560千円		
図書購入費	450千円	450千円	450千円	450千円	450千円		
設備購入費	55千円	55千円	55千円	55千円	55千円		

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,700千円	1,440千円	1,440千円	1,440千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要：資産運用収入，雑収入，寄付金　等

既設大学等の状況

大学の名称	日本大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
法学研究科								東京都千代田区神田三崎町2-3-1
公法学専攻（博士前期課程）	2	30	－	60	修士(法学)	0.34	昭和26年度	
私法学専攻（博士前期課程）	2	30	－	60	修士(法学)	0.51	昭和26年度	
政治学専攻（博士前期課程）	2	15	－	30	修士(政治学)	0.36	昭和30年度	
公法学専攻（博士後期課程）	3	4	－	12	博士(法学)	0.00	昭和29年度	
私法学専攻（博士後期課程）	3	4	－	12	博士(法学)	0.41	昭和28年度	
政治学専攻（博士後期課程）	3	4	－	12	博士(政治学)	0.08	昭和30年度	
新聞学研究科								東京都千代田区神田三崎町2-3-1
新聞学専攻（博士前期課程）	2	10	－	20	修士(新聞学)	0.65	平成22年度	
新聞学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(新聞学)	0.11	平成25年度	
文学研究科								東京都世田谷区桜上水3-25-40
哲学専攻（博士前期課程）	2	10	－	20	修士(文学)	0.25	昭和30年度	
史学専攻（博士前期課程）	2	20	－	40	修士(文学)	0.25	昭和26年度	
国文学専攻（博士前期課程）	2	15	－	30	修士(文学)	0.36	昭和26年度	
中国学専攻（博士前期課程）	2	10	－	20	修士(文学)	0.05	昭和48年度	
英文学専攻（博士前期課程）	2	20	－	40	修士(文学)	0.12	昭和26年度	
ドイツ文学専攻（博士前期課程）	2	5	－	10	修士(文学)	0.40	昭和39年度	
社会学専攻（博士前期課程）	2	15	－	30	修士(社会学)	0.56	昭和29年度	
教育学専攻（博士前期課程）	2	10	－	20	修士(教育学)	1.35	昭和36年度	
心理学専攻（博士前期課程）	2	20	－	40	修士(心理学)	0.65	昭和26年度	
哲学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.33	昭和36年度	
日本史専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.66	昭和38年度	
外国史専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.00	昭和28年度	
国文学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.33	昭和36年度	
中国学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.00	昭和50年度	
英文学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.11	昭和36年度	
ドイツ文学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(文学)	0.00	昭和39年度	
社会学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(社会学)	0.00	昭和38年度	
教育学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(教育学)	0.88	昭和36年度	
心理学専攻（博士後期課程）	3	3	－	9	博士(心理学)	0.33	昭和28年度	
総合基礎科学研究科								東京都世田谷区桜上水3-25-40
地球情報数理科学専攻（博士前期課程）	2	12	－	24	修士(理学)	1.78	平成10年度	
相関理化学専攻（博士前期課程）	2	23	－	46	修士(理学)	1.47	平成10年度	
地球情報数理科学専攻（博士後期課程）	3	2	－	6	博士(理学)	1.00	平成12年度	
相関理化学専攻（博士後期課程）	3	2	－	6	博士(理学)	0.33	平成12年度	

経済学研究科									東京都千代田区神田三崎町1-3-2	
経済学専攻（博士前期課程）	2	30	―	60	修士(経済学)	0.88	昭和26年度		
経済学専攻（博士後期課程）	3	6	―	18	博士(経済学)	0.27	昭和51年度		
商学研究科									東京都世田谷区砧5-2-1	
商学専攻（博士前期課程）	2	30	―	60	修士(商学)	0.41	昭和35年度		
経営学専攻（博士前期課程）	2	30	―	60	修士(商学)	0.48	昭和46年度		
会計学専攻（博士前期課程）	2	30	―	60	修士(商学)	0.03	昭和42年度		
商学専攻（博士後期課程）	3	3	―	9	博士(商学)	0.00	昭和38年度		
経営学専攻（博士後期課程）	3	5	―	15	博士(商学)	0.13	昭和48年度		
会計学専攻（博士後期課程）	3	5	―	15	博士(商学)	0.06	昭和42年度		
芸術学研究科									東京都練馬区旭丘2-42-1	
文芸学専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(芸術学)	0.70	昭和26年度		
映像芸術専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(芸術学)	1.17	平成5年度		
造形芸術専攻（博士前期課程）	2	15	―	30	修士(芸術学)	2.16	平成5年度		
音楽芸術専攻（博士前期課程）	2	10	―	20	修士(芸術学)	1.15	平成5年度		
舞台芸術専攻（博士前期課程）	2	10	―	20	修士(芸術学)	0.85	平成5年度		
芸術専攻（博士後期課程）	3	8	―	24	博士(芸術学)	0.62	平成7年度		
国際関係研究科									静岡県三島市文教町2-31-145	
国際関係研究専攻（博士前期課程）	2	10	―	20	修士(国際学)	0.60	昭和58年度		
国際関係研究専攻（博士後期課程）	3	3	―	9	博士(国際関係)	0.22	平成8年度		
理工学研究科									東京都千代田区神田駿河台1-8-14	
土木工学専攻（博士前期課程）	2	40	―	80	修士(工学)	0.65	昭和48年度		
交通システム工学専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(工学)	0.67	昭和54年度		千葉県船橋市習志野台7-24-1
建築学専攻（博士前期課程）	2	50	―	100	修士(工学)	1.42	昭和48年度		
海洋建築工学専攻（博士前期課程）	2	30	―	60	修士(工学)	1.20	昭和54年度		
まちづくり工学専攻（博士前期課程）	2	15	―	30	修士(工学)	0.59	平成29年度		
機械工学専攻（博士前期課程）	2	35	―	70	修士(工学)	1.12	昭和26年度		
精密機械工学専攻（博士前期課程）	2	25	―	50	修士(工学)	1.48	昭和54年度		
航空宇宙工学専攻（博士前期課程）	2	25	―	50	修士(工学)	1.54	昭和54年度		
電気工学専攻（博士前期課程）	2	35	―	70	修士(工学)	0.95	昭和26年度		
電子工学専攻（博士前期課程）	2	35	―	70	修士(工学)	0.72	昭和54年度		
情報科学専攻（博士前期課程）	2	15	―	30	修士(工学)又は(理学)	1.53	平成4年度		
物質応用化学専攻（博士前期課程）	2	40	―	80	修士(工学)又は(理学)	0.81	昭和26年度		
物理学専攻（博士前期課程）	2	25	―	50	修士(理学)	1.16	昭和38年度		
数学専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(理学)	0.62	昭和38年度		
地理学専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(理学)	0.22	昭和38年度		
量子理工学専攻（博士前期課程）	2	20	―	40	修士(理学)又は(工学)	0.30	平成4年度		
土木工学専攻（博士後期課程）	3	5	―	15	博士(工学)	0.26	昭和48年度		

	交通システム工学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(工学)	0.20	昭和54年度			
	建築学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(工学)	0.06	昭和48年度			
	海洋建築工学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(工学)	0.40	昭和54年度			
	まちづくり工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.22	令和元年度			
	機械工学専攻 （博士後期課程）	3	4	－	12	博士(工学)	0.16	昭和28年度			
	精密機械工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.33	昭和54年度			
	航空宇宙工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.33	昭和54年度			
	電気工学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(工学)	0.20	昭和28年度			
	電子工学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(工学)	0.13	昭和54年度			
	情報科学専攻 （博士後期課程）	3	4	－	12	博士(工学) 又は(理学)	0.00	平成6年度			
	物質応用化学専攻 （博士後期課程）	3	7	－	21	博士(工学) 又は(理学)	0.28	昭和28年度			
	物理学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(理学)	0.13	昭和38年度			
	数学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(理学)	0.06	昭和38年度			
	地理学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(理学)	0.33	昭和38年度			
	量子理工学専攻 （博士後期課程）	3	5	－	15	博士(理学) 又は(工学)	0.00	平成6年度			
	生産工学研究科										
	機械工学専攻 （博士前期課程）	2	30	－	60	修士(工学)	1.15	昭和45年度	千葉県習志野市泉町1-2-1		
	電気電子工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	0.90	昭和45年度			
	土木工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	0.70	昭和45年度			
	建築工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	1.92	昭和45年度			
	応用分子化学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	1.05	昭和45年度			
	マネジメント工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	0.87	昭和45年度			
	数理情報工学専攻 （博士前期課程）	2	10	－	20	修士(工学)	1.40	昭和55年度			
	機械工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.22	昭和47年度			
	電気電子工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.22	昭和47年度			
	土木工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.55	昭和47年度			
	建築工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.00	昭和47年度			
	応用分子化学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.00	昭和47年度			
	マネジメント工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.55	昭和47年度			
	数理情報工学専攻 （博士後期課程）	3	3	－	9	博士(工学)	0.55	昭和55年度			
	工学研究科										
	土木工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	0.70	昭和45年度	福島県郡山市田村町徳定字中河原1		
	建築学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	50	修士(工学)	0.84	昭和45年度			
	機械工学専攻 （博士前期課程）	2	25	－	55	修士(工学)	1.00	昭和45年度			
	電気電子工学専攻 （博士前期課程）	2	20	－	40	修士(工学)	0.65	昭和45年度			
	生命応用化学専攻 （博士前期課程）	2	30	－	50	修士(工学)	1.15	昭和45年度			
	情報工学専攻 （博士前期課程）	2	25	－	45	修士(工学)	1.52	平成9年度			

	土木工学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.50	昭和47年度		
	建築学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.50	昭和47年度		
	機械工学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.16	昭和47年度		
	電気電子工学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.16	昭和47年度		
	生命応用化学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	昭和47年度		
	情報工学専攻 （博士後期課程）	3	2	—	6	博士(工学)	0.50	平成11年度		
	医学研究科									
	生理系専攻 （博士課程）	4	12	—	48	博士(医学)	0.16	昭和31年度	東京都板橋区大谷口上町30-1	
	病理系専攻 （博士課程）	4	6	—	24	博士(医学)	0.24	昭和31年度		
	社会医学系専攻 （博士課程）	4	8	—	32	博士(医学)	0.15	昭和31年度		
	内科系専攻 （博士課程）	4	16	—	64	博士(医学)	0.94	昭和31年度		
	外科系専攻 （博士課程）	4	22	—	88	博士(医学)	0.54	昭和31年度		
	歯学研究科									
	歯学専攻 （博士課程）	4	30	—	120	博士(歯学)	0.90	平成17年度	東京都千代田区神田駿河台1-8-13	
	松戸歯学研究科									
	歯学専攻 （博士課程）	4	30	—	120	博士(歯学)	0.59	昭和52年度	千葉県松戸市栄町西2-870-1	
	生物資源科学研究科									
	生物資源生産科学専攻 （博士前期課程）	2	27	-	54	修士(生物資源科学)	0.83	平成12年度	神奈川県藤沢市亀井野1866	
	生物資源利用科学専攻 （博士前期課程）	2	22	-	44	修士(生物資源科学)	0.65	平成12年度		
	応用生命科学専攻 （博士前期課程）	2	22	-	44	修士(生物資源科学)	1.29	平成12年度		
	生物環境科学専攻 （博士前期課程）	2	22	-	44	修士(生物資源科学)	0.33	平成12年度		
	生物資源経済学専攻 （博士前期課程）	2	22	-	44	修士(生物資源科学)	0.27	平成12年度		
	生物資源生産科学専攻 （博士後期課程）	3	6	-	18	博士(生物資源科学)	0.38	平成12年度		
	生物資源利用科学専攻 （博士後期課程）	3	5	-	15	博士(生物資源科学)	0.20	平成12年度		
	応用生命科学専攻 （博士後期課程）	3	5	-	15	博士(生物資源科学)	0.26	平成12年度		
	生物環境科学専攻 （博士後期課程）	3	5	-	15	博士(生物資源科学)	0.26	平成12年度		
	生物資源経済学専攻 （博士後期課程）	3	5	-	15	博士(生物資源科学)	0.00	平成12年度		
	獣医学研究科									
	獣医学専攻 （博士課程）	4	6	—	24	博士(獣医学)	0.83	昭和30年度	神奈川県藤沢市亀井野1866	
	薬学研究科									
	薬学専攻 （博士課程）	4	5	—	20	博士(薬学)	1.00	平成24年度	千葉県船橋市習志野台7-7-1	
	総合社会情報研究科									
	国際情報専攻 （博士前期課程）	2	30	—	60	修士(国際情報)	0.39	平成11年度	東京都千代田区九段南4-8-28	
	文化情報専攻 （博士前期課程）	2	30	—	60	修士(文化情報)	0.71	平成11年度		
	人間科学専攻 （博士前期課程）	2	30	—	60	修士(人間科学)	1.04	平成11年度		
	総合社会情報専攻 （博士後期課程）	3	9	—	27	博士(総合社会文化)	0.99	平成15年度		

法務研究科 法務専攻 （専門職学位課程）	3	60	－	180	法務博士(専門職)	0.64	平成16年度	東京都千代田区神田三崎町2-2-3	
計(修士・博士前期)		1,385	－	2,770	－	－	－	－	
計(博士・博士後期)		356	－	1,203	－	－	－	－	
計（専門職）		60	－	180	－	－	－	－	
合計		1,801	－	4,153	－	－	－	－	
法学部								東京都千代田区神田三崎町2-3-1	
法律学科	4	533	－	2,132	学士(法学)	1.04	昭和24年度		
政治経済学科	4	350	－	1,400	〃	1.00	昭和24年度		
新聞学科	4	200	－	800	〃	1.06	昭和24年度		
経営法学科	4	200	－	800	〃	1.02	昭和39年度		
公共政策学科	4	250	－	1,000	〃	0.98	昭和39年度		
計	－	1,533	－	6,132	－	1.02	－		
第二部 法学部								東京都千代田区神田三崎町2-3-1	
法律学科	4	200	－	800	学士(法学)	1.02	昭和24年度		
計	－	200	－	800	－	1.02	－		
文理学部								東京都世田谷区桜上水3-25-40	
哲学科	4	88	－	352	学士(文学)	1.01	昭和33年度		
史学科	4	133	－	532	〃	1.04	昭和33年度		
国文学科	4	133	－	532	〃	1.04	昭和33年度		
中国語中国文化学科	4	70	－	280	〃	0.99	昭和33年度		
英文学科	4	133	－	532	〃	1.00	昭和33年度		
ドイツ文学科	4	80	－	320	〃	0.97	昭和34年度		
社会学科	4	210	－	840	学士(社会学)	1.02	昭和33年度		
社会福祉学科	4	60	－	240	学士(社会福祉学)	0.96	平成25年度		
教育学科	4	120	－	480	学士(教育学)	1.02	昭和33年度		
体育学科	4	200	－	800	学士(体育学)	1.02	昭和37年度		
心理学科	4	130	－	520	学士(心理学)	1.06	昭和33年度		
地理学科	4	80	－	320	学士(地理学)	1.00	昭和33年度		
地球科学科	4	80	－	320	学士(理学)	1.00	昭和36年度		
数学科	4	73	－	292	〃	1.02	昭和33年度		
情報科学科	4	80	－	320	〃	1.05	昭和37年度		
物理学科	4	70	－	280	〃	0.96	昭和33年度		
生命科学科	4	70	－	280	〃	1.03	平成16年度		
化学科	4	90	－	360	〃	1.01	昭和37年度		
計	－	1,900	－	7,600	－	1.01	－		
経済学部								東京都千代田区神田三崎町1-3-2	
経済学科	4	916	－	3,664	学士(経済学)	1.03	昭和24年度		
産業経営学科	4	450	－	1,800	〃	1.05	昭和39年度		
金融公共経済学科	4	200	－	800	〃	0.93	平成22年度		
計	－	1,566	－	6,264	－	1.03	－		
商学部								東京都世田谷区砧5-2-1	
商業学科	4	666	－	2,664	学士(商学)	1.00	昭和32年度		
経営学科	4	350	－	1,400	〃	1.00	昭和39年度		
会計学科	4	250	－	1,000	〃	1.01	昭和39年度		
計	－	1,266	－	5,064	－	1.00	－		
芸術学部								東京都練馬区旭丘2-42-1	
写真学科	4	100	－	400	学士(芸術)	1.05	昭和24年度		
映画学科	4	150	－	600	〃	1.05	昭和24年度		
美術学科	4	60	－	240	〃	1.01	昭和24年度		
音楽学科	4	90	－	360	〃	1.03	昭和24年度		
文芸学科	4	120	－	480	〃	1.04	昭和24年度		
演劇学科	4	126	－	504	〃	1.05	昭和25年度		
放送学科	4	120	－	480	〃	1.04	昭和35年度		
デザイン学科	4	100	－	400	〃	1.03	平成8年度		
計	－	866	－	3,464	－	1.04	－		
国際関係学部								静岡県三島市文教町2-31-145	
国際総合政策学科	4	383	－	1,532	学士(国際関係)	0.98	平成23年度		
国際教養学科	4	283	－	1,132	〃	1.00	平成23年度		
計	－	666	－	2,664	－	0.99	－		
危機管理学部								東京都世田谷区下馬3-34-1	
危機管理学科	4	300	－	1,200	学士(危機管理学)	1.04	平成28年度		
計	－	300	－	1,200	－	1.04	－		

スポーツ科学部										
競技スポーツ学科	4	300	―	1,200	学士(体育学)	1.04	平成28年度	東京都世田谷区下馬3-34-1	
計	―	300	―	1,200	―	1.04	―		
理工学部								東京都千代田区神田駿河台1-8-14	
土木工学科	4	220	―	880	学士(工学)	0.99	昭和33年度		
交通システム工学科	4	120	―	480	〃	0.99	昭和37年度	千葉県船橋市習志野台7-24-1	
建築学科	4	250	―	1,000	〃	1.07	昭和33年度		
海洋建築工学科	4	120	―	480	〃	1.04	昭和53年度		
まちづくり工学科	4	100	―	400	〃	1.01	平成25年度		
機械工学科	4	160	―	640	〃	0.98	昭和33年度		
精密機械工学科	4	140	―	560	〃	1.03	昭和37年度		
航空宇宙工学科	4	120	―	480	〃	0.93	昭和53年度		
電気工学科	4	160	―	640	〃	1.06	昭和33年度		
電子工学科	4	100	―	400	〃	0.98	昭和53年度		
応用情報工学科	4	100	―	400	〃	1.15	平成25年度		
物質応用化学科	4	200	―	800	〃	0.97	昭和33年度		
物理学科	4	140	―	560	学士(理学)	1.01	昭和33年度		
数学科	4	100	―	400	〃	1.15	昭和34年度		
計	―	2,030	―	8,120	―	1.02	―		
生産工学部								千葉県習志野市泉町1-2-1	
機械工学科	4	198	―	792	学士(工学)	1.04	昭和41年度		
電気電子工学科	4	176	―	704	〃	1.03	昭和41年度	千葉県習志野市新栄2-11-1	
土木工学科	4	198	―	792	〃	1.02	昭和41年度		
建築工学科	4	198	―	792	〃	1.04	昭和41年度		
応用分子化学科	4	176	―	704	〃	1.02	昭和41年度		
マネジメント工学科	4	176	―	704	〃	1.04	昭和41年度		
数理情報工学科	4	154	―	616	〃	1.03	昭和41年度		
環境安全工学科	4	132	―	528	〃	1.04	平成21年度		
創生デザイン学科	4	132	―	528	〃	1.03	平成21年度		
計	―	1,540	―	6,160	―	1.03	―		
工 学 部								福島県郡山市田村町徳定字中河原1	
土木工学科	4	160	―	610	学士(工学)	1.06	昭和24年度		令和4年度入学定員増(10人)
建築学科	4	190	―	730	〃	1.10	昭和24年度		令和4年度入学定員増(10人)
機械工学科	4	180	―	720	〃	0.95	昭和24年度		
電気電子工学科	4	180	―	720	〃	1.08	昭和24年度		
生命応用化学科	4	130	―	610	〃	0.73	昭和24年度		令和4年度入学定員減(30人)
情報工学科	4	190	―	730	〃	1.06	平成5年度		令和4年度入学定員増(10人)
計	―	1,030	―	4,120	―	1.00	―		
医 学 部								東京都板橋区大谷口上町30-1	
医学科	6	120	―	725	学士(医学)	0.99	昭和27年度		令和4年度のみ臨時入学定員増(5人)
計	―	120	―	725	―	0.99	―		
歯 学 部								東京都千代田区神田駿河台1-8-13	
歯学科	6	130	―	780	学士(歯学)	0.98	昭和27年度		
計	―	130	―	780	―	0.98	―		
松戸歯学部								千葉県松戸市栄町西2-870-1	
歯学科	6	130	―	780	学士(歯学)	0.90	昭和51年度		
計	―	130	―	780	―	0.90	―		
生物資源科学部								神奈川県藤沢市亀井野1866	
生命農学科	4	130	―	520	学士(生物資源学)	1.03	平成8年度		
生命化学科	4	130	―	520	〃	1.04	平成8年度		
動物資源科学科	4	136	―	544	〃	1.03	平成8年度		
食品ビジネス学科	4	136	―	544	〃	1.06	平成8年度		
森林資源科学科	4	130	―	520	〃	1.02	平成8年度		
海洋生物資源科学科	4	136	―	544	〃	1.07	平成8年度		
生物環境工学科	4	130	―	520	〃	0.95	平成8年度		
食品生命学科	4	136	―	544	〃	1.07	平成8年度		
国際地域開発学科	4	130	―	520	〃	1.05	平成8年度		
応用生物科学科	4	126	―	504	〃	1.06	平成8年度		
くらしの生物学科	4	80	―	320	〃	1.02	平成27年度		
計	―	1,400	―	5,600	―	1.04	―		4年制学科
獣医学科	6	120	―	720	学士(獣医学)	1.05	平成8年度		
計	―	120	―	720	―	1.05	―		6年制学科

薬学部 薬学科 計	6 —	244 244	— —	1,464 1,464	学士(薬学) —	1.07 1.07	平成18年度 —	千葉県船橋市習志野台7-7-1	
合計(第一部)	—	15,141	0	62,057	—	—	—	—	
合計(第二部)	—	200	—	800	—	—	—	—	
合計(第一部・第二部)	—	15,341	0	62,857	—	—	—	—	
(通信教育部) 法学部 文理学部 経済学部 商学部	 4 4 4 4	 3,000 3,000 1,500 1,500	 — — — —	 12,000 12,000 6,000 6,000	 学士(法学) 学士(文学) 学士(経済学) 学士(商学)	 0.04 0.10 0.08 0.14	 昭和25年度 昭和25年度 昭和25年度 昭和32年度	 東京都千代田区九段南4-8-28	
合計		9,000	—	36,000	—	—	—	—	

大学の名称	日本大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
ビジネス教養学科	2	100	—	200	短期大学士(商経学)	0.80	昭和25年度	静岡県三島市文教町2-31-145	
食物栄養学科	2	100	—	200	短期大学士(栄養学)	0.86	昭和37年度		
建築・生活デザイン学科	2	110	—	220	短期大学士(工学)	1.01	昭和25年度	千葉県船橋市習志野台7-24-1	
ものづくり・サイエンス総合学科	2	70	—	140	短期大学士(工学)又は(理学)	1.10	昭和25年度		
合計	—	380	—	760	—	—	—	—	

附属施設の概要

名　　称　総合体育館
目　　的　文理学部体育学科附属施設
所 在 地　東京都世田谷区桜上水三丁目25番40
設置年月　昭和53年6月
規 模 等　土地 3,631.20㎡　建物 5,231.65㎡

名　　称　第２体育館
目　　的　文理学部体育学科附属施設
所 在 地　東京都世田谷区桜上水三丁目25番40
設置年月　昭和39年6月
規 模 等　土地 985.38㎡　建物 1,568.20㎡

名　　称　文理学部新体育館
目　　的　文理学部体育学科附属施設
所 在 地　東京都世田谷区桜上水三丁目25番40
設置年月　令和4年3月
規 模 等　土地 1706.36㎡　建物 2,720.06㎡

名　　称　百周年記念館
目　　的　文理学部体育学科附属施設
所 在 地　東京都世田谷区桜上水三丁目25番40
設置年月　平成13年11月
規 模 等　土地 14,189.48㎡　建物 2,750.38㎡

名　　称　日本大学板橋病院
目　　的　医学部附属施設
所 在 地　東京都板橋区大谷口上町30番1
設置年月　昭和45年5月
規 模 等　土地 5,700.15㎡　建物 42,160.52㎡

名　　称　日本大学病院
目　　的　病院
所 在 地　千代田区神田駿河台一丁目６番２７
設置年月　平成26年8月
規 模 等　土地 2,796.38㎡　　建物 29,817.49㎡

名　　称　歯科病院
目　　的　歯学部附属施設
所 在 地　東京都千代田区神田駿河台一丁目8番13
設置年月　昭和39年11月
規 模 等　土地 1,613.05㎡　建物 5,724.44㎡

名　　称　本館
目　　的　歯学部附属施設
所 在 地　東京都千代田区神田駿河台一丁目8番13
設置年月　令和3年10月（予定）
規 模 等　土地 3,169.54㎡（予定）　建物 6,055.72㎡（予定）

名　　称　新病院棟
目　　的　松戸歯学部附属施設
所 在 地　千葉県松戸市栄町西二丁目870番1
設置年月　平成18年1月
規 模 等　土地 2,830.71㎡　建物 9,716.42㎡

名　　称　長万部演習林
目　　的　生物資源科学部附属施設
所 在 地　北海道山越郡長万部町字栗岡162番1ほか
設置年月　昭和17年9月
規 模 等　土地 295,927.00㎡

名　　称　八雲演習林 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　北海道山越郡八雲町字富咲29ほか 設置年月　昭和22年8月 規 模 等　土地 24,102,214.61㎡　建物 168.56㎡	
名　　称　水上演習林 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　群馬県利根郡みなかみ町夜後字須野小沢23番1ほか 設置年月　昭和23年10月 規 模 等　土地 1,570,959.34㎡　建物 1,585.29㎡	
名　　称　君津演習林 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　千葉県君津市大字大坂字小坂沢1161番2ほか 設置年月　昭和41年10月 規 模 等　土地 316,772.00㎡	
名　　称　藤沢・農牧場 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　神奈川県藤沢市亀井野1866ほか 設置年月　昭和15年8月 規 模 等　土地 238,354.58㎡　建物 4,784.58㎡	
名　　称　藤沢・演習林 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　神奈川県藤沢市亀井野1866ほか 設置年月　昭和15年8月 規 模 等　土地 17,006.81㎡　建物　108.92㎡	
名　　称　家畜病院 目　　的　生物資源科学部附属施設 所 在 地　神奈川県藤沢市亀井野1866ほか 設置年月　平成7年4月 規 模 等　土地 1,786.49㎡　建物 6,408.72㎡	
名　　称　すざき２世 目　　的　生物資源採集船 所 在 地　静岡県下田市須崎字池ノ段1237番1 設置年月　平成5年6月 規 模 等　強化プラスチック　９．１トン	
名　　称　薬草園 目　　的　薬学部附属施設 所 在 地　千葉県船橋市習志野台七丁目3番 設置年月　昭和63年4月 規 模 等　土地 12,071.00㎡　建物 277.85㎡	

（注）

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（生物資源科学部動物学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目		自主創造の基礎	1前		2		○								兼1	
		日本を考える	1後		2		○								兼1	
		小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
教養教育科目	言語系科目	英語ＩＡ	1前	1			○								兼17	
		英語ＩＢ	1後	1			○								兼17	
		英語ⅡＡ	1前	1			○								兼18	
		英語ⅡＢ	1後	1			○								兼18	
		英語ⅢＡ	2前	1			○								兼20	
		英語ⅢＢ	2後	1			○								兼20	
		英語ⅣＡ	2前	1			○								兼7	
		英語ⅣＢ	2後	1			○								兼7	
		初級ドイツ語文法Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級ドイツ語文法Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級ドイツ語講読Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級ドイツ語講読Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級ドイツ語会話Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級ドイツ語会話Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		中級ドイツ語講読Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		中級ドイツ語講読Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		検定ドイツ語Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		検定ドイツ語Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		初級フランス語文法Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級フランス語文法Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級フランス語会話Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級フランス語会話Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級スペイン語文法Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級スペイン語文法Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級スペイン語会話Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級スペイン語会話Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級中国語文法Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼2	
		初級中国語文法Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		初級中国語会話Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		初級中国語会話Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		中級中国語文法	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		中級中国語会話	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		初級韓国語文法Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		初級韓国語文法Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		初級韓国語会話Ａ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		初級韓国語会話Ｂ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		日本語Ⅰ	1･2･3･4前		1		○								兼1	集中
		日本語Ⅱ	1･2･3･4前		1		○								兼1	集中
		小計（38科目）	－	8	30	0	－			0	0	0	0	0	兼44	

教養教育科目	人文・社会系科目	日本語表現の基礎	1･2･3･4前･後		2		○								兼3	
		日本の文学	1･2･3･4前･後		2		○								兼3	
		哲学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		哲学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		倫理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		行動心理学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		個性の心理学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		文化人類学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境の文化人類学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		比較文化論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		比較芸術論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		法学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		社会学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		政治学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		政治と現代社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		経済学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済と現代社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		地理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		歴史学入門	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		社会学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		現代社会と福祉	1･2･3･4前･後		2		○								兼1	
		世界の歴史	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		地理学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（27科目）	－	0	54	0	－			0	0	0	0	0	兼16	
	自然系科目	物理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		基礎力学	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		基礎化学	1･2･3･4前･後		2		○								兼5	
		基礎生物学	1･2･3･4前	2			○			1					兼4	
		基礎地球科学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		統計学入門	1･2･3･4前･後		2		○								兼4	
		推計学入門	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		解析学	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		線形代数	1･2･3･4前		2		○								兼4	
		物理学演習	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		総合生物学	1･2･3･4後		2		○			1					兼4	
		総合化学	1･2･3･4後		2		○								兼3	
		総合地球科学	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		小計（13科目）	－	2	23	0	－			1	0	0	0	0	兼20	
	健康・スポーツ系科目	スポーツ実技Ⅰ	1前・後	1				○							兼9	
		スポーツ実技Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼9	
		スポーツ実技Ⅲ	1･2･3･4前		1			○							兼2	
		スポーツ実技Ⅳ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		スポーツ科学	1･2･3･4前･後		2		○								兼4	
		小計（5科目）	－	1	5	0	－			0	0	0	0	0	兼9	
	総合系科目	データサイエンスの基礎	1･2･3･4前･後		2		○								兼3	
		情報科学	1･2･3･4前･後		2		○								兼4	
		科学史	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学技術と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		地球環境を考える	1･2･3･4前･後		2		○								兼4	
		生命倫理	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ボランティア論	1･2･3･4前		1		○								兼1	集中
		小計（7科目）	－	0	13	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
基礎専門科目		海外フィールド実習	1･2･3･4前･後		1				○						兼1	集中
		小計（1科目）	－	0	1	0	－			0	0	0	0	0	兼1	

専門教育科目	基盤領域		最新の動物学	1前	2			○			6	2	5	2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			動物の多様性	1前	2			○						1			
			動物細胞生物学	1前	2			○					1				
			生化学	1後	2			○			1						
			動物遺伝学	1後	2			○			1						
			動物生理学	1後	2			○								兼1	
			動物形態学	1後	2			○			1						
			動物系統分類学	1後	2			○			1						
			動物学基礎実験Ⅰ	1後	1					○	6	2	5	3			共同
			分子生物学	2前	2			○					1				
			哺乳類・鳥類学	2前	2			○				1					
			昆虫体系学	2前	2			○			1						
			動物学基礎実験Ⅱ	2前	1					○	6	2	5	3			共同
			両生類・爬虫類学	2後	2			○								兼1	
			基礎栄養学	2後	2			○								兼1	
			動物組織学	2後	2			○					1				
			動物科学論文講読	2後	1				○		6	2	5	3			共同
			生物統計学	3前	2			○					1				
			動物の福祉と倫理	3前	2			○								兼1	
			小計（19科目）	－	35	0	0	－			6	2	5	3	0	兼4	
	応用領域	動物生命史系科目	動物行動学	2前		2		○					1				
			動物生態学	2前		2		○			1						
			フィールド生態調査法	2前		2		○				1					
			動物自然史博物学	2後		2		○								兼1	
			応用昆虫学	2後		2		○				1					
			海岸生物学	2後		2		○						1			
			フィールド調査実習	2後		1				○	1	1	1	1			共同
			動物学史	3前		2		○								兼1	
			古動物学	3前		2		○			1						
			動物自然史博物学実習	3前		1				○	2			1			共同
			動物地理学	3後		2		○			1						
			小計（11科目）	－	0	20	0	－			3	2	2	2	0	兼1	
		動物生命科学系科目	動物発生学	2前		2		○			1						
			免疫生物学	2前		2		○			1						
			微生物学	2前		2		○				1					
			実験動物学	2後		2		○								兼1	
			生殖生物学	2後		2		○					1				
			応用免疫学	2後		2		○					1				
			動物学応用実験	2後		1				○	3	1	3				共同
			神経生物学	3前		2		○								兼1	
			生物情報学	3前		2		○					1				
			再生生物学	3前		2		○			1						
			時間生物学	3後		2		○			1						
			動物バイオテクノロジー	3後		2		○					1				
			小計（12科目）	－	0	23	0	－			4	1	4	0	0	兼1	
		動物の保全と環境系科目	環境科学	2前		2		○			1						
			外来動物管理学	2前		2		○					1				
			野生動物管理学	2後		2		○				1					
			保全生物学	2後		2		○					1				
			動物園飼育管理学	3前		2		○								兼1	
			動物と社会	3前		2		○					1	1			共同
			都市動物学	3前		2		○			1						
			動物心理学	3前		2		○								兼1	
			保全生物学実習	3前		1				○		1	1	2			共同
			動物の採餌と飼料	3後		2		○						1			
			野生動物と飼育動物の感染症学	3後		2		○								兼1	
			小計（11科目）	－	0	21	0	－			1	1	1	2	0	兼3	

専門教育科目	展開領域	動物学特別講義	3前		1		○			1						
		動物学演習	3後	1				○		6	2	5	3			共同
		動物学研究Ⅰ	4前	3				○		6	2	5	3			共同
		動物学研究Ⅱ	4後	3				○		6	2	5	3			共同
		小計（4科目）	－	7	1	0	－			6	2	5	3	0	0	
	広域基礎科目	生物資源科学概論	1前		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学概論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		生物学概論Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		物理学概論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		物理学概論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		化学概論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		化学概論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		生物学実験	2後		2				○						兼1	集中
		化学実験	3後		2				○						兼2	集中
		物理学実験	4前		2				○						兼1	
		地学概論Ⅰ	4前		2		○								兼1	
		地学概論Ⅱ	4後		2		○								兼1	
		地学実験	4後		2				○						兼1	
		小計（13科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼14	
合計（163科目）			－	53	221	0	－			6	2	5	3	0	兼107	

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目の必修科目11単位,全学共通教育科目及び教養教育科目の選択科目から19単位,専門教育科目の必修科目42単位,基礎専門科目及び専門教育科目の選択科目から52単位以上を修得し,124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお,専門教育科目の選択科目「フィールド調査実習」,「動物自然史博物学実習」,「動物学応用実験」,「保全生物学実習」から,1単位以上を選択必修とする。 ※言語系科目のうち,外国人留学生は母語を履修することはできない。 ※日本語Ⅰ,日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。 ※英語を母語とする外国人留学生は,言語系科目の英語ⅠA,英語ⅠB,英語ⅡA,英語ⅡB,英語ⅢA,英語ⅢB,英語ⅣA,英語ⅣBを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。 ※許可を得て他学科設置の専門教育科目を修得した者については,20単位を超えない範囲で専門教育科目の選択科目を修得したものとみなす。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（生物資源科学部動物資源科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	言語系科目	英語Ⅰ	1通	2			○								兼20
		英語Ⅱ	1通	2			○								兼22
		英語Ⅲ	2通	2			○								兼22
		英語Ⅳ	2通	2			○								兼10
		初級ドイツ語文法	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級ドイツ語講読	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級ドイツ語会話	1･2･3･4通		2		○								兼2
		中級ドイツ語講読	1･2･3･4通		2		○								兼1
		検定ドイツ語	1･2･3･4通		2		○								兼1
		初級フランス語文法	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級フランス語会話	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級スペイン語文法	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級スペイン語会話	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級中国語文法	1･2･3･4通		2		○								兼2
		初級中国語会話	1･2･3･4通		2		○								兼1
		中級中国語文法	1･2･3･4前		1		○								兼1
		中級中国語会話	1･2･3･4後		1		○								兼1
		初級韓国語文法	1･2･3･4通		2		○								兼1
		初級韓国語会話	1･2･3･4通		2		○								兼1
		日本語Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
		日本語Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
		小計（21科目）	－	8	32	0	－			0	0	0	0	0	兼53
	人文・社会系科目	日本語表現の基礎	1･2･3･4後		2		○								兼4
		日本の文学	1･2･3･4後		2		○								兼3
		哲学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		哲学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1
		倫理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		倫理学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1
		心理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼2
		行動心理学	1･2･3･4後		2		○								兼1
		個性の心理学	1･2･3･4後		2		○								兼1
		文化人類学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		環境の文化人類学	1･2･3･4後		2		○								兼1
		比較文化論	1･2･3･4前		2		○								兼1
		比較芸術論	1･2･3･4後		2		○								兼1
		法学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼1
		社会学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		政治学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		政治と現代社会	1･2･3･4後		2		○								兼1
		経済学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		経済と現代社会	1･2･3･4後		2		○								兼1
		地理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		歴史学入門	1･2･3･4前		2		○								兼1
		社会学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1
		現代社会と福祉	1･2･3･4後		2		○								兼1
		歴史と現代社会	1･2･3･4後		2		○								兼1
		地理学の現在	1･2･3･4後		2		○								兼1
		小計（26科目）	－	0	52	0	－			0	0	0	0	0	兼16

教養教育科目	自然系科目	物理学入門	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		基礎力学	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		基礎化学	1･2･3･4後		2		○								兼5	
		基礎生物学	1･2･3･4前		2		○								兼5	
		基礎地球科学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		統計学入門	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		推計学入門	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		解析学	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		線形代数	1･2･3･4前		2		○								兼4	
		物理学演習	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		総合生物学	1･2･3･4後		2		○								兼5	
		生物学実験	1･2･3･4前		1				○						兼1	
		化学特論	1･2･3･4後		2		○								兼3	
		化学実験	1･2･3･4前		1				○						兼2	
		総合地球科学	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		小計（15科目）	－	0	27	0	－			0	0	0	0	0	兼21	
	健康・スポーツ系科目	スポーツ実技Ⅰ	1･2･3･4後	1				○							兼9	
		スポーツ実技Ⅱ	1･2･3･4前		1			○							兼9	
		スポーツ実技Ⅲ	1･2･3･4前		1			○							兼3	
		スポーツ実技Ⅳ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		スポーツ科学	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		小計（5科目）	－	1	5	0	－			0	0	0	0	0	兼9	
	総合系科目	アルゴリズム入門	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		ネットワーク入門	1･2･3･4後		1		○								兼2	
		情報科学	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		科学史	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		科学技術と社会	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		地球環境を考える	1･2･3･4後		2		○								兼4	
		生命倫理	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ボランティア論	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		教養講座	1･2･3･4後		2		○								兼5	
		小計（9科目）	－	0	15	0	－			0	0	0	0	0	兼17	
基礎専門科目		生物資源科学フィールド実習	1前・後		1				○						兼4	
		海外フィールド実習	1前		1				○						兼1	
		生物資源科学概論	1前		1		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		自主創造の基礎１	1前		2		○								兼3	
		自主創造の基礎２	1・2後		2		○								兼3	
		小計（5科目）	－	0	7	0	－								兼15	
専門教育科目		動物資源科学概論	1前	2			○			4	1				兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		動物遺伝学	1前	2			○								兼1	
		化学概論	1前	2			○					1				
		動物形態学	1後	2			○								兼1	
		動物生理学	1前	2			○			1						
		動物生殖学	1後	2			○			1	1					
		動物資源経済学	1前	2			○								兼1	
		基礎生化学	1後	2			○			2					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		牧場実習	1通		1				○	1						集中
		野生動物学	1後	2			○								兼1	
		生物統計学	2前	2			○								兼1	
		生殖生理学	2前	2			○					1				
		飼料資源学	2前	2			○			1						
		微生物学	2後	2			○			1						
		ミルク科学	2前	2			○								兼1	
		動物資源科学実験	2前	1					○	4		2		1	兼1	
		動物育種学	2後	2			○								兼1	
		動物応用栄養学	2後	2			○			1						
		動物衛生学	2前	2			○								兼1	
		肉と卵の科学	2後	2			○			1						
		畜産経営学	2後	2			○								兼1	

	栄養生理学	2前	2			○			1						
	実験動物学	2後		2		○			1						
	免疫生物学	2後		2		○								兼1	
	動物生態学	2前		2		○			1						
	化学実験の基礎	2前		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	動物生理学実験	2後		1				○	1		1				
	家禽学	3前		2		○			2		1			兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	分子生物学	2前		2		○					1				
	畜産マーケティング論	2後		2		○								兼1	
	微生物学実習	2後		1				○	2		1			兼1	
	動物資源科学インターンシップ	2通		1				○		1				兼1	
	伴侶動物学	2後	2			○				1					
	草地・飼料作物学	2後		2		○								兼1	集中
	産乳科学	3前		2		○					1				
	動物疾病学	3後		2		○								兼1	
	資源動物論	3後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中
	動物性食品機能学	3前		2		○			1					兼1	
	動物関連法規・政策	3後		2		○								兼1	
専門教育科目	動物生殖学実験	3後		1				○	1	1					
	動物栄養学実験	3前		1				○	1		1				
	伴侶動物学実習	3前		1				○		1					
	草地・飼料資源学実習	3通		1				○	1						
	動物資源経済学演習	3通		1			○							兼1	
	動物性食品科学実験	3前		1				○	1					兼1	
	産肉科学	3後		2		○			1						
	生命工学	3前		2		○			1	1					
	動物心理学	3後		2		○				1					
	動物行動学	3前		2		○					1				
	動物園学	3後		2		○								兼1	
	犬と猫の科学	3後		2		○				1					
	卒業研究	4通	6				○		6	2	3		1		
	情報処理論	2後		2		○								兼1	
	動物育種学実習	3後		1				○						兼1	
	食品衛生学	3後		2		○								兼1	
	動物形態学実習	3通		1				○						兼2	集中
	保全生物学	3後		2		○			1						
	細胞・発生生物学	3後		2		○					1			兼1	
	動物資源科学演習	3後	1				○		6	2	3		1	兼3	
	アニマルセラピー・動物福祉論	3後		2		○								兼1	集中
	野生動物学実習	3通		1				○	1				1		集中
	小計（61科目）	－	50	61	0	－			6	2	3	0	1	兼15	
合計（142科目）		－	59	199	0	－			6	2	3	0	1	兼131	

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修業年限４年以上在学し，授業科目及びその単位数並びに履修方法に基づき，卒業に必要な総単位数は１２４単位以上を修得しなければならない。 １　言語系科目，人文・社会系科目，自然系科目，健康・スポーツ系科目，総合系科目から３０単位以上を修得しなければならない。 ２　英語以外の外国語については，留学生は母国語を履修することはできない。また日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修できる。 ３　基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，９４単位以上を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目及び教職課程科目・学芸員課程科目を修得した者については，３０単位を超えない範囲で専門教育科目を修得したものとみなす。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（生物資源科学部動物学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目		自主創造の基礎	日本大学の教育理念である「自主創造（自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく）」の実現に向けて，自らが学ぶ大学、学部、学科の特色を理解し，そこでの学修方法や能動的な学びの在り方を，個人ワークや「振り返りシート」の作成を通じて、更にはグループワークや学部間交流授業としてのワールドカフェを通じて，自己省察をしたり他者の多様な価値観に触れたりしながら修得し自覚することをねらいとする。	
		日本を考える	異文化を尊重しつつ，日本の特質を理解して伝えたり，我が国が直面する社会問題の解決法を見出したりするために，グループ学修の場で，自らの考えを他者と述べ合い，課題を議論し合うことを通じて，コミュニケーション力や問題発見･解決力を修得する。また自己を省察して自らの今後の学び方や生き方、大学で教養や専門を学ぶ意義を自覚するために，多様な観点から日本を見つめ，国際社会とのつながりを認識し，自己の立ち位置を理解する。	
教養教育科目	言語系科目	英語ＩＡ	これまでに学んできた基本的文法や構文の整理と習熟に努め，幅広い分野から選んだ標準的な現代英語を，できるだけ正確にかつ速く読めるようにする。同時に正確な発音など音声面にも留意し，視聴覚教材を利用した口頭練習やリスニングを実施する。	
		英語ＩＢ	英語ＩＡに引き続き，基本的な文法力や構文力を活用しながら，標準的な現代英語をできるだけ正確にかつ速く読める能力の習得を目指す。視聴覚教材を利用した口頭練習やリスニングも続けて実施し，音声面でのコミュニケーション能力の向上も図る。	
		英語ⅡＡ	モデルとなる英文を参考にしながら，日常生活で使用される口語英語によるコミュニケーション能力を高めることを目標とする。口頭での英作文や，視聴覚教材を使っての聞き取り練習や書き取りなども取り入れ，総合的に作文能力やコミュニケーション能力を高めるようにする。	
		英語ⅡＢ	英語ⅡＡに引き続き，口頭での英語コミュニケーション能力を高めるために，日常生活で使用される口語表現を習得し，さらには活用もできるよう練習する。そのために，口頭英作文などを行う一方，視聴覚教材を利用した練習を通して，包括的なコミュニケーション能力の習熟に努める。	
		英語ⅢＡ	英語ＩＡ・ＩＢ，英語ⅡＡ・ⅡＢで培った英語力を前提に，論理的なコミュニケーションの能力を養うために，一般的な科学的トピックを教材として利用し，講読と演習を行う。科学的なエッセイや記事，科学史に関する身近なトピックのほか，環境，医療，健康，情報，遺伝子，資源など現代社会に共通する幅広い問題を扱う。	
		英語ⅢＢ	英語ⅢＡに引き続き，一般的な科学トピック教材を利用した講読と演習を行う。専門分野とも関連する科学エッセイや記事，科学史に関する身近なトピックのほか，環境，医療，健康，情報，遺伝子，資源など現代社会に共通する幅広い話題を含んだ英文を，より正確に理解できる読解力の向上を目指す。	
		英語ⅣＡ	正しいアクセントやイントネーションに留意しながら，英語で自己表現の練習を行う。また身近な事柄や状況に応じた会話の練習を行う。自分の表現内容を整理し効果的に話す練習，相手の意向を理解し適切に対応する練習，話し合いの場面で自分の意見を積極的に話す練習などを行う。	

教養教育科目	言語系科目	英語Ⅳ Ｂ	英語Ⅳ Ａ同様，英語表現を利用してコミュニケーションを行う練習を進める。また，自分の表現内容を整理し効果的に話す練習，相手の意向を理解し適切に対応する練習，話し合いの場面で自分の意見を積極的に話す練習を続ける。	
		初級ドイツ語文法Ａ	ドイツ語の基本文法を，必要に応じて日本語や英語と比較対照しながら習得していく。聴き取りや発音練習も適宜取り入れ，必要最小限の文法規則を理解し，それを実際の言語運用へとつなげていくことを目指す。	
		初級ドイツ語文法Ｂ	初級ドイツ語文法Ａに引き続き，必要に応じて日本語や英語と比較対照しながら，ドイツ語基本文法を習得していく。聴き取りや発音練習も適宜取り入れ，必要最小限の文法規則を理解し，それを実際の言語運用へとつなげていくことを目指す。	
		初級ドイツ語講読Ａ	ドイツ語の基本文法を確認しながら，主に読解能力を伸ばすことを目的とする。ドイツ語で書かれた文章（歴史的な文献や文学作品など）を読み進めながら，基本文法のさらなる定着を図る。聴き取り，発音練習も取り入れることで，総合的なドイツ語運用能力につなげることを目指す。	
		初級ドイツ語講読Ｂ	初級ドイツ語講読Ａに引き続き，主にドイツ語読解能力を伸ばすことを目的とする。ドイツ語で書かれた文章（歴史的な文献や文学作品など）を読み進めながら，基本文法を確認し，そのさらなる定着を図る。聴き取り，発音練習も取り入れることで，総合的なドイツ語運用能力につなげていく。	
		初級ドイツ語会話Ａ	ドイツ語の基本文法を実際に応用し，ドイツ語会話の基礎を築くことを目標とする。CD等を十分に活用しながら，聴き取りと発話の基本的訓練を行い，日常生活でのやり取りや，身近な話題について自己表現ができるようになることを目指す。	
		初級ドイツ語会話Ｂ	初級ドイツ語会話Ａに引き続き，ドイツ語の基本文法を実際に応用し，ドイツ語会話の基礎を築くことを目標とする。CD等を十分に活用しながら，聴き取りと発話の基本的訓練を行い，日常生活でのやり取りや，身近な話題について自己表現ができるようになることを目指す。	
		中級ドイツ語講読Ａ	初級ドイツ語講読よりやや難易度の高い文献をテキストとし，主に読解能力のさらなる伸長を図る。ＡＶ資料なども利用しながら，聴き取りや発音練習も適宜取り入れドイツ語運用能力を高めるとともに，ドイツの文化・風土に対する理解を深める。	
		中級ドイツ語講読Ｂ	中級ドイツ語講読Ａに引き続き，やや難易度の高い文献をテキストとし，主に読解能力のさらなる伸長を図る。ＡＶ資料なども利用しながら，聴き取りや発音練習も適宜取り入れドイツ語運用能力を高めるとともに，ドイツの文化・風土に対する理解を深める。	
		検定ドイツ語Ａ	ドイツ語技能検定試験（独検）受験を想定した授業を行う。ドイツ語の発音規則を確認しながら，単語・熟語や表現を習得し語彙力も高める。独検の問題形式を把握し，高得点獲得という目標の達成に向けて履修者の語学力に応じて指導する。４級～３級程度（あるいはそれ以上）を目指す。	
		検定ドイツ語Ｂ	検定ドイツ語Ａに引き続き，独検受験を想定した授業を行う。ドイツ語の発音規則を確認しながら，単語・熟語や表現を習得し語彙力も高める。独検の問題形式を把握し，高得点獲得という目標の達成に向けて履修者の語学力に応じて指導する。４級～３級程度（あるいはそれ以上）を目指す。	

教養教育科目	言語系科目	初級フランス語文法Ａ	フランス語入門。初歩的なフランス語で話し，聞き，書き，読むことのできる基礎力を養う。発音と綴り字の読み方，及び初級文法の修得（とりわけ動詞の活用）に重点が置かれるが，単なる知識として学ぶのではなく，それを実際のコミュニケーションの中で使いながら身に付けることを目指す。あわせてフランス語圏の文化も紹介する。	
		初級フランス語文法Ｂ	初級フランス語文法Ａに引き続き，初歩的なフランス語の運用能力を養うことを目標とする。初級文法の知識を活用して，実際のコミュニケーションが取れるように，口頭での作文，リスニング，文章の読解など，幅広い練習を行う。また，フランス語圏の文化も紹介し，言語への興味を引き出す。	
		初級フランス語会話Ａ	フランス語の基礎的な文法力を活用し，やや高度な語彙・表現を用い，フランス語のみを使って初歩的な意思疎通が行える段階を目指す。そのために，理解することよりも実践を重視した練習を行う。コミュニケーションの前提となる，フランス語会話のスタイルや社会的・文化的コンテクストについても学ぶ。	
		初級フランス語会話Ｂ	初級フランス語会話Ａに引き続き，語彙を増やしながら，より高いレベルの表現ができるように練習する。基本的なフランス語文法の知識を活用し，発音など音声面にも留意しながら，包括的なコミュニケーション能力を高める。さらに，フランス語圏文化を知ることにより，言語を通した異文化理解を進める。	
		初級スペイン語文法Ａ	スペイン及び中南米の国々において公用語であるスペイン語を学ぶため，文法の基本的事項を習得すること，辞書を使いこなし文章を読む力をつけることを第一の目標とする。また，音楽を聴いたり，ビデオを視聴したりすることにより，スペイン語圏の現状について理解を深めながら言語を学修する。	
		初級スペイン語文法Ｂ	初級スペイン語文法Ａに引き続き，基礎的な文法の学修を進める。さらには，辞書を使いこなして，長めの文章も読めるようになることを目指す。言語の背景であるスペイン語圏文化への理解を深めるために，音楽を聴いたり，ビデオを視聴したりすることも継続して行う。	
		初級スペイン語会話Ａ	スペイン語の日常会話表現のうち，特に基本的な文型パターンを用いて，動詞の活用法を実践的に学びながら，簡単な会話ができるレベルを目指す。CDやDVDのような視聴覚教材を利用して，音声の練習も行う。また，スペイン語圏の文化を紹介するビデオなどにより，言語への興味を引き出す。	
		初級スペイン語会話Ｂ	初級スペイン語会話Ａに引き続き，基本的な文型パターンや動詞の活用法を学修することにより，スペイン語による会話がある程度可能なレベルを目指す。音声の練習として，CDやDVDのような視聴覚教材を利用したリスニングや口頭での反復練習も行う。また，スペイン語圏文化を知ることにより，言語を通した異文化理解を進める。	
		初級中国語文法Ａ	中国語検定４級レベルの基礎文法を体系的に学ぶ。また，早くから文章読解に取り組むことで文脈を把握する感覚を養い，検定レベルの読解力を身に付けることを目指す。学修効果を高めるためにも，初級中国語会話Ａの同時受講を推奨する。	
		初級中国語文法Ｂ	初級中国語文法Ａに引き続き，中国語検定４級レベルの基礎文法を体系的に学ぶ。文法学習だけではなく，文章の読解にも取り組み，検定レベルの読解力を身に付ける。年末に検定模擬試験を実施し，習熟度を確認する。学修効果を高めるためにも，初級中国語会話Ｂの同時受講を推奨する。	

教養教育科目	言語系科目	初級中国語会話Ａ	検定準４級レベルの平易な日常会話を学ぶ。特に発音は丁寧に指導する。反復練習を通じて中国語の語感を養い，会話とリスニングの能力を身に付ける。学修効果を高めるためにも，初級中国語文法Ａの同時受講を推奨する。	
		初級中国語会話Ｂ	初級中国語会話Ａに引き続き，検定準４級レベルの平易な日常会話を学ぶ。特に発音は丁寧に指導し，会話とリスニングの能力を身に付けるために，反復練習も十分に行う。年末に検定模擬試験を実施し，自身の習熟度を確認する。学修効果を高めるためにも，初級中国語文法Ｂの同時受講を推奨する。	
		中級中国語文法	中級文法を学ぶ。また，会話文や長文など豊富な教材に取り組み，柔軟な読解力と豊かな表現力を身に付ける。インターネットからの情報収集など，基本的な中国語を使いこなして視野を広げていけるような総合力を養成する。なお，学習効果を高めるためにも中級中国語会話の同時受講を推奨する。	
		中級中国語会話	初級文法をベースにした日常会話を学ぶ。リスニング力はもちろん，様々な場面に応じた会話力を身に付ける。また，丁寧な練習を積み重ねて中国語の語感を磨き，安定した声調でスムーズに発話することを目指す。学習効果を高めるためにも，中級中国語文法の同時受講を推奨する。	
		初級韓国語文法Ａ	ハングルの読み・書きができ，初歩的な文法に基づいた表現を身に付け，簡単な会話ができることを目標とする。教科書の各課を順に学習し，半年間で韓国語の発音の基礎を学修し，基本的な文法事項を理解する。	
		初級韓国語文法Ｂ	初級韓国語文法Ａに引き続き，ハングルの読み・書きができ，初歩的な文法に基づいた表現を身に付け，簡単な会話ができることを目標とする。教科書の各課を順に学習し，韓国語の発音をマスターし，基本的な文法事項の理解を通して，実際に韓国語が運用できる能力を身に付ける。	
		初級韓国語会話Ａ	初歩的な文法と語彙を使った初級レベルのコミュニケーション能力を身に付ける。教科書の各課を順に学習し，韓国語の発音，及び文法をコミュニケーションに運用できる能力の習得につとめる。	
		初級韓国語会話Ｂ	初級韓国語会話Ａに引き続き，文法と語彙を使った初級レベルのコミュニケーション能力の更なる習熟につとめる。Ａとあわせて韓国語の発音をマスターし，文法をコミュニケーションに運用できる能力を確実に身に付ける。	
		日本語Ⅰ	留学生には，日常生活に必要な日本語（話しことば）の習得と，講義を理解し，自分の意思や感情を文章で表現する（書きことば）という二重の日本語理解が求められる。特に後者は留学の目的を達成する上でも重要で，講義もそれを重視する。具体的には，数多くの文章を読む（音読を含む），テーマの異なる文章を書く，この２つを反復練習することで，多種多様な語彙・表現を身に付けることを目指す。	集中
		日本語Ⅱ	手紙や履歴書・自己紹介文といった形式の重視される文章の書き方を学び，実作を試みる。また新聞・雑誌記事などを中心に，本学部の教育理念・研究テーマに関わる内容の文章を選んで精読し，現代の日本の状況を理解するための一助とする。外国人留学生が早い時期に答案やレポート作成に必要な日本語の語彙力や文章力を習得できるように，個人個人の自覚を促すことを目指す。	集中
	人文・社会系科目	日本語表現の基礎	“論理的でわかりやすい作文”をテーマに文章力の向上を目指す。日常の会話はことばの数（語彙量）が少なく，いわゆる文の体裁をなさず論理を欠いていても成り立つ。しかし書きことば（文章）にはより多くの語彙と明確な論理が求められる。それらを身に付けるには多くの語彙，文章に接するしかないという自覚を促し，既習の諸事項を確認しながら大学生として必要な文章力の向上を図る。	

教養教育科目	人文・社会系科目	日本の文学	優れた文学作品は，それを生んだ時代や社会，そこを生きた人々の姿を如実に写し出す。講義は，連綿と書き継がれ，読み継がれてきた文学作品の読解，鑑賞を通して日本人の思考や美意識の形成，変遷の跡をたどり，幅広い視野の育成，豊かな心の涵養に資することを基本とする。さらに文学作品が我われの生きる時代や我われ自身の姿を照らし出すものであるということにも理解を求めたい。	
		哲学入門	哲学の基本的な知識の理解に重点を置いた講座である。西洋哲学史を中心に講義を進めるが，哲学史上の著名な人物や考え方を通して，学問としての哲学を学ぶと共に，理論的に事柄を説明する方法を，同時に修得することも目的としている。独善的な誤った考え方ではなく，自分の思想を形成するための基本を，この講座で修得していただきたい。	
		哲学の現在	哲学入門が幅広く基礎的な知識を理解することに重点を置いているのに対し，本講座は，視点を定めて，哲学を学ぶことに重きを置いている。現代は数多くの主義主張が出されているが，それらのうち現代思想の一つを取り上げて講義をする。個人一人ひとりが責任を取るという現代の考え方，生命倫理，環境倫理，情報倫理を論じていく。	
		倫理学入門	日本人の倫理観の変遷について，主にその自然観や動植物との関わり方を中心として考えてみたいと思っている。記紀神話や万葉集にあらわれた古代的自然観や中世文芸における仏教的自然観が，近世以後の社会の中でどのように受け継がれてきたのか。民俗学的知見もふまえ，現代の環境倫理を考えるにあたって，私たちが継承すべき点を考えていきたい。	
		倫理学の現在	環境・生命をキーワードとしながら，現代社会が生みだしている倫理問題について，考えてみたいと思っている。 私たちは，従来の破綻した環境との関わりをどのように乗り越えることができるのか。また先端医療が，倫理的節度を越えて進展する状況下において，私たちは人間の生命をどのように考えるのか。現代社会が直面する問題について考える科目である。	
		心理学入門	心理学は人間と動物とを含む有機体の行動の科学である。この講義では，「学習」，「社会的行動」，「性格」などに関して，心理学がこれまでに見いだしてきたさまざまな事実をまとめて紹介する。	
		行動心理学	心理学入門で講義した内容のうち，「学習」を中心として講義する。環境の知覚や経験による行動の変化などの面で，人間と動物に共通する行動の法則性は何か，人間の独自性はどこにあるのかを述べる。	
		個性の心理学	我々が，自分を取り巻く外界の刺激をどうとらえるか，その刺激をどう処理するか，それによりどのような行動を起こすか，それらはその人らしさ・個性に満ちたものである。この講義では，心理学の立場からこの問題について，「感覚・知覚」「性格」の二分野を中心に解説し，我々の個性についての理解を深めることを目的とする。	
		文化人類学入門	具体的な文化の多様なあり方を通して，人類にとって文化とは何かを考える文化人類学の基本的なものの見方，考え方を解説する。文化人類学の基本である異文化理解や，異文化を通して自文化を相対的に見る見方は，グローバル化と呼ばれる現代，重要なものである。そうした文化人類学の重要性と楽しさを講義を通して感じとってもらう。	
		環境の文化人類学	21世紀の人類が直面している重大な課題である開発と環境の問題について，文化人類学の視点から考える。開発援助においては，異文化間の接触，理解が欠かせない。また，環境問題はそれぞれの地域の問題であるとともに，地球全体の環境問題とも深く関係している。どちらも異なる価値体系をもつ文化間の調整が重要となる。そうした点について，実際に行っている具体的な事例から解説する。	

教養教育科目	人文・社会系科目	比較文化論	人類が世界を一つの地球共同体として認識するようになった今日ほど，異文化間の理解と交流が求められている時代はない。本講義は，この前提の上に立ち，複数の文化圏に関わる政治・経済・文化・宗教・言語から関連項目を選び，対応する日本の事例と比較研究することによって，それぞれの文化圏の背景にある特色を明らかにし，併せて学生の国際的感覚の涵養と異文化理解を深めたい。	
		比較芸術論	人間の精神活動の様々な表現の総体を文化といい，その中で色彩や音声や文字や舞台等々を用いて表現された精神活動を「芸術」という。従って，精神活動が異なっている限り，当然その芸術の本質は異なってくる。そこでこの講義では，DVD や CD を用いて日本的芸術と西洋的芸術を「比較」し，両者の特性を「検討」し，「吟味」し，明確に「分け」，相違を明らかにすることによって，日本的芸術の本質のみならず，西洋的芸術の本質をも「分からせる」（理解させる）ことをその目的とする。	
		法学入門	「社会あるところに法あり」と言われるように，我われは様々な法制度の中で社会生活を送っている。民法（家族法・財産法）を中心に「犯罪と刑罰」「裁判の仕組み」「社会保障制度」「環境保護と法」「国際関係法」などの多様な法領域について，時事問題やトピックを素材に取り込みつつ概説する。受講者にも一緒に考え，価値判断してもらう90分にしたい。また，裁判傍聴（任意参加）も予定している。	
		日本国憲法	憲法は国家の基本法であり，国民に基本的人権を保障し相応の義務を課す一方，三権分立や平和主義といった国家の基本姿勢を定めている。本講義では，「人権」と「９条」を柱に概説する。時事問題を素材に，できるだけ多くの論点を扱いたい（外国人の人権，自己決定権と安楽死，死刑制度，靖国参拝問題，日米同盟と安全保障など）。受講者にも一緒に考え，価値判断してもらう90分にしたい。裁判傍聴（任意）も予定している。	
		社会学入門	社会は人々との関係から形成されている。その関係には固定的な側面と流動的な側面があるが，社会学とはそのような社会関係の中にある一定の「かたち」を見出し，検討を加えてきた学問である。本講義では，社会学における基礎的な概念と理論の解説を行いながら，現代社会に見られる様々な問題に言及していきたい。	
		政治学入門	現代の政治を理解する上で必要不可欠なテーマを基礎から学ぶことを狙いとしている。具体的には，議会政治，選挙，政党，圧力団体といった政治学の基本テーマを２～３回かけて学んでいく。そうすることで現代の政治を多角的な視点から把握することを目指す。また，時間の許す限り，国際政治についても取り上げる予定である。	
		政治と現代社会	政治学入門をすでに受講した人を対象とした，中級者向けの政治学である。従って，基礎は一通り理解しているものとして，現代の政治過程（国際政治を含む）をより専門的に学ぶことを狙いとしている。なおこの授業では，単なる講義だけではなく，受講者によるグループ別の発表を予定している。受講者の主体的かつ参加型の授業が特徴である。	
		経済学入門	現在の日本及び世界は，早急に取り組まなければならない経済・社会的な課題に直面しているが，それらの諸問題を理解する際には経済学的な知識が必要になる。本講義では，「経済と現代社会」で学修する日本や世界が抱える諸問題について，自分自身で考えられるようになるために最低限必要となる経済学的な考え方の基礎を学修する。そして，そのプロセスを通じて，我々が直面している経済・社会的諸課題に対する問題意識を育む。	

教養教育科目	人文・社会系科目	経済と現代社会	現在の日本及び世界は，早急に取り組まなければならない経済・社会的な課題に直面している。本講義では，特に日本が抱えている経済・社会的問題を解を中心に解説するとともに，日本を取り巻く世界の状況も概説する。それにより，現在日本が直面している諸問題が自分たちの将来に関わる重要な課題であるという意識を高め，自分たちのより良い将来のために，それらの問題をどのように変えていきたいかを自分自身で考える訓練をする。	
		地理学入門	現在各地にみられる多様な生活形態や人間活動の所産は，各地域の自然環境及び歴史・社会性を反映しながら固有の表情となって現れる。これら地表の自然・人文にわたる諸現象を分布・空間・地域・景観・環境などの基礎概念を用いて，解明するのが地理学である。そこで本講義では，地表の科学としての地理学の見方や考え方を修得することが目的である。	
		歴史学入門	現代社会がそれ以前に蓄積された膨大な歴史の結論である以上， 我々にとっては，現代以前の歴史的事象に学ぶ一方で，現代とその現実を見つめ直し，個々が自身の理解ないしは解釈を導き出そうとする姿勢が必要不可欠である。この講義では，身近なモノや事例を歴史的に分析する実際を提示し，資料読解や事象解析能力の習得を目指すとともに，歴史学の本質や存在意義，学的必要性を再認識してもらうことを目的とする。	
		社会学の現在	21世紀の世界にとって避けて通ることのできない問題として環境問題を挙げることができる。近代以降，人間・社会と自然環境との関係は大きく変化し，今や人間・社会こそが自然破壊の最大の要因と考えられている。社会学における環境問題への基本的なアプローチを用いながら，人間と自然環境との関わりについて多角的に考えていきたい。	
		現代社会と福祉	「福祉」の語義は「幸福＝しあわせ」とされる。社会福祉は，国家が社会とその構成員の幸福を創り出す目的概念として用いられる一方，憲法25条で保障される生存権の具体化概念としても理解される。いわゆる福祉６法（生活保護法，老人福祉法，児童福祉法，母子及び父子並びに寡婦福祉法，身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法）と社会保険（年金・医療・介護・労災・雇用）各制度を中心に，わが国の社会福祉・社会保障制度の歴史・現状・課題をできるだけ平易に概説する。高い問題意識を持った受講者を歓迎する。	
		世界の歴史	「歴史学入門」で養成された歴史的思考力の基礎の上に，現代社会が内包する諸問題を歴史に学ぶという視点から考察するための要領を提示する。本科目では，日本の「近代化」以降に特に大きな影響を受けることになった欧米の歴史世界や，日本と絶えず密接な関係にあった中国を中心とする東アジアの歴史世界に焦点を当てる。何れも政治・経済・社会・文化現象を精選して取り上げて，当該地域が具有する歴史性・地域性について形成過程に即して解説し，現実を見つめ直す。	
		日本の歴史	「歴史学入門」で養成された歴史的思考力の基礎の上に，現代社会が内包する諸問題を歴史に学ぶという視点から考察するための要領を提示する。本科目では，日本の歴史に焦点をあて，世界のなかでの日本という地理的・歴史的な位置付けを意識しながら，政治・経済・社会・文化現象を精選して取り上げて，日本が具有する歴史性・地域性について形成過程に即して解説し，現実を見つめ直す。	
		地理学の現在	人文地理学は地表にみられる諸現象のうち，とくに人文・社会現象（人間の諸活動－生活や文化）を地理学の基礎概念（分布・地域・空間・景観・環境など）に基づいて解明する学問分野である。そこで本講義では，人間の諸活動の場所的差異の形成や地域の問題などについて，人文地理学的な視点からアプローチしたいと考えている。	

教養教育科目	自然系科目	物理学入門	あらゆる自然現象の下に横たわっている最も基本的な法則を見つける学問としての物理学という立場から，基本的な物理概念及び物理法則を理解し，それらを現実の現象に適用して考える能力を身に付けることを目指す。内容的には初歩的な力学，熱力学，波動，光学，電磁気学，量子論，原子物理，原子核物理，宇宙物理などにわたって講義する。	
		基礎力学	物理学のなかでも最も基本的な分野であり，また色々な専門分野で必要になると思われる古典力学について詳しく講義し，またその記述に必要な基本的な数学を学びながら，科学的かつ論理的な考え方を身に付けることを目指す。運動の数学的な記述，運動の法則，運動方程式，運動の保存則，力のつりあいなどについて学ぶ。	
		基礎化学	物質を対象として研究する自然科学のなかで，化学は最も基礎的で重要な分野である。物質の起源や原子の構造，化学反応の仕組み，化学結合を反映していて生じる物質の性質について学ぶ。５種類の授業の中から選択することができる。	
		基礎生物学	生物は遺伝情報をもとに生理的機能を営み，成長して生殖を行い，自然環境に適応している。生物が普遍的に備えている共通な特徴を基礎として，個別の特徴である生物の多様性（どのような生物がいるのか？どのように多様なのか？どのようにして多様性が生じたのか？）を理解することを目標に講義を進める。具体的な内容は，ゲノムの多様性・細胞レベルの多様性・種の多様性・生理的な多様性・生態的な多様性などである。	
		基礎地球科学	我々人間の活動の場となっている，地球の構成とその変化について理解を深める。大気や海洋についても触れるが，特に鉱物や岩石などからなる固体地球の形状や内部構造，及び地震や火山の活動などについて基本的事項を解説する。これらの事象は固定的なものではなく，プレートと呼ばれる岩盤が地球表層を長い間，ゆっくりと動き回り，少しずつ変化しながら生じている。	
		統計学入門	統計学の基礎について初歩的な内容から学ぶ。データを整理・表現する方法やデータの特徴を記述する統計量について学ぶ。また，二項分布，ポアソン分布，正規分布，t-分布などの代表的な確率分布について学び，それらを用いて母平均などの母数を推定・検定する方法について学ぶ。データの整理の方法，正規分布などの代表的な確率分布と標本分布を理解し，基礎的な統計的推定と検定を行えることを目指す。	
		推計学入門	母集団から抽出された標本を元に推測，検証する手法である統計的推定，検定について具体的に学ぶ。統計的推定と検定の基礎として，データの特徴を記述・整理する方法と，データをもとにして集団についての推測を行う数理的な方法・体系を学ぶ。正規分布などの代表的な確率分布と標本分布を理解し，母平均・母分散などの母数の推定と検定などを正しく理解し行えるようになることを目指す。	
		解析学	生物資源科学を学ぶ上で必要となる様々な関数の基礎について初歩的な内容から学ぶ。特に指数関数，対数関数の性質が重要である。また，発展的内容を学ぶ準備として高校数学の内容についても解説し，演習を行う。発展的内容としてテイラー展開や微分方程式，多変数関数の解析を目標とする。これらの概念はデータ解析における最適解の探索や，データの変化の予測に関する基本的な手法として知られている。	

教養教育科目	自然系科目	線形代数	生物資源科学を学ぶ上で必要となるベクトルや行列と呼ばれる概念について初歩的な内容から学ぶ。生物資源科学において統計学，微分方程式は重要な基本概念であるが，これらを学ぶ上で行列や線形代数の知識が必要となる。また，この講義で扱う線形写像や線形空間，固有値，固有ベクトルといった概念は，データ解析の基礎となる理論であり，今後，社会に出て活躍する上で求められている知識である。	
		物理学演習	力学を主とした物理学の問題演習を行うことによって，物理法則や物理概念などを正しく理解し，問題解決能力を養うことを目的とする。講義のような受身の授業ではなく，主体的に問題を考えることによって，初歩的な計算力や，論理的な思考力を身に付けさせる。運動方程式の計算の他に，有効数字の取り扱い方や，物理量の単位についても触れる。	
		総合生物学	生物学は近年著しい進歩を続けている。その現代生物学が明らかにしてきた成果の一部を，動物形態学，系統進化学，生理生態学，行動生態学，分子遺伝学のような生物の適応進化に関する領域を通して，具体的な事例を紹介しながら生物の持つ多様な性質の進化のしくみを解説する。	
		総合化学	物質の状態，状態平衡，溶液の性質，酸塩基反応，反応速度論，化学平衡，有機化学の基礎について学修する。重点的な学修事項が異なる授業が３種類用意されているので，それらの中から選択して受講することができる。	
		総合地球科学	「動かざること山の如し」と言うように，悠久不変のものと考えがちな自然に制約され，それを利用して人間は生活してきた。こうした自然環境は長い間にゆっくりと，また時には急激に変化する。この変化には太陽，大気，海洋，氷河，岩石，生物などが密接に関係している。また最近では，人間の社会的活動が地表の変化を加速し，環境を変えている。こうした地球の動態について，過去から現在について解説する。	
	健康・スポーツ系科目	スポーツ実技Ⅰ	スポーツの基礎を理解する目的で開講される。開講スポーツ種目の経験者・未経験者を問わず受講できる。 インドア種目としてバレーボール，バスケットボール，卓球，バドミントン，また，アウトドア種目としてソフトボール，テニス等を開講しており，この内１種目を選択できる。	
		スポーツ実技Ⅱ	スポーツの基礎をより深く理解する目的で開講される。スポーツの基礎を理解した者が受講することが望ましいが，経験者・未経験者を問わず受講できる。 インドア種目としてバレーボール，バスケットボール，卓球，バドミントン，また，アウトドア種目としてソフトボール，テニス等を開講しており，この内１種目を選択できる。	
		スポーツ実技Ⅲ	スポーツのより高いパフォーマンスを追求する目的で開講される。スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ修了者であることが望ましいが，経験者・未経験者を問わず受講できる。 インドア種目としてバレーボール，バスケットボール，卓球，バドミントン，また，アウトドア種目としてソフトボール，テニス等を行う。	
		スポーツ実技Ⅳ	スポーツ技術を追求し，より理論的にスポーツを修得する目的で開講される。スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ修了者であることが望ましいが，経験者・未経験者を問わず受講できる。 インドア種目としてバレーボール，バスケットボール，卓球，バドミントン，また，アウトドア種目としてソフトボール，テニス等を行う。	

教養教育科目	健康・スポーツ系科目	スポーツ科学	運動は人間にとって重要な行動であり，生きるために不可欠なことである。講義ではスポーツにおける動作の基礎的知見を体系的に解説し，人間の動きや，人間に関わる物体の動き，人間が発揮する外力との関係などを主として，バイオメカニクス的な面から講述する。	
	総合系科目	データサイエンスの基礎	データサイエンスとは，大量のデータに隠された価値を引き出すことを目的とする学問である。データサイエンスの技術的基礎を成すのは統計学と情報科学であるが，これらは基礎的な数学の理解無くして適切に利用することはできない。本講義では情報科学についての初歩的な内容から始め，具体的な題材を用いて課題解決型学習を行う。課題解決型学習を通してデータサイエンスを支える基礎理論に慣れることを目標とする。	
		情報科学	学内の情報環境の利用方法について学び，情報機器をネットワークに接続して利用する上で必要な基礎知識を身に付ける。初歩的なプログラミングを題材に学ぶことで，情報科学の基礎であるコンピュータの仕組みについて理解し，数値，文字，画像，音声等のデータをコンピュータ上で取り扱う方法に慣れる。発展的な内容として，専門分野における実験データの処理や問題解決につながる基本的な考え方の習得を目指す。	
		科学史	科学とは何か考えるうえで，その歴史を正しく理解しておくことは重要である。この講義では古代から近代までの科学の歴史をたどり，さまざまな時代・文化圏においてどのような科学の営みがあったか，近代科学はどのようにして誕生したか，科学と芸術や宗教はどのような関係にあるか，科学者の創造性はどこからくるか，などを考察する。	
		科学技術と社会	社会における科学技術のあり方を考えるうえで，その歴史を正しく理解しておくことは重要である。科学史の続編として，19世紀から現代にいたる科学技術の歴史を中心に，科学技術が社会に及ぼした諸問題について考察する。主なテーマは，科学と産業，科学と戦争，環境問題，生命倫理，技術者倫理などである。	
		地球環境を考える	ヒトの生物進化と社会進化の歴史にもとづいて，高度に発達した物質文明社会の中での環境問題とは何か，生活環境から地球規模の環境までの様々な環境問題について総合的に考える。４種類の授業の中から選択することができる。	
		生命倫理	生物学，医療技術の進歩に伴い，様々な形で人間が生命を操作することが可能になってきており，必然的に倫理的判断が求められる。本講義では，本学部の学生がもっておくべき生命倫理に関する基本的な考え方，知識を具体的事例を通して教授し，生命倫理の諸問題への対応方法を身に付けさせることを目標とする。	
		ボランティア論	ソーシャルワークの中の一つであるボランティアについて学ぶことを通じて，「ソーシャルワークとは何か」，「支援にはどのような社会資源があるのか」，「より良い支援とは何か」，「クライエントの意思や自己決定の尊重」，「支援の具体的態様と方法」，「自立と社会参加の支援の在り方」などを理解し，更には日々の生活における実践ができるような意識を醸成することを目標とする。	集中
基礎専門科目		海外フィールド実習	認定留学や海外研修（実習）等を通し諸外国の異文化に触れ，グローバルな視点を持ち，国際的に活躍できる人材を養成することを目的とする。また，実践的な知識や技術を修得することに加え語学力の向上を目指す。	集中

専門教育科目	基盤領域	最新の動物学	動物学分野においては，実験室から地球上のあらゆる環境まで，そしてマクロからミクロなレベルまで，様々な研究が世界中で日々進展し，数多くの知見が産み出されてきている。それらは，教科書には載っていない知的好奇心をくすぐる基礎的なものから，医療や工業，農林水産業，環境などへの貢献といった応用的なものまで多岐にわたる。本講義では，当学科の教員が対象としている基礎から応用までの動物学の各分野における国内外の最新の研究事例について，その研究の発案となる背景から研究手法，成果の詳細と重要性，将来につながる発展性について学習する。そのため，毎回各教員がオムニバス方式で担当する。 （オムニバス方式／全15回） （2　加野　浩一郎／1回） 動物は恒常性の維持，器官の損傷，増殖に関わる再生能力をもつ。動物のユニークな再生能力について解説する。 （4　髙橋　恭子／1回） 腸内共生細菌と宿主動物の健康・疾患の関係について，特に免疫システムの調節に焦点を当てて紹介する。 （1　岩佐　真宏／1回） 名前は知っているけれど，その実態はよく知らないモグラとネズミについて，「なるほど！」と感嘆してしまう進化学的な研究成果を紹介する。 （5　西村　知良／1回） 季節の変化に適応して進化してきた昆虫の生活史についての生理学・行動学・生態学の研究を解説する。 （6　細谷　忠嗣／1回） 日本の動物相はどのように形作られてきたのか？身近に見られる昆虫類の分布やDNA比較に基づく最新研究から探る。 （3　岸田　拓士／1回） ヒトに見える色が見えなかったり，ヒトには識別できないニオイが嗅げる動物がいる。こうした感覚能力の多様性と進化に関する最近の知見を紹介する。 （9　畠山　吉則／1回） 感染症は病原微生物によって生じる動物の病気である。このトピックスでは動物感染性の微生物について講義する。 （8　中島　啓裕／1回） 野生動物の研究が，実際の保全・管理の現場でどのように役立てられているのかについて事例を挙げて概説する。 （12　園田　豊／1回） 動物の生殖現象におけるホルモンや生理活性物質などの情報伝達作用について，最新の研究成果を紹介する。 （14　三谷　奈保／1回） 野生動物に関するニュースを題材に保全や管理の視点から人と野生動物の関係を読み解く。 （13　中西　祐輔／1回） 動物の持つ免疫システムとその生体に発生する癌との攻防及びその研究成果に基づく最新の癌免疫治療法について解説する。 （10　相澤　修／1回） 行動や代謝などの動物の表現型を形作る遺伝子と環境因子との相互作用に関する最新トピックについて解説する。 （11　沖　嘉尚／1回） 動物の器官や組織を構成する細胞の運命決定とそのリプログラミングに関する研究について解説する。 （16　中井　静子／1回） 海岸の貝類研究と大規模災害，身近な外来種問題，海岸生物を研究する魅力について，研究例を挙げて紹介する。 （15　金澤　朋子／1回） 飼育管理下にある希少野生動物での研究意義及び，得られる科学的知見について学ぶため，動物園動物を対象とした調査研究を紹介する。	オムニバス方式

専門教育科目	基盤領域	動物の多様性	私たちが普段の生活で目にする動物たちはごく限られたものでしかないが，地球上には，私たちヒトと同じようなかたち・構造・機能をもつ動物から，私たちには予想もつかない，想像を超えるような動物まで存在している。それらはまさに気の遠くなるような地球上の長い長い進化史の中でつくり上げられてきた多様性であり，この多様性の存在こそが，あらゆる地球環境に動物が適応進化し進出していった源泉でもある。本講義では，動物学における最も基礎的な知識として，動物がもつさまざまな多様性の実態とその重要性を理解し，それぞれの動物が歩んできたドラマティックな進化のプロセスを学習する。	
		動物細胞生物学	細胞は生物の基本的な構造単位であり，近年，その活動が分子レベルで理解されるようになってきた。本講義では，細胞，特に動物の生体を構成する細胞の中で起こる基本的な事象，ならびに動物生命の連続性に重要な生物現象である発生と生殖の基本的なしくみについて学ぶ。また，環境，栄養的に細胞外から受容する刺激は，シグナル伝達系を通して細胞内部に伝わり細胞機能の発現を引き起こすが，そのメカニズムを理解することにより専門科目の修得に必要な細胞調節機構の基礎を学習する。	
		生化学	生化学は生物や生命現象を化学的な視点から解明する学問分野である。本講義では，ヒトを含む動物体を構成している核酸，タンパク質，アミノ酸，糖質，脂質，ビタミンなどの化学的構造，特性，生理的役割を基礎から学ぶ。本講義の目標は，細胞の構成とその化学的組成，遺伝情報の発現と伝達，代謝，筋運動，神経伝達，免疫反応，血液型，血液凝固，老化といった現象を生物化学的に捉え，専門科目の修得に必要な基礎的知識を修得することにある。	
		動物遺伝学	本講義では遺伝情報が親から子へと伝わるしくみの基本原理を理解したのちに，遺伝子の機能やゲノム配列の解析法，細胞生物学の分野で遺伝学が果たしてきた役割などを学習する。動物学分野における基礎研究のみならず，現在は医学・薬学，及び農学分野の応用研究においても遺伝子の機能を利用した研究・開発が必要不可欠となっており，本講義の目標は，遺伝学が動物の生命原理の解明や科学技術の発展のために果たしてきた役割や社会とのつながりを理解することにある。	
		動物生理学	動物生理学は，生体のもつ様々な機能及びその調節機構を理解するための学問である。本講義では，まず生体膜の構造と機能について，次に生体膜上の情報の授受を行う受容体とそこから生じる細胞内情報伝達系について学習する。これらの細胞生理学的知識をもとに，消化器系，呼吸器系，循環器系，泌尿器系，内分泌系及び神経系についての概要を学ぶ。以上の学習により，上級学年での開講される多様な応用科目のために，基本となる生体系の形態と機能について十分な理解を得て，かつ文章で説明できる能力を身に付ける。	
		動物形態学	私たちヒトは，情報の大部分を視覚に頼っており，対象を広義の「かたち」としてとらえている。実は外観の「かたち」が同じだからといって同じ動物とも限らず，内部構造に大きな「かたち」の違いが潜んでいる場合もある。地球上には，実に多様な「かたち」をした膨大な数の動物が存在し，中には私たちが理解できないような「かたち」もたくさんある。いずれの「かたち」も生存環境に最も適した形質として，長い進化史の中でつくり上げられてきたものであり，過酷な環境を生き抜くための意味をもっている。それぞれの動物を特徴づけている「かたち」は，その動物の体の構造や生理機能，行動，生活史などと極めて密接な関係にある。本講義では，さまざまな動物分類群の多様な「かたち」の実態と構造・機能との関係，その特徴的な「かたち」の進化学的背景と適応的意義について，多面的に学習する。	

専門教育科目	基盤領域	動物系統分類学	地球上の多種多様な動物は，地球の歴史上，いつ頃出現し，どのような系譜を辿って現在まで命を繋げてきたのであろうか。その背景には，祖先種から分岐し派生種が生じるという系統的な時空間的関係が存在する。また絶滅種・現生種を含め，動物にはどのようなグループが存在するのだろうか。動物の“分類学”には古臭いイメージがあるかも知れない。しかし，実際の系統分類学とは，対象の動物が辿ってきた系譜と他の動物との関係性をもとに動物の戸籍を作成し，また戸籍の妥当性を検証することにより過去と現在を結びつける学問である。本講義では，生物学の基礎であるリンネの二名法と学名の意味，α分類・β分類・γ分類の目的，種の定義から種分化のプロセス，動物の起源と系統進化，高次分類と種分類及び分類体系，各分類群の生活史特性の概観について学習する。	
		動物学基礎実験I	動物の細胞や組織，器官，個体の構造を実際に観察して理解することは，動物学で最も基礎となる“観察眼を養う”重要な訓練である。そこで本実験では，さまざまな動物を対象とし，マクロからミクロまで多岐にわたった対象を直接観察するため，生物顕微鏡や実体顕微鏡の使用方法，それぞれの観察目的に応じた各種標本の作製方法，及び観察方法の技能を習得・実践する。また実験後に提出する，「序論」「材料と方法」「結果」「考察」「引用文献」から構成される科学レポートの書き方とその重要性について学習し，実践する。	共同
		分子生物学	生命の情報は全てゲノムに刻まれている。生命の活動維持に重要な役割を果たしているのはDNAやRNAに代表される遺伝物質（核酸分子）とそれらに書き込まれた遺伝情報を利用して合成されたタンパク質であり，タンパク質の多種多様な機能により生命活動が営まれている。したがって細胞内におけるそれらの構造及び機能を知ることが動物生命科学の出発点となる。本講義では，核酸とタンパク質の高次構造をはじめとして，生体内におけるそれらの機能や制御機構について理解し，さらにはそれらを解析する研究手法について学習する。	
		哺乳類・鳥類学	鳥類，哺乳類ともに爬虫類から分岐し，時空間的にさまざまな環境へ進出して，それぞれ独自の生活史を築き上げてきた。例えば，鳥類は飛翔能力によって空間を自由に移動できるようになり，哺乳類は母親の体内で栄養投資を受ける胎生を獲得してきた。いずれも恒温動物として知られるが，両分類群は異なる点が非常に多い。一方，一部の哺乳類で卵生がみられるように，祖先形質として一致する部分も認められる。またコウモリ類は鳥類と同じように飛翔能力をもつが，これは鳥類と同じメカニズムで飛翔するのだろうか。本講義では，鳥類と哺乳類の起源と分類体系，それぞれに特徴的な形態，生理機能，生態，生活史に関する基礎的知識について，多面的に学習する。	
		昆虫体系学	昆虫は数億年前に出現し，地球上で最も繁栄したている節足動物の一分類群であり，多岐にわたる環境に進出し，膨大な種数から構成され，極めて多様な形態，生活史をもっている。これまで知られている昆虫は100万種に及び，記載されている全生物の半分以上を占めている。一部は私たちに身近なものとして知られ，教科書や各種メディアに取り上げられることも多いが，大半は私たちの普段の生活において目にすることはなく，また高校の教科書などでは紹介されていないものも多く含まれる。本講義では，昆虫の起源と多様なグループから構成される分類体系，昆虫の繁栄をもたらした特徴的な形態や変態のシステム，生理機能，遺伝様式や生態，行動，生活史に関する基礎的知識について，多面的に学習する。	
		動物学基礎実験Ⅱ	動物学基礎実験Iで学んだ“観察眼”とスキルを発展させ，さまざまな動物の体の構造や生理機能，遺伝様式について，細胞や組織，器官，個体を対象に肉眼レベルから顕微鏡レベルまでの多様な解像度から各種実験を実践し，そのメカニズムを理解する。	共同

専門教育科目	基盤領域	両生類・爬虫類学	両生類は主に孵化後の幼生が鰓呼吸により水中で生活し，成体になると肺呼吸に変化して地上に進出する生活史をもつ。しかしメキシコサンショウウオのように，一生を水中で過ごす幼形成熟を示す例もある。一方，爬虫類は両生類から別れて進化し，水中生活をせずに最初から肺呼吸による地上での生活環を示すが，ウミヘビ類のように水生を示す例もある。両分類群ともに変温動物であり，また基本的に卵生で，例えばイモリとヤモリのように形態が互いに似たものも存在するが，異なる点は非常に多い。本講義では，両生類と爬虫類の起源と分類体系，それぞれに特徴的な形態，生理機能，生態，生活史に関する基礎的知識について，多面的に学習する。	
		基礎栄養学	動物にとって栄養とは，活動，成長，増殖のために外界から必要な物質を取り込み，生命を維持していく現象である。本講義では，基本的な栄養学の概念及び意義や栄養学の歴史，五大栄養素である炭水化物（糖質），脂質，タンパク質，ビタミン，ミネラルについて，それぞれの生体内での役割，各栄養素が関わる疾患及び食物繊維の生理機能などについて学習し，栄養素の摂取，消化，吸収，代謝，排泄及び防御機構等，動物が摂取した栄養素が関わる幅広い領域について理解する。	
		動物組織学	動物組織学は，生体組織の細胞構成，細胞の微細構造を知ることにより細胞・組織機能の本質を理解する学問領域である。ひとつの受精卵由来の細胞群が分化し，精緻に組織化されることにより配置され，生体機能発現のために，いかにバランスよく維持されているかを学習する。また，各種顕微鏡の開発は組織学の進展に寄与してきたが，本講義では顕微鏡知識や技術の修得も目指し，これにより発生生物学，細胞生物学の基礎科目のみならず，応用科目を学ぶうえでの基礎を身に付ける。	
		動物科学論文講読	各学科教員が専門とする分野の英文ジャーナルに掲載された科学論文の購読をセミナー形式で行い，科学論文の構成や特徴的な表現法，専門的な意訳のしかたなどを学びながら，論文内容を理解する。	共同
		生物統計学	生物統計学とは生物集団の観察や生物実験によって得られたデータを解析し，その生物集団のもつ性質や法則を導き出す学問である。本講義では，生物の観察や実験を行う際の計画法及びそこから得られたデータの統計学的処理と解析法について学ぶ。また，多様性のある生物データを定量的に取り扱うために必要な統計学についても，その考え方や手法の基礎を習得する。生物学的データを解析する際，定量的な評価に関する専門用語や概念の感覚的に理解が必須となるため，ハンズオン形式での演習も行う。	
		動物の福祉と倫理	近年，意図的な動物虐待の事件から，虐待の意図がなかったにも関わらず結果として動物への加虐行為になってしまった事案などが社会問題として取り上げられる。現代社会において，動物を対象とした各種研究を遂行するための実験・調査等では，加虐の意図がないにしろ，倫理的に適正な動物の取扱い，及び動物への対処・対応が求められる。そこで本講義では，生命倫理の概念と理論に基づいた原理をもとに，実験動物，飼育動物，野生動物といった広範囲にわたるさまざまな動物への倫理的背景と，実践すべき動物の取扱い法や対処法を習得する。また野生鳥獣保護，野生鳥獣害対策，動物愛護，福祉政策などに関連した各省庁や自治体による各種法律・条例や指針等，及びこれらが制定された背景についても学習する。	

専門教育科目	応用領域	動物生命史系科目	動物行動学	一般に動物は常に何らかの行動をしており，どんな行動にも生物学的な目的があると考えられている。いずれの行動も進化史の中で獲得されてきたものであり，それぞれの行動は，外部からの刺激や内部からの指令によって引き起こされ，神経や生理，心理といった背景が関わっており，非常に複雑なものである。また種内の他の個体との関係や捕食・被食といった種間関係も行動に深く関連しており，また社会構造などと相まって，利己的行動や利他的行動に至る。本講義では，動物が示すそれぞれの行動の実態，及びその行動の目的・意義と機能やその発現機構，生得的行動と習得的行動の違いや，社会構造と行動の利他性・利己性の関係に関して学習する。	
			動物生態学	生態学は，種，群集，個体群，もしくは生物個体を対象とした視点から，それらを取り巻く動植物や微生物といった生物的要素と地理や土壌，地形や地質，気候といった非生物的要素との相互関係について理解する学問であり，その関係を解明するためのさまざまな理論や数理モデルが提唱されてきている。本講義では自然選択と適応度を中心とした進化生態学の理論的背景をもとに，野生動物における種・群集・個体群・個体に関するヒエラルキーとそれぞれの特性，自然選択と適応進化，繁殖生態，繁殖成功と適応度，社会構造と行動，種間及び種内競争，被食者と捕食者の関係や共生関係，進化における至近要因と究極要因について，具体的な研究成果も例にあげながら，生態学の基礎的概要を学習する。	
			フィールド生態調査法	さまざまな目的で生態学的な動物の調査が行われるが，いずれの調査も対象動物だけを調べればいいというわけではない。対象動物が生息する地域に調査地を設定し，そこの植生や他の動物相，相互作用に関わる生物的・非生物的要素や資源，生息する対象動物の個体数などを重要な基礎的情報として調べる必要がある。本講義では，さまざまな調査目的と，それぞれに応じた調査方法について理解する。具体的には，動植物の種同定法，カメラトラップ法，痕跡調査法，ツルグレン法やベイトトラップ法などによる動物相調査法，動物の生息環境における植生や環境要素の調査法，及び除去法や記号放逐法，ラインセンサス法などによる個体数の推定法などの実践に則した各種調査方法を学習する。	
			動物自然史博物学	自然史とは，自然の体系と歴史を明らかにする自然科学の一分野であり，博物学は，自然科学の中でも主に生物と地学における自然界に存在する全ての種類やその特性を記述する学問で，これらが自然科学の礎をなしている。特にその存在を唯一証明できる生物や鉱物の標本は重要であり，これらが蒐集されることで自然界におけるさまざまな事実を積み重ねていき，法則性やメカニズムの解明といった科学へつなげることができる。本講義では主に動物を対象として，標本入手までの採集や同定，及び標本の種類や標本作製の意義と重要性，標本の研究への活用法などについて学習する。	
			応用昆虫学	近年，農作物の生産・増産を達成するため，合成による化学農薬を用いた害虫防除の技術が進歩してきたが，それらの頻用に起因したさまざまな弊害も顕在化し，環境への負荷や人的被害も生じてきた。そのため，化学農薬の頻用による防除体系の代替法が求められている。例えば，もともと昆虫が持っている潜在能力や物質を利用した生物農薬はその代替法の一つである。また他にも，食糧などの有益な資源としての昆虫の利用についても検討されてきている。このような研究開発には，昆虫の特性についての深い理解が必要とされる。本講義では，植物に加害する昆虫の基礎的知見としての分類体系，生活史を紹介し，害虫の防除法及び有用昆虫等の利用について学習する。	

専門教育科目	応用領域	動物生命史系科目	海岸生物学	水圏動物の生態系を学ぶ上で浅海域の低次生産に携わるプランクトンやベントスの生態の解明は，海浜域の生産力向上・環境保全の観点から，極めて重要な問題である。本講義では，沿岸域，海浜域などの海岸に生息する動物や藻類などの繁殖，加入，生育，成長，生残と環境要因との関係など，海岸生物学の基礎的概要を学習する。さらに，最新の総説，学術論文など研究の現状の理解することにより，沿岸生態系における動植物の役割や相互関係がどのようなものかを考える。	
			フィールド調査実習	フィールド調査法で事前に学習した調査目的に沿って，本学部キャンパス内や附属施設を中心としたフィールドに調査地を設定し，そこで各種調査方法を用いた種同定，植生や動物相調査，個体数の推定などを実際に行い，対象とした動物と取り巻くさまざまな生物的・非生物的要素との関係について，実践を通して理解する。またフィールドで重要な五感を研ぎ澄ました野外での“観察眼”のあり方と，フィールドで遭遇する危険性の背景と回避法について学ぶ。	共同
			動物学史	古代の動物誌から始まり，動物を記載する博物学や分類学を経て，近代になって比較解剖学や進化学，及び発生学，生理学，生態学，行動学，形態学などの各分野が台頭してきた。以降，分類群ごとに細分化されて多岐にわたる発展を遂げ，さらに現代では，分子生物学における技術の進歩に伴い，クローン動物の創出や遺伝子発現のコントロールなどが可能になり，有史以来の動物に関する学問分野は裾野を広げ続けてきた。本講義では，動物学の歴史の中で，どのような学問体系の発展や知識の蓄積が認められてきたか，また長年にわたってヒトと動物がどのように関わってきたのか，科学技術の発展との関連性から学習する。	
			古動物学	動物の進化史においては，現生種のみならず，絶滅種を含めた知見は不可欠である。このうち，主に化石やそれらが出土した地層に関する生物学的情報は極めて重要である。特に絶滅種については，そのさまざまな形態学的・生理学的特徴を化石からしか得ることができず，出土した地層の年代測定とともに，現生種を対象とした動物学研究のアプローチとは大きく異なる部分が多い。本講義では，化石を中心とした絶滅した動物に関する形態，機能及び往時の生息環境への適応的意義と，現生種との系統的，生態学的，生理学的関係について学習する。また地球生命史と多様性の創出機構，大量絶滅などの関係や，日本列島における時代ごとの古動物相についても理解する。	
			動物自然史博物学実習	動物自然史博物学で学習した知識をもとに，さまざまなフィールドからの動物の採集法及びそれらの同定法，標本作製を実践し，科学の礎となる博物学の基礎を体得する。また本学部博物館を利用した標本管理や標本を用いた調査についても実践する。	共同
			動物地理学	狭い島嶼である日本列島において，例えば北海道と本州以西で分布が異なる動物相が知られるように，個体群や群集は時空間的に一様な分布をしているのではなく，地理的な勾配や偏りを示すのが一般的である。特に高い飛翔能力をもたない陸生動物は，分布の拡大が海洋・河川・山脈といった地理的障壁によって制限されることになり，その動物が分布を拡大した時代の地理的要因が分布域を決定づけていると考えられる。本講義では，動物の地理的な分布様態がどのようにしてつくりあげられてきたのか，地史との関係や生息環境の地理的区分，生態・生活史などが複雑に絡んだその背景について，区系地理学，歴史生物地理学，生態地理学の観点から学習する。	

専門教育科目	応用領域	動物生命科学系科目	動物発生学	ヒトを含むすべての動物はたった一つの受精卵から生み出された様々な機能を持つ細胞の集合体であり，個々の細胞が正常に機能することで生命活動が営まれている。本講義では，動物を対象とした発生生物学の基礎から動物の発生の仕組みを分子から器官レベルまで種ごとの共通点や相違点について学ぶ。また，器官発生，哺乳動物の発生と発生工学，幹細胞，神経発生学について最新の具体的な研究例を紹介し，幹細胞工学，再生医療に応用するための方策についても学習する。	
			免疫生物学	動物を病原体から守るために備わっている免疫系のしくみとはたらきについて，第一に免疫系による異物の識別，自然免疫と獲得免疫，抗原特異性，免疫記憶などの基本概念を学ぶ。また，免疫に関わる組織や細胞とそれらの細胞により引き起こされる生体内での様々な免疫応答について特徴と役割を理解する。さらに免疫応答が生体内でどのように調節されているか，さらに，その異常・変調と疾患の関係を理解し，免疫応答のコントロールを介した疾患の予防・治療の可能性について考察する。	
			微生物学	太古の生命進化は，微生物より始まった。現在，微生物は動物体内を含め高空，深海，地中など地球表面全域で活動している。微生物界及び微生物学の成り立ちを概観後，主に細菌，ウイルス，真菌，原虫の構造的特徴・化学的特性，増殖・代謝・遺伝様式について学ぶ。また，微生物との関わりで発生した免疫系の仕組みをヒト・動物について学ぶと共に，有用資源としての微生物利用，主要な病原微生物と感染症の予防と対策について，現状と今後の展望を学習する。	
			実験動物学	実験動物，動物実験とは何か，動物実験実施に向けた倫理ならびに関連法規，日本大学動物実験運営内規をもとにした動物実験計画書の作成法とその重要性を習得する。次いで，実験動物の遺伝形質と育種，遺伝的モニタリング，繁殖，飼養，演出型に影響する各種環境要因及び衛生，野生動物の実験動物化，ヒト疾患モデルモデル動物の作製と有用性について学習する。また，感染症ならびに各種毒性試験，催奇型性とそれらの評価について解説することにより，高等教育機関における動物実験実施に向けた基礎的な知識と意識を学ぶ。	
			生殖生物学	発生生物学の基礎知識を基盤として，生殖細胞の起源から初期発生にいたるまでの生殖に関する知識及び最新の研究情報について，また，生殖生物学とヒト及び動物社会との関わりについても学習する。生殖現象は個体の始まりであり，個体の特性はその祖先から子孫へと生殖系列を通して連続して受け継がれる。従って，生殖現象はヒトを含めた動物生命の基幹をなすものであり，その理解は将来選択する専門分野の違いに関わらず全ての学生に必要不可欠である。本講義では，生殖現象及び生殖工学的技術に関する最新の知見についても学ぶ。	
			応用免疫学	近年，免疫システムを制御する分子の解明が進んでいる。それらの研究成果により，免疫システムは感染から生体を防御するだけでなく，健康を維持するために全身の組織や器官で機能していることがわかってきた。本講義では，近年の免疫研究を中心に免疫システムの解明から医薬開発までを紹介する。また，生体機能の中でも行動発現は最も注目されている領域のひとつであるが，その基盤である脳（中枢神経系）と免疫システムとの関係を実験動物において得られた研究成果を紹介し，動物の行動発現に対する免疫学的意義についても学習する。	
			動物学応用実験	動物学基礎実験I・IIで習得・実践した知識やスキルをさらに発展させ，動物が有する特徴的な生理機能や発生，遺伝のメカニズムを理解するために，代謝や内分泌，免疫機能，発生や再生，遺伝子発現制御などに関するより高度な実験を実践する。	共同

専門教育科目	応用領域	動物生命科学系科目	神経生物学	動物の体内では，各組織の細胞がシグナルを出し，他の細胞と密に連絡を取り合うことにより個体全体の恒常性が維持されている。本講義では，脳と神経についてその生理・細胞生物学的な基本事項について学習し，ヒトを含めた動物個体を維持する最も上位に位置する中枢神経系におけるシグナル伝達のしくみを細胞生物学的見地から詳細に理解する。さらに，応用分野となる神経化学，神経行動学，精神神経医学や神経薬理学の最新の研究事例を紹介することにより，神経生物学の本質や重要性について学ぶ。	
			生物情報学	近年，生命科学の進展により生命現象に関連する莫大なデータが生み出され，情報科学的な視点や概念を導入した研究及び技術開発の重要性が著しく高まっている。本講義では，多様な生命科学データの解析手法を取り上げ，それらの手法を用いた研究について具体例をもとに学ぶ。また，データベースやウェブツールの実際について，公的研究機関において生命科学分野における遺伝子発現情報を中心とした大規模データの利用技術開発・維持管理に携わっている専門家らの実例を取り上げ，生命科学の研究における実践的な技術を学習する。	
			再生生物学	動物における組織再生現象は古くから観察され，機構解明に向けて研究されているが，現在においてもそのメカニズムについては解明されてない。本講義では，プラナリアやイモリなど，顕著に高い再生能力をもつ動物を用いた研究から得られた知見について学ぶ。一方，哺乳類の再生能力については著しく限定されているが，再生特異的組織である肝臓や皮膚を例に挙げ，その再生と治癒について研究例をもとに学ぶ。さらに，発生・再生生物学領域の研究成果がどのように社会に応用展開されているかについても学習する。	
			時間生物学	地球上の生物は，地球の自然環境に適応するために地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして「体内時計」を作り上げ，バクテリアからからヒトを含む哺乳動物に至るまで，生体内に「概日リズム」を発現させている。近年は，遺伝子発現リズムから個体における行動発現リズムに至るまで，広範囲にそのしくみが解析され，そのメカニズムが解明されてきた。本講義では，特に哺乳動物の体内時計中枢（視床下部視交叉上核）の機能について，神経出力機構，液性出力機構という観点から取り上げ，時間生物学の概念を学ぶ。また，体内時計の分子制御を最新の研究をもとに，精神神経疾患と「体内時計」との関係性についても学習する。	
			動物バイオテクノロジー	近年の生命科学においては，タンパク質の構造や機能を調べる過程においても，遺伝子を扱うことが多くなってきており，遺伝子操作を行うために十分な原理の理解が必要である。本講義では，遺伝子ノックアウト，ノックイン，トラッキング，ゲノム編集など，遺伝子操作で使われる様々な技術について，その原理を含めて学習する。さらに遺伝子操作を発展させた技術としてのタンパク質工学や抗体工学など，生命科学で創出された基礎技術を応用へと展開させた事例についても学ぶ。	
		動物の保全と環境系科目	環境科学	昨今の環境問題は，ヒトの生産活動に伴う環境破壊による生態系への影響が中心に考えられているが，この生産活動とは無縁な自然現象として生じる物理的，化学的，生物的，宇宙科学的な影響にも起因している。47億年の地球の歴史の中で，人類誕生以前から地球環境は規模を問わず変遷し続けてきているが，その実態についてはメディアでも深く取り上げておらず，あまり理解されていないのが実情である。例えば地球温暖化は炭酸ガスの温室効果によって引き起こされているとされるが，化石燃料の利用がなかった縄文時代は現代よりも平均気温が高かったため，炭酸ガスにのみ温暖化の影響を帰結するのは科学的に合理性がない。そこで本講義では，地球環境の変遷の歴史に加え，現代社会が抱えるさまざまな環境問題を取り上げ，その要因と解決のための施策について学習する。	

専門教育科目	応用領域	動物の保全と環境系科目	外来動物管理学	航空機や船舶，自動車，列車によるヒトの遠距離の移動が容易になって以降，意図的か偶発的かは問わず，多くの外来動物が認められるようになってきた。長い進化史の中で築き上げられてきた生態系は絶妙な相互作用のバランスのもとに成り立っており，そこへ本来いないはずの外来動物が導入されると，一気にバランスが崩れ，多方面への甚大な悪影響を及ぼす。実際，世界各地で外来動物が引き起こしている深刻な諸問題は枚挙にいとまがない。特に在来種との交雑による遺伝的汚染は絶滅以上のインパクトがあり，喫緊の問題である。そこで本講義では，外来動物の実態と実際に生じている生態系へのさまざまな影響，及び「入れない」「捨てない」「拡げない」という外来種被害予防の三原則に基づいた外来動物の対策と実践について学習する。	
			野生動物管理学	野生動物はヒトにとって資源としての側面があり，有史以前から食糧を中心とした利用を行ってきた。一方で有史以降，特に近年の技術革新に伴うヒトの生産活動に伴い，一部の野生動物の絶滅や個体数減少が引き起こされるようになった。これに伴って生態系のバランスが崩れ，他の動物の過剰な個体数増加に起因する農林水産被害や人的被害が目立つようになった。例えば，シカの個体数の増加に伴う食害はその典型である。しかし，いずれの問題も本を正せばヒトが招いた事態であり，ヒトが管理をすることで適正な状態を維持する必要がある。そこで本講義では，生態学や行動学といった基礎的な動物学の知見をもとに，適正な野生動物管理に関する施策と実践やヒトの価値観と野生動物との関係について学習する。	
			保全生物学	現在，多くの野生動物が近年の私たちの生産活動の影響によってさまざまな危機に面しており，一部は絶滅の危機に瀕している。危機の多くは人為的な環境改悪に起因しているが，明治以降の技術革新に伴い，その改悪のスピードは生態系の修復能を上回ってきている。私たちの生活は生態系からさまざまな資源を収奪することで成り立っているが，環境改悪の影響が顕在化して以来，私たちの生産活動の抑制と変革，及び環境修復の施策が検討されてきている。本講義では，生態系における生物多様性の実態と評価，及びそれらが脅かされている背景，地球生命史上の環境の変遷，近年の人為的な環境の改変がもたらす生物への影響，生態系の修復の施策について学習する。	
			動物園飼育管理学	動物園や水族館に代表される動物生体の展示は，世界の珍奇動物に対する富裕層の個人的趣味とコレクションに端を発するとされ，またさまざまな動物を蒐集するという博物学の出発点でもあった。近代以降，動物学の発展とともに学術的な基盤をもとにした動物展示を経て，現代では高度な医療や繁殖技術をフィードバックさせた希少種の人工繁殖保存に主目的を移すようになってきた。したがって，単なるエンターテイメントとしての珍奇動物展示の思想と実態は過去の遺物となり，動物生体の展示は新たな局面を迎えている。本講義では，これまで展示動物の飼育が歩んできた歴史的過程やそれぞれの時代での成果，技術の進歩を紹介し，将来の展示動物の飼育が目指すべき役割について学習する。	
			動物と社会	動物とヒトとの関わりは，有史以前から綿々と維持されてきた互いに深い関係である。それは人類が野生動物を食料とした狩猟としての関わりから始まり，さらに野生動物から育種学的に使役動物，産業動物，愛玩動物などを産み出し，さまざまな接点を付加させながら現在まで続いてきている。一方で，ヒトが動物に抱く価値観も時代とともに変容してきており，ヒトと動物の接点もまた変化してきている。それに伴い，その時代に則した軋轢のないヒトと動物の関係が求められるようになってきている。本講義では，人間社会と動物との関わりについて，自然科学，社会科学，人文科学を統合した動物文化史の視点から，その歴史と価値，将来性について学習する。	共同

専門教育科目	応用領域	動物の保全と環境系科目	都市動物学	通常の自然環境下でみられる動物相とは異なり，建築物で占有された緑地の少ない都市部では，その都市環境を象徴する特徴的な動物が生息している。都市動物の多くは，都市環境に適応し，都市特有のさまざまな人工物を利用してたくましく生活している。時には私たちの生活を脅かすような動物による被害事案や事故が生じたりするが，それらは動物たちがヒトを敵視して意図的に引き起こしているものではなく，彼らが生きていく上で必然の行動に他ならない。本講義では，都市動物学が包容する各分野で活躍している学内外講師を迎え，都市動物の生活様態の実例を紹介しながら，都市動物の特性，都市環境に適応した進化学的背景，及び自然環境と都市環境の違いに起因した生活環の違いについて学習する。	
			動物心理学	動物心理学は，動物の心的過程あるいは行動を研究対象とする学問分野であり，研究手法として，統制された条件のもとで実験的研究，生息する自然環境のもとで行動を観察する生態学的研究について学ぶ。また，動物と進化，動物心理学の歴史，動物種による感覚と知覚の比較，本能行動（生得的行動），学習（習得的行動），記憶，個体間コミュニケーション，自己と社会性，発達と個体差，ヒトと動物の関係についての事例を取り上げ，動物心理学の本態を学習する。	
			保全生物学実習	保全生態学で学習した内容をもとに，実際に生物多様性が人為的な環境の改変によってさまざまな負の影響を受けている調査地を設定し，その要因の実態と影響のレベルを生態学的な調査方法による解析から検討する。またSimpson指数やShannon-Wiener指数を用いた動物相の多様性の評価，DNA解析技術による動物集団における遺伝的多様性の評価などを実践する。さらに動物の生息環境について生物学的手法・化学的手法を用いた環境評価も行う。	共同
			動物の採餌と飼料	動物の食性は食べる餌の種類により主に植物食性，動物食性，雑食性に大別され，さらに餌とする種類の範囲によって多食性，狭食性，単食性などに分けられる。食性の違いにより各動物種がさまざまな形態や消化機構等の体の構造を持ち，さらに餌の探索，狩猟，捕獲，摂取など動物が餌の獲得や消費において発現する採餌の行動様式も多岐にわたる。本講義では食性による違いを理解し，行動学及び飼料学の視点から動物に適した飼料の種類や給与方法について学習する。	
			野生動物と飼育動物の感染症学	動物感染症の概念を理解するため，第一に感染の成立，感染と発病，感染に対する生体防御，発病機序，病原体の自然界での存続様式を学習し，さらに動物の生体防御機構，宿主－病原体－環境の相互作用，動物集団の疫学と防疫，動物移送の衛生と検疫，ヒトの生活環境に与える有形・無形要因の影響等について学ぶ。また，法定伝染病，病原体の特徴，疫学，症状の特徴，診断法，予防・治療法や人獣共通感染症についての具体例を取り上げ，ヒトを含めた動物社会と感染症との現状を学ぶ。	
	展開領域		動物学特別講義	動物学に関連する分野では，近年，包含される内容の多様化と細分化が進んでおり，年々高度化しているため全体把握は困難である。本講義は動物学が包容する各分野で活躍している学内外講師を迎え，当該分野における現在に至るまでの歴史・社会的背景や最新の話題についての講義を聴講する。それにより，受講生に動物を取り巻く現状や行政,企業活動について認識させる。	
			動物学演習	原則的に研究室の入室を決定させた後，研究室ごとに少人数によるセミナー形式の演習を行う。それぞれの研究室の専門分野における原著論文の紹介や専門書の輪読会を通して，専門分野の学術的背景と自身の卒業研究へ繋がる既報の研究成果を理解する。また，それらを他者へ伝えることで，論理的思考力，論文読解力，文章表現力，プレゼンテーション力などの能力を習得する。	共同

専門教育科目	展開領域	動物学研究Ⅰ	動物学科での学修の集大成として，配属された研究室の教員の指導のもとで自ら興味のあるテーマ調査し，その科学的な意義・社会的な意義を中心に指導教員とディスカッションを繰り返し，自ら研究課題を設定する。課題設定後は，関連領域の論文をもとに過去の研究成果を詳細に調査し，研究目的を明確にするとともに研究計画を立案する。その計画に従い，教員の指導のもとで研究活動を実施する。研究活動の実施により，テーマの遂行に必要な手法やその原理などを自ら学修することで課題解決能力を身に付けさせる。得られた研究成果は逐次経過発表を行うとともに，研究計画との齟齬を修正し研究の完成を目指す。	共同
		動物学研究Ⅱ	動物学研究Ⅰにおいて設定した研究課題をその研究計画に従い，指導教員の指導のもとで自主的に研究活動を継続的に遂行する。研究活動の実施により，テーマの遂行に必要な手法やその原理などを自ら学修することで課題解決能力を身に付けさせる。最終的には，得られた研究成果を総括し最終発表を行うとともに，卒業論文に相当する研究論文を作成し提出する。最終発表と研究論文を動物学科での学修の集大成とする。	共同
	広域基礎科目	生物資源科学概論	生物資源科学に関わる現代の諸問題は，複数の学問分野が取り扱う様々な課題と複雑に関わっている。従ってその諸問題に向き合うためには，複眼的な視野に加えて，多様な学問分野を結集した総合力を発揮することが重要である。そこで本科目では，生物資源科学を構成する多様な学問領域に興味･関心を持ってもらうために，特定のテーマに即した講義を通じて，複数の学問領域の基盤や成果，各領域の連関性を理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （27　清水　みゆき／2回） 「おいしい店の話」・流通 料理を作るための材料を購入する，または外食をするときに利用するお店。「あの店の○○はおいしい」の情報源は何か，おいしい店の作られ方を探求する。 （28　須江　隆／3回） 授業ガイダンスと「おいしい文化の話」・歴史 受講に当たって学習目標や成績評価等に関する説明を行う。歴史的視点から，二，三の事例に即して，私たちのおいしい食文化はどこで生まれ，どう進化してきたのかを考察する。 授業の総括と振り返り 全体の授業を総括した上で，受講者には「振り返りシート」を記入してもらう。また個別行動目標と3課題のレポートとの関連性についての説明も行う。 （32　瀧澤　英紀／2回） 「おいしい水の話」・森林 きれいな水を作る森林，湧水や地下水をつめてミネラルウォーターのいろいろ，産業を支える水などについて学ぶ。 （36　福島　英登／2回） 「おいしい魚の話」・水産 多種多様な水産物を美味しくいただく取り組みとして，プレハーベスト，漁獲処理，貯蔵流通技術，加工技術などを紹介する。 （44　笹田　勝寛／2回） 「おいしい農法の話」・環境 地域の環境に配慮しつつ生産量を維持しようとする持続可能な農業・農法の取組みについて紹介し，今後の農業・農村・農法について考える。	オムニバス方式

専門教育科目	広域基礎科目		（50　山下　正道／2回） 「おいしい肉の話」・食肉 肉をおいしく，安心して食べるための先人の工夫と加工肉製品について，食の安全の制度を交えて説明する。 （51　渡邉　泰祐／2回） 「おいしい発酵の話」・発酵 おいしさに対する発酵の効果について，発酵食品における微生物の作用に関する観点から概説する。	
		生物学概論Ⅰ	地球に生息する多種多様な生物は，遺伝子・細胞・組織・器官・個体・群集などのレベルで特徴的な構造や機能を持っている。それらを概説することで，基礎的な生物学の知識を学習する。同時に，生命活動の普遍性，環境との相互作用，多様性の進化などを通して生物学の本質的及び俯瞰的な考え方を学ぶ。なお，高等学校で生物を選択しなかったことも想定し基礎的な知識に基づいて講義を進める。	
		生物学概論Ⅱ	地球に生息する多種多様な生物は，個体・個体群・群集・生態系などのレベルで特徴的な構造や機能を持っている。それらを概説することで，基礎的な生物学の知識を学習する。同時に，生存と繁殖のしくみ，環境への適応，形態の進化などを通して生物学に関する幅広い知識を習得するとともに，生物学の考え方を理解する。なお，高等学校で生物を選択しなかったことも想定し基礎的な知識に基づいて講義を進める。	
		物理学概論Ⅰ	概論Ⅰでは力学と熱力学を扱う。運動の法則を正確に理解させる。これにより，「何々運動の公式」などに頼る事なく，物体の運動を予測できる様にする。また，運動の法則から導かれる便利な等式があり，一部の問題ではそれを利用すると楽に解ける事を理解させる。温度とは何を表すのか，熱とは何なのか，を理解させる。他人に説明できる様にする。理想気体の法則を正確に理解させる。例えば，各法則の使える条件が違う事を理解し，計算問題が正しく解ける様にする。	
		物理学概論Ⅱ	概論Ⅱでは電磁気学と波動と物質の微視的世界を扱う。電場と磁場と電磁誘導の基礎知識を身に付けさせる。電気回路の法則を正確に理解させる。これにより，「合成何々の公式」に頼る事なく，電気回路の問題を解ける様にする。波動の持つ基本的な特徴を身に付けさせる。物質を微視的に見ると何から出来ているのか，現在までに判った事について基礎的知識を身に付けさせる。例えば，放射能の起源が原子核にあり，化学的には絶対に中和できない事を理解させる。	
		化学概論Ⅰ	中学校・高等学校の理科教員として，身に付けておくべき化学的知識・理論を体系的・包括的に取り扱う。特に，一般化学分野の物理化学的内容に重心をおいた講義形式の授業とする。 はじめに，原子に着目し，量子化学の基礎を学び，電子軌道，化学結合に関する知識を深める。次に，分子に着目し，分子の性質に関する知識を得る。その上で，気体全般に関することを総括する。気液平衡などの平衡についての概念を確認し，溶液の束一的性質について理解を深める。化学平衡の基礎として酸と塩基，電池の理論としての酸化・還元についても，講義する。	
		化学概論Ⅱ	「化学概論Ⅰ」に引き続き，理科教育のために必要な化学の基礎事項を概説する。この科目では特に「無機化学」「有機化学」分野を取り上げ，この分野の基礎となる「酸・塩基」「酸化と還元」「無機化合物」「有機化合物」に関する様々な事項を修得する。またこうした内容の問題を他者に解説する演習を通じて，能動的に学び，それを表現する姿勢を身に付ける。	

専門教育科目	広域基礎科目	生物学実験	高等学校で生物を選択しなかったことも想定し，顕微鏡の使い方，ピペットの使い方，試薬の調製，動物や植物の扱い方や採集方法など，生物学実験に必要な技術を基礎から学ぶ。同時に，生物学に関する実験課題を設定する方法など，中学校・高等学校での教育現場に立つことを想定した生物学実験の指導法を解説し，自らが授業を行うための実践的な演習を行う。	集中
		化学実験	高等学校化学基礎と化学の学習内容を取り入れた実験メニューに沿って進める。具体的には，しらべる化学（陽イオンの定性分析），有機化合物の化学（ツバキ種子からの搾油，脂肪酸セッケンの合成，高級アルコール系洗剤の合成，pH指示薬としての植物色素），はかる化学（酸塩基滴定による酢酸の定量，酸化還元滴定による過酸化水素の定量），みせる化学（銀鏡反応，めっきと合金，物質の状態変化）について学修する。	集中
		物理学実験	学校教育においては便宜上物理，化学，生物，地学に分かれているが，これらは互いに強く関連しており，その中でも物理はすべての分野の基本をなしている。理科の教育活動するうえで最も基本となる物理学の知識を，実験を通して学び，自然現象を理解するための洞察力を養成する。また，実験結果に対する解析を通じて，数値的な処理や科学的に説明する能力を習得する。	
		地学概論Ⅰ	地学は，私たちの生活基盤である地球と，それをとり巻く宇宙の成り立ちやしくみ，46億年間のこれらの変遷史を学ぶ学問である。本講義は，地学を学ぶ上で必要な時間と空間を自在に移動する考え方や，日常生活で意識するものとは異なる時間・空間スケールによる環境変動のとらえ方など，理科教員として不可欠な多様な地学現象と，その解明手法の基礎的事項を学習することを目的とする。	
		地学概論Ⅱ	本講義では，理科教員に不可欠な基礎知識として，46億年の長期間に地球がどのような過程を経て現在の姿になったのかを学ぶ。前半は現在の地球の原型が築かれた諸過程を，後半は地球表層環境の変遷史と，生物進化・大量絶滅を含む地球環境と生物間の相互作用を学習する。46億年間における，地球の成り立ち及び生命の歴史を理解するために必要な，長大な時間・空間概念を修得することを目的とする。	
		地学実験	この実験では，私たちの生活基盤である地球の地表を構成する，岩石・鉱物・化石の観察法と分類の初歩を学ぶ。同時に地球表層の物質の構造や変化を記録するための基礎技術を習得し，それらの現在へ至る歴史を推測する態度を養う。身近な自然環境と天然物質の観察，学外の博物館展示見学等から，現在の地球環境や生物，及びこれらの現在へと至る歴史，多くの地学現象への興味を長く持ち続けるという，理科教員に必要な姿勢の習得を目的とする。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

学校法人日本大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
日本大学				日本大学				
法学部第一部	1,533	—	6,132	法学部第一部	1,533	—	6,132	
法律学科	533	—	2,132	法律学科	533	—	2,132	
政治経済学科	350	—	1,400	政治経済学科	350	—	1,400	
新聞学科	200	—	800	新聞学科	200	—	800	
経営法学科	200	—	800	経営法学科	200	—	800	
公共政策学科	250	—	1,000	公共政策学科	250	—	1,000	
法学部第二部	200	—	800	法学部第二部	200	—	800	
法律学科	200	—	800	法律学科	200	—	800	
文理学部	1,900	—	7,600	文理学部	1,900	—	7,600	
哲学科	88	—	352	哲学科	88	—	352	
史学科	133	—	532	史学科	133	—	532	
国文学科	133	—	532	国文学科	133	—	532	
中国語中国文化学科	70	—	280	中国語中国文化学科	70	—	280	
英文学科	133	—	532	英文学科	133	—	532	
ドイツ文学科	80	—	320	ドイツ文学科	80	—	320	
社会学科	210	—	840	社会学科	210	—	840	
社会福祉学科	60	—	240	社会福祉学科	60	—	240	
教育学科	120	—	480	教育学科	120	—	480	
体育学科	200	—	800	体育学科	200	—	800	
心理学科	130	—	520	心理学科	130	—	520	
地理学科	80	—	320	地理学科	80	—	320	
地球科学科	80	—	320	地球科学科	80	—	320	
数学科	73	—	292	数学科	73	—	292	
情報科学科	80	—	320	情報科学科	80	—	320	
物理学科	70	—	280	物理学科	70	—	280	
生命科学科	70	—	280	生命科学科	70	—	280	
化学科	90	—	360	化学科	90	—	360	
経済学部	1,566	—	6,264	経済学部	1,566	—	6,264	
経済学科	916	—	3,664	経済学科	916	—	3,664	
産業経営学科	450	—	1,800	産業経営学科	450	—	1,800	
金融公共経済学科	200	—	800	金融公共経済学科	200	—	800	
商学部	1,266	—	5,064	商学部	1,266	—	5,064	
商業学科	666	—	2,664	商業学科	666	—	2,664	
経営学科	350	—	1,400	経営学科	350	—	1,400	
会計学科	250	—	1,000	会計学科	250	—	1,000	
芸術学部	866	—	3,464	芸術学部	866	—	3,464	
写真学科	100	—	400	写真学科	100	—	400	
映画学科	150	—	600	映画学科	150	—	600	
美術学科	60	—	240	美術学科	60	—	240	
音楽学科	90	—	360	音楽学科	90	—	360	
文芸学科	120	—	480	文芸学科	120	—	480	
演劇学科	126	—	504	演劇学科	126	—	504	
放送学科	120	—	480	放送学科	120	—	480	
デザイン学科	100	—	400	デザイン学科	100	—	400	
国際関係学部	666	—	2,664	国際関係学部	666	—	2,664	
国際総合政策学科	383	—	1,532	国際総合政策学科	383	—	1,532	
国際教養学科	283	—	1,132	国際教養学科	283	—	1,132	
危機管理学部	300	—	1,200	危機管理学部	300	—	1,200	
危機管理学科	300	—	1,200	危機管理学科	300	—	1,200	
スポーツ科学部	300	—	1,200	スポーツ科学部	300	—	1,200	
競技スポーツ学科	300	—	1,200	競技スポーツ学科	300	—	1,200	
理工学部	2,030	—	8,120	理工学部	2,030	—	8,120	
土木工学科	220	—	880	土木工学科	220	—	880	
交通システム工学科	120	—	480	交通システム工学科	120	—	480	
建築学科	250	—	1,000	建築学科	250	—	1,000	
海洋建築工学科	120	—	480	海洋建築工学科	120	—	480	
機械工学科	160	—	640	機械工学科	160	—	640	
精密機械工学科	140	—	560	精密機械工学科	140	—	560	
航空宇宙工学科	120	—	480	航空宇宙工学科	120	—	480	
電気工学科	160	—	640	電気工学科	160	—	640	
電子工学科	100	—	400	電子工学科	100	—	400	
物質応用化学科	200	—	800	物質応用化学科	200	—	800	
物理学科	140	—	560	物理学科	140	—	560	
数学科	100	—	400	数学科	100	—	400	
まちづくり工学科	100	—	400	まちづくり工学科	100	—	400	
応用情報工学科	100	—	400	応用情報工学科	100	—	400	
生産工学部	1,540	—	6,160	生産工学部	1,540	—	6,160	
機械工学科	198	—	792	機械工学科	198	—	792	
電気電子工学科	176	—	704	電気電子工学科	176	—	704	
土木工学科	198	—	792	土木工学科	198	—	792	
建築工学科	198	—	792	建築工学科	198	—	792	
応用分子化学科	176	—	704	応用分子化学科	176	—	704	
マネジメント工学科	176	—	704	マネジメント工学科	176	—	704	
数理情報工学科	154	—	616	数理情報工学科	154	—	616	
環境安全工学科	132	—	528	環境安全工学科	132	—	528	
創生デザイン学科	132	—	528	創生デザイン学科	132	—	528	

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
工学部	1,030	—	4,120	工学部	1,030	—	4,120	
土木工学科	160	—	640	土木工学科	160	—	640	
建築学科	190	—	760	建築学科	190	—	760	
機械工学科	180	—	720	機械工学科	180	—	720	
電気電子工学科	180	—	720	電気電子工学科	180	—	720	
生命応用化学科	130	—	520	生命応用化学科	130	—	520	
情報工学科	190	—	760	情報工学科	190	—	760	
医学部	125	—	725	医学部	120	—	725	
医学科	125	—	725	医学科	120	—	725	※令和４年度のみ地域枠臨時定員増
歯学部	130	—	780	歯学部	130	—	780	
歯学科	130	—	780	歯学科	130	—	780	
松戸歯学部	130	—	780	松戸歯学部	130	—	780	
歯学科	130	—	780	歯学科	130	—	780	
生物資源科学部	1,520	—	6,320	生物資源科学部	1,520	—	6,320	
				バイオサイエンス学科	210		840	学科の設置（届出）
				動物学科	136		544	学科の設置（届出）
				海洋生物学科	146		584	学科の設置（届出）
				森林学科	120		480	学科の設置（届出）
				環境学科	130		520	学科の設置（届出）
				アグリサイエンス学科	140		560	学科の設置（届出）
				食品開発学科	146		584	学科の設置（届出）
				国際共生学科	146		584	学科の設置（届出）
				獣医保健看護学科	80		320	学科の設置（届出）
食品ビジネス学科	136	—	544	食品ビジネス学科	146	—	584	定員変更（10）
獣医学科	120	—	720	獣医学科	120	—	720	
生命農学科	130	—	520	生命農学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
生命化学科	130	—	520	生命化学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
動物資源科学科	136	—	544	動物資源科学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
森林資源科学科	130	—	520	森林資源科学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
海洋生物資源科学科	136	—	544	海洋生物資源科学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
生物環境工学科	130	—	520	生物環境工学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
食品生命学科	136	—	544	食品生命学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
国際地域開発学科	130	—	520	国際地域開発学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
応用生物科学科	126	—	504	応用生物科学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
くらしの生物学科	80	—	320	くらしの生物学科	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
薬学部	244	—	1,464	薬学部	244	—	1,464	
薬学科（６年制）	244	—	1,464	薬学科（６年制）	244	—	1,464	
計	15,346		62,857	計	15,341		62,857	
日本大学大学院				日本大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
博士前期課程	75	—	150	博士前期課程	75	—	150	
公法学専攻	30	—	60	公法学専攻	30	—	60	
私法学専攻	30	—	60	私法学専攻	30	—	60	
政治学専攻	15	—	30	政治学専攻	15	—	30	
博士後期課程	12	—	36	博士後期課程	12	—	36	
公法学専攻	4	—	12	公法学専攻	4	—	12	
私法学専攻	4	—	12	私法学専攻	4	—	12	
政治学専攻	4	—	12	政治学専攻	4	—	12	
新聞学研究科				新聞学研究科				
博士前期課程	10	—	20	博士前期課程	10	—	20	
新聞学専攻	10	—	20	新聞学専攻	10	—	20	
博士後期課程	3		9	博士後期課程	3		9	
新聞学専攻	3		9	新聞学専攻	3		9	
文学研究科				文学研究科				
博士前期課程	125	—	250	博士前期課程	125	—	250	
哲学専攻	10	—	20	哲学専攻	10	—	20	
史学専攻	20	—	40	史学専攻	20	—	40	
国文学専攻	15	—	30	国文学専攻	15	—	30	
中国学専攻	10	—	20	中国学専攻	10	—	20	
英文学専攻	20	—	40	英文学専攻	20	—	40	
ドイツ文学専攻	5	—	10	ドイツ文学専攻	5	—	10	
社会学専攻	15	—	30	社会学専攻	15	—	30	
教育学専攻	10	—	20	教育学専攻	10	—	20	
心理学専攻	20	—	40	心理学専攻	20	—	40	
博士後期課程	30	—	90	博士後期課程	30	—	90	
哲学専攻	3	—	9	哲学専攻	3	—	9	
日本史専攻	3	—	9	日本史専攻	3	—	9	
外国史専攻	3	—	9	外国史専攻	3	—	9	
国文学専攻	3	—	9	国文学専攻	3	—	9	
中国学専攻	3	—	9	中国学専攻	3	—	9	
英文学専攻	3	—	9	英文学専攻	3	—	9	
ドイツ文学専攻	3	—	9	ドイツ文学専攻	3	—	9	
社会学専攻	3	—	9	社会学専攻	3	—	9	
教育学専攻	3	—	9	教育学専攻	3	—	9	
心理学専攻	3	—	9	心理学専攻	3	—	9	
総合基礎科学研究科				総合基礎科学研究科				
博士前期課程	35	—	70	博士前期課程	35	—	70	
地球情報数理科学専攻	12	—	24	地球情報数理科学専攻	12	—	24	
相関理化学専攻	23	—	46	相関理化学専攻	23	—	46	
博士後期課程	4	—	12	博士後期課程	4	—	12	
地球情報数理科学専攻	2	—	6	地球情報数理科学専攻	2	—	6	
相関理化学専攻	2	—	6	相関理化学専攻	2	—	6	
経済学研究科				経済学研究科				
博士前期課程	30	—	60	博士前期課程	30	—	60	
経済学専攻	30	—	60	経済学専攻	30	—	60	
博士後期課程	6	—	18	博士後期課程	6	—	18	
経済学専攻	6	—	18	経済学専攻	6	—	18	

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
商学研究科				商学研究科				
博士前期課程	90	—	180	博士前期課程	90	—	180	
商学専攻	30	—	60	商学専攻	30	—	60	
経営学専攻	30	—	60	経営学専攻	30	—	60	
会計学専攻	30	—	60	会計学専攻	30	—	60	
博士後期課程	13	—	39	博士後期課程	13	—	39	
商学専攻	3	—	9	商学専攻	3	—	9	
経営学専攻	5	—	15	経営学専攻	5	—	15	
会計学専攻	5	—	15	会計学専攻	5	—	15	
芸術学研究科				芸術学研究科				
博士前期課程	75	—	150	博士前期課程	75	—	150	
文芸学専攻	20	—	40	文芸学専攻	20	—	40	
映像芸術専攻	20	—	40	映像芸術専攻	20	—	40	
造形芸術専攻	15	—	30	造形芸術専攻	15	—	30	
音楽芸術専攻	10	—	20	音楽芸術専攻	10	—	20	
舞台芸術専攻	10	—	20	舞台芸術専攻	10	—	20	
博士後期課程	8	—	24	博士後期課程	8	—	24	
芸術専攻	8	—	24	芸術専攻	8	—	24	
国際関係研究科				国際関係研究科				
博士前期課程	10	—	20	博士前期課程	10	—	20	
国際関係研究専攻	10	—	20	国際関係研究専攻	10	—	20	
博士後期課程	3	—	9	博士後期課程	3	—	9	
国際関係研究専攻	3	—	9	国際関係研究専攻	3	—	9	
				危機管理学研究科				
				修士課程	8	—	16	
				危機管理学専攻	8	—	16	研究科の設置（届出）
				スポーツ科学研究科				
				修士課程	8	—	16	
				スポーツ科学専攻	8	—	16	研究科の設置（届出）
理工学研究科				理工学研究科				
博士前期課程	450	—	900	博士前期課程	450	—	900	
土木工学専攻	40	—	80	土木工学専攻	40	—	80	
交通システム工学専攻	20	—	40	交通システム工学専攻	20	—	40	
建築学専攻	50	—	100	建築学専攻	50	—	100	
海洋建築工学専攻	30	—	60	海洋建築工学専攻	30	—	60	
機械工学専攻	35	—	70	機械工学専攻	35	—	70	
精密機械工学専攻	25	—	50	精密機械工学専攻	25	—	50	
航空宇宙工学専攻	25	—	50	航空宇宙工学専攻	25	—	50	
電気工学専攻	35	—	70	電気工学専攻	35	—	70	
電子工学専攻	35	—	70	電子工学専攻	35	—	70	
情報科学専攻	15	—	30	情報科学専攻	15	—	30	
物質応用化学専攻	40	—	80	物質応用化学専攻	40	—	80	
物理学専攻	25	—	50	物理学専攻	25	—	50	
数学専攻	20	—	40	数学専攻	20	—	40	
地理学専攻	20	—	40	地理学専攻	20	—	40	
量子理工学専攻	20	—	40	量子理工学専攻	20	—	40	
まちづくり工学専攻	15	—	30	まちづくり工学専攻	15	—	30	
博士後期課程	74	—	222	博士後期課程	74	—	222	
土木工学専攻	5	—	15	土木工学専攻	5	—	15	
交通システム工学専攻	5	—	15	交通システム工学専攻	5	—	15	
建築学専攻	5	—	15	建築学専攻	5	—	15	
海洋建築工学専攻	5	—	15	海洋建築工学専攻	5	—	15	
まちづくり工学専攻	3	—	9	まちづくり工学専攻	3	—	9	
機械工学専攻	4	—	12	機械工学専攻	4	—	12	
精密機械工学専攻	3	—	9	精密機械工学専攻	3	—	9	
航空宇宙工学専攻	3	—	9	航空宇宙工学専攻	3	—	9	
電気工学専攻	5	—	15	電気工学専攻	5	—	15	
電子工学専攻	5	—	15	電子工学専攻	5	—	15	
情報科学専攻	4	—	12	情報科学専攻	4	—	12	
物質応用化学専攻	7	—	21	物質応用化学専攻	7	—	21	
物理学専攻	5	—	15	物理学専攻	5	—	15	
数学専攻	5	—	15	数学専攻	5	—	15	
地理学専攻	5	—	15	地理学専攻	5	—	15	
量子理工学専攻	5	—	15	量子理工学専攻	5	—	15	
生産工学研究科				生産工学研究科				
博士前期課程	140	—	280	博士前期課程	140	—	280	
機械工学専攻	30	—	60	機械工学専攻	30	—	60	
電気電子工学専攻	20	—	40	電気電子工学専攻	20	—	40	
土木工学専攻	20	—	40	土木工学専攻	20	—	40	
建築工学専攻	20	—	40	建築工学専攻	20	—	40	
応用分子化学専攻	20	—	40	応用分子化学専攻	20	—	40	
マネジメント工学専攻	20	—	40	マネジメント工学専攻	20	—	40	
数理情報工学専攻	10	—	20	数理情報工学専攻	10	—	20	
博士後期課程	21	—	63	博士後期課程	21	—	63	
機械工学専攻	3	—	9	機械工学専攻	3	—	9	
電気電子工学専攻	3	—	9	電気電子工学専攻	3	—	9	
土木工学専攻	3	—	9	土木工学専攻	3	—	9	
建築工学専攻	3	—	9	建築工学専攻	3	—	9	
応用分子化学専攻	3	—	9	応用分子化学専攻	3	—	9	
マネジメント工学専攻	3	—	9	マネジメント工学専攻	3	—	9	
数理情報工学専攻	3	—	9	数理情報工学専攻	3	—	9	
工学研究科				工学研究科				
博士前期課程	140	—	280	博士前期課程	140	—	280	
土木工学専攻	20	—	40	土木工学専攻	20	—	40	
建築学専攻	20	—	40	建築学専攻	20	—	40	
機械工学専攻	25	—	50	機械工学専攻	25	—	50	
電気電子工学専攻	20	—	40	電気電子工学専攻	20	—	40	
生命応用化学専攻	30	—	60	生命応用化学専攻	30	—	60	
情報工学専攻	25	—	50	情報工学専攻	25	—	50	

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
博士後期課程	12	—	36	博士後期課程	12	—	36	
土木工学専攻	2	—	6	土木工学専攻	2	—	6	
建築学専攻	2	—	6	建築学専攻	2	—	6	
機械工学専攻	2	—	6	機械工学専攻	2	—	6	
電気電子工学専攻	2	—	6	電気電子工学専攻	2	—	6	
生命応用化学専攻	2	—	6	生命応用化学専攻	2	—	6	
情報工学専攻	2	—	6	情報工学専攻	2	—	6	
医学研究科				医学研究科				
博士課程	64	—	256	博士課程	64	—	256	
生理系	12	—	48	生理系	12	—	48	
病理系	6	—	24	病理系	6	—	24	
社会医学系	8	—	32	社会医学系	8	—	32	
内科系	16	—	64	内科系	16	—	64	
外科系	22	—	88	外科系	22	—	88	
歯学研究科				歯学研究科				
博士課程	30	—	120	博士課程	30	—	120	
歯学専攻	30	—	120	歯学専攻	30	—	120	
松戸歯学研究科				松戸歯学研究科				
博士課程	30	—	120	博士課程	30	—	120	
歯学専攻	30	—	120	歯学専攻	30	—	120	
生物資源科学研究科				生物資源科学研究科				
博士前期課程	115	—	230	博士前期課程	115	—	230	
生物資源生産科学専攻	27	—	54	生物資源生産科学専攻	27	—	54	
生物資源利用科学専攻	22	—	44	生物資源利用科学専攻	22	—	44	
応用生命科学専攻	22	—	44	応用生命科学専攻	22	—	44	
生物環境科学専攻	22	—	44	生物環境科学専攻	22	—	44	
生物資源経済学専攻	22	—	44	生物資源経済学専攻	22	—	44	
博士後期課程	26	—	78	博士後期課程	26	—	78	
生物資源生産科学専攻	6	—	18	生物資源生産科学専攻	6	—	18	
生物資源利用科学専攻	5	—	15	生物資源利用科学専攻	5	—	15	
応用生命科学専攻	5	—	15	応用生命科学専攻	5	—	15	
生物環境科学専攻	5	—	15	生物環境科学専攻	5	—	15	
生物資源経済学専攻	5	—	15	生物資源経済学専攻	5	—	15	
獣医学研究科				獣医学研究科				
博士課程	6	—	24	博士課程	6	—	24	
獣医学専攻	6	—	24	獣医学専攻	6	—	24	
薬学研究科				薬学研究科				
博士課程	5	—	20	博士課程	5	—	20	
薬学専攻	5	—	20	薬学専攻	5	—	20	
総合社会情報研究科				総合社会情報研究科				
博士前期課程	90	—	180	博士前期課程	90	—	180	
国際情報専攻	30	—	60	国際情報専攻	30	—	60	
文化情報専攻	30	—	60	文化情報専攻	30	—	60	
人間科学専攻	30	—	60	人間科学専攻	30	—	60	
博士後期課程	9	—	27	博士後期課程	9	—	27	
総合社会情報専攻	9	—	27	総合社会情報専攻	9	—	27	
法務研究科				法務研究科				
専門職学位課程	60	—	180	専門職学位課程	60	—	180	
法務専攻	60	—	180	法務専攻	60	—	180	
	1,801		4,153		1,817		4,185	

日本大学通信教育部				日本大学通信教育部				
法学部	3,000	—	12,000	法学部	3,000	—	12,000	
文理学部	3,000	—	12,000	文理学部	3,000	—	12,000	
経済学部	1,500	—	6,000	経済学部	1,500	—	6,000	
商学部	1,500	—	6,000	商学部	1,500	—	6,000	
	9,000		36,000		9,000		36,000	

日本大学短期大学部				日本大学短期大学部				
ビジネス教養学科	100	—	200	ビジネス教養学科	100	—	200	
食物栄養学科	100	—	200	食物栄養学科	100	—	200	
建築・生活デザイン学科	110	—	220	建築・生活デザイン学科	110	—	220	
ものづくり・サイエンス総合学科	70	—	140	ものづくり・サイエンス総合学科	70	—	140	
専攻科食物栄養専攻	20	—	40	専攻科食物栄養専攻	20	—	40	
	400		800		400		800	

医学部附属看護専門学校	80	—	240	医学部附属看護専門学校	80	—	240	
歯学部附属歯科技工専門学校	35	—	105	歯学部附属歯科技工専門学校	35	—	105	
歯学部附属歯科衛生専門学校	0	—	0	歯学部附属歯科衛生専門学校	40	—	120	令和５年４月学生募集再開
松戸歯学部附属歯科衛生専門学校	40	—	120	松戸歯学部附属歯科衛生専門学校	0	—	0	令和５年４月学生募集停止
	155		465		155		465	

日 本 大 学 学 則

（案）

令和５年４月

目　　次

日　本　大　学　学　則

第１章　総　則

第１節　目的及び使命…… 1

第２節　大学組織…… 1

第３節　教職員及び教授会…… 6

第４節　学生定員…… 7

第５節　学年・学期及び休業日…… 15

第６節　入学・在学・転部・転科・転籍・休学・復学・留学・退学及び除籍…… 16

第７節　履修規定…… 21

第８節　卒業及び学士の学位…… 24

第９節　学費及び貸給費…… 26

第10節　委託生及び外国人留学生…… 27

第11節　科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び研究生…… 28

第12節　教職課程…… 29

第13節　通信教育…… 37

第14節　賞　罰…… 37

第15節　寄宿舎…… 37

第２章　教育課程及び履修方法

第１節　法学部…… 39

第２節　文理学部…… 75

第３節　経済学部…… 135

第４節　商学部…… 157

第５節　芸術学部…… 191

第６節　国際関係学部…… 229

第７節　危機管理学部…… 247

第８節　スポーツ科学部…… 255
第９節　理工学部…… 263
第10節　生産工学部…… 307
第11節　工学部…… 335
第12節　医学部…… 351
第13節　歯学部…… 355
第14節　松戸歯学部…… 359
第15節　生物資源科学部…… 363
第16節　薬学部…… 433
第３章　大学院
第１節　総　則…… 439
第２節　教員及び運営機構…… 447
第３節　入学及び入学資格…… 449
第４節　教育課程及び履修方法…… 452
第５節　科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び研究生…… 635
附　則…… 636

日　本　大　学　学　則

第１章　総　則

第１節　目的及び使命

第１条　本大学は，日本精神にもとづき，道統をたつとび，憲章にしたがい，自主創造の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

第２条　本大学は，広く知識を世界にもとめて，深遠な学術を研究し，心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

第２節　大学組織

第３条　本大学は，学部及び大学院をもって，これを組織する。

２　本大学の学部及び学科は，次のとおりである。

学部名	学科名
法学部	法律学科　政治経済学科 新聞学科　経営法学科 公共政策学科
文理学部	哲学科　史学科 国文学科　中国語中国文化学科 英文学科　ドイツ文学科 社会学科　社会福祉学科 教育学科　体育学科 心理学科　地理学科 地球科学科　数学科 情報科学科　物理学科 生命科学科　化学科
経済学部	経済学科　産業経営学科 金融公共経済学科
商学部	商業学科　経営学科 会計学科

芸術学部	写真学科　映画学科 美術学科　音楽学科 文芸学科　演劇学科 放送学科　デザイン学科
国際関係学部	国際総合政策学科　国際教養学科
危機管理学部	危機管理学科
スポーツ科学部	競技スポーツ学科
理工学部	土木工学科　交通システム工学科 建築学科　海洋建築工学科 まちづくり工学科　機械工学科 精密機械工学科　航空宇宙工学科 電気工学科　電子工学科 応用情報工学科　物質応用化学科 物理学科　数学科
生産工学部	機械工学科　電気電子工学科 土木工学科　建築工学科 応用分子化学科　マネジメント工学科 数理情報工学科　環境安全工学科 創生デザイン学科
工学部	土木工学科　建築学科 機械工学科　電気電子工学科 生命応用化学科　情報工学科
医学部	医学科
歯学部	歯学科
松戸歯学部	歯学科

生物資源科学部	バイオサイエンス学科	動物学科
	海洋生物学科	森林学科
	環境学科	アグリサイエンス学科
	食品開発学科	食品ビジネス学科
	国際共生学科	獣医保健看護学科
	獣医学科	生命農学科
	生命化学科	動物資源科学科
	森林資源科学科	海洋生物資源科学科
	生物環境工学科	食品生命学科
	国際地域開発学科	応用生物科学科
	くらしの生物学科	
薬学部	薬学科	

3　本大学の大学院研究科及び専攻は，次のとおりである。

博士課程（博士後期課程）・修士課程（博士前期課程）

研究科名	専攻名	
	博士前期課程 又は修士課程	博士後期課程 又は博士課程
法学研究科	公法学専攻	公法学専攻
	私法学専攻	私法学専攻
	政治学専攻	政治学専攻
新聞学研究科	新聞学専攻	新聞学専攻
文学研究科	哲学専攻	哲学専攻
	史学専攻	日本史専攻
	国文学専攻	外国史専攻
	中国学専攻	国文学専攻
	英文学専攻	中国学専攻
	ドイツ文学専攻	英文学専攻
	社会学専攻	ドイツ文学専攻

	教育学専攻	社会学専攻
	心理学専攻	教育学専攻
	人文地理学専攻	心理学専攻
総合基礎科学研究科	地球情報数理科学専攻	地球情報数理科学専攻
	相関理化学専攻	相関理化学専攻
経済学研究科	経済学専攻	経済学専攻
商学研究科	商学専攻	商学専攻
	経営学専攻	経営学専攻
	会計学専攻	会計学専攻
芸術学研究科	文芸学専攻	芸術専攻
	映像芸術専攻	
	造形芸術専攻	
	音楽芸術専攻	
	舞台芸術専攻	
国際関係研究科	国際関係研究専攻	国際関係研究専攻
危機管理学研究科	危機管理学専攻	
スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	
理工学研究科	土木工学専攻	土木工学専攻
	交通システム工学専攻	交通システム工学専攻
	建築学専攻	建築学専攻
	海洋建築工学専攻	海洋建築工学専攻
	まちづくり工学専攻	まちづくり工学専攻
	機械工学専攻	機械工学専攻
	精密機械工学専攻	精密機械工学専攻
	航空宇宙工学専攻	航空宇宙工学専攻
	電気工学専攻	電気工学専攻

	電子工学専攻	電子工学専攻
	情報科学専攻	情報科学専攻
	物質応用化学専攻	物質応用化学専攻
	物理学専攻	物理学専攻
	数学専攻	数学専攻
	地理学専攻	地理学専攻
	量子理工学専攻	量子理工学専攻
生産工学研究科	機械工学専攻	機械工学専攻
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻
	土木工学専攻	土木工学専攻
	建築工学専攻	建築工学専攻
	応用分子化学専攻	応用分子化学専攻
	マネジメント工学専攻	マネジメント工学専攻
	数理情報工学専攻	数理情報工学専攻
工学研究科	土木工学専攻	土木工学専攻
	建築学専攻	建築学専攻
	機械工学専攻	機械工学専攻
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻
	生命応用化学専攻	生命応用化学専攻
	情報工学専攻	情報工学専攻
医学研究科		生理系
		病理系
		社会医学系
		内科系
		外科系
歯学研究科		歯学専攻
松戸歯学研究科		歯学専攻

生物資源科学研究科	生物資源生産科学専攻 生物資源利用科学専攻 応用生命科学専攻 生物環境科学専攻 生物資源経済学専攻	生物資源生産科学専攻 生物資源利用科学専攻 応用生命科学専攻 生物環境科学専攻 生物資源経済学専攻
獣医学研究科		獣医学専攻
薬学研究科		薬学専攻
総合社会情報研究科	国際情報専攻 文化情報専攻 人間科学専攻	総合社会情報専攻

専門職学位課程

研究科名	専攻名
法務研究科	法務専攻

4　第２項及び第３項に定める学部及び学科，大学院研究科の課程及び専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については，別表１に定める。

第３節　教職員及び教授会

第４条　本大学の教員を分けて教授・准教授・講師・助教及び助手とする。

２　教職員に関する規定は，別に定める。

第５条　本大学各学部に教授会を置き，専任教授全員，３名以内の専任准教授代表及び事務局長をもって，これを組織する。

第６条　教授会は，学部長が招集し，その議長となる。

第７条　教授会は，総会員の半数以上の出席によって成立する。

第８条　議長は，議事録を作成し，出席者中２名の署名押印を得るものとする。

第９条　教授会は，次の事項を審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

①　学生の入学及び卒業に関すること。

②　学位の授与に関すること。

③　前２号に掲げる事項のほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。

2　前項第３号の事項については，別に定める「学長裁定」による。

3　教授会は，第１項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について教育研究上の専門的な観点から審議し，並びに学長及び学部長の求めに応じ，意見を述べることができる。なお，本大学の諸規程において教授会が審議することと定められている事項については，教授会はこれを審議し，意見を述べなければならない。

4　教授会の意見を集約する必要がある場合は，出席者の過半数によるものとする。

第 10 条　前条の教授会における審議とは，論議・検討することを意味し，決定権を含意するものではない。

第 11 条　教授会は，次の事項について報告を受けるものとする。

①　大学院に関すること。

②　学位論文の審査に関すること。

③　当該学部の予算及び決算に関すること。

④　その他学長及び学部長が必要と認めたこと。

第４節　学生定員

第 12 条　本大学学部の学生定員は，次のとおりである。

第一部

学部名	学科名	毎年入学定員	収容定員
法学部	法律学科	533	2,132
	政治経済学科	350	1,400
	新聞学科	200	800
	経営法学科	200	800
	公共政策学科	250	1,000
	計	1,533	6,132
	哲学科	88	352
	史学科	133	532
	国文学科	133	532
	中国語中国文化学科	70	280
	英文学科	133	532

文理学部	ドイツ文学科	80	320
	社会学科	210	840
	社会福祉学科	60	240
	教育学科	120	480
	体育学科	200	800
	心理学科	130	520
	地理学科	80	320
	地球科学科	80	320
	数学科	73	292
	情報科学科	80	320
	物理学科	70	280
	生命科学科	70	280
	化学科	90	360
	計	1,900	7,600
経済学部	経済学科	916	3,664
	産業経営学科	450	1,800
	金融公共経済学科	200	800
	計	1,566	6,264
商学部	商業学科	666	2,664
	経営学科	350	1,400
	会計学科	250	1,000
	計	1,266	5,064
芸術学部	写真学科	100	400
	映画学科	150	600
	美術学科	60	240
	音楽学科	90	360
	文芸学科	120	480
	演劇学科	126	504

	放送学科	120	480
	デザイン学科	100	400
	計	866	3,464
国際関係学部	国際総合政策学科	383	1,532
	国際教養学科	283	1,132
	計	666	2,664
危機管理学部	危機管理学科	300	1,200
スポーツ科学部	競技スポーツ学科	300	1,200
理工学部	土木工学科	220	880
	交通システム工学科	120	480
	建築学科	250	1,000
	海洋建築工学科	120	480
	まちづくり工学科	100	400
	機械工学科	160	640
	精密機械工学科	140	560
	航空宇宙工学科	120	480
	電気工学科	160	640
	電子工学科	100	400
	応用情報工学科	100	400
	物質応用化学科	200	800
	物理学科	140	560
	数学科	100	400
	計	2,030	8,120
生産工学部	機械工学科	198	792
	電気電子工学科	176	704
	土木工学科	198	792
	建築工学科	198	792

	応用分子化学科	176	704
	マネジメント工学科	176	704
	数理情報工学科	154	616
	環境安全工学科	132	528
	創生デザイン学科	132	528
	計	1,540	6,160
工学部	土木工学科	160	640
	建築学科	190	760
	機械工学科	180	720
	電気電子工学科	180	720
	生命応用化学科	130	520
	情報工学科	190	760
	計	1,030	4,120
医学部	医学科	120	720
歯学部	歯学科	130	780
松戸歯学部	歯学科	130	780
生物資源科学部	バイオサイエンス学科	210	840
	動物学科	136	544
	海洋生物学科	146	584
	森林学科	120	480
	環境学科	130	520
	アグリサイエンス学科	140	560
	食品開発学科	146	584
	食品ビジネス学科	146	584
	国際共生学科	146	584
	獣医保健看護学科	80	320
	獣医学科	120	720
	生命農学科	0	0
	生命化学科	0	0

	動物資源科学科	0	0
	森林資源科学科	0	0
	海洋生物資源科学科	0	0
	生物環境工学科	0	0
	食品生命学科	0	0
	国際地域開発学科	0	0
	応用生物科学科	0	0
	くらしの生物学科	0	0
	計	1,520	6,320
薬学部	薬学科	244	1,464

第二部

法学部	法律学科	200	800

（備考）　第一部は，昼間授業，第二部は，夜間授業とする。

2　本大学大学院研究科の学生定員は，次のとおりである。

博士課程（博士後期課程）・修士課程（博士前期課程）

研究科名	専攻名	毎年入学定員	収容定員
法学研究科	公法学専攻（博士前期課程）	30	60
	私法学専攻（博士前期課程）	30	60
	政治学専攻（博士前期課程）	15	30
	公法学専攻（博士後期課程）	4	12
	私法学専攻（博士後期課程）	4	12
	政治学専攻（博士後期課程）	4	12
新聞学研究科	新聞学専攻（博士前期課程）	10	20
	新聞学専攻（博士後期課程）	3	9
文学研究科	哲学専攻（博士前期課程）	10	20
	史学専攻（博士前期課程）	20	40
	国文学専攻（博士前期課程）	15	30
	中国学専攻（博士前期課程）	10	20
	英文学専攻（博士前期課程）	20	40
	ドイツ文学専攻（博士前期課程）	5	10

	社会学専攻（博士前期課程）	15	30
	教育学専攻（博士前期課程）	10	20
	心理学専攻（博士前期課程）	20	40
	人文地理学専攻（修士課程）	20	40
	哲学専攻（博士後期課程）	3	9
	日本史専攻（博士後期課程）	3	9
	外国史専攻（博士後期課程）	3	9
	国文学専攻（博士後期課程）	3	9
	中国学専攻（博士後期課程）	3	9
	英文学専攻（博士後期課程）	3	9
	ドイツ文学専攻（博士後期課程）	3	9
	社会学専攻（博士後期課程）	3	9
	教育学専攻（博士後期課程）	3	9
	心理学専攻（博士後期課程）	3	9
総合基礎科学研究科	地球情報数理科学専攻（博士前期課程）	12	24
	相関理化学専攻（博士前期課程）	23	46
	地球情報数理科学専攻（博士後期課程）	2	6
	相関理化学専攻（博士後期課程）	2	6
経済学研究科	経済学専攻（博士前期課程）	30	60
	経済学専攻（博士後期課程）	6	18
商学研究科	商学専攻（博士前期課程）	30	60
	経営学専攻（博士前期課程）	30	60
	会計学専攻（博士前期課程）	30	60
	商学専攻（博士後期課程）	3	9
	経営学専攻（博士後期課程）	5	15
	会計学専攻（博士後期課程）	5	15
芸術学研究科	文芸学専攻（博士前期課程）	20	40
	映像芸術専攻（博士前期課程）	20	40
	造形芸術専攻（博士前期課程）	15	30
	音楽芸術専攻（博士前期課程）	10	20
	舞台芸術専攻（博士前期課程）	10	20
	芸術専攻（博士後期課程）	8	24

国際関係研究科	国際関係研究専攻　（博士前期課程）	10	20
	国際関係研究専攻　（博士後期課程）	3	9
危機管理学研究科	危機管理学専攻　（修士課程）	8	16
スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻　（修士課程）	8	16
理工学研究科	土木工学専攻　（博士前期課程）	40	80
	交通システム工学専攻　（博士前期課程）	20	40
	建築学専攻　（博士前期課程）	50	100
	海洋建築工学専攻　（博士前期課程）	30	60
	まちづくり工学専攻　（博士前期課程）	15	30
	機械工学専攻　（博士前期課程）	35	70
	精密機械工学専攻　（博士前期課程）	25	50
	航空宇宙工学専攻　（博士前期課程）	25	50
	電気工学専攻　（博士前期課程）	35	70
	電子工学専攻　（博士前期課程）	35	70
	情報科学専攻　（博士前期課程）	15	30
	物質応用化学専攻　（博士前期課程）	40	80
	物理学専攻　（博士前期課程）	25	50
	数学専攻　（博士前期課程）	20	40
	地理学専攻　（博士前期課程）	20	40
	量子理工学専攻　（博士前期課程）	20	40
	土木工学専攻　（博士後期課程）	5	15
	交通システム工学専攻　（博士後期課程）	5	15
	建築学専攻　（博士後期課程）	5	15
	海洋建築工学専攻　（博士後期課程）	5	15
	まちづくり工学専攻　（博士後期課程）	3	9
	機械工学専攻　（博士後期課程）	4	12
	精密機械工学専攻　（博士後期課程）	3	9
	航空宇宙工学専攻　（博士後期課程）	3	9
	電気工学専攻　（博士後期課程）	5	15
	電子工学専攻　（博士後期課程）	5	15

	情報科学専攻（博士後期課程）	4	12
	物質応用化学専攻（博士後期課程）	7	21
	物理学専攻（博士後期課程）	5	15
	数学専攻（博士後期課程）	5	15
	地理学専攻（博士後期課程）	5	15
	量子理工学専攻（博士後期課程）	5	15
生産工学研究科	機械工学専攻（博士前期課程）	30	60
	電気電子工学専攻（博士前期課程）	20	40
	土木工学専攻（博士前期課程）	20	40
	建築工学専攻（博士前期課程）	20	40
	応用分子化学専攻（博士前期課程）	20	40
	マネジメント工学専攻（博士前期課程）	20	40
	数理情報工学専攻（博士前期課程）	10	20
	機械工学専攻（博士後期課程）	3	9
	電気電子工学専攻（博士後期課程）	3	9
	土木工学専攻（博士後期課程）	3	9
	建築工学専攻（博士後期課程）	3	9
	応用分子化学専攻（博士後期課程）	3	9
	マネジメント工学専攻（博士後期課程）	3	9
	数理情報工学専攻（博士後期課程）	3	9
工学研究科	土木工学専攻（博士前期課程）	20	40
	建築学専攻（博士前期課程）	20	40
	機械工学専攻（博士前期課程）	25	50
	電気電子工学専攻（博士前期課程）	20	40
	生命応用化学専攻（博士前期課程）	30	60
	情報工学専攻（博士前期課程）	25	50
	土木工学専攻（博士後期課程）	2	6
	建築学専攻（博士後期課程）	2	6
	機械工学専攻（博士後期課程）	2	6
	電気電子工学専攻（博士後期課程）	2	6
	生命応用化学専攻（博士後期課程）	2	6

	情報工学専攻（博士後期課程）	2	6
医学研究科	生理系（博士課程）	12	48
	病理系（博士課程）	6	24
	社会医学系（博士課程）	8	32
	内科系（博士課程）	16	64
	外科系（博士課程）	22	88
歯学研究科	歯学専攻（博士課程）	30	120
松戸歯学研究科	歯学専攻（博士課程）	30	120
生物資源科学研究科	生物資源生産科学専攻（博士前期課程）	27	54
	生物資源利用科学専攻（博士前期課程）	22	44
	応用生命科学専攻（博士前期課程）	22	44
	生物環境科学専攻（博士前期課程）	22	44
	生物資源経済学専攻（博士前期課程）	22	44
	生物資源生産科学専攻（博士後期課程）	6	18
	生物資源利用科学専攻（博士後期課程）	5	15
	応用生命科学専攻（博士後期課程）	5	15
	生物環境科学専攻（博士後期課程）	5	15
	生物資源経済学専攻（博士後期課程）	5	15
獣医学研究科	獣医学専攻（博士課程）	6	24
薬学研究科	薬学専攻（博士課程）	5	20
総合社会情報研究科	国際情報専攻（博士前期課程）	30	60
	文化情報専攻（博士前期課程）	30	60
	人間科学専攻（博士前期課程）	30	60
	総合社会情報専攻（博士後期課程）	9	27

専門職学位課程

法務研究科	法務専攻（専門職学位課程）	60	180

第５節　学年・学期及び休業日

第 13 条　学年は，毎年４月１日に始まり，翌年３月 31 日に終わる。

第 14 条　学期は，次のとおりとする。ただし，事情によって異なる場合がある。

前学期　４月１日から９月 30 日まで

後学期　10 月１日から３月 31 日まで

第 15 条　休業日は，次のとおりとする。ただし，休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。

①　日曜日

②　国民の祝日に関する法律に規定する休日

③　本学創立記念日（10 月４日）

④　春季休業　３月 11 日から３月 31 日まで

⑤　夏季休業　７月 11 日から９月 10 日まで

⑥　冬季休業　12 月 21 日から翌年１月 10 日まで

２　休業日の変更及び臨時の休業日については，そのつどこれを定める。

第６節　入学・在学・転部・転科・転籍・休学・復学・留学・退学及び除籍

第 16 条　入学の時期は，学年の始め又は学期の始めとする。

第 17 条　学部に入学できる者は，次の各号のいずれかに該当する資格を持ち，本大学の選抜試験に合格した者とする。

①　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

②　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

③　外国において学校教育による 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

④　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑤　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

⑥　文部科学大臣の指定した者

⑦　高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）

⑧　学校教育法第90条第２項の規定により大学に入学した者であって，本大学において，大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

⑨　本大学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達したもの

２　前項の規定にかかわらず，高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって，本大学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めるものであり，かつ，本大学の選抜試験に合格した者を入学させることができる。

第18条　入学を志願する者は，各学部所定の手続によって願い出るものとする。

第19条　入学の選抜試験に合格した者は，所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

第20条　修業年限とは，本大学の教育課程を修了するために必要な期間のことをいう。

２　在学年限とは，本大学において学生の身分を有することができる期間のことをいう。

３　修業年限は，最低４年とし，在学年限は，８年とする。

４　医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部の修業年限は，最低６年とし，在学年限は，12年とする。

５　前２項の規定にかかわらず，学生が職業を有している等の事情により，修業年限を超えて在学年限の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは，その計画的な履修を認めることができる。

６　第３項の規定にかかわらず，文部科学大臣の定めるところにより，本大学に３年以上在学した者（これに準ずる文部科学大臣の定める者を含む）が，卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には，その卒業を認めることができる。ただし，第21条第２項第１号から第４号の資格で編入学した場合は，この規定による卒業は認められない。

第21条　編入学とは，他の種類の学校を卒業した者が，教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大学に入学することをいう。ただし，大学を卒業した者又は大学に１年以上在学した者が，教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大学に入学する場合も編入学とする。

２　学部に編入学できる者は，次の各号のいずれかに該当する資格を持ち，本大学の編入学試験に合格した者とする。ただし，定員に余裕があり，かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り，選考の上編入学を許可することがある。

① 短期大学（専門職短期大学，外国の短期大学及び我が国における外国の短期大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（短期大学相当）日本校）を含む）を卒業した者

② 高等専門学校を卒業した者

③ 高等学校，中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

④ 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

⑤ 大学（専門職大学，外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（大学相当）日本校）を含む）を卒業した者

⑥ 大学（専門職大学，外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（大学相当）日本校）を含む）に１年以上在学し，編入学できる学部等が定める単位数を修得している者

3 編入学を願い出た者については,学部等の所定の手続によって願い出るものとする。

4 編入学の選抜試験に合格した者は，学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。

5 編入学の時期は，学年の始め又は学期の始めとする。

6 編入学の年次は，２年次又は３年次とする。

7 編入学者の在学年限は，許可された編入学年次に応じ，第 20 条第３項又は第４項に定める在学年限から編入学年次数を控除し，それに１を加えて得た年数とする。

8 編入学者は，編入学年次の教育課程によって履修するものとする。

9 編入学者の既修単位は，低年次配当科目を優先し，原則として２年次編入学者は，40 単位，３年次編入学者は，70 単位を基準とし，認定することができる。

10 通信教育部における編入学については，別に定める規程による。

第 22 条 転部とは，所属する学部とは異なる学部（通信教育部内を含む）へ異動することをいう。なお，法学部における第一部及び第二部間の異動についても転部とする。

2 転科とは，所属する学部の異なる学科へ異動することをいう。

3 転籍とは，通信教育課程を有する学部において，同一学部の通学課程と通信教育課程の間を異動することをいう。ただし，通学課程と通信教育課程の間で異なる学部への異動については，転部とする。

4 転部・転科及び転籍できる者は，次の各号に該当する資格を持つものとする。ただし，定員に余裕があり，かつ，在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り，選考

の上，許可することがある。

① 本大学に在学中の者で，転部・転科及び転籍できる学部等が定める単位数を修得しているもの

② 人物及び在学中の成績が妥当な者

5 転部・転科及び転籍を願い出た者については，学部等の所定の手続によって願い出るものとする。

6 転部・転科及び転籍の選考に合格した者は，学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。

7 転部・転科及び転籍の時期は，学年の始め又は学期の始めとする。

8 転部・転科及び転籍の年次は，２年次又は３年次とする。ただし，４年次への転籍（同一学科間）は，許可することができる。

9 転部・転科及び転籍した者の在学年限は，許可された転部・転科及び転籍年次に応じ，第 20 条第３項又は第４項に定める在学年限から転部・転科及び転籍が許可された年次数を控除し，それに１を加えて得た年数とする。

10 転部・転科及び転籍した者は，転部・転科及び転籍が許可された年次の教育課程によって履修するものとする。

11 転部・転科及び転籍した場合，既修の授業科目は，異動した課程の定める基準の範囲内において認定することができる。

12 通信教育部における転部・転科及び転籍については，別に定める規程による。

第 23 条 （削除）

第 24 条 （削除）

第 25 条 休学とは，病気その他やむを得ない事由により，３か月以上修学できない状態のことをいう。

2 復学とは，休学期間満了によって，再び修学することをいう。

3 休学しようとする者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で願い出て，その許可を得て原則として入学年度を除き，休学することができる。ただし，入学年度の後学期については，修学困難な事由の場合は認めることがある。

4 休学期間は，１学期又は１年とし，通算して在学年限の半数を超えることができない。

5 休学者は，その事由が解消された場合，保証人連署で願い出て，許可を得て復学することができる。

6　休学者は，学期の始めでなければ復学することができない。

7　休学期間は，在学年数に算入する。

第 26 条　（削除）

第 27 条　留学とは，本大学が教育上有益と認めたときは，休学することなく，外国の大学において，許可を得て一定期間修学することをいう。

2　留学の期間は，修業年数に算入する。

第 28 条　退学とは，在学の中途において在籍関係を解除することをいう。退学には，その手続により，次のものがある。

①　病気その他やむを得ない事由による，学生の意志に基づく願い出によるもの。ただし，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で退学願を提出して，許可を受けなければならない。

②　学生が死亡したことによる，保証人からの届出によるもの

③　第 30 条に基づく除籍によるもの

④　第 76 条及び第 77 条に基づく懲戒によるもの

2　第 36 条に基づく年度の ＧＰＡ が 1.50 未満で，修学指導の結果，改善が見込まれないと判断した場合は，退学勧告を行う。

第 29 条　再入学とは，病気その他やむを得ない事由によって退学した者が，当該学部等に再び入学することをいう。

2　病気その他やむを得ない事由によって退学した者が，その事由が解消し，当該学部等に再入学を志望したときは，退学前に在籍していた学科の定員に余裕があり，かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り，選考の上再入学を許可することがある。この場合には，既修の授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがある。

3　再入学できる者は，次の各号に該当するものとする。

①　本大学に原則として１年以上在学し，再入学しようとする学部等が定める単位数を修得している者

②　病気その他やむを得ない事由で退学した者

③　人物及び在学中の成績が妥当な者

4　除籍によって退学になった者については，事情勘案の上，前項に準じて再入学を認めることができる。

5　再入学の学科については，原則として退学時の学科とする。

6　再入学を願い出た者については，学部等の所定の手続によって願い出るものとする。

7　再入学の選考に合格した者は，学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。

8　再入学の時期は，学年の始め又は学期の始めとする。

9　再入学の年次は，退学時の学年次を原則とするが，修得単位数等の事情により年次を下げて許可することができる。また，学年末の退学者については，修得単位数等の事情により年次を上げて入学を許可することができる。

10　再入学者の在学年限は，許可された再入学年次に応じ，第20条第3項又は第4項に定める在学年限から再入学年次数を控除し，それに1を加えて得た年数とする。ただし，医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部においては，在学年限を定めることができる。

11　再入学者は，再入学年次の教育課程によって履修するものとする。ただし，学則変更等の事情により再入学前の入学年度の教育課程によることができる。

12　退学前の既修単位は認定する。ただし，教育課程等の変更により，退学前の既修単位が認定されないことがある。

13　通信教育部における再入学については，別に定める規程による。

第30条　除籍とは，学生の帰すべき事由により在籍関係を強制的に解除し，退学させることをいう。

2　次の各号のいずれかに該当する者は，除籍することができる。

①　故なくして学費の納付を怠った者

②　故なくして欠席が長期にわたる者

③　在学年限を超えた者

第31条　（削除）

第7節　履修規定

第32条　各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。また，教育上必要と認められる場合には，修得すべき単位の一部の修得について，これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。

①　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。

②　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で学部又は大学

院研究科が定める時間の授業をもって１単位とする。ただし，芸術学部における個人指導による実技の授業については 15 時間の授業をもって１単位とする。

③　講義，演習，実験，実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については，その組み合わせに応じ，前２号に規定する基準を考慮して学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，卒業制作等の授業科目については，これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第 32 条の２　前条に規定する講義，演習，実験，実習又は実技による授業は，文部科学大臣が別に定めるところによって，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第 33 条　教育職員の免許状を得ようとする者は，別に定める規定によって教職課程を履修しなければならない。

第 34 条　学業成績は，授業科目ごとに行う試験によって，これを定める。ただし，授業科目によっては，その他の方法で査定することができる。

２　試験には，平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

①　平常試験とは，当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。

②　定期試験とは，当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。

③　追試験とは，やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかった者のために行う試験のことをいう。

④　再試験とは，受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

３　追試験及び再試験は，当該学部において必要と認めたときに限り，これを行う。

第 35 条　修学についての所定の条件を備えていない者は，受験資格を失うことがある。

第 36 条　学業成績の判定は，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ及びＥの６種をもってこれを表し，Ｓ（100～90 点），Ａ（89～80 点），Ｂ（79～70 点），Ｃ（69～60 点），Ｄ（59 点以下），Ｅ（履修登録したが成績を示さなかったもの）をもって表し，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃを合格，Ｄ，Ｅを不合格とする。合格した授業科目については，所定の単位数が与えられる。

２　第１項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として，総合平均点（Grade Point Average，以下「ＧＰＡ」という）を用いることができる。

３　前項に定めるＧＰＡは，学業成績のうち，Ｓにつき４，Ａにつき３，Ｂにつき２，

Cにつき１，Ｄ及びＥにつき０をそれぞれ評価点として与え，各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を，総履修単位数（Ｐ又はＮとして表示された科目を除く）で除して算出する。ＧＰＡは，小数点以下第３位を四捨五入し，小数点以下第２位まで有効とする。

４　第１項の規定にかかわらず，履修登録後，所定の中止手続を取ったものはＰ，修得単位として認定になったものはＮと表示する。

５　ＧＰＡ算出の対象科目は，卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目としてＮと表示された科目を除く）とする。

６　ＧＰＡは，学期のＧＰＡ，年度のＧＰＡ及び入学時からの累積のＧＰＡとする。

７　通年科目は，学期のＧＰＡ算出の際には，後学期のＧＰＡに算入する。

８　授業科目を再履修した場合，累積のＧＰＡ算出の際には，直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし，以前の学業成績及び単位数は算入しない。

９　試験において不正行為を行った場合は，処分を受けた条件に基づき，評価をＥ，評価点はなしとして取り扱う。

第37条　各学部を卒業するために必要な最低単位数は，第２章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

２　学生が許可を受けて在籍する学部以外の学部で履修した授業科目の単位については，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

３　前項に定める授業科目の履修については，別に定める。

４　学生が許可を受けて他の大学，専門職大学，短期大学又は専門職短期大学で履修した授業科目の単位については，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

５　前項の規定は，学生が許可を受けて外国の大学又は短期大学に留学する場合，外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

６　学生が許可を受けて行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修は，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし，学部の定めるところにより単位を与えることができる。

７　学生が本大学に入学する前に大学，専門職大学，短期大学又は専門職短期大学にお

いて履修した授業科目について修得した単位については，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

8　学生が本大学に入学する前に行った第６項に規定する学修は，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし，学部の定めるところにより単位を与えることができる。

9　第２項，第４項，第５項及び第７項により修得したものとみなす単位並びに第６項及び第８項により与えることのできる単位は，合わせて 60 単位を超えない範囲で，卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第 37 条の２　第 32 条の２に規定する授業によって修得した単位は，60 単位を超えない範囲で，卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第８節　卒業及び学士の学位

第 38 条　第 20 条に定めた修業年限に達し，所定の授業科目及び単位を修得し，卒業した者に学士の学位を授与する。

第 39 条　前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

学部名	学科名	専攻分野の名称
法学部	法律学科 政治経済学科 新聞学科 経営法学科 公共政策学科	法学
文理学部	哲学科 史学科 国文学科 中国語中国文化学科 英文学科 ドイツ文学科	文学
	社会学科	社会学
	社会福祉学科	社会福祉学
	教育学科	教育学
	体育学科	体育学
	心理学科	心理学
	地理学科	地理学
	地球科学科 数学科 情報科学科	理学

	物理学科	
	生命科学科	
	化学科	
経済学部	経済学科	経済学
	産業経営学科	
	金融公共経済学科	
商学部	商業学科	商学
	経営学科	
	会計学科	
芸術学部	写真学科	芸術
	映画学科	
	美術学科	
	音楽学科	
	文芸学科	
	演劇学科	
	放送学科	
	デザイン学科	
国際関係学部	国際総合政策学科	国際関係
	国際教養学科	
危機管理学部	危機管理学科	危機管理学
スポーツ科学部	競技スポーツ学科	体育学
理工学部	土木工学科	工学
	交通システム工学科	
	建築学科	
	海洋建築工学科	
	まちづくり工学科	
	機械工学科	
	精密機械工学科	
	航空宇宙工学科	
	電気工学科	
	電子工学科	
	応用情報工学科	
	物質応用化学科	
	物理学科	理学
	数学科	
生産工学部	機械工学科	工学
	電気電子工学科	
	土木工学科	

	建築工学科 応用分子化学科 マネジメント工学科 数理情報工学科 環境安全工学科 創生デザイン学科	
工学部	土木工学科 建築学科 機械工学科 電気電子工学科 生命応用化学科 情報工学科	工学
医学部	医学科	医学
歯学部	歯学科	歯学
松戸歯学部	歯学科	歯学
生物資源科学部	バイオサイエンス学科 動物学科 海洋生物学科 森林学科 環境学科 アグリサイエンス学科 食品開発学科 食品ビジネス学科 国際共生学科 獣医保健看護学科 生命農学科 生命化学科 動物資源科学科 森林資源科学科 海洋生物資源科学科 生物環境工学科 食品生命学科 国際地域開発学科 応用生物科学科 くらしの生物学科	生物資源学
	獣医学科	獣医学
薬学部	薬学科	薬学

第９節　学費及び貸給費

第 40 条　授業料その他所定の学費は，別表２の定めるところにより納付するものとする。

２　編入学・再入学・転部・転科及び転籍の学費の取扱いについては，別に定める。

３　休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取扱いについては，別に定める。

第 41 条　授業料を分納しようとする者は，事由を述べた書面により，保証人連署で願い出るものとする。

第 42 条　証明手数料等については別表３の定めるところにより納付するものとする。

第 43 条　既納の学費は，いかなる理由があっても返還しない。

第 44 条　停学を命ぜられた学生は，停学期間中も授業料を納付しなければならない。

第 45 条　学業人物ともに優秀な学生であって，学費支弁の方法のない者には，学費を減免し，又は貸与・給付することがある。

２　減免・貸給費については，別に定める。

第 10 節　委託生及び外国人留学生

第 46 条　国又は公共団体から，一定の在学期間と履修科目とを定めて，入学を願い出た者に対しては，選考の上，委託生として入学を許可することがある。

第 47 条　委託生の入学資格については，第 17 条の規定を準用する。

第 48 条　委託生は，その履修した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には，願い出によって単位取得証明書を与えることができる。

第 49 条　委託生として４年以上在学し，所属学部における所定の単位を修得した者には，学士の学位を授与する。

第 50 条　委託生の授業料その他本大学に納付するために必要な学費は，委託者から納付するものとする。

第 51 条　外国人留学生の入学･編入学及び再入学については，第６節の規定を準用する。ただし，特別に選考を行い入学を許可することができる。

２　外国人留学生については，学修の必要に応じて第２章に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という）を開設することができる。

３　前項に定める日本語科目等の授業科目については，当該学部の教授会がこれを審議する。

４　帰国生についても第１項及び第２項の規定を準用することができる。

第 52 条　委託生，外国人留学生に関して，本節各条に規定しない事項については，学部

学生に関する規定を準用する。

第11節　科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び研究生

第53条　学部の授業科目中の１科目又は数科目の履修を希望する者に対して，科目等履修生として入学を許可することがある。

２　科目等履修生の出願手続等については，別に定める。

第54条　科目等履修生は，履修した授業科目について，試験を受けることができる。試験に合格した者には，所定の単位を与えることができる。

第55条　学部の授業科目中の１科目又は数科目の聴講を希望する者に対して，聴講生として入学を許可することがある。

２　聴講生の出願手続等については，別に定める。

第56条　国内又は国外の他の大学，専門職大学，短期大学又は専門職短期大学の学生が学部の授業科目の履修を希望するときは，特別聴講学生として入学を許可することがある。

２　特別聴講学生の出願手続等については，別に定める。

第57条　各学部において，特殊な事項に関する研究に従事しようとする者に対しては，研究生として入学を許可することがある。

２　研究生は，指導教員の個人指導を受けて研究に従事するものとする。

第58条　研究生として入学することができる者は，その学部において選考の上，適当と認められた者に限る。

第59条　研究生として入学を志願する者は，所定の出願書類に研究しようとする事項を記載して，学期の始めに願い出るものとする。

第60条　研究生の在学年限は，１年とする。ただし，事情によって期間の延長を願い出ることができる。

第61条　研究生は，指導教員及び担任教員の承諾を経て，学部の講義・演習及び実験等に出席することができる。

第62条　研究生として，相当の成績を示したと認められる者には研究証明書を与える。

第63条　研究生に関して，本節各条に規定しない事項については，学部学生に関する規定を準用する。

第12節　教職課程

第64条　本大学に，教職課程を置く。

2　中学校及び高等学校の教育職員の免許状を必要とする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び同法施行規則に基づき，本大学に設置する教職課程について，所定の単位を修得しなければならない。

3　教科及び教職に関する科目（各教科の指導法に関する科目，教諭の教育の基礎的理解に関する科目等）は，次のとおりである。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
				必修を含め，中学校36単位以上，高等学校28単位以上を履修しなければならない。ただし，高等学校（英語）は32単位以上を履修しなければならない。	
国語科教育法Ⅰ	2	2		各教科教育法については，当該の1教科教育法を必修するものとする。	
国語科教育法Ⅱ	2	2			
国語科教育法Ⅲ	2		2	各教科教育法Ⅲ・Ⅳは，中学校に必修。	
国語科教育法Ⅳ	2		2	ただし，中学校（社会）の場合は，社会科・地理歴史科教育法Ⅰ，社会科・地理歴史科教育法Ⅱ，社会科・公民科教育法Ⅰ及び社会科・公民科教育法Ⅱを必修とする。また，高等学校（地理歴史）の場合は，社会科・地理歴史科教育法Ⅰ及び社会科・地理歴史科教育法Ⅱを必修とする。また，高等学校（公民）の場合は，社会科・公民科教育法Ⅰ及び社会科・公民科教育法Ⅱを必修とする。	
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2		2		
社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2		2		
社会科・公民科教育法Ⅰ	2		2		
社会科・公民科教育法Ⅱ	2		2		
数学科教育法Ⅰ	2	2			
数学科教育法Ⅱ	2	2			
数学科教育法Ⅲ	2		2		
数学科教育法Ⅳ	2		2		
理科教育法Ⅰ	2	2			
理科教育法Ⅱ	2	2			
理科教育法Ⅲ	2		2		
理科教育法Ⅳ	2		2		
音楽科教育法Ⅰ	2	2			

音楽科教育法Ⅱ	2	2				
音楽科教育法Ⅲ	2		2			
音楽科教育法Ⅳ	2		2			
美術科教育法Ⅰ	2	2				
美術科教育法Ⅱ	2	2				
美術科教育法Ⅲ	2		2			
美術科教育法Ⅳ	2		2			
保健体育科教育法Ⅰ	2	2				
保健体育科教育法Ⅱ	2	2				
保健体育科教育法Ⅲ	2		2			
保健体育科教育法Ⅳ	2		2			
英語科教育法Ⅰ	2	2				
英語科教育法Ⅱ	2	2				
英語科教育法Ⅲ	2	2				
英語科教育法Ⅳ	2	2				
中国語科教育法Ⅰ	2	2				
中国語科教育法Ⅱ	2	2				
中国語科教育法Ⅲ	2		2			
中国語科教育法Ⅳ	2		2			
ドイツ語科教育法Ⅰ	2	2				
ドイツ語科教育法Ⅱ	2	2				
ドイツ語科教育法Ⅲ	2		2			
ドイツ語科教育法Ⅳ	2		2			
宗教科教育法Ⅰ	2	2				
宗教科教育法Ⅱ	2	2				
宗教科教育法Ⅲ	2		2			
宗教科教育法Ⅳ	2		2			
技術科教育法Ⅰ	2	2				
技術科教育法Ⅱ	2	2				
技術科教育法Ⅲ	2	2				

技術科教育法Ⅳ	2	2			
工芸科教育法Ⅰ	2	2			
工芸科教育法Ⅱ	2	2			
書道科教育法Ⅰ	2	2			
書道科教育法Ⅱ	2	2			
情報科教育法Ⅰ	2	2			
情報科教育法Ⅱ	2	2			
農業科教育法Ⅰ	2	2			
農業科教育法Ⅱ	2	2			
工業科教育法Ⅰ	2	2			
工業科教育法Ⅱ	2	2			
商業科教育法Ⅰ	2	2			
商業科教育法Ⅱ	2	2			
水産科教育法Ⅰ	2	2			
水産科教育法Ⅱ	2	2			
教育原論	2		2	1科目選択必修	
教育の理念と歴史	2		2		
現代教職論	2	2			
教育制度論	2		2	1科目選択必修	
教育の社会学	2		2		
発達と学習	2		2	1科目選択必修	
教育心理学	2		2		
特別支援教育概論	1	1			
教育課程論	2	2			
道徳教育の理論と方法※	2		2	中学校必修	※高等学校は，「大学が独自に設定する科目」の選択科目。
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	2			
教育方法・ICT活用論	2		2	1科目選択必修	
教授学習論	2		2		
生徒指導・進路指導論	2	2			
教育相談	2	2			

教育実習Ⅰ	4		4	1科目選択必修。ただし，中学校は教育実習Ⅰ必修。	
教育実習Ⅱ	2		2		
教育実習事前・事後指導	1	1			
教職実践演習(中・高)	2	2			

第65条　本大学の学部において，取得できる教員免許状は，次の表に掲げるとおりとする。

1　中学校一種免許状及び高等学校一種免許状

第一部

学部名	学科名	免許教科の種類	
		中学校一種免許状	高等学校一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史　公民
	政治経済学科	社会	地理歴史　公民
	新聞学科	社会	地理歴史　公民
	経営法学科	社会	公民
	公共政策学科	社会	地理歴史　公民
文理学部	哲学科	社会　宗教	公民　宗教
	史学科	社会	地理歴史
	国文学科	国語	国語　書道
	中国語中国文化学科	国語　中国語	国語　中国語
	英文学科	英語	英語
	ドイツ文学科	ドイツ語	ドイツ語
	社会学科	社会	公民
	教育学科	社会	公民
	体育学科	保健体育	保健体育
	地理学科	社会　理科	地理歴史　理科
	地球科学科	理科	理科
	数学科	数学	数学
	情報科学科	数学	数学　情報
	物理学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科

	化学科	理科	理科
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民 商業
	産業経営学科	社会	公民 商業
商学部	商業学科		商業
	経営学科		商業
	会計学科		商業
芸術学部	美術学科	美術	美術 工芸
	音楽学科	音楽	音楽
	文芸学科	国語	国語
	デザイン学科	美術	美術 工芸
国際関係学部	国際教養学科	英語	英語
理工学部	土木工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	交通システム工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	建築学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	海洋建築工学科	技術	工業
	まちづくり工学科		工業
	機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	精密機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	航空宇宙工学科	技術	工業
	電気工学科	数学 理科 技術	数学 理科 情報 工業
	電子工学科	技術	情報 工業
	応用情報工学科	数学	数学 情報
	物質応用化学科	理科 技術	理科 工業
	物理学科	数学 理科	数学 理科 情報
	数学科	数学	数学 情報
生産工学部	機械工学科	理科	理科 工業
	電気電子工学科	理科	理科 工業
	土木工学科	理科	理科 工業
	建築工学科	理科	理科 工業
	応用分子化学科	理科	理科 工業
	マネジメント工学科		工業
	数理情報工学科	数学	数学 情報

	環境安全工学科	理科	理科　工業
	創生デザイン学科	理科	理科　工業
工学部	土木工学科	技術	工業
	建築学科	技術	工業
	機械工学科	技術	工業
	電気電子工学科	技術	情報　工業
	生命応用化学科	理科	理科
	情報工学科	数学	数学　情報
生物資源科学部	バイオサイエンス学科	理科	理科　農業
	動物学科	理科	理科
	海洋生物学科	理科	理科　水産
	森林学科	理科	理科　農業
	環境学科	理科	理科
	アグリサイエンス学科	理科	理科　農業
	食品開発学科	理科	理科
	食品ビジネス学科	社会	公民　農業
	国際共生学科	社会	地理歴史　公民
	獣医保健看護学科	理科	理科
	獣医学科	理科	理科

第二部

法学部	法律学科	社会	地理歴史　公民

2　特別支援学校教諭一種免許状

学部名	学科名	免許状の特別支援教育領域
文理学部	教育学科	知的障害者　肢体不自由者　病弱者

第66条　前条の免許状は，所属学部によってその授業科目を限定されることなく，所定の単位の修得によってこれを授与されるものとする。

第67条　所定の単位の修得によって，２種以上の免許状を受けることができる。この場合，同一授業科目についての修得単位は相互の流用が認められる。

第68条　授業科目の種類によっては，教職課程によって修得した単位の若干を，学部において修得すべき単位数の中に含めることができる。

第69条　本大学に，２年以上在学して所定の単位を修得した者には，中学校教諭二種免許状が授与される。

第70条　本大学に，４年以上在学して学士の学位を有し，所定の単位を修得した者には，基礎資格及び修得単位に応じて中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状が授与される。

第71条　普通免許状を有する者で，本大学の所定の単位を修得した者は，基礎資格及び修得単位に応じて特別支援学校教諭一種免許状の授与を受けることができる。

第72条　本大学大学院に，２年以上在学して修士の学位を有し，所定の単位を修得した者には，中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状が授与される。

２　本大学大学院において，取得できる中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は，次の表に掲げるとおりとする。

研究科名	専攻名	免許教科の種類	
		中学校専修免許状	高等学校専修免許状
法学研究科	公法学専攻	社会	公民
	私法学専攻	社会	公民
	政治学専攻	社会	公民
新聞学研究科	新聞学専攻	社会	公民
文学研究科	哲学専攻	社会	公民
	史学専攻	社会	地理歴史
	国文学専攻	国語	国語
	中国学専攻	国語	国語
	英文学専攻	英語	英語
	ドイツ文学専攻	ドイツ語	ドイツ語
	社会学専攻	社会	公民
	教育学専攻	社会　保健体育	公民　保健体育
総合基礎科学研究科	地球情報数理科学専攻	数学　理科	数学　理科　情報
	相関理化学専攻	理科	理科
経済学研究科	経済学専攻	社会	公民　商業

商学研究科	商学専攻		商業
	経営学専攻		商業
	会計学専攻		商業
芸術学研究科	文芸学専攻	国語	国語
	造形芸術専攻	美術	美術　工芸
	音楽芸術専攻	音楽	音楽
理工学研究科	土木工学専攻		工業
	交通システム工学専攻		工業
	建築学専攻		工業
	海洋建築工学専攻		工業
	機械工学専攻	技術	工業
	精密機械工学専攻	技術	工業
	航空宇宙工学専攻	技術	工業
	電気工学専攻	技術	工業
	電子工学専攻	技術	情報　工業
	情報科学専攻		情報
	物質応用化学専攻	理科	理科　工業
	物理学専攻	理科	理科
	数学専攻	数学	数学
	地理学専攻	理科　社会	理科　地理歴史
	量子理工学専攻	理科	理科
生産工学研究科	機械工学専攻	理科	理科
	電気電子工学専攻	理科	理科
	土木工学専攻		工業
	建築工学専攻		工業
	応用分子化学専攻	理科	理科
	マネジメント工学専攻		工業
	数理情報工学専攻	数学	数学
工学研究科	土木工学専攻		工業
	建築学専攻		工業
	機械工学専攻	技術	工業
	電気電子工学専攻	技術	工業

	生命応用化学専攻	理科	理科
	情報工学専攻	数学	数学
生物資源科学研究科	生物資源生産科学専攻	理科	理科
	生物資源利用科学専攻	理科	理科
	応用生命科学専攻	理科	理科
	生物環境科学専攻	理科	理科
	生物資源経済学専攻	社会	公民

第73条　（削除）

第13節　通信教育

第74条　本大学に，通信教育の課程を置く。

2　通信教育に関する規程は，別に定める。

第14節　賞罰

第75条　人物及び学業成績が優秀な者には，授賞することがある。

2　授賞に関する規定は，別に定める。

第76条　学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し，又は学生としての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第77条　懲戒は，退学・停学及び訓告の３種とする。

2　前項の退学は，次の各号のいずれかに該当する者について行う。

①　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

②　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

③　正当の理由がなくて出席常でない者

④　大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

3　停学とは，一定期間，授業の受講及び施設設備の利用等を禁止し，その他の課外活動等についても禁止することをいう。

4　訓告とは，文書で戒めることをいう。

5　懲戒の手続に関する規定は，別に定める。

第15節　寄宿舎

第78条　寄宿舎に関する規定は，別に定める。

第79条～第93条（略）

第15節　生物資源科学部

第94条の１　生物資源科学部における各学科（バイオサイエンス学科，動物学科，海洋生物学科，森林学科，環境学科，アグリサイエンス学科，食品開発学科，食品ビジネス学科，国際共生学科，獣医保健看護学科，獣医学科）の授業科目及びその単位数並びに履修方法は，次のとおりである。卒業に必要な総単位数は，科目区分ごとに履修方法に定めた単位数（学芸員課程科目を除く）を含め，総計124単位以上を，ただし獣医学科については184単位以上を修得しなければならない。

１　全学共通教育科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
自主創造の基礎	2		2		
日本を考える	2		2		

２　教養教育科目（各学科共通）

全学共通教育科目及び教養教育科目のうちから必修科目を含めて，30単位以上（獣医保健看護学科及び獣医学科は24単位以上）を修得しなければならない。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
言語系科目					
英語ⅠA	1	1		バイオサイエンス学科は基礎化学，基礎生物学，データサイエンスの基礎，動物学科は基礎生物学，環境学科は基礎化学，基礎生物学，アグリサイエンス学科は基礎化学，基礎生物学，獣医保健看護学科は基礎生物学，総合生物学，獣医学科は基礎生物学，総合生物学を必修とする。 言語系科目のうち，外国人留学生は母語を履修することはできない。英語を母語とする外国人留学生は，英語ⅠA，英語ⅠB，英語ⅡA，英語ⅡB，英語ⅢA，英語ⅢB，英語ⅣA，英語ⅣBを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。また，日本語Ⅰ，日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。	
英語ⅠB	1	1			
英語ⅡA	1	1			
英語ⅡB	1	1			
英語ⅢA	1	1			
英語ⅢB	1	1			
英語ⅣA	1	1			
英語ⅣB	1	1			
初級ドイツ語文法A	1		1		
初級ドイツ語文法B	1		1		
初級ドイツ語講読A	1		1		
初級ドイツ語講読B	1		1		
初級ドイツ語会話A	1		1		
初級ドイツ語会話B	1		1		

中級ドイツ語講読 A	1		1	
中級ドイツ語講読 B	1		1	
検定ドイツ語 A	1		1	
検定ドイツ語 B	1		1	
初級フランス語文法A	1		1	国際共生学科においては，言語系科目のうち，英語以外の外国語の中から一つ選択し，初級文法Ａ・初級文法Ｂ及び初級会話Ａ・初級会話Ｂの4単位を修得しなければならない。
初級フランス語文法B	1		1	
初級フランス語会話A	1		1	
初級フランス語会話B	1		1	
初級スペイン語文法A	1		1	
初級スペイン語文法B	1		1	
初級スペイン語会話A	1		1	
初級スペイン語会話B	1		1	
初級中国語文法 A	1		1	
初級中国語文法 B	1		1	
初級中国語会話 A	1		1	
初級中国語会話 B	1		1	
中級中国語文法	1		1	
中級中国語会話	1		1	
初級韓国語文法 A	1		1	
初級韓国語文法 B	1		1	
初級韓国語会話 A	1		1	
初級韓国語会話 B	1		1	
日本語 I	1		1	
日本語 II	1		1	
人文･社会系科目				
日本語表現の基礎	2		2	
日本の文学	2		2	
哲学入門	2		2	
哲学の現在	2		2	
倫理学入門	2		2	
倫理学の現在	2		2	
心理学入門	2		2	
行動心理学	2		2	

個性の心理学	2		2				
文化人類学入門	2		2				
環境の文化人類学	2		2				
比較文化論	2		2				
比較芸術論	2		2				
法学入門	2		2				
日本国憲法	2		2				
社会学入門	2		2				
政治学入門	2		2				
政治と現代社会	2		2				
経済学入門	2		2				
経済と現代社会	2		2				
地理学入門	2		2				
歴史学入門	2		2				
社会学の現在	2		2				
現代社会と福祉	2		2				
世界の歴史	2		2				
日本の歴史	2		2				
地理学の現在	2		2				
自然系科目							
物理学入門	2		2				
基礎力学	2		2				
基礎化学	2		2				
基礎生物学	2		2				
基礎地球科学	2		2				
統計学入門	2		2				
推計学入門	2		2				
解析学	2		2				
線形代数	2		2				
物理学演習	1		1				
総合生物学	2		2				
総合化学	2		2				

総合地球科学	2		2		
健康・スポーツ系科目					
スポーツ実技Ⅰ	1	1			
スポーツ実技Ⅱ	1		1		
スポーツ実技Ⅲ	1		1		
スポーツ実技Ⅳ	1		1		
スポーツ科学	2		2		
総合系科目					
データサイエンスの基礎	2		2		
情報科学	2		2		
科学史	2		2		
科学技術と社会	2		2		
地球環境を考える	2		2		
生命倫理	2		2		
ボランティア論	1		1		

3　基礎専門科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
海外フィールド実習	1		1		

4　専門教育科目

基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，94単位以上（獣医学科は160単位以上，獣医保健看護学科は100単位以上）を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目を修得した者については，20単位を超えない範囲で所属学科の専門教育科目の選択科目を修得したものとみなす。

1　バイオサイエンス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門基礎領域					
アクティブラーニング・PBL科目					
バイオサイエンス入門	2	2			

バイオサイエンス体験	2	2			
バイオサイエンス演習Ⅰ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅱ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅲ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅳ	1		1		
バイオサイエンス英語Ⅰ	1		1		
バイオサイエンス英語Ⅱ	1		1		
バイオ英語プレゼンテーションⅠ	1		1		
バイオ英語プレゼンテーションⅡ	1		1		
専門共通コア科目					
細胞生物学	2	2		バイオサイエンス解析法Ⅰ バイオサイエンス解析法Ⅱ バイオサイエンス解析法Ⅲ のうちから2単位を選択必修とする。	
有機化学	2	2			
分子生物学	2	2			
バイオサイエンス概論	2	2			
微生物学	2	2			
生物の有機化学	2	2			
ゲノム生物学	2	2			
生命とバイオの倫理	2	2			
分析化学	2		2		
生体分子の構造解析	2		2		
AIと生命情報科学	2		2		
バイオサイエンス解析法Ⅰ	2		2		
バイオサイエンス解析法Ⅱ	2		2		
バイオサイエンス解析法Ⅲ	2		2		
バイオインフォマティクス	2		2		
分子間相互作用学	2		2		
生物統計解析学	2		2		
革新的バイオ産業の創出	2		2		
食品衛生学	2		2		
専門科目					

栄養科学	2	2		
分子栄養学	2	2		
タンパク質と酵素の科学	2	2		
ケミカルバイオロジー	2	2		
ＤＮＡテクノロジー	2	2		
植物の細胞生理	2	2		
微生物生理学	2	2		
病態生化学	2	2		
バイオサイエンス研究Ⅰ	3	3		
バイオサイエンス研究Ⅱ	3	3		
実験系科目				
栄養と健康科学実験Ⅰ	1		1	「栄養と健康科学実験Ⅰ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅰ，微生物と植物実験Ⅰ」，「栄養と健康科学実験Ⅱ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅱ，微生物と植物実験Ⅱ」，「栄養と健康科学実験Ⅲ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅲ，微生物と植物実験Ⅲ」から，各1単位を選択必修とする。
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅰ	1		1	
微生物と植物実験Ⅰ	1		1	
栄養と健康科学実験Ⅱ	1		1	
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅱ	1		1	
微生物と植物実験Ⅱ	1		1	
栄養と健康科学実験Ⅲ	1		1	
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅲ	1		1	
微生物と植物実験Ⅲ	1		1	
専門応用領域				
栄養・健康科学系科目				
栄養と健康科学	2		2	
人体と生命の科学	2		2	
食と健康科学	2		2	
代謝生化学	2		2	
栄養機能学	2		2	
アレルギーの科学	2		2	
サプリメントと薬理学	2		2	
スポーツと健康科学	2		2	

インダストリーと栄養	2		2		
発酵・ケミカルバイオロジー系科目					
バイオマスを知る	2		2		
分子創生の科学	2		2		
発酵科学	2		2		
バイオマスを活かす	2		2		
生理活性物質の科学	2		2		
バイオマス発酵学	2		2		
創薬科学	2		2		
天然物化学	2		2		
サスティナブルイノベーション	2		2		
医薬と香粧品化学	2		2		
微生物・植物系科目					
微生物遺伝学	2		2		
遺伝子とゲノムの情報学	2		2		
植物細胞分子生物学	2		2		
微生物機能利用学	2		2		
インダストリーと微生物	2		2		
植物と微生物の相互作用	2		2		
オミクス解析学	2		2		
エピジェネティクスとゲノム編集	2		2		
植物免疫学	2		2		
植物のシグナル伝達	2		2		
スマートセルインダストリー	2		2		
植物の機能と制御	2		2		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		

物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
職業指導	4		4		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅱ　動物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基盤領域				フィールド調査実習 動物自然史博物学実習 動物学応用実験 保全生物学実習 のうちから1単位以上を選択必修とする。	
最新の動物学	2	2			
動物の多様性	2	2			
動物細胞生物学	2	2			
生化学	2	2			
動物遺伝学	2	2			
動物生理学	2	2			
動物形態学	2	2			
動物系統分類学	2	2			
動物学基礎実験Ⅰ	1	1			
分子生物学	2	2			
哺乳類・鳥類学	2	2			
昆虫体系学	2	2			
動物学基礎実験Ⅱ	1	1			
両生類・爬虫類学	2	2			
基礎栄養学	2	2			
動物組織学	2	2			

動物科学論文講読	1	1				
生物統計学	2	2				
動物の福祉と倫理	2	2				
応用領域						
動物生命史系科目						
動物行動学	2		2			
動物生態学	2		2			
フィールド生態調査法	2		2			
動物自然史博物学	2		2			
応用昆虫学	2		2			
海岸生物学	2		2			
フィールド調査実習	1		1			
動物学史	2		2			
古動物学	2		2			
動物自然史博物学実習	1		1			
動物地理学	2		2			
動物生命科学系科目						
動物発生学	2		2			
免疫生物学	2		2			
微生物学	2		2			
実験動物学	2		2			
生殖生物学	2		2			
応用免疫学	2		2			
動物学応用実験	1		1			
神経生物学	2		2			
生物情報学	2		2			
再生生物学	2		2			
時間生物学	2		2			
動物バイオテクノロジー	2		2			
動物の保全と環境系科目						
環境科学	2		2			

外来動物管理学	2		2		
野生動物管理学	2		2		
保全生物学	2		2		
動物園飼育管理学	2		2		
動物と社会	2		2		
都市動物学	2		2		
動物心理学	2		2		
保全生物学実習	1		1		
動物の採餌と飼料	2		2		
野生動物と飼育動物の感染症学	2		2		
展開領域					
動物学特別講義	1		1		
動物学演習	1	1			
動物学研究Ⅰ	3	3			
動物学研究Ⅱ	3	3			
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅲ　海洋生物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門共通系科目				生物機能化学実験 水族生理学実験 漁業生産システム学実験 魚病学実験 水産利用学実験 食品衛生学実験 海洋環境学実験 水族生態学実験 のうちから4科目以上を修得すること。	
海洋生物学概論	2	2			
海洋基礎実習Ⅰ	1	1			
海洋基礎実習Ⅱ	1	1			
水族館論	2		2		
海洋生物展示学	2		2		
海洋基礎生物	2		2		
海洋基礎化学	2		2		
海洋基礎物理	2		2		
小型船舶操縦法実習	1		1		
海洋生物展示学実習	1		1		
海洋生物学演習Ⅰ	1	1			
海洋生物学演習Ⅱ	1	1			
海洋生物学実習Ⅰ	1	1			
海洋生物学実習Ⅱ	1	1			
海洋特別講義	2		2		
水産経済学	2		2		
バイオインフォマティクス論	2		2		
水族統計学	2		2		
学外研修	1		1		
海洋生物学研究Ⅰ	3	3			
海洋生物学研究Ⅱ	3	3			
生命科学系科目					
魚類学	2	2			
無脊椎動物学	2	2			
海生ほ乳類学	2		2		
軟骨魚類学	2		2		
生化学	2	2			
生物機能化学実験	1		1		

水族生理学	2		2		
細胞組織学	2		2		
生物機能化学	2		2		
水族生理学実験	1		1		
水族免疫学	2		2		
栄養生理学	2		2		
生産科学系科目					
増養殖学	2	2			
魚病学	2		2		
水族発生学	2		2		
漁業生産システム学実験	1		1		
漁業生産システム学	2		2		
魚病学実験	1		1		
行動生態学	2		2		
水産資源学	2		2		
水族環境学	2		2		
魚類繁殖行動学	2		2		
魚群行動学	2		2		
遺伝育種学	2		2		
利用科学系科目					
水産利用学	2	2			
水産利用学実験	1		1		
食品衛生学実験	1		1		
水産食品化学	2		2		
生物有機化学	2		2		
海洋微生物学	2		2		
食品微生物学	2		2		
分析化学	2		2		
食品加工学	2		2		
ケミカルバイオロジー	2		2		
食品衛生学	2		2		
環境科学系科目					

海洋環境学	2	2			
プランクトン学	2		2		
藻類学	2		2		
海洋環境学実験	1		1		
深海生物学	2		2		
底生生物学	2		2		
マリントキシン	2		2		
水族生態学実験	1		1		
水族生態学	2		2		
海洋環境化学	2		2		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
職業指導	4		4		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅳ　森林学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
共通科目				選択科目の実験，実習，演習のうち，「森林生物・機能関連科目」，「森林共生関連科目」，「バイオマス利用関連科目」	
森林概論Ⅰ	2	2			
森林概論Ⅱ	2	2			

実践森林学	2	2		の3つの中から1つ以上の関連科目群について2科目以上を修得すること。
森林基礎実習	1	1		
森林フィールド実習	1		1	
森林特別演習Ⅰ	1	1		
森林特別演習Ⅱ	1	1		
森林特別演習Ⅲ	1	1		
森林特別演習Ⅳ	1	1		
森林学研究Ⅰ	3	3		
森林学研究Ⅱ	3	3		
森林科学英語	2		2	
森林生物・機能関連科目				
森林植物学	2	2		
森林生態学	2	2		
森林微生物学	2	2		
森林基礎環境学	2	2		
森林育成学	2	2		
森林気象学	2	2		
森林環境修復学	2		2	
森林基礎工学	2		2	
森林土壌学	2		2	
森林動物学	2		2	
森林昆虫学	2		2	
森林生態学実習	1		1	
森林微生物学実習	1		1	
森林病理学	2		2	
森林生物多様性論	2		2	
森林環境保全学	2		2	
森林災害論	2		2	
きのこ学	2		2	
森林育成学実習	1		1	

森林気象学演習	1		1			
森林生物多様性実習	1		1			
森林微生物学実験	1		1			
森林環境保全学演習	1		1			
樹木・木材保存学	2		2			
樹木医概論	2		2			
森林共生関連科目						
森林管理学	2	2				
森林政策学	2	2				
森林計測学	2		2			
森林環境教育論	2		2			
森林バイオマス生産学	2		2			
森林機械学	2		2			
森林測量学	2		2			
森林計測学実習	1		1			
森林測量学実習	1		1			
森林アメニティ論	2		2			
森林ツーリズム論	2		2			
森林ビジネス論	2		2			
森林空間情報学	2		2			
森林空間情報学実習	1		1			
バイオマス利用関連科目						
森林基礎材料学	2	2				
森林基礎成分学	2	2				
木造住宅論	2	2				
森林資源材料学	2		2			
森林資源成分学	2		2			
バイオマス資源利用学	2		2			
森林資源材料学実験	1		1			
森林資源成分学実験	1		1			
インテリアプランニング概論	2		2			
木材構造利用学	2		2			
バイオマス資源利用学実験	1		1			

木材計測学実験	1		1		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
職業指導	4		4		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅴ　環境学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
共通・基礎分野科目				「地理情報リモートセンシング実習Ⅰ，地理情報リモートセンシング実習Ⅱ」，「水環境学実験Ⅰ，水環境学実験Ⅱ」，「土環境学実験Ⅰ，土環境学実験Ⅱ」，「指標生物学実習Ⅰ，指標生物学実習Ⅱ」，「環境の材料と構造実験Ⅰ，環境の材料と構造実験Ⅱ」，「緑地環境学実習Ⅰ，緑地環境学実習Ⅱ」，「環境アセスメント調査Ⅰ，環境アセスメント調査Ⅱ」の中から2単位を選択必修とする。	
環境の法則	2	2			
環境学概論	2	2			
生態学	2	2			
環境学基礎実験Ⅰ	1	1			
環境学基礎実験Ⅱ	1	1			
自然物質循環学	2	2			
環境計測学	2	2			
環境アセスメント	2	2			
環境計測学実習	1	1			
陸域環境学	2		2		
環境修復学	2	2			

環境学演習Ⅰ	1	1				
環境学演習Ⅱ	1	1				
環境統計学	2		2			
環境のリスクマネジメント	2		2			
専門英語	2		2			
再生可能エネルギー学	2		2			
環境学特別講義	2		2			
環境学演習Ⅲ	1	1				
環境学演習Ⅳ	1	1				
環境学研究Ⅰ	3	3				
環境学研究Ⅱ	3	3				
環境技術者倫理	2		2			
地球環境系科目						
地球環境学	2	2				
大気環境学	2	2				
気象学	2		2			
地球温暖化対策	2		2			
地理情報リモートセンシング実習Ⅰ	1		1			
地理情報リモートセンシング実習Ⅱ	1		1			
自然環境系科目						
植生学	2	2				
生物圏水循環学	2	2				
保全生物学	2	2				
土壌科学分析	2	2				
水質分析法	2	2				
指標生物学	2	2				
土の力学	2		2			
水の流れの科学	2		2			
陸域保全学	2		2			
土壌循環学	2		2			

地域再生学	2		2			
水圏環境学	2		2			
河川生態学	2		2			
環境微生物学	2		2			
湿地環境学	2		2			
水圏環境工学	2		2			
河川環境の防災	2		2			
水圏生物学	2		2			
水環境学実験Ⅰ	1		1			
水環境学実験Ⅱ	1		1			
土環境学実験Ⅰ	1		1			
土環境学実験Ⅱ	1		1			
指標生物学実習Ⅰ	1		1			
指標生物学実習Ⅱ	1		1			
都市環境系科目						
都市環境学	2	2				
緑地環境学	2	2				
環境計画学	2		2			
環境の材料と構造	2		2			
ランドスケープデザイン	2		2			
都市防災学	2		2			
環境保全の施工と管理	2		2			
環境の材料と構造実験Ⅰ	1		1			
環境の材料と構造実験Ⅱ	1		1			
緑地環境学実習Ⅰ	1		1			
緑地環境学実習Ⅱ	1		1			
環境アセスメント調査Ⅰ	1		1			
環境アセスメント調査Ⅱ	1		1			
広域基礎科目						
生物資源科学概論	2		2			
生物学概論Ⅰ	2		2			

生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅵ　アグリサイエンス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門共通科目					
専門共通コア科目					
アグリサイエンス概論	2	2		動物性食資源コース，植物性食資源コース，フラワーサイエンスコースを置き，動物性食資源コースでは動物科学基礎実験を，植物性食資源コースとフラワーサイエンスコースでは植物科学基礎実験を選択必修とする。	
細胞・発生学	2	2			
生化学	2	2			
農業のすがた	2	2			
分子生物学	2	2			
遺伝学入門	2	2			
ブランド創生学	2	2		動物性食資源コースでは産業動物品種論，動物生理学，飼料作物学，産業動物管理学，動物遺伝育種学，動物繁殖学，栄養・飼養学，動物バイオテクノロジー，産業動物飼育計画論，動物科学応用実験Ⅰ，動物科学応用実験Ⅱを，植物性食資源コースでは植物形態学，植物生態学，植物生理学，作物学Ⅰ，野菜園	
アグリサイエンステクノロジー	2	2			
アグリビジネス・マーケティング論	2	2			
産業動物品種論	2		2		
動物形態学	2		2		
動物生理学	2		2		
植物形態学	2		2		
植物生態学	2		2		

植物生理学	2		2	芸学，植物遺伝育種学，植物病理学，応用昆虫学，作物学Ⅱ，果樹園芸学，土壌・植物栄養学，植物科学応用実験Ⅰ，植物科学応用実験Ⅱを，フラワーサイエンスコースでは植物形態学，植物生態学，植物生理学，フラワー園芸学Ⅰ，色彩・造形学，フラワー装飾学，フラワー園芸学Ⅱ，花壇庭園装飾学，フラワーサイエンス実験Ⅰ，フラワーサイエンス実験Ⅱを選択必修とする。
作物栽培学	2		2	
農業と環境	2		2	
持続型農業論	2		2	
花文化論	2		2	
飼料作物学	2		2	
生命と技術の倫理	2	2		
生物統計学入門	2	2		
施設園芸学	2		2	
ポストハーベストテクノロジー	2		2	
アグリブランド生産学	2	2		
地域・ブランド農畜産物論	2	2		
作物分子生理学	2		2	
園芸分子生理学	2		2	
フラワー分子生理学	2		2	
草地と放牧	2		2	
スマート農業論	2		2	
アグリサイエンス特別講義	2		2	
実験・実習・演習科目				
ブランド創生フィールドワーク	1	1		
アグリサイエンス基礎実験	1	1		
アグリサイエンス実習Ⅰ	1	1		
アグリサイエンス実習Ⅱ	1	1		
アグリサイエンス演習Ⅰ	1	1		
アグリサイエンス演習Ⅱ	1	1		
アグリサイエンス演習Ⅲ	1	1		
アグリサイエンス演習Ⅳ	1	1		
アグリサイエンス研究Ⅰ	3	3		
アグリサイエンス研究Ⅱ	3	3		
動物性食資源系科目				
専門科目				
産業動物管理学	2		2	

動物遺伝育種学	2		2			
動物繁殖学	2		2			
栄養・飼養学	2		2			
動物バイオテクノロジー	2		2			
産業動物飼育計画論	2		2			
実験・実習系科目						
動物科学基礎実験	1		1			
動物科学応用実験Ⅰ	1		1			
動物科学応用実験Ⅱ	1		1			
植物性食資源系科目						
専門科目						
作物学Ⅰ	2		2			
野菜園芸学	2		2			
植物遺伝育種学	2		2			
植物病理学	2		2			
応用昆虫学	2		2			
作物学Ⅱ	2		2			
果樹園芸学	2		2			
土壌・植物栄養学	2		2			
実験・実習系科目						
植物科学基礎実験	1		1			
植物科学応用実験Ⅰ	1		1			
植物科学応用実験Ⅱ	1		1			
フラワーサイエンス系科目						
専門科目						
フラワー園芸学Ⅰ	2		2			
色彩・造形学	2		2			
フラワー装飾学	2		2			
フラワー園芸学Ⅱ	2		2			
花壇庭園装飾学	2		2			
実験・実習系科目						
フラワーサイエンス実験Ⅰ	1		1			

フラワーサイエンス実験Ⅱ	1		1		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
職業指導	4		4		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅶ 食品開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
食品の開発基盤系科目				食品開発インターンシップ 食品衛生監視員養成講座 研究者・技術者養成講座 TOEIC対策講座 のうちから1科目を選択必修とする。	
食品開発概論	2	2			
食品開発基礎理論Ⅰ	2	2			
食品開発基礎理論Ⅱ	2	2			
食品開発基礎実験	1	1			
食品科学	2	2			
食品開発の歴史	2	2			
キャリアデザインⅠ	2	2			
食品開発演習Ⅰ	1	1			
キャリアデザインⅡ	2	2			
食品開発演習Ⅱ	1	1			
食品開発実習Ⅰ	1	1			
食品開発実習Ⅱ	1	1			

食品開発インターンシップ	2		2			
食品衛生監視員養成講座	2		2			
研究者・技術者養成講座	2		2			
TOEIC 対策講座	2		2			
フューチャーフードサイエンス	2		2			
食品行政	2		2			
実験統計学	2		2			
バイオインフォマティクス	2		2			
食品開発研究Ⅰ	3	3				
食品開発研究Ⅱ	3	3				
食品の創造開発系科目						
食品素材科学	2		2			
食品資源利用学	2	2				
食品資源利用学実験	1	1				
食品加工学	2	2				
食品加工学実験	1	1				
乳製品科学	2		2			
発酵食品学	2		2			
冷凍食品学	2		2			
食品テクスチャー理論	2		2			
おいしさの科学	2		2			
食品製造プロセス学	2		2			
調理科学	2		2			
宇宙食開発学	2		2			
ブレッド&スイーツサイエンス	2		2			
においの科学	2		2			
食品界面科学	2		2			
食品品質管理論	2		2			
食肉の科学	2		2			
食とバイオテクノロジー	2		2			
食品と健康系科目						
食品機能化学	2	2				

食品機能化学実験	1	1				
食品栄養学	2	2				
食品栄養学実験	1	1				
ライフステージと食	2		2			
スポーツ食品科学	2		2			
新食素材開発論	2		2			
食とアレルギー	2		2			
サプリメントの科学	2		2			
食品成分化学	2		2			
食と脳科学	2		2			
食品と安全管理系科目						
食品衛生学	2	2				
食品衛生学実験	1	1				
食品分析学	2	2				
食品分析学実験	1	1				
食と公衆衛生	2		2			
食品安全学総論	2		2			
食品添加物論	2		2			
分析機器概論	2		2			
食品微生物学	2		2			
食品パッケージの科学	2		2			
食保存の科学	2		2			
広域基礎科目						
生物資源科学概論	2		2			
生物学概論Ⅰ	2		2			
生物学概論Ⅱ	2		2			
物理学概論Ⅰ	2		2			
物理学概論Ⅱ	2		2			
化学概論Ⅰ	2		2			
化学概論Ⅱ	2		2			
生物学実験	2		2			
化学実験	2		2			

物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅷ　食品ビジネス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門共通系科目					
食品ビジネス基礎演習Ⅰ	1	1			
食品ビジネス基礎演習Ⅱ	1	1			
食品ビジネス学入門	2	2			
調査論	2	2			
マクロ経済学	2		2		
食と農の経済史	2		2		
ミクロ経済学	2		2		
メディアリテラシー	2		2		
フィールドリサーチⅠ	1	1			
フィールドリサーチⅡ	1	1			
食品経済統計学	2		2		
海外フードシステム現地研修	2		2		
食農教育実習	2		2		
産業組織論	2		2		
簿記概論	2		2		
食品ビジネス演習Ⅰ	1	1			
食品ビジネス演習Ⅱ	1	1			
計量経済学	2		2		
金融論	2		2		
食品ビジネス演習Ⅲ	1	1			
食品ビジネス演習Ⅳ	1	1			
食品ビジネス研究Ⅰ	3	3			
食品ビジネス研究Ⅱ	3	3			

食料資源・環境系科目						
食の経済学	2	2				
現代農業論	2	2				
資源と環境の経済学	2	2				
食料貿易論	2		2			
農村資源の保全と活用	2		2			
食料政策	2		2			
世界のフードシステム	2	2				
アグリビジネス論	2	2				
地域経済論	2		2			
地域食品資源論	2		2			
食品産業系科目						
食品企業経営学	2	2				
食品産業論	2	2				
流通経済論	2		2			
食品ビジネス戦略論	2		2			
地域マネジメント論	2		2			
食品マーケティング論	2	2				
組織マネジメント論	2		2			
経営分析論	2		2			
食品関係法	2		2			
食品ビジネス特別講義	2		2			
フードサービス論	2		2			
地域食品企業論	2		2			
食品企業と社会的責任	2		2			
食品デザイン論	2		2			
食文化・食品科学系科目						
食生活論	2		2			
食品栄養学	2		2			
調理学	2		2			
食と素材	2		2			
スローフード論	2		2			
食品加工論	2		2			

フードコーディネート論	2		2		
食品の官能評価・鑑別論	2		2		
調理学実習	2		2		
食と農の社会学	2	2			
日本と世界の食文化	2		2		
フードツーリズム論	2		2		
食物学実験	1		1		
フードコーディネート実習	1		1		
フードスペシャリスト論	2		2		
食品衛生管理学	2		2		
食品安全論	2		2		
食品の企画と開発	2		2		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
世界史概説Ⅰ	2		2		
世界史概説Ⅱ	2		2		
法律学概論（国際法を含む）	4		4		
社会学概論Ⅰ	2		2		
社会学概論Ⅱ	2		2		
職業指導	4		4		
日本史概説	2		2		
人文地理学	2		2		
自然地理学	2		2		
地誌学概論	2		2		
倫理学概論Ⅰ	2		2		
倫理学概論Ⅱ	2		2		
宗教社会学Ⅰ	2		2		
宗教社会学Ⅱ	2		2		

Ⅸ　国際共生学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門基盤領域				選択科目のうち，専門基	

国際共生学系科目				盤領域の国際共生コミュニケーション系科目から4単位以上，国際共生データ分析系科目から3単位以上をそれぞれ修得した上で，専門基盤領域の選択科目から33単位以上修得すること。また，専門応用領域から26単位以上修得すること。	
国際共生学入門	2	2			
国際共生特別講義	2		2		
グローバルスタディーズⅠ	2		2		
グローバルスタディーズⅡ	2		2		
グローバルスタディーズⅢ	2		2		
グローバルスタディーズⅣ	2		2		
グローバルスタディーズⅤ	2		2		
グローバルスタディーズⅥ	2		2		
国際共生コミュニケーション系科目					
共生の英語Ⅰ	1	1		国際共生コミュニケーション系科目の中国語講読，中国語会話，中国語コミュニケーション，中国語作文を履修するためには，教養教育科目言語系科目の初級中国語文法A，初級中国語文法B，初級中国語会話A，初級中国語会話Bをすべて修得しなければならない。	
共生の英語Ⅱ	1	1			
Hospitality English	1		1		
TOEIC EnglishⅠ	1		1		
中国語講読	1		1		
中国語会話	1		1		
スペイン語講読	1		1		
スペイン語会話	1		1		
Advanced English Reading	1		1		
TOEIC EnglishⅡ	1		1	国際共生コミュニケーション系科目のスペイン語講読，スペイン語会話，スペイン語コミュニケーション，スペイン語作文を履修するためには，教養教育科目言語系科目の初級スペイン語文法A，初級スペイン語文法B，初級スペイン語会話A，初級スペイン語会話Bをすべて修得しなければならない。	
中国語コミュニケーション	1		1		
中国語作文	1		1		
スペイン語コミュニケーション	1		1		
スペイン語作文	1		1		
Business English Communication	1		1		
Advanced English Writing	1		1		
Advanced English Presentation	1		1		
国際共生データ分析系科目					
国際共生情報学	2		2		
国際共生情報学演習	1		1		
生物資源データサイエンス	2		2		

生物資源データサイエンス演習	1		1		
生物資源学系科目					
国際植物資源論	2		2		
国際動物資源論	2		2		
国際バイオ資源論	2		2		
国際環境資源論	2		2		
国際生物資源法規	2		2		
国際共生文化・社会系科目					
世界の飲食文化	2		2		
世界の居住文化	2		2		
歴史と国際共生	2		2		
文化地理学	2		2		
多文化共生論	2		2		
宗教と国際共生	2		2		
産業地理学	2		2		
共生の社会学	2		2		
共生の文化人類学	2		2		
専門応用領域					
国際共生環境系科目					
国際関係論	2		2		
国際政治論	2		2		
環境生態学	2		2		
国際協力論	2		2		
自然環境保全論	2		2		
地球温暖化対策	2		2		
NGO・NPO論	2		2		
環境計画学	2		2		
地球環境と持続可能な開発	2		2		
国際地域共生デザイン論	2		2		
国際共生経済・ビジネス系科目					
ビジネスコミュニケーション論	2		2		
生物資源マーケティング論	2		2		
国際貿易論	2		2		

生物資源ビジネス論	2		2		
生物資源流通論	2		2		
国際経営戦略論	2		2		
国際人材マネジメント論	2		2		
起業と共生	2		2		
国際地域ブランド戦略論	2		2		
国際ツーリズム論	2		2		
総合展開領域					
国際共生フィールドワーク系科目					
国際共生フィールドワーク入門	2	2			
国際共生社会調査論	2	2			
国内フィールドワークⅠ	1		1		
国内フィールドワークⅡ	1		1		
海外フィールドワークⅠ	1		1		
海外フィールドワークⅡ	1		1		
国際共生課題研究・卒業研究系科目					
国際共生学ゼミナールⅠ	1	1			
国際共生学ゼミナールⅡ	1	1			
国際共生学研究Ⅰ	3	3			
国際共生学研究Ⅱ	3	3			
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
世界史概説Ⅰ	2		2		
世界史概説Ⅱ	2		2		
法律学概論（国際法を含む）	4		4		
社会学概論Ⅰ	2		2		
社会学概論Ⅱ	2		2		
日本史概説	2		2		
人文地理学	2		2		
自然地理学	2		2		
地誌学概論	2		2		
倫理学概論Ⅰ	2		2		
倫理学概論Ⅱ	2		2		

宗教社会学Ⅰ	2		2		
宗教社会学Ⅱ	2		2		

X　獣医保健看護学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基礎動物学					
分子生物学	2	2			
獣医倫理・動物福祉論	2	2			
動物形態機能学Ⅰ	2	2			
動物形態機能学Ⅱ	2	2			
動物生理化学	2	2			
動物免疫学	2	2			
動物繁殖学	2	2			
動物品種論	2	2			
動物栄養学	2	2			
動物行動学	2	2			
実験動物学	2	2			
獣医事法規	2	2			
基礎動物看護学					
獣医保健看護学概論	2	2			
動物微生物学	2	2			
動物薬理学	2	2			
動物病理学	2	2			
動物寄生虫病学	2	2			
公衆衛生学	2	2			
人獣共通感染症学	2	2			
愛護・適正飼養学					
愛玩動物学	2	2			
動物生活環境学	2	2			
人と動物の関係学	2	2			

	動物医療コミュニケーション論	2	2				
	適正飼養指導論Ⅰ	2	2				
	適正飼養指導論Ⅱ	2	2				
	ペット関連産業概論	2	2				
	臨床動物看護学						
	動物内科看護学Ⅰ	2	2				
	動物内科看護学Ⅱ	2	2				
	動物臨床検査学	2	2				
	動物臨床栄養学	2	2				
	動物外科看護学Ⅰ	2	2				
	動物内科看護学Ⅲ	2	2				
	動物臨床薬理学	2	2				
	動物臨床看護学総論	2	2				
	動物臨床看護学各論Ⅰ	2	2				
	動物臨床看護学各論Ⅱ	2	2				
	動物臨床看護学各論Ⅲ	2	2				
	動物外科看護学Ⅱ	2	2				
	動物臨床看護学各論Ⅳ	2	2				
	実習						
	動物形態機能学実習	1	1				
	動物内科看護学実習Ⅰ	1	1				
	動物内科看護学実習Ⅱ	1	1				
	動物内科看護学実習Ⅲ	1	1				
	動物外科看護学実習Ⅰ	1	1				
	動物愛護・適正飼養実習	1	1				
	動物臨床検査学実習	1	1				
	動物外科看護学実習Ⅱ	1	1				
	動物看護学総合実習Ⅰ	1	1				
	動物看護学総合実習Ⅱ	2	2				
	展開領域						

動物保健看護学演習Ⅰ	1	1			
動物保健看護学演習Ⅱ	1	1			
動物保健看護学演習Ⅲ	1	1			
獣医保健看護学研究Ⅰ	2	2			
獣医保健看護学研究Ⅱ	2	2			
応用領域					
外来動物管理学	2		2		
動物生態学	2		2		
野生動物管理学	2		2		
保全生物学	2		2		
再生生物学	2		2		
都市動物学	2		2		
動物心理学	2		2		
動物地理学	2		2		
動物園飼育管理学	2		2		
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

XI　獣医学科					
授　業　科　目	単位数	必　修 単位数	選　択 単位数	履　修　方　法	備　考
導入・基礎獣医学					
獣　医　学　概　論	2	2			
獣医倫理・動物福祉学	2	2			
獣　医　解　剖　学　A	2	2			
獣　医　解　剖　学　B	2	2			
獣　医　生　理　学　A	2	2			
獣　医　生　理　学　B	2	2			
獣　医　生　化　学　A	2	2			
獣　医　生　化　学　B	2	2			
動　物　遺　伝　育　種　学	2	2			
獣医組織・発生学	2	2			
獣　医　薬　理　学　A	2	2			
獣　医　薬　理　学　B	2	2			
動　物　行　動　学	2	2			
実　験　動　物　学　A	2	2			
実　験　動　物　学　B	1	1			
放　射　線　生　物　学	1	1			
獣　医　事　法　規	2	2			
病態獣医学					
獣　医　病　理　学　A	2	2			
獣　医　病　理　学　B	2	2			
獣　医　病　理　学　C	1	1			
獣　医　免　疫　学	2	2			
獣医微生物学　A	2	2			
獣医微生物学　B	2	2			
獣医寄生虫病学　A	2	2			
獣医寄生虫病学　B	2	2			

動物感染症学A	2	2				
動物感染症学B	2	2				
応用獣医学						
魚病学A	2	2				
魚病学B	1	1				
獣医公衆衛生学総論	1	1				
食品衛生学	2	2				
毒性学	2	2				
獣医疫学	1	1				
動物衛生学	2	2				
環境衛生学	1	1				
人獣共通感染症学	2	2				
野生動物学	1	1				
臨床獣医学						
獣医内科学総論	1	1				
獣医臨床病理学	2	2				
獣医内分泌代謝病学	1	1				
獣医血液病学	1	1				
獣医皮膚病学	1	1				
獣医外科学/手術学総論	2	2				
獣医臨床繁殖学A	2	2				
獣医臨床繁殖学B	2	2				
獣医呼吸循環器病学	2	2				
獣医消化器病学	2	2				
獣医臨床行動学	1	1				
獣医麻酔学	1	1				
獣医軟部組織外科学	2	2				
獣医運動器病学	1	1				
獣医臨床腫瘍学	1	1				

獣医画像診断学 A	2	2				
獣医画像診断学 B	1	1				
産業動物臨床学 A	1	1				
産業動物臨床学 B	2	2				
馬臨床学	1	1				
獣医臨床薬理学	1	1				
獣医腎泌尿器病学	1	1				
獣医臨床栄養学	1	1				
獣医神経病学	1	1				
獣医眼科学	1	1				
実習						
獣医解剖学実習 A	1	1				
獣医解剖学実習 B	1	1				
獣医組織学実習	1	1				
獣医生理学実習	1	1				
獣医生化学実習	1	1				
獣医微生物学実習	1	1				
獣医薬理学実習	1	1				
実験動物学実習	1	1				
獣医病理学実習 A	1	1				
獣医病理学実習 B	1	1				
獣医寄生虫病学実習	1	1				
毒性学実習	1	1				
動物感染症学実習	1	1				
魚病学実習	1	1				
動物衛生学実習	1	1				
獣医公衆衛生学実習	1	1				
食品衛生学実習	1	1				
小動物内科学実習 A	1	1				

小動物内科学実習 B	1	1				
小動物外科学実習 A	1	1				
小動物外科学実習 B	1	1				
獣医臨床繁殖学実習	1	1				
獣医画像診断学実習	1	1				
産業動物臨床実習	1	1				
総合参加型臨床実習	4	4				
展開領域						
獣医事特別演習	1	1				
獣医学外演習	1	1				
専門獣医学演習 A	1	1				
専門獣医学演習 B	1	1				
総合獣医学 A	6	6				
総合獣医学 B	6	6				
獣医学研究 I	3	3				
獣医学研究 II	3	3				
選択						
分子生物学	2		2			
生物統計学	2		2			
動物品種論	2		2			
牧場実習	1		1			
獣医臨床解剖学	2		2			
エキゾチックアニマル学	2		2			
獣医応用免疫学	2		2			
獣医再生医療学	2		2			
動物園・水族館演習	1		1			
広域基礎科目						
生物資源科学概論	2		2			
生物学概論 I	2		2			

生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

5　学芸員課程科目

各学科設置の専門教育科目の他に許可を得て次の科目を修得することができる。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
博物館概論	2	2			
博物館教育論	2	2			
生涯学習概論	2	2			
博物館情報・メディア論	2	2			
博物館実習Ⅰ	1	1			
博物館実習Ⅱ	2	2			
博物館経営論	2	2			
博物館資料論	2	2			
博物館資料保存論	2	2			
博物館展示論	2	2			

第94条の２　生物資源科学部における各学科（生命農学科，生命化学科，動物資源科学科，森林資源科学科，海洋生物資源科学科，生物環境工学科，食品生命学科，国際地域開発学科，応用生物科学科，くらしの生物学科）の授業科目及びその単位数並びに履修方法は，次のとおりである。卒業に必要な総単位数は履修方法に定める単位を含めて，合計124単位以上を修得しなければならない。

１　全学共通教育科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
自主創造の基礎	2		2		
日本を考える	2		2		

２　教養教育科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
言語系科目					
英語Ⅰ	2	2		言語系科目，人文・社会系科目，自然系科目，健康・スポーツ系科目，総合系科目から30単位以上を修得しなければならない。生命農学科は基礎生物学，総合生物学，生命化学科は基礎生物学，基礎化学，化学特論，生命倫理，動物資源科学科は基礎生物学，生物環境工学科は解析学，基礎力学，くらしの生物学科は基礎生物学，総合生物学を必修とする。 言語系科目のうち，外国人留学生は母国語を履修することはできない。英語を母国語とする外国人留学生は，英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。また，日本語Ⅰ，日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。	
英語Ⅱ	2	2			
英語Ⅲ	2	2			
英語Ⅳ	2	2			
初級ドイツ語文法	2		2		
初級ドイツ語講読	2		2		
初級ドイツ語会話	2		2		
中級ドイツ語講読	2		2		
検定ドイツ語	2		2		
初級フランス語文法	2		2		
初級フランス語会話	2		2		
初級スペイン語文法	2		2		
初級スペイン語会話	2		2		
初級中国語文法	2		2		
初級中国語会話	2		2		
中級中国語文法	1		1		
中級中国語会話	1		1		

初級韓国語文法	2		2			
初級韓国語会話	2		2			
日本語Ⅰ	2		2			
日本語Ⅱ	2		2			
人文・社会系科目						
日本語表現の基礎	2		2			
日本の文学	2		2			
哲学入門	2		2			
哲学の現在	2		2			
倫理学入門	2		2			
倫理学の現在	2		2			
心理学入門	2		2			
行動心理学	2		2			
個性の心理学	2		2			
文化人類学入門	2		2			
環境の文化人類学	2		2			
比較文化論	2		2			
比較芸術論	2		2			
法学入門	2		2			
日本国憲法	2		2			
社会学入門	2		2			
政治学入門	2		2			
政治と現代社会	2		2			
経済学入門	2		2			
経済と現代社会	2		2			
地理学入門	2		2			
歴史学入門	2		2			
社会学の現在	2		2			
現代社会と福祉	2		2			
歴史と現代社会	2		2			
地理学の現在	2		2			
自然系科目						
物理学入門	2		2			

基礎力学	2		2			
基礎化学	2		2			
基礎生物学	2		2			
基礎地球科学	2		2			
統計学入門	2		2			
推計学入門	2		2			
解析学	2		2			
線形代数	2		2			
物理学演習	1		1			
総合生物学	2		2			
生物学実験	1		1			
化学特論	2		2			
化学実験	1		1			
総合地球科学	2		2			
健康・スポーツ系科目						
スポーツ実技Ⅰ	1	1				
スポーツ実技Ⅱ	1		1			
スポーツ実技Ⅲ	1		1			
スポーツ実技Ⅳ	1		1			
スポーツ科学	2		2			
総合系科目						
アルゴリズム入門	1		1			
ネットワーク入門	1		1			
情報科学	2		2			
科学史	2		2			
科学技術と社会	2		2			
地球環境を考える	2		2			
生命倫理	2		2			
ボランティア論	1		1			
教養講座	2		2			

3　基礎専門科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物資源科学フィールド実習	1		1		
海外フィールド実習	1		1		
生物資源科学概論	1		1		

4　専門教育科目

全学共通教育科目，基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，94単位以上を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目及び教職課程科目・学芸員課程科目を修得した者については，30単位を超えない範囲で所属学科の専門教育選択科目を修得したものとみなす。

Ⅰ　生命農学科					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
植物生理学	2	2			
植物生態学	2	2			
食料生産科学	2		2		
作物生産学Ⅰ	2	2			
作物生産学Ⅱ	2		2		
果樹園芸学	2	2			
果樹分子生理学	2		2		
野菜園芸学	2	2			
野菜生理機能科学	2		2		
花き園芸学	2	2			
花き分子生理学	2		2		
植物育種学	2	2			
土壌科学	2		2		
植物栄養学	2		2		
植物病理学	2	2			
応用昆虫学	2	2			
農薬科学	2		2		

造園緑地学	2	2				
生命農学実験Ⅱ	2	2				
生命農学実習Ⅰ	1	1				
生命農学実習Ⅱ	2	2				
植物環境調節学	2		2			
園芸デザイン演習	2		2			
植物遺伝工学	2		2			
植物医科学	2		2			
害虫制御論	2		2			
実験情報解析演習	2		2			
緑地環境計画学	2		2			
農と緑のまちづくり論	2		2			
景観生態学	2		2			
生命農学演習Ⅰ	2	2				
生命農学演習Ⅱ	2	2				
基礎細胞学	2		2			
植物遺伝学	2	2				
植物病原微生物学	2		2			
生命農学実験Ⅰ	2	2				
ランドスケープ演習	2		2			
自然保護政策論	2		2			
緑地工学	2		2			
都市緑化技術論	2		2			
芝草学	2		2			
分子生物学	2		2			
学外実習	1		1			
生命農学概論	2	2				
植物形態・分類学	2		2			
生物化学	2		2			
分子植物成長制御論	2		2			

分子植物育種学	2		2		
昆虫ゲノム医科学	2		2		
生命農学特別講義	2		2		
エコロジカル・デザイン論	2		2		
園芸福祉論	2		2		
農学原論	2		2		
アグリバイオテクノロジー入門	2		2		
植物生命科学	2	2			
作物生理機能科学	2		2		
アグリバイオテクノロジー実験法	2		2		
アグリバイオインフォマティクス論	2		2		
生命農学実験Ⅲ	2	2			
卒業研究	6	6			

Ⅱ　**生命化学科**

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生命化学基礎実験	2	2			
生物化学Ⅰ	2	2			
生物化学Ⅱ	2	2			
有機化学	2	2			
生物有機化学	2	2			
物理化学	2	2			
土壌科学	2	2			
植物栄養学	2	2			
酵素化学	2	2			
微生物学	2	2			
栄養化学	2	2			
栄養生化学	2	2			
食品化学	2	2			
分子生物学	2	2			

農薬科学	2		2		
食品機能化学	2	2			
生物有機化学実験	2	2			
微生物学実験	2	2			
栄養生理化学実験	2	2			
食品化学実験	2	2			
発酵化学実験	2	2			
土壌化学実験	2	2			
植物栄養生理学実験	2	2			
食品保蔵学	2	2			
植物病理学	2		2		
応用生物化学	2		2		
肥料動態学	2		2		
環境微生物学	2	2			
生物化学工学	2		2		
飼料学	2		2		
微生物生化学	2	2			
食品衛生学	2	2			
無機化学	2	2			
環境化学	2	2			
植物細胞科学	2		2		
動物細胞科学	2		2		
生命化学概論	2	2			
生命化学フィールド実習	2		2		
植物生理学	2	2			
発酵化学	2	2			
動物生理学	2	2			
作物学	2		2		
土壌生産化学	2		2		
生物統計学	2		2		
バイオインフォマティクス	2		2		

サイエンスプレゼンテーション	2		2		
専門基礎英語	2		2		
専門英語Ⅰ	2		2		
専門英語Ⅱ	2		2		
生命化学実験法Ⅰ	2	2			
生命化学実験法Ⅱ	2	2			
生命化学実験法Ⅲ	2	2			
生命化学実験法Ⅳ	2	2			
卒業研究	6	6			

Ⅲ　動物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
動物遺伝学	2	2			
生物統計学	2	2			
基礎生化学	2	2			
動物資源科学概論	2	2			
動物生理学	2	2			
動物形態学	2	2			
動物生理学実験	1		1		
動物形態学実習	1		1		
動物育種学	2	2			
資源動物論	2		2		
動物育種学実習	1		1		
動物生殖学	2	2			
動物生殖学実験	1		1		
動物応用栄養学	2	2			
動物栄養学実験	1		1		
栄養生理学	2	2			
飼料資源学	2	2			
草地・飼料作物学	2		2		
草地・飼料資源学実習	1		1		

微生物学	2	2	
微生物学実習	1		1
動物衛生学	2	2	
ミルク科学	2	2	
肉と卵の科学	2	2	
動物性食品機能学	2		2
動物性食品科学実験	1		1
食品衛生学	2		2
動物資源経済学	2	2	
動物資源経済学演習	1		1
畜産経営学	2	2	
情報処理論	2		2
動物関連法規・政策	2		2
畜産マーケティング論	2		2
動物資源科学演習	1	1	
牧場実習	1		1
細胞・発生生物学	2		2
実験動物学	2		2
保全生物学	2		2
生命工学	2		2
免疫生物学	2		2
産乳科学	2		2
産肉科学	2		2
家禽学	2		2
動物疾病学	2		2
野生動物学	2	2	
動物園学	2		2
動物行動学	2		2
アニマルセラピー・動物福祉論	2		2
化学概論	2	2	
生殖生理学	2	2	
分子生物学	2		2

伴侶動物学実習	1		1		
野生動物学実習	1		1		
動物資源科学インターンシップ	1		1		
動物生態学	2		2		
動物心理学	2		2		
伴侶動物学	2	2			
犬と猫の科学	2		2		
化学実験の基礎	2		2		
動物資源科学実験	1	1			
卒業研究	6	6			

Ⅳ　森林資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
森林資源科学概論Ⅰ（生物環境系）	2	2			
森林資源科学概論Ⅱ（資源系）	2	2			
森林資源科学実習	2	2			
樹木学	2	2			
森林統計学	2		2		
森林計測学	2		2		
森林計画学	2	2			
造林学	2		2		
造林学実習	1		1		
山地保全学	2		2		
山地保全学演習	2		2		
自然災害論	2	2			
森林利用学	2	2			
森林利用学実習	1		1		
木材加工学	2		2		
木材計測学実験	1		1		
森林土木学	2		2		
森林測量学	2		2		

森林測量学実習	1		1			
森林航測学実習	1		1			
森林生態学	2	2				
森林生態学実習	1		1			
森林GIS	2		2			
木材物理学	2	2				
木材物理学実験	1		1			
環境緑化工学	2		2			
森林土壌科学	2	2				
森林資源化学	2	2				
森林資源化学実験	1		1			
材料としての木材	2		2			
木質材料学	2		2			
森林計測学実習	1		1			
バイオマス資源利用学	2		2			
バイオマス資源利用学実験	1		1			
森林・木材・環境ビジネス論	2		2			
森林基礎力学	2		2			
森林水文気象学演習	2		2			
風致造園学	2		2			
建設材料学	2		2			
樹病学	2		2			
森林動物学	2	2				
森林生物多様性実習	1		1			
森林昆虫学	2	2				
森林生物多様性実験	1		1			
森林水文気象学	2	2				
風致造園学実習	1		1			
建築計画論	2		2			
建築設計製図Ⅰ	2		2			
建築施工論	2		2			
建築法規	2		2			

木造住宅論	2	2			
森林リモートセンシング	2		2		
森林レクリエーション	2		2		
専門英語	2		2		
森林微生物学	2	2			
森林環境教育論	2		2		
森林資源科学インターンシップ	2		2		
木材防腐防虫学	2		2		
特別演習Ⅰ	2	2			
特別演習Ⅱ	2	2			
実践森林資源科学	2		2		
夏季演習林実習	1		1		
冬季演習林実習	1		1		
森林海外実習	2		2		
建築設計製図Ⅱ	2		2		
CAD製図	1		1		
森林生物の多様性と進化	2		2		
森林圏基礎科学	2		2		
森林政策学	2		2		
森林機械学	2		2		
木造建築構法	2		2		
建築史・保存活用論	2		2		
森林基礎有機化学	2		2		
卒業研究	6	6			

Ⅴ　海洋生物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
海洋環境学	2	2		海洋生物資源広域コースと海洋生物資源応用コースを置く。 海洋生物資源広域コースは実験科目4科目4単位以上を修得しなければならない。海洋生物資源応用コースは 水族館論 細胞生物学	
生物海洋学	2		2		
基礎有機化学	2		2		
無脊椎動物学	2	2			
魚類学	2	2			

海生ほ乳類学	2		2	技術者の倫理入門 特別講義
生化学	2	2		インターンシップ／学外研修 海洋環境化学
生理生化学	2		2	海洋環境保全・修復学 フードビジネス論
生物機能化学実験	1		1	海洋法規
魚類生態学	2		2	を必修とし， 海洋環境分野
水族生態学実験	1		1	生物海洋学 プランクトン学
水族育成学	2	2		海洋微生物学 海洋環境学実験
水族育成病理学実験	1		1	分析化学 海洋気象学
水産利用学	2	2		深海生物学 から3科目以上
水産利用学実験	1		1	資源生産・管理分野
海洋生物資源科学概論	2	2		生物統計学 魚類生態学
海洋法規	2		2	行動生態学 水族生態学実験
海洋環境学実験	1		1	海洋生産学実験 魚群行動学
水族生理学	2		2	潮間帯の生態学 魚類繁殖行動学
水族生理学実験	1		1	水族の統計解析 から3科目以上
水族病理学	2		2	増養殖分野 水族栄養学
海洋気象学	2		2	海生ほ乳類学 水族生理学
水族の統計解析	2		2	水族病理学 遺伝育種学
増殖環境学	2	2		水族発生学 水族生理学実験
増殖環境学実験	1		1	水族育成病理学実験 増殖環境学実験
食品微生物学	2		2	水族生体防御学 分子生態学
水産食品化学	2		2	から4科目以上 資源利用分野
食品加工学	2		2	食品微生物学 生物機能化学実験
食品衛生学	2		2	水産利用学実験 水産食品化学
魚群行動学	2		2	食品衛生学 食品加工学
フードビジネス論	2		2	公衆衛生学 生理生化学
特別講義	2		2	基礎有機化学 から4科目以上，合計23科目以上
細胞生物学	2		2	を選択必修とする。ただし，実験
分析化学	2		2	科目4科目4単位以上を含む。
水族栄養学	2		2	
海洋微生物学	2		2	
公衆衛生学	2		2	

海洋生物資源科学演習Ⅰ	2	2			
海洋生物資源科学演習Ⅱ	2	2			
海洋生物資源科学実習Ⅱ	2	2			
海洋基礎生物	2		2		
海洋基礎化学	2		2		
海洋基礎物理	2		2		
海洋基礎実習Ⅰ	1	1			
海洋基礎実習Ⅱ	1	1			
海洋生産学実験	1		1		
生物統計学	2		2		
海洋環境保全・修復学	2		2		
インターンシップ／学外研修	2		2		
遺伝育種学	2		2		
水族発生学	2		2		
水族生体防御学	2		2		
海洋環境化学	2		2		
漁業生産システム学	2	2			
行動生態学	2		2		
水族館論	2		2		
プランクトン学	2		2		
技術者の倫理入門	2		2		
小型船舶操縦法実習	1		1		
海洋生物資源科学実習Ⅰ	2	2			
分子生態学	2		2		
深海生物学	2		2		
潮間帯の生態学	2		2		
魚類繁殖行動学	2		2		
卒業研究	6	6			

Ⅵ　生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物環境調節工学	2	2		環境計画コース・生産管理コース・地域環境工学コース（基盤分野・環境分野）の3コースを置き環境計画コースは 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 農地環境整備学 地域環境水文学 土環境学 土質力学 応用数学 数理情報科学 灌漑排水環境学 土木材料 の14科目27単位を必修とする。 地域環境工学コースの基盤分野では 図学 エコロジカルデザイン演習 生物工学 地域環境水文学 土環境学 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 環境化学 大気環境科学 環境情報工学 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 土質力学 応用数学 技術者の物理学 農地環境整備学 数理情報科学 環境情報工学演習 コンクリート工学 ベクトル解析 灌漑排水環境学 水環境工学実験 土環境工学実験 専門英語 生物環境工学インターンシップ 土木設計製図	
図学	2		2		
土木材料	2		2		
環境空調工学	2		2		
地域環境保全学概論	2	2			
地域環境保全学各論	2		2		
土環境学	2		2		
水環境工学実験	1		1		
農地環境整備学	2		2		
測量学Ⅰ	2	2			
測量学Ⅱ	2		2		
測量学実習Ⅰ	2	2			
測量学実習Ⅱ	1		1		
水資源環境工学	2	2			
灌漑排水環境学	2		2		
地域環境水文学	2		2		
基礎水理学	2		2		
応用水理学	2		2		
社会基盤施設工学概論	2	2			
社会基盤施設工学各論	2		2		
土木施工	2		2		
土質力学	2		2		
土質・材料工学実験	1		1		
コンクリート工学	2		2		
農村整備計画学	2	2			
生物地域環境計画学	2		2		
農業施設学	2	2			
農業施設環境学実験	1		1		

農産物流通工学	2		2	社会基盤施設工学各論 土木材料
生物工学	2		2	土質・材料工学実験 技術者倫理
建築計画学	2		2	の32科目58単位を必修とする。
環境建築学	2		2	地域環境工学コースの環境分野では
建築構造学	2		2	図学
構造力学Ⅰ	2		2	エコロジカルデザイン演習 生物工学
構造力学Ⅱ	2		2	地域環境水文学 土環境学
建築施工	2		2	測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ
建築法規	2		2	環境化学
建築環境工学	2		2	大気環境科学 環境情報工学
建築材料	2		2	基礎水理学 応用水理学
環境エネルギー工学	2		2	構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ
生物生産システム工学	2		2	土質力学
生物生産システム工学実験	1		1	応用数学
バイオメカトロニクス	2	2		技術者の物理学 農地環境整備学
機械工学	2		2	数理情報科学 環境情報工学演習
生物資源プロセス工学	2		2	建築設計製図Ⅰ 環境建築学
ポストハーベスト工学	2		2	ベクトル解析 灌漑排水環境学
建築設計製図Ⅱ	2		2	水環境工学実験 土環境工学実験
建築設計製図Ⅲ	1		1	専門英語 生物環境工学インターンシップ
生物生産原論	2	2		地域環境保全学各論 生物地域環境計画学
環境情報工学	2		2	技術者倫理 地域環境GIS演習
環境情報工学演習	1		1	の32科目58単位を必修とする。
電気・電子工学	2		2	
応用数学	2		2	
ベクトル解析	2		2	
数理情報科学	2		2	
バイオマスエネルギー工学	2		2	
大気環境科学	2		2	
動物生態・共生学	2		2	
基礎生態学	2	2		
エコロジカルデザイン演習	1		1	

生物環境工学インターンシップ	2		2		
C A D 製 図	1		1		
専 門 英 語	2		2		
技 術 者 倫 理	2		2		
環 境 化 学	2		2		
技術者の物理学	2		2		
地域環境GIS演習	1		1		
フレッシュマンセミナー	1	1			
建 築 文 化 史	2		2		
建築設計製図Ⅰ	2		2		
木造建築構法	2		2		
都 市 計 画	2		2		
建築総合設計製図	1		1		
生物環境工学演習Ⅰ	1	1			
生物環境工学演習Ⅱ	1	1			
土環境工学実験	1		1		
土 木 設 計 製 図	2		2		
機 械 設 計 製 図	2		2		
生物環境工学特別講義	2		2		
公害防止管理論	2		2		
海 外 研 修	2		2		
野生動物フィールド実習	1		1		
フィールドワーク論	2		2		
食料機械工学	2		2		
バイオメカトロニクス実習	1		1		
リモートセンシング実習	1		1		
卒 業 研 究	6	6			

Ⅶ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基礎物理化学	2	2			
有機化学入門	2		2		

基礎有機化学	2	2			
生物化学入門	2		2		
基礎生物化学	2	2			
食品生命学入門	2		2		
食品学	2	2			
食品化学	2	2			
食品化学・分析学実験	1	1			
食品界面科学	2		2		
食品物性学	2		2		
食品衛生学	2	2			
食品疾病予防学	2		2		
食品衛生学・微生物学実験	3	3			
食品分析学	2	2			
機器分析学	2		2		
食品製造学	2	2			
応用微生物学	2	2			
食品製造学実験	2	2			
食品機能化学	2	2			
食品免疫学	2		2		
食品生物化学・工学実験	3	3			
植物性食品原料学	2		2		
動物性食品原料学	2		2		
食品保蔵学	2		2		
食品化学工学	2	2			
食品生産プロセス論	2		2		
化学工学概論	2		2		
食品工学	2	2			
生物化学工学	2		2		
食品環境化学	2		2		
公衆衛生学	2		2		
食品微生物学	2	2			

食品行政	2		2			
食品栄養化学	2	2				
分子栄養学	2	2				
品質管理論	2		2			
実験統計学	2		2			
バイオテクノロジー概論	2		2			
食品添加物論	2		2			
おいしさの科学	2		2			
食品安全学総論	2	2				
食品成分化学	2		2			
健康と食品	2		2			
発酵醸造学	2		2			
動物性食品製造学	2		2			
総合食品開発講座	2		2			
物理化学入門	2		2			
スポーツ食品科学	2		2			
調理科学	2		2			
分子細胞生物学	2	2				
臨床食品科学	2		2			
食品製造実習	1	1				
基礎食品製造実習Ⅰ	1		1			
食品生命学インターンシップ	1		1			
食品科学英語	2		2			
食文化史	2		2			
技術者倫理	2		2			
植物性食品製造学	2		2			
食品生命学	2	2				
基礎分析化学	2		2			
香りの科学	2		2			
容器包装科学	2		2			
食とアレルギー	2		2			
食品衛生監視員養成講座	2		2			
食品機能解析論	2		2			

基礎食品製造実習Ⅱ	1		1		
基礎食品製造実習Ⅲ	1		1		
卒業研究	6	6			

Ⅷ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
国際地域開発学入門	2	2		農業・農村開発コースとグローバルビジネスコースを置き，農業・農村開発コースは，農業技術実習，社会調査法を必修とする。 グローバルビジネスコースは，経済・環境情報処理実習，ファイナンス入門を必修とする。 また，開発課題プログラム，農業分野 熱帯園芸学 農業技術の開発と普及 資源作物学実験 農業生態学 作物と食の文化 熱帯生物資源論 農業フィールドワーク 開発課題プログラム，環境分野 環境農学 水と土の保全学 環境保全工学実験・実習 環境農学実験 地域環境保全工学 環境経済学 環境情報利用学 開発課題プログラム，アグリビジネス分野 アカウンティング論 農業経済学 農業経営学 アグリビジネス論 農村社会学 農産物流通論 開発課題プログラム，貧困削減分野 開発プランニング論 アジア経済論 アフリカ経済論 ラテンアメリカ経済論 国際農業開発論 参加型評価手法（PCM）	
環境生態学	2	2			
アジア経済論	2		2		
国際農業開発論	2		2		
グローバルビジネス論	2	2			
国際協力論	2	2			
国際キャリアデザイン	2	2			
熱帯農業論	2		2		
農業経営学	2		2		
スタディ・スキルズA	2	2			
地域研究	2		2		
経済学の基礎	2	2			
アグリビジネス論	2		2		
農産物流通論	2		2		
ファイナンス入門	2		2		
アカウンティング論	2		2		
コンピュータリテラシー	2		2		
経済・環境情報処理実習	2		2		
農業生態学	2		2		
環境農学	2		2		
環境農学実験	1		1		
熱帯資源作物学	2	2			
熱帯生物資源論	2		2		
熱帯園芸学	2		2		
農業フィールドワーク	2		2		

アフリカ経済論	2		2	熱帯農業論 開発課題プログラム，共生分野
文化地理学	2		2	外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級A
参加型評価手法（PCM）	2		2	外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級B
開発プランニング論	2		2	外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅡA
地域環境保全工学	2		2	外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅡB
農業技術の開発と普及	2		2	文化地理学
社会調査法	2		2	多文化教育論
国際関係論	2		2	エコツーリズム論
農村社会学基礎	2	2		外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢA
エコツーリズム論	2		2	外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢB
農村社会学	2		2	英語インテンシブプログラム分野
多文化教育論	2		2	TOEIC対策総合英語ⅠA
開発課題研究	2		2	TOEIC対策総合英語ⅠB
国際地域開発演習ⅠA	1		1	英語コミュニケーションⅡA
国際地域開発演習ⅡA	1		1	英語コミュニケーションⅡB
英語コミュニケーションⅠ	2	2		TOEIC対策総合英語ⅡA
英語コミュニケーションⅡA	1		1	TOEIC対策総合英語ⅡB
英語コミュニケーションⅡB	1		1	英語コミュニケーションⅢA
英語コミュニケーションⅢA	1		1	英語コミュニケーションⅢB
英語コミュニケーションⅢB	1		1	英語コミュニケーションⅣA
英語コミュニケーションⅣA	1		1	英語コミュニケーションⅣB のうちから1分野8単位以上修得しなければならない。
英語コミュニケーションⅣB	1		1	
スペイン語基礎	2	2		
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	2		
スペイン語中級A	1		1	
スペイン語中級B	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡB	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢB	1		1	
インドネシア語基礎	2	2		

インドネシア語コミュニケーションⅠ	2	2		いずれか一か国語を選択履修すること。
インドネシア語中級A	1		1	
インドネシア語中級B	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡB	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢB	1		1	
中国語基礎	2	2		
中国語コミュニケーションⅠ	2	2		
中国語中級A	1		1	
中国語中級B	1		1	
中国語コミュニケーションⅡA	1		1	
中国語コミュニケーションⅡB	1		1	
中国語コミュニケーションⅢA	1		1	
中国語コミュニケーションⅢB	1		1	
専門外書講読	2		2	
環境経済学	2		2	
時事英語A	1		1	
国際地域開発フィールドワークⅠA	1		1	
水と土の保全学	2		2	
作物と食の文化	2		2	
環境情報利用学	2		2	
資源作物学実験	1		1	
環境保全工学実験・実習	1		1	
国際地域開発フィールドワークⅡA	1		1	
国際地域開発フィールドワークⅢA	1		1	
国際地域開発フイールドワークⅣA	1		1	
国際地域開発インターンシップA	1		1	
国際地域開発キャリア研究	2	2		
スタディ・スキルズB	2	2		

国際地域開発フィールドワークⅠB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅡB	1		1		
国際地域開発演習ⅠB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅢB	1		1		
国際地域開発インターンシップB	1		1		
国際地域開発演習ⅡB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅣB	1		1		
経営学の基礎	2	2			
時事英語B	1		1		
農業・農村協力研修	2		2		
アグリビジネス研修	2		2		
農業技術実習	2		2		
農業経済学	2		2		
ラテンアメリカ経済論	2		2		
TOEIC対策総合英語ⅠA	1		1		
TOEIC対策総合英語ⅠB	1		1		
TOEIC対策総合英語ⅡA	2		2		
TOEIC対策総合英語ⅡB	2		2		
卒業研究	6	6			

Ⅸ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
応用生物科学トピックス	4	4		免疫生物学 細胞組織形態学	
基礎遺伝学	2	2		発生再生生物学 発生工学	
生物有機化学	2	2		神経生物学 のうちから2科目4単位	
生物化学入門	2	2		植物機能化学 植物バイオテクノロジー	
応用生物科学実験Ⅲ	4	4		植物分子生物学 植物環境科学	
基礎細胞生物学	2	2		のうちから2科目4単位	
代謝生化学	2	2		産業微生物学	

機器分析学	2		2	微生物生態学 微生物バイオテクノロジー 微生物遺伝学 のうちから2科目4単位を選択必修とする。
植物機能化学	2		2	
応用生物科学実験Ⅳ	4	4		
応用生物科学実験Ⅰ	4	4		
酵素科学	2	2		
免疫生物学	2		2	
核酸・蛋白質概論	2	2		
分子生物学	2	2		
ゲノムダイナミックス	2	2		
生命情報科学	2	2		
微生物生理学	2	2		
応用生物科学実験Ⅱ	4	4		
微生物生態学	2		2	
微生物学概論	2	2		
システム生物学	2		2	
環境バイオテクノロジー	2		2	
植物バイオテクノロジー	2		2	
植物生理学	2	2		
動物生命科学概論	2	2		
細胞シグナル伝達	2	2		
動物生理学	2	2		
発生工学	2		2	
微生物バイオテクノロジー	2		2	
実験動物学	2		2	
応用微生物学	2	2		
植物環境科学	2		2	
生物統計学	2		2	
ゼミナール	2	2		
特別講義Ⅰ	2		2	
特別講義Ⅱ	2		2	
産業微生物学	2		2	

共生生物学	2		2		
生化学・分子生物学実験法	2	2			
食品衛生学	2		2		
細胞組織形態学	2		2		
酵素工学	2		2		
微生物遺伝学	2		2		
植物科学概論	2	2			
分子細胞機能学	2		2		
バイオメディカルサイエンス	2		2		
ケミカルバイオロジー	2		2		
神経生物学	2		2		
発生再生生物学	2		2		
植物分子生物学	2		2		
応用生物科学演習	2	2			
環境衛生学	2		2		
食品機器分析学実験	1		1		
卒業研究	6	6			

X　くらしの生物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
くらしの生物学概論	2	2			
植物生理生態学	2	2			
くらしの動物学	2	2			
フレッシュマンセミナー	1	1			
緑地環境学	2	2			
基礎栽培学	2	2			
生物有機化学	2	2			
微生物学	2	2			
分子生物学	2	2			

食品栄養科学	2	2				
生き物	2	2				
くらしの科学実験	1	1				
くらしの科学実習	1	1				
細胞生物学	2		2			
食と健康科学	2		2			
野菜果樹栽培学	2		2			
生き物飼育論	2		2			
動物科学	2		2			
くらしの環境デザイン論	2		2			
園芸学実験・実習	1		1			
発酵科学	2		2			
くらしのバイオテクノロジー	2		2			
食品保存・安全管理学	2		2			
家庭園芸論	2		2			
植物組織細胞培養学	2		2			
まちづくり学	2		2			
応用魚類飼育学	2		2			
応用昆虫飼育学	2		2			
環境緑化実験・実習	1		1			
食品科学実験	1		1			
生き物倫理	2	2				
保全生物学	2		2			
伝統食品論	2		2			
都市農業論	2		2			
機能性農作物論	2		2			
公園緑地利用学	2		2			
ビオトープ管理学	2		2			
愛玩動物飼料学	2		2			

バイオサイエンス実験	1		1		
微生物学実験	1		1		
動物飼育学実験・実習	1		1		
環境修復生物学	2		2		
社会園芸学	2		2		
フラワーデザイン論	2		2		
里地里山学	2		2		
機器分析学	2		2		
公衆衛生学	2		2		
インターンシップ	1		1		
ボランティア活動	1	1			
ゼミナール	2	2			
卒業研究	6	6			

5　教職課程科目

Ⅰ　生命農学科					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		

地学実験	2		2		
[農業]					
職業指導	4		4		

Ⅱ 生命化学科					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
[農業]					
職業指導	4		4		

Ⅲ 動物資源科学科					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		

生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
[農業]					
職業指導	4		4		

Ⅳ　森林資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
[農業]					
職業指導	4		4		

Ⅴ　海洋生物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		

化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
[水産]					
職業指導	4		4		

Ⅵ 生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅶ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
[理科]					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		

物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅷ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［社会・公民］					
日本史概説	2		2		
世界史概説Ⅰ	2		2		
世界史概説Ⅱ	2		2		
地理学概論Ⅰ	2		2		
地理学概論Ⅱ	2		2		
法律学概論（国際法を含む）	2		2		
社会学概論Ⅰ	2		2		
社会学概論Ⅱ	2		2		
倫理学概論Ⅰ	2		2		
倫理学概論Ⅱ	2		2		
宗教社会学Ⅰ	2		2		
宗教社会学Ⅱ	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

Ⅸ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					

物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

6　学芸員課程科目

各学科設置の専門教育科目の他に許可を得て次の科目を修得することができる。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
博物館概論	2	2			
博物館教育論	2	2			
生涯学習概論	2	2			
博物館情報・メディア論	2	2			
博物館実習Ⅰ	1	1			
博物館実習Ⅱ	2	2			
博物館経営論	2	2			
博物館資料論	2	2			
博物館資料保存論	2	2			
博物館展示論	2	2			

第95条～第142条(略)

附　則

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和２年４月１日施行の学則については，第20条から第22条，第25条，第28条から第30条，第34条，第36条，第40条，第51条，第77条，第105条，第106条（第２項，第４項，第５項及び第６項を除く）及び第116条は，入学年度にかかわらず，この規定を適用する。

3　工学部土木工学科，建築学科，生命応用化学科及び情報工学科の収容定員は，第12条の規定にかかわらず，令和４年度から令和６年度までの間，次のとおりとする。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度
土木工学科	610	620	630
建築学科	730	740	750
生命応用化学科	610	580	550
情報工学科	730	740	750

4　医学部医学科の毎年入学定員及び収容定員は，第12条の規定にかかわらず，「地域の医師確保等の観点からの令和４年度医学部入学定員の増加について（令和３年８月16日付け文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」に基づき，令和４年度から令和９年度までの間，次のとおりとする。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
毎年入学定員	125	120	120	120	120	120
収容定員	725	725	725	725	725	725

5　大学院工学研究科建築学専攻（博士前期課程），機械工学専攻（博士前期課程），生命応用化学専攻（博士前期課程）及び情報工学専攻（博士前期課程）の収容定員は，第12条第２項の規定にかかわらず，令和４年度は次のとおりとする。

	令和４年度
建築学専攻博士前期課程	50
機械工学専攻博士前期課程	55
生命応用化学専攻博士前期課程	50
情報工学専攻博士前期課程	45

6　生物資源科学部各学科（獣医学科を除く）の収容定員は，第12条の規定にかかわらず，令和５年度から令和７年度までの間，次のとおりとする。

	令和５年度	令和６年度	令和７年度
バイオサイエンス学科	210	420	630
動物学科	136	272	408
海洋生物学科	146	292	438
森林学科	120	240	360
環境学科	130	260	390
アグリサイエンス学科	140	280	420
食品開発学科	146	292	438
食品ビジネス学科	554	564	574
国際共生学科	146	292	438
獣医保健看護学科	80	160	240
生命農学科	390	260	130
生命化学科	390	260	130
動物資源科学科	408	272	136
森林資源科学科	390	260	130
海洋生物資源科学科	408	272	136
生物環境工学科	390	260	130
食品生命学科	408	272	136
国際地域開発学科	390	260	130
応用生物科学科	378	252	126
くらしの生物学科	240	160	80

7　大学院危機管理学研究科危機管理学専攻修士課程の収容定員は，第12条第２項の規定にかかわらず，令和５年度は，次のとおりとする。

	令和５年度
危機管理学専攻	8

8　大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程の収容定員は，第12条第２項の規定にかかわらず，令和５年度は，次のとおりとする。

	令和５年度
スポーツ科学専攻	8

9　危機管理学部危機管理学科の学位に付記する専攻分野の名称は，令和３年度以前の入学者については，従前の例による。

10　教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成28年11月28日法律第87号）附則第五条（教育職員免許法の一部改正に伴う経過措置）の適用を受けない者は，教職課程に関して，本学則の適用を受けるものとする。

11　平成30年度以前から在学する学生については，教職課程の履修に関して，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

12　令和元年度以前から在学する学生については，文理学部社会教育主事コースの履修に関しては，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

別表１の１

教育研究上の目的（大学）
法学部第一部
法律の知識を基礎として，高水準の実践的な専門教育と国際的教養人としての教養教育に努め，高い倫理観と優れた人格を備えた法律的なものの考え方ができる人材を養成する。また，高度な職業意識と専門的な能力を兼ね備えた人材を養成する。 （法律学科） 社会全般に対する広範な知識をもとに，自ら問題を摘示する能力，いわゆるリーガルマインドと称される論理的思考能力，問題解決能力を身につけ，グローバル化が進み，価値観が多様化する現代社会の中で生起する様々な問題に対して，一定のルールに従い解決する能力を発揮することができる人材を養成する。 （政治経済学科） 現代社会において必要不可欠な政治・経済・法律に関する幅広い知識と理論を基礎として，自分独自の視点で問題を見きわめる能力や論理的・批判的な思考能力，社会に存在する諸問題を解決していく能力，そして自己を省察する能力を身につけ，国や地方の公共団体，民間企業，NGO/NPO，マスメディア，そして国際的なフィールドなど，社会のあらゆる場面において実践的な能力を発揮することができる人材を養成する。 （新聞学科） 法律学，政治学などの知識を踏まえ，新聞学（ジャーナリズム・メディア・情報・コミュニケーションに関わる学際領域）の基礎理論を把握し，グローバル化，ネットワーク化する現代社会を理解するための思考法を身につけ，専門的学知を用いて真理を探求することのできる能力と，人間社会の相互理解や自由と平等に寄与する能力を涵養し，研究者やジャーナリスト，情報の誠実で責任ある担い手となる人材を養成する。 （経営法学科） 経営と法に関する確固たる知識と世界に発信できる語学力・コミュニケーション能力に基づいて，国内外の経営活動・企業活動の発展に貢献することの重要性と必要性を認識し，自らの考えを述べることができる力を涵養することによって，企業が直面する様々な課題に対処することができる力を身につけ，国内外の経営活動・企業活動における経営と法に関する体系的知識を修得し，実務的観点に立って問題を解決することができる人材を養成する。 （公共政策学科） 公共政策，行政，法律，政治，経済の知識を基礎として，公共に関わる分野，国及び自治体の機能，政策の分析方法・技法に関する知識・理解の上に，公共政策の立案・実施や政策効果の分析に係る能力を身につけ，国及び地方の行政組織で活躍する公務員，公共・公益分野を中心とする民間企業や「新しい公共」の担い手となる諸団体（NPO法人，福祉団体，学校・教育機関など）でリーダーシップを発揮できる人材を養成する。
法学部第二部
（法律学科） 社会全般に対する広範な知識をもとに，自ら問題を摘示する能力，いわゆるリーガルマインドと称される論理的思考能力，問題解決能力を身につけ，グローバル化が進み，価値観が多様化する現代社会の中で生起する様々な問題に対して，一定のルールに従い解決する能力を発揮することができる人材を養成する。

文　理　学　部

文理学部は，人文学をはじめ社会科学や理学に関する幅広い学問領域をカバーし，「文と理」の横断，融合を目指した教育を基本として，各学科による個々の専門に応じた教育・研究を行う。そのために，

①学際的な専門知（Interdisciplinary Expertise）
②学びと教えの循環（“Peer to Peer” Learning）
③他者への想像力（Imagination for Others）

の 3 つの柱を組み合わせた教育・研究を通して，グローバル化した 21 世紀を生きぬき，自由でしなやかに社会をリードすることができる多様性とアイデンティティ(Diversity and Identities)を形成する。

これにより，専門的な知識や技術とともに，境界を超えた柔軟で学際的な思考と創造力，そして対等に開かれた学びのネットワークを通じて，既成概念を超えた新しい協働の場を作り，正解のない困難な課題に立ち向かうことのできる創造的かつ実践的な知の担い手としての人材を養成する。

（哲学科）

哲学・倫理学・美学・宗教学の理論と方法を学ぶことを通じて，人間の価値と文化的実践に関わる総合的・体系的研究を行う。特に，古今の哲学者の著作や資料を厳密に読み解くことを基本としながら，思想全般にわたる幅広い知識を身につけて，鋭い思考力と複眼的なものの見方を養う。それによって，多様化する現代社会の中で自ら問題を発見し，分析して解決することができる人材を養成する。

（史学科）

現代社会の様々な問題を解決するためには，過去の経緯を踏まえることが必要である。ゼミナール制を基本とした充実した教育環境の下で，歴史及びその研究法を習得し，歴史的視点と，より正確な歴史像把握の方法を身に付け，豊かな現代社会の構築に寄与する人材を養成する。

（国文学科）

日本語学・日本文学の各分野における多角的で総合的な研究に基づく教育のもと，中学校・高等学校等の国語科・書道科教員をはじめとして，日本語・日本文学・日本文化に関する深い知識と，それらを駆使した優れた思考力，対話力，文章力，プレゼンテーション能力をもった，社会的に有為な人材を養成する。

（中国語中国文化学科）

本学科では，「読む・書く・聞く・話す」などすべての面で実用にたえる中国語の教育を行う。さらに，長い歴史と広い領域にわたる多様な中国文化を理解し，東アジアを主とする国際社会で活躍できる人材を養成する。

（英文学科）

高度な英語運用能力と英米文学及び英語学の知識に基づく豊かな教養を備え，国際社会の場をはじめ各方面で活躍できる能力を持つ人材を養成する。具体的には，コミュニケーション中心の科目群の学修を通して社会に十分通用する英語運用能力を身に付けさせ，英米の文学・文化・言語の専門知識に裏打ちされた多様な価値観を持つ，個性豊かな人材を養成する。

（ドイツ文学科）

1959（昭和 34）年の学科創設以来の研究と教育の蓄積を活かし，ドイツ語力を基盤にしたドイツ，オーストリア，スイスなどのドイツ語圏の文学・言語学・文化についての専門的な指導を行い，また実用ドイツ語力を身に付けられるようドイツ語ネイティヴ教員による授業を多数開講するほか，ドイツ語技能検定試験や海外語学研修も単位認定をする形で受験・参加を奨励し，国際的な広い視野と豊かな感性並びに柔軟な判断力を備えた有為な人材を養成する。

（社会学科）

1920（大正 9）年の学科創設以来，「文と理」の横断・融合を目指す文理学部の中で，自然科学と異なる問題意識から出発した社会科学において独自の特徴を有する社会学の強みを活かし，理論と実証と実践のいずれをも重視する学風を築き上げてきた。このような伝統の下で，グローバル化する現代社会における問題や課題を見いだし，その解決に力を発揮することで，自由でしなやかな社会の構想を具体化する人材の養成を目指す。具体的には，①社会学の理論・学説と方法を深く学び身に付け，②社会学的な思考力や想像力を培い，③現実社会を的確に調査・分析し考察する力を高め，④企画立案と課題解決のための力を養成する。

（社会福祉学科）

社会福祉のあり方は，社会の変化や人々の価値観の多様化，その時々の経済情勢などに対応することが求められる。また，社会福祉の主体は，行政機関，非営利団体，地域の組織や住民，社会的企業など多岐にわたる。

こうした社会の状況を踏まえつつ，社会福祉学の理念や制度，社会福祉の実践（ソーシャルワーク）を融合した教育研究を実現することで，変化・多様化するニーズに柔軟に対応し，さまざまな主体との協働によって，人々が幸せに生活することができる福祉社会の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。

このため，多彩な福祉専門領域の教育研究を通じて，社会福祉の理論や相談援助に関する価値・知識・技術を体系的に学ぶとともに，それぞれの学生のキャリア形成も見据えつつ，社会問題の解決を目指した多様な分野の理論や実践に触れることで，高い専門性，豊かな人間性と福祉マインド，地域における協働を通じた社会問題の解決に取り組む実践力を育む。

（教育学科）

教育については，原理的かつ総合的に学習することにより，教職をはじめとする多様な分野において活躍し得る人材を養成する。研究については，教育に関する幅広い視野と問題意識をもつ多くの教員を擁し，各分野における最前線の研究活動を通じて，その成果を学生に還元する。

（体育学科）

体育・スポーツ・健康を取り巻く様々な学問領域における最先端の研究成果を活かしながら，優れた運動技能と高度な科学的知識・技術及び実践力を備えた，活力あふれる人間性豊かな専門家を養成する。

（心理学科）

基礎と応用の両領域で，バランスのとれた心理学の知識を身に付け，社会貢献ができる人材育成を目標にしている。また，公認心理師コースにおいては，医療・福祉・教育・司法・産業等の領域で心理学的な専門的支援を担う公認心理師として活躍できる人材を養成することを目標にしている。そのために，「人間のこころ」を科学的に理解する心理学的知識や方法を習得し，実社会に応用できる力を身につけ，自身で能動的に考え，行動する能力を育成する。そして，「社会の中で役に立つ心理学」を実践する人材を養成する。

（地理学科）

自然地理学，地理情報学，人文地理学，地誌学の 4 つの分野において，実験や野外実習を通じて地域調査の方法を身につけるとともに，GIS やリモートセンシングなどを用いた分析・問題解決能力を養成する。とくに，環境保全計画や災害対策，産業立地計画，地域政策，シンクタンク，観光業界，中学・高等学校の教育職などの諸分野で活躍できる人材を養成する。

（地球科学科）

気象学，水圏科学，地球化学，地質学，地球物理学などの地球科学的な知識と技術に基づき，自然災害問題や地球環境問題の具体的な課題に対処できる基礎的能力をもった人材や，幅広い地球科学的教養を身に付け社会の様々な領域で活躍できる人材を養成する。

（数学科）

抽象的な数学から実際に役立つ応用数学まで幅広い数学の教育・研究を行っている。抽象的な数学を学ぶことから発想力や，正確な論理を展開する力を習得し，応用数学を学ぶことから直ちに社会に役立つ数学の運用力を習得することで，教員や柔軟性と応用力を備えた即戦力となる人材を養成する。

（情報科学科）
情報科学に関連する知識・技術を基礎から指導することにより，物事を論理的に分析・理解し，原理的側面から問題解決を行う能力と新しい情報技術に対応できる能力を養う。また，新しい情報技術を創出し，情報社会の発展に寄与できる資質を養成する。
（物理学科）
現代の先端科学技術の発展に十分対処できる基礎的・専門的な学力・知識を備えた科学技術者を養成し，企業，教育・研究機関，産業界に人材を提供する。科学の基礎である物理学を学ぶことによって，技術力，計算力，思考力及び判断力を養い，未来の科学技術及び産業界の発展に貢献できる能力を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。
（生命科学科）
人間社会が直面している健康と医療・エネルギー・食糧・環境・自然再生などの問題は，生命科学と密接に関連している。そこで，分子から生態系にいたる様々なレベルで，生物の「生きる」メカニズムを体系的に学ぶことによって，このような諸問題に対応できる人材を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。
（化学科）
21 世紀における資源やエネルギー源の枯渇，食糧不足，人口問題，環境問題など，人類が繁栄するために解決しなければならない諸問題に対して，化学が果たす役割は大きい。このようなニーズに応えるため，化学のみならず他の分野との境界領域に踏み込める基礎的な知識と力量を身に付け，関連分野でも活躍できる化学技術者・研究者を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

経　済　学　部

自立した個人の自主的な努力を原則に，教職員と学生が一体になって，変化する経済的社会的環境に対し，人間としての生きる力，愛する力，考える力を養い，その全人格的能力を自由かつ多様に伸長することを図る。そのことを通して，経済諸現象を経済・経営・会計の諸分野で分析できる能力を養い，国際的視野を持って高度情報化時代に対応できる健全かつ高度な専門職業人・社会人を養成する。
（経済学科）
経済学を系統的かつ体系的に学ぶために，基礎的教養・知識を修得しつつ，近代経済学の基礎理論を理解し，これを土台に，専門的能力を養成することによって，経済現象を経済学的に分析し，論理的に叙述する力を涵養し，変化の激しい経済社会に常に対応できる豊かな教養と専門知識を備えた人材を養成する。
（産業経営学科）
経済及び経営の専門的基礎力と広い視野からの社会的基礎力を養い，これを土台に，応用力を身に付けることによって，柔軟で倫理観にあふれたビジネスリーダーを養成するとともに，ビジネス社会における各組織の中で，主体的に問題を発見し，その解決のための諸方法を展開できる人材を養成する。
（金融公共経済学科）
現代経済のインフラストラクチュアともいうべき金融システム，公共システムを対象として，系統的な近代経済学の知識，特にミクロ経済理論を応用して現実の金融，公共経済の働きを理解する能力の習得や，金融部門，公共部門での交渉力，企画立案能力の獲得をねらった，高度で実践的な教育サービスを提供する。そのことを通して，今後のわが国の成長や発展に大きく寄与する，知識と実務能力，金融技術，政策立案技術を備えた人材を養成する。

商　　学　　部

激しく変動する市場経済の下でビジネスを行うには商品，人的資源，資金，情報にかかわる知識と実践的技能の習得が必要である。そのため，実学としてビジネスの理論を学修するとともに，幅広い教養に裏打ちされた職に就く力（就職力）を身に付け，国内だけでなく広く世界を視野に入れて，営利企業，非営利組織，行政で活躍できる専門能力，人間力をもった人材を養成する。

（商業学科）

商業学は，グローバル化や IT 化などの時代の変化に対応して進化をとげつつある。ビジネス・経済にかかわる専門的な知識を基に，マーケティング，流通，貿易，金融，ビジネス法務など多様な科目群を総合的・体系的に学ぶとともに，実践への応用力を養い，激動する市場環境に対応できる的確な判断力，問題解決能力を備えた人材を養成する。

（経営学科）

21 世紀は，市場化が従来の社会，行政領域などに一層進むと予想される。市場経済の担い手は企業組織を中心とするが，これらに加えて多様な非営利組織など様々な特定の組織が参加することになろう。これら市場化の進展に対応する各種の事業組織の創設，組織化，運営，評価などを専門的に行う人材を養成する。

（会計学科）

企業の経営活動の動きを貨幣額，物量という側面から把握した情報を，経営管理に役立て，株主などのステークホルダーに企業成果などの財務内容を開示する役割を果たすのが，会計の中心的役割である。このため，社会における会計学の意義と役割を認識し，国際的な視野で，会計学の理論と実践に関する専門的知識を習得し，ビジネス社会をリードできる人材を養成する。また同時に，公認会計士や税理士を目指す職業会計人も養成する。

芸　術　学　部

芸術総合学部としての特徴と伝統を保持するとともに，21 世紀における芸術の持つ社会的先導性にかんがみ，学科の各々の専門教育をさらに充実・発展させ，同時に，学科の垣根を越えた総合的なカリキュラムを展開することで，芸術・文化全般にわたる広い視野を持った人材を養成する。

（写真学科）

撮影・プリント，展示などの実践技術および写真史・写真作品研究，写真芸術などの表現まで徹底した基礎教育を行い，技術・応用力をもった創造性を兼ね備えた人材を養成する。その上に，社会や諸芸術に対する自己の考えを有する社会に貢献できる写真家，写真研究家などのスペシャリストを養成する。

（映画学科）

デジタル技術の進歩で新たな時代を迎えた映像文化を，理論・評論，映像，脚本，監督，撮影・録音，演技分野で，「芸術創造」と「情報伝達」の両面から探求し，高度な専門知識と技術を身に付けた創作者，技術者，研究者などの映画・映像のスペシャリストを養成する。

（美術学科）

美術にかかわる諸分野の専門家を養成する。多様化する芸術の現状を見据え，創作と理論，歴史研究や作品研究，表現技術の習得をしながら，作家としての自立を模索していく。また，自己の外側の世界に積極的に関心を持ち，視野を広げ創造を喚起して，自分自身の表現の主題を明確にしていく。

（音楽学科）

従来の音楽専門教育に加え，幅広い視野と教養を身に付けさせる教育を行っている。演奏や創作といった音楽教育もさることながら，時代に即した諸関連芸術分野の習得によって，次世代の音楽芸術を担う人材を養成する。

（文芸学科）
文章芸術の持つ精神的及び文化的な意義を考究し，かつ自らその実践者，すなわち創作者となるよう指導，督励することが教育・研究の主目的である。現代の広範なメディア状況のなかで，文芸創作から社会・文化評論，ジャーナリズム，広告など，文章を通じた多様な表現現場において，第一線で活躍できる創造力豊かな人材を養成する。
（演劇学科）
「理論と実践」「基礎と応用」「専門と総合」のバランスに配慮したカリキュラム体系，並びに学生の個性・習熟度に応じた教育体制を整備し，現代社会における演劇・舞台芸術の役割についての高い見識と，その新しい可能性をひらいていくための技術・創造力を兼ね備えた人材を養成する。
（放送学科）
多様化する情報，進化する放送技術の中で，学生個々の感性を刺激し，魅力的で独創的な作品を創作することによって，自由に自己表現できる人材を養成する。併せて，放送メディアに関する専門知識と情報伝達技術を身に付け，放送について深く理解し，理論的に考察できる人材，独創的で豊かな発想力をもつ人材，さらに放送を基盤とした多様なメディアに対応できる有能な人材を養成する。
（デザイン学科）
少人数教育を基本とし，感性豊かな創造力を育み，新しい時代への視野と洞察力を養う。学生一人ひとりの個性を伸ばし，実践的なデザイン創作活動と斬新な研究からデザインの価値を生み出し，文化の質の向上を導くことで社会に貢献する人材を養成する。

国際関係学部

日本大学の教育理念「自主創造」を実践するとともに，国際社会で活躍するために必要な問題解決能力，社会の各分野で提言できる政策能力，高いコミュニケーション能力を兼ね備えた，国際交流や国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成する。
（国際総合政策学科）
国際交流や国際社会の様々な分野で，困難な問題に対しても，高度な意志決定ができる人材を養成する。国際人として欠かすことのできない英語をはじめとした外国語能力を向上させるために基礎教育を徹底して行う。総合的な教養力を養うとともに，国際関係，国際ビジネス，グローバルスタディ，グローバル観光の４つの履修コースを柱として，国際実務に必要な専門知識とスキルを養成する。
（国際教養学科）
多文化共生社会において，異文化理解を深めるための専門知識と英語を中心とした外国語の実践的な運用能力のある人材を養成する。様々な国・地域における高度な文化的専門知識を養うとともに，国際文化，国際コミュニケーション，グローバルスタディ，グローバル観光の４つの履修コースを柱として，実務に耐える応用力を養成する。

危機管理学部

グローバル化した現代社会を取り巻く様々な危機と向き合い，人々の生命や生活を守る強い信念と高い志を基に，リーガルマインド（法を用いて紛争や問題を解決する能力）とリスクリテラシー（危機管理能力）とを融合させた学識をもって主体的に行動し，日本の秩序の維持と国民の安全，さらには世界の平和の実現に向けて問題解決を実践する人材を養成する。
（危機管理学科）

現代社会で発生する多様な問題に対して，国，地方公共団体，民間企業，メディア，NGO，国際機関などそれぞれの職場において平常時から危機管理の観点を持って主体的に関わり，自然災害，事故，事件や紛争など危機の現場においてリーガルマインドとリスクリテラシーを用いて危機管理を実践するために必要な広い教養と専門知識を備えた人材を養成する。

スポーツ科学部

スポーツに関連する多様な学問領域における最先端の研究成果を活かしながら，スポーツ経験を基盤とする優れたスポーツ技能と科学的知識を備えた世界的レベルの競技者や，人間性豊かな反省的実践家の養成により，広く社会貢献することを教育研究上の目的とする。

（競技スポーツ学科）

「競技スポーツにおける実践力のある反省的実践家の養成」を教育理念に掲げ，教養教育と専門教育の両面から総合的・学際的な教育を行い，国内のみならず，国際的競技会で活躍できる優秀なスポーツ選手の育成や，競技スポーツ分野で活躍できる反省的実践家の指導者を養成する。

理　工　学　部

理工学部の教育理念「自由闊達な精神，豊かな創造性及び旺盛な探究心を持ち，人類の平和と福祉に貢献できる，誇りある人材を養成する」に基づき，理学と工学の連携下，先端技術の創成と情報化・国際化に対応できる教養・基礎教育と，理論と応用を体系的に修得できる実践的な専門教育を実施する。これにより豊かな人間力（教養と高い倫理観）とともに，質の高い学士力を培い，個性・特色ある人材を養成する。

（土木工学科）

心身ともに健全な文化人，土木工学のどの分野にとっても必要な基礎知識を身に付けた土木技術者，進路により適した応用能力を身に付けた土木技術者，伝統を引継ぎ，実社会で多方面に活躍する実践的な土木技術者を養成する。

（交通システム工学科）

高い倫理観を持ち，地球環境の維持と公共の福祉の向上を理解し，歴史や文化に配慮して，持続可能な美しい地域社会の構築と運営に貢献できる交通・建設エンジニア及び交通・都市・環境マネージャーを養成する。そのために，安全かつ快適で豊かな社会の形成に資する交通システムの創造や整備，維持管理，運営，経営を行う総合力と専門能力を養うための教育と研究を行う。

（建築学科）

人類の未来につながる理想的な環境の創出に寄与できる，幅広い視野と豊かな創造性を持つ人材を養成する。このことから，基礎的な建築教育と専門的な素養を深める教育の両方の実施を基本とし，研究者，建築家，建築構造設計者，環境・設備技術者，建築工事監理技術者，建築生産管理技術者，不動産企画・開発者等を目指す学生に対応する教育プログラムを実施する。

（海洋建築工学科）

建築学の基礎知識を修得するとともに，海洋及び沿岸域の環境を理解し，防災安全に優れ多様な立地環境に適合できる建築構造，快適かつ自然環境や景観に配慮した都市・建築計画などの海洋建築工学の専門知識を学ぶ。これらの学問を十分に活用し，高い倫理観を持って人と地球環境に優しい建築物や都市空間を計画・設計・施工できる建築家・技術者を養成する。

（まちづくり工学科）

大都市から山間部や沿岸地域まで幅広い地域を対象として，そこに暮らす人々のニーズを把握したうえで将来像を提案し，それを実現に向かわせるまちづくりの専門家，技術者を養成する。そのために，まちを創造・整備する工学的技術に加え，景観・観光・福祉といった学際的専門分野を理解することで持続可能なまちづくり理論を修得するとともに，演習等を通じてまちづくりの実践的な思考と技術を養うための教育と研究を展開する。

（機械工学科）

機械工学はものづくりを通して，人間生活を豊かにするための総合的な学問である。その機械工学を構成している自然法則の基礎的な理論や概念に立脚し，高度情報化した社会のニーズに応えることのできる創造性豊かな技術者を養成する。

（精密機械工学科）

機械工学に加え電気・電子工学を基礎として，ロボティクスやメカトロニクスに代表される自動化技術，計測制御技術，及びマイクロマシンやマイクロシステムに代表される超微細加工技術，集積化技術を包含した先端の技術分野の研究を行い，さらに新しい技術分野の展開にも対応できる，創造力がありものつくりに強く，骨太で人間性豊かな，かつ環境・福祉にも関心を持つ研究者・技術者を養成する。

（航空宇宙工学科）

航空宇宙工学は，航空機や宇宙機のような大規模で複雑なシステムを対象とし，最先端技術の開発が求められる先駆性，宇宙環境のような極限条件下での高度な信頼性・安全性が求められる極限性，様々な分野の最先端技術が複合的に組合わされた総合性を特徴とする。このような特徴を有する航空宇宙工学の修得を通じて，自啓自発の精神を持ち，科学・技術の発展に貢献できる技術者を養成する。

（電気工学科）

豊かな感性と創造性を育むことを理念とし，電気工学を網羅する「エネルギー，エレクトロニクス，情報・通信」を修得することにより，自由な発想と学際的視野も持つ，科学技術の未来を拓く研究者，生活を豊かにする優れた技術者を養成する。

（電子工学科）

電子工学分野の豊富な知識と技術を有し，広い視野に立って科学と自然を理解し，意欲的に課題を発見して解決する能力，並びにコミュニケーション能力や応用力を備え，日々進展する最先端電子工学をリードできる高度な専門性をもつ人材を養成する。

（応用情報工学科）

情報工学の確かな基礎力を有し，ソフトウェアのみならずハードウェアのスキルを身に付け，意欲的に課題を発見して解決する能力，並びにリーダシップ・コミュニケーション能力を備え，情報処理・ネットワーク・組込システムをはじめとする情報技術の世界で将来を担う人材を養成する。

（物質応用化学科）

化学技術の向上は人々の生活を豊かにすることを目標にしており，そのために限りある資源・エネルギーを有効に使い，地球環境を守るための新しい物質変換やエネルギー再生システムの開発が必要である。これを目指し，必要な基礎知識と基礎技術を身に付け，外部に開かれた柔軟な発想によって，新しい物質や技術を開発できる化学技術者を養成する。

（物理学科）

物理学の思考方法を体得し，科学を論理的に考える力，応用力を持ち，学究に対する世界に通じるフロンティア精神を有する次世代の最先端を切り拓く，科学・技術の創成に貢献する人材を養成する。このために，物理学の基本法則の理解と実験による体験を重視し，学生個々が持つ能力を引き出し，広い視野を持ち，未知なる問題を創造的に解決する能力を身に付けさせる教育研究を行う。

（数学科）
現代のあらゆる科学技術の根幹をなす数学と，コンピュータ科学の基礎理論を学ぶことを通して，真理を重んじ追究する数理科学者を養成する。知的活動の真髄である数学のことばを身に付け，情報化された社会が必要とする高度な数理技術・情報処理技術に柔軟に対応でき，夢と目的意識を持つ人材を育てるプログラムを提供する。幅広い教育を実践する能力のある，中学校・高等学校の優秀な教員を養成することも，大切な教育目的である。

生 産 工 学 部

幅広い教養と経営管理能力を持ち，学生個々の個性・能力を生かして人類の幸福と安全を実現するために考え行動し，社会に貢献できる技術者を養成する。
このために，技術の進歩に対応できる基礎学力と応用能力，及び技術の社会と自然に及ぼす効果と影響について多面的に考える能力を培う。

（機械工学科）
機械工学は生産活動の基盤を支える学問であり，我々の生活を豊かにしてきた。近年，“機械”は人間や自然環境との調和を図ることが重要視され，長期的，広域的視野を持った技術者が必要とされている。このような背景から，機械の面白さやものづくりの楽しさを体感した経験を持ち，ものの作り方や使われ方を知り，自分が作りたいものを具体化して社会の理解を得ながら，ものづくりの現場をグローバルな視点からマネジメントできる人材を養成する。

（電気電子工学科）
産業構造の変革と高度情報化社会の進展に伴って，電気電子工学の進歩は著しく，また多様化している。これに対応できるように基礎学力と専門領域の知識を身に付け，さらに経営・管理工学を学び，実験・実習を通じて問題解決能力が高く，創造性豊かで，しかも経営能力も有する技術者を養成する。

（土木工学科）
土木分野に関する理論・現象を実験・実習・設計を通して習得するとともに，実社会における生産実習（企業体験）と経営や安全管理の基礎を学び，専門職の実務に対応できる基本能力を備えた技術者を養成する。さらに，習得した知識の集大成として，土木分野の課題を探究・創造・解決するプロセスを学び，土木技術者としての総合能力を養成する。

（建築工学科）
建築の基礎となる，「計画」，「構造」，「環境・設備」，「材料・施工」の総合的知識を持ち，高い倫理観のみならず，国際感覚，問題解決能力，応用能力，創造力，さらには発表能力・対話能力に重点をおいて，徹底的に教育指導をし，国際化が進む社会の要請に応えうる，そして経営能力も有する人材を養成する。

（応用分子化学科）
地球上に存在する物質は，わずか 100 種類ほどの元素の組み合わせによって成り立っている。これらの物質を対象に，豊かで安全な社会を維持させるために資源と環境を調和させながら，材料の無限の可能性を追求する教育研究を行っている。これによって，物質的な学問知識に加え，必要な特性を持つ素材を生み出す「分子デザイン能力」，環境に優しいものづくりのための「グリーンケミストリー」の概念，及び技術者としての倫理観を備え，製品化に向けた計画から生産するまでの「マネジメント能力」を身に付けた化学技術者を養成する。

（マネジメント工学科）

自然・社会・人間科学などの科学技術を応用した工学的知識をベースに，健全な企業経営の推進，自然・社会環境の向上，人にやさしい製品やシステムの開発・設計そして運用などにかかわる工学的理論や方法論を教育研究し，経済社会の活動を効果的に進めるため，グローバル化にも対応した経営・管理技術を身に付けた人材を養成する。

（数理情報工学科）

IT（情報技術）並びに ICT（情報通信技術）が，既存の生産活動並びにビジネスの仕組みを大きく変えるエンジンであるという認識に立ち，インターネットの活用法，各種プログラミング技法，ソフトウェア構築法などの情報処理能力，並びにシステム工学・数理工学に裏付けられた問題発見・解決能力を習得した人材を養成する。

（環境安全工学科）

地球規模の視野を持ち，持続発展可能な社会の実現のために工学分野を複合的に学び，環境共生とエネルギーに関する知識と応用能力及び技術が社会と自然に及ぼす効果と影響について，サステイナブル（持続可能）な視点から考え行動できる総合能力を有する技術者を養成する。

（創生デザイン学科）

自然科学をベースとする工学知識や技術，芸術を基礎とする感覚や技法，その両方を駆使して人と人工物の理想的な関係を築くことこそがデザインであると捉え，これを実践できる人材を育成することを目標とする。これを実現するために，統合された理論的なデザインの方法である「デザイン思考」の重要なステップ「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイピング」「テスト」をカリキュラムに取り入れ，社会全般を見渡して，新しい商品やしくみを提案したり，開発できるデザイン・エンジニアを養成する。

工　学　部

基礎教育の徹底により，工学の基礎力を修得し，自主的に考察し判断できる発想力及び解析能力を培う。さらに，工業技術が社会と環境に及ぼす影響を理解することにより，高い倫理観をもって調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献できる人間性豊かな技術者を養成する。

また，教育研究活動を通じて地球環境の保護と健康的な生活に工学の立場から寄与し，その成果を社会と地域に還元する。

（土木工学科）

社会基盤や環境の保全と防災力の向上，資源の循環など，これからの社会システムの基本とすべき事柄を正しく認識した上で，ものづくりに関する基礎技能，自然環境との共生を図る意識及び高い倫理観を有し，社会基盤の整備に実践的に従事できる人間性豊かな技術者を養成する。

（建築学科）

建築学に関する幅広い知識と，専門性の高い技術，さらに創造力豊かな芸術性を修得して，広く地域社会に通用する協調性のある人間性を身に付けるとともに，建築が果たすべき社会的使命としての倫理観や責任感を持った，実践力や指導力のある建築技術者，建築士，デザイナー，研究者，公務員，教員などの人材を養成する。

（機械工学科）

機械工学の基礎と専門分野の知識と技術の修得に重点を置き，機械と人間，社会，自然との関係を深く理解し，地球環境保護，エネルギー・資源再利用などの課題に対応でき，健康で持続可能な暮らしを実現するための知識を身に付けた機械エンジニアを養成する。

（電気電子工学科）

電気電子技術に関して社会貢献できる能力と物事を総合的に判断し得る能力を養うと共に，課題解決のためのチームワーク力と論理的思考力を身に付けることによって，今後の社会環境の変化により生じる新たな要望に対して良識ある倫理観をもって対応でき，かつ国際的視野に立って活躍するために必要なコミュニケーション能力に秀でた第一線で活躍できる情報通信・電気・電子分野の技術者を養成する。

（生命応用化学科）

21世紀を切り開く持続可能な社会システムの実現を目指し，生命・材料・環境等に関わる化学の応用分野の幅広い知識及び実験技術を修得し，高い倫理観と問題解決能力を有する人材を育成することで，生命や環境に配慮した化学製品や医薬品などの開発・生産・普及活動及び環境保全・リサイクル活動等に従事・貢献できる応用化学・環境化学・生命化学の技術者，教員，公務員，研究者等を養成する。

（情報工学科）

情報社会の基盤づくりに貢献できる技術者となるために，自然科学の知識を基礎として，プログラミング，ネットワーク，計算機システム，メディア処理，情報解析などの情報処理に関する基礎技術を修得し，問題を論理的に分析し目標の実現を図る論理的思考能力と実務処理能力を身に付け，他者との的確なコミュニケーション能力を有する人材を養成する。

医　学　部

医学を修める者の社会的責務を自覚し，常に自ら考え研鑽し，豊かな知識・教養に基づき社会に貢献する高い人間力を有する医師を育てる。さらに高い倫理感のもとに，論理的・批判的思考力を有し，世界へ発信できる学際的視野を持った研究者，豊かな個性を引き出し，次世代リーダーを育成する熱意ある教育者の育成を目的とする。

（医学科）

すべての人を平等に愛し，自己犠牲・献身を惜しまない心を持ち，醫学・醫療の道を通じて社会に貢献する者に相応しい資質と能力を備えた人材を育成する。

歯　学　部

歯学部の前身である東洋歯科医学校の創設者である佐藤運雄先生の唱えた「歯学を口腔に止めず，常に全身と関連づけて学ぶ」という医学的歯学を校是とした教育を基盤としている。さらに，人間教育としては，師による人格の教化と切磋琢磨を基本としている。

また，医療人として，生涯にわたり自己の資質の向上に努め，社会に有為なスキルの高い歯科医師を養成する。

（歯学科）

専門的知識や的確な医療技術と豊かな人間性を有する歯科医師を養成する。すなわち，幅広い教養と総合的な判断力の上に立って，常に最新の科学的情報を基にして問題を探究する能力の高揚と，診療に際して患者本位の歯科医療に携わることのできるスキルを備えた歯科医師を養成する。

松戸歯学部

口腔の健康は全身の健康を支えるという考えを基盤とし，それを具現化した「オーラルサイエンス（口腔科学）」の学びを礎に，自主創造の能力を養い，豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を持ち，論理的かつ批判的思考を用いた問題解決力と省察力を有し，歯科医療と歯科保健を通して生涯にわたり社会に貢献できる人材を育成する。

（歯学科）

口腔と全身の健康維持，増進に寄与するために，社会の多様なニーズに対応できる高い職業倫理を備え，あらゆる職種と協働し，地域医療と地域保健に貢献できる歯科医師を育成する。

生物資源科学部

今日，世界は食糧問題や環境問題をはじめ新興感染症など，多くの解決すべき問題を抱えている。生物資源科学部は，「生産・利用科学」，「生命科学」，「環境科学」の３分野を基軸として，自然や生物との共生を図り，人間活動を重視した教育研究を行っている。対象とする生物資源は，これらの問題を解決し，持続可能な社会を実現させる上で必須である。これらの教育と研究を通して，グローバルな視点をもち，課題を主体的に解決できる能力，優れた科学技術を備えた人間性豊かな人材を養成する。

（バイオサイエンス学科）

生物が持つ多様な情報・物質・機能を最大限に活用するためのバイオサイエンスに関する豊富な知識と，IT や AI を融合した先端的バイオテクノロジーを応用して様々な課題を主体的に解決し，持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（動物学科）

幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。

（海洋生物学科）

海洋生物と海洋環境の持続的な維持・管理，生物資源としての海洋生物の効率的な生産及び利用を中心に，関連する生命科学，生産科学，利用科学及び環境科学分野の知識・技術を身につけた人材を養成する。さらに，海洋生物とこれを取り巻く環境の保全や人類の豊かな生活の調和を創造できる能力を持った人材を養成する。

（森林学科）

森林環境とその管理に関わる諸問題を解決するために，森林及び自然環境に関する幅広い基礎知識を持ち，論理的な思考と現場での応用力を備えた人材の養成を目標としている。さらに，これらの豊富な知識，持続可能な森林の利用に関する技術を駆使して，環境に配慮した森林の活用，循環型社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（環境学科）

地球環境や地域環境，生態系が日常のくらしと調和した社会を創造できる人材や，バイオマスエネルギー開発など生物環境を科学的な観点から考察して，環境条件を持続させながら都市や社会を発展させることができる人材を養成する。

（アグリサイエンス学科）

世界に通用する次世代の高品質な農産物の生産及びブランド化を目的としたアグリビジネスに関する幅広い知識，高度な専門技術を身に付けた人材を養成する。

（食品開発学科）

新たな食品を創造するために，最先端の食品製造，並びに食品の栄養・機能を理解し，健康の維持・増進に役立ち，おいしくて安全な食品を開発することができる技術者・研究者を養成する。また，食品産業界を牽引し，国民の健康増進にも貢献

できる人材の養成を行う。
（食品ビジネス学科）
日本と世界の食料問題の解決と新たな食の創造に関する諸問題に貢献し，フードシステム，フードビジネスのリーダーとなるべき人材の育成を目指している。すなわち，食品に関する生産，加工，流通，消費に至るフードシステム形成の理論と技術教育を重視し，食品に関する科学及び技術を総合的に学び，「食」の専門家として社会に貢献できる人材を養成する。
（国際共生学科）
グローバル化・多様化の時代に不可欠な「多角的な視点から共生を図ることができる知識・思考力を備えた人材の育成」を学科の教育理念に掲げ，教養教育と専門教育の両面から総合的・学際的な教育を行い，かつ高度な専門的研究も行う。これによって，共生に関する知識・思考力を活かして国内外の生物資源を扱う産業分野で活躍できる人材，国際交流・国際協力に貢献できる人材を養成する。
（獣医保健看護学科）
愛玩動物の診療補助，適正な飼養，疾病の予防，リハビリテーション，公衆衛生など，動物の健康管理や看護に必要な専門知識と技術を幅広く修得し，獣医師と協働して実践的に活躍できる愛玩動物看護師を養成する。
（獣医学科）
獣医学は，動物医療を根幹として，動物の健康維持・増進を図るとともに，ヒトの健康と福祉に貢献することを目的としている。その達成のために，生命活動のメカニズムの探求や疾病の診断・治療・予防はもとより，公衆衛生，野生動物の保護及び環境保全など幅広い領域に対し，社会のニーズに応えることができる知識と技術を有した獣医師を養成する。
（生命農学科）
生産科学，生命科学，環境科学の3分野を体系的に教育し，農学を基盤として植物を中心とした分子生物学から生態学を含めた生命現象に関して，体系的な教育と先端的研究を行っている。特に，農学の中心となる生命科学分野を重点的に展開し，さらに緑地環境科学の分野を利用した技術が習得でき，それらの知識と技術を持った未来の農を担う人材を育成する。
（生命化学科）
動物・植物・微生物など全ての生命体とそれらを取り巻く資源，食料，環境などの多彩な分野に関して，化学的な視点に立って基礎から応用へと結びつける教育・研究を行う。豊富な実験実習と演習を通して高い技術力と実践能力を身につけ，また，化学的視点に立った講義を通して生命に係わる多様な問題に対応できる論理的な思考能力を養い，社会に貢献できる研究者，技術者を養成する。
（動物資源科学科）
動物が有する種々の能力及び機能に関する研究と教育を推進し，それらを応用して人類社会のために貢献することを目的としている。この目的を達成するために，学科の教育・研究の分野を動物生命科学，動物生産科学，動物環境科学及びそれらの学際領域としている。この教育・研究をとおして，多様化する社会の幅広い分野においても対応し得る応用力と思考力を有した人材を養成する。
（森林資源科学科）
森林環境，森林資源管理などにかかわる諸問題について，基礎知識を持ち，論理的な思考と現場での応用力と設計力を備え，専門家としての倫理観を持った人材の育成を目標としている。すなわち，森林及び自然環境を学ぶとともに，人類の共通

財産としての持続可能な資源の利用方法を習得し，森林を活用した新たな循環型社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（海洋生物資源科学科）

海洋生物資源の持続的かつ有効な維持管理を図るとともに効率的な生産及び利用に関連する生命科学，資源生産学並びに環境科学分野の知識を広く修める教育に重点を置いている。すなわち，幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力と，海洋生物環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造でき，かつ国際的にも通用する人材を養成する。

（生物環境工学科）

自然のシステムを活用し，生物資源を適切に利用した生産，生活環境の創造とその応用技術を多面的に学習することを基本としている。すなわち，水・土環境や地域環境，環境配慮型土木的技術，生態系と調和した計画・設計を可能とする環境配慮型建築を創造できる人材やバイオマスエネルギー開発など生物環境を工学的な観点から創造できる人材を養成する。

（食品生命学科）

新たな食品を創造する最先端の研究を展開し，基礎となる食品科学と生命科学とのかかわりを理解し，健康維持に役立ち，安全な食品を創造開発できる教育・研究を行う。また，食と生命に関する豊かな知識を持つ人材の養成に力を入れている。さらに，豊富な実験・実習を通じ実践的な知識を持ち，食品産業界を担っていく新しい知識と技術を兼ね備え，社会に貢献できる技術者，研究開発者を養成する。

（国際地域開発学科）

開発途上国の第一次産業を中心とした経済・社会開発，農業技術協力を含む農村開発，環境保全などの分野での人材の養成を目指す。さらに，問題解決能力，コミュニケーション能力及び国際感覚などを身に付け，農業・農村開発分野の専門家，国際機関の職員や現地進出企業など国内外で世界平和や国際貢献に尽力できる実践力を備えた人材を養成する。

（応用生物科学科）

生命体やそれを取り巻く環境について，基礎から応用まで広い分野の研究と教育を行なっている。近年，微生物・植物・動物のゲノム解析に基づく生命科学の生物産業への応用研究が社会から期待されており，この社会の要望に応えるようバイオサイエンスの専門的知識・技術を幅広く習得し，社会で実践的に活躍できる人材を養成する。

（くらしの生物学科）

「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の３つの分野を総合的かつ横断的に教授し，生物学に関する幅広い専門知識や技術を修得させるとともに地域との協働をはじめとした実践的な教育を実施して，優れたコミュニケーション能力，マネジメント能力を修得させ，自ら判断し，安全で安心な生活や持続型社会の創造に積極的に貢献できる生き抜く力を持った人材を養成する。

薬　学　部
「人類の保健，医療及び福祉に貢献する新しい薬学を創造する」という理念に基づいて，高度医療社会のニーズに応える医療薬学に重点を置いた特色ある教育・研究を推進し，医療人としての倫理観と高い専門性を備え，人の健康と医療の向上に貢献できる自主創造の気風を身に付けた薬剤師を養成する。 （薬学科） 薬学教育６年制の課程において，医薬品の安全かつ有効な活用，創薬科学，健康と環境に関する教育・研究を実践し，確かな薬学の基礎を身に付け，独創性と応用力並びに医療人としての心を育て，医療の担い手としての実践力を備えた薬剤師を養成する。

別表１の２（略）

別表２の１

学部＼項目		◎入学金	授業料	実験実習料	施設設備資金	教育充実料
学部	法学部	260,000	810,000②		1～4年次 各190,000②	
	文理学部（文学系）	260,000	830,000②	哲学・英文・ドイツ文 10,000② 史学・国文 20,000② 中国語中国文化・社会・教育 25,000② 社会福祉 60,000② 体育 80,000② 心理 70,000②	1～4年次 各190,000② 社会福祉 1～4年次 各200,000② 体育・心理 1～4年次 各220,000② 地理 1～4年次 各240,000②	
			1,060,000②	地理 60,000②		
	文理学部（理学系）	260,000	1,100,000②	物理 110,000② 生命科・化 140,000② 数学 70,000② 情報科 80,000② 地球科 60,000②	1～4年次 各240,000②	
	経済学部	260,000	810,000②		1～4年次 各170,000②	
	商学部	260,000	810,000②		1～4年次 各170,000②	
	芸術学部	260,000	1,110,000②	写真 100,000② 音楽 120,000② 演劇 70,000②	1～4年次 各400,000②	
			1,140,000②	（監督・撮影録音コース）150,000② 映画 （演技コース）80,000② （映像表現理論コース）100,000② 放送 100,000②		
			1,100,000②	美術 120,000② デザイン 90,000②		
			1,040,000②	文芸 50,000②		
	国際関係学部	260,000	890,000②		1～4年次 各200,000②	
	危機管理学部	260,000	860,000②		1～4年次 各200,000②	
	スポーツ科学部	260,000	800,000②	100,000②	1～4年次 各300,000②	

(昼)	理工学部	260,000	1,150,000②	数学 60,000② 土木・交通システム・建築・海洋建築・まちづくり・機械・精密機械・航空宇宙・電気・電子・応用情報・物質応用化学・物理 100,000②	1～4年次 各220,000②	
	生産工学部	260,000	1,100,000②	1年 80,000② 2年 90,000② 3年 100,000② 4年 100,000②	1～4年次 各220,000②	
	工学部	260,000	1,100,000②	1年 80,000② 2～4年 100,000②	1～4年次 各220,000②	
	医学部	1,000,000	2,500,000②	1年 350,000 2～6年 各350,000②	1～6年次 各1,500,000②	1年次 1,000,000 2～6年次各 1,000,000②
	歯学部	600,000	3,500,000②		1～6年次 各1,200,000②	1年次 1,600,000② 2～3年次各 600,000②
	松戸歯学部	600,000	3,500,000②		1～6年次 各800,000②	1年次 2,000,000② 2年次 1,000,000②
	生物資源科学部 食品ビジネス・国際共生・国際地域開発	260,000	850,000②	100,000②	1～4年次 各170,000②	
	生物資源科学部 獣医	260,000	1,500,000②	300,000②	1～6年次 各350,000②	
	生物資源科学部 その他の学科	260,000	1,050,000②	150,000②	1～4年次 各200,000②	
	薬学部	400,000	1,400,000②		1～6年次 各650,000②	
学部(夜)	法学部	160,000	470,000②		1～4年次 各100,000②	

(備考) 1　金額の単位は円

2　金額はすべて年額。ただし◎印は入学初年度のみ納入

3　○印の中の数字は分納回数

4　この表は，令和５年４月の入学者から適用する。

別表２の２

研究科（課程） ＼ 項目	◎入学金	授業料	実験実習料	施設設備資金	教育充実料
大学院 法学研究科（博士前期・後期）	200,000	580,000②		前期1～2年次 各150,000② 後期1～3年次	
（政治学専攻前期1年コース）	200,000	850,000②		150,000②	
新聞学研究科（博士前期・後期）	200,000	580,000②		150,000②	
文学研究科（博士前期・後期）	200,000	580,000②	教育学専攻 15,000② 心理学専攻 60,000②	前期1～2年次 各150,000② 後期1～3年次	
総合基礎科学研究科（博士前期・後期）	200,000	700,000②	80,000②	各300,000②	
経済学研究科（博士前期・後期）	200,000	730,000②		前期1～2年次 各170,000② 後期1～3年次	
商学研究科（博士前期・後期）	200,000	580,000②		前期1～2年次 各150,000② 後期1～3年次	
芸術学研究科（博士前期）	200,000	文芸 600,000② 映像 680,000② 造形 710,000② 音楽 710,000② 舞台 680,000②	文芸学専攻 40,000② 映像芸術専攻 100,000② 造形芸術専攻 90,000② 音楽芸術専攻 110,000② 舞台芸術専攻 70,000②	1～2年次 各200,000②	
（博士後期）	200,000	700,000②		1～3年次 各200,000②	
国際関係研究科（博士前期・後期）	200,000	博士前期 750,000② 博士後期 700,000②		前期1～2年次 各200,000② 後期1～3年次	
（前期1年コース）	200,000	1,100,000②		200,000②	
危機管理学研究科（修士）	200,000	580,000②		1～2年次 各150,000②	
スポーツ科学研究科（修士）	200,000	580,000②	15,000②	1～2年次 各150,000②	
理工学研究科（博士前期・後期）	200,000	博士前期 750,000② 博士後期 630,000②	数学専攻 40,000② その他の専攻 80,000②	前期1～2年次 各300,000② 後期1～3年次	
地理学専攻（博士前期・後期）	200,000	620,000②	50,000②	前期1～2年次 各200,000② 後期1～3年次	
生産工学研究科（博士前期・後期）	200,000	博士前期 700,000② 博士後期 630,000②	80,000②	前期1～2年次 各300,000② 後期1～3年次	

	工学研究科（博士前期・後期）	200,000	博士前期 700,000② 博士後期 630,000②	80,000②	前期1～2年次 各300,000② 後期1～3年次	
	医学研究科（博士）	200,000	700,000②		◎500,000	
	歯学研究科（博士）	200,000	800,000②		◎400,000	
	松戸歯学研究科（博士）	200,000	700,000②		◎500,000	
	生物資源科学研究科（博士前期・後期）	200,000	800,000②		前期1～2年次 各200,000② 後期1～3年次	
	生物資源経済学専攻	200,000	700,000②		前期1～2年次 各100,000② 後期1～3年次	
	獣医学研究科（博士）	200,000	850,000②		1～4年次 各200,000②	
	薬学研究科（博士）	200,000	600,000②		◎ 500,000	
	総合社会情報研究科（博士前期）	200,000	645,000②		1～2年次 各150,000②	
	（博士後期）	200,000	600,000②		1～3年次 各150,000②	
	法務研究科（専門職学位）	250,000	980,000②		1～3年次 各100,000②	

（備考）１　金額の単位は円

２　金額はすべて年額。ただし◎印は入学初年度のみ納入

３　○印の中の数字は分納回数

４　この表は，令和５年４月の入学者から適用する。

別表３

証明手数料

種類	摘要	金額（円）	備考
在学証明書	1通につき	100	
成績証明書	〃	200	
卒業証明書	〃	200	
卒業見込証明書	〃	100	
身上証明書	〃	100	
人物調査書	〃	100	
健康診断書	〃	100	
英文証明書（オリジナル）	〃	600	
英文証明書（コピー）	〃	200	
教員免許状取得見込証明書	〃	100	
教職単位証明書	〃	100	

学則の変更事項を記載した書類

1　第１章　総則
　生物資源科学部新学科設置に伴うもの
　大学組織（第３条第２項），学生定員（第 12 条第１項），学位（第 39 条），
　教職課程（第 65 条第１項）

2　第２章　教育課程及び履修方法
　生物資源科学部新学科設置に伴うもの
　教育課程及び履修方法（第 94 条の１，２）

3　附則
　生物資源科学部新学科設置に伴うもの
　収容定員に係る経過措置

4　別表
　生物資源科学部新学科設置に伴うもの
　教育研究上の目的（別表１の１），学費（別表２の１）

以　上

日 本 大 学 学 則 新 旧 対 照 表（案）

（新）

第１章　総　　則

第２節 大学組織

第３条 本大学は，学部及び大学院をもって，これを組織する。

２ 本大学の学部及び学科は，次のとおりである。

学　部　名	学　科　名	
〔法学部から松戸歯学部　省略〕		
生物資源科学部	バイオサイエンス学科	動　物　学　科
	海　洋　生　物　学　科	森　林　学　科
	環　境　学　科	アグリサイエンス学科
	食　品　開　発　学　科	食品ビジネス学科
	国　際　共　生　学　科	獣医保健看護学科
	獣　医　学　科	生　命　農　学　科
	生　命　化　学　科	動物資源科学科
	森林資源科学科	海洋生物資源科学科
	生物環境工学科	食　品　生　命　学　科
	国際地域開発学科	応用生物科学科
	くらしの生物学科	
〔薬学部　省略〕		

（旧）

第１章　総　　則

第２節 大学組織

第３条 本大学は，学部及び大学院をもって，これを組織する。

２ 本大学の学部及び学科は，次のとおりである。

学　部　名	学　科　名	
〔法学部から松戸歯学部　省略〕		
生物資源科学部	生　命　農　学　科	生　命　化　学　科
	獣　医　学　科	動物資源科学科
	食品ビジネス学科	森林資源科学科
	海洋生物資源科学科	生物環境工学科
	食　品　生　命　学　科	国際地域開発学科
	応用生物科学科	くらしの生物学科
〔薬学部　省略〕		

第４節 学生定員

第 12 条 本大学学部の学生定員は，次のとおりである。

第一部

学部名	学科名	毎年入学定員	収容定員
〔法学部から松戸歯学部　省略〕			
生物資源科学部	バイオサイエンス学科	210	840
	動物学科	136	544
	海洋生物学科	146	584
	森林学科	120	480
	環境学科	130	520
	アグリサイエンス学科	140	560
	食品開発学科	146	584
	食品ビジネス学科	146	584
	国際共生学科	146	584
	獣医保健看護学科	80	320
	獣医学科	120	720
	生命農学科	0	0
	生命化学科	0	0
	動物資源科学科	0	0
	森林資源科学科	0	0
	海洋生物資源科学科	0	0
	生物環境工学科	0	0
	食品生命学科	0	0
	国際地域開発学科	0	0
	応用生物科学科	0	0
	くらしの生物学科	0	0
	計	1,520	6,320

第４節 学生定員

第 12 条 本大学学部の学生定員は，次のとおりである。

第一部

学部名	学科名	毎年入学定員	収容定員
〔法学部から松戸歯学部　省略〕			
生物資源科学部	生命農学科	130	520
	生命化学科	130	520
	獣医学科	120	720
	動物資源科学科	136	544
	食品ビジネス学科	136	544
	森林資源科学科	130	520
	海洋生物資源科学科	136	544
	生物環境工学科	130	520
	食品生命学科	136	544
	国際地域開発学科	130	520
	応用生物科学科	126	504
	くらしの生物学科	80	320
	計	1,520	6,320

〔薬学部　省略〕

第二部　〔表省略〕

〔薬学部　省略〕

第二部　〔表省略〕

第８節　卒業及び学士の学位

第38条　第20条に定めた修業年限に達し，所定の授業科目及び単位を修得し，卒業した者に学士の学位を授与する。

第39条　前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

学部名	学科名	専攻分野の名称
〔法学部から松戸歯学部　省略〕		
生物資源科学部	バイオサイエンス学科 動物学科 海洋生物学科 森林学科 環境学科 アグリサイエンス学科 食品開発学科 食品ビジネス学科 国際共生学科 獣医保健看護学科 生命農学科 生命化学科 動物資源科学科 森林資源科学科 海洋生物資源科学科 生物環境工学科 食品生命学科 国際地域開発学科 応用生物科学科 くらしの生物学科	生物資源学
	獣医学科	獣医学
〔薬学部　省略〕		

第８節　卒業及び学士の学位

第38条　第20条に定めた修業年限に達し，所定の授業科目及び単位を修得し，卒業した者に学士の学位を授与する。

第39条　前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

学部名	学科名	専攻分野の名称
〔法学部から松戸歯学部　省略〕		
生物資源科学部	生命農学科 生命化学科 動物資源科学科 食品ビジネス学科 森林資源科学科 海洋生物資源科学科 生物環境工学科 食品生命学科 国際地域開発学科 応用生物科学科 くらしの生物学科	生物資源学
	獣医学科	獣医学
〔薬学部　省略〕		

第12節　教職課程

第64条　本大学に，教職課程を置く。

2　教育職員の免許状を必要とする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び同法施行規則に基づき，本大学に設置する教職課程について，所定の単位を修得しなければならない。

3　教科及び教職に関する科目（各教科の指導法に関する科目，教諭の教育の基礎的理解に関する科目等）は，次のとおりである。

（表省略）

第65条　本大学の学部において，取得できる教員免許状は，次の表に掲げるとおりとする。

1　中学校一種免許状及び高等学校一種免許状

第一部

学部名	学科名	免許教科の種類	
		中学校一種免許状	高等学校一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史　公民
	政治経済学科	社会	地理歴史　公民
	新聞学科	社会	地理歴史　公民
	経営法学科	社会	公民
	公共政策学科	社会	地理歴史　公民
文理学部	哲学科	社会　宗教	公民　宗教
	史学科	社会	地理歴史
	国文学科	国語	国語　書道
	中国語中国文化学科	国語　中国語	国語　中国語
	英文学科	英語	英語
	ドイツ文学科	ドイツ語	ドイツ語
	社会学科	社会	公民
	教育学科	社会	公民
	体育学科	保健体育	保健体育
	地理学科	社会　理科	地理歴史　理科
	地球科学科	理科	理科
	数学科	数学	数学
	情報科学科	数学	数学　情報
	物理学科	理科	理科

第12節　教職課程

第64条　本大学に，教職課程を置く。

2　中学校及び高等学校の教育職員の免許状を必要とする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び同法施行規則に基づき，本大学に設置する教職課程について，所定の単位を修得しなければならない。

3　教科及び教職に関する科目（各教科の指導法に関する科目，教諭の教育の基礎的理解に関する科目等）は，次のとおりである。

（表省略）

第65条　本大学の学部において，取得できる中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の免許教科の種類は，次の表に掲げるとおりとする。

第一部

学部名	学科名	免許教科の種類	
		中学校一種免許状	高等学校一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史　公民
	政治経済学科	社会	地理歴史　公民
	新聞学科	社会	地理歴史　公民
	経営法学科	社会	公民
	公共政策学科	社会	地理歴史　公民
文理学部	哲学科	社会　宗教	公民　宗教
	史学科	社会	地理歴史
	国文学科	国語	国語　書道
	中国語中国文化学科	国語　中国語	国語　中国語
	英文学科	英語	英語
	ドイツ文学科	ドイツ語	ドイツ語
	社会学科	社会	公民
	教育学科	社会	公民
	体育学科	保健体育	保健体育
	地理学科	社会　理科	地理歴史　理科
	地球科学科	理科	理科
	数学科	数学	数学
	情報科学科	数学	数学　情報
	物理学科	理科	理科

	生命科学科	理科	理科
	化学科	理科	理科
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民 商業
	産業経営学科	社会	公民 商業
商学部	商業学科		商業
	経営学科		商業
	会計学科		商業
芸術学部	美術学科	美術	美術 工芸
	音楽学科	音楽	音楽
	文芸学科	国語	国語
	デザイン学科	美術	美術 工芸
国際関係学部	国際教養学科	英語	英語
理工学部	土木工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	交通システム工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	建築学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	海洋建築工学科	技術	工業
	まちづくり工学科		工業
	機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	精密機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	航空宇宙工学科	技術	工業
	電気工学科	数学 理科 技術	数学 理科 情報 工業
	電子工学科	技術	情報 工業
	応用情報工学科	数学	数学 情報
	物質応用化学科	理科 技術	理科 工業
	物理学科	数学 理科	数学 理科 情報
	数学科	数学	数学 情報
生産工学部	機械工学科	理科	理科 工業
	電気電子工学科	理科	理科 工業
	土木工学科	理科	理科 工業
	建築工学科	理科	理科 工業
	応用分子化学科	理科	理科 工業
	マネジメント工学科		工業

	生命科学科	理科	理科
	化学科	理科	理科
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民 商業
	産業経営学科	社会	公民 商業
商学部	商業学科		商業
	経営学科		商業
	会計学科		商業
芸術学部	美術学科	美術	美術 工芸
	音楽学科	音楽	音楽
	文芸学科	国語	国語
	デザイン学科	美術	美術 工芸
国際関係学部	国際教養学科	英語	英語
理工学部	土木工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	交通システム工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	建築学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	海洋建築工学科	技術	工業
	まちづくり工学科		工業
	機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	精密機械工学科	数学 理科 技術	数学 理科 工業
	航空宇宙工学科	技術	工業
	電気工学科	数学 理科 技術	数学 理科 情報 工業
	電子工学科	技術	情報 工業
	応用情報工学科	数学	数学 情報
	物質応用化学科	理科 技術	理科 工業
	物理学科	数学 理科	数学 理科 情報
	数学科	数学	数学 情報
生産工学部	機械工学科	理科	理科 工業
	電気電子工学科	理科	理科 工業
	土木工学科	理科	理科 工業
	建築工学科	理科	理科 工業
	応用分子化学科	理科	理科 工業
	マネジメント工学科		工業

	数理情報工学科	数学	数学　情報
	環境安全工学科	理科	理科　工業
	創生デザイン学科	理科	理科　工業
工学部	土木工学科	技術	工業
	建築学科	技術	工業
	機械工学科	技術	工業
	電気電子工学科	技術	情報　工業
	生命応用化学科	理科	理科
	情報工学科	数学	数学　情報
生物資源科学部	バイオサイエンス学科	理科	理科　農業
	動物学科	理科	理科
	海洋生物学科	理科	理科　水産
	森林学科	理科	理科　農業
	環境学科	理科	理科
	アグリサイエンス学科	理科	理科　農業
	食品開発学科	理科	理科
	食品ビジネス学科	社会	公民　農業
	国際共生学科	社会	地理歴史　公民
	獣医保健看護学科	理科	理科
	獣医学科	理科	理科

	数理情報工学科	数学	数学　情報
	環境安全工学科	理科	理科　工業
	創生デザイン学科	理科	理科　工業
工学部	土木工学科	技術	工業
	建築学科	技術	工業
	機械工学科	技術	工業
	電気電子工学科	技術	情報　工業
	生命応用化学科	理科	理科
	情報工学科	数学	数学　情報
生物資源科学部	生命農学科	理科	理科　農業
	生命化学科	理科	理科　農業
	獣医学科	理科	理科
	動物資源科学科	理科	理科　農業
	食品ビジネス学科	社会	公民　農業
	森林資源科学科	理科	理科　農業
	海洋生物資源科学科	理科	理科　水産
	生物環境工学科	理科	理科
	食品生命学科	理科	理科
	国際地域開発学科	社会	公民　農業
	応用生物科学科	理科	理科

第二部

法　学　部	法　　律　　学　　科	社会	地理歴史　公民

2　特別支援学校教論一種免許状

学　部　名	学　　科　　名	免許状の特別支援教育領域
文理学部	教　　育　　学　　科	知的障害者　肢体不自由者　病弱者

第66条　前条の免許状は，所属学部によってその授業科目を限定されることなく，所定の単位の修得によってこれを授与されるものとする。

第67条　所定の単位の修得によって，２種以上の免許状を受けることができる。この場合，同一授業科目についての修得単位は相互の流用が認められる。

第68条　授業科目の種類によっては，教職課程によって修得した単位の若干を，学部において修得すべき単位数の中に含めることができる。

第69条　本大学に，２年以上在学して所定の単位を修得した者には，中学校教論二種免許状が授与される。

第70条　本大学に，４年以上在学して学士の学位を有し，所定の単位を修得した者には，基礎資格及び修得単位に応じて中学校教論一種免許状，高等学校教論一種免許状が授与される。

第71条　普通免許状を有する者で，本大学の所定の単位を修得した者は，基礎資格及び修得単位に応じて特別支援学校教論一種免許状の授与を受けることができる。

第二部

法　学　部	法　　律　　学　　科	社会	地理歴史　公民

第66条　前条の免許状は，所属学部によってその授業科目を限定されることなく，所定の単位の修得によってこれを授与されるものとする。

第67条　所定の単位の修得によって，２種以上の免許状を受けることができる。この場合，同一授業科目についての修得単位は相互の流用が認められる。

第68条　授業科目の種類によっては，教職課程によって修得した単位の若干を，学部において修得すべき単位数の中に含めることができる。

第69条　本大学に，２年以上在学して所定の単位を修得した者には，中学校教論二種免許状が授与される。

第70条　本大学に，４年以上在学して学士の学位を有し，所定の単位を修得した者には，基礎資格及び修得単位に応じて中学校教論一種免許状，高等学校教論一種免許状が授与される。

第71条　（削除）

生 物 資 源 科 学 部 学 則 新 旧 対 照 表

（新）

第２章　教育課程及び履修方法

第15節　生物資源科学部

第94条の１　生物資源科学部における各学科（バイオサイエンス学科，動物学科，海洋生物学科，森林学科，環境学科，アグリサイエンス学科，食品開発学科，食品ビジネス学科，国際共生学科，獣医保健看護学科，獣医学科）の授業科目及びその単位数並びに履修方法は，次のとおりである。卒業に必要な総単位数は，科目区分ごとに履修方法に定めた単位数（学芸員課程科目を除く）を含め，総計124単位以上を，ただし獣医学科については184単位以上を修得しなければならない。

１　全学共通教育科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
自主創造の基礎	2		2		
日本を考える	2		2		

２　教養教育科目（各学科共通）

全学共通教育科目及び教養教育科目のうちから必修科目を含めて，30単位以上（獣医保健看護学科及び獣医学科は24単位以上）を修得しなければならない。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
言語系科目					
英語ⅠA	1	1		バイオサイエンス学科は基礎化学，基礎生物学，データサイエンスの基礎，動物学科は基礎生物学，環境学科は基礎化学，基礎生物学，アグリサイエンス学科は基礎化学，基礎生物学，獣医保健看護学科は基礎生物学，総合生物学，獣医学科は基礎生物学，総合生物学を必修とする。 言語系科目のうち，外国人留学生は母語を履修することはできない。英語を母語とする外国人留学生は，英語ⅠA，英語ⅠB，英語ⅡA，英語ⅡB，英語ⅢA，英語ⅢB，英語ⅣA，英語ⅣBを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。	
英語ⅠB	1	1			
英語ⅡA	1	1			
英語ⅡB	1	1			
英語ⅢA	1	1			
英語ⅢB	1	1			
英語ⅣA	1	1			
英語ⅣB	1	1			
初級ドイツ語文法A	1		1		
初級ドイツ語文法B	1		1		
初級ドイツ語講読A	1		1		
初級ドイツ語講読B	1		1		
初級ドイツ語会話A	1		1		
初級ドイツ語会話B	1		1		
中級ドイツ語講読A	1		1		

（旧）

第２章　教育課程及び履修方法

第15節　生物資源科学部

第94条　生物資源科学部における各学科の授業科目及びその単位数並びに履修方法は，次のとおりである。卒業に必要な総単位数は履修方法に定める単位を含めて，合計124単位以上を，ただし獣医学科については188単位以上を修得しなければならない。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設
						〃

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃

中級ドイツ語講読B	1		1	また，日本語Ⅰ，日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。 国際共生学科においては，言語系科目のうち，英語以外の外国語の中から一つ選択し，初級文法A・初級文法B及び初級会話A・初級会話Bの4単位を修得しなければならない。							新設
検定ドイツ語A	1		1									〃
検定ドイツ語B	1		1									〃
初級フランス語文法A	1		1									〃
初級フランス語文法B	1		1									〃
初級フランス語会話A	1		1									〃
初級フランス語会話B	1		1									〃
初級スペイン語文法A	1		1									〃
初級スペイン語文法B	1		1									〃
初級スペイン語会話A	1		1									〃
初級スペイン語会話B	1		1									〃
初級中国語文法A	1		1									〃
初級中国語文法B	1		1									〃
初級中国語会話A	1		1									〃
初級中国語会話B	1		1									〃
中級中国語文法	1		1									〃
中級中国語会話	1		1									〃
初級韓国語文法A	1		1									〃
初級韓国語文法B	1		1									〃
初級韓国語会話A	1		1									〃
初級韓国語会話B	1		1									〃
日本語Ⅰ	1		1									〃
日本語Ⅱ	1		1									〃
人文･社会系科目												
日本語表現の基礎	2		2									新設
日本の文学	2		2									〃
哲学入門	2		2									〃
哲学の現在	2		2									〃
倫理学入門	2		2									〃
倫理学の現在	2		2									〃
心理学入門	2		2									〃
行動心理学	2		2									〃
個性の心理学	2		2									〃
文化人類学入門	2		2									〃
環境の文化人類学	2		2									〃
比較文化論	2		2									〃
比較芸術論	2		2									〃
法学入門	2		2									〃
日本国憲法	2		2									〃
社会学入門	2		2									〃

政治学入門	2		2											新設
政治と現代社会	2		2											〃
経済学入門	2		2											〃
経済と現代社会	2		2											〃
地理学入門	2		2											〃
歴史学入門	2		2											〃
社会学の現在	2		2											〃
現代社会と福祉	2		2											〃
世界の歴史	2		2											〃
日本の歴史	2		2											〃
地理学の現在	2		2											〃
自然系科目														
物理学入門	2		2											新設
基礎力学	2		2											〃
基礎化学	2		2											〃
基礎生物学	2		2											〃
基礎地球科学	2		2											〃
統計学入門	2		2											〃
推計学入門	2		2											〃
解析学	2		2											〃
線形代数	2		2											〃
物理学演習	1		1											〃
総合生物学	2		2											〃
総合化学	2		2											〃
総合地球科学	2		2											〃
健康・スポーツ系科目														
スポーツ実技Ⅰ	1	1												新設
スポーツ実技Ⅱ	1		1											〃
スポーツ実技Ⅲ	1		1											〃
スポーツ実技Ⅳ	1		1											〃
スポーツ科学	2		2											〃
総合系科目														
データサイエンスの基礎	2		2											新設
情報科学	2		2											〃
科学史	2		2											〃
科学技術と社会	2		2											〃
地球環境を考える	2		2											〃
生命倫理	2		2											〃
ボランティア論	1		1											〃

3　基礎専門科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
海外フィールド実習	1		1		

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設

4　専門教育科目

基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，94単位以上（獣医保健看護学科は100単位以上，獣医学科は160単位以上）を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目を修得した者については，20単位を超えない範囲で所属学科の専門教育科目の選択科目を修得したものとみなす。

Ⅰ　バイオサイエンス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門基礎領域					
アクティブラーニング・PBL科目					
バイオサイエンス入門	2	2			
バイオサイエンス体験	2	2			
バイオサイエンス演習Ⅰ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅱ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅲ	1		1		
バイオサイエンス演習Ⅳ	1		1		
バイオサイエンス英語Ⅰ	1		1		
バイオサイエンス英語Ⅱ	1		1		
バイオ英語プレゼンテーションⅠ	1		1		
バイオ英語プレゼンテーションⅡ	1		1		
専門共通コア科目					
細胞生物学	2	2		バイオサイエンス解析法Ⅰ バイオサイエンス解析法Ⅱ バイオサイエンス解析法Ⅲ のうちから2単位を選択必修とする。	
有機化学	2	2			
分子生物学	2	2			
バイオサイエンス概論	2	2			
微生物学	2	2			
生物の有機化学	2	2			
ゲノム生物学	2	2			
生命とバイオの倫理	2	2			
分析化学	2		2		
生体分子の構造解析	2		2		
AIと生命情報科学	2		2		
バイオサイエンス解析法Ⅰ	2		2		
バイオサイエンス解析法Ⅱ	2		2		

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃

バイオサイエンス解析法Ⅲ	2		2										新設
バイオインフォマティクス	2		2										〃
分子間相互作用学	2		2										〃
生物統計解析学	2		2										〃
革新的バイオ産業の創出	2		2										〃
食品衛生学	2		2										〃
専門科目													
栄養科学	2	2											新設
分子栄養学	2	2											〃
タンパク質と酵素の科学	2	2											〃
ケミカルバイオロジー	2	2											〃
ＤＮＡテクノロジー	2	2											〃
植物の細胞生理	2	2											〃
微生物生理学	2	2											〃
病態生化学	2	2											〃
バイオサイエンス研究Ⅰ	3	3											〃
バイオサイエンス研究Ⅱ	3	3											〃
実験系科目													
栄養と健康科学実験Ⅰ	1		1	「栄養と健康科学実験Ⅰ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅰ，微生物と植物実験Ⅰ」，「栄養と健康科学実験Ⅱ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅱ，微生物と植物実験Ⅱ」，「栄養と健康科学実験Ⅲ，発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅲ，微生物と植物実験Ⅲ」から，各1単位を選択必修とする。									新設
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅰ	1		1										〃
微生物と植物実験Ⅰ	1		1										〃
栄養と健康科学実験Ⅱ	1		1										〃
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅱ	1		1										〃
微生物と植物実験Ⅱ	1		1										〃
栄養と健康科学実験Ⅲ	1		1										〃
発酵とケミカルバイオロジー実験Ⅲ	1		1										〃
微生物と植物実験Ⅲ	1		1										〃
専門応用領域													
栄養・健康科学系科目													
栄養と健康科学	2		2										新設
人体と生命の科学	2		2										〃
食と健康科学	2		2										〃
代謝生化学	2		2										〃
栄養機能学	2		2										〃
アレルギーの科学	2		2										〃
サプリメントと薬理学	2		2										〃
スポーツと健康科学	2		2										〃
インダストリーと栄養	2		2										〃
発酵・ケミカルバイオロジー系科目													
バイオマスを知る	2		2										新設

分子創生の科学	2		2										新設
発酵科学	2		2										〃
バイオマスを活かす	2		2										〃
生理活性物質の科学	2		2										〃
バイオマス発酵学	2		2										〃
創薬科学	2		2										〃
天然物化学	2		2										〃
サスティナブルイノベーション	2		2										〃
医薬と香粧品化学	2		2										〃
微生物・植物系科目													
微生物遺伝学	2		2										新設
遺伝子とゲノムの情報学	2		2										〃
植物細胞分子生物学	2		2										〃
微生物機能利用学	2		2										〃
インダストリーと微生物	2		2										〃
植物と微生物の相互作用	2		2										〃
オミクス解析学	2		2										〃
エピジェネティクスとゲノム編集	2		2										〃
植物免疫学	2		2										〃
植物のシグナル伝達	2		2										〃
スマートセルインダストリー	2		2										〃
植物の機能と制御	2		2										〃
広域基礎科目													
生物資源科学概論	2		2										新設
生物学概論Ⅰ	2		2										〃
生物学概論Ⅱ	2		2										〃
物理学概論Ⅰ	2		2										〃
物理学概論Ⅱ	2		2										〃
化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										〃
職業指導	4		4										〃
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

Ⅱ　動物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基盤領域					
最新の動物学	2	2		フィールド調査実習 動物自然史博物学実習 動物学応用実験 保全生物学実習 のうちから1単位以上を選択必修とする。	
動物の多様性	2	2			
動物細胞生物学	2	2			
生化学	2	2			
動物遺伝学	2	2			
動物生理学	2	2			
動物形態学	2	2			
動物系統分類学	2	2			
動物学基礎実験Ⅰ	1	1			
分子生物学	2	2			
哺乳類・鳥類学	2	2			
昆虫体系学	2	2			
動物学基礎実験Ⅱ	1	1			
両生類・爬虫類学	2	2			
基礎栄養学	2	2			
動物組織学	2	2			
動物科学論文講読	1	1			
生物統計学	2	2			
動物の福祉と倫理	2	2			
応用領域					
動物生命史系科目					
動物行動学	2		2		
動物生態学	2		2		
フィールド生態調査法	2		2		
動物自然史博物学	2		2		
応用昆虫学	2		2		
海岸生物学	2		2		
フィールド調査実習	1		1		
動物学史	2		2		
古動物学	2		2		
動物自然史博物学実習	1		1		
動物地理学	2		2		
動物生命科学系科目					
動物発生学	2		2		
免疫生物学	2		2		
微生物学	2		2		

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						新設
						〃
						〃

実験動物学	2		2										〃
生殖生物学	2		2										〃
応用免疫学	2		2										新設
動物学応用実験	1		1										〃
神経生物学	2		2										〃
生物情報学	2		2										〃
再生生物学	2		2										〃
時間生物学	2		2										〃
動物バイオテクノロジー	2		2										〃
動物の保全と環境系科目													
環境科学	2		2										新設
外来動物管理学	2		2										〃
野生動物管理学	2		2										〃
保全生物学	2		2										〃
動物園飼育管理学	2		2										〃
動物と社会	2		2										〃
都市動物学	2		2										〃
動物心理学	2		2										〃
保全生物学実習	1		1										〃
動物の採餌と飼料	2		2										〃
野生動物と飼育動物の感染症学	2		2										〃
展開領域													
動物学特別講義	1		1										新設
動物学演習	1	1											〃
動物学研究Ⅰ	3	3											〃
動物学研究Ⅱ	3	3											〃
広域基礎科目													
生物資源科学概論	2		2										新設
生物学概論Ⅰ	2		2										〃
生物学概論Ⅱ	2		2										〃
物理学概論Ⅰ	2		2										〃
物理学概論Ⅱ	2		2										〃
化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										〃
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

Ⅲ　海洋生物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門共通系科目					
海洋生物学概論	2	2		生物機能化学実験 水族生理学実験 漁業生産システム学実験 魚病学実験 水産利用学実験 食品衛生学実験 海洋環境学実験 水族生態学実験 のうちから4科目以上を修得すること。	
海洋基礎実習Ⅰ	1	1			
海洋基礎実習Ⅱ	1	1			
水族館論	2		2		
海洋生物展示学	2		2		
海洋基礎生物	2		2		
海洋基礎化学	2		2		
海洋基礎物理	2		2		
小型船舶操縦法実習	1		1		
海洋生物展示学実習	1		1		
海洋生物学演習Ⅰ	1	1			
海洋生物学演習Ⅱ	1	1			
海洋生物学実習Ⅰ	1	1			
海洋生物学実習Ⅱ	1	1			
海洋特別講義	2		2		
水産経済学	2		2		
バイオインフォマティクス論	2		2		
水族統計学	2		2		
学外研修	1		1		
海洋生物学研究Ⅰ	3	3			
海洋生物学研究Ⅱ	3	3			
生命科学系科目					
魚類学	2	2			
無脊椎動物学	2	2			
海生ほ乳類学	2		2		
軟骨魚類学	2		2		
生化学	2	2			
生物機能化学実験	1		1		
水族生理学	2		2		
細胞組織学	2		2		
生物機能化学	2		2		
水族生理学実験	1		1		
水族免疫学	2		2		
栄養生理学	2		2		
生産科学系科目					
増養殖学	2	2			

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						新設

魚病学	2		2											〃
水族発生学	2		2											〃
漁業生産システム学実験	1		1											新設
漁業生産システム学	2		2											〃
魚病学実験	1		1											〃
行動生態学	2		2											〃
水産資源学	2		2											〃
水族環境学	2		2											〃
魚類繁殖行動学	2		2											〃
魚群行動学	2		2											〃
遺伝育種学	2		2											〃
利用科学系科目														
水産利用学	2	2												新設
水産利用学実験	1		1											〃
食品衛生学実験	1		1											〃
水産食品化学	2		2											〃
生物有機化学	2		2											〃
海洋微生物学	2		2											〃
食品微生物学	2		2											〃
分析化学	2		2											〃
食品加工学	2		2											〃
ケミカルバイオロジー	2		2											〃
食品衛生学	2		2											〃
環境科学系科目														
海洋環境学	2	2												新設
プランクトン学	2		2											〃
藻類学	2		2											〃
海洋環境学実験	1		1											〃
深海生物学	2		2											〃
底生生物学	2		2											〃
マリントキシン	2		2											〃
水族生態学実験	1		1											〃
水族生態学	2		2											〃
海洋環境化学	2		2											〃
広域基礎科目														
生物資源科学概論	2		2											新設
生物学概論Ⅰ	2		2											〃
生物学概論Ⅱ	2		2											〃
物理学概論Ⅰ	2		2											〃
物理学概論Ⅱ	2		2											〃

化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										新設
職業指導	4		4										〃
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

Ⅳ　森林学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
共通科目												
森林概論Ⅰ	2	2		選択科目の実験，実習，演習のうち，「森林生物・機能関連科目」，「森林共生関連科目」，「バイオマス利用関連科目」の3つの中から1つ以上の関連科目群について2科目以上を修得すること。								新設
森林概論Ⅱ	2	2										〃
実践森林学	2	2										〃
森林基礎実習	1	1										〃
森林フィールド実習	1		1									〃
森林特別演習Ⅰ	1	1										〃
森林特別演習Ⅱ	1	1										〃
森林特別演習Ⅲ	1	1										〃
森林特別演習Ⅳ	1	1										〃
森林学研究Ⅰ	3	3										〃
森林学研究Ⅱ	3	3										〃
森林科学英語	2		2									〃
森林生物・機能関連科目												
森林植物学	2	2										新設
森林生態学	2	2										〃
森林微生物学	2	2										〃
森林基礎環境学	2	2										〃
森林育成学	2	2										〃
森林気象学	2	2										〃
森林環境修復学	2		2									〃
森林基礎工学	2		2									〃
森林土壌学	2		2									〃
森林動物学	2		2									〃
森林昆虫学	2		2									〃
森林生態学実習	1		1									〃
森林微生物学実習	1		1									新設

森林病理学	2		2											〃
森林生物多様性論	2		2											〃
森林環境保全学	2		2											新設
森林災害論	2		2											〃
きのこ学	2		2											〃
森林育成学実習	1		1											〃
森林気象学演習	1		1											〃
森林生物多様性実習	1		1											〃
森林微生物学実験	1		1											〃
森林環境保全学演習	1		1											〃
樹木・木材保存学	2		2											〃
樹木医概論	2		2											〃
森林共生関連科目														
森林管理学	2	2												新設
森林政策学	2	2												〃
森林計測学	2		2											〃
森林環境教育論	2		2											〃
森林バイオマス生産学	2		2											〃
森林機械学	2		2											〃
森林測量学	2		2											〃
森林計測学実習	1		1											〃
森林測量学実習	1		1											〃
森林アメニティ論	2		2											〃
森林ツーリズム論	2		2											〃
森林ビジネス論	2		2											〃
森林空間情報学	2		2											〃
森林空間情報学実習	1		1											〃
バイオマス利用関連科目														
森林基礎材料学	2	2												新設
森林基礎成分学	2	2												〃
木造住宅論	2	2												〃
森林資源材料学	2		2											〃
森林資源成分学	2		2											〃
バイオマス資源利用学	2		2											〃
森林資源材料学実験	1		1											〃
森林資源成分学実験	1		1											〃
インテリアプランニング概論	2		2											〃
木材構造利用学	2		2											〃
バイオマス資源利用学実験	1		1											〃
木材計測学実験	1		1											〃

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
広域基礎科目					
生物資源科学概論	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
職業指導	4		4		
化学実験	2		2		
物理学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	(変更の内容)

Ⅴ　環境学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
共通・基礎分野科目					
環境の法則	2	2		「地理情報リモートセンシング実習Ⅰ，地理情報リモートセンシング実習Ⅱ」，「水環境学実験Ⅰ，水環境学実験Ⅱ」，「土環境学実験Ⅰ，土環境学実験Ⅱ」，「指標生物学実習Ⅰ，指標生物学実習Ⅱ」，「環境の材料と構造実験Ⅰ，環境の材料と構造実験Ⅱ」，「緑地環境学実習Ⅰ，緑地環境学実習Ⅱ」，「環境アセスメント調査Ⅰ，環境アセスメント調査Ⅱ」の中から2単位を選択必修とする。	
環境学概論	2	2			
生態学	2	2			
環境学基礎実験Ⅰ	1	1			
環境学基礎実験Ⅱ	1	1			
自然物質循環学	2	2			
環境計測学	2	2			
環境アセスメント	2	2			
環境計測学実習	1	1			
陸域環境学	2		2		
環境修復学	2	2			
環境学演習Ⅰ	1	1			
環境学演習Ⅱ	1	1			
環境統計学	2		2		
環境のリスクマネジメント	2		2		
専門英語	2		2		
再生可能エネルギー学	2		2		
環境学特別講義	2		2		
環境学演習Ⅲ	1	1			
環境学演習Ⅳ	1	1			

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	(変更の内容)
						新設
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃
						〃

環境学研究Ⅰ	3	3												〃
環境学研究Ⅱ	3	3												〃
環境技術者倫理	2		2											新設
地球環境系科目														
地球環境学	2	2												新設
大気環境学	2	2												〃
気象学	2		2											〃
地球温暖化対策	2		2											〃
地理情報リモートセンシング実習Ⅰ	1		1											〃
地理情報リモートセンシング実習Ⅱ	1		1											〃
自然環境系科目														
植生学	2	2												新設
生物圏水循環学	2	2												〃
保全生物学	2	2												〃
土壌科学分析	2	2												〃
水質分析法	2	2												〃
指標生物学	2	2												〃
土の力学	2		2											〃
水の流れの科学	2		2											〃
陸域保全学	2		2											〃
土壌循環学	2		2											〃
地域再生学	2		2											〃
水圏環境学	2		2											〃
河川生態学	2		2											〃
環境微生物学	2		2											〃
湿地環境学	2		2											〃
水圏環境工学	2		2											〃
河川環境の防災	2		2											〃
水圏生物学	2		2											〃
水環境学実験Ⅰ	1		1											〃
水環境学実験Ⅱ	1		1											〃
土環境学実験Ⅰ	1		1											〃
土環境学実験Ⅱ	1		1											〃
指標生物学実習Ⅰ	1		1											〃
指標生物学実習Ⅱ	1		1											〃
都市環境系科目														
都市環境学	2	2												新設
緑地環境学	2	2												〃
環境計画学	2		2											〃
環境の材料と構造	2		2											〃

ランドスケープデザイン	2		2										〃
都市防災学	2		2										〃
環境保全の施工と管理	2		2										新設
環境の材料と構造実験Ⅰ	1		1										〃
環境の材料と構造実験Ⅱ	1		1										〃
緑地環境学実習Ⅰ	1		1										〃
緑地環境学実習Ⅱ	1		1										〃
環境アセスメント調査Ⅰ	1		1										〃
環境アセスメント調査Ⅱ	1		1										〃
広域基礎科目													
生物資源科学概論	2		2										新設
生物学概論Ⅰ	2		2										〃
生物学概論Ⅱ	2		2										〃
物理学概論Ⅰ	2		2										〃
物理学概論Ⅱ	2		2										〃
化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										〃
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

Ⅵ　アグリサイエンス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
専門共通科目												
専門共通コア科目				動物性食資源コース，植物性食資源コース，フラワーサイエンスコースを置き，動物性食資源コースでは動物科学基礎実験を，植物性食資源コースとフラワーサイエンスコースでは植物科学基礎実験を必修とする。 動物性食資源コースでは産業動物品種論，動物生理学，飼料作物学，産業動物管理学，動物遺伝育種学，動物繁殖学，栄養・飼養学，動物バイオテクノロジー，産業動物飼育計画論，動物科学応用実験Ⅰ，動物科学応用実験Ⅱを，植物性食資源コースでは植物								
アグリサイエンス概論	2	2										新設
細胞・発生学	2	2										〃
生化学	2	2										〃
農業のすがた	2	2										〃
分子生物学	2	2										〃
遺伝学入門	2	2										〃
ブランド創生学	2	2										〃
アグリサイエンステクノロジー	2	2										〃
アグリビジネス・マーケティング論	2	2										〃
産業動物品種論	2		2									〃
動物形態学	2		2									〃

動物生理学	2		2	植物性食資源コースでは植物形態学，植物生態学，植物生理学，作物学Ⅰ，									〃
植物形態学	2		2										〃
植物生態学	2		2	野菜園芸学，植物遺伝育種学，植物病理学，応用昆虫学，作物学Ⅱ，果樹園芸学，土壌・植物栄養学，植物科学応用実験Ⅰ，植物科学応用実験Ⅱを，フラワーサイエンスコースでは植物形態学，植物生態学，植物生理学，フラワー園芸学Ⅰ，色彩・造形学，フラワー装飾学，フラワー園芸学Ⅱ，花壇庭園装飾学，フラワーサイエンス実験Ⅰ，フラワーサイエンス実験Ⅱを必修とする。								新設
植物生理学	2		2										〃
作物栽培学	2		2										〃
農業と環境	2		2										〃
持続型農業論	2		2										〃
花文化論	2		2										〃
飼料作物学	2		2										〃
生命と技術の倫理	2	2											〃
生物統計学入門	2	2											〃
施設園芸学	2		2										〃
ポストハーベストテクノロジー	2		2										〃
アグリブランド生産学	2	2											〃
地域・ブランド農畜産物論	2	2											〃
作物分子生理学	2		2										〃
園芸分子生理学	2		2										〃
フラワー分子生理学	2		2										〃
草地と放牧	2		2										〃
スマート農業論	2		2										〃
アグリサイエンス特別講義	2		2										〃
実験・実習・演習科目													
ブランド創生フィールドワーク	1	1											新設
アグリサイエンス基礎実験	1	1											〃
アグリサイエンス実習Ⅰ	1	1											〃
アグリサイエンス実習Ⅱ	1	1											〃
アグリサイエンス演習Ⅰ	1	1											〃
アグリサイエンス演習Ⅱ	1	1											〃
アグリサイエンス演習Ⅲ	1	1											〃
アグリサイエンス演習Ⅳ	1	1											〃
アグリサイエンス研究Ⅰ	3	3											〃
アグリサイエンス研究Ⅱ	3	3											〃
動物性食資源系科目													
専門科目													
産業動物管理学	2		2										新設
動物遺伝育種学	2		2										〃
動物繁殖学	2		2										〃
栄養・飼養学	2		2										〃
動物バイオテクノロジー	2		2										〃
産業動物飼育計画論	2		2										〃

実験・実習系科目																	
動物科学基礎実験	1		1														新設
動物科学応用実験Ⅰ	1		1														新設
動物科学応用実験Ⅱ	1		1														〃
植物性食資源系科目																	
専門科目																	
作物学Ⅰ	2		2														新設
野菜園芸学	2		2														〃
植物遺伝育種学	2		2														〃
植物病理学	2		2														〃
応用昆虫学	2		2														〃
作物学Ⅱ	2		2														〃
果樹園芸学	2		2														〃
土壌・植物栄養学	2		2														〃
実験・実習系科目																	
植物科学基礎実験	1		1														新設
植物科学応用実験Ⅰ	1		1														〃
植物科学応用実験Ⅱ	1		1														〃
フラワーサイエンス系科目																	
専門科目																	
フラワー園芸学Ⅰ	2		2														新設
色彩・造形学	2		2														〃
フラワー装飾学	2		2														〃
フラワー園芸学Ⅱ	2		2														〃
花壇庭園装飾学	2		2														〃
実験・実習系科目																	
フラワーサイエンス実験Ⅰ	1		1														新設
フラワーサイエンス実験Ⅱ	1		1														〃
広域基礎科目																	
生物資源科学概論	2		2														新設
生物学概論Ⅰ	2		2														〃
生物学概論Ⅱ	2		2														〃
物理学概論Ⅰ	2		2														〃
物理学概論Ⅱ	2		2														〃
化学概論Ⅰ	2		2														〃
化学概論Ⅱ	2		2														〃
生物学実験	2		2														〃
職業指導	4		4														〃
化学実験	2		2														〃
物理学実験	2		2														〃

地学概論Ⅰ	2		2									〃
地学概論Ⅱ	2		2									〃
地学実験	2		2									新設

Ⅶ　食品開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
食品の開発基盤系科目												
食品開発概論	2	2		食品開発インターンシップ 食品衛生監視員養成講座 研究者・技術者養成講座 TOEIC対策講座 のうちから1科目を選択必修とする。								新設
食品開発基礎理論Ⅰ	2	2										〃
食品開発基礎理論Ⅱ	2	2										〃
食品開発基礎実験	1	1										〃
食品科学	2	2										〃
食品開発の歴史	2	2										〃
キャリアデザインⅠ	2	2										〃
食品開発演習Ⅰ	1	1										〃
キャリアデザインⅡ	2	2										〃
食品開発演習Ⅱ	1	1										〃
食品開発実習Ⅰ	1	1										〃
食品開発実習Ⅱ	1	1										〃
食品開発インターンシップ	2		2									〃
食品衛生監視員養成講座	2		2									〃
研究者・技術者養成講座	2		2									〃
TOEIC対策講座	2		2									〃
フューチャーフードサイエンス	2		2									〃
食品行政	2		2									〃
実験統計学	2		2									〃
バイオインフォマティクス	2		2									〃
食品開発研究Ⅰ	3	3										〃
食品開発研究Ⅱ	3	3										〃
食品の創造開発系科目												
食品素材科学	2		2									新設
食品資源利用学	2	2										〃
食品資源利用学実験	1	1										〃
食品加工学	2	2										〃
食品加工学実験	1	1										〃
乳製品科学	2		2									〃
発酵食品学	2		2									〃
冷凍食品学	2		2									〃
食品テクスチャー理論	2		2									新設

おいしさの科学	2		2											〃
食品製造プロセス学	2		2											〃
調理科学	2		2											新設
宇宙食開発学	2		2											〃
ブレッド&スイーツサイエンス	2		2											〃
においの科学	2		2											〃
食品界面科学	2		2											〃
食品品質管理論	2		2											〃
食肉の科学	2		2											〃
食とバイオテクノロジー	2		2											〃
食品と健康系科目														
食品機能化学	2	2												新設
食品機能化学実験	1	1												〃
食品栄養学	2	2												〃
食品栄養学実験	1	1												〃
ライフステージと食	2		2											〃
スポーツ食品科学	2		2											〃
新食素材開発論	2		2											〃
食とアレルギー	2		2											〃
サプリメントの科学	2		2											〃
食品成分化学	2		2											〃
食と脳科学	2		2											〃
食品と安全管理系科目														
食品衛生学	2	2												新設
食品衛生学実験	1	1												〃
食品分析学	2	2												〃
食品分析学実験	1	1												〃
食と公衆衛生	2		2											〃
食品安全学総論	2		2											〃
食品添加物論	2		2											〃
分析機器概論	2		2											〃
食品微生物学	2		2											〃
食品パッケージの科学	2		2											〃
食保存の科学	2		2											〃
広域基礎科目														
生物資源科学概論	2		2											新設
生物学概論Ⅰ	2		2											〃
生物学概論Ⅱ	2		2											〃
物理学概論Ⅰ	2		2											〃
物理学概論Ⅱ	2		2											〃

化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										新設
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

Ⅷ　食品ビジネス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
専門共通系科目												
食品ビジネス基礎演習Ⅰ	1	1										名称変更・配置変更
食品ビジネス基礎演習Ⅱ	1	1										新設
食品ビジネス学入門	2	2										配置変更
調査論	2	2										〃
マクロ経済学	2		2									〃
食と農の経済史	2		2									〃
ミクロ経済学	2		2									名称変更・配置変更
メディアリテラシー	2		2									〃
フィールドリサーチⅠ	1	1										分割・名称変更・配置変更
フィールドリサーチⅡ	1	1										〃
食品経済統計学	2		2									配置変更
海外フードシステム現地研修	2		2									〃
食農教育実習	2		2									名称変更・配置変更
産業組織論	2		2									配置変更
簿記概論	2		2									名称変更・配置変更
食品ビジネス演習Ⅰ	1	1										分割・名称変更・配置変更
食品ビジネス演習Ⅱ	1	1										〃
計量経済学	2		2									新設
金融論	2		2									〃
食品ビジネス演習Ⅲ	1	1										分割・名称変更・配置変更
食品ビジネス演習Ⅳ	1	1										〃
食品ビジネス研究Ⅰ	3	3										〃
食品ビジネス研究Ⅱ	3	3										〃
食料資源・環境系科目												
食の経済学	2	2										選択から必修へ・配置変更

現代農業論	2	2											配置変更
資源と環境の経済学	2	2											〃
食料貿易論	2		2										名称変更・配置変更
農村資源の保全と活用	2		2										配置変更
食料政策	2		2										〃
世界のフードシステム	2	2											〃
アグリビジネス論	2	2											〃
地域経済論	2		2										〃
地域食品資源論	2		2										新設
食品産業系科目													
食品企業経営学	2	2											配置変更
食品産業論	2	2											〃
流通経済論	2		2										名称変更・配置変更
食品ビジネス戦略論	2		2										配置変更
地域マネジメント論	2		2										名称変更・配置変更
食品マーケティング論	2	2											配置変更
組織マネジメント論	2		2										名称変更・配置変更
経営分析論	2		2										配置変更
食品関係法	2		2										〃
食品ビジネス特別講義	2		2										〃
フードサービス論	2		2										〃
地域食品企業論	2		2										新設
食品企業と社会的責任	2		2										配置変更
食品デザイン論	2		2										〃
食文化・食品科学系科目													
食生活論	2		2										配置変更
食品栄養学	2		2										〃
調理学	2		2										〃
食と素材	2		2										〃
スローフード論	2		2										〃
食品加工論	2		2										〃
フードコーディネート論	2		2										〃
食品の官能評価・鑑別論	2		2										〃
調理学実習	2		2										〃
食と農の社会学	2	2											〃
日本と世界の食文化	2		2										〃
フードツーリズム論	2		2										名称変更・配置変更
食物学実験	1		1										配置変更
フードコーディネート実習	1		1										〃
フードスペシャリスト論	2		2										〃

食品衛生管理学	2		2										〃
食品安全論	2		2										〃
食品の企画と開発	2		2										配置変更
広域基礎科目													
生物資源科学概論	2		2										新設
世界史概説Ⅰ	2		2										配置変更
世界史概説Ⅱ	2		2										〃
法律学概論（国際法を含む）	4		4										配置変更・単位数変更
社会学概論Ⅰ	2		2										配置変更
社会学概論Ⅱ	2		2										〃
職業指導	4		4										〃
日本史概説	2		2										〃
人文地理学	2		2										新設
自然地理学	2		2										〃
地誌学概論	2		2										〃
倫理学概論Ⅰ	2		2										配置変更
倫理学概論Ⅱ	2		2										〃
宗教社会学Ⅰ	2		2										〃
宗教社会学Ⅱ	2		2										〃

Ⅸ　国際共生学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
専門基盤領域					
国際共生学系科目				選択科目のうち，専門基盤領域の国際共生コミュニケーション系科目から4単位以上，国際共生データ分析系科目から3単位以上をそれぞれ修得した上で，専門基盤領域の選択科目から33単位以上修得すること。また，専門応用領域から26単位以上修得すること。	
国際共生学入門	2	2			
国際共生特別講義	2		2		
グローバルスタディーズⅠ	2		2		
グローバルスタディーズⅡ	2		2		
グローバルスタディーズⅢ	2		2		
グローバルスタディーズⅣ	2		2		
グローバルスタディーズⅤ	2		2		
グローバルスタディーズⅥ	2		2	国際共生コミュニケーション系科目の中国語講読，中国語会話，中国語コミュニケーション，中国語作文を履修するためには，教養教育科目言語系科目の初級中国語文法A，初級中国語文法B，初級中国語会話A，初級中国語会話Bをすべて修得しなければならない。	
国際共生コミュニケーション系科目					
共生の英語Ⅰ	1	1			
共生の英語Ⅱ	1	1			
HospitalityEnglish	1		1		
TOEIC EnglishⅠ	1		1		
中国語講読	1		1		
中国語会話	1		1	国際共生コミュニケーション系科目のスペイン語講読，ス	

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）

スペイン語講読	1		1	系科目のスペイン語講読，スペイン語会話，スペイン語コミュニケーション，スペイン語作文を履修するためには，教養教育科目言語系科目の初級スペイン語文法Ａ，初級スペイン語文法Ｂ，初級スペイン語会話Ａ，初級スペイン語会話Ｂをすべて修得しなければならない。								〃
スペイン語会話	1		1										〃
AdvancedEnglishReading	1		1										新設
ＴＯＥＩＣＥｎｇｌｉｓｈⅡ	1		1										〃
中国語コミュニケーション	1		1										〃
中国語作文	1		1										〃
スペイン語コミュニケーション	1		1										〃
スペイン語作文	1		1										〃
Business English Communication	1		1										〃
Advanced English Writing	1		1										〃
Advanced English Presentation	1		1										〃
国際共生データ分析系科目													
国際共生情報学	2		2										新設
国際共生情報学演習	1		1										〃
生物資源データサイエンス	2		2										〃
生物資源データサイエンス演習	1		1										〃
生物資源学系科目													
国際植物資源論	2		2										新設
国際動物資源論	2		2										〃
国際バイオ資源論	2		2										〃
国際環境資源論	2		2										〃
国際生物資源法規	2		2										〃
国際共生文化・社会系科目													
世界の飲食文化	2		2										新設
世界の居住文化	2		2										〃
歴史と国際共生	2		2										〃
文化地理学	2		2										〃
多文化共生論	2		2										〃
宗教と国際共生	2		2										〃
産業地理学	2		2										〃
共生の社会学	2		2										〃
共生の文化人類学	2		2										〃
専門応用領域													
国際共生環境系科目													
国際関係論	2		2										新設
国際政治論	2		2										〃
環境生態学	2		2										〃
国際協力論	2		2										〃
自然環境保全論	2		2										〃
地球温暖化対策	2		2										〃

ＮＧＯ・ＮＰＯ論	2		2											〃
環境計画学	2		2											〃
地球環境と持続可能な開発	2		2											新設
国際地域共生デザイン論	2		2											〃
国際共生経済・ビジネス系科目														
ビジネスコミュニケーション論	2		2											新設
生物資源マーケティング論	2		2											〃
国際貿易論	2		2											〃
生物資源ビジネス論	2		2											〃
生物資源流通論	2		2											〃
国際経営戦略論	2		2											〃
国際人材マネジメント論	2		2											〃
起業と共生	2		2											〃
国際地域ブランド戦略論	2		2											〃
国際ツーリズム論	2		2											〃
総合展開領域														
国際共生フィールドワーク系科目														
国際共生フィールドワーク入門	2	2												新設
国際共生社会調査論	2	2												〃
国内フィールドワークⅠ	1		1											〃
国内フィールドワークⅡ	1		1											〃
海外フィールドワークⅠ	1		1											〃
海外フィールドワークⅡ	1		1											〃
国際共生課題研究・卒業研究系科目														
国際共生学ゼミナールⅠ	1	1												新設
国際共生学ゼミナールⅡ	1	1												〃
国際共生学研究Ⅰ	3	3												〃
国際共生学研究Ⅱ	3	3												〃
広域基礎科目														
生物資源科学概論	2		2											新設
世界史概説Ⅰ	2		2											〃
世界史概説Ⅱ	2		2											〃
法律学概論（国際法を含む）	4		4											〃
社会学概論Ⅰ	2		2											〃
社会学概論Ⅱ	2		2											〃
日本史概説	2		2											〃
人文地理学	2		2											〃
自然地理学	2		2											〃
地誌学概論	2		2											〃
倫理学概論Ⅰ	2		2											〃

倫理学概論Ⅱ	2		2										〃
宗教社会学Ⅰ	2		2										〃
宗教社会学Ⅱ	2		2										新設

Ｘ　獣医保健看護学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
基礎動物学												
分子生物学	2	2										新設
獣医倫理・動物福祉論	2	2										〃
動物形態機能学Ⅰ	2	2										〃
動物形態機能学Ⅱ	2	2										〃
動物生理化学	2	2										〃
動物免疫学	2	2										〃
動物繁殖学	2	2										〃
動物品種論	2	2										〃
動物栄養学	2	2										〃
動物行動学	2	2										〃
実験動物学	2	2										〃
獣医事法規	2	2										〃
基礎動物看護学												
獣医保健看護学概論	2	2										新設
動物微生物学	2	2										〃
動物薬理学	2	2										〃
動物病理学	2	2										〃
動物寄生虫病学	2	2										〃
公衆衛生学	2	2										〃
人獣共通感染症学	2	2										〃
愛護・適正飼養学												
愛玩動物学	2	2										新設
動物生活環境学	2	2										〃
人と動物の関係学	2	2										〃
動物医療コミュニケーション論	2	2										〃
適正飼養指導論Ⅰ	2	2										〃
適正飼養指導論Ⅱ	2	2										〃
ペット関連産業概論	2	2										〃
臨床動物看護学												
動物内科看護学Ⅰ	2	2										新設
動物内科看護学Ⅱ	2	2										〃
動物臨床検査学	2	2										〃

動物臨床栄養学	2	2												〃
動物外科看護学Ⅰ	2	2												〃
動物内科看護学Ⅲ	2	2												新設
動物臨床薬理学	2	2												〃
動物臨床看護学総論	2	2												〃
動物臨床看護学各論Ⅰ	2	2												〃
動物臨床看護学各論Ⅱ	2	2												〃
動物臨床看護学各論Ⅲ	2	2												〃
動物外科看護学Ⅱ	2	2												〃
動物臨床看護学各論Ⅳ	2	2												〃
実習														
動物形態機能学実習	1	1												新設
動物内科看護学実習Ⅰ	1	1												〃
動物内科看護学実習Ⅱ	1	1												〃
動物内科看護学実習Ⅲ	1	1												〃
動物外科看護学実習Ⅰ	1	1												〃
動物愛護・適正飼養実習	1	1												〃
動物臨床検査学実習	1	1												〃
動物外科看護学実習Ⅱ	1	1												〃
動物看護学総合実習Ⅰ	1	1												〃
動物看護学総合実習Ⅱ	2	2												〃
展開領域														
動物保健看護学演習Ⅰ	1	1												新設
動物保健看護学演習Ⅱ	1	1												〃
動物保健看護学演習Ⅲ	1	1												〃
獣医保健看護学研究Ⅰ	2	2												〃
獣医保健看護学研究Ⅱ	2	2												〃
応用領域														
外来動物管理学	2		2											新設
動物生態学	2		2											〃
野生動物管理学	2		2											〃
保全生物学	2		2											〃
再生生物学	2		2											〃
都市動物学	2		2											〃
動物心理学	2		2											〃
動物地理学	2		2											〃
動物園飼育管理学	2		2											〃
広域基礎科目														
生物資源科学概論	2		2											新設
生物学概論Ⅰ	2		2											配置変更

生物学概論Ⅱ	2		2										〃
物理学概論Ⅰ	2		2										〃
物理学概論Ⅱ	2		2										配置変更
化学概論Ⅰ	2		2										〃
化学概論Ⅱ	2		2										〃
生物学実験	2		2										〃
化学実験	2		2										〃
物理学実験	2		2										〃
地学概論Ⅰ	2		2										〃
地学概論Ⅱ	2		2										〃
地学実験	2		2										〃

XI　獣医学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	(変更の内容)
導入・基礎獣医学												
獣医学概論	2	2										配置変更
獣医倫理・動物福祉学	2	2										〃
獣医解剖学A	2	2										〃
獣医解剖学B	2	2										〃
獣医生理学A	2	2										〃
獣医生理学B	2	2										〃
獣医生化学A	2	2										〃
獣医生化学B	2	2										〃
動物遺伝育種学	2	2										〃
獣医組織・発生学	2	2										〃
獣医薬理学A	2	2										〃
獣医薬理学B	2	2										〃
動物行動学	2	2										〃
実験動物学A	2	2										〃
実験動物学B	1	1										〃
放射線生物学	1	1										〃
獣医事法規	2	2										〃
病態獣医学												
獣医病理学A	2	2										配置変更
獣医病理学B	2	2										〃
獣医病理学C	1	1										〃
獣医免疫学	2	2										〃
獣医微生物学A	2	2										〃
獣医微生物学B	2	2										〃

獣医寄生虫病学A	2	2											〃
獣医寄生虫病学B	2	2											〃
動物感染症学A	2	2											配置変更
動物感染症学B	2	2											〃
応用獣医学													
魚病学A	2	2											配置変更
魚病学B	1	1											〃
獣医公衆衛生学総論	1	1											〃
食品衛生学	2	2											〃
毒性学	2	2											〃
獣医疫学	1	1											名称変更・単位数変更・配置変更
動物衛生学	2	2											配置変更
環境衛生学	1	1											単位数変更・配置変更
人獣共通感染症学	2	2											配置変更
野生動物学	1	1											〃
臨床獣医学													
獣医内科学総論	1	1											配置変更
獣医臨床病理学	2	2											〃
獣医内分泌代謝病学	1	1											〃
獣医血液病学	1	1											名称変更・配置変更
獣医皮膚病学	1	1											配置変更
獣医外科学/手術学総論	2	2											統合・名称変更・配置変更
獣医臨床繁殖学A	2	2											配置変更
獣医臨床繁殖学B	2	2											〃
獣医呼吸循環器病学	2	2											〃
獣医消化器病学	2	2											〃
獣医臨床行動学	1	1											〃
獣医麻酔学	1	1											〃
獣医軟部組織外科学	2	2											〃
獣医運動器病学	1	1											〃
獣医臨床腫瘍学	1	1											〃
獣医画像診断学A	2	2											〃
獣医画像診断学B	1	1											〃
産業動物臨床学A	1	1											〃
産業動物臨床学B	2	2											〃
馬臨床学	1	1											〃
獣医臨床薬理学	1	1											〃
獣医腎泌尿器病学	1	1											名称変更・単位数変更・配置変更

獣医臨床栄養学	1	1											配置変更
獣医神経病学	1	1											〃
獣医眼科学	1	1											配置変更
実習													
獣医解剖学実習A	1	1											配置変更
獣医解剖学実習B	1	1											〃
獣医組織学実習	1	1											〃
獣医生理学実習	1	1											〃
獣医生化学実習	1	1											〃
獣医微生物学実習	1	1											統合・名称変更・単位数変更・配置変更
獣医薬理学実習	1	1											配置変更
実験動物学実習	1	1											〃
獣医病理学実習A	1	1											〃
獣医病理学実習B	1	1											〃
獣医寄生虫病学実習	1	1											〃
毒性学実習	1	1											〃
動物感染症学実習	1	1											〃
魚病学実習	1	1											〃
動物衛生学実習	1	1											〃
獣医公衆衛生学実習	1	1											〃
食品衛生学実習	1	1											〃
小動物内科学実習A	1	1											〃
小動物内科学実習B	1	1											〃
小動物外科学実習A	1	1											〃
小動物外科学実習B	1	1											〃
獣医臨床繁殖学実習	1	1											〃
獣医画像診断学実習	1	1											〃
産業動物臨床実習	1	1											〃
総合参加型臨床実習	4	4											単位数変更・配置変更
展開領域													
獣医事特別演習	1	1											名称変更・配置変更
獣医学外演習	1	1											〃
専門獣医学演習A	1	1											配置変更
専門獣医学演習B	1	1											〃
総合獣医学A	6	6											名称変更・配置変更
総合獣医学B	6	6											名称変更・単位数変更・配置変更
獣医学研究Ⅰ	3	3											新設
獣医学研究Ⅱ	3	3											〃

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
選択												
分子生物学	2		2									配置変更
生物統計学	2		2									配置変更
動物品種論	2		2									〃
牧場実習	1		1									〃
獣医臨床解剖学	2		2									名称変更・単位数変更・配置変更
エキゾチックアニマル学	2		2									〃
獣医応用免疫学	2		2									〃
獣医再生医療学	2		2									〃
動物園・水族館演習	1		1									名称変更・配置変更
広域基礎科目												
生物資源科学概論	2		2									新設
生物学概論Ⅰ	2		2									配置変更
生物学概論Ⅱ	2		2									〃
物理学概論Ⅰ	2		2									〃
物理学概論Ⅱ	2		2									〃
化学概論Ⅰ	2		2									〃
化学概論Ⅱ	2		2									〃
生物学実験	2		2									〃
化学実験	2		2									〃
物理学実験	2		2									〃
地学概論Ⅰ	2		2									〃
地学概論Ⅱ	2		2									〃
地学実験	2		2									〃

5　学芸員課程科目

各学科設置の専門教育科目の他に許可を得て次の科目を修得することができる。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
博物館概論	2	2										新設
博物館教育論	2	2										〃
生涯学習概論	2	2										〃
博物館情報・メディア論	2	2										〃
博物館実習Ⅰ	1	1										〃
博物館実習Ⅱ	2	2										〃
博物館経営論	2	2										〃
博物館資料論	2	2										〃
博物館資料保存論	2	2										〃
博物館展示論	2	2										〃

第94条の２　生物資源科学部における各学科（生命農学科，生命化学科，動物資源科学科，森林資源科学科，海洋生物資源科学科，生物環境工学科，食品生命学科，国際地域開発学科，応用生物科学科，くらしの生物学科）の授業科目及びその単位数並びに履修方法は，次のとおりである。卒業に必要な総単位数は履修方法に定める単位を含めて，総計124単位以上を修得しなければならない。

１　全学共通教育科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
自主創造の基礎	2		2		
日本を考える	2		2		

２　教養教育科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
言語系科目				言語系科目，人文・社会系科目，自然系科目，健康・スポーツ系科目，総合系科目から30単位以上を修得しなければならない。生命農学科は基礎生物学，総合生物学，生命化学科は基礎生物学，基礎化学，化学特論，生命倫理，動物資源科学科は基礎生物学，生物環境工学科は解析学，基礎力学，くらしの生物学科は基礎生物学，総合生物学を必修とする。	
英語Ⅰ	2	2			
英語Ⅱ	2	2			
英語Ⅲ	2	2			
英語Ⅳ	2	2			
初級ドイツ語文法	2		2		
初級ドイツ語講読	2		2		
初級ドイツ語会話	2		2		
中級ドイツ語講読	2		2		
検定ドイツ語	2		2		
初級フランス語文法	2		2		
初級フランス語会話	2		2		
初級スペイン語文法	2		2		
初級スペイン語会話	2		2		
初級中国語文法	2		2		
初級中国語会話	2		2		
中級中国語文法	1		1		
中級中国語会話	1		1		
初級韓国語文法	2		2	言語系科目のうち，外国人留学生は母国語を履修することはできない。英語を母国語とする外国人留学生は，英語	
初級韓国語会話	2		2		
日本語Ⅰ	2		2		

１　全学共通教育科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
自主創造の基礎	2		2			
日本を考える	2		2			

２　教養教育科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
言語系科目				言語系科目，人文・社会系科目，自然系科目，健康・スポーツ系科目，総合系科目から30単位以上を，ただし獣医学科は24単位以上を修得しなければならない。生命農学科は基礎生物学，総合生物学，生命化学科は基礎生物学，基礎化学，化学特論，生命倫理，獣医学科は基礎生物学，総合生物学，動物資源科学科は基礎生物学，食品ビジネス学科は人文・社会系科目から8単位以上，生物環境工学科は解析学，基礎力学，くらしの生物学科は基礎生物学，総合生物学を必修とする。		
英語Ⅰ	2	2				
英語Ⅱ	2	2				
英語Ⅲ	2	2				
英語Ⅳ	2	2				
初級ドイツ語文法	2		2			
初級ドイツ語講読	2		2			
初級ドイツ語会話	2		2			
中級ドイツ語講読	2		2			
検定ドイツ語	2		2			
初級フランス語文法	2		2			
初級フランス語会話	2		2			
初級スペイン語文法	2		2			
初級スペイン語会話	2		2			
初級中国語文法	2		2			
初級中国語会話	2		2			
中級中国語文法	1		1			
中級中国語会話	1		1			
初級韓国語文法	2		2	言語系科目のうち，外国人留学生は母国語を履修することはできない。英語を母国語とする外国人留学生は，英語		
初級韓国語会話	2		2			
日本語Ⅰ	2		2			

日本語Ⅱ	2		2	Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。また，日本語Ⅰ，日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。
人文･社会系科目				
日本語表現の基礎	2		2	
日本の文学	2		2	
哲学入門	2		2	
哲学の現在	2		2	
倫理学入門	2		2	
倫理学の現在	2		2	
心理学入門	2		2	
行動心理学	2		2	
個性の心理学	2		2	
文化人類学入門	2		2	
環境の文化人類学	2		2	
比較文化論	2		2	
比較芸術論	2		2	
法学入門	2		2	
日本国憲法	2		2	
社会学入門	2		2	
政治学入門	2		2	
政治と現代社会	2		2	
経済学入門	2		2	
経済と現代社会	2		2	
地理学入門	2		2	
歴史学入門	2		2	
社会学の現在	2		2	
現代社会と福祉	2		2	
歴史と現代社会	2		2	
地理学の現在	2		2	
自然系科目				
物理学入門	2		2	
基礎力学	2		2	
基礎化学	2		2	
基礎生物学	2		2	
基礎地球科学	2		2	
統計学入門	2		2	
推計学入門	2		2	
解析学	2		2	
線形代数	2		2	
物理学演習	1		1	
総合生物学	2		2	

日本語Ⅱ	2		2	Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳを除いた科目から8単位以上を修得しなければならない。また，日本語Ⅰ，日本語Ⅱは外国人留学生のみ履修できる。
人文･社会系科目				
日本語表現の基礎	2		2	
日本の文学	2		2	
哲学入門	2		2	
哲学の現在	2		2	
倫理学入門	2		2	
倫理学の現在	2		2	
心理学入門	2		2	
行動心理学	2		2	
個性の心理学	2		2	
文化人類学入門	2		2	
環境の文化人類学	2		2	
比較文化論	2		2	
比較芸術論	2		2	
法学入門	2		2	
日本国憲法	2		2	
社会学入門	2		2	
政治学入門	2		2	
政治と現代社会	2		2	
経済学入門	2		2	
経済と現代社会	2		2	
地理学入門	2		2	
歴史学入門	2		2	
社会学の現在	2		2	
現代社会と福祉	2		2	
歴史と現代社会	2		2	
地理学の現在	2		2	
自然系科目				
物理学入門	2		2	
基礎力学	2		2	
基礎化学	2		2	
基礎生物学	2		2	
基礎地球科学	2		2	
統計学入門	2		2	
推計学入門	2		2	
解析学	2		2	
線形代数	2		2	
物理学演習	1		1	
総合生物学	2		2	

生物学実験	1		1		
化学特論	2		2		
化学実験	1		1		
総合地球科学	2		2		
健康・スポーツ系科目					
スポーツ実技Ⅰ	1	1			
スポーツ実技Ⅱ	1		1		
スポーツ実技Ⅲ	1		1		
スポーツ実技Ⅳ	1		1		
スポーツ科学	2		2		
総合系科目					
アルゴリズム入門	1		1		
ネットワーク入門	1		1		
情報科学	2		2		
科学史	2		2		
科学技術と社会	2		2		
地球環境を考える	2		2		
生命倫理	2		2		
ボランティア論	1		1		
教養講座	2		2		

3　基礎専門科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物資源科学フィールド実習	1		1		
海外フィールド実習	1		1		
生物資源科学概論	1		1		

4　専門教育科目

全学共通教育科目，基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，94単位以上を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目及び教職課程科目・学芸員課程科目を修得した者については，30単位を超えない範囲で所属学科の専門教育選択科目を修得したものとみなす。

Ⅰ　生命農学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
植物生理学	2	2			
植物生態学	2	2			
食料生産科学	2		2		
作物生産学Ⅰ	2	2			

生物学実験	1		1		
化学特論	2		2		
化学実験	1		1		
総合地球科学	2		2		
健康・スポーツ系科目					
スポーツ実技Ⅰ	1	1			
スポーツ実技Ⅱ	1		1		
スポーツ実技Ⅲ	1		1		
スポーツ実技Ⅳ	1		1		
スポーツ科学	2		2		
総合系科目					
アルゴリズム入門	1		1		
ネットワーク入門	1		1		
情報科学	2		2		
科学史	2		2		
科学技術と社会	2		2		
地球環境を考える	2		2		
生命倫理	2		2		
ボランティア論	1		1		
教養講座	2		2		

3　基礎専門科目（各学科共通）

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物資源科学フィールド実習	1		1		
海外フィールド実習	1		1		
生物資源科学概論	1		1		

（変更の内容）

4　専門教育科目

全学共通教育科目，基礎専門科目及び専門教育科目のうちから必修科目を含めて，94単位以上（獣医学科は164単位以上）を修得しなければならない。また，許可を得て他学科設置の専門教育科目及び教職課程科目・学芸員課程科目を修得した者については，30単位を超えない範囲で所属学科の専門教育選択科目を修得したものとみなす。

Ⅰ　生命農学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
植物生理学	2	2			
植物生態学	2	2			
食料生産科学	2		2		
作物生産学Ⅰ	2	2			

（変更の内容）

作物生産学Ⅱ	2		2
果樹園芸学	2	2	
果樹分子生理学	2		2
野菜園芸学	2	2	
野菜生理機能科学	2		2
花き園芸学	2	2	
花き分子生理学	2		2
植物育種学	2	2	
土壌科学	2		2
植物栄養学	2		2
植物病理学	2	2	
応用昆虫学	2	2	
農薬科学	2		2
造園緑地学	2	2	
生命農学実験Ⅱ	2	2	
生命農学実習Ⅰ	1	1	
生命農学実習Ⅱ	2	2	
植物環境調節学	2		2
園芸デザイン演習	2		2
植物遺伝工学	2		2
植物医科学	2		2
害虫制御論	2		2
実験情報解析演習	2		2
緑地環境計画学	2		2
農と緑のまちづくり論	2		2
景観生態学	2		2
生命農学演習Ⅰ	2	2	
生命農学演習Ⅱ	2	2	
基礎細胞学	2		2
植物遺伝学	2	2	
植物病原微生物学	2		2
生命農学実験Ⅰ	2	2	
ランドスケープ演習	2		2
自然保護政策論	2		2
緑地工学	2		2
都市緑化技術論	2		2
芝草学	2		2
分子生物学	2		2
学外実習	1		1
生命農学概論	2	2	

作物生産学Ⅱ	2		2
果樹園芸学	2	2	
果樹分子生理学	2		2
野菜園芸学	2	2	
野菜生理機能科学	2		2
花き園芸学	2	2	
花き分子生理学	2		2
植物育種学	2	2	
土壌科学	2		2
植物栄養学	2		2
植物病理学	2	2	
応用昆虫学	2	2	
農薬科学	2		2
造園緑地学	2	2	
生命農学実験Ⅱ	2	2	
生命農学実習Ⅰ	1	1	
生命農学実習Ⅱ	2	2	
植物環境調節学	2		2
園芸デザイン演習	2		2
植物遺伝工学	2		2
植物医科学	2		2
害虫制御論	2		2
実験情報解析演習	2		2
緑地環境計画学	2		2
農と緑のまちづくり論	2		2
景観生態学	2		2
生命農学演習Ⅰ	2	2	
生命農学演習Ⅱ	2	2	
基礎細胞学	2		2
植物遺伝学	2	2	
植物病原微生物学	2		2
生命農学実験Ⅰ	2	2	
ランドスケープ演習	2		2
自然保護政策論	2		2
緑地工学	2		2
都市緑化技術論	2		2
芝草学	2		2
分子生物学	2		2
学外実習	1		1
生命農学概論	2	2	

植物形態・分類学	2		2		
生物化学	2		2		
分子植物成長制御論	2		2		
分子植物育種学	2		2		
昆虫ゲノム医科学	2		2		
生命農学特別講義	2		2		
エコロジカル・デザイン論	2		2		
園芸福祉論	2		2		
農学原論	2		2		
アグリバイオテクノロジー入門	2		2		
植物生命科学	2	2			
作物生理機能科学	2		2		
アグリバイオテクノロジー実験法	2		2		
アグリバイオインフォマティクス論	2		2		
生命農学実験Ⅲ	2	2			
卒業研究	6	6			

植物形態・分類学	2		2		
生物化学	2		2		
分子植物成長制御論	2		2		
分子植物育種学	2		2		
昆虫ゲノム医科学	2		2		
生命農学特別講義	2		2		
エコロジカル・デザイン論	2		2		
園芸福祉論	2		2		
農学原論	2		2		
アグリバイオテクノロジー入門	2		2		
植物生命科学	2	2			
作物生理機能科学	2		2		
アグリバイオテクノロジー実験法	2		2		
アグリバイオインフォマティクス論	2		2		
生命農学実験Ⅲ	2	2			
卒業研究	6	6			

Ⅱ　生命化学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生命化学基礎実験	2	2			
生物化学Ⅰ	2	2			
生物化学Ⅱ	2	2			
有機化学	2	2			
生物有機化学	2	2			
物理化学	2	2			
土壌科学	2	2			
植物栄養学	2	2			
酵素化学	2	2			
微生物学	2	2			
栄養化学	2	2			
栄養生化学	2	2			
食品化学	2	2			
分子生物学	2	2			
農薬科学	2		2		
食品機能化学	2	2			
生物有機化学実験	2	2			
微生物学実験	2	2			
栄養生理化学実験	2	2			
食品化学実験	2	2			

Ⅱ　生命化学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生命化学基礎実験	2	2			
生物化学Ⅰ	2	2			
生物化学Ⅱ	2	2			
有機化学	2	2			
生物有機化学	2	2			
物理化学	2	2			
土壌科学	2	2			
植物栄養学	2	2			
酵素化学	2	2			
微生物学	2	2			
栄養化学	2	2			
栄養生化学	2	2			
食品化学	2	2			
分子生物学	2	2			
農薬科学	2		2		
食品機能化学	2	2			
生物有機化学実験	2	2			
微生物学実験	2	2			
栄養生理化学実験	2	2			
食品化学実験	2	2			

（変更の内容）

発酵化学実験	2	2			
土壌化学実験	2	2			
植物栄養生理学実験	2	2			
食品保蔵学	2	2			
植物病理学	2		2		
応用生物化学	2		2		
肥料動態学	2		2		
環境微生物学	2	2			
生物化学工学	2		2		
飼料学	2		2		
微生物生化学	2	2			
食品衛生学	2	2			
無機化学	2	2			
環境化学	2	2			
植物細胞科学	2		2		
動物細胞科学	2		2		
生命化学概論	2	2			
生命化学フィールド実習	2		2		
植物生理学	2	2			
発酵化学	2	2			
動物生理学	2	2			
作物学	2		2		
土壌生産化学	2		2		
生物統計学	2		2		
バイオインフォマティクス	2		2		
サイエンスプレゼンテーション	2		2		
専門基礎英語	2		2		
専門英語Ⅰ	2		2		
専門英語Ⅱ	2		2		
生命化学実験法Ⅰ	2	2			
生命化学実験法Ⅱ	2	2			
生命化学実験法Ⅲ	2	2			
生命化学実験法Ⅳ	2	2			
卒業研究	6	6			

発酵化学実験	2	2			
土壌化学実験	2	2			
植物栄養生理学実験	2	2			
食品保蔵学	2	2			
植物病理学	2		2		
応用生物化学	2		2		
肥料動態学	2		2		
環境微生物学	2	2			
生物化学工学	2		2		
飼料学	2		2		
微生物生化学	2	2			
食品衛生学	2	2			
無機化学	2	2			
環境化学	2	2			
植物細胞科学	2		2		
動物細胞科学	2		2		
生命化学概論	2	2			
生命化学フィールド実習	2		2		
植物生理学	2	2			
発酵化学	2	2			
動物生理学	2	2			
作物学	2		2		
土壌生産化学	2		2		
生物統計学	2		2		
バイオインフォマティクス	2		2		
サイエンスプレゼンテーション	2		2		
専門基礎英語	2		2		
専門英語Ⅰ	2		2		
専門英語Ⅱ	2		2		
生命化学実験法Ⅰ	2	2			
生命化学実験法Ⅱ	2	2			
生命化学実験法Ⅲ	2	2			
生命化学実験法Ⅳ	2	2			
卒業研究	6	6			

Ⅲ 獣医学科

獣医学専門科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考

（変更の内容）

						獣医解剖学A	2	2				配置変更
						獣医解剖学B	2	2				配置変更
						獣医解剖学実習A	1	1				〃
						獣医解剖学実習B	1	1				〃
						獣医組織・発生学	2	2				〃
						獣医組織学実習	1	1				〃
						獣医生理学A	2	2				〃
						獣医生理学B	2	2				〃
						獣医生理学実習	1	1				〃
						獣医生化学A	2	2				〃
						獣医生化学B	2	2				〃
						獣医生化学実習	1	1				〃
						獣医薬理学A	2	2				〃
						獣医薬理学B	2	2				〃
						獣医薬理学実習	1	1				〃
						動物遺伝育種学	2	2				〃
						動物行動学	2	2				〃
						放射線生物学	1	1				〃
						獣医微生物学A	2	2				〃
						獣医微生物学B	2	2				〃
						獣医微生物学実習A	1	1				統合・名称変更・単位数変更・配置変更
						獣医微生物学実習B	1	1				〃
						獣医病理学A	2	2				配置変更
						獣医病理学B	2	2				〃
						獣医病理学C	1	1				〃
						獣医病理学実習A	1	1				〃
						獣医病理学実習B	1	1				〃
						獣医寄生虫病学A	2	2				〃
						獣医寄生虫病学B	2	2				〃
						獣医寄生虫病学実習	1	1				〃
						獣医内科学総論	1	1				〃
						小動物内科学実習A	1	1				〃
						小動物内科学実習B	1	1				〃
						獣医臨床薬理学	1	1				〃
						獣医呼吸循環器病学	2	2				〃
						獣医消化器病学	2	2				〃
						獣医泌尿生殖器病学	2	2				名称変更・単位数変更・配置変更
						獣医内分泌代謝病学	1	1				配置変更
						獣医臨床栄養学	1	1				〃

								獣医神経病学	1	1				〃
								獣医血液免疫病学	1	1				名称変更・配置変更
								獣医皮膚病学	1	1				配置変更
								獣医臨床行動学	1	1				〃
								獣医外科学総論	1	1				統合・名称変更・配置変更
								獣医手術学総論	1	1				〃
								小動物外科学実習A	1	1				配置変更
								小動物外科学実習B	1	1				〃
								獣医麻酔学	1	1				〃
								獣医軟部組織外科学	2	2				〃
								獣医運動器病学	1	1				〃
								獣医臨床腫瘍学	1	1				〃
								獣医眼科学	1	1				〃
								獣医画像診断学A	2	2				〃
								獣医画像診断学B	1	1				〃
								獣医画像診断学実習	1	1				〃
								馬臨床学	1	1				〃
								獣医臨床繁殖学A	2	2				〃
								獣医臨床繁殖学B	2	2				〃
								獣医臨床繁殖学実習	1	1				〃
								動物感染症学A	2	2				〃
								動物感染症学B	2	2				〃
								動物感染症学実習	1	1				〃
								獣医臨床病理学	2	2				〃
								獣医臨床病理学実習	1	1				削除
								獣医公衆衛生学総論	1	1				配置変更
								人獣共通感染症学	2	2				〃
								食品衛生学	2	2				〃
								獣医公衆衛生学実習	1	1				〃
								食品衛生学実習	1	1				〃
								疫学	2	2				名称変更・単位数変更・配置変更
								動物衛生学	2	2				配置変更
								環境衛生学	2	2				単位数変更・配置変更
								動物衛生学実習	1	1				配置変更
								野生動物学	1	1				〃
								実験動物学A	2	2				〃
								実験動物学B	1	1				〃
								実験動物学実習	1	1				〃
								毒性学	2	2				〃

						毒性学実習	1	1				〃
						魚病学A	2	2				配置変更
						魚病学B	1	1				〃
						魚病学実習	1	1				〃
						獣医免疫学	2	2				〃
						産業動物臨床学A	1	1				〃
						産業動物臨床学B	2	2				〃
						産業動物臨床実習	1	1				〃
						総合参加型臨床実習	6	6				単位数変更・配置変更
						獣医学概論	2	2				配置変更
						獣医事法規	2	2				〃
						獣医倫理・動物福祉学	2	2				〃
						基礎獣医学演習	1	1				削除
						総合獣医学演習A	1	1				名称変更・配置変更
						総合獣医学演習B	1	1				〃
						総合獣医学演習C	6	6				〃
						総合獣医学演習D	3	3				名称変更・単位数変更・配置変更
						専門獣医学演習A	1	1				配置変更
						専門獣医学演習B	1	1				〃
						専門獣医学演習C	1	1				削除
						臨床研究	6		6	1科目選択必修		〃
						卒業論文	6		6			〃
						獣医学関連科目						
						授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
						生物統計学	2		2	4単位以上を修得しなければならない。		配置変更
						分子生物学	2		2			〃
						動物品種論	2		2			〃
						エキゾチックアニマル学演習	1		1			名称変更・単位数変更・配置変更
						獣医臨床解剖学演習	1		1			〃
						獣医応用免疫学演習	1		1	4単位以上を修得しなければならない。		〃
						展示動物医学演習	1		1			名称変更・配置変更
						獣医再生医療学演習	1		1			名称変更・単位数変更・配置変更
						牧場実習	1		1			配置変更

Ⅲ　動物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
動物遺伝学	2	2			
生物統計学	2	2			
基礎生化学	2	2			
動物資源科学概論	2	2			
動物生理学	2	2			
動物形態学	2	2			
動物生理学実験	1		1		
動物形態学実習	1		1		
動物育種学	2	2			
資源動物論	2		2		
動物育種学実習	1		1		
動物生殖学	2	2			
動物生殖学実験	1		1		
動物応用栄養学	2	2			
動物栄養学実験	1		1		
栄養生理学	2	2			
飼料資源学	2	2			
草地・飼料作物学	2		2		
草地・飼料資源学実習	1		1		
微生物学	2	2			
微生物学実習	1		1		
動物衛生学	2	2			
ミルク科学	2	2			
肉と卵の科学	2	2			
動物性食品機能学	2		2		
動物性食品科学実験	1		1		
食品衛生学	2		2		
動物資源経済学	2	2			
動物資源経済学演習	1		1		
畜産経営学	2	2			
情報処理論	2		2		
動物関連法規・政策	2		2		
畜産マーケティング論	2		2		
動物資源科学演習	1	1			
牧場実習	1		1		
細胞・発生生物学	2		2		
実験動物学	2		2		

Ⅳ　動物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
動物遺伝学	2	2			
生物統計学	2	2			
基礎生化学	2	2			
動物資源科学概論	2	2			
動物生理学	2	2			
動物形態学	2	2			
動物生理学実験	1		1		
動物形態学実習	1		1		
動物育種学	2	2			
資源動物論	2		2		
動物育種学実習	1		1		
動物生殖学	2	2			
動物生殖学実験	1		1		
動物応用栄養学	2	2			
動物栄養学実験	1		1		
栄養生理学	2	2			
飼料資源学	2	2			
草地・飼料作物学	2		2		
草地・飼料資源学実習	1		1		
微生物学	2	2			
微生物学実習	1		1		
動物衛生学	2	2			
ミルク科学	2	2			
肉と卵の科学	2	2			
動物性食品機能学	2		2		
動物性食品科学実験	1		1		
食品衛生学	2		2		
動物資源経済学	2	2			
動物資源経済学演習	1		1		
畜産経営学	2	2			
情報処理論	2		2		
動物関連法規・政策	2		2		
畜産マーケティング論	2		2		
動物資源科学演習	1	1			
牧場実習	1		1		
細胞・発生生物学	2		2		
実験動物学	2		2		

（変更の内容）

保全生物学	2		2		
生命工学	2		2		
免疫生物学	2		2		
産乳科学	2		2		
産肉科学	2		2		
家禽学	2		2		
動物疾病学	2		2		
野生動物学	2	2			
動物園学	2		2		
動物行動学	2		2		
アニマルセラピー・動物福祉論	2		2		
化学概論	2	2			
生殖生理学	2	2			
分子生物学	2		2		
伴侶動物学実習	1		1		
野生動物学実習	1		1		
動物資源科学インターンシップ	1		1		
動物生態学	2		2		
動物心理学	2		2		
伴侶動物学	2	2			
犬と猫の科学	2		2		
化学実験の基礎	2		2		
動物資源科学実験	1	1			
卒業研究	6	6			

保全生物学	2		2		
生命工学	2		2		
免疫生物学	2		2		
産乳科学	2		2		
産肉科学	2		2		
家禽学	2		2		
動物疾病学	2		2		
野生動物学	2	2			
動物園学	2		2		
動物行動学	2		2		
アニマルセラピー・動物福祉論	2		2		
化学概論	2	2			
生殖生理学	2	2			
分子生物学	2		2		
伴侶動物学実習	1		1		
野生動物学実習	1		1		
動物資源科学インターンシップ	1		1		
動物生態学	2		2		
動物心理学	2		2		
伴侶動物学	2	2			
犬と猫の科学	2		2		
化学実験の基礎	2		2		
動物資源科学実験	1	1			
卒業研究	6	6			

V　食品ビジネス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
消費者と企業の経済学	2		2			名称変更・配置変更
マクロ経済学	2		2			配置変更
調査論	2	2				〃
現代農業論	2	2				〃
資源と環境の経済学	2	2				〃
食品ビジネス学入門	2	2				〃
食品産業論	2	2				〃
フィールドリサーチ	2	2				分割・名称変更・配置変更
食品関係法	2		2			配置変更
食品ビジネス演習Ⅰ	2	2				分割・名称変更・配置変更

							食品ビジネス演習Ⅱ	2	2				〃
							日本と世界の食文化	2		2			配置変更
							世界のフードシステム	2	2				〃
							食と農の社会学	2	2				配置変更
							簿記入門	2		2			名称変更・配置変更
							会計学の基礎	2		2			削除
							食品経済統計学	2		2			配置変更
							食生活論	2		2			〃
							食品栄養学	2		2			〃
							食品加工論	2		2			〃
							国際貿易・投資論	2		2			名称変更・配置変更
							地域経済論	2		2			配置変更
							産業組織論	2		2			〃
							食品企業経営学	2	2				〃
							食料政策	2		2			〃
							食品産業の歴史	2		2			削除
							フードサービス論	2		2			配置変更
							プレゼンテーション入門	2		2			名称変更・配置変更
							食品ビジネス特別講義	2		2			配置変更
							経営分析論	2		2			〃
							アグリビジネス論	2	2				〃
							食品マーケティング論	2	2				〃
							消費者行政	2		2			削除
							食品衛生管理学	2		2			配置変更
							食品デザイン論	2		2			〃
							食品ビジネス戦略論	2		2			〃
							人材マネジメント論	2		2			名称変更・配置変更
							食品ビジネス基礎演習	1	1				〃
							食の経済学	2		2			選択から必修へ変更・配置変更
							食品安全論	2		2			配置変更
							ロジスティクス論	2		2			名称変更・配置変更
							農村資源の保全と活用	2		2			配置変更
							食品企業と社会的責任	2		2			〃
							NGO・NPO論	2		2			名称変更・配置変更
							食品ビジネスインターンシップ	2		2			削除
							海外フードシステム現地研修	2		2			配置変更
							スローフード論	2		2			〃
							グリーン・ツーリズム論	2		2			名称変更・配置変更
							食品の企画と開発	2		2			配置変更

						食と素材	2		2			〃
						フードスペシャリスト論	2		2			〃
						フードコーディネート論	2		2			〃
						調理学	2		2			〃
						食品の官能評価・鑑別論	2		2			配置変更
						調理学実習	2		2			〃
						食物学実験	1		1			〃
						食料生産実習	2		2			名称変更・配置変更
						フードコーディネート実習	1		1			配置変更
						食と農の経済史	2		2			〃
						フィールドリサーチ特別演習	1		1			削除
						食品ビジネス特別演習Ⅰ	1		1			〃
						食品ビジネス特別演習Ⅱ	1		1			〃
						卒業研究	6	6				分割・名称変更・配置変更

Ⅳ　森林資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
森林資源科学概論Ⅰ（生物環境系）	2	2			
森林資源科学概論Ⅱ（資源系）	2	2			
森林資源科学実習	2	2			
樹木学	2	2			
森林統計学	2		2		
森林計測学	2		2		
森林計画学	2	2			
造林学	2		2		
造林学実習	1		1		
山地保全学	2		2		
山地保全学演習	2		2		
自然災害論	2	2			
森林利用学	2	2			
森林利用学実習	1		1		
木材加工学	2		2		
木材計測学実験	1		1		
森林土木学	2		2		
森林測量学	2		2		
森林測量学実習	1		1		
森林航測学実習	1		1		
森林生態学	2	2			
森林生態学実習	1		1		

Ⅵ　森林資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
森林資源科学概論Ⅰ（生物環境系）	2	2			
森林資源科学概論Ⅱ（資源系）	2	2			
森林資源科学実習	2	2			
樹木学	2	2			
森林統計学	2		2		
森林計測学	2		2		
森林計画学	2	2			
造林学	2		2		
造林学実習	1		1		
山地保全学	2		2		
山地保全学演習	2		2		
自然災害論	2	2			
森林利用学	2	2			
森林利用学実習	1		1		
木材加工学	2		2		
木材計測学実験	1		1		
森林土木学	2		2		
森林測量学	2		2		
森林測量学実習	1		1		
森林航測学実習	1		1		
森林生態学	2	2			
森林生態学実習	1		1		

（変更の内容）

森林GIS	2		2
木材物理学	2	2	
木材物理学実験	1		1
環境緑化工学	2		2
森林土壌科学	2	2	
森林資源化学	2	2	
森林資源化学実験	1		1
材料としての木材	2		2
木質材料学	2		2
森林計測学実習	1		1
バイオマス資源利用学	2		2
バイオマス資源利用学実験	1		1
森林・木材・環境ビジネス論	2		2
森林基礎力学	2		2
森林水文気象学演習	2		2
風致造園学	2		2
建設材料学	2		2
樹病学	2		2
森林動物学	2	2	
森林生物多様性実習	1		1
森林昆虫学	2	2	
森林生物多様性実験	1		1
森林水文気象学	2	2	
風致造園学実習	1		1
建築計画論	2		2
建築設計製図Ⅰ	2		2
建築施工論	2		2
建築法規	2		2
木造住宅論	2	2	
森林リモートセンシング	2		2
森林レクリエーション	2		2
専門英語	2		2
森林微生物学	2	2	
森林環境教育論	2		2
森林資源科学インターンシップ	2		2
木材防腐防虫学	2		2
特別演習Ⅰ	2	2	
特別演習Ⅱ	2	2	
実践森林資源科学	2		2
夏季演習林実習	1		1

森林GIS	2		2
木材物理学	2	2	
木材物理学実験	1		1
環境緑化工学	2		2
森林土壌科学	2	2	
森林資源化学	2	2	
森林資源化学実験	1		1
材料としての木材	2		2
木質材料学	2		2
森林計測学実習	1		1
バイオマス資源利用学	2		2
バイオマス資源利用学実験	1		1
森林・木材・環境ビジネス論	2		2
森林基礎力学	2		2
森林水文気象学演習	2		2
風致造園学	2		2
建設材料学	2		2
樹病学	2		2
森林動物学	2	2	
森林生物多様性実習	1		1
森林昆虫学	2	2	
森林生物多様性実験	1		1
森林水文気象学	2	2	
風致造園学実習	1		1
建築計画論	2		2
建築設計製図Ⅰ	2		2
建築施工論	2		2
建築法規	2		2
木造住宅論	2	2	
森林リモートセンシング	2		2
森林レクリエーション	2		2
専門英語	2		2
森林微生物学	2	2	
森林環境教育論	2		2
森林資源科学インターンシップ	2		2
木材防腐防虫学	2		2
特別演習Ⅰ	2	2	
特別演習Ⅱ	2	2	
実践森林資源科学	2		2
夏季演習林実習	1		1

冬季演習林実習	1		1		
森林海外実習	2		2		
建築設計製図Ⅱ	2		2		
CAD製図	1		1		
森林生物の多様性と進化	2		2		
森林圏基礎科学	2		2		
森林政策学	2		2		
森林機械学	2		2		
木造建築構法	2		2		
建築史・保存活用論	2		2		
森林基礎有機化学	2		2		
卒業研究	6	6			

Ⅴ 海洋生物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
海洋環境学	2	2		海洋生物資源広域コースと海洋生物資源応用コースを置く。 海洋生物資源広域コースは実験科目4科目4単位以上を修得しなければならない。海洋生物資源応用コースは 水族館論 細胞生物学 技術者の倫理入門 特別講義 インターンシップ／学外研修 海洋環境化学 海洋環境保全・修復学 フードビジネス論 海洋法規 を必修とし， 海洋環境分野 生物海洋学 プランクトン学 海洋微生物学 海洋環境学実験 分析化学 海洋気象学 深海生物学 から3科目以上 資源生産・管理分野 生物統計学 魚類生態学 行動生態学 水族生態学実験 海洋生産学実験 魚群行動学 潮間帯の生態学 魚類繁殖行動学	
生物海洋学	2		2		
基礎有機化学	2		2		
無脊椎動物学	2	2			
魚類学	2	2			
海生ほ乳類学	2		2		
生化学	2	2			
生理生化学	2		2		
生物機能化学実験	1		1		
魚類生態学	2		2		
水族生態学実験	1		1		
水族育成学	2	2			
水族育成病理学実験	1		1		
水産利用学	2	2			
水産利用学実験	1		1		
海洋生物資源科学概論	2	2			
海洋法規	2		2		
海洋環境学実験	1		1		
水族生理学	2		2		
水族生理学実験	1		1		
水族病理学	2		2		
海洋気象学	2		2		
水族の統計解析	2		2		
増殖環境学	2	2			

冬季演習林実習	1		1		
森林海外実習	2		2		
建築設計製図Ⅱ	2		2		
CAD製図	1		1		
森林生物の多様性と進化	2		2		
森林圏基礎科学	2		2		
森林政策学	2		2		
森林機械学	2		2		
木造建築構法	2		2		
建築史・保存活用論	2		2		
森林基礎有機化学	2		2		
卒業研究	6	6			

Ⅶ 海洋生物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
海洋環境学	2	2		海洋生物資源広域コースと海洋生物資源応用コースを置く。 海洋生物資源広域コースは実験科目4科目4単位以上を修得しなければならない。海洋生物資源応用コースは 水族館論 細胞生物学 技術者の倫理入門 特別講義 インターンシップ／学外研修 海洋環境化学 海洋環境保全・修復学 フードビジネス論 海洋法規 を必修とし， 海洋環境分野 生物海洋学 プランクトン学 海洋微生物学 海洋環境学実験 分析化学 海洋気象学 深海生物学 から3科目以上 資源生産・管理分野 生物統計学 魚類生態学 行動生態学 水族生態学実験 海洋生産学実験 魚群行動学 潮間帯の生態学 魚類繁殖行動学	
生物海洋学	2		2		
基礎有機化学	2		2		
無脊椎動物学	2	2			
魚類学	2	2			
海生ほ乳類学	2		2		
生化学	2	2			
生理生化学	2		2		
生物機能化学実験	1		1		
魚類生態学	2		2		
水族生態学実験	1		1		
水族育成学	2	2			
水族育成病理学実験	1		1		
水産利用学	2	2			
水産利用学実験	1		1		
海洋生物資源科学概論	2	2			
海洋法規	2		2		
海洋環境学実験	1		1		
水族生理学	2		2		
水族生理学実験	1		1		
水族病理学	2		2		
海洋気象学	2		2		
水族の統計解析	2		2		
増殖環境学	2	2			

（変更の内容）

増殖環境学実験	1		1	水族の統計解析
食品微生物学	2		2	から3科目以上
水産食品化学	2		2	増養殖分野
食品加工学	2		2	水族栄養学
食品衛生学	2		2	海生ほ乳類学
魚群行動学	2		2	水族生理学
フードビジネス論	2		2	水族病理学
特別講義	2		2	遺伝育種学
細胞生物学	2		2	水族発生学
分析化学	2		2	水族生理学実験
水族栄養学	2		2	水族育成病理学実験
海洋微生物学	2		2	増殖環境学実験
公衆衛生学	2		2	水族生体防御学
海洋生物資源科学演習Ⅰ	2	2		分子生態学
海洋生物資源科学演習Ⅱ	2	2		から4科目以上
海洋生物資源科学実習Ⅱ	2	2		資源利用分野
海洋基礎生物	2		2	食品微生物学
海洋基礎化学	2		2	生物機能化学実験
海洋基礎物理	2		2	水産利用学実験
海洋基礎実習Ⅰ	1	1		水産食品化学
海洋基礎実習Ⅱ	1	1		食品衛生学
海洋生産学実験	1		1	食品加工学
生物統計学	2		2	公衆衛生学
海洋環境保全・修復学	2		2	生理生化学
インターンシップ／学外研修	2		2	基礎有機化学
遺伝育種学	2		2	から4科目以上，合計23科目以上を選択必修とする。ただし，実験科目4科目4単位以上を含む。
水族発生学	2		2	
水族生体防御学	2		2	
海洋環境化学	2		2	
漁業生産システム学	2	2		
行動生態学	2		2	
水族館論	2		2	
プランクトン学	2		2	
技術者の倫理入門	2		2	
小型船舶操縦法実習	1		1	
海洋生物資源科学実習Ⅰ	2	2		
分子生態学	2		2	
深海生物学	2		2	
潮間帯の生態学	2		2	
魚類繁殖行動学	2		2	

増殖環境学実験	1		1	水族の統計解析
食品微生物学	2		2	から3科目以上
水産食品化学	2		2	増養殖分野
食品加工学	2		2	水族栄養学
食品衛生学	2		2	海生ほ乳類学
魚群行動学	2		2	水族生理学
フードビジネス論	2		2	水族病理学
特別講義	2		2	遺伝育種学
細胞生物学	2		2	水族発生学
分析化学	2		2	水族生理学実験
水族栄養学	2		2	水族育成病理学実験
海洋微生物学	2		2	増殖環境学実験
公衆衛生学	2		2	水族生体防御学
海洋生物資源科学演習Ⅰ	2	2		分子生態学
海洋生物資源科学演習Ⅱ	2	2		から4科目以上
海洋生物資源科学実習Ⅱ	2	2		資源利用分野
海洋基礎生物	2		2	食品微生物学
海洋基礎化学	2		2	生物機能化学実験
海洋基礎物理	2		2	水産利用学実験
海洋基礎実習Ⅰ	1	1		水産食品化学
海洋基礎実習Ⅱ	1	1		食品衛生学
海洋生産学実験	1		1	食品加工学
生物統計学	2		2	公衆衛生学
海洋環境保全・修復学	2		2	生理生化学
インターンシップ／学外研修	2		2	基礎有機化学
遺伝育種学	2		2	から4科目以上，合計23科目以上を選択必修とする。ただし，実験科目4科目4単位以上を含む。
水族発生学	2		2	
水族生体防御学	2		2	
海洋環境化学	2		2	
漁業生産システム学	2	2		
行動生態学	2		2	
水族館論	2		2	
プランクトン学	2		2	
技術者の倫理入門	2		2	
小型船舶操縦法実習	1		1	
海洋生物資源科学実習Ⅰ	2	2		
分子生態学	2		2	
深海生物学	2		2	
潮間帯の生態学	2		2	
魚類繁殖行動学	2		2	

卒業研究	6	6			

Ⅵ 生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物環境調節工学	2	2		環境計画コース・生産管理コース・地域環境工学コース（基盤分野・環境分野）の3コースを置き環境計画コースは 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 農地環境整備学 地域環境水文学 土環境学 土質力学 応用数学 数理情報科学 灌漑排水環境学 土木材料 の14科目27単位を必修とする。 地域環境工学コースの基盤分野では 図学 エコロジカルデザイン演習 生物工学 地域環境水文学 土環境学 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 環境化学 大気環境科学 環境情報工学 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 土質力学 応用数学 技術者の物理学 農地環境整備学 数理情報科学 環境情報工学演習 コンクリート工学 ベクトル解析 灌漑排水環境学 水環境工学実験 土環境工学実験 専門英語 生物環境工学ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 土木設計製図	
図学	2		2		
土木材料	2		2		
環境空調工学	2		2		
地域環境保全学概論	2	2			
地域環境保全学各論	2		2		
土環境学	2		2		
水環境工学実験	1		1		
農地環境整備学	2		2		
測量学Ⅰ	2	2			
測量学Ⅱ	2		2		
測量学実習Ⅰ	2	2			
測量学実習Ⅱ	1		1		
水資源環境工学	2	2			
灌漑排水環境学	2		2		
地域環境水文学	2		2		
基礎水理学	2		2		
応用水理学	2		2		
社会基盤施設工学概論	2	2			
社会基盤施設工学各論	2		2		
土木施工	2		2		
土質力学	2		2		
土質・材料工学実験	1		1		
コンクリート工学	2		2		
農村整備計画学	2	2			
生物地域環境計画学	2		2		
農業施設学	2	2			
農業施設環境学実験	1		1		
農産物流通工学	2		2		
生物工学	2		2		
建築計画学	2		2		
環境建築学	2		2		
建築構造学	2		2		
構造力学Ⅰ	2		2		
構造力学Ⅱ	2		2		

卒業研究	6	6			

Ⅷ 生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
生物環境調節工学	2	2		環境計画コース・生産管理コース・地域環境工学コース（基盤分野・環境分野）の3コースを置き環境計画コースは 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 農地環境整備学 地域環境水文学 土環境学 土質力学 応用数学 数理情報科学 灌漑排水環境学 土木材料 の14科目27単位を必修とする。 地域環境工学コースの基盤分野では 図学 エコロジカルデザイン演習 生物工学 地域環境水文学 土環境学 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 環境化学 大気環境科学 環境情報工学 基礎水理学 応用水理学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 土質力学 応用数学 技術者の物理学 農地環境整備学 数理情報科学 環境情報工学演習 コンクリート工学 ベクトル解析 灌漑排水環境学 水環境工学実験 土環境工学実験 専門英語 生物環境工学ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 土木設計製図	
図学	2		2		
土木材料	2		2		
環境空調工学	2		2		
地域環境保全学概論	2	2			
地域環境保全学各論	2		2		
土環境学	2		2		
水環境工学実験	1		1		
農地環境整備学	2		2		
測量学Ⅰ	2	2			
測量学Ⅱ	2		2		
測量学実習Ⅰ	2	2			
測量学実習Ⅱ	1		1		
水資源環境工学	2	2			
灌漑排水環境学	2		2		
地域環境水文学	2		2		
基礎水理学	2		2		
応用水理学	2		2		
社会基盤施設工学概論	2	2			
社会基盤施設工学各論	2		2		
土木施工	2		2		
土質力学	2		2		
土質・材料工学実験	1		1		
コンクリート工学	2		2		
農村整備計画学	2	2			
生物地域環境計画学	2		2		
農業施設学	2	2			
農業施設環境学実験	1		1		
農産物流通工学	2		2		
生物工学	2		2		
建築計画学	2		2		
環境建築学	2		2		
建築構造学	2		2		
構造力学Ⅰ	2		2		
構造力学Ⅱ	2		2		

（変更の内容）

建築施工	2		2	社会基盤施設工学各論
建築法規	2		2	土木材料
建築環境工学	2		2	土質・材料工学実験
建築材料	2		2	技術者倫理
環境エネルギー工学	2		2	の32科目58単位を必修とする。
生物生産システム工学	2		2	
生物生産システム工学実験	1		1	地域環境工学コースの環境分野では
バイオメカトロニクス	2	2		図学
機械工学	2		2	エコロジカルデザイン演習
生物資源プロセス工学	2		2	生物工学
ポストハーベスト工学	2		2	地域環境水文学
建築設計製図Ⅱ	2		2	土環境学
建築設計製図Ⅲ	1		1	測量学Ⅱ
生物生産原論	2	2		測量学実習Ⅱ
環境情報工学	2		2	環境化学
環境情報工学演習	1		1	大気環境科学
電気・電子工学	2		2	環境情報工学
応用数学	2		2	基礎水理学
ベクトル解析	2		2	応用水理学
数理情報科学	2		2	構造力学Ⅰ
バイオマスエネルギー工学	2		2	構造力学Ⅱ
大気環境科学	2		2	土質力学
動物生態・共生学	2		2	応用数学
基礎生態学	2	2		技術者の物理学
エコロジカルデザイン演習	1		1	農地環境整備学
生物環境工学インターンシップ	2		2	数理情報科学
CAD製図	1		1	環境情報工学演習
専門英語	2		2	建築設計製図Ⅰ
技術者倫理	2		2	環境建築学
環境化学	2		2	ベクトル解析
技術者の物理学	2		2	灌漑排水環境学
地域環境GIS演習	1		1	水環境工学実験
フレッシュマンセミナー	1	1		土環境工学実験
建築文化史	2		2	専門英語
建築設計製図Ⅰ	2		2	生物環境工学ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ
木造建築構法	2		2	地域環境保全学各論
都市計画	2		2	生物地域環境計画学
建築総合設計製図	1		1	技術者倫理
生物環境工学演習Ⅰ	1	1		地域環境GIS演習
生物環境工学演習Ⅱ	1	1		の32科目58単位を必修とする。

建築施工	2		2	社会基盤施設工学各論
建築法規	2		2	土木材料
建築環境工学	2		2	土質・材料工学実験
建築材料	2		2	技術者倫理
環境エネルギー工学	2		2	の32科目58単位を必修とする。
生物生産システム工学	2		2	
生物生産システム工学実験	1		1	地域環境工学コースの環境分野では
バイオメカトロニクス	2	2		図学
機械工学	2		2	エコロジカルデザイン演習
生物資源プロセス工学	2		2	生物工学
ポストハーベスト工学	2		2	地域環境水文学
建築設計製図Ⅱ	2		2	土環境学
建築設計製図Ⅲ	1		1	測量学Ⅱ
生物生産原論	2	2		測量学実習Ⅱ
環境情報工学	2		2	環境化学
環境情報工学演習	1		1	大気環境科学
電気・電子工学	2		2	環境情報工学
応用数学	2		2	基礎水理学
ベクトル解析	2		2	応用水理学
数理情報科学	2		2	構造力学Ⅰ
バイオマスエネルギー工学	2		2	構造力学Ⅱ
大気環境科学	2		2	土質力学
動物生態・共生学	2		2	応用数学
基礎生態学	2	2		技術者の物理学
エコロジカルデザイン演習	1		1	農地環境整備学
生物環境工学インターンシップ	2		2	数理情報科学
CAD製図	1		1	環境情報工学演習
専門英語	2		2	建築設計製図Ⅰ
技術者倫理	2		2	環境建築学
環境化学	2		2	ベクトル解析
技術者の物理学	2		2	灌漑排水環境学
地域環境GIS演習	1		1	水環境工学実験
フレッシュマンセミナー	1	1		土環境工学実験
建築文化史	2		2	専門英語
建築設計製図Ⅰ	2		2	生物環境工学ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ
木造建築構法	2		2	地域環境保全学各論
都市計画	2		2	生物地域環境計画学
建築総合設計製図	1		1	技術者倫理
生物環境工学演習Ⅰ	1	1		地域環境GIS演習
生物環境工学演習Ⅱ	1	1		の32科目58単位を必修とする。

土環境工学実験	1		1		
土木設計製図	2		2		
機械設計製図	2		2		
生物環境工学特別講義	2		2		
公害防止管理論	2		2		
海外研修	2		2		
野生動物フィールド実習	1		1		
フィールドワーク論	2		2		
食料機械工学	2		2		
バイオメカトロニクス実習	1		1		
リモートセンシング実習	1		1		
卒業研究	6	6			

Ⅶ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基礎物理化学	2	2			
有機化学入門	2		2		
基礎有機化学	2	2			
生物化学入門	2		2		
基礎生物化学	2	2			
食品生命学入門	2		2		
食品学	2	2			
食品化学	2	2			
食品化学・分析学実験	1	1			
食品界面科学	2		2		
食品物性学	2		2		
食品衛生学	2	2			
食品疾病予防学	2		2		
食品衛生学・微生物学実験	3	3			
食品分析学	2	2			
機器分析学	2		2		
食品製造学	2	2			
応用微生物学	2	2			
食品製造学実験	2	2			
食品機能化学	2	2			
食品免疫学	2		2		
食品生物化学・工学実験	3	3			
植物性食品原料学	2		2		
動物性食品原料学	2		2		

土環境工学実験	1		1		
土木設計製図	2		2		
機械設計製図	2		2		
生物環境工学特別講義	2		2		
公害防止管理論	2		2		
海外研修	2		2		
野生動物フィールド実習	1		1		
フィールドワーク論	2		2		
食料機械工学	2		2		
バイオメカトロニクス実習	1		1		
リモートセンシング実習	1		1		
卒業研究	6	6			

Ⅸ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
基礎物理化学	2	2			
有機化学入門	2		2		
基礎有機化学	2	2			
生物化学入門	2		2		
基礎生物化学	2	2			
食品生命学入門	2		2		
食品学	2	2			
食品化学	2	2			
食品化学・分析学実験	1	1			
食品界面科学	2		2		
食品物性学	2		2		
食品衛生学	2	2			
食品疾病予防学	2		2		
食品衛生学・微生物学実験	3	3			
食品分析学	2	2			
機器分析学	2		2		
食品製造学	2	2			
応用微生物学	2	2			
食品製造学実験	2	2			
食品機能化学	2	2			
食品免疫学	2		2		
食品生物化学・工学実験	3	3			
植物性食品原料学	2		2		
動物性食品原料学	2		2		

（変更の内容）

食品保蔵学	2		2
食品化学工学	2	2	
食品生産プロセス論	2		2
化学工学概論	2		2
食品工学	2	2	
生物化学工学	2		2
食品環境化学	2		2
公衆衛生学	2		2
食品微生物学	2	2	
食品行政	2		2
食品栄養化学	2	2	
分子栄養学	2	2	
品質管理論	2		2
実験統計学	2		2
バイオテクノロジー概論	2		2
食品添加物論	2		2
おいしさの科学	2		2
食品安全学総論	2	2	
食品成分化学	2		2
健康と食品	2		2
発酵醸造学	2		2
動物性食品製造学	2		2
総合食品開発講座	2		2
物理化学入門	2		2
スポーツ食品科学	2		2
調理科学	2		2
分子細胞生物学	2	2	
臨床食品科学	2		2
食品製造実習	1	1	
基礎食品製造実習Ⅰ	1		1
食品生命学インターンシップ	1		1
食品科学英語	2		2
食文化史	2		2
技術者倫理	2		2
植物性食品製造学	2		2
食品生命学	2	2	
基礎分析化学	2		2
香りの科学	2		2
容器包装科学	2		2
食とアレルギー	2		2

食品保蔵学	2		2
食品化学工学	2	2	
食品生産プロセス論	2		2
化学工学概論	2		2
食品工学	2	2	
生物化学工学	2		2
食品環境化学	2		2
公衆衛生学	2		2
食品微生物学	2	2	
食品行政	2		2
食品栄養化学	2	2	
分子栄養学	2	2	
品質管理論	2		2
実験統計学	2		2
バイオテクノロジー概論	2		2
食品添加物論	2		2
おいしさの科学	2		2
食品安全学総論	2	2	
食品成分化学	2		2
健康と食品	2		2
発酵醸造学	2		2
動物性食品製造学	2		2
総合食品開発講座	2		2
物理化学入門	2		2
スポーツ食品科学	2		2
調理科学	2		2
分子細胞生物学	2	2	
臨床食品科学	2		2
食品製造実習	1	1	
基礎食品製造実習Ⅰ	1		1
食品生命学インターンシップ	1		1
食品科学英語	2		2
食文化史	2		2
技術者倫理	2		2
植物性食品製造学	2		2
食品生命学	2	2	
基礎分析化学	2		2
香りの科学	2		2
容器包装科学	2		2
食とアレルギー	2		2

食品衛生監視員養成講座	2		2		
食品機能解析論	2		2		
基礎食品製造実習Ⅱ	1		1		
基礎食品製造実習Ⅲ	1		1		
卒業研究	6	6			

Ⅷ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
国際地域開発学入門	2	2		農業・農村開発コースとグローバルビジネスコースを置き，農業・農村開発コースは，農業技術実習，社会調査法を必修とする。 グローバルビジネスコースは，経済・環境情報処理実習，ファイナンス入門を必修とする。 また，開発課題プログラム，農業分野 熱帯園芸学 農業技術の開発と普及 資源作物学実験 農業生態学 作物と食の文化 熱帯生物資源論 農業フィールドワーク 開発課題プログラム，環境分野 環境農学 水と土の保全学 環境保全工学実験・実習 環境農学実験 地域環境保全工学 環境経済学 環境情報利用学 開発課題プログラム，アグリビジネス分野 アカウンティング論 農業経済学 農業経営学 アグリビジネス論 農村社会学 農産物流通論 開発課題プログラム，貧困削減分野 開発プランニング論 アジア経済論 アフリカ経済論 ラテンアメリカ経済論 国際農業開発論 参加型評価手法（PCM） 熱帯農業論 開発課題プログラム，共生分野 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級A 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級B 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）ⅡA 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅡB 文化地理学	
環境生態学	2	2			
アジア経済論	2		2		
国際農業開発論	2		2		
グローバルビジネス論	2	2			
国際協力論	2	2			
国際キャリアデザイン	2	2			
熱帯農業論	2		2		
農業経営学	2		2		
スタディ・スキルズA	2	2			
地域研究	2		2		
経済学の基礎	2	2			
アグリビジネス論	2		2		
農産物流通論	2		2		
ファイナンス入門	2		2		
アカウンティング論	2		2		
コンピュータリテラシー	2		2		
経済・環境情報処理実習	2		2		
農業生態学	2		2		
環境農学	2		2		
環境農学実験	1		1		
熱帯資源作物学	2	2			
熱帯生物資源論	2		2		
熱帯園芸学	2		2		
農業フィールドワーク	2		2		
アフリカ経済論	2		2		
文化地理学	2		2		
参加型評価手法（PCM）	2		2		
開発プランニング論	2		2		
地域環境保全工学	2		2		

食品衛生監視員養成講座	2		2		
食品機能解析論	2		2		
基礎食品製造実習Ⅱ	1		1		
基礎食品製造実習Ⅲ	1		1		
卒業研究	6	6			

Ⅹ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
国際地域開発学入門	2	2		農業・農村開発コースとグローバルビジネスコースを置き，農業・農村開発コースは，農業技術実習，社会調査法を必修とする。 グローバルビジネスコースは，経済・環境情報処理実習，ファイナンス入門を必修とする。 また，開発課題プログラム，農業分野 熱帯園芸学 農業技術の開発と普及 資源作物学実験 農業生態学 作物と食の文化 熱帯生物資源論 農業フィールドワーク 開発課題プログラム，環境分野 環境農学 水と土の保全学 環境保全工学実験・実習 環境農学実験 地域環境保全工学 環境経済学 環境情報利用学 開発課題プログラム，アグリビジネス分野 アカウンティング論 農業経済学 農業経営学 アグリビジネス論 農村社会学 農産物流通論 開発課題プログラム，貧困削減分野 開発プランニング論 アジア経済論 アフリカ経済論 ラテンアメリカ経済論 国際農業開発論 参加型評価手法（PCM） 熱帯農業論 開発課題プログラム，共生分野 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級A 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）中級B 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）ⅡA 外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅡB 文化地理学	
環境生態学	2	2			
アジア経済論	2		2		
国際農業開発論	2		2		
グローバルビジネス論	2	2			
国際協力論	2	2			
国際キャリアデザイン	2	2			
熱帯農業論	2		2		
農業経営学	2		2		
スタディ・スキルズA	2	2			
地域研究	2		2		
経済学の基礎	2	2			
アグリビジネス論	2		2		
農産物流通論	2		2		
ファイナンス入門	2		2		
アカウンティング論	2		2		
コンピュータリテラシー	2		2		
経済・環境情報処理実習	2		2		
農業生態学	2		2		
環境農学	2		2		
環境農学実験	1		1		
熱帯資源作物学	2	2			
熱帯生物資源論	2		2		
熱帯園芸学	2		2		
農業フィールドワーク	2		2		
アフリカ経済論	2		2		
文化地理学	2		2		
参加型評価手法（PCM）	2		2		
開発プランニング論	2		2		
地域環境保全工学	2		2		

（変更の内容）

農業技術の開発と普及	2		2	
社会調査法	2		2	
国際関係論	2		2	
農村社会学基礎	2	2		
エコツーリズム論	2		2	
農村社会学	2		2	
多文化教育論	2		2	
開発課題研究	2		2	
国際地域開発演習ⅠA	1		1	
国際地域開発演習ⅡA	1		1	
英語コミュニケーションⅠ	2	2		
英語コミュニケーションⅡA	1		1	
英語コミュニケーションⅡB	1		1	
英語コミュニケーションⅢA	1		1	
英語コミュニケーションⅢB	1		1	
英語コミュニケーションⅣA	1		1	
英語コミュニケーションⅣB	1		1	
スペイン語基礎	2	2		
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	2		
スペイン語中級A	1		1	
スペイン語中級B	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡB	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢB	1		1	
インドネシア語基礎	2	2		
インドネシア語コミュニケーションⅠ	2	2		
インドネシア語中級A	1		1	
インドネシア語中級B	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡB	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢB	1		1	
中国語基礎	2	2		
中国語コミュニケーションⅠ	2	2		
中国語中級A	1		1	
中国語中級B	1		1	
中国語コミュニケーションⅡA	1		1	

多文化教育論
エコツーリズム論
外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢA
外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢB
英語インテンシブプログラム分野
TOEIC対策総合英語ⅠA
TOEIC対策総合英語ⅠB
英語コミュニケーションⅡA
英語コミュニケーションⅡB
TOEIC対策総合英語ⅡA
TOEIC対策総合英語ⅡB
英語コミュニケーションⅢA
英語コミュニケーションⅢB
英語コミュニケーションⅣA
英語コミュニケーションⅣB
のうちから1分野8単位以上修得しなければならない。

いずれか一か国語を選択履修すること。

農業技術の開発と普及	2		2	
社会調査法	2		2	
国際関係論	2		2	
農村社会学基礎	2	2		
エコツーリズム論	2		2	
農村社会学	2		2	
多文化教育論	2		2	
開発課題研究	2		2	
国際地域開発演習ⅠA	1		1	
国際地域開発演習ⅡA	1		1	
英語コミュニケーションⅠ	2	2		
英語コミュニケーションⅡA	1		1	
英語コミュニケーションⅡB	1		1	
英語コミュニケーションⅢA	1		1	
英語コミュニケーションⅢB	1		1	
英語コミュニケーションⅣA	1		1	
英語コミュニケーションⅣB	1		1	
スペイン語基礎	2	2		
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	2		
スペイン語中級A	1		1	
スペイン語中級B	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅡB	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢA	1		1	
スペイン語コミュニケーションⅢB	1		1	
インドネシア語基礎	2	2		
インドネシア語コミュニケーションⅠ	2	2		
インドネシア語中級A	1		1	
インドネシア語中級B	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅡB	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢA	1		1	
インドネシア語コミュニケーションⅢB	1		1	
中国語基礎	2	2		
中国語コミュニケーションⅠ	2	2		
中国語中級A	1		1	
中国語中級B	1		1	
中国語コミュニケーションⅡA	1		1	

多文化教育論
エコツーリズム論
外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢA
外国語（スペイン語，中国語またはインドネシア語）コミュニケーションⅢB
英語インテンシブプログラム分野
TOEIC対策総合英語ⅠA
TOEIC対策総合英語ⅠB
英語コミュニケーションⅡA
英語コミュニケーションⅡB
TOEIC対策総合英語ⅡA
TOEIC対策総合英語ⅡB
英語コミュニケーションⅢA
英語コミュニケーションⅢB
英語コミュニケーションⅣA
英語コミュニケーションⅣB
のうちから1分野8単位以上修得しなければならない。

いずれか一か国語を選択履修すること。

中国語コミュニケーションⅡB	1		1		
中国語コミュニケーションⅢA	1		1		
中国語コミュニケーションⅢB	1		1		
専門外書講読	2		2		
環境経済学	2		2		
時事英語A	1		1		
国際地域開発フィールドワークIA	1		1		
水と土の保全学	2		2		
作物と食の文化	2		2		
環境情報利用学	2		2		
資源作物学実験	1		1		
環境保全工学実験・実習	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅡA	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅢA	1		1		
国際地域開発フイールドワークⅣA	1		1		
国際地域開発インターンシップA	1		1		
国際地域開発キャリア研究	2	2			
スタディ・スキルズB	2	2			
国際地域開発フィールドワークIB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅡB	1		1		
国際地域開発演習ⅠB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅢB	1		1		
国際地域開発インターンシップB	1		1		
国際地域開発演習ⅡB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅣB	1		1		
経営学の基礎	2	2			
時事英語B	1		1		
農業・農村協力研修	2		2		
アグリビジネス研修	2		2		
農業技術実習	2		2		
農業経済学	2		2		
ラテンアメリカ経済論	2		2		
TOEIC対策総合英語IA	1		1		
TOEIC対策総合英語IB	1		1		
TOEIC対策総合英語ⅡA	2		2		
TOEIC対策総合英語ⅡB	2		2		
卒業研究	6	6			

中国語コミュニケーションⅡB	1		1		
中国語コミュニケーションⅢA	1		1		
中国語コミュニケーションⅢB	1		1		
専門外書講読	2		2		
環境経済学	2		2		
時事英語A	1		1		
国際地域開発フィールドワークIA	1		1		
水と土の保全学	2		2		
作物と食の文化	2		2		
環境情報利用学	2		2		
資源作物学実験	1		1		
環境保全工学実験・実習	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅡA	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅢA	1		1		
国際地域開発フイールドワークⅣA	1		1		
国際地域開発インターンシップA	1		1		
国際地域開発キャリア研究	2	2			
スタディ・スキルズB	2	2			
国際地域開発フィールドワークIB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅡB	1		1		
国際地域開発演習ⅠB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅢB	1		1		
国際地域開発インターンシップB	1		1		
国際地域開発演習ⅡB	1		1		
国際地域開発フィールドワークⅣB	1		1		
経営学の基礎	2	2			
時事英語B	1		1		
農業・農村協力研修	2		2		
アグリビジネス研修	2		2		
農業技術実習	2		2		
農業経済学	2		2		
ラテンアメリカ経済論	2		2		
TOEIC対策総合英語IA	1		1		
TOEIC対策総合英語IB	1		1		
TOEIC対策総合英語ⅡA	2		2		
TOEIC対策総合英語ⅡB	2		2		
卒業研究	6	6			

ＩＸ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
応用生物科学トピックス	4	4		免疫生物学 細胞組織形態学 発生再生生物学 発生工学 神経生物学 のうちから2科目4単位 植物機能化学 植物バイオテクノロジー 植物分子生物学 植物環境科学 のうちから2科目4単位 産業微生物学 微生物生態学 微生物バイオテクノロジー 微生物遺伝学 のうちから2科目4単位を選択必修とする。	
基礎遺伝学	2	2			
生物有機化学	2	2			
生物化学入門	2	2			
応用生物科学実験Ⅲ	4	4			
基礎細胞生物学	2	2			
代謝生化学	2	2			
機器分析学	2		2		
植物機能化学	2		2		
応用生物科学実験Ⅳ	4	4			
応用生物科学実験Ⅰ	4	4			
酵素科学	2	2			
免疫生物学	2		2		
核酸・蛋白質概論	2	2			
分子生物学	2	2			
ゲノムダイナミックス	2	2			
生命情報科学	2	2			
微生物生理学	2	2			
応用生物科学実験Ⅱ	4	4			
微生物生態学	2		2		
微生物学概論	2	2			
システム生物学	2		2		
環境バイオテクノロジー	2		2		
植物バイオテクノロジー	2		2		
植物生理学	2	2			
動物生命科学概論	2	2			
細胞シグナル伝達	2	2			
動物生理学	2	2			
発生工学	2		2		
微生物バイオテクノロジー	2		2		
実験動物学	2		2		
応用微生物学	2	2			
植物環境科学	2		2		
生物統計学	2		2		
ゼミナール	2	2			
特別講義Ⅰ	2		2		
特別講義Ⅱ	2		2		

ＸＩ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
応用生物科学トピックス	4	4		免疫生物学 細胞組織形態学 発生再生生物学 発生工学 神経生物学 のうちから2科目4単位 植物機能化学 植物バイオテクノロジー 植物分子生物学 植物環境科学 のうちから2科目4単位 産業微生物学 微生物生態学 微生物バイオテクノロジー 微生物遺伝学 のうちから2科目4単位を選択必修とする。	
基礎遺伝学	2	2			
生物有機化学	2	2			
生物化学入門	2	2			
応用生物科学実験Ⅲ	4	4			
基礎細胞生物学	2	2			
代謝生化学	2	2			
機器分析学	2		2		
植物機能化学	2		2		
応用生物科学実験Ⅳ	4	4			
応用生物科学実験Ⅰ	4	4			
酵素科学	2	2			
免疫生物学	2		2		
核酸・蛋白質概論	2	2			
分子生物学	2	2			
ゲノムダイナミックス	2	2			
生命情報科学	2	2			
微生物生理学	2	2			
応用生物科学実験Ⅱ	4	4			
微生物生態学	2		2		
微生物学概論	2	2			
システム生物学	2		2		
環境バイオテクノロジー	2		2		
植物バイオテクノロジー	2		2		
植物生理学	2	2			
動物生命科学概論	2	2			
細胞シグナル伝達	2	2			
動物生理学	2	2			
発生工学	2		2		
微生物バイオテクノロジー	2		2		
実験動物学	2		2		
応用微生物学	2	2			
植物環境科学	2		2		
生物統計学	2		2		
ゼミナール	2	2			
特別講義Ⅰ	2		2		
特別講義Ⅱ	2		2		

（変更の内容）

産業微生物学	2		2		
共生生物学	2		2		
生化学・分子生物学実験法	2	2			
食品衛生学	2		2		
細胞組織形態学	2		2		
酵素工学	2		2		
微生物遺伝学	2		2		
植物科学概論	2	2			
分子細胞機能学	2		2		
バイオメディカルサイエンス	2		2		
ケミカルバイオロジー	2		2		
神経生物学	2		2		
発生再生生物学	2		2		
植物分子生物学	2		2		
応用生物科学演習	2	2			
環境衛生学	2		2		
食品機器分析学実験	1		1		
卒業研究	6	6			

産業微生物学	2		2		
共生生物学	2		2		
生化学・分子生物学実験法	2	2			
食品衛生学	2		2		
細胞組織形態学	2		2		
酵素工学	2		2		
微生物遺伝学	2		2		
植物科学概論	2	2			
分子細胞機能学	2		2		
バイオメディカルサイエンス	2		2		
ケミカルバイオロジー	2		2		
神経生物学	2		2		
発生再生生物学	2		2		
植物分子生物学	2		2		
応用生物科学演習	2	2			
環境衛生学	2		2		
食品機器分析学実験	1		1		
卒業研究	6	6			

X　くらしの生物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
くらしの生物学概論	2	2			
植物生理生態学	2	2			
くらしの動物学	2	2			
フレッシュマンセミナー	1	1			
緑地環境学	2	2			
基礎栽培学	2	2			
生物有機化学	2	2			
微生物学	2	2			
分子生物学	2	2			
食品栄養科学	2	2			
生き物	2	2			
くらしの科学実験	1	1			
くらしの科学実習	1	1			
細胞生物学	2		2		
食と健康科学	2		2		
野菜果樹栽培学	2		2		
生き物飼育論	2		2		
動物科学	2		2		

XⅡ　くらしの生物学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
くらしの生物学概論	2	2			
植物生理生態学	2	2			
くらしの動物学	2	2			
フレッシュマンセミナー	1	1			
緑地環境学	2	2			
基礎栽培学	2	2			
生物有機化学	2	2			
微生物学	2	2			
分子生物学	2	2			
食品栄養科学	2	2			
生き物	2	2			
くらしの科学実験	1	1			
くらしの科学実習	1	1			
細胞生物学	2		2		
食と健康科学	2		2		
野菜果樹栽培学	2		2		
生き物飼育論	2		2		
動物科学	2		2		

(変更の内容)

くらしの環境デザイン論	2		2		
園芸学実験・実習	1		1		
発酵科学	2		2		
くらしのバイオテクノロジー	2		2		
食品保存・安全管理学	2		2		
家庭園芸論	2		2		
植物組織細胞培養学	2		2		
まちづくり学	2		2		
応用魚類飼育学	2		2		
応用昆虫飼育学	2		2		
環境緑化実験・実習	1		1		
食品科学実験	1		1		
生き物倫理	2	2			
保全生物学	2		2		
伝統食品論	2		2		
都市農業論	2		2		
機能性農作物論	2		2		
公園緑地利用学	2		2		
ビオトープ管理学	2		2		
愛玩動物飼料学	2		2		
バイオサイエンス実験	1		1		
微生物学実験	1		1		
動物飼育学実験・実習	1		1		
環境修復生物学	2		2		
社会園芸学	2		2		
フラワーデザイン論	2		2		
里地里山学	2		2		
機器分析学	2		2		
公衆衛生学	2		2		
インターンシップ	1		1		
ボランティア活動	1	1			
ゼミナール	2	2			
卒業研究	6	6			

5　教職課程科目

Ⅰ　生命農学科					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					

くらしの環境デザイン論	2		2		
園芸学実験・実習	1		1		
発酵科学	2		2		
くらしのバイオテクノロジー	2		2		
食品保存・安全管理学	2		2		
家庭園芸論	2		2		
植物組織細胞培養学	2		2		
まちづくり学	2		2		
応用魚類飼育学	2		2		
応用昆虫飼育学	2		2		
環境緑化実験・実習	1		1		
食品科学実験	1		1		
生き物倫理	2	2			
保全生物学	2		2		
伝統食品論	2		2		
都市農業論	2		2		
機能性農作物論	2		2		
公園緑地利用学	2		2		
ビオトープ管理学	2		2		
愛玩動物飼料学	2		2		
バイオサイエンス実験	1		1		
微生物学実験	1		1		
動物飼育学実験・実習	1		1		
環境修復生物学	2		2		
社会園芸学	2		2		
フラワーデザイン論	2		2		
里地里山学	2		2		
機器分析学	2		2		
公衆衛生学	2		2		
インターンシップ	1		1		
ボランティア活動	1	1			
ゼミナール	2	2			
卒業研究	6	6			

5　教職課程科目

Ⅰ　生命農学科						
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
［理科］						

物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

Ⅱ　生命化学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

Ⅱ　生命化学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
［理科］						
物理学概論Ⅰ	2		2			
物理学概論Ⅱ	2		2			
物理学実験	2		2			
化学概論Ⅰ	2		2			
化学概論Ⅱ	2		2			
化学実験	2		2			
生物学概論Ⅰ	2		2			
生物学概論Ⅱ	2		2			
生物学実験	2		2			
地学概論Ⅰ	2		2			
地学概論Ⅱ	2		2			
地学実験	2		2			
［農業］						
職業指導	4		4			

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考

Ⅲ　獣医学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
［理科］						
物理学概論Ⅰ	2		2			配置変更
物理学概論Ⅱ	2		2			〃

物理学実験	2		2			〃
化学概論Ⅰ	2		2			〃
化学概論Ⅱ	2		2			〃
化学実験	2		2			〃
生物学概論Ⅰ	2		2			〃
生物学概論Ⅱ	2		2			配置変更
生物学実験	2		2			〃
地学概論Ⅰ	2		2			〃
地学概論Ⅱ	2		2			〃
地学実験	2		2			〃

Ⅲ 動物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

Ⅳ 動物資源科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
［理科］						
物理学概論Ⅰ	2		2			
物理学概論Ⅱ	2		2			
物理学実験	2		2			
化学概論Ⅰ	2		2			
化学概論Ⅱ	2		2			
化学実験	2		2			
生物学概論Ⅰ	2		2			
生物学概論Ⅱ	2		2			
生物学実験	2		2			
地学概論Ⅰ	2		2			
地学概論Ⅱ	2		2			
地学実験	2		2			
［農業］						
職業指導	4		4			

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考

Ⅴ 食品ビジネス学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考	（変更の内容）
［社会・公民］						
日本史概説	2		2			配置変更
世界史概説Ⅰ	2		2			〃
世界史概説Ⅱ	2		2			〃
地理学概論Ⅰ	2		2			削除
地理学概論Ⅱ	2		2			〃
法律学概論（国際法を含む）	2		2			配置変更・単位数変更

生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［水産］					
職業指導	4		4		

生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		
［水産］					
職業指導	4		4		

Ⅵ 生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅶ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅷ 生物環境工学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

（変更の内容）

Ⅸ 食品生命学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

（変更の内容）

Ⅷ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［社会・公民］					
日本史概説	2		2		
世界史概説Ⅰ	2		2		
世界史概説Ⅱ	2		2		
地理学概論Ⅰ	2		2		
地理学概論Ⅱ	2		2		
法律学概論（国際法を含む）	2		2		
社会学概論Ⅰ	2		2		
社会学概論Ⅱ	2		2		
倫理学概論Ⅰ	2		2		
倫理学概論Ⅱ	2		2		
宗教社会学Ⅰ	2		2		
宗教社会学Ⅱ	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

Ⅸ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

Ⅹ　国際地域開発学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［社会・公民］					
日本史概説	2		2		
世界史概説Ⅰ	2		2		
世界史概説Ⅱ	2		2		
地理学概論Ⅰ	2		2		
地理学概論Ⅱ	2		2		
法律学概論（国際法を含む）	2		2		
社会学概論Ⅰ	2		2		
社会学概論Ⅱ	2		2		
倫理学概論Ⅰ	2		2		
倫理学概論Ⅱ	2		2		
宗教社会学Ⅰ	2		2		
宗教社会学Ⅱ	2		2		
［農業］					
職業指導	4		4		

（変更の内容）

ⅩⅠ　応用生物科学科

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
［理科］					
物理学概論Ⅰ	2		2		
物理学概論Ⅱ	2		2		
物理学実験	2		2		
化学概論Ⅰ	2		2		
化学概論Ⅱ	2		2		
化学実験	2		2		
生物学概論Ⅰ	2		2		
生物学概論Ⅱ	2		2		
生物学実験	2		2		
地学概論Ⅰ	2		2		
地学概論Ⅱ	2		2		
地学実験	2		2		

（変更の内容）

6　学芸員課程科目

各学科設置の専門教育科目の他に許可を得て次の科目を修得することができる。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
博物館概論	2	2			
博物館教育論	2	2			
生涯学習概論	2	2			
博物館情報・メディア論	2	2			
博物館実習Ⅰ	1	1			
博物館実習Ⅱ	2	2			
博物館経営論	2	2			
博物館資料論	2	2			
博物館資料保存論	2	2			
博物館展示論	2	2			

6　学芸員課程科目

各学科設置の専門教育科目の他に許可を得て次の科目を修得することができる。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
博物館概論	2	2			
博物館教育論	2	2			
生涯学習概論	2	2			
博物館情報・メディア論	2	2			
博物館実習Ⅰ	1	1			
博物館実習Ⅱ	2	2			
博物館経営論	2	2			
博物館資料論	2	2			
博物館資料保存論	2	2			
博物館展示論	2	2			

（変更の内容）

附 則

１　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

２　令和２年４月１日施行の学則については，第20条から第22条，第25条，第28条から第30条，第34条，第36条，第40条，第51条，第77条，第105条，第106条（第２項，第４項，第５項及び第６項を除く）及び第116条は，入学年度にかかわらず，この規定を適用する。

３　生物資源科学部各学科（獣医学科を除く）の収容定員は，第12条の規定にかかわらず，令和５年度から令和７年度までの間，次のとおりとする。

	令和５年度	令和６年度	令和７年度
バイオサイエンス学科	210	420	630
動物学科	136	272	408
海洋生物学科	146	292	438
森林学科	120	240	360
環境学科	130	260	390
アグリサイエンス学科	140	280	420
食品開発学科	146	292	438
食品ビジネス学科	554	564	574
国際共生学科	146	292	438
獣医保健看護学科	80	160	240
生命農学科	390	260	130
生命化学科	390	260	130
動物資源科学科	408	272	136
森林資源科学科	390	260	130
海洋生物資源科学科	408	272	136
生物環境工学科	390	260	130
食品生命学科	408	272	136
国際地域開発学科	390	260	130
応用生物科学科	378	252	126
くらしの生物学科	240	160	80

附 則

１　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

２　令和２年４月１日施行の学則については，第20条から第22条，第25条，第28条から第30条，第34条，第36条，第40条，第51条，第77条，第105条，第106条（第２項，第４項，第５項及び第６項を除く）及び第116条は，入学年度にかかわらず，この規定を適用する。

4　教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成28年11月28日法律第87号）附則第五条（教育職員免許法の一部改正に伴う経過措置）の適用を受けない者は，教職課程に関して，本学則の適用を受けるものとする。

5　平成30年度以前から在学する学生については，教職課程の履修に関して，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

6 令和元年度以前から在学する学生については，文理学部社会教育主事コースの履修に関しては，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

3　教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成28年11月28日法律第87号）附則第五条（教育職員免許法の一部改正に伴う経過措置）の適用を受けない者は，教職課程に関して，本学則の適用を受けるものとする。

4　平成30年度以前から在学する学生については，教職課程の履修に関して，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

5 令和元年度以前から在学する学生については，文理学部社会教育主事コースの履修に関しては，本学則に定める授業科目を履修する必要があると認められる場合，本学則に定める授業科目を履修することができるものとする。

別表１の１

教育研究上の目的（大学）
〔法学部から松戸歯学部　省略〕
生物資源科学部
今日，世界は食糧問題や環境問題をはじめ新興感染症など，多くの解決すべき問題を抱えている。生物資源科学部は，「生産・利用科学」，「生命科学」，「環境科学」の３分野を基軸として，自然や生物との共生を図り，人間活動を重視した教育研究を行っている。対象とする生物資源は，これらの問題を解決し，持続可能な社会を実現させる上で必須である。これらの教育と研究を通して，グローバルな視点をもち，課題を主体的に解決できる能力，優れた科学技術を備えた人間性豊かな人材を養成する。 （バイオサイエンス学科） 生物が持つ多様な情報・物質・機能を最大限に活用するためのバイオサイエンスに関する豊富な知識と，ITやAIを融合した先端的バイオテクノロジーを応用して様々な課題を主体的に解決し，持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成する。 （動物学科） 幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。 （海洋生物学科） 海洋生物と海洋環境の持続的な維持・管理，生物資源としての海洋生物の効率的な生産及び利用を中心に，関連する生命科学，生産科学，利用科学及び環境科学分野の知識・技術を身につけた人材を養成する。さらに，海洋生物とこれを取り巻く環境の保全や人類の豊かな生活の調和を創造できる能力を持った人材を養成する。 （森林学科）

別表１の１

教育研究上の目的（大学）
〔法学部から松戸歯学部　省略〕
生物資源科学部
今日，世界は食糧問題や環境問題をはじめ，多くの解決すべき問題を抱えている。生物資源科学部は，生産・利用科学，生命科学，環境科学の３分野を基軸として，自然や生物との共生を図り，人間活動を重視した教育研究を行っている。対象とする生物資源は，これらの問題を解決し，持続可能な社会を実現させる上で必須である。これらの教育と研究を通して，フィールドから分子レベルに至る優れた科学技術を備えた人間性豊かな人材を養成する。

森林環境とその管理に関わる諸問題を解決するために，森林及び自然環境に関する幅広い基礎知識を持ち，論理的な思考と現場での応用力を備えた人材の養成を目標としている。さらに，これらの豊富な知識，持続可能な森林の利用に関する技術を駆使して，環境に配慮した森林の活用，循環型社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（環境学科）

地球環境や地域環境，生態系が日常のくらしと調和した社会を創造できる人材や，バイオマスエネルギー開発など生物環境を科学的な観点から考察して，環境条件を持続させながら都市や社会を発展させることができる人材を養成する。

（アグリサイエンス学科）

世界に通用する次世代の高品質な農産物の生産及びブランド化を目的としたアグリビジネスに関する幅広い知識，高度な専門技術を身に付けた人材を養成する。

（食品開発学科）

新たな食品を創造するために，最先端の食品製造，並びに食品の栄養・機能を理解し，健康の維持・増進に役立ち，おいしくて安全な食品を開発することができる技術者・研究者を養成する。また，食品産業界を牽引し，国民の健康増進にも貢献できる人材の養成を行う。

（食品ビジネス学科）

日本と世界の食料問題の解決と新たな食の創造に関する諸問題に貢献し，フードシステム，フードビジネスのリーダーとなるべき人材の育成を目指している。すなわち，食品に関する生産，加工，流通，消費に至るフードシステム形成の理論と技術教育を重視し，食品に関する科学及び技術を総合的に学び，「食」の専門家として社会に貢献できる人材を養成する。

（国際共生学科）

グローバル化・多様化の時代に不可欠な「多角的な視点から共生を図ることができる知識・思考力を備えた人材の育成」を学科の教育理念に掲げ，教養教育と専門教育の両面から総合的・学際的な教育を行い，かつ高度な専門的研究も行う。これによって，共生に関する知識・思考力を活かして国内外の生物資

源を扱う産業分野で活躍できる人材，国際交流・国際協力に貢献できる人材を養成する。

（獣医保健看護学科）

愛玩動物の診療補助，適正な飼養，疾病の予防，リハビリテーション，公衆衛生など，動物の健康管理や看護に必要な専門知識と技術を幅広く修得し，獣医師と協働して実践的に活躍できる愛玩動物看護師を養成する。

（獣医学科）

獣医学は，動物医療を根幹として，動物の健康維持・増進を図るとともに，ヒトの健康と福祉に貢献することを目的としている。その達成のために，生命活動のメカニズムの探求や疾病の診断・治療・予防はもとより，公衆衛生，野生動物の保護及び環境保全など幅広い領域に対し，社会のニーズに応えることができる知識と技術を有した獣医師を養成する。

（生命農学科）

生産科学，生命科学，環境科学の 3 分野を体系的に教育し，農学を基盤として植物を中心とした分子生物学から生態学を含めた生命現象に関して，体系的な教育と先端的研究を行っている。特に，農学の中心となる生命科学分野を重点的に展開し，さらに緑地環境科学の分野を利用した技術が習得でき，それらの知識と技術を持った未来の農を担う人材を育成する。

（生命化学科）

動物・植物・微生物など全ての生命体とそれらを取り巻く資源，食料，環境などの多彩な分野に関して，化学的な視点に立って基礎から応用へと結びつける教育・研究を行う。豊富な実験実習と演習を通して高い技術力と実践能力を身につけ，また，化学的視点に立った講義を通して生命に係わる多様な問題に対応できる論理的な思考能力を養い，社会に貢献できる研究者，技術者を養成する。

（生命農学科）

生産科学，生命科学，環境科学の 3 分野を体系的に教育し，農学を基盤として植物を中心とした分子生物学から生態学を含めた生命現象に関して，体系的な教育と先端的研究を行っている。特に，農学の中心となる生命科学分野を重点的に展開し，さらに緑地環境科学の分野を利用した技術が習得でき，それらの知識と技術を持った未来の農を担う人材を育成する。

（生命化学科）

動物・植物・微生物など全ての生命体とそれらを取り巻く資源，食料，環境などの多彩な分野に関して，化学的な視点に立って基礎から応用へと結びつける教育・研究を行う。豊富な実験実習と演習を通して高い技術力と実践能力を身につけ，また，化学的視点に立った講義を通して生命に係わる多様な問題に対応できる論理的な思考能力を養い，社会に貢献できる研究者，技術者を養成する。

（獣医学科）

獣医学は，動物医療を根幹として，動物の健康維持・増進を図るとともに，ヒトの健康と福祉に貢献することを目的としている。その達成のために，生命活動のメカニズムの探求や疾病の診断・治療・予防はもとより，公衆衛生，野生動物の保護及び環境保全など幅広い領域に対し，社会のニーズに応えることができる知識と技術を有した獣医師を養成する。

（動物資源科学科）

動物が有する種々の能力及び機能に関する研究と教育を推進し，それらを応用して人類社会のために貢献することを目的としている。この目的を達成するために，学科の教育・研究の分野を動物生命科学，動物生産科学，動物環境科学及びそれらの学際領域としている。この教育・研究をとおして，多様化する社会の幅広い分野においても対応し得る応用力と思考力を有した人材を養成する。

（森林資源科学科）

森林環境，森林資源管理などにかかわる諸問題について，基礎知識を持ち，論理的な思考と現場での応用力と設計力を備え，専門家としての倫理観を持った人材の育成を目標としている。すなわち，森林及び自然環境を学ぶとともに，人類の共通財産としての持続可能な資源の利用方法を習得し，森林を活用した新たな循環型社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（海洋生物資源科学科）

海洋生物資源の持続的かつ有効な維持管理を図るとともに効率的な生産及び利用に関連する生命科学，資源生産学並びに環境科学分野の知識を広く修める教育に重点を置いている。すなわち，幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力と，海洋生物環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造でき，かつ国際的にも通用する人材を養成する。

（生物環境工学科）

自然のシステムを活用し，生物資源を適切に利用した生産，生活環境の創造とその応用技術を多面的に学習することを基本としている。すなわち，水・土環境や地域環境，環境配慮型土木的技術，生態系と調和した計画・設計を可能とする環境配慮型建築を創造できる人材やバイオマスエネルギー開発など生物環境を工学的な観点から創造できる人材を養成する。

（動物資源科学科）

動物が有する種々の能力及び機能に関する研究と教育を推進し，それらを応用して人類社会のために貢献することを目的としている。この目的を達成するために，学科の教育・研究の分野を動物生命科学，動物生産科学，動物環境科学及びそれらの学際領域としている。この教育・研究をとおして，多様化する社会の幅広い分野においても対応し得る応用力と思考力を有した人材を養成する。

（食品ビジネス学科）

日本と世界の食料問題の解決と新たな食の創造に関する諸問題に貢献し，フードシステム，フードビジネスのリーダーとなるべき人材の育成を目指している。すなわち，食品に関する生産，加工，流通，消費に至るフードシステム形成の理論と技術教育を重視し，食品に関する科学及び技術を総合的に学び，「食」の専門家として社会に貢献できる人材を養成する。

（森林資源科学科）

森林環境，森林資源管理などにかかわる諸問題について，基礎知識を持ち，論理的な思考と現場での応用力と設計力を備え，専門家としての倫理観を持った人材の育成を目標としている。すなわち，森林及び自然環境を学ぶとともに，人類の共通財産としての持続可能な資源の利用方法を習得し，森林を活用した新たな循環型社会の実現に貢献できる人材を養成する。

（海洋生物資源科学科）

海洋生物資源の持続的かつ有効な維持管理を図るとともに効率的な生産及び利用に関連する生命科学，資源生産学並びに環境科学分野の知識を広く修める教育に重点を置いている。すなわち，幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力と，海洋生物環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造でき，かつ国際的にも通用する人材を養成する。

（生物環境工学科）

自然のシステムを活用し，生物資源を適切に利用した生産，生活環境の創造とその応用技術を多面的に学習することを基本としている。すなわち，水・土環境や地域環境，環境配慮型土木的技術，生態系と調和した計画・設計を可能とする環境配慮型建築を創造できる人材やバイオマスエネルギー開発など生物環境を工学的な観点から創造できる人材を養成する。

（食品生命学科）

新たな食品を創造する最先端の研究を展開し，基礎となる食品科学と生命科学とのかかわりを理解し，健康維持に役立ち，安全な食品を創造開発できる教育・研究を行う。また，食と生命に関する豊かな知識を持つ人材の養成に力を入れている。さらに，豊富な実験・実習を通じ実践的な知識を持ち，食品産業界を担っていく新しい知識と技術を兼ね備え，社会に貢献できる技術者，研究開発者を養成する。

（国際地域開発学科）

開発途上国の第一次産業を中心とした経済・社会開発，農業技術協力を含む農村開発，環境保全などの分野での人材の養成を目指す。さらに，問題解決能力，コミュニケーション能力及び国際感覚などを身に付け，農業・農村開発分野の専門家，国際機関の職員や現地進出企業など国内外で世界平和や国際貢献に尽力できる実践力を備えた人材を養成する。

（応用生物科学科）

生命体やそれを取り巻く環境について，基礎から応用まで広い分野の研究と教育を行なっている。近年，微生物・植物・動物のゲノム解析に基づく生命科学の生物産業への応用研究が社会から期待されており，この社会の要望に応えるようバイオサイエンスの専門的知識・技術を幅広く習得し，社会で実践的に活躍できる人材を養成する。

（くらしの生物学科）

「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の 3 つの分野を総合的かつ横断的に教授し，生物学に関する幅広い専門知識や技術を修得させるとともに地域との協働をはじめとした実践的な教育を実施して，優れたコミュニケーション能力，マネジメント能力を修得させ，自ら判断し，安全で安心な生活や持続型社会の創造に積極的に貢献できる生き抜く力を持った人材を養成する。

〔薬学部　省略〕

（食品生命学科）

新たな食品を創造する最先端の研究を展開し，基礎となる食品科学と生命科学とのかかわりを理解し，健康維持に役立ち，安全な食品を創造開発できる教育・研究を行う。また，食と生命に関する豊かな知識を持つ人材の養成に力を入れている。さらに，豊富な実験・実習を通じ実践的な知識を持ち，食品産業界を担っていく新しい知識と技術を兼ね備え，社会に貢献できる技術者，研究開発者を養成する。

（国際地域開発学科）

開発途上国の第一次産業を中心とした経済・社会開発，農業技術協力を含む農村開発，環境保全などの分野での人材の養成を目指す。さらに，問題解決能力，コミュニケーション能力及び国際感覚などを身に付け，農業・農村開発分野の専門家，国際機関の職員や現地進出企業など国内外で世界平和や国際貢献に尽力できる実践力を備えた人材を養成する。

（応用生物科学科）

生命体やそれを取り巻く環境について，基礎から応用まで広い分野の研究と教育を行なっている。近年，微生物・植物・動物のゲノム解析に基づく生命科学の生物産業への応用研究が社会から期待されており，この社会の要望に応えるようバイオサイエンスの専門的知識・技術を幅広く習得し，社会で実践的に活躍できる人材を養成する。

（くらしの生物学科）

「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の 3 つの分野を総合的かつ横断的に教授し，生物学に関する幅広い専門知識や技術を修得させるとともに地域との協働をはじめとした実践的な教育を実施して，優れたコミュニケーション能力，マネジメント能力を修得させ，自ら判断し，安全で安心な生活や持続型社会の創造に積極的に貢献できる生き抜く力を持った人材を養成する。

〔薬学部　省略〕

別表１の２

教 育 研 究 上 の 目 的（大学院）
〔法学研究科から国際関係研究科　省略〕
危機管理学研究科
災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代の様々な危機に，法学を中核とし，政治学，国際関係学等の社会科学の知見を統合した危機管理学の学識を適用して的確に対処し，翻ってレジリエントな社会の創造に貢献する，指導的人材及び高度専門職業人を養成する。 （危機管理学専攻／修士課程） 拡大するグローバルな危機と，ローカルな社会課題と向き合い，社会・自然環境の劇的変化に対応しつつ，世界に指針を示し，リーダーシップを発揮できる危機管理人材へのニーズに応えて，①危機や社会課題を学術的に探求し，危機管理を解明し普及させる指導的人材，及び②危機管理の実践的知識とを有する高度専門職業人として，危機管理の適用法を立案し，実践することのできる有為な人材を養成する。
スポーツ科学研究科
スポーツ科学に関する研究を通して諸問題を認識するとともに，課題を概念化しそれを解決していく反省的実践家として，競技スポーツにおける課題解決能力を高め，国内外からの知見から競技力向上に関する高度な専門性を身につけ，グローバルにスポーツ科学研究を実践できる能力を持った人材を養成する。 （スポーツ科学専攻／修士課程） スポーツ科学専攻では，競技スポーツの諸課題に対応するスポーツ科学の高度な専門的知識を修得し，スポーツ科学の研究成果を競技スポーツの現場において実践できる能力を持った人材を養成する。
〔理工学研究科から法務研究科　省略〕

別表１の２

教 育 研 究 上 の 目 的（大学院）
〔法学研究科から国際関係研究科　省略〕
〔理工学研究科から法務研究科　省略〕

別表２の１

学部＼項目			◎入学金	授業料	実験実習費	施設設備資金	教育充実料
学部(昼)	〔法学部から松戸歯学部　省略〕						
	生物資源科学部	食品ビジネス 国際共生 国際地域開発	260,000	850,000②	100,000②	1～4年次 各170,000②	
		獣医	260,000	1,500,000②	300,000②	1～6年次 各350,000②	
		その他の学科	260,000	1,050,000②	150,000②	1～4年次 各200,000②	
	〔薬学部　省略〕						
学部(夜)	〔法学部　省略〕						

（備考）　1　金額の単位は円
2　金額はすべて年額。ただし◎印は入学初年度のみ納入
3　○印の中の数字は分納回数
4　この表は，令和５年４月の入学者から適用する。

別表２の１

学部＼項目			◎入学金	授業料	実験実習費	施設設備資金	教育充実料
学部(昼)	〔法学部から松戸歯学部　省略〕						
	生物資源科学部	食品ビジネス 国際地域開発	260,000	850,000②	100,000②	1～4年次 各170,000②	
		獣医	260,000	1,500,000②	300,000②	1～6年次 各350,000②	
		その他の学科	260,000	1,050,000②	150,000②	1～4年次 各200,000②	
	〔薬学部　省略〕						
学部(夜)	〔法学部　省略〕						

（備考）　1　金額の単位は円
2　金額はすべて年額。ただし◎印は入学初年度のみ納入
3　○印の中の数字は分納回数
4　この表は，令和３年４月の入学者から適用する。

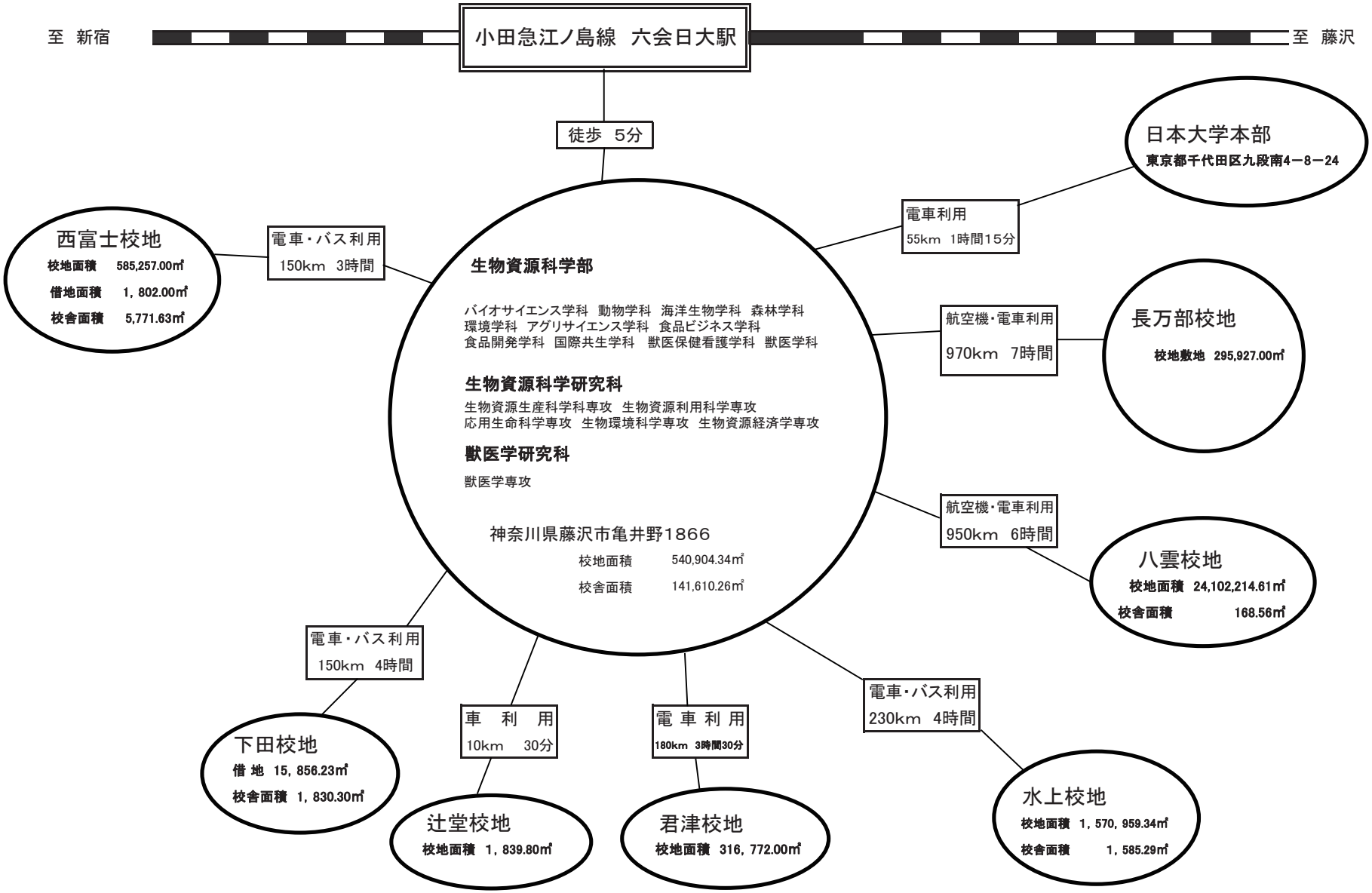
日本大学学則（抜粋）

第１章　総　則

第３節　教職員及び教授会

第４条　本大学の教員を分けて教授・准教授・講師・助教及び助手とする。
２　教職員に関する規定は，別に定める。
第５条　本大学各学部に教授会を置き，専任教授全員，３名以内の専任准教授代表及び事務局長をもって，これを組織する。
第６条　教授会は，学部長が招集し，その議長となる。
第７条　教授会は，総会員の半数以上の出席によって成立する。
第８条　議長は，議事録を作成し，出席者中２名の署名押印を得るものとする。
第９条　教授会は，次の事項を審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
①　学生の入学及び卒業に関すること。
②　学位の授与に関すること。
③　前２号に掲げる事項のほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。
２　前項第３号の事項については，別に定める「学長裁定」による。
３　教授会は，第１項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について教育研究上の専門的な観点から審議し，並びに学長及び学部長の求めに応じ，意見を述べることができる。なお，本大学の諸規程において教授会が審議することと定められている事項については，教授会はこれを審議し，意見を述べなければならない。
４　教授会の意見を集約する必要がある場合は，出席者の過半数によるものとする。
第 10 条　前条の教授会における審議とは，論議・検討することを意味し，決定権を含意するものではない。
第 11 条　教授会は，次の事項について報告を受けるものとする。
①　大学院に関すること。
②　学位論文の審査に関すること。
③　当該学部の予算及び決算に関すること。
④　その他学長及び学部長が必要と認めたこと。

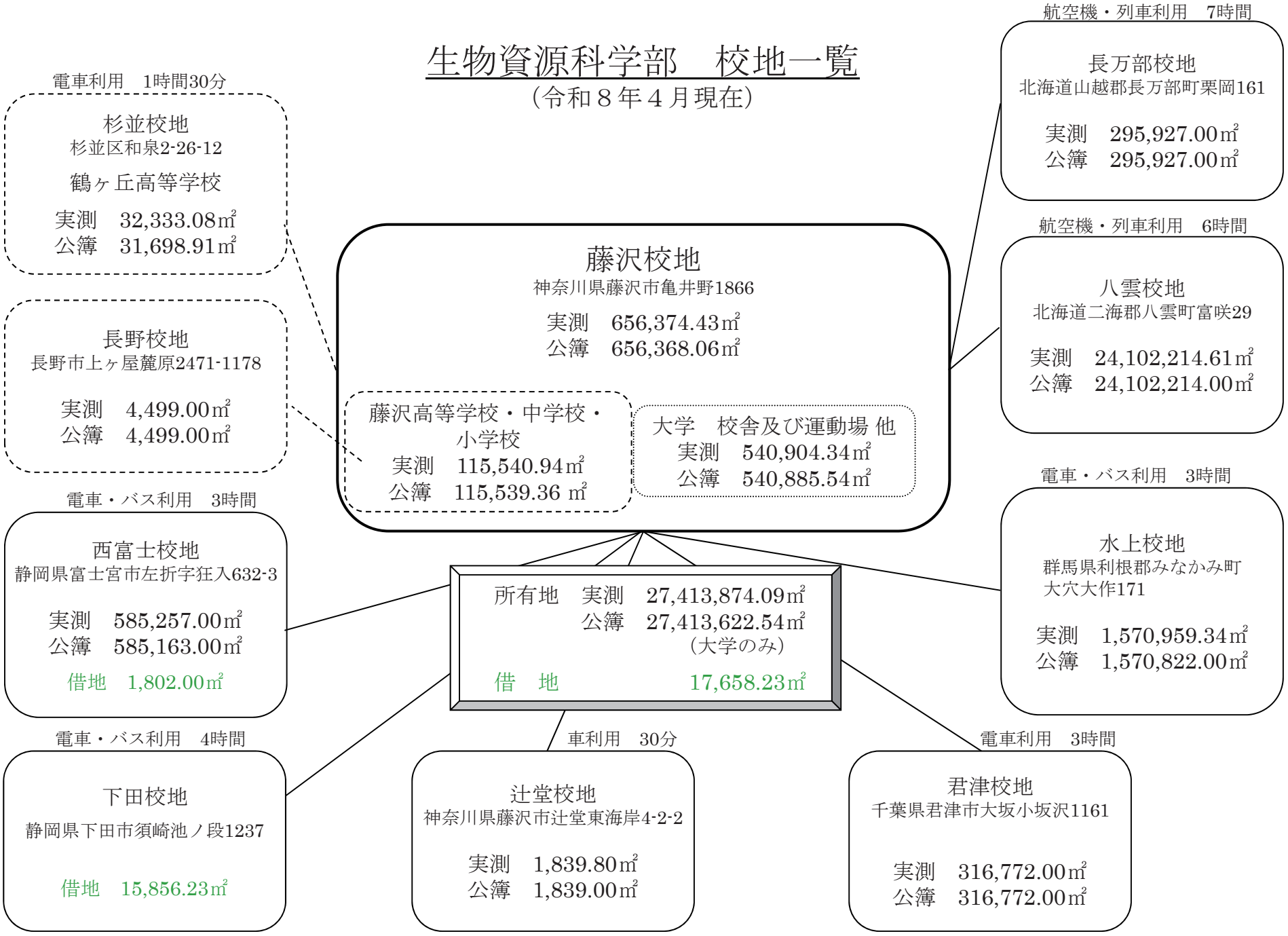
都道府県内におけるキャンパスの位置

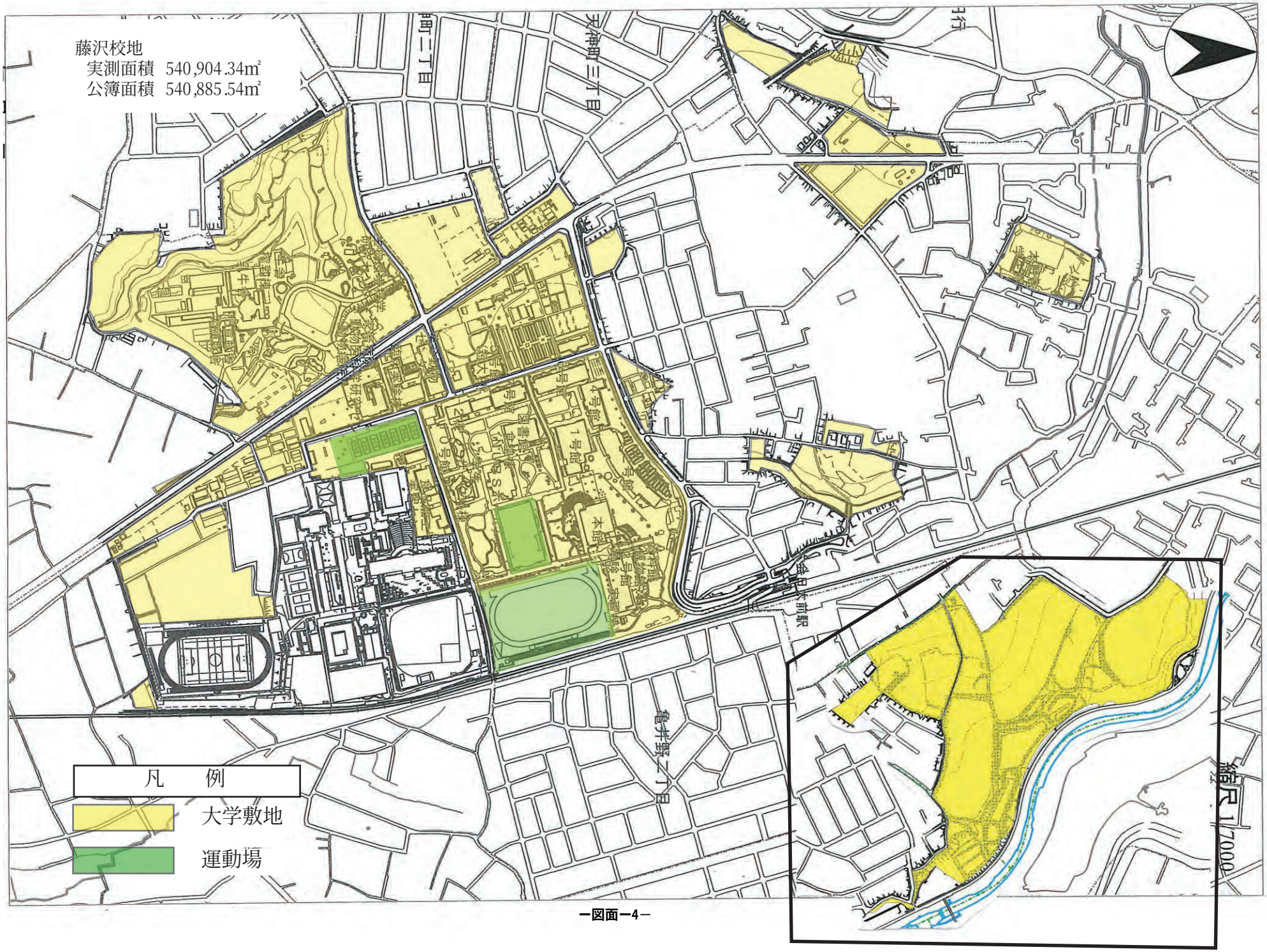

至 新宿
小田急江ノ島線 六会日大駅
至 藤沢
徒歩 5分
日本大学本部
東京都千代田区九段南4－8－24
電車利用
55km 1時間15分
西富士校地
校地面積 585,257.00㎡
借地面積 1，802.00㎡
校舎面積 5,771.63㎡
電車・バス利用
150km 3時間
生物資源科学部
バイオサイエンス学科 動物学科 海洋生物学科 森林学科
環境学科 アグリサイエンス学科 食品ビジネス学科
食品開発学科 国際共生学科 獣医保健看護学科 獣医学科
生物資源科学研究科
生物資源生産科学学科専攻 生物資源利用科学専攻
応用生命科学専攻 生物環境科学専攻 生物資源経済学専攻
獣医学研究科
獣医学専攻
神奈川県藤沢市亀井野1866
校地面積 540,904.34㎡
校舎面積 141,610.26㎡
航空機・電車利用
970km 7時間
長万部校地
校地敷地 295,927.00㎡
航空機・電車利用
950km 6時間
八雲校地
校地面積 24,102,214.61㎡
校舎面積 168.56㎡
電車・バス利用
150km 4時間
下田校地
借 地 15，856.23㎡
校舎面積 1，830.30㎡
車 利 用
10km 30分
辻堂校地
校地面積 1，839.80㎡
電 車 利 用
180km 3時間30分
君津校地
校地面積 316，772.00㎡
電車・バス利用
230km 4時間
水上校地
校地面積 1，570，959.34㎡
校舎面積 1，585.29㎡

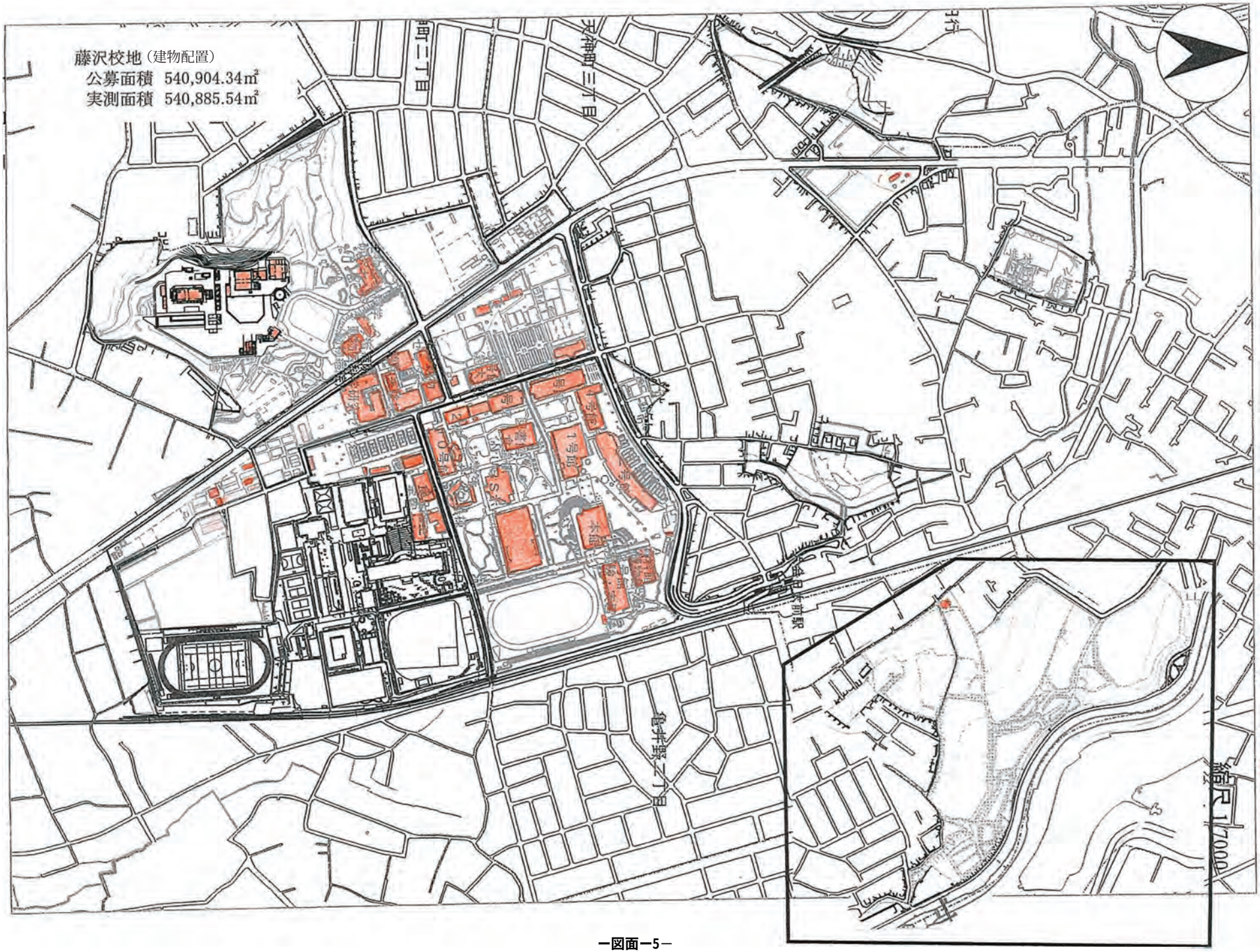
－図面－2－

生物資源科学部　校地一覧

（令和８年４月現在）




藤沢校地
実測面積　540,904.34㎡
公簿面積　540,885.54㎡
凡　例
大学敷地
運動場
JR 17000

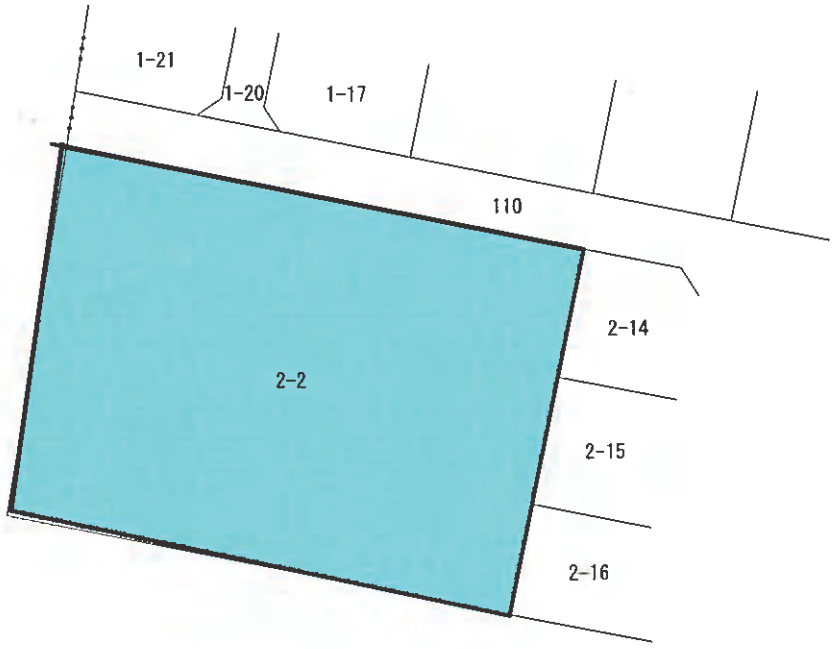

藤沢校地（建物配置）
公募面積　540,904.34㎡
実測面積　540,885.54㎡
1号館
2号館
3号館
4号館
5号館
6号館
7号館
8号館
9号館
10号館
11号館
12号館
13号館
14号館
15号館
16号館
17号館
18号館
19号館
20号館
21号館
22号館
23号館
24号館
25号館
26号館
27号館
28号館
29号館
30号館
31号館
32号館
33号館
34号館
35号館
36号館
37号館
38号館
39号館
40号館

辻堂校地

縮尺1：500

藤沢市辻堂東海岸4丁目2-2

校地面積
公簿面積　1，839.00㎡
実測面積　1，839.80㎡



下田校地

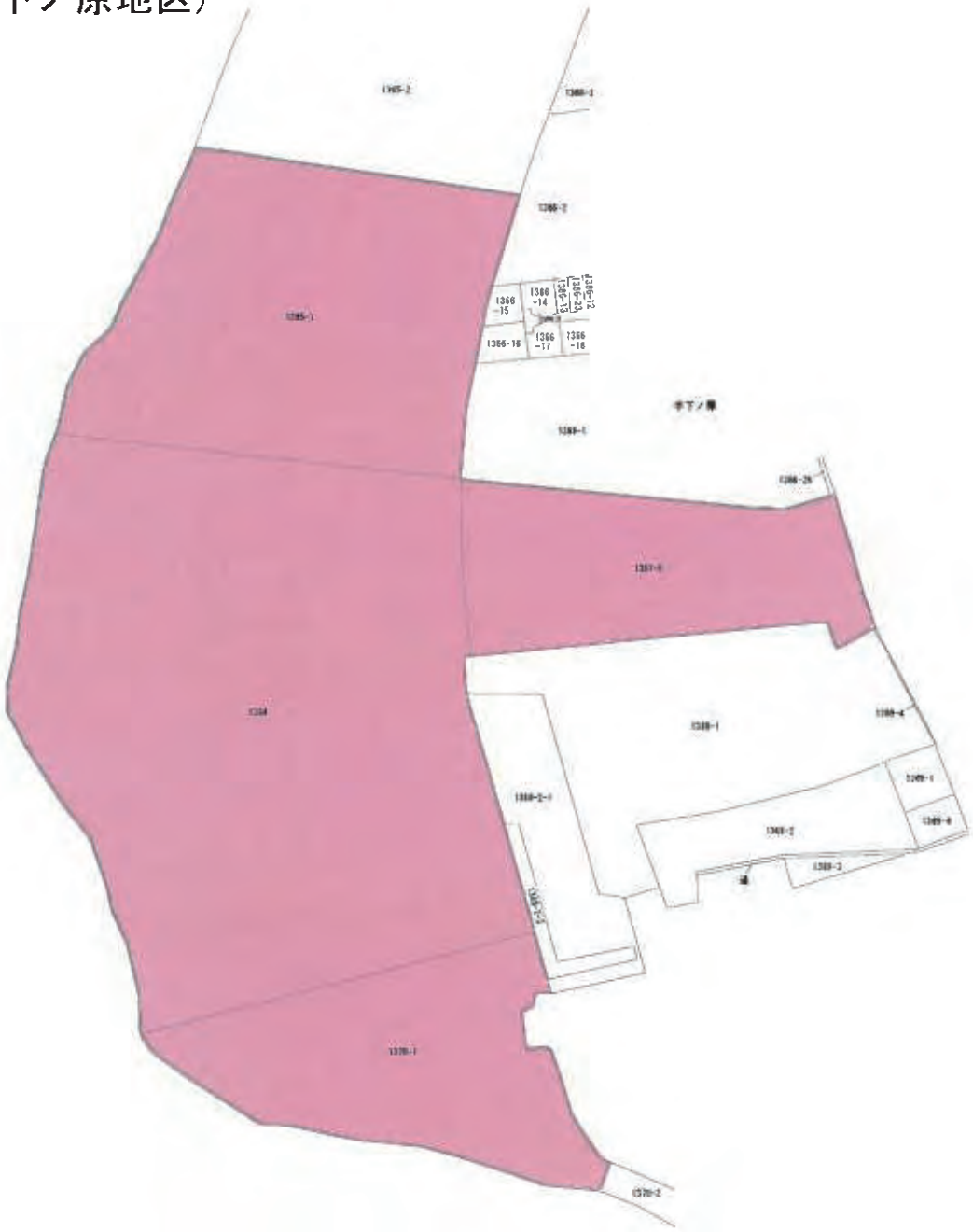
静岡県下田市須崎字池ノ段1237－1（借地）

校地図

校地面積

合　計　15,856.23㎡　実　測

君津校地（下ノ原地区）



校地面積

公簿面積　95，063.00㎡
実測面積　95，063.00㎡

君津校地（小坂沢地区）

縮尺：600

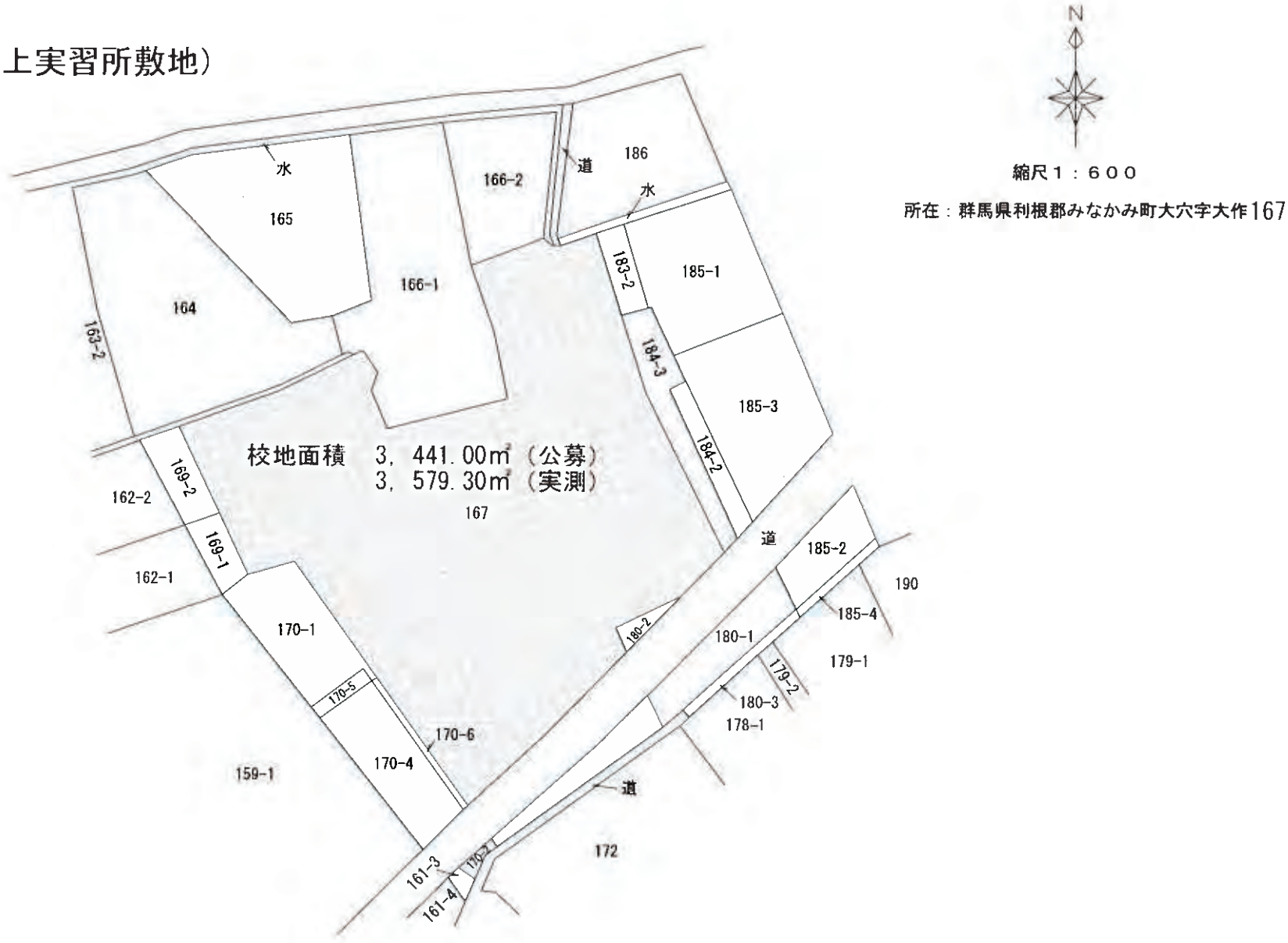
所在：千葉県君津市大坂字小坂沢1161-2

校地面積

公簿面積　221，709.00㎡

実測面積　221，709.00㎡

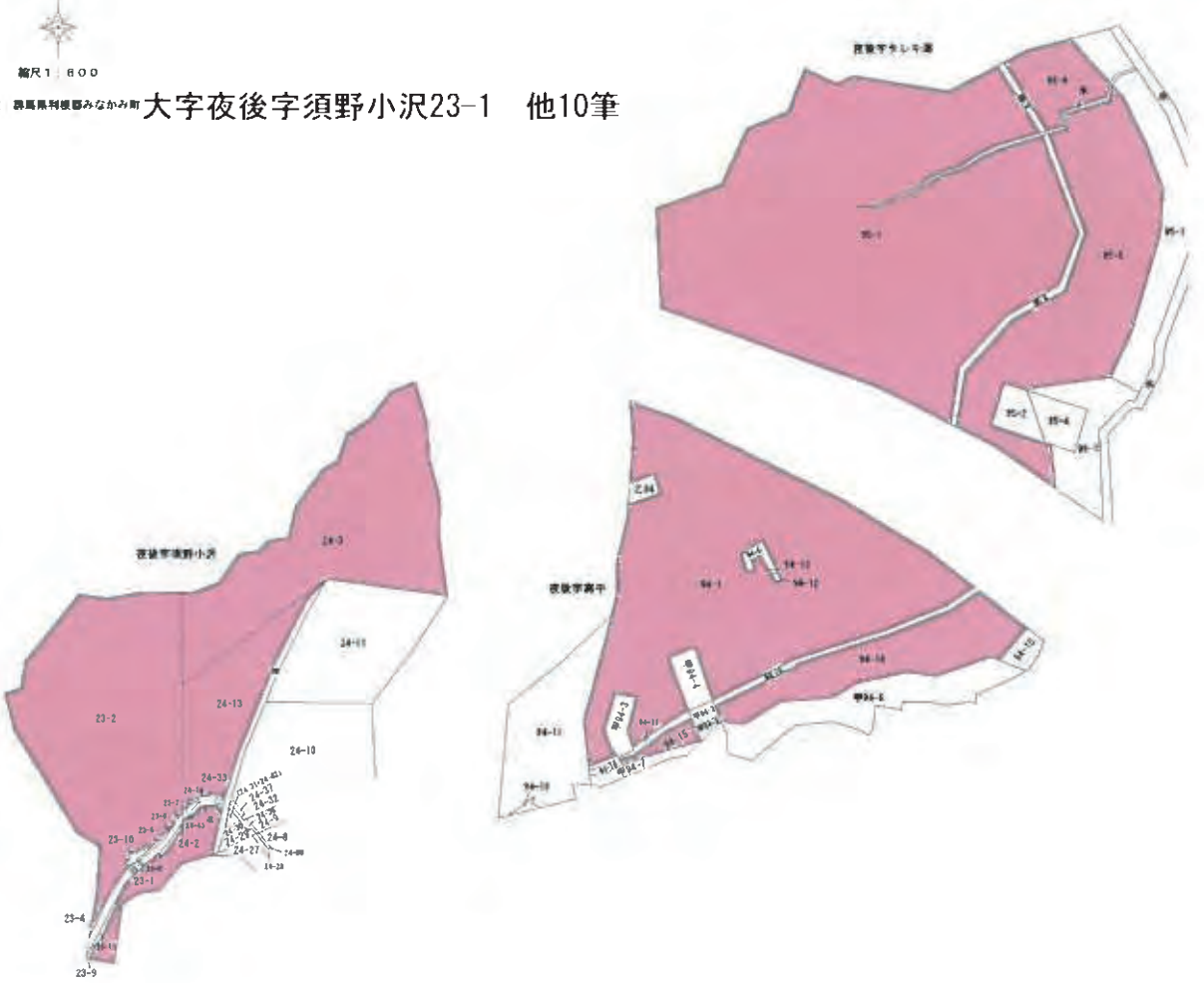
水上校地（水上実習所敷地）



水上校地（水上演習林敷地）

縮尺１：６００

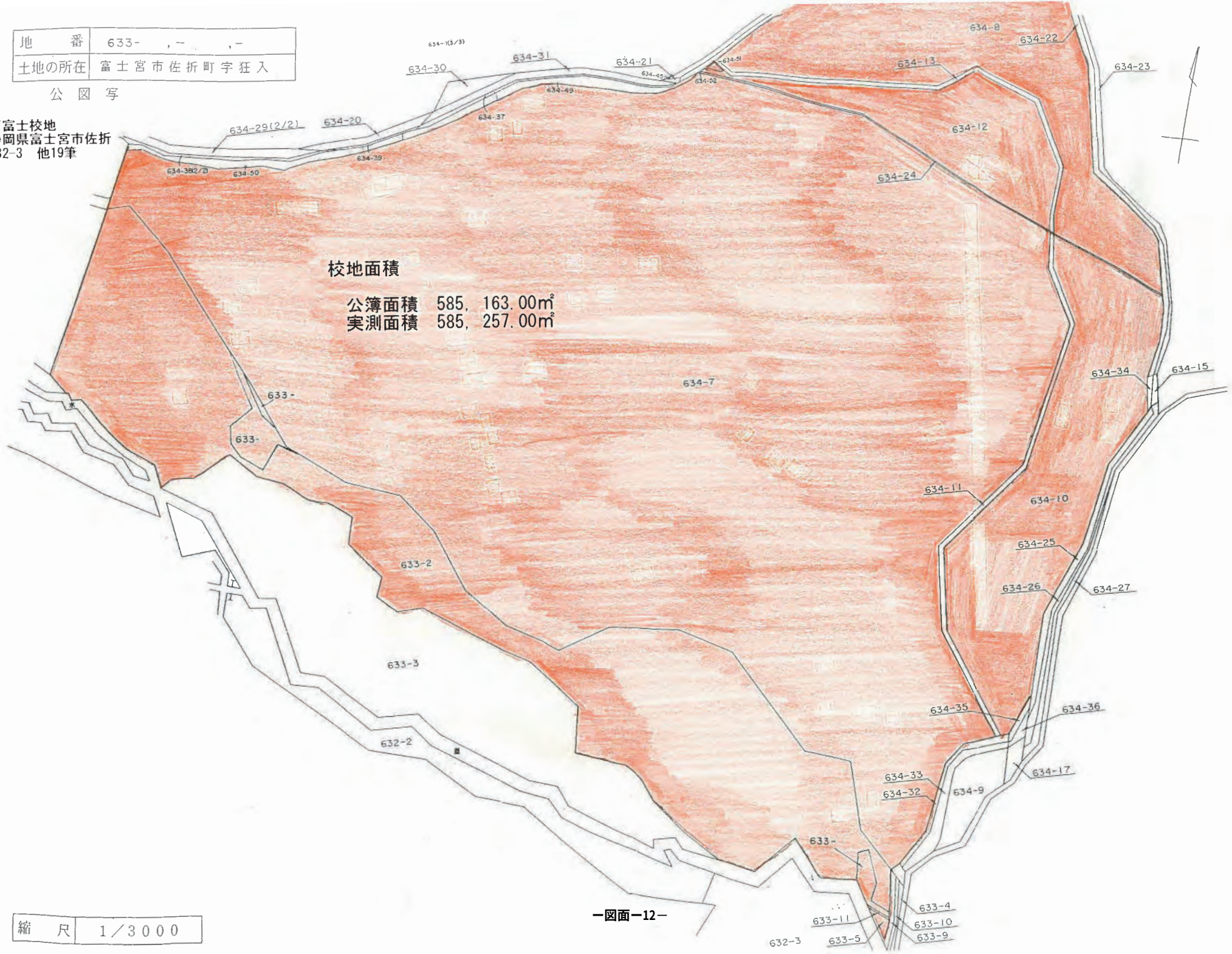
所在　群馬県利根郡みなかみ町大字夜後字須野小沢23-1　他10筆



地　番	633-　,-　,-
土地の所在	富士宮市佐折町字狂入

公　図　写

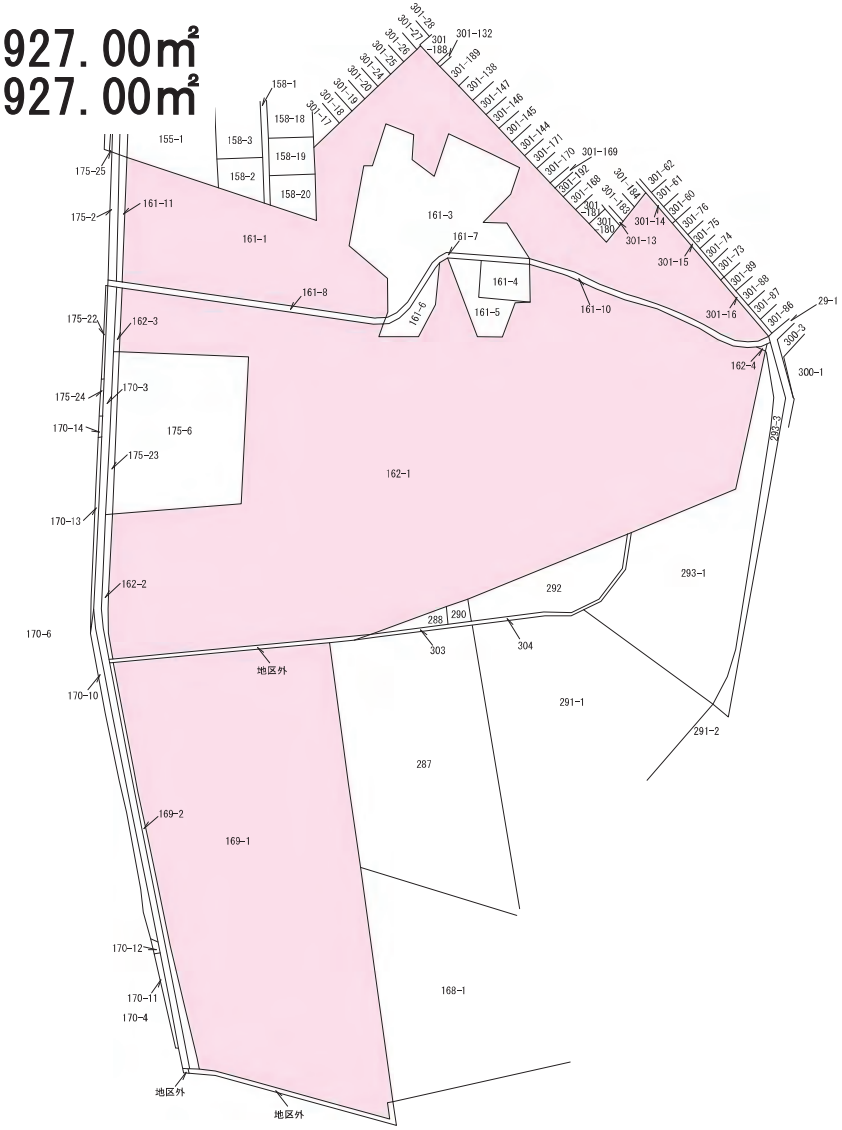
西富士校地
静岡県富士宮市佐折
632-3　他19筆



縮　尺	1／3000

長万部校地
北海道山越郡長万部町字栗岡
161-1，162-1，169-1

校地面積　公簿面積　295,927.00㎡
実測面積　295,927.00㎡

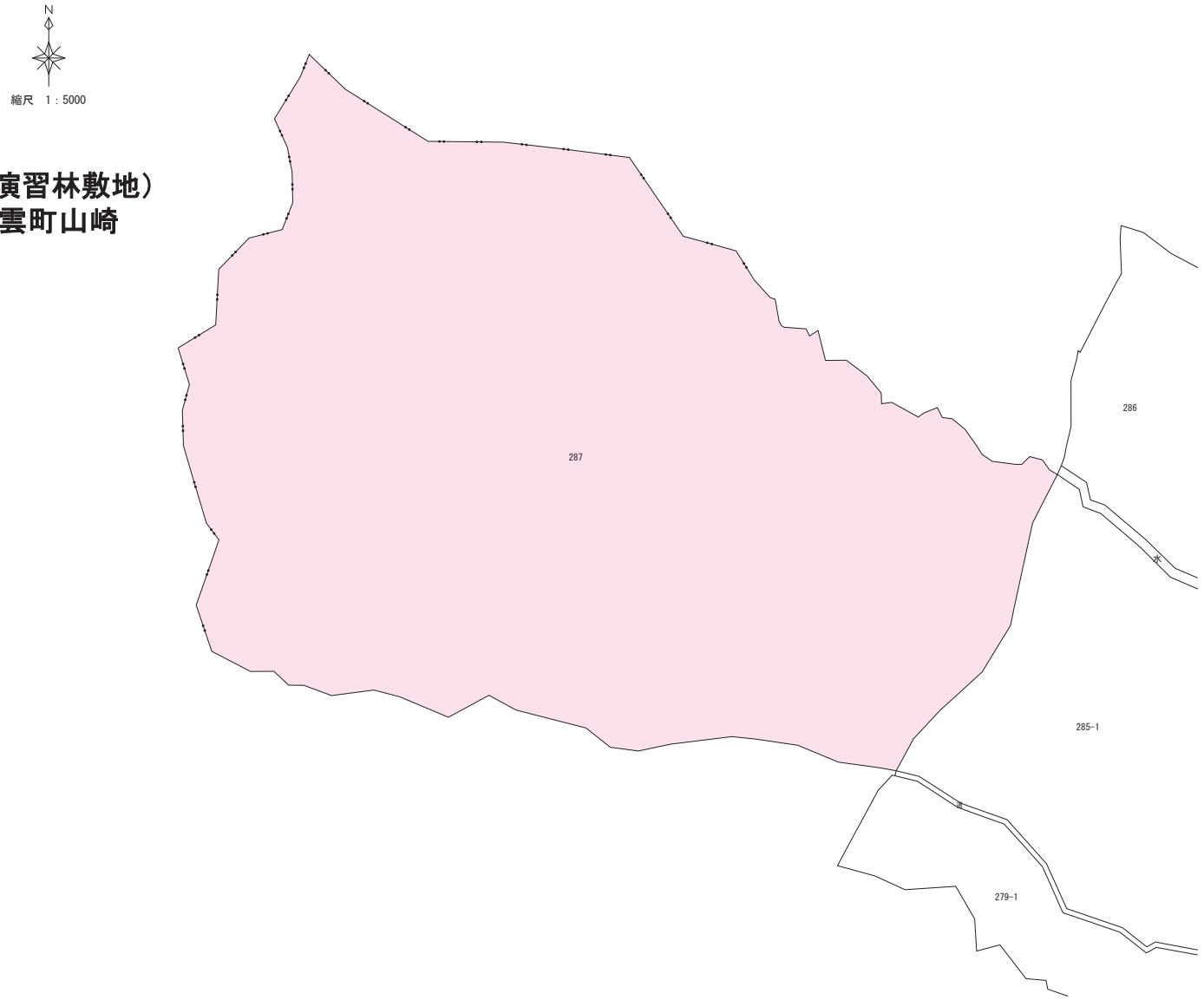


図名	公図調整図		
名称地	長万部演習林		
所在	北海道山越郡長万部町字栗岡161-1他	縮尺	1:5000
作製者	住所	川崎市麻生区栗木２１３番地５	
	会社名	株式会社　東光測建	
	電話番号	（０４４）　９８８－５２１９	
作製年月日	２０２２年１月２７日		

八雲校地（八雲実習所敷地）
北海道二海郡八雲町上八雲296番4

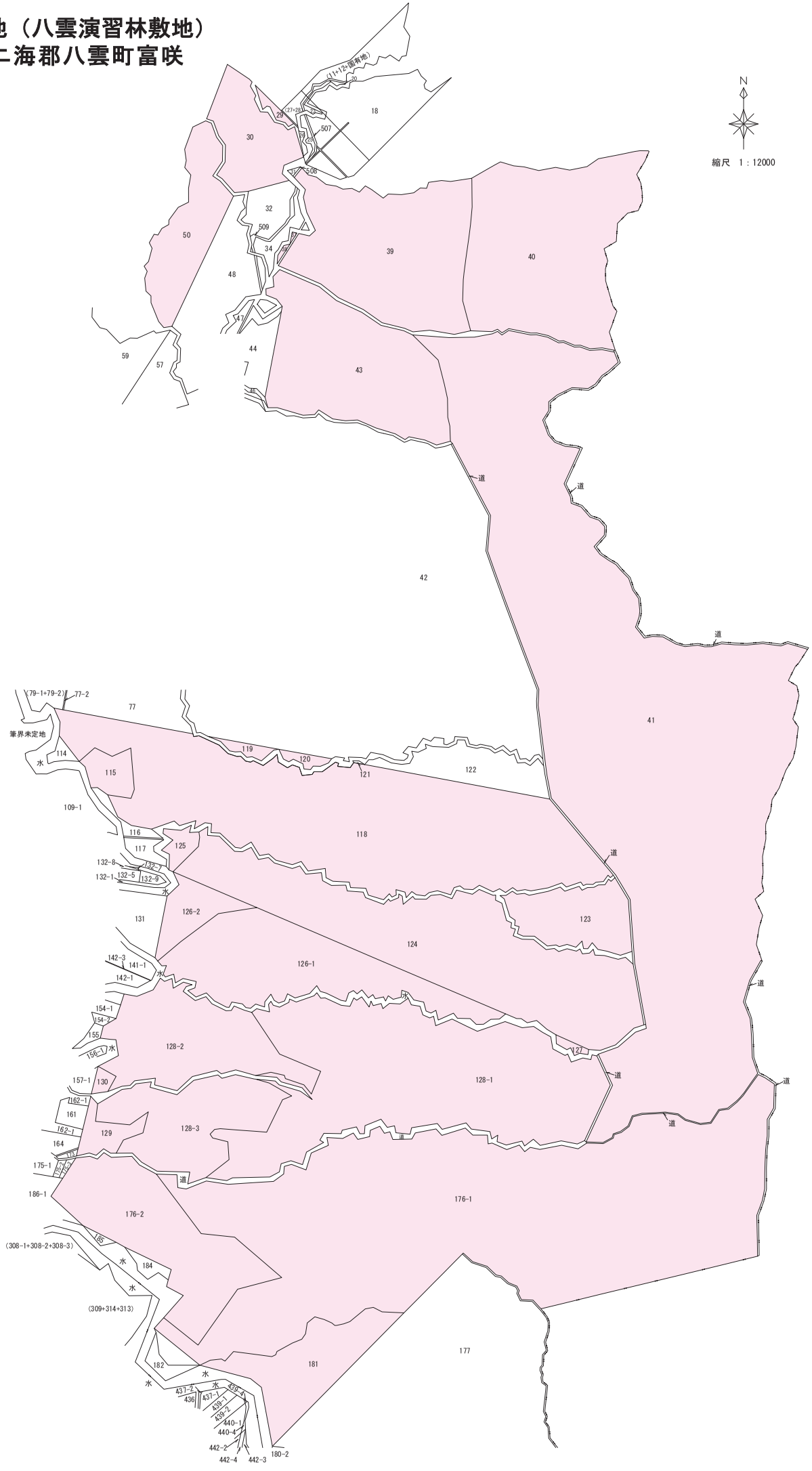
校地面積　公簿面積　1,680.00㎡
実測面積　1,680.61㎡

図名	公図調整図	
名称	二海郡八雲町八雲	
所在地番	二海郡八雲町八雲296-4	縮尺 1:1000
作成者	住所	川崎市麻生区栗木２１３番地５
	会社名	株式会社　東光測建
	電話番号	（０４４）９８８－５２１９
作製年月日	２０２２年１月２７日	



八雲校地（八雲演習林敷地）
北海道二海郡八雲町山崎

八雲校地（八雲演習林敷地）
北海道二海郡八雲町富咲



設置の趣旨等を記載した書類

目次

ア	設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２
イ	学部・学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	６
ウ	学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・	７
エ	教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	７
オ	教育方法，履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・	１５
カ	実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１７
キ	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２１
ク	取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２３
ケ	入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２３
コ	教員組織の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２６
サ	施設，設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２７
シ	管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２９
ス	自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２９
セ	情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	３１
ソ	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・	３４
タ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・・	３７

ア　設置の趣旨及び必要性

１．設置する理由と必要性

本学は，「日本人としての主体性を認識し，その上でグローバリゼーションに対応できる世界的視野で物事を捉え，それぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし『自主創造』の気風に満ちた人材の育成を目指す」ことを理念として，教育・研究の充実に努めてきた。初代司法大臣である山田顕義が創立した日本法律学校を起源とし，明治期より長年にわたって様々な分野において多くの人材を養成し輩出してきた。また，本学は大学全体で「日本一教育力のある大学」を目指し，真に教育効果のある学士課程教育の推進など，これまで以上に教育を重視する大学へと変革を進めている。さらに「教育理念」,「目的及び使命」の中核的な位置付けとして『自主創造』の考えを掲げ，知的好奇心を持って自ら課題に取り組み，新しい道を切り拓いていくことができる「自主創造型パーソン」の養成を目指している。

現在の大学に対する社会的要請としても，中央教育審議会より答申された「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年１月 28 日付),「新たな未来を築くための大学教育の質的変換に向けて」（平成 24 年８月 28 日付),「第２期教育振興基本計画」（平成 25 年４月 25 日付）において，現在の我が国における知識基盤社会への移行に伴い，新たな知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤として必要であることが述べられている。そして，想定外の事態に遭遇した時に，そこに存在する問題を発見し，それを解決するための道筋を見定めることも重要視されている。そのために，物事の原理や仕組みといった基礎的な事象を正しく把握し，論理的に問題を考察し，それに対応することができる能力を持った人材が求められる。これは，まさしく本学の目指す「自主創造型パーソン」そのものであるといえる。

このような背景を踏まえ,本学の使命である「広く知識を世界にもとめて,深遠な学術を研究し,心身ともに健全な文化人を育成すること」に基づき，常に様々な変化を伴う社会の情勢に対応し，我が国や世界の発展に貢献できる人材をより多く輩出することを本学の責務としている。

その中で，生物資源科学部は専門部拓殖科を前身とし，昭和 18 年に私立大学初の農学部として「日本大学農学部」が設置された。昭和 26 年の学校法人日本大学と学校法人東京獣医畜産大学との合併により，昭和 27 年に「日本大学農獣医学部」が誕生した。そして平成８年には，社会の変化への要請に応えるべく「日本大学生物資源科学部」として改組され，現在に至っている。

また，2015 年９月の国連の持続可能な開発サミットの成果文書「2030 アジェンダ」のなかには，17 種類の持続可能な開発目標とそれに紐づく 169 のターゲットが設定されている。このような諸課題を解決させる道筋のひとつとして，動物をはじめとした生物の多様性や生物個体及びその集団がもつそれぞれの機能を知り，学び，理解することが，様々な生命を育む地球の持続可能な発展に貢献できる端緒となることは疑いない。

昨今，生物多様性の重要性については，「生物多様性条約（CBD：Convention on Biological Diversity)」,「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10)」,「2030 年自然協約」などで注目され，日本においても環境省による「生物多様性国家戦略 2012-2020」「愛知目標の達成に向けたわが国の国別目標」や農林水産省による「農林水産省生物多様性戦略」などにおいて，企業や個人においても認識が一般的に定着しつつあり，多くの取組みが行われ，現在は,「次期生物多様性国家戦略」や「新農林水産省生物多様性戦略」の策定に向け検討がなされている。

生物多様性条約において対象となる生物とは，陸上生態系，海洋その他の水界生態系，これらが

複合した生態系その他生息又は生育の場の如何を問わないものと定義されている。その中でも動物は，他の生物が生成した有機化合物を養分として利用する従属栄養を営む生物群であるため，環境対応としての形態的・機能的進化がその生存には不可欠となる。また，平成９年の環境評価法制定以降に多く実施されてきた開発事業においても，環境アセスメントの重要な指標生物として動物やその集団が用いられている。（資料１，資料２）

この様に，地球の環境問題解決に生物資源の持続的利用と生物多様性の保全は，国際的に 21 世紀に生きる我々人類の共通課題となっており，様々な生命を育む地球の持続可能な発展に拡大しなくてはならない産業分野であり，人材の育成は必要不可欠であるといえる。

【資料１】生物多様性国家戦略 2012-2020 の概念図（環境省：平成 24 年４月）

【資料２】愛知目標の達成に向けたわが国の国別目標（環境省：平成 24 年４月）

また，生物多様性条約の目的とする，①生物の多様性の保全，②生物資源の持続可能な利用，③遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分する社会を実現する為，生物資源及び遺伝資源は，バイオテクノロジーやバイオ産業の発展のために必要不可欠なものである。バイオテクノロジーやバイオ産業は世界の人間生活と産業を大きく変える可能性をもつ社会・経済上重要な産業であり，その基盤となる生物遺伝資源については，生物多様性条約を適切に履行しつつ，円滑に利活用していくことが必要である。

バイオ関連市場は，世界市場規模において，2030 年に約 120 兆円と，対 2000 年代半ばから３倍弱の成長を予想されている。また我が国においても，令和３年１月に統合イノベーション戦略推進会議において，「バイオ戦略 2020（市場領域施策確定版）」（資料３）で，2030 年には 92.3 兆円の市場規模目標とされ，2018 年から 1.5 倍に拡大すると予測されており，市場の拡大に伴い人材需要は増加すると考えられる。

【資料３】バイオ戦略 2020（市場領域施策確定版）（内閣府 統合イノベーション戦略推進会議決定：令和３年１月）

そこで動物学科での学びは，対象とした様々な動物種の基礎から応用までの科学研究，さらにはこれらの研究の基盤となる教育を推進することにより，社会・環境問題意識の醸成にはじまり，科学的思考を基盤とした問題発見能力と問題解決能力の育成を目的としている。この目的を達成するために，学科の教育・研究の分野を「動物の未知なる機能を探究する生命科学」，「進化の系統，生態，他の古生物たちとの関係などを探究する生命史」，「生物多様性の保全とヒトとの共存を探究する環境科学」の３つに分類し，それぞれの分野を相互に関連づけて総合的な学問体系を構築している。この教育・研究をとおして，知識，能力，スキルを身につけることで多様化する社会の幅広い分野に対応し，すぐれた思考力，応用力，適応力を有した人材を養成することとした。

以上が，生物資源科学部動物学科を設置する理由及び必要性である。

２．養成する人材像，教育研究上の目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学の目的は，学則第１条に「本大学は，日本精神にもとづき，道統をたつとび，憲章にしたがい，自主創造の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。」と定められている。また，教育の理念や日本大学教育憲章を総合し，生物資源科

学部動物学科の養成する人材像，教育研究上の目的と卒業の認定に関する方針を以下のように設定した。

（１）養成する人材像

幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。

（２）教育研究上の目的

「生命史」,「生命科学」,「保全と環境」を主軸系統とし，それぞれの系統を相互に関連づけた総合的かつ特徴的なカリキュラム・学問体系を構築し，これらの教育・研究を通して，基礎的な動物の生活史の理解から，動物が関わる全ての環境問題，動物の能力を利用した多角的な応用技術を修得させることを教育目標とする。

（３）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

動物学科は,「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している多様な環境下の動物に関するヒトを含めたさまざまな問題を発見・解決し，科学・技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源としての動物に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。動物学科では，これらの基本理念と教育目標に基づき,「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ動物学科で展開する教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

<u>具体的な到達目標</u>

【自ら学ぶ】

〔DP1〕　豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全・修復に貢献できる。

〔DP2〕　日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

〔DP3〕　広義の動物学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的に思考することができる。

〔DP4〕　日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

〔DP5〕　動物学の学問領域および動物に関する科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などにより得られた研究成果を発信することが

できる。

〔DP6〕　動物学に関する英語や日本語で書かれた文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

〔DP7〕　動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

〔DP8〕　地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，動物に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

（４）卒業の認定に関する方針と，養成する人材像及び教育課程の編成及び実施に関する方針との相関について

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は，教育理念及び養成する人材像・教育研究上の目的を達成するために，どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針とする日本大学教育憲章の構成要素（コンピテンス）・能力（コンピテンシー）に基づき策定している。具体的には，資料４に養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針の相関表に示す。

【資料４】養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針相関表

３．組織として研究対象とする中心的な学問分野

生物資源科学部動物学科の研究対象とする中心的な学問分野は,「農学」,「生物学」及び「動物学」である。本学科は理学系及び農学系の総合的な動物学を目指しており，その基盤となる細胞学・遺伝学・生化学・生理学・形態学・生態学・分子生物学・進化学等の基礎科目を中心に，応用動物学・保全生物学によって展開される発展・応用科目を配置することで,「生命史」「生命科学」「保全と環境」をキーワードとした３つの系統を軸に，動物の生活史や様々な機能特性，生理メカニズムの基礎的な理解から，動物が関わる環境問題，動物の能力を利用した多角的な農学系・環境系の応用技術までを網羅する。

本学科は上述の３つの系統を柱とし，動物の様々な生理機能の理解とその特性を解明する分野，動物の細胞・免疫機能をもとに医学系・薬学系に応用可能なシステムを構築する分野，動物の多様性が創出されてきた進化学的背景を解明する分野，動物の生態や生息環境との関係から保全や外来種対策，環境負荷などを検討する分野の４分野から構成され，それぞれの分野で，他大学や研究機関にはない独創性に満ちた学問・研究体系を築いていく。

専任教員は全員博士の学位を有し，農学または生物資源科学の学位を保有する者を中心に理学，生命科学，地球環境科学と多岐に亘った学位を保有する者により，４つの分野の基礎研究から応用研究までの教育・研究が可能となる組織体制となっている。

具体的には，以下の課題を研究対象としている。

（１）動物生理系分野

動物には種ごとの特徴的な生体反応や行動などの生理機能が認められる。本分野では，これら

の生理機能について，細胞学的・分子生物学的・行動学的観点から実験的にその背景を追究する。それぞれの動物に特徴的な生理機能のメカニズムを学ぶことにより，これらの特性を活かした有用性のある将来的な展開を提案し，動物が有する優れた能力を多岐にわたる分野に応用できる人材の育成に貢献する。

（２）動物細胞・免疫系分野

動物種によって認められる細胞機能や免疫機能の特性は多岐にわたる。本分野では，これらの特性について，主に分子生物学的・生化学的観点から実験的にその背景を追究する。これらの特性を発現するメカニズムを学ぶことで，その機能を活用した応用的利用を提案し，主に医学系・薬学系分野で活躍が期待される人材の育成に貢献する。

（３）動物自然史系分野

動物の多様性は，人智を超越した自然界の緻密な進化史の中で創出されてきたものである。本分野は，この多様性が生み出された背景をフィールドワークと実験を通して進化学的に追究する。特に博物学的観点から動物の様々な特徴の観察や学術標本の作製・利用を通して基礎の動物学を学び，主に理科教諭や学芸員等の基礎の生物学分野を専門とする人材の育成に貢献する。

（４）動物生態・保全系分野

現代社会では動物を取り巻く環境問題や社会問題は多岐にわたっている。本分野では，これらの諸問題の背景について，主に生態学的・社会科学的観点から，フィールドワークと実験を中心に追究する。特に在来動物の保全や外来動物が引き起こす環境問題についてその改善・対応策や持続的な生態環境の維持を検討し，主に環境調査のスキルを発揮できる分野で活躍が期待される人材の育成に貢献する。

イ　学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年１月）の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」の提言を受けて，バイオサイエンス学科の養成する人材像を具現化するために，７つの機能の内の「幅広い職業人養成」並びに「社会貢献機能（地域貢献，産学官連携，国際交流等）」の２つの機能に重点を置き，以下のような特色ある教育研究を実施していく。

本学部は農学からより広範囲な学問領域である生物資源科学へと歴史的に変遷を遂げてきたが，その学問の基盤となるものは生物学であり，生物多様性の理解がその根幹となる。動物学科での学びは，対象とした様々な動物種の分類，機能を網羅的に学ぶ基盤分野を設け，それらから派生する動物の応用までの科学研究，さらにはこれらの教育・研究を推進することにより，動物関連のみならず，社会・環境問題意識の醸成を通して，科学的思考を基盤とした問題発見能力と問題解決能力を修得できることが特色である。

このような特色のある学修を通じて，様々な課題や未知の状況に遭遇しても，自ら情報を収集・分析し，主体的に問題解決できる能力を養うとともに，新しい産業や健康・未来を創造して，持続可能な社会の実現に貢献できる幅広い職業人を養成する。

また，農林水産省のスマート農業の普及，経済産業省のスマートセルインダストリーの推進，環境省のカーボンニュートラルへの取組みに代表される各省庁の重点施策に密接に関連する領域が本学部の教育の中心となっているため，関連する産業界との共同研究を実施するなど，産官学連携

に取り組んでいる。本学科においても，これまで築き上げた産官学のネットワークを活用しながら新たなフィールドを構築し，より一層社会の期待に応えられるよう産官学連携に取組むとともに，この領域で活躍できる人材を養成する。

更に今後は，本学の 21 世紀 COE プログラムの採択実績なども踏まえて「世界的研究・教育拠点」や展開される学問領域から「地域の生涯学習機会の拠点」としての貢献の可能性も模索していく。

ウ　学部・学科等の名称及び学位の名称

１．学科等の名称

	日本語名称	英語名称
学部名称	生物資源科学部	College of Bioresource Sciences
学科名称	動物学科	Department of Zoological Science
学位名称	学士（生物資源学）	Bachelor of Bioresource Science

２．学科名称等の説明

本学科は，生物学的見地から動物の生態・分類を捉えるのみならず，その多様性を動物種がもつ生体機能・形態から理解し，動物が地球上で辿ってきた自然史，その現代社会での生態や保全に関する問題点に目を向けることから「動物学科」の名称を用いる。また，英語名称は，広義に動物学を捉えることから「Department of Zoological Science」とする。本学科は生物資源科学部の中に設置され，動物をはじめとする生物資源学及び生物資源科学における様々な知識や技術を学修する新たな基盤領域の創成を目指すものであり，学位は学士（生物資源学）とする。

エ　教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程の編成の基本的な考え方及び特色

動物学科における教育は，幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践でき，動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成することを目的としている。

この目的を達成するために，学科の教育・研究の分野を「動物の未知なる機能を探究する生命科学」，「動物の進化の系統，生態，他の古生物たちとの関係を探索する生命史」，「生物多様性の保全とヒトと動物との共存を探究する環境科学」に分類し，各分野を相互に関連づけて総合的な学問体系を構築している。この教育・研究を通して多様化する社会の幅広い分野に対応し，優れた思考力・応用力・適応力を涵養できるようカリキュラムを編成している。

専門教育科目には，学科が展開する専門教育の導入となる「基盤領域」を必修科目として配置している。基盤領域は動物の多様性の理解から始まり，自然科学分野に共通の知識として必須である

細胞生物学，生化学，分子生物学など，動物本体を学修するうえでの基礎をなす動物の遺伝学，生理学，形態学など，さらに動物種の特徴及びその分類・体系を学ぶ科目が配置されている。

学科の目指す教育・研究分野として開講されている「応用領域」は３系統に分類されており，動物生命史系として，動物の行動学，生態学，フィールド調査法，動物自然史博物学などを開講し，動物の進化・系統・生態ならびに古生物たちとの関係を学修する。動物生命科学系として，動物の発生，生殖，免疫，神経に関する科目などのほか，そのアプローチに必須な技術的知識と実践を目的とした科目を開講している。生物多様性の保全とヒトと動物との共存を探究する動物の保全と環境系科目として，野生動物や外来動物管理学，動物とヒト社会，都市に棲息する動物についての科目が開講されている。

展開領域は，基盤・応用領域の学修で得られた知識を実践する動物学演習，修了学年において卒業研究に相当する動物学研究を配置している。また，学外専門家から最新の知見を受講する特別講義を配置している。「広域基礎科目」は専門知識に対する基礎的知識を学修する目的で配置されている。

２．教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

「１．教育課程の編成の基本的な考え方及び特色」を踏まえ，生物資源科学部動物学科の卒業の認定に関する方針を達成できるように，教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は以下のとおり設定した。

教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

動物学科では，「日本大学教育憲章」（以下，「憲章」）を基に，卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成する。この目的を達成するために，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目等の授業科目を，設定された各能力別に体系化し，講義・演習・実験・実習等の多彩な学修方法による教育課程を編成して実施する。

学修の成果は，シラバスに明示された到達目標の達成度について，授業形態や授業手法に適した多面的な方法により評価する。「憲章」に示される「日本大学マインド」および「自主創造」の３つの構成要素に関連した８つの能力に関しては，授業内容に対する到達度に加えて，学生自身による振り返り等も考慮して総合的に判定する。

【自ら学ぶ】

〔CP1〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識と高い倫理観を培い，健康で快適な生活や生態系の維持，自然環境の保全・修復に貢献できる能力を育成する。

〔CP2〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明できる能力を育成する。

【自ら考える】

〔CP3〕　教養教育科目の自然系科目や動物学科専門教育科目の講義科目等の体系的な学びを通じて，動物学の各分野に関連するさまざまな情報を統合し，論理的・批判的に思考できる能力を育成する。

〔CP4〕　講義科目の内容に対応する実験・実習・演習科目を一体化させた特徴的なカリキュラムによる体系的な学び「総合的フィールドサイエンス教育」を通じて，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を自ら発見し，解決策を提案するための能力を育成する。

【自ら道をひらく】

〔CP5〕　「総合的フィールドサイエンス教育」に立脚した動物学科教育の集大成である「動物学研究Ⅰ，Ⅱ」を通じて，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などの研究成果を社会に発信できる能力を育成する。

〔CP6〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目（語学系・演習系科目）の体系的な学びを通じて，自己表現力やコミュニケーション能力を育成する。

〔CP7〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目（実験・実習・演習科目におけるグループワーク）を通じて，動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携・協働者の活躍を支援するための力を育成する。

〔CP8〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による広範かつ主体的な学びにより，幅広い視野と深い洞察力を培い，地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動の中での自己の立場や役割を認識し，自己を高めて動物学に関わるさまざまな活動に貢献するための能力を育成する。

３．教育課程の編成及び実施に関する方針と養成する人材像及びと卒業の認定に関する方針との相関について

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は，教育理念及び養成する人材像・教育研究上の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき策定している。具体的には，資料４に養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針の相関表に示す。

【資料４】養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針相関表

４．科目区分の設定及びその理由

本学科における教育課程の科目区分には，下記の表に示すとおり４つの大区分から構成される。全学共通教育科目及び教養教育科目は旧来の大学教育における「教養科目」と位置付けられる。学問がより細分化し専門化する状況の中で，幅広い視野に立って対象を総合的に捉える能力や，社会人として求められる教養と人間性を身につけることを目的としている。

全学共通教育科目は日本大学の教育理念である自主創造に関して学ぶために２科目が配置され

る。修得単位は教養教育科目の選択科目として認定される。

教養教育科目については５つの小区分から構成され，これらに属する科目は大学の教育課程の土台を築くだけでなく，多角的な視点から物事を探究する素養を育成する。

基礎専門科目は学部共通科目であり，海外でのフィールドに関する科目が配置される。修得単位は専門教育科目の選択科目として認定される。

専門教育科目は，学生が卒業後の具体的な進路を見据え，必要な専門知識を体系的・主体的に学修できることを目的に，基盤領域，応用領域，展開領域ならびに広域基礎科目の４つの中区分から構成される。基盤領域には，応用領域に配置される全ての選択科目の基盤となる必修科目 35 単位を配置している。応用領域には，動物生命史系科目，動物生命科学系科目，動物の保全と環境系科目の３小区分に 64 単位分の科目を選択科目として配置している。応用領域には３つの実習科目，１つの実験科目が配置されているが，１科目以上を選択必修としている。展開領域には動物学演習（１単位），動物学研究Ⅰ・Ⅱ（合計６単位）が配置され，必修科目としている他，動物学特別講義（選択科目）を配置している。最後に，広域基礎科目は専門科目に関する基礎知識を広範に学修するために設置され，13 科目 26 単位分が開講される。

<table>
<tr><td colspan="3">科目区分</td></tr>
<tr><td>大区分</td><td>中区分</td><td>小区分</td></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">教養教育科目</td><td colspan="2">言語系科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">人文・社会系科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">自然系科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ系科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">総合系科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">基礎専門科目</td></tr>
<tr><td rowspan="6">専門教育科目</td><td colspan="2">基盤領域</td></tr>
<tr><td rowspan="3">応用領域</td><td>動物生命史系科目</td></tr>
<tr><td>動物生命科学系科目</td></tr>
<tr><td>動物の保全と環境系科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">展開領域</td></tr>
<tr><td colspan="2">広域基礎科目</td></tr>
</table>

５．各科目区分の科目構成及び科目の必修選択・選択科目，配当年次の構成とその理由

各科目区分の科目構成及び必修選択・選択科目，配当年次の構成とその理由は，以下のとおりである。なお，必修科目は科目名の前に(必)，選択必修科目名の前には（選必）を付し，配当学年を科目名の後の[　]内に示している。

本学の教養教育は，全学共通の全学共通教育科目と学部共通の教養教育科目の２つの科目区分に大別し，６系統によって構成されており，主に１年次に履修するが，学生の必要性に応じて２～４

年次でも履修することが可能である。

（１）全学共通教育科目

日本大学の教育理念である「自主創造」の実現に向けて，大学での学び方を理解するとともに，実社会との関連から教養や専門分野を学ぶ意識を高め，大学生活における学修の充実化につなげる意義を持つ。授業科目は，選択科目２科目４単位分が開講される。

自主創造の基礎［1］/ 日本を考える［1］

（２）教養教育科目

教養教育科目においては，言語系科目，人文・社会系科目，自然系科目，健康・スポーツ系科目，総合系科目の５系統によって構成され，多様な学問分野における基本的な知識を体系的に理解し，語学力，国語表現力，科学的思考力，判断力，社会観，倫理観，数量的解析力，情報処理能力，健康管理能力など，必要な技能や学習能力を獲得させ，専門教育への円滑な移行と社会人として求められる高度な教養を身につけ，豊かな人間性を培うことを目標とする。

（A）言語系科目

言語系科目については完全セメスター制とし，英語Ⅰ・Ⅱを１学年配当，英語Ⅲ・Ⅳを２学年に配当した必履修科目とするとともに，いずれの語学科目も初級レベルでは基礎的な文法・読解・会話表現の習得を目指し，さらに段階的に中級レベルへと学習を進め，高度な文章読解能力の獲得を目標として段階的に学ぶことができるよう構成されている。授業科目は，必修科目８科目８単位，選択科目 30 科目 30 単位分が開講される。

（必）英語ⅠA［1］/（必）英語ⅠB［1］/（必）英語ⅡA［1］/（必）英語ⅡB［1］/
（必）英語ⅢA［2］/（必）英語ⅢB［2］/（必）英語ⅣA［2］/（必）英語ⅣB［2］/
初級ドイツ語文法 A［1］/ 初級ドイツ語文法 B［1］/ 初級ドイツ語講読 A［1］/
初級ドイツ語講読 B［1］/ 初級ドイツ語会話 A［1］/ 初級ドイツ語会話 B［1］/
中級ドイツ語講読 A［1］/ 中級ドイツ語講読 B［1］/ 検定ドイツ語 A［1］/
検定ドイツ語 B［1］/ 初級フランス語文法 A［1］/ 初級フランス語文法 B［1］/
初級フランス語会話 A［1］/ 初級フランス語会話 B［1］/ 初級スペイン語文法 A［1］/
初級スペイン語文法 B［1］/ 初級スペイン語会話 A［1］/ 初級スペイン語会話 B［1］/
初級中国語文法 A［1］/ 初級中国語文法 B［1］/ 初級中国語会話 A［1］/
初級中国語会話 B［1］/ 中級中国語文法［1］/ 中級中国語会話［1］/
初級韓国語文法 A［1］/ 初級韓国語文法 B［1］/ 初級韓国語会話 A［1］/
初級韓国語会話 B［1］/ 日本語Ⅰ［1］/ 日本語Ⅱ［1］

（B）人文・社会系科目

よりよく生きるために必要な，人間・社会・文化理解に不可欠となる知識や方法を体系的に修得し，多様な知識を結びつけて複眼的に思考する能力を身に付けることを目標としているため，国語国文学をはじめ，歴史地理学に至る多彩な科目によって構成されている。授業科目は，選択

科目 27 科目 54 単位分が開講される。

日本語表現の基礎［1］/ 日本の文学［1］/ 哲学入門［1］/ 哲学の現在［1］/
倫理学入門［1］/ 倫理学の現在［1］/ 心理学入門［1］/ 行動心理学［1］/
個性の心理学［1］/ 文化人類学入門［1］/ 環境の文化人類学［1］/ 比較文化論［1］/
比較芸術論［1］/ 法学入門［1］/ 日本国憲法［1］/ 社会学入門［1］/ 政治学入門［1］/
政治と現代社会［1］/ 経済学入門［1］/ 経済と現代社会［1］/ 地理学入門［1］/
歴史学入門［1］/ 社会学の現在［1］/ 現代社会と福祉［1］/ 世界の歴史［1］/
日本の歴史［1］/ 地理学の現在［1］

（C）自然系科目

生物資源科学の根幹となる自然科学について，理解に必要な道具を知り，役立つ方法を修得することを目標として，基礎から応用に至る科目によって構成されている。授業科目は，必修科目１科目２単位，選択科目 12 科目 23 単位分が開講される。

物理学入門［1］/ 基礎力学［1］/ 基礎化学［1］/（必）基礎生物学［1］/
基礎地球科学［1］/ 統計学入門［1］/ 推計学入門［1］/ 解析学［1］/ 線形代数［1］/
物理学演習［1］/ 総合生物学 ［1］/ 総合化学［1］/ 総合地球科学［1］

（D）健康・スポーツ系科目

心身の健康及び体力の維持・増進を図り，体力についての基礎的な知識やスポーツ活動における身体機能の発達について理解することを目標として，必修科目に設定されたスポーツ実技Ⅰをはじめとする，実技を中心とした科目により構成されている。授業科目は，必修科目１科目１単位，選択科目４科目５単位分が開講される。

（必）スポーツ実技Ⅰ［1］/ スポーツ実技Ⅱ［1］/ スポーツ実技Ⅲ［1］/
スポーツ実技Ⅳ［1］/ スポーツ科学［1］

（E）総合系科目

生物資源科学の領域のみならず，社会においても必須の知識である情報処理に関わる科目をはじめ，文理融合的な学びの場として，現代社会に生きる人間に必要な知恵と洞察力を養うことを目標として多様な科目によって構成されている。授業科目は，選択科目７科目 13 単位分が開講される。

データサイエンスの基礎［1］/ 情報科学［1］/ 科学史［1］/ 科学技術と社会［1］/
地球環境を考える［1］/ 生命倫理［1］/ ボランティア論［1］

（３）基礎専門科目

基礎専門科目は学部共通科目であり，海外でのフィールドに関する科目が配置される。専門分

野の専門性の強化を海外でのフィールド実習に求め，幅広い視野を持ち自ら学ぶ力をより強化することを目標とする。修得単位は専門教育科目の選択科目として認定される。

海外フィールド実習［1］

（４）専門教育科目

（A）基盤領域

基盤領域には，講義科目 16 科目，実験科目２科目（動物学基礎実験Ⅰ・Ⅱ）及び演習科目（動物科学論文購読）１科目を配置する。基盤領域に配置される 19 科目（35 単位）は必修とする。１年次から２年次にかけて，所属教員による最新の動物学トピックを紹介することに加え，動物学科における学修の導入として「動物の多様性」の理解から始まり，自然科学・生物学分野に共通の知識として必須である「動物細胞生物学」,「生化学」,「分子生物学」など，動物本体を学修するうえでの基礎をなす「動物遺伝学」,「動物生理学」,「動物形態学」など，さらに動物種の特徴及びその分類・体系を学ぶ「動物系統分類学」,「哺乳類・鳥類学」,「昆虫体系学」の科目を配置し，応用科目，展開科目への基盤としての位置づけをなしており，講義科目のほか１年次，２年次に基礎実験，２年次に専門科学論文購読のスキル上達を目指した演習科目を配置している。

【基盤領域（科目）】

(必)最新の動物学［1］/ (必)動物の多様性［1］/ (必)動物細胞生物学［1］/
(必)生化学［1］/ (必)動物遺伝学［1］/ (必)動物生理学［1］/ (必)動物形態学［1］/
(必)動物系統分類学［1］/ (必)動物学基礎実験Ⅰ［1］/ (必)分子生物学［2］/
(必)哺乳類・鳥類学［2］/ (必)昆虫体系学［2］/ (必)動物学基礎実験Ⅱ［2］/
(必)両生類・爬虫類学［2］/ (必)基礎栄養学［2］/ (必)動物組織学［2］/
(必)動物科学論文購読［2］/ (必)生物統計学［3］/ (必)動物の福祉と倫理［3］

（B）応用領域

応用領域には，動物生命史系科目 11 科目，動物生命科学系科目 12 科目，動物の保全と環境系科目 11 科目の計 34 科目 64 単位を配置している。また，応用領域に開講されている実験・実習４科目のうち１科目（１単位）以上を選択必修とする。

応用領域科目は，動物学科の目指す教育・研究分野として３系統に分類されており，動物生命史系として,「動物行動学」,「動物生態学」,「フィールド生態調査法」,「動物自然史博物学」などが開講され，動物の進化・系統・生態ならびに古生物たちとの関係を学修できる科目が配置されており，環境アセスメントや博物学に結びつく能力の育成に欠かせない理論と技術を学ぶ。動物生命科学系として，動物の発生，生殖，免疫，神経に関する科目などのほか，そのアプローチに必須な技術的知識と実践を目的とした科目を開講している。これらの科目は動物を用いる農学系産業分野のみならず，医学・薬学・化粧品開発分野等へ取り組むことができる能力の修得が可能となり，科学的視点を持った人材の育成に繋がる。動物の保全と環境系としては，生物多様性の保全とヒトと動物との共存に関わる社会学系・環境系の科目を包含し,「野生動物管理学」,「外来動物管理学」,「動物園飼育管理学」,「動物と社会」,「都市動物学」などが開講され，主としてヒ

ト社会と棲息する動物についての問題解決に向けた基本的知識を学ぶ科目が配置されている。

【応用領域（動物生命史系科目）】
動物行動学［2］/ 動物生態学［2］/ フィールド生態調査法［2］/ 動物自然史博物学［2］/
応用昆虫学［2］/ 海岸生物学［2］/ （選必）フィールド調査実習［2］/ 動物学史［3］/
古動物学［3］/ （選必）動物自然史博物学実習［3］/ 動物地理学［3］

【応用領域（動物生命科学系科目）】
動物発生学［2］/ 免疫生物学［2］/ 微生物学［2］/ 実験動物学［2］/ 生殖生物学［2］/
応用免疫学［2］/（選必）動物学応用実験［2］/ 神経生物学［3］/ 生物情報学［3］/
再生生物学［3］/ 時間生物学［3］/ 動物バイオテクノロジー［3］

【応用領域（動物の保全と環境系科目）】
環境科学［2］/ 外来動物管理学［2］/ 野生動物管理学［2］/ 保全生物学［2］/
動物園飼育管理学［3］/ 動物と社会［3］/ 都市動物学［3］/ 動物心理学［3］/
（選必）保全生物学実習［3］/ 動物の採餌と飼料［3］/ 野生動物と飼育動物の感染症学［3］

（C）展開領域

展開領域には，必修３科目７単位，選択科目１科目１単位を配置する。展開領域は，基盤・応用領域の学修で得られた知識を実践する「動物学演習」，修了学年において卒業研究に相当する「動物学研究」とする。また，学外専門家から最新の知見を受講する「特別講義」を配置している。展開領域では，大学における学修の集大成として動物学に関わる研究を行う。

【展開領域（科目）】
動物学特別講義［3］/ 動物学演習［3］/ 動物学研究Ⅰ［4］/ 動物学研究Ⅱ［4］

（D）広域基礎科目

広域基礎科目は，主に教育職員を志望する学生に対し，中学校及び高等学校の教科教育に関する基礎知識及び技能を広範に学修するために設置され，選択科目 13 科目 26 単位分が開講される。

【広域基礎科目】
生物資源科学概論［1］/ 生物学概論Ⅰ［1］/ 生物学概論Ⅱ［1］/ 物理学概論Ⅰ［2］/
物理学概論Ⅱ［2］/ 化学概論Ⅰ［2］/ 化学概論Ⅱ［2］/ 生物学実験［2］/
化学実験［3］/ 物理学実験［4］/ 地学概論Ⅰ［4］/ 地学概論Ⅱ［4］/ 地学実験［4］

なお，上述した各科目区分の科目構成及び科目の必修選択・選択科目，配当年次と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の整合性を，カリキュラムマップで示す。（資料５）

カリキュラムマップは，ディプロマ・ポリシーに示された内容の達成に向けて学修成果が高い科目に「◎」， ディプロマ・ポリシーに示された内容の達成に向けて学修成果がある科目に「○」を

付した。
【資料５】動物学科　カリキュラムマップ

６．科目の設定単位数の考え方
各授業科目の単位数の考え方は，学則第 32 条に定めており，１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし，講義及び演習については，15 時間から 30 時間，実験・実習及び実技については，30 時間から 45 時間で１単位としている。また，卒業研究にあたる動物学研究Ⅰ・Ⅱは，演習科目で開講し，30 時間を１単位として設定している。

オ　教育方法，履修指導方法及び卒業要件

１．基本的な教育方法
本学では，学年を前期・後期の２学期とし，各学期で授業を完結させるセメスター制度を用いている。
本学科は講義，演習，学内外での実験・実習など多様な方法で授業を実施する。実験・実習，演習は可能な限り少人数での班分けを行った上で指導するため，実施可能な人数を考慮し，本学科は１学年 136 名を定員とする。
各授業の学生数は，教育効果を十分にあげられるよう，講義形式の科目は学科単位とするが，語学系科目は，原則 40 名程度で実施する。実験・実習科目も，原則 40 名程度として実施するとともに，その 40 名をさらに複数の班に分けての少人数指導を実施する。また，演習科目や動物学研究は，各研究室において 15～20 名程度の少人数で手厚い指導を実施する。

２．配当年次の設定
動物学科の教育課程は，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目の４つに分類されている。全学共通教育科目，教養教育科目は，主に１年次に配置している。基礎専門科目，専門教育科目は１年次から４年次にかけて配置し，４年間で体系的な学習と，基礎から応用へと体系的な学びが可能となるような教育課程を設定している。

３．履修指導方法
毎年４月上旬に，ガイダンス及び新入生オリエンテーションを行い，各種冊子体やシラバス・時間割，履修モデル等を用い，担任を中心として４年間にわたる学生生活に必要な注意事項や履修上の注意を説明し，学習計画や学習方法をスムーズに組めるよう指導する。また充実した学生生活を遅れるよう，健康管理やサークルなどの課外活動，大学内の施設利用，卒業後に向けた本学科に関わる進路の紹介などについても説明を行う。
また，留学生は上記に加え，在籍管理に関しては授業での出席管理及び，月１回学生課での在籍確認を実施し，パスポート，在留カードと国民健康保険については年１回，同部署に提示させ，内容を確認する。また，日本国内外の緊急連絡先を提出させ，万が一在籍確認に来ない留学生がいる場合には，まず電話やメールで本人に連絡する。それでも連絡が取れない場合は，留学生の自宅を訪問し，所在や生活状況を確認し，在籍管理を適切に実施する。入学後の履修指導，生活指導等に

ついては，留学生担任を設けており，卒業まで留学生のサポートを行うとともに，教学部門で連携を取り留学生の把握を実施する。また，就職についても就職指導課による「留学生就職窓口」の設置をしており，必要に応じて個別に全学的な組織でのサポートを行う。

４．卒業要件

本学科では，前述したように「生命史」「生命科学」「保全と環境」のキーワードの３つの系統に基づいて４つの分野を設け，「動物の生理・細胞・免疫機能の特性を理解した上で未知のメカニズムを解明し，それらを応用へつなげることができる」「動物の多様性が創出されてきた背景を理解し，動物の興味深い様々な事象を啓蒙・指導できる」「動物を取り巻く環境・社会問題等の改善策・対応策を社会で活かすことができる」人材を育成することを目的としている。したがって，３つの系統に沿って履修できるように基礎から応用に向けた関連科目を進級に合わせて，以下のとおり設定している。

＜卒業要件＞

全学共通教育科目及び教養教育科目 30 単位以上（必修科目 11 単位），基礎専門科目及び専門教育科目 94 単位以上（必修科目 42 単位，選択必修科目１単位）を修得し，合計 124 単位以上を修得することとした。なお，卒業研究にあたる動物学研究Ⅰ・Ⅱは，演習科目で開講し，30 時間を１単位として設定している。

表　修得すべき単位数

科目区分			開講単位数	必修	選択必修	選択
大区分	中区分	小区分				
全学共通教育科目			4			19
教養教育科目	言語系科目		38	8		
	人文・社会系科目		54			
	自然系科目		25	2		
	健康・スポーツ系科目		6	1		
	総合系科目		13			
小計（①）			140	11		19
基礎専門科目			1			51
専門教育科目	基盤領域		35	35		
	応用領域	動物生命史系科目	20		1	
		動物生命科学系科目	23			
		動物の保全と環境系科目	21			
	展開領域		8	7		
	広域基礎科目		26			
小計（②）			134	42	1	51
合計（①＋②）			274	53	1	70

卒業に必要な単位数	124

５．履修モデル

本学科の教育課程は，学年の進級に合わせた体系性を考慮し，主に低学年に基礎科目，高学年に発展・応用科目を配置する。特に１年次から２年次にかけては基礎科目に重点を置く。また異なる系統間にも横断的な科目を設け，１つの系統に偏ることのないよう，網羅的な履修を可能としている。

本学科では，３つの系統を柱とした履修モデル（資料６－１，６－２，６－３）を提示し，これを基に４年間の学習計画を立てることで，学生自身が自発的かつ継続的に興味を持てる系統に則して学習できる環境を整えられるよう配慮している。また３年次からいずれかの研究室（分野）に配属して卒業研究を行うため，３年次以降の授業は，指導教員の専門性に基づく卒業研究と関連づけられる科目を履修できるよう指導する。

【資料６－１】動物学科　動物生命史系履修モデル

【資料６－２】動物学科　動物生命科学系履修モデル

【資料６－３】動物学科　動物の保全と環境系履修モデル

６．履修科目の登録上限（CAP 制）

本学科では過度な履修による学生の負担に配慮し，また，各科目の授業内及び事前・事後の学修時間を確保するため，履修する科目数が過多とならないよう CAP 制を導入している。CAP 制による学期ごとの履修登録単位数は 24 単位，年間 48 単位と定めた。

７．他大学等での修得した単位の認定について

入学前に他大学等での修得した単位の認定については，60 単位を上限に，学生からの申請に基づき，専任教員がシラバスにより教育内容等を照合して判定し，その結果を教授会にて審議し適正な単位認定を行う。

カ　実習の具体的計画

動物学科では，希望する学生に対し，中学校教諭１種（理科），高等学校教諭１種（理科）の教員免許状を取得できることとしている。

なお，教育実習は，生物資源科学部の既設学科で既に多くの実習を行っており，新学科設置後もこれまでの実績に基づき実習先を選定する。

１．教育実習Ⅰ／教育実習Ⅱ

（１）実習の目的

教職課程における教育実習は教職課程を設置するすべての大学において必須となっている。

また，教職課程を設置する大学は学位プログラムの体系性と同時に教職課程としての体系性にも配慮して教育課程を編成しなければならない。

本学部においては教職課程において教職の専門性を身に付けるとともに，学科の専門性を身に付ける教育を行う。これらの知識・技能をもとにディプロマ・ポリシーに示された「日本大学マインド」,「自主創造」の能力を兼ね備えた教員養成のため教育現場にて教育実習を行う。

【教育実習の具体的内容】

４年次の５月～10 月（具体的な日程は実習校と調整）に中学校教諭一種免許状は３週間（120 時間）／高等学校教諭一種免許状は２週間（60 時間）以上の時間数を用いて実習校において教科指導・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導等の教育実践を行い，授業展開の技術などを習得し，実践的指導力の向上に努める。また，学級担任の役割や職務内容を理解する。

（２）実習先確保の状況

実習先は中学校 14 校（192 学級），高等学校 16 校（491 学級）（資料７）を確保し，それぞれの実習先においてはクラス数を最大受け入れ人数としているため教職課程を受講する学生にいずれかの実習先を割り当てることが可能となっている。

【資料７】実習の具体的計画／教育実習生受入承諾書／教育実習校の概要

（３）実習先との契約内容

個人情報保護については，教職課程の必修科目である「教育実習事前・事後指導」において特に注意を要する事項として周知徹底を図るとともに，学生自身が署名・捺印をした「誓約書」を大学と実習先の学校長に提出する。

また，実習校と以下の件について打ち合わせを行う。

- 実習の目的の共有
- 実習期間の確認
- 教育実習成績評価について
- 出勤簿の取扱い
- 教育実習日誌の取扱い
- その他，教職課程指導教員より実習先への連絡が必要と思われる事項

（４）実習水準の確保の方策

実習水準の確保に努めるため，教育実習への参加については下記の条件を設定する。

① ３年次までに開講された「教育の基礎的理解に関する科目」,「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」を原則全て修得していること。

② 実習を行う教科の教科教育法をすべて修得していること。

なお，教職課程担当教員は低学年の段階より各学生の資質を観察し，担当教員間で情報を共有するとともに必要に応じて面談指導を行う。

また,「教育実習事前・事後指導」では準備を怠る学生，実習への意欲に欠ける学生に対し，担当教員による面談指導を行う。

【「教育実習事前・事後指導」の概要】

＜目　的＞

教員の資質・能力の向上は，教育現場では喫緊の課題とされている。こうした状況を踏ま

えて，教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認する。

教育実習生としてその自覚をもち，その責任を十分に果たし，実りある実習を行い，中学校・高等学校教員としての資質・能力を習得することを目的とする。

また，教育実習後に自身の経験や実践を振り返り，目標に到達できたのかを評価する。その際，他の実習生との意見交換を実施し，教育実習の総括を実施する。

＜授業の方法＞

教育実習の意義と目標，学習指導案の作成，模擬授業の実施，教育実習の成果の発表等を授業内容とし，実務経験のある教員が，過去の事例等を用いて実践的に指導する。

（５）実習先との連携体制

教育実習に関して連絡調整等を行う委員会を設置し対応する。

日本大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会

委員会等の名称

生物資源科学部　学務委員会

生物資源科学部　教職運営委員会

委員会等の構成員（役職・人数など）

＜生物資源科学部　学務委員会＞

学部執行部で教学事項を担当する学務担当を委員長とし，学科及び事務局で構成。

＜生物資源科学部　教職運営委員会＞

学部執行部で教学事項を担当する学務担当を委員長とし，学科及び事務局で構成。

委員会等の運営方法

＜生物資源科学部　学務委員会＞

原則　月１回の開催

教職課程に係る事項のみならず学部全体の教学に関する事項を協議

＜生物資源科学部　教職運営委員会＞

教職課程に係る事項に関する件について必要に応じ，委員長が招集し協議する。

教育実習の実務にあたっては教職運営委員会の構成メンバーでもある教職課程担当教員が中心的な存在として実習先との連絡・調整窓口となり学生指導の総括的な役割を担う。

また，所属学科における研究室の指導教員が実習期間中に巡回訪問し，学生の実習状況の確認を行うとともに実習先の指導教員との情報共有を行い，それらの情報を教職課程担当教員や上記の委員会に報告する。

（６）実習前の準備状況

学生の実習時における事故や災害等については，大学負担で大学が契約する保険を適用し対応する。

主な感染予防対策としては本学独自の「日本大学健康観察システム」を利用。

学生の健康状態を保健室と連携しながら確認し，必要に応じて面談指導を行う。また，各実習校と連携し，実習先が求める感染予防対策（風疹・麻疹等の抗体検査，新型コロナウイルス感染症におけるＰＣＲ検査，県外の実習校においては実習開始の一定期間前から県内で経過観

察を行う等）を確認し，学生に実践させる。

実習中に知り得た情報に関する守秘義務やＳＮＳの利用に係る注意点などは前述のとおり教職課程の必修科目である「教育実習事前・事後指導」において特に注意を要する事項として周知徹底を図るとともに，学生自身が署名・捺印をした「誓約書」を大学と実習先の学校長に提出する。

この他にも各種ガイダンスなど様々な場面で注意喚起を行う。

（７）事前・事後における指導計画

事前・事後における指導計画については以下に「教育実習事前・事後指導」の授業シラバスを提示する。

【教育実習事前・事後指導】

① ガイダンス

「教育実習の手引き」「教育実習日誌」を用いて，教育実習に臨む際の全体的諸注意点について講義する。質問を受け付け注意点について履修者全員で共有する。

② 教育実習に向けて －教育実習の意義と目標－

教育実習を実施することによって得られる教育的課題や教員の資質・能力の課題について討議を行い，自らの実習態度への関心を強めさせる。

③ 教育実習に向けて －教育実習の実際とその準備－

教員としての学校生活の一日について概説する。

実習中に知り得た情報に関する守秘義務や情報漏洩に対するリスクについて理解する。

④ 教育実習に向けて －授業の組み立てと指導計画の作成－

この回は，教科指導ではなくＨＲ（学級運営）に関する基本的な事項について概説する。

⑤ 教育実習に向けて －実習校の事前調査－

実習校に関する基本情報をHPなどで調べる。その時の注意点等を説明する。

また，実習担当教員からの聞き取りを合わせて，生徒観や学校環境についてまとめる。

⑥ 学習指導案の作成・模擬授業の実施

実習先教員との打ち合わせによって，担当単元を決めて，50分間の授業をデザインし，学習指導案にまとめたものを元にして，各自模擬授業の導入を実施し録画する。

⑦ 前回作成した学習指導案にもとづいて，各自授業を実施した録画資料を再生し，グループ討論を実施する。

⑧ 学習指導案（中学校道徳）の作成・模擬授業の実施

実習先教員との打ち合わせによって，担当単元を決めて，50分間の授業をデザインし，学習指導案にまとめたものを元にして，各自模擬授業を実施する。

⑨～⑫ 教員から発信する課題に取り組む

課題の内容については，教育に関することを中心に，この後，教育実習に臨むにあたって，身に付けておきたい素養に関する内容とする。

⑬・⑭ 教育実習の振り返り

教育実習で経験し学んだことを振り返り，全体に対して発表する。それを基に討論す

る。

⑮　教育実習事前・事後指導の総まとめ

全体討議を通して，教育実習の総括を行い，４年次後期の必修科目「教育実践演習」への導入教育を行う。

※シラバスでは，便宜的に第９～12回の授業を教育実習中としているが，個人個人で実習期間が異なることを考慮して，振り返りプレゼンテーションの順番を調整する。

（８）教員配置並びに巡回指導計画

実習先との連携体制でも記載のとおり，委員会で実習計画全体の企画・立案を行い，教職課程担当教員が実習先との連絡・調整窓口となり学生指導の総括的な役割を担う。

また，教職課程担当教員と連携を密にしながら，所属学科における研究室の指導教員が実習期間中に巡回訪問し，学生の実習状況の確認を行うとともに実習先の指導教員との情報共有を行い，それらの情報を教職課程担当教員や上記の委員会に報告する。

（９）実習施設における指導者の配置計画

実習先の実習指導者については，十分な知識及び実務経験だけでなく，後進の育成に熱意をもった教員に対応いただくように要請する。具体的には学生が教育実習の内諾を得られたのち，教職課程担当教員が実習校と協議し，本学の実習における方針を説明する。

（10）成績評価及び単位認定

実習の評価については，実習校と予め評価項目について打ち合わせを行う。具体的には本学部が設定した 10 項目の具体的目標に５段階での評価を依頼するとともに実習態度に関する所見を加えた総合評価をいただく。

教職課程担当教員が実習先からの評価と，学生から提出される「実習日誌」及びヒヤリング等を合わせて最終確認を行い，単位認定を行う。

（11）その他特記事項

教職課程を受講する学生に対し，授業時のみの指導だけではなく日常的な指導，相談を可能にするため「教職・学芸員課程支援センター」を設置し，教職課程担当教員が常駐し学生指導に当たる。

キ　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

企業実習や海外の大学や研究機関などでの研修は，生物資源科学部の既設学科で既に多くの学外実習を行っており，新学科設置後もこれまでの実績に基づき学外実習先を選定する。

１．海外フィールド実習

認定留学や海外研修（実習）等を通し諸外国の異文化に触れ，グローバルな視点を持ち，国際的に活躍できる人材を養成することを目的とする。また，実践的な知識や技術を修得することに加え

語学力の向上を目指す。

（１）実習先確保の状況

日本大学は海外の大学と学術交流協定を結び「世界に開かれた大学」として留学生・教職員の交換，共同研究，情報交換など，各国の大学と活発な交流を積極的に展開している（34 か国１地域 133 大学等（令和３年３月現在））。

海外フィールド実習での海外学術交流提携校への留学は,短期派遣のプログラムを設置しており，次の２大学において夏季と春季の長期休暇に主に語学及び異文化理解を目的として１か月程度にわたって実施している。

国名	受入れ先	受入れ可能人数
英国	ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ	68 人
豪州	ボンド大学カレッジ	20 人

さらに，海外学術交流提携校以外への留学として，日本大学と提携している SAF（Study Abroad Foundation，米国インディアナ州の認可非営利教育機関）が持つ国際的な大学ネットワークを活用した中長期での認定留学制度も設けている。この制度では留学前に事前申請し承認されうることを条件に，海外学術交流提携校への取り扱いに準じたものとして取り扱うことになっており，学生はより選択の幅を広げることが可能となっている。

また，本学部では講義で得た知識を実地で体験することにより技術を修得し，またその経験を基により深化した内容で学習する循環サイクルによる教育が行っているが，本学の教育の対象は国内だけではなく，国外も含まれる。そのため，知識を技術に昇華させる一助として実際に海外に赴き，日本との比較などを含めた研修を学部独自に行っている。この研修の派遣先及び受入れ可能人数は次のとおりである。

国名	受入れ先	受入れ可能人数
米国	ワシントン州立大学	40 人
英国	ウィールド・アンド・ダウンランド野外博物館	15 人
豪州	クイーンズランド大学	40 人
台湾	国立中興大学	30 人
タイ	メチョー大学	15 人

（２）実習先との連携体制

海外学術提携校とは法人本部が窓口となりメール連絡を頻繁に行っており，また国際会議等において対面による会合も定期的に実施している。そして，提携校の担当者とのより密な連絡に加えて，派遣学生にも定期的な報告を求めることで，詳細な状況把握に努めている。さらに，場合によっては教職員が引率者として帯同し，学生のメンタル面でのサポートを含めたリスク管理体制を整えている。

また，認定留学の場合は，窓口となる SAF の担当者との連絡に加えて，派遣学生に学部教職員

への定期報告をさせることで，留学中のサポートを行っている。

学部独自の研修の場合は，受入れ先に担当者がおり，本学部の担当者と連携しながら，現地での実習内容や実習場所等の手配を行っている。また研修時には本学部の専任教員が引率として帯同し，研修中の教授を含めたサポートを行っている。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

海外学術提携校への短期派遣の場合，学生の申請により，留学先で修得した単位はその内容及び時間数等，及び事前のガイダンスや予備調査及び事後のレポートや事例発表会等を含めた一連の取り組みを総合評価し，海外フィールド実習として単位認定され，かつ，卒業単位数として加算される。認定留学は海外学術交流提携校への取り扱いに準じたものとなるため，単位認定等も同様に扱っている。

ク　取得可能な資格

本学科では，卒業要件とはしないが，学則に規定している科目を履修し，その単位を修得することで取得可能な資格（受験資格の取得を含む）について，以下の表にまとめて記載する。

なお，設置を予定している各種国家資格等については，本申請に併せて別途申請する。

		国家資格又は民間資格の別	資格取得又は受験資格の別	資格取得・受験資格の要件
①	中学校教諭１種（理科）	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要
②	高等学校教諭１種（理科）	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要
③	学芸員	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか，学芸員関連科目の履修が必要

ケ　入学者選抜の概要

生物資源科学部は，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源・環境に関するさまざまな問題を発見･解決し，科学･技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。

その上で，学士（生物資源学）においては，「生産・利用科学」，「生命科学」，「環境科学」の３分野を基軸とした生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。

本教育目標を実現するために，大学入学者選抜実施要項で定められている３つの要素（知識・技能，思考力・判断力・表現力等の能力，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）に関し次のとおり入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し，教育目標を実現するために多様な選抜方式において判定を実施する。

１．入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

動物学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するために，多様な選抜方法によって，以下の能力・資質を有する者を受け入れる。

【知識・技能】

〔AP1〕　高等学校で習得すべき自然科学の基礎知識を有している。

〔AP2〕　高等学校で習得すべき基礎的な数理能力，論理的思考力を有している。

〔AP3〕　日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる諸問題を学ぶ上での基礎知識を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

〔AP4〕　入学後にさまざまな分野の文献を調査し，プレゼンテーション，レポート作成を行うにあたって必要とされる国語力を有している。

〔AP5〕　入学後に動物学に関連する英語文献の講読，英語でのコミュニケーションに必要とされる基本的な語学力を有している。

【関心・意欲・態度・志向性】

〔AP6〕　生物（植物・動物・微生物等）とそれらに由来する生物資源や自然環境に加え，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する問題に強い関心を持っている。

〔AP7〕　「動物生理系分野」，「動物細胞・免疫系分野」，「動物自然史系分野」，「動物生態・保全系分野」に関する学びを通して自ら課題を見出し，それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。

〔AP8〕　日本や国際社会における科学・技術の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。

〔AP9〕　入学後，動物学科での「総合的フィールドサイエンス教育」に関連する実験・実習・演習科目の受講において，多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

２．募集人員

本学科における，入試区分別の募集人員は以下のとおりである。

入試区分	全体	総合型選抜	一般選抜	学校推薦型	外国人留学生及び帰国生選抜
募集人員	136	10	63	63	若干名

３．一般選抜及び総合型選抜における選抜方法・選抜基準・選抜体制について

一般選抜及び総合型選抜において，募集定員（136 名）の内 55%程度を想定しており，を想定しており，次のとおり選抜を実施する。

（１）一般選抜においては，日本大学全学統一方式のＮ全学統一方式（複数の学部・学科が併願可

能）及び生物資源科学部が独自に試験問題を作成し実施するＡ個別方式を実施する。いずれも入学者受け入れ方針の３つの要素（「知識・技能，思考力・判断力・表現力等の能力，関心・意欲・態度・指向性」について受験生がどれだけ理解し受験できているかを学力検査において確認する。なお，各学科の試験科目は，入学後の教育・研究に関連する科目を設定する。

Ｎ全学統一方式	３教科３科目	必修科目：外国語，理科
		選択科目：国語，数学
Ａ個別方式	３教科３科目	必修科目：外国語，理科
		選択科目：国語，数学

（２）総合型選抜においては，本学部及び志望学科の入学者受け入れ方針を十分理解できているか確認するために，志望理由書の提出と併せ，各学科で取り組んでいる社会問題をテーマとして小論文課題を選定し，事前に受験生から提出された小論文をもとに様々な角度から口述試問を行う。

４．学校推薦型等における選抜方法・選抜基準・選抜体制について

募集定員（136 名）の内 45%程度を想定しており，次のとおり選抜を実施する。

（１）指定校制・公募制については，出身学校長からの推薦を条件として，提出された志願者調書や学校からの調査書も含め，面接の中で本学部及び志望学科の入学者受け入れ方針に合致するかを確認するとともに，基礎学力を確認するテストを設け，修学上問題ないか確認する。

（２）学校推薦型選抜（付属高等学校等）においては，日本大学の全付属高校・中等教育学校 26 校の生徒が対象となり，高校入学後３年間に渡り実施される基礎学力到達度テストの結果に基づき判定を行う。

（３）学校推薦型選抜（日本大学競技部及びトップアスリート）は，特定のスポーツ種目において優秀な競技記録を有し，入学後は日本大学競技部の各部に所属し自己研鑽に励むとともに学業との両立を図ろうとする生徒を対象とする。本選抜は，出身学校長の他，日本大学競技スポーツ部部長等の推薦を条件とし，面接において修学の意欲を確認する。

（４）日本大学提携校選抜においては，埼玉栄高校及び東北高校の生徒で出身学校長の推薦があり，かつ日本大学基礎学力到達度テストを受験したものを対象とする。その上で，本学部の内容に関連した事項に関し，口述試問を実施し合否判定を行う。

５．外国人留学生及び帰国生選抜における選抜方法・選抜基準・選抜体制について

本試験区分は若干名の募集として，次のとおり実施する。

（１）出願書類による書類選考の他，英語・小論文・理科等の試験を実施の上，総合的に合否判定を実施する。また，留学生においては，日本語能力検定等の級取得は出願要件としない。

（２）入学後プレゼンテーションや論文作成において必須となる国語力・語学力を含む本学部・学科の入学者受け入れ方針を理解できているかを記述式で確認する。

（3）経費支弁能力は出願書類に記載させるとともに，合格・入学後も必要に応じ確認できる書類の提出を求める。また入学後の在籍管理については留学生担任を設け，卒業まで留学生のサポートを行うとともに，教学部門で連携を取り留学生の把握を実施する。

6．科目等履修生の受け入れについて

本学部においては，教員免許取得や学芸員課程等資格取得のため必要な単位取得を目的として，若干名の科目等履修生の受け入れを実施する。なお，期間は毎年4月～3月の間の1年間として，3月の面接において，資格取得までの準備や意欲を確認の上，合否を決定する。

コ　教員組織の編成の考え方及び特色

1．基本的考え方

動物学科で展開する4つの研究分野は，従前の研究室体制を基本的に取らず，基盤となる研究領域を基に教員を配置する分野制（中講座制）の形をとるが，配置教員の専門性は多様でより幅広い領域をカバーできるように計画している。また，職階，教育歴についても分野内でバランスよく配置し，学生に対する対応がとれるように配慮した。教育上主要と認める授業科目においては，専任の教授または准教授を配置することとしている。専任教員は全員博士の学位を有し，その分野は，農学，生物資源科学といった農学系 10 名を中心に理学，生命科学，地球環境科学と多岐に亘っている。全体として，実験室内での実験系から博物館等での展示標本，さらにはフィールド（野外調査）系までを教育・研究対象としている多様な教員から構成されている。

2．年齢構成

専任教員の年齢構成は下表のとおりである。なお，本大学の定年は満 65 歳であり，「日本大学教職員就業規則」（資料8）により規定しており，開設の令和5年度から完成年度の令和9年3月までに定年を迎える者が1名いるが，本学科完成年度末まで兼任講師として勤務する。

完成年度以降に退職となる教員の後任については，内部昇格と合わせて，学科全体及び主となる分野ごとに職位（職階），年齢構成のバランスに配慮した採用人事を行う。その際，前任者の専門性や研究分野の踏襲に留まらず，新規分野の開拓も考慮に入れ，本学科の教育・研究の質的向上を目指す。

【資料8】日本大学教職員就業規則

表　専任教員の職階・年齢構成（令和9年3月 31 日現在）

年齢	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60～64 歳代	65～69 歳代	計
教授			5		1	6
准教授		1	1			2
講師		3	1		1	5
助教	1	2				3
計	1	6	7	0	2	16

サ　施設，設備等の整備計画

１．校地，運動場の整備計画

キャンパスは，校舎・運動場・付属研究施設・農場・演習林・臨海実験所等の用地として１道４県に総面積 実測面積 27,431,532.32 ㎡（公簿面積 27,431,280.77 ㎡）の校地を所有している。このうちメインキャンパスである湘南校舎は 54 ヘクタールと広大なキャンパスを有しており，学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境，豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を重点にキャンパス整備を展開している。

運動場はメインキャンパスの敷地内に全てあり，400ｍトラックの全天候型陸上競技場（陸上５競技については記録が陸連公認される）を含めた人工芝グラウンド（面積 20,789 ㎡）の他，体育館はバスケットボールコート４面がとれ，剣道，柔道などの武道場や最新鋭のトレーニング機器を完備したトレーニングルームが併設されている。トレーニングルームには，インストラクター並びに指導面において運動習慣の維持及び個々のトレーニングメニューの立案を行うためのトレーナーが常駐しており，学生はもちろんのこと教職員の健康維持にも活用されている。全天候型のテニスコート９面（人工芝７面，ハードコート２面）も整備され，学生・教職員に利用されている。

さらに３階建ての学生食堂棟の他，本館Ｇ階及び１号館地下１階にはカフェテリア等が設置されており，学生の食事や憩いの場所となっている。また，学生が授業での疲れを癒やしリフレッシュする空間と，お互いに刺激し合い高め合うコミュニケーションとしての空間も整備している。講義室として使用している施設には，各階の廊下にラウンジチェアを設置しており，コミュニケーション空間としては，本館ガレリア，１号館の地下１階及び１階に学生ホールを設置している。学生は利用目的に応じて空間を自由に選択できるようになっており，学生ホールには１人でも使いやすく，自習にも利用できるカウンターエリア，さまざまな人数に対応ができるようなコミュニティエリアを設け，多目的な利用が可能なように対応している。

２．校舎等施設の整備計画

生物資源科学部の学部改組は学則定員を変更せずに，既存の施設・設備である講義室，演習室等を活用することで充足することが可能である。

講義室としては，既存の本館，１号館，２号館，３号館，５号館，10 号館を使用する計画である。

１号館は，講義棟として１階部分にアクティブラーニング（ALS）室が３室，演習室を２室，２～５階には，講義室として 250 人講義室が４室，200 人講義室が 10 室，90 人講義室が 15 室整備している。講義室には，講義室内の受講生が全員無線ＬＡＮを活用した授業に参加できるように，ネットワーク設備の環境を構築している。

２号館は１・２階に講義室として 400 人講義室１室，186 人講義室１室，90 人講義室１室を整備している。また，各講義室に無線ＬＡＮ環境が整備されている。

３号館（博物館）には４階に講義室として 398 人講義室１室，249 人講義室１室，２階に研究室に付属する実験室１室がある。

５号館には３階に講義室として 153 人講義室１室，１～３階に実験・実習室が 12 室（内１室はコンピュータ室），研究室に付属する実験・実習室が５室整備されている。

10 号館には１・２階に講義室として 180 人講義室４室，100 人講義室２室，87 人講義室１室，200 人講義室１室，演習室が７室，２・３・５階に実験・実習室 11 室，３・４・５階に研究室に付属する実験室 13 室が整備されている。

本館には３～８階に 192 人講義室１室，240 人講義室３室，478 人講義室１室，198 人講義室１室，180 人講義室１室，170 人講義室１室，242 人講義室３室，288 人講義室２室，130 人講義室１室，231 人講義室１室，110 人講義室２室，210 人講義室１室，99 人講義室２室，204 人講義室２室，55 人講義室１室，８～13 階に実験・実習室 15 室（内コンピュータ室４室），10～12 階に演習室９室が整備されている。また，３～９階の各講義室・実習室に無線ＬＡＮ環境が整備されている。

なお，上記を含め構内全域では講義室 69 室，実験・実習室 569 室，演習室 19 室が整備されている。

実験室・実習室及び卒業研究等の施設・設備の環境も既存の施設で十分充足することが可能である。今日の「生命」「食料」「資源」「環境」の諸問題を解決するための新たな視点から教育・研究に取り組み，且つ講義で得た知識を実践力に進化させる環境としてフィールドサイエンス教育にも重点をおいている。

フィールドサイエンス教育の一環としてキャンパスに隣接した「都市近郊型教育農場」を強みとするために，防疫や飼養保管施設とした対策を十分施した実習農場を新築し，さらに温室の整備を計画している。

今後は，最先端の知識・技術と SDGs 等の意識を持った人材育成のために，設備・機器の更新，施設改修等を行い，より一層の教育の充実を行っていく予定である。

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館資料は，生物資源科学部の理念である「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の各分野に関連した図書，学術雑誌，新聞等の印刷資料のほか，ICT 環境の整備に伴い電子ジャーナル，電子書籍，データベースの電子資料，CD，DVD 等の視聴覚資料を体系的，網羅的に収集している。

動物学科は，多用な動物種を対象として，それぞれの動物が有する特徴的な機能や動物が示す行動，自然界での生態を学ぶ。「生命史」「生命科学」「環境科学」の視点から学びのアプローチをすることから，基礎的な動物の生活史や動物が関わる全ての環境問題などに関連する図書等の資料の充実を図る。

動物学科に関連する蔵書数は，図書約 18,000 冊（うち外国語約 6,900 冊），学術雑誌 42,000 冊（うち外国語約 31,000 冊）が整備されている。

学術雑誌は，先に挙げた領域に関連した『日経サイエンス』『National Geographic』『実験医学』『どうぶつと動物園』などを揃えており，電子ジャーナル化への対応にも配慮して整備している。（資料９）

電子資料は，本部研究推進部学術情報管理課の契約により全学で利用できるものが， Science Direct，Springer Link e-Journal Legacy Package など約 80 のサービスがあり，学部でも別途専門に関連する電子資料の契約を約 70 タイトル行うことにより，多くのタイトルを利用可能としている。

図書館の施設・設備は，閲覧スペース 3,036 ㎡を含め総延面積 6,065 ㎡，閲覧座席数は 950 席，書架収容力は棚板延長 12,998m，収容可能冊数は 361,056 冊であり，館内には，個人閲覧室 16 室，

グループ学習室５室，レファレンスや学習支援機能を備えたラーニングコモンズ，自習室，視聴覚ブース等があり，かつ館内にはWi-Fi環境を整えているなど十分な施設・設備を保有している。

蔵書検索は，全学共通図書館システム（NEC製 E-CatsLibrary）が導入され，館内専用端末のほか，図書館ホームページ上で24時間，自館・全学・他大学との横断的な検索が可能となっている。

その他，国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備は，国立情報学研究所のNACSIS－ILLや英国図書館のBLDSCを活用して，文献複写，現物貸借の依頼・受付を行っている。また，藤沢市・綾瀬市・座間市・茅ヶ崎市の市立図書館との相互協力により，地域在住・在勤者に図書館を開放しており，「知（地）の情報拠点」として，学生と地域社会との交流が図られる環境を提供している。

【資料９】主な学術雑誌一覧（動物学科）

シ　管理運営

１．教授会の構成員

「本大学各学部に教授会を置き，専任教授全員，３名以内の専任准教授代表及び事務局長をもって，これを構成する」（日本大学学則第５条）

２．教授会開催頻度

原則月１回（８月を除く）

３．教授会審議事項（日本大学学則第９条）

①　学生の入学及び卒業に関すること。

②　学位の授与に関すること。

③　前２号に掲げる事項のほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。

４．学長が決定を行うに当たり教授会の意見を聴くことが必要な事項（日本大学学則第９条）

①　教育課程に関すること。

②　学部内の教学組織の増設，改廃及び変更に関すること。

③　教員の教育研究業績審査に関すること。

④　入学試験の実施に関すること。

⑤　大型プロジェクト研究の申請に関すること。

５．教授会以外に関連する委員会

生物資源科学部では，教授会の承認のもと，入学試験委員会を設置し，生物資源科学部の入学試験に関する判定協議を行い，その結果については教授会に上程している。

ス　自己点検・評価

１．自己点検

日本大学は，平成５年３月に「日本大学自己点検・評価規程」を制定し，翌年「大学自己点検・評価委員会」（現「全学自己点検・評価委員会」）を発足させた。平成６年度から３年に一度の自己点検・評価を行い，改善意見をまとめ，その改善結果を検証しながら教育研究の質的向上に努めている。

（１）実施方法

「日本大学自己点検・評価規程」（平成５年３月制定）に基づき，「全学自己点検・評価委員会」の下に，次の（２）に記す体制で以下を実施する。

・大学本部と各学部等に関わる事項の自己点検・評価を３年ごとに行う。
・上記の自己点検・評価に基づき，改善事項に対する改善意見をまとめ，これに基づく改善への取組みを促進する。
・改善事項に対する改善結果の調査を行い，「全学改善結果報告書」にまとめる。

（２）実施体制

（A）全学自己点検・評価委員会

・全学的，総合的に自己点検・評価を企画し，実施する。
・３年ごとに，日本大学本部，学部等が実施する自己点検・評価の結果報告を基礎とし，総合的見地からの自己点検・評価及び大学全体に関わる改善事項に関する改善意見を加えて「全学自己点検・評価報告書」を作成する。
・上記の改善意見に基づく改善取組みを促進する。
・日本大学本部及び学部等の改善事項に対する改善結果の報告等を踏まえ，「全学改善結果報告書」をまとめる。
・日本大学本部及び各学部等の自己点検・評価委員会が行う自己点検・評価の項目及び基準・方法等の諸事項につき調整を図る。

（B）日本大学本部自己点検・評価委員会及び学部等自己点検・評価委員会

・３年ごとに，それぞれ本部及び学部等に関わる事項の自己点検・評価を実施する。
・自己点検・評価の結果に基づき，それぞれ日本大学本部及び学部等に関わる改善事項の改善意見をまとめ，それに基づく改善への取組みを促進する。
・その他の年度は，それぞれ本部及び学部等の改善事項に対する改善結果をまとめ，全学自己点検・評価委員会に報告する。

（C）結果の活用・公表

・自己点検・評価の結果に基づいて，改善事項の改善意見をまとめ，これに基づき改善に取り組む。
・全学自己点検・評価及び改善意見は「全学自己点検・評価報告書」として，改善結果は「全学改善結果報告書」として冊子にまとめられ，学内に報告されるとともに，本大学のホームページで公開している。

（D）評価項目

日本大学本部・学部等ごとに以下の大項目に分けて評価している。

理念・目的，教育研究組織，教員・教員組織，教育内容・方法・成果，学生の受け入れ，学生支援，教育研究等環境，社会連携・社会貢献，管理運営・財務，内部質保証

２．外部評価

上述の大学自己点検・評価委員会は，外部評価を実施し，さらに第三者評価を受ける。これらの評価・審査によって指摘された事項については，大学改善意見に準じて取り扱っている。

（１）第三者評価

大学の自己点検・評価結果の客観性・妥当性の検証と大学改革の一層の推進を図るため，公益財団法人大学基準協会の行う大学評価（認証評価）を受けている。平成 16 年度に第１回の認証評価を受け，平成 22 年度に２回目，平成 29 年度に３回目の認証評価を受けている。本大学に対する認証評価結果は，本大学のホームページ上で公開されている。

（２）外部評価

本学の自己点検・評価結果を主な資料として学外者に本大学の取組を評価いただき，教育研究の質的向上に役立てている。平成 16 年から３年ごとに実施し，各回特定のテーマを定めて学外の様々な方(有識者,卒業生等)から提言をいただいている。外部評価の結果は「外部評価報告書」としてまとめられ，学内に報告されるとともに，日本大学のホームページ上で公開されている。

セ　情報の公表

生物資源科学部では，大学の現状に関する情報を学生や保護者をはじめ，広く公開することで説明責任を果たし，本学部の諸事業・諸活動に対する理解と協力を得ることは必要であると考える。そのため，教育研究上の目的や教育の質的向上に向けた取り組み等，本学部における教育研究の諸活動等を公表すべき情報として学部ホームページにて開示している。

１．大学の教育研究上の目的に関すること

・生物資源科学部の教育研究上の目的

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

２．教育研究上の基本組織に関すること

・教育研究上の基本組織について

学部の名称および紹介，学科または課程単位の名称および紹介，大学院の名称および紹介，研究所・研究センター

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/kihonsoshiki/

３．教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員組織図

教育情報＞３．教員組織，教員数並びに各教員等について

教員組織図

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

・役職及び委員会組織等

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/no1/

・設置基準と教員数の関係，資格別人数，男女別人数，年齢構成等

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/no02/

・日本大学研究者情報システム：教員の学位，専門分野，研究業績，その他の業績等を掲載
https://kenkyu-web.cin.nihon-u.ac.jp/scripts/websearch/index.htm?lang=ja&page_id=gakubu_rslt&dept_id=0013

４．入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・生物資源科学部の三つの方針：「入学者受け入れに関する方針」
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

・入学定員及び入学者数
教育情報＞その他の情報＞I．修学上の情報等
I-２　入学定員及び入学者数
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/others/#shuugaku

・生物資源科学部／入学者，入学及び収容定員，学生数，卒業（修了）者数
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/no3/

・就職者数，その他進学及び就職等の状況
教育情報＞４．入学者選抜，学生等について
②就職者数，その他進学及び就職等の状況
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

５．授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・授業科目，授業の方法及び内容：授業計画（シラバス）に記載
https://lc-syllabus.brs.nihon-u.ac.jp/student

・カリキュラム
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/curriculum/

・履修系統図
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/course_diagram/

・授業関係行事予定表
教育情報＞５．授業科目等について
②年間の授業計画
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

６．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・学修の成果に係る評価基準：授業計画（シラバス）に記載
https://lc-syllabus.brs.nihon-u.ac.jp/student

・卒業（修了）に係る認定基準：各学科カリキュラムに卒業に必要な科目と単位数を掲載
教育情報＞６．成績評価基準，卒業（修了）要件等
②卒業（修了）に係る認定基準
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

・生物資源科学部の三つの方針：「卒業の認定に関する方針」
https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

７．校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・キャンパス，運動施設等の概要

教育情報＞７．校地，校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境

①キャンパス，運動施設等の概要

②休息を行う環境その他の学習環境等（自習室，学生食堂等）の状況

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

・教育・研究施設

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/facilities/

８．授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・授業料，入学金，施設設備費，教材購入費等

教育情報＞８．学費等について

①授業料，入学金，施設設備費，教材購入費等

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

９．大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・学生の支援状況

教育情報＞９．学生の支援状況／

①修学，進路選択，心身の健康等に係る支援状況

②留学生情報

③障がい者の支援状況

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

・奨学金等諸制度

教育情報＞10．奨学金等諸制度

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/

10．その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果 等）

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力：カリキュラム，授業計画（シラバス）に記載

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/curriculum/

https://lc-syllabus.brs.nihon-u.ac.jp/student

・学則等諸規程

https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/gakusoku/

・日本大学教育憲章（日本大学ホームページ）

http://www.nihon-u.ac.jp/education_strategy/charter/about/

・全学自己点検・評価報告書（日本大学ホームページ）

http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/self_evaluation/

・日本大学改革の歩み（改善結果報告書）（日本大学ホームページ）

http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/report/

・認証評価結果（日本大学ホームページ）

http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/result/

・外部評価・学校関係者評価（日本大学ホームページ）

http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/outside/

ソ　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

日本大学では「日本大学 FD 推進センター」（資料 10）を設置し，FD 情報の効果的活用策の検討や各部科校における FD 活動の進展に応じた支援体系の検討等の様々な活動を実施している。

【資料 10】日本大学 FD 推進センターに関する内規

日本大学 FD 推進センターの中期計画（令和３～５年度）として，「教員の恒常的な資質及び職員の教学管理能力の向上を目指し，日本大学教育憲章に基づく教育研究活動能力の獲得」，「教員の教育研究活動等の自己点検・評価の実施による資質向上の推進」，「FD 活動の成果とその充実を支援する情報を収集し，学内外へ効果的に発信」及び「FD 推進センターにおける PDCA サイクル充実を図る組織的取組みの実施」を策定し，「調査・分析」「プログラム」「教育情報マネジメント」の３つのワーキンググループを置き，全学的な FD 活動の推進を展開している。全学的な FD 活動の具体例としては，次のとおりである。

全学 FD 活動の具体例	実施体制	開催頻度
教員に対する研究会・講習会及び講演会等の開催 対象：教員	日本大学 FD 推進センター中期計画に基づき，日本大学 FD 推進センターが企画・実施。	年１回
学生による授業評価の全学的推進 対象：教員（非常勤教員含む），学生	日本大学FD推進センターが各学部等で実施する「学生による授業評価アンケート」に全学共通の調査項目を追加・実施し，同一の調査項目内における学部等間の情報共有を図るとともに，大学全体として組織的に教育改善策を検討。	年２回
全学 FD ワークショップ・セミナー・シンポジウムの開催 対象：教職員（非常勤教員含む）	日本大学 FD 推進センター中期計画に基づき，日本大学FD推進センターワーキンググループが企画・実施。	年 14 回
学生参画型 FD 活動（「日本大学学生 FD CHAmmiT」）の開催 対象：教職員，学生	日本大学FD推進センターが本学の教員に学生の声を反映させながら，教育力の向上を目指し，年度毎にテーマを設定して実施。参加者からの「学部提案書」に基づき，各学部において，学生・教員・職員の三者で協議した上で「改善報告書」を作成，学修環境の改善を推進。	年１回
『日本大学 FD 研究』の刊行 対象：教職員（非常勤教員含む），学生	日本大学 FD 推進センターが，高等教育開発に関する論考や活動報告等を共有することにより，組織的な教育の質向上を図ることを目的として	年１回

	発行。	
『日本大学 FD ガイドブック』及び『日本大学 FD NEWSLETTER』の発行 対象：教職員（非常勤教員含む），学生	日本大学 FD 推進センターが，日本大学における FD 活動をさらに全学的に推進し，学部等における FD 活動を支援するための具体的方策の一つとして，『日本大学 FD ガイドブック（教職員編・学生編）』を発行。また FD 推進センターをはじめ各部科校における FD 活動の取組に関する情報の共有化を図るため，『日本大学 FD NEWSLETTER』を年２回発行。	年２回

日本大学 FD 推進センターが全学的な FD を推進する一方で，学部等各部科校は 全学 FD 活動と連携を取りながら学部独自に FD 活動を展開している。生物資源科学部においては，「日本大学生物資源科学部 FD 委員会内規」（資料 11）を制定し，PDCA サイクル等を適切に機能させるため，学部における組織的な FD 活動を推進している。生物資源科学部における FD 活動の具体例としては次のとおりである。

・専任教職員を対象とした FD 研修会の開催（年３回程度）

・非常勤講師も含めた全教員に対して学生による授業評価アンケートの実施（前期・後期各１回）

なお，授業評価アンケートは学生の回答期限後に各科目担当者に集計結果を開示し，科目担当者は学生から寄せられた質問や要望等に対して学部ポータルサイト等を介してフィードバックを実施する。また集計結果を FD 委員会で分析・検討し，必要に応じて科目担当者に改善レポートの提出を依頼する。FD 委員会は集計結果や改善レポートを学部ホームページ等に掲載すると同時に，各科目担当者に次年度以降の授業に改善内容を反映するよう依頼する。また学部全体の傾向等を分析・把握し，FD 研修会等のテーマとして取り扱うなど，全教員の教育の質向上に繋げるよう努める。（資料 12）

【資料 11】日本大学生物資源科学部 FD 委員会内規

【資料 12】「授業評価アンケート」実施要項

これらの活動を通じて，各組織レベル及び教員レベルにおいて授業内容方法等の改善を今後も継続的に推進する。

また，全学的な教学マネジメントを支えるため，教育を直接担う教職員の質向上を支援する全学 SD 委員会を設置し，中期計画に定める「学びの質とその水準を保証すること」及び「盤石な経営基盤を確立すること」の実現に資する研修を実施，教職員を育成している。なお，全学 SD 研修は全教職員が自ら率先して自己研鑽を積むことを前提に，研修内容をオンデマンドで配信している。全学 SD 委員会が企画・実施する研修の具体例としては，次のとおりである。

全学 SD 研修の具体例	実施体制	開催頻度
教職員の質向上に係る講演会	全学 SD 委員会の企画に基づき，法人本部の	年１～２回

等の開催 対象：専任教職員	関連部署が実施。	
教職員として求められる知識に係る講演会等の開催 対象：専任教職員	全学 SD 委員会の企画に基づき，法人本部の関連部署が実施。	年１回

全学 SD 委員会が全学的な SD を推進する一方で，学部等各部科校は 全学 SD 活動と連携を取りながら学部独自に SD 活動を展開している。生物資源科学部においては，「日本大学生物資源科学部 SD 委員会」を設置し，大学の中期計画に基づき，教職員一人ひとりが帰属意識，当事者意識の醸成を図るとともに収支改善に向けた理解と協力を得ることを目的とした講演を中心とした研修会を実施している。生物資源科学部における SD 活動の具体例としては次のとおりである。

・専任教職員を対象とした SD 研修会の開催（年３回程度）

一方，事務職員については法人本部が企画・実施する全学共通の階層別，業務別等の研修への参加を通じて，職員の資質向上や専門能力の開発に努めている。

階層別研修の具体例	実施体制	開催頻度
新入職員研修 ・入職前研修，基礎研修，フォローアップ研修 ・各年次研修（２～５年次）	法人本部人事部人事課が企画・実施。新入職員及び若手職員を対象とし，学校職員に求められる知識及び能力を年次ごとに培う。	各年１回
中堅職員研修	法人本部人事部人事課が企画・実施。各部署の業務を牽引する職員として求められる資質・能力を育成する。	年１回
管理職別研修 （主任，課長補佐，課長，事務長）	法人本部人事部人事課が企画・実施。管理職に求められるリーダーシップや業務のマネジメント能力等を育成する。	各年１回

業務別研修の具体例	実施体制	開催頻度
私立大学等経常費補助金研修会	法人本部財務部資金課が企画・実施。経営基盤確立に係る補助金業務の知識を得る。	年 10 回
各部署別事務研修	法人本部の各所管部署が企画・実施。各業務を遂行するにあたり，職員に求められる知識及び能力を業務ごとに培う。	各年１回

なお，生物資源科学部では新規採用職員に対し，全事務課においてローテーション研修を実施し，所属部署以外の業務について理解を深めさせることで，職員としての資質向上に努めている。

タ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１．教育課程内の取組について

キャリアデザイン教育の体制として，１年前期に「自主創造の基礎」を全学共通教育科目で開講し，入学前の受動的な学習からの転換を図り，「自ら考え，行動し，創り上げる」大学生としての能動的な学習を導き，将来の就職や進路選択への道筋を考えさせる。

専門教育科目において，履修系統ごとに専門的知識と技術とを段階的に修得することができるように配置されているばかりでなく，学部４年間の学生生活を念頭におき無理なくキャリア形成が行えるように設定されている。学生はこれらの科目の履修を通じて，在学中に実社会での就業を体験し，卒業後の職業選択に当たって，自らの希望を確認し，就業イメージを明確化するとともに，自分の適性や将来の進路を決定し，就業への適応力を体得させる。

具体的には，下記専門科目での学びを通じて，社会人力を養い，卒業後の職業選択に当たって自らの適性について考察することにより将来の進路を決定につなげていく。

動物学科では，「動物学演習」「動物学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」を通じて，社会人への基礎となるプレゼンテーション能力，表現力，発表力を高め，学生が自ら課題を設定し，問題解決に向けた調査・研究・整理・発表をすることで，互いに議論するという社会人力を養う。

２．教育課程外の取組について

近年変動傾向にある就職活動スケジュールを考慮し，それぞれの学年に求められる基礎力養成に努め，３年次以降の本格的就職活動時には各学生が自らの個性を認識し，それを活かせる人材となるよう育成する就職支援行事を実施する。具体的な取組として各種ガイダンスやセミナー等を設定し，学習の進め方や就職への動機付けといった就職支援を実施する。また，個別指導・相談を随時実施し，学生一人ひとりに適した卒業後の方向を検討するためのきめ細かな指導体制をとる。

【キャリアデザインプログラム（１・２年生対象）】

学生が主体的に「未来選択」を行うために，学生各個人が「なぜ働くのか」「なぜ就職するのか」を理解した上で人生観・価値観を確立し企業選択を行えることができるキャリア形成プログラムを実施する。

【就職支援プログラム（３年生対象）】

就職活動が本格化する前の準備期間の学部３年生を対象とし，必要な基礎的スキルを身に付ける様々なプログラムを行う。

３年前期より就職ガイダンス，インターンシップガイダンス，スキルアップセミナー，筆記試験対策セミナー，業界・企業研究等，準備期間に必要とする講座を開講する。

後期では採用に直接かかわる「グループディスカッション」や「面接対策（集団・個別）」等の実践訓練の機会を提供する。業界・企業理解として学部及び本部学生部就職課では「学内合同企業セミナー（業界・職種勉強会）」を行い人事担当者と直接話す機会の充実を図り，業界や職種，企業についての理解を深めている。

【４年生を対象とした就職支援】

就職活動中の学部４年生に対しては，就活振り返りのフォローアップ講座や採用活動中の企業紹介等の就職支援を積極的に行う。

【公務員志望者支援】

公務員志望者に対し，公務員の仕事内容を理解する「公務員ガイダンス」や「国家・地方公務員勉強会」の実施と各年次（学部１～４年生）で必要な公務員試験対策講座を実施し支援を行う。本部学生部就職課（資料 13）が所管する日本大学就職支援センター（資料 14）主催の公務員に関する講座・セミナー等とも連携し支援を行う。

全ての専任教員はオフィスアワーを設け，授業に関することや学生生活のこと，さらには将来の「進路・就職・公務員」に関することなど，様々な悩みや相談に対応する。

【資料 13】日本大学本部事務分掌規程

【資料 14】日本大学就職支援センター設置内規

３．適切な体制の整備について

社会的・職業的自立を促すための体制を整備するために，生物資源科学部就職指導課（資料 15）と就職指導委員会（資料 16）が中心となって，学科の就職指導担当教員，学科研究室が密接に連携して学生を全面的にサポートする体制を構築している。

【資料 15】日本大学学部事務分掌規程

【資料 16】日本大学生物資源科学部就職指導委員会内規

設置の趣旨等を記載した書類　別添資料　目次

【資料１】　生物多様性国家戦略 2012-2020 の概念図

【資料２】　愛知目標の達成に向けたわが国の国別目標

【資料３】　バイオ戦略 2020（市場領域施策確定版）

【資料４】　養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針相関表

【資料５】　動物学科　カリキュラムマップ

【資料6-1】　動物学科　動物生命史系履修モデル

【資料6-2】　動物学科　動物生命科学系履修モデル

【資料6-3】　動物学科　動物の保全と環境系履修モデル

【資料７】　実習の具体的計画／教育実習生受入承諾書／教育実習校の概要

【資料８】　日本大学教職員就業規則

【資料９】　主な学術雑誌一覧（動物学科）

【資料 10】　日本大学 FD 推進センターに関する内規

【資料 11】　日本大学生物資源科学部 FD 委員会内規

【資料 12】　「授業評価アンケート」実施要項

【資料 13】　日本大学本部事務分掌規程

【資料 14】　日本大学就職支援センター設置内規

【資料 15】　日本大学学部事務分掌規程

【資料 16】　日本大学生物資源科学部就職指導委員会内規

【資料1】

生物多様性国家戦略 2012-2020

第1部： 戦略

【自然共生社会実現のための基本的な考え方】

「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」

【生物多様性の４つの危機】

「第１の危機」
開発など人間活動による危機

「第２の危機」
自然に対する働きかけの縮小による危機

「第３の危機」
外来種など人間により持ち込まれたものによる危機

「第４の危機」
地球温暖化や海洋酸性化など地球環境の変化による危機

【生物多様性に関する５つの課題】

① 生物多様性に関する理解と行動
② 担い手と連携の確保
③ 生態系サービスでつながる「自然共生圏」の認識
④ 人口減少等を踏まえた国土の保全管理
⑤ 科学的知見の充実

【目　標】

◆ **長期目標　（2050 年）**

生物多様性の維持・回復と持続可能な利用を通じて、わが国の生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに、生態系サービスを将来にわたって享受できる自然共生社会を実現する。

◆ **短期目標　　（2020 年）**

生物多様性の損失を止めるために、愛知目標の達成に向けたわが国における国別目標の達成を目指し、効果的かつ緊急な行動を実施する。

【自然共生社会における国土のグランドデザイン】

100 年先を見通した自然共生社会における国土の目指す方向性やイメージを提示

【５つの基本戦略】･･･2020 年度までの重点施策

１　生物多様性を社会に浸透させる
２　地域における人と自然の関係を見直し、再構築する
３　森・里・川・海のつながりを確保する
４　地球規模の視野を持って行動する
５　科学的基盤を強化し、政策に結びつける

第2部： 愛知目標の達成に向けたロードマップ

■「13 の国別目標」とその達成に向けた「48 の主要行動目標」
■ 国別目標の達成状況を把握するための「81 の指標」

第3部： 行動計画

■ 約 700 の具体的施策　　■ 50 の数値目標

【資料2】

愛知目標の達成に向けたわが国の国別目標

戦略目標	国別目標	主要行動目標	対応する愛知目標
戦略目標Ａ： 生物多様性の損失の根本原因に対処	A-1: 「生物多様性の社会における主流化」の達成　等	A-1-1：生物多様性の広報・教育・普及啓発等の充実・強化 A-1-2：生物多様性等の経済的な評価などによる可視化の取組の推進 A-1-3：地方自治体における生物多様性地域戦略の策定や実践的な取組の促進 2013 年までに生物多様性地域戦略の策定の手引きの改定 A-1-4：生物多様性への配慮事項が盛り込まれた国・地方自治体の戦略・計画等の策定の促進、奨励措置による生物多様性への影響の考慮、生物多様性に配慮した奨励措置の実施 A-1-5：持続可能な事業活動のための方針の設定・公表とその実施の奨励	1 2 3 4
戦略目標Ｂ： 生態系を悪化させる人為的圧力等の最小化に向けた取組を進め、持続可能な利用を推進	B-1: 自然生息地の損失速度及びその劣化・分断の顕著な減少	B-1-1：2014 年又は 2015 年初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに損失速度や劣化・分断の状況把握のための手法、ベースラインの確立　等 B-1-2：2020 年までに生息地の劣化・分断の減少のための取組の実施　等 B-1-3：2015 年までに鳥獣保護法の施行状況の見直しの実施　等 B-1-4：鳥獣による農作物被害対策や森林被害対策の推進　等	5
	B-2: 生物多様性の保全を確保した農林水産業の持続的な実施	B-2-1：持続的な農業生産の維持や生産基盤の管理といった生産関連活動と生物多様性の保全を両立させる取組の促進 B-2-2：森林の多面的機能の持続的発揮、森林のモニタリング調査の推進　等 B-2-3：持続的な漁業と生物多様性の保全を両立させる取組の促進　等 B-2-4：自然と共生した里海づくりの取組の実施	6 7
	B-3 ： 窒素やリン等による汚染状況の改善、水生生物等の保全と生産性の向上、水質と生息環境の維持　等	B-3-1：流域からの栄養塩類・有機汚濁物質の削減、2015 年 3 月までに第 7 次水質総量削減の実施 B-3-2：2014 年までに水生生物の保全のための下層 DO 及び水生植物の保全のための透明度についての環境基準化の検討　等 B-3-3：生息環境を維持するための管理方策の確立に向けた調査研究の実施	8
	B-4 ： 外来生物法の施行状況の検討結果を踏まえた侵略的外来種の特定、定着経路情報の整備、防除の優先度の整理、防除の計画的推進　等	B-4-1：2014 年までに侵略的外来種リストの作成、定着経路の情報整備　等 B-4-2：2014 年までに防除の優先度の考え方の整理、計画的な防除等の推進、「外来種被害防止行動計画（仮称）」の策定 B-4-3：優先度の高い侵略的外来種の制御・根絶、これらの取組を通じた希少種の生息状況や本来の生態系の回復の促進	9
	B-5 ： 人為的圧力等の最小化に向けた取組の推進	B-5-1：2013 年までにサンゴ礁、藻場、干潟、島嶼、亜高山・高山地域等の気候変動に脆弱な生態系に対する人為的圧力等の特定、2015 年までに人為的圧力等の生態学的許容値の設定と許容値達成のための取組の実施	１０
戦略目標Ｃ： 生態系、種、遺伝子の多様性を保全することによる生物多様性の状況の改善	C-1 ： 陸域等の 17%、海域等の 10%の適切な保全・管理	C-1-1：2014 年又は 2015 年初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに保全・管理の状況把握のための手法、ベースライン、現状の整理 C-1-2：生物多様性の保全に寄与する地域の指定についての検討と保全・管理の推進 C-1-3：広域レベルにおける生態系ネットワークの方策の検討とその形成の推進　等 C-1-4：2014 年までに重要海域の抽出、保全の必要性及び方法の検討	１１
	C-2 ： 絶滅危惧種の絶滅防止と作物、家畜等の遺伝子の多様性の維持　等	C-2-1：絶滅危惧種に係る知見の集積、レッドリストの整備と定期的な見直し　等 C-2-2：国内希少野生動植物種の指定、保護増殖の取組の推進　等 C-2-3：絶滅危惧種の絶滅・減少の防止のための生息・生育環境の整備の推進　等 C-2-4：トキ、ツシマヤマネコ等の生息域外保全や野生復帰の推進　等 C-2-5：植物遺伝資源保全に関する保全ネットワークの構築　等	１２ １３
戦略目標Ｄ： 生物多様性及び生態系サービスから得られる恩恵の強化	D-1 ： 生態系の保全と回復を通じた生物多様性・生態系サービスから得られる恩恵の国内外における強化　等	D-1-1：持続的な森林経営の確立、多様で健全な森林の整備・保全の推進　等 D-1-2：農業の持続的な営みを通じた農村環境の保全・利用と地域資源の活用　等 D-1-3：SATOYAMA イニシアティブの国内外における推進 D-1-4：2013 年までの三陸復興国立公園の指定、海岸防災林の復旧・再生の推進　等 D-1-5：自然と共生した里海づくりの取組の実施 D-1-6：生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）を活用した新たな施策展開の検討	１４
	D-2 ： 劣化した生態系の 15%以上の回復等による気候変動の緩和と適応への貢献	D-2-1：2014 年又は 2015 年初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに生態系の保全・回復の状況把握のための手法、ベースラインの確立　等 D-2-2：生態系の保全と回復対策の推進による気候変動の緩和と適応対策の推進 D-2-3：森林施業の適切な実施等の森林吸収源対策の推進、緑の回廊の設定　等	１５
	D-3 ： 名古屋議定書の締結と国内措置の実施	D-3-1：可能な限り早期に名古屋議定書を締結、遅くとも 2015 年までに遺伝資源の利用を監視するためのチェックポイントの設置・普及啓発等の実施による名古屋議定書の義務の着実な実施 D-3-2：地球環境ファシリティー（GEF）や名古屋議定書実施基金等を通じた議定書の締結を目指す途上国への支援の促進	１６
戦略目標Ｅ： 生物多様性国家戦略に基づく施策の着実な推進、その基礎となる科学的基盤の強化、生物多様性分野における能力構築の推進	E-1 ： 生物多様性国家戦略に基づく施策の推進　等	E-1-1：必要に応じ 2015 年から 2016 年にかけた生物多様性国家戦略の見直しの実施 E-1-2：地球環境ファシリティー（GEF）や生物多様性日本基金等を活用した世界全体での個別目標 17 の達成への貢献	１７
	E-2： 伝統的知識等の尊重、科学的基盤の強化、科学と政策の結びつきの強化、愛知目標の達成に向けた必要な資源（資金、人的資源、技術等）の効果的・効率的動員	E-2-1：伝統的生活文化の智恵や資源利用技術の再評価、継承・活用の促進 E-2-2：自然環境データの充実、継続的な更新・速報性の向上　等 E-2-3：海洋生物・生態系に関する科学的知見の充実 E-2-4：生物多様性に関する総合的な評価の実施、わが国の国別目標の中間評価 E-2-5：IPBES への積極的な参加・貢献、国内体制の整備 E-2-6：わが国における資源動員状況の把握及び生物多様性条約事務局への報告体制の整備	１８ １９ ２０

※国別目標の目標年は B-5,D-3,E-1 が 2015 年、それ以外の国別目標は 2020 年。主要行動目標の目標年は年が未記載の場合、国別目標の目標年に同じ。

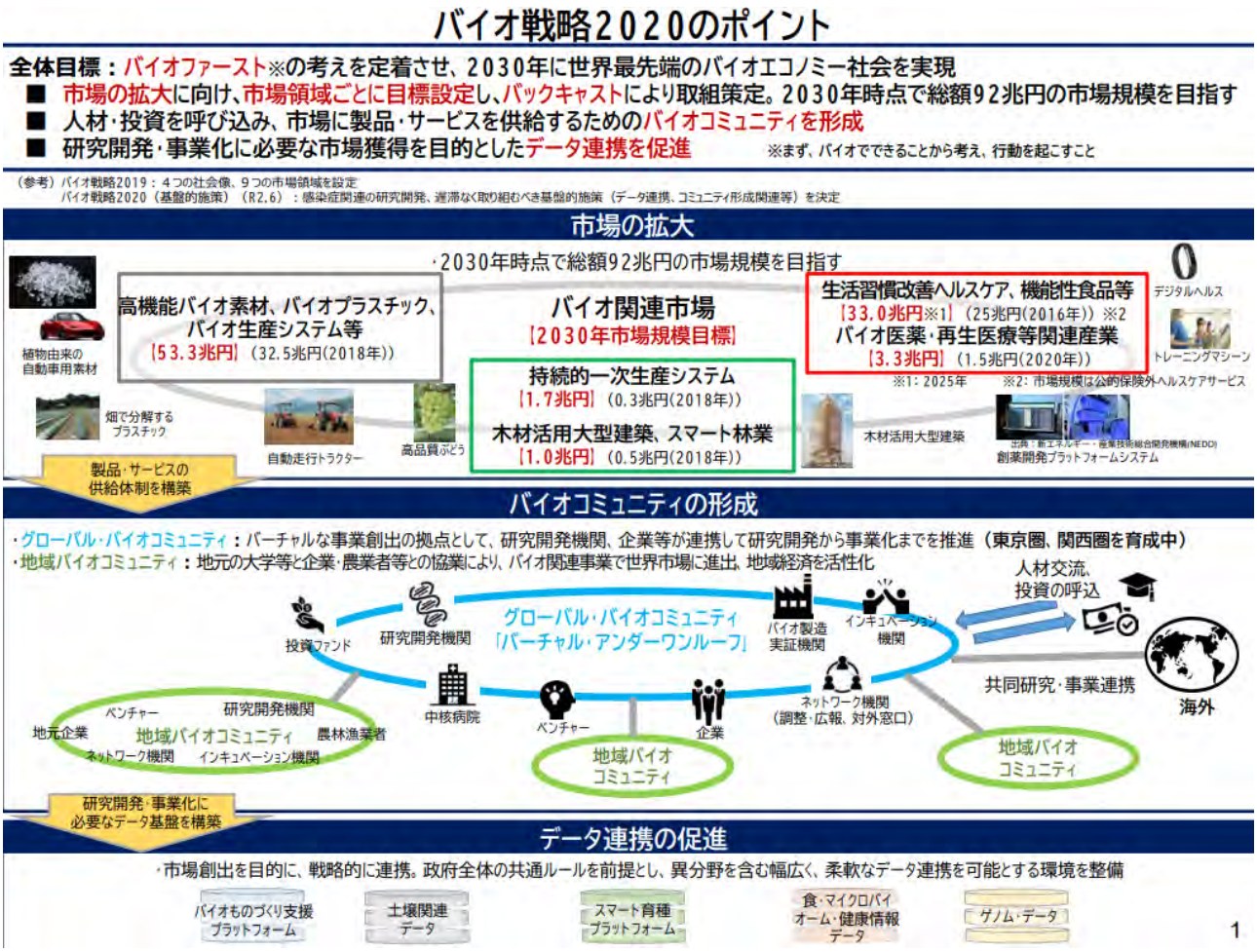
（参考）

愛知目標　(仮訳)

戦略目標Ａ．各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。	
目標１	遅くとも 2020 年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するために可能な行動を、人々が認識する。
目標２	遅くとも 2020 年までに、生物多様性の価値が、国と地方の開発・貧困解消のための戦略及び計画プロセスに統合され、適切な場合には国家勘定、また報告制度に組み込まれている。
目標３	遅くとも 2020 年までに、条約その他の国際的義務に整合し調和するかたちで、国内の社会経済状況を考慮しつつ、負の影響を最小化又は回避するために生物多様性に有害な奨励措置(補助金を含む)が廃止され、あるいは段階的に廃止され、又は改革され、また、生物多様性の保全及び持続可能な利用のための正の奨励措置が策定され、適用される。
目標４	遅くとも 2020 年までに、政府、ビジネス及びあらゆるレベルの関係者が、持続可能な生産及び消費のための計画を達成するための行動を行い、又はそのための計画を実施しており、また自然資源の利用の影響を生態学的限界の十分安全な範囲内に抑える。
戦略目標Ｂ．生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。	
目標５	2020 年までに、森林を含む自然生息地の損失の速度が少なくとも半減、また可能な場合には零に近づき、また、それらの生息地の劣化と分断が顕著に減少する。
目標６	2020 年までに、すべての魚類、無脊椎動物の資源と水生植物が持続的かつ法律に沿ってかつ生態系を基盤とするアプローチを適用して管理、収穫され、それによって過剰漁獲を避け、回復計画や対策が枯渇した種に対して実施され、絶滅危惧種や脆弱な生態系に対する漁業の深刻な影響をなくし、資源、種、生態系への漁業の影響を生態学的な安全の限界の範囲内に抑えられる。
目標７	2020 年までに、農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理される。
目標８	2020 年までに、過剰栄養などによる汚染が、生態系機能と生物多様性に有害とならない水準まで抑えられる。
目標９	2020 年までに、侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される、また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられる。
目標 10	2015 年までに、気候変動又は海洋酸性化により影響を受けるサンゴ礁その他の脆弱な生態系について、その生態系を悪化させる複合的な人為的圧力を最小化し、その健全性と機能を維持する。

戦略目標Ｃ．生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善する。	
目標 11	2020 年までに、少なくとも陸域及び内陸水域の 17%、また沿岸域及び海域の 10%、特に、生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域が、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連結された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全され、また、より広域の陸上景観又は海洋景観に統合される。
目標 12	2020 年までに、既知の絶滅危惧種の絶滅が防止され、また特に減少している種に対する保全状況の改善が達成、維持される。
目標 13	2020 年までに、社会経済的、文化的に貴重な種を含む作物、家畜及びその野生近縁種の遺伝子の多様性が維持され、その遺伝資源の流出を最小化し、遺伝子の多様性を保護するための戦略が策定され、実施される。
戦略目標Ｄ．生物多様性及び生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化する。	
目標 14	2020 年までに、生態系が水に関連するものを含む基本的なサービスを提供し、人の健康、生活、福利に貢献し、回復及び保全され、その際には女性、先住民、地域社会、貧困層及び弱者のニーズが考慮される。
目標 15	2020 年までに、劣化した生態系の少なくとも 15%以上の回復を含む生態系の保全と回復を通じ、生態系の回復力及び二酸化炭素の貯蔵に対する生物多様性の貢献が強化され、それが気候変動の緩和と適応及び砂漠化対処に貢献する。
目標 16	2015 年までに、遺伝資源へのアクセスとその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書が、国内法制度に従って施行され、運用される。
戦略目標Ｅ．参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化する。	
目標 17	2015 年までに、各締約国が、効果的で、参加型の改訂生物多様性国家戦略及び行動計画を策定し、政策手段として採用し、実施している。
目標 18	2020 年までに、生物多様性の保全と持続可能な利用に関連する先住民と地域社会の伝統的知識、工夫、慣行及び生物資源の慣習的な利用が、国内法と関連する国際的義務に従って尊重され、生物多様性条約の実施において、先住民と地域社会の完全かつ効果的な参加のもとに、あらゆるレベルで、完全に統合され、反映される。
目標 19	2020 年までに、生物多様性、その価値や機能、その現状や傾向、その損失の結果に関連する知識、科学的基礎及び技術が向上し、広く共有され、移転され、適用される。
目標 20	遅くとも 2020 年までに、2011 年から 2020 年までの戦略計画の効果的実施のための、全ての資金源からの、また資源動員戦略における統合、合意されたプロセスに基づく資金動員が、現在のレベルから顕著に増加すべきである。この目標は、締約国により策定、報告される資源のニーズアセスメントによって変更される可能性がある。

【資料3】



出展：内閣府統合イノベーション戦略推進会議決定
「バイオ戦略 2020（市場領域施策確定版）（令和３年１月）」

【資料4】

養成する人材像，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針相関表

【養成する人材像】 幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。				
日本大学教育憲章 （「自主創造」の３つの構成要素及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	豊かな教養と生命・食料・資源・環境に関する幅広い知識に基づく高い倫理観	〔DP1〕豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全・修復に貢献できる。	〔CP1〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識と高い倫理観を培い，健康で快適な生活や生態系の維持，自然環境の保全・修復に貢献できる能力を育成する。
世界の現状を理解し，説明する力	世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。	日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関する諸問題を理解し，説明する力	〔DP2〕日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。	〔CP2〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明できる能力を育成する。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。	情報処理力・論理的・批判的思考力	〔DP3〕広義の動物学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的に思考することができる。	〔CP3〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明できる能力を育成する。
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	〔DP4〕日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。	〔CP4〕講義科目の内容に対応する実験・実習・演習科目を一体化させた特徴的なカリキュラムによる体系的な学び「総合的フィールドサイエンス教育」を通じて，日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を自ら発見し，解決策を提案するための能力を育成する。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力・成し遂げ力，社会貢献	〔DP5〕動物学の学問領域および動物に関する科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などにより得られた研究成果を発信することができる。	〔CP5〕「総合的フィールドサイエンス教育」に立脚した動物学科教育の集大成である「動物学研究Ⅰ，Ⅱ」を通じて，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などの研究成果を社会に発信できる能力を育成する。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	〔DP6〕動物学に関する英語や日本語で書かれた文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。	〔CP6〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，学科専門教育科目（語学系・演習系科目）の体系的な学びを通じて，自己表現力とコミュニケーション能力を育成する。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。	協働・連携力,リーダーシップ	〔DP7〕動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。	〔CP7〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目（実験・実習・演習科目におけるグループワーク）を通じて，動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携・協働者の活躍を支援するための力を育成する。
省察力	謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	〔DP8〕地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，動物に関わるさまざまな活動に貢献することができる。	〔CP8〕全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，動物学科専門教育科目による広範かつ主体的な学びにより，幅広い視野と深い洞察力を培い，地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動の中での自己の立場や役割を認識し，自己を高めて動物学に関わるさまざまな活動に貢献するための能力を育成する。

【資料5】

動物学科　カリキュラムマップ

養成する人材像

幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。

教育研究上の目的

「生命史」，「生命科学」，「保全と環境」を主軸系統とし，それぞれの系統を相互に関連づけた総合的かつ特徴的なカリキュラム・学問体系を構築し，これらの教育・研究を通して，基礎的な動物の生活史の理解から，動物が関わる全ての環境問題，動物の能力を利用した多角的な応用技術を修得させることを教育目標とする。

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー:DP)

動物学科は，「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している多様な環境下の動物に関するヒトを含めたさまざまな問題を発見・解決し，科学・技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源としての動物に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。動物学科では，これらの基本理念と教育目標に基づき，「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ動物学科で展開する教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

具体的な到達目標

【自ら学ぶ】

〔DP1〕豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全・修復に貢献できる。

〔DP2〕日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

〔DP3〕広義の動物学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的な思考をすることができる。

〔DP4〕日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

〔DP5〕動物学の学問領域および動物に関する科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などにより得られた研究成果を発信することができる。

〔DP6〕動物学に関する英語や日本語の文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

〔DP7〕動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

〔DP8〕地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，動物に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	備考
				必修	選択	自由									
全学共通教育科目		自主創造の基礎	1前		2				○	○	○	○	○	○	
		日本を考える	1後		2		○	○	○	○		○	○	◎	
教養教育科目	言語系科目	英語ＩＡ	1前	1				○				○			
		英語ＩＢ	1後	1				○				○			
		英語ⅡＡ	1前	1				○				○			
		英語ⅡＢ	1後	1				○				○			
		英語ⅢＡ	2前	1				○				○			
		英語ⅢＢ	2後	1				○				○			
		英語ⅣＡ	2前	1				○				○			
		英語ⅣＢ	2後	1				○				○			
		初級ドイツ語文法Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級ドイツ語文法Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級ドイツ語講読Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級ドイツ語講読Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級ドイツ語会話Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級ドイツ語会話Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		中級ドイツ語講読Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		中級ドイツ語講読Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		検定ドイツ語Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		検定ドイツ語Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級フランス語文法Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級フランス語文法Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級フランス語会話Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級フランス語会話Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級スペイン語文法Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級スペイン語文法Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級スペイン語会話Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			

教養教育科目	言語系科目	初級スペイン語会話Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級中国語文法Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級中国語文法Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級中国語会話Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級中国語会話Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		中級中国語文法	1･2･3･4前		1			○				○			
		中級中国語会話	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級韓国語文法Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級韓国語文法Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		初級韓国語会話Ａ	1･2･3･4前		1			○				○			
		初級韓国語会話Ｂ	1･2･3･4後		1			○				○			
		日本語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○				○			
		日本語Ⅱ	1･2･3･4前		1			○				○			
	人文・社会系科目	日本語表現の基礎	1･2･3･4前・後		2		○					○			
		日本の文学	1･2･3･4前・後		2		○		○						
		哲学入門	1･2･3･4前		2		○	○							
		哲学の現在	1･2･3･4後		2		○	○	○						
		倫理学入門	1･2･3･4前		2		○	○							
		倫理学の現在	1･2･3･4後		2		○	○	○						
		心理学入門	1･2･3･4前		2		○								
		行動心理学	1･2･3･4後		2		○		○						
		個性の心理学	1･2･3･4後		2		○		○			○			
		文化人類学入門	1･2･3･4前		2		○	○	○			○			
		環境の文化人類学	1･2･3･4後		2		○		○						
		比較文化論	1･2･3･4前		2		○	○	○						
		比較芸術論	1･2･3･4後		2		○	○	○			○			
		法学入門	1･2･3･4前		2		○		○						
		日本国憲法	1･2･3･4後		2		○	○	○						
		社会学入門	1･2･3･4前		2		○		○						
		政治学入門	1･2･3･4前		2		○	○							
		政治と現代社会	1･2･3･4後		2		○		○			○			
		経済学入門	1･2･3･4前		2		○								
		経済と現代社会	1･2･3･4後		2		○	○	○	○		○			
		地理学入門	1･2･3･4前		2		○		○						
		歴史学入門	1･2･3･4前		2		○		○						
		社会学の現在	1･2･3･4後		2		○		○						
		現代社会と福祉	1･2･3･4前・後		2		○		○			○			
		世界の歴史	1･2･3･4後		2		○	○	○			○			
		日本の歴史	1･2･3･4後		2		○	○	○			○			
		地理学の現在	1･2･3･4後		2		○	○	○						
	自然系科目	物理学入門	1･2･3･4前		2		○		○						
		基礎力学	1･2･3･4後		2		○		○						
		基礎化学	1･2･3･4前・後		2		○								
		基礎生物学	1･2･3･4前	2			○								
		基礎地球科学	1･2･3･4前		2		○								
		統計学入門	1･2･3･4前・後		2		○		○						
		推計学入門	1･2･3･4後		2		○		○						
		解析学	1･2･3･4後		2		○		○						
		線形代数	1･2･3･4前		2		○								
		物理学演習	1･2･3･4後		1		○		○	○		○			
		総合生物学	1･2･3･4後		2		○		○						
		総合化学	1･2･3･4後		2		○		○						
		総合地球科学	1･2･3･4後		2		○		○						
	健康・スポーツ系科目	スポーツ実技Ⅰ	1前・後	1								○	○	○	
		スポーツ実技Ⅱ	1･2･3･4前・後		1							○	○	○	
		スポーツ実技Ⅲ	1･2･3･4前		1							○	○	○	
		スポーツ実技Ⅳ	1･2･3･4後		1							○	○	○	
		スポーツ科学	1･2･3･4前・後		2		○								

教養教育科目	総合系科目	データサイエンスの基礎	1･2･3･4前･後		2		○			○		○			
		情報科学	1･2･3･4前･後		2		○			○		○			
		科学史	1･2･3･4前		2		○		○						
		科学技術と社会	1･2･3･4後		2		○		○			○			
		地球環境を考える	1･2･3･4前･後		2		○	○	○						
		生命倫理	1･2･3･4前		2		○	○		○		○			
		ボランティア論	1･2･3･4前		1		○				○	○	○	○	
基礎専門科目		海外フィールド実習	1･2･3･4前･後		1			○	○	○	○	○	◎	○	
専門教育科目	基盤領域	最新の動物学	1前	2			◎	○	○						
		動物の多様性	1前	2			◎	○	○	○					
		動物細胞生物学	1前	2				◎	○	○	○				
		生化学	1後	2				◎	○	○	○				
		動物遺伝学	1後	2				◎	○	○	○				
		動物生理学	1後	2				◎	○	○	○				
		動物形態学	1後	2				◎	○	○	○				
		動物系統分類学	1後	2			◎	○	○	○					○
		動物学基礎実験Ⅰ	1後	1				○	○	○	◎		○		
		分子生物学	2前	2				◎	○	○	○				
		哺乳類・鳥類学	2前	2			◎	○	○						○
		昆虫体系学	2前	2			◎	○	○						○
		動物学基礎実験Ⅱ	2前	1				○	○	○	◎		○		
		両生類・爬虫類学	2後	2			◎	○	○						○
		基礎栄養学	2後	2				◎	○	○	○				
		動物組織学	2後	2				◎	○	○	○				
		動物科学論文講読	2後	1				○	○	○	○	◎			
		生物統計学	3前	2				○			◎				
		動物の福祉と倫理	3前	2			○	○	○	◎			○	○	
	応用領域 動物生命史系科目	動物行動学	2前		2			◎	○	○	○			○	
		動物生態学	2前		2			◎	○	○	○			○	
		フィールド生態調査法	2前		2			◎	○	○	○			○	
		動物自然史博物学	2後		2		○	○	○	○	○		◎	○	
		応用昆虫学	2後		2		◎	○	○					○	
		海岸生物学	2後		2		◎	○	○	○				○	
		フィールド調査実習	2後		1			◎	○	○	○			○	
		動物学史	3前		2		○	○	○	○	○		◎	○	
		古動物学	3前		2		○	◎		○		○			
		動物自然史博物学実習	3前		1		○	○		○	○	○	◎	○	
		動物地理学	3後		2		○	○	○	○	○		◎	○	
	応用領域 動物生命科学系科目	動物発生学	2前		2			◎	○	○	○				
		免疫生物学	2前		2			◎	○	○	○				
		微生物学	2前		2			◎	○	○	○				
		実験動物学	2後		2		○	◎	○	○	○	○	○		
		生殖生物学	2後		2			◎	○	○	○				
		応用免疫学	2後		2			◎	○	○	○			○	
		動物学応用実験	2後		1			○	○	○	◎		○		
		神経生物学	3前		2			◎	○	○	○				
		生物情報学	3前		2			○			◎				
		再生生物学	3前		2			◎	○	○	○			○	
		時間生物学	3後		2			◎	○	○	○				
		動物バイオテクノロジー	3後		2			○			○			◎	

専門教育科目	応用領域	動物の保全と環境系科目	環境科学	2前		2		○	○	○	○			○	◎	
			外来動物管理学	2前		2		○	○	○	○			○	◎	
			野生動物管理学	2後		2		○	○	○	○			○	◎	
			保全生物学	2後		2		○	○	○	○			○	◎	
			動物園飼育管理学	3前		2		○	○		○			○	◎	
			動物と社会	3前		2		○	◎	○	○			○	○	
			都市動物学	3前		2		○	◎	○	○			○	○	
			動物心理学	3前		2			○	○	◎			○	○	
			保全生物学実習	3前		1		○	○	○	○	◎		○	○	
			動物の採餌と飼料	3後		2		○	○		○			○	◎	
			野生動物と飼育動物の感染症学	3後		2		○	○	○	◎			○	○	
	展開領域		動物学特別講義	3前		1		○	○	○	◎			○		
			動物学演習	3後	1			○	○	◎	○	○	○	○		
			動物学研究Ⅰ	4前	3			○	○	◎	◎	○	◎	○	○	
			動物学研究Ⅱ	4後	3			○	○	◎	◎	○	◎	○	○	
	広域基礎科目		生物資源科学概論	1前		2		○	○							
			生物学概論Ⅰ	1前		2		○	○							
			生物学概論Ⅱ	1後		2		○	○							
			物理学概論Ⅰ	2前		2		○	○							
			物理学概論Ⅱ	2後		2		○	○							
			化学概論Ⅰ	2前		2		○	○							
			化学概論Ⅱ	2後		2		○	○							
			生物学実験	2後		2		○	○							
			化学実験	3後		2		○	○							
			物理学実験	4前		2		○	○							
			地学概論Ⅰ	4前		2		○	○							
			地学概論Ⅱ	4後		2		○	○							
			地学実験	4後		2		○	○							

◎：DPに関する能力形成に特に関与　○：DPに関する能力形成に関与

【資料6-1】

動物学科　動物生命史系履修モデル

科目区分				1年次	2年次	3年次	4年次	単位数
全学共通教育科目				自主創造の基礎（２） 日本を考える（２）				4
教養教育科目	言語系科目		必修	英語ⅠA（１） 英語ⅠB（１） 英語ⅡA（１） 英語ⅡB（１）	英語ⅢA（１） 英語ⅢB（１） 英語ⅣA（１） 英語ⅣB（１）			8
			選択					
	人文・社会系科目		選択	行動心理学（２）				2
	自然系科目		必修	基礎生物学（２）				2
			選択	基礎化学（２） 基礎地球科学（２）	統計学入門（２）			6
	健康・スポーツ系科目		必修	スポーツ実技Ⅰ（１）				1
			選択	スポーツ実技Ⅱ（１）				1
	総合系科目		選択	データサイエンスの基礎（２） 科学史（２） 生命倫理（２）				6
基礎専門科目			選択	海外フィールド実習（１）				1
専門教育科目	基盤領域		必修	最新の動物学（２） 動物の多様性（２） 動物細胞生物学（２） 生化学（２） 動物遺伝学（２） 動物生理学（２） 動物形態学（２） 動物系統分類学（２） 動物学基礎実験Ⅰ（１）	分子生物学（２） 哺乳類・鳥類学（２） 昆虫体系学（２） 動物学基礎実験Ⅱ（１） 両生類・爬虫類学（２） 基礎栄養学（２） 動物組織学（２） 動物科学論文購読（１）	生物統計学（２） 動物の福祉と倫理（２）		35
	応用領域	動物生命史系科目	選択		動物行動学（２） 動物生態学（２） フィールド生態調査法（２） 動物自然史博物学（２） 応用昆虫学（２） 海岸生物学（２） フィールド調査実習（１）	動物学史（２） 古動物学（２） 動物自然史博物学実習（１） 動物地理学（２）		20
		動物生命科学系科目	選択		動物発生学（２） 免疫生物学（２） 実験動物学（２）	神経生物学（２） 生物情報学（２） 時間生物学（２） 動物バイオテクノロジー（２）		14
		動物の保全と環境系科目	選択		環境科学（２） 野生動物管理学（２） 保全生物学（２）	動物園飼育管理学（２） 動物と社会（２） 都市動物学（２） 動物心理学（２） 動物の採餌と飼料（２）		16
	展開領域		選択			動物学特別講義（１）		1
			必修			動物学演習（１）	動物学研究Ⅰ（３） 動物学研究Ⅱ（３）	7
	広域基礎科目		選択					
単位数				42	45	31	6	124

（　）は単位数

【資料6-2】

動物学科　動物生命科学系履修モデル

科目区分				1年次	2年次	3年次	4年次	単位数
全学共通教育科目				自主創造の基礎（２） 日本を考える（２）				4
教養教育科目	言語系科目		必修	英語ⅠA（１） 英語ⅠB（１） 英語ⅡA（１） 英語ⅡB（１）	英語ⅢA（１） 英語ⅢB（１） 英語ⅣA（１） 英語ⅣB（１）			8
			選択					
	人文・社会系科目		選択	行動心理学（２）				2
	自然系科目		必修	基礎生物学（２）				2
			選択	基礎化学（２） 基礎地球科学（２）	統計学入門（２）			6
	健康・スポーツ系科目		必修	スポーツ実技Ⅰ（１）				1
			選択	スポーツ実技Ⅱ（１）				1
	総合系科目		選択	データサイエンスの基礎（２） 科学史（２） 生命倫理（２）				6
基礎専門科目			選択	海外フィールド実習（１）				1
専門教育科目	基盤領域		必修	最新の動物学（２） 動物の多様性（２） 動物細胞生物学（２） 生化学（２） 動物遺伝学（２） 動物生理学（２） 動物形態学（２） 動物系統分類学（２） 動物学基礎実験Ⅰ（１）	分子生物学（２） 哺乳類・鳥類学（２） 昆虫体系学（２） 動物学基礎実験Ⅱ（１） 両生類・爬虫類学（２） 基礎栄養学（２） 動物組織学（２） 動物科学論文購読（１）	生物統計学（２） 動物の福祉と倫理（２）		35
	応用領域	動物生命史系科目	選択		動物行動学（２） 動物生態学（２） 動物自然史博物学（２） 海岸生物学（２）	動物学史（２） 古動物学（２） 動物地理学（２）		14
		動物生命科学系科目	選択		動物発生学（２） 免疫生物学（２） 微生物学（２） 実験動物学（２） 生殖生物学（２） 応用免疫学（２） 動物学応用実験（１）	神経生物学（２） 生物情報学（２） 再生生物学（２） 時間生物学（２） 動物バイオテクノロジー（２）		23
		動物の保全と環境系科目	選択		環境科学（２） 保全生物学（２）	動物園飼育管理学（２） 動物心理学（２） 保全生物学実習（１） 動物の採餌と飼料（２） 野生動物と飼育動物の感染症学（２）		13
	展開領域		選択			動物学特別講義（１）		1
			必修			動物学演習（１）	動物学研究Ⅰ（３） 動物学研究Ⅱ（３）	7
	広域基礎科目		選択					
単位数				42	45	31	6	124

（　）は単位数

【資料6-3】

動物学科　動物の保全と環境系履修モデル

科目区分				1年次	2年次	3年次	4年次	単位数
全学共通教育科目				自主創造の基礎（２） 日本を考える（２）				4
教養教育科目	言語系科目		必修	英語ⅠA（１） 英語ⅠB（１） 英語ⅡA（１） 英語ⅡB（１）	英語ⅢA（１） 英語ⅢB（１） 英語ⅣA（１） 英語ⅣB（１）			8
			選択					
	人文・社会系科目		選択	行動心理学（２）				2
	自然系科目		必修	基礎生物学（２）				2
			選択	基礎化学（２） 基礎地球科学（２）	統計学入門（２）			6
	健康・スポーツ系科目		必修	スポーツ実技Ⅰ（１）				1
			選択	スポーツ実技Ⅱ（１）				1
	総合系科目		選択	データサイエンスの基礎（２） 科学史（２） 生命倫理（２）				6
基礎専門科目			選択	海外フィールド実習（１）				1
専門教育科目	基盤領域		必修	最新の動物学（２） 動物の多様性（２） 動物細胞生物学（２） 生化学（２） 動物遺伝学（２） 動物生理学（２） 動物形態学（２） 動物系統分類学（２） 動物学基礎実験Ⅰ（１）	分子生物学（２） 哺乳類・鳥類学（２） 昆虫体系学（２） 動物学基礎実験Ⅱ（１） 両生類・爬虫類学（２） 基礎栄養学（２） 動物組織学（２） 動物科学論文購読（１）	生物統計学（２） 動物の福祉と倫理（２）		35
	応用領域	動物生命史系科目	選択		動物行動学（２） 動物生態学（２） フィールド生態調査法（２） 動物自然史博物学（２） 海岸生物学（２） フィールド調査実習（１）	動物学史（２） 古動物学（２） 動物地理学（２）		17
		動物生命科学系科目	選択		微生物学（２） 実験動物学（２） 生殖生物学（２）	生物情報学（２） 時間生物学（２） 動物バイオテクノロジー（２）		12
		動物の保全と環境系科目	選択		環境科学（２） 外来動物管理学（２） 野生動物管理学（２） 保全生物学（２）	動物園飼育管理学（２） 動物と社会（２） 都市動物学（２） 動物心理学（２） 保全生物学実習（１） 動物の採餌と飼料（２） 野生動物と飼育動物の感染症学（２）		21
	展開領域		選択			動物学特別講義（１）		1
			必修			動物学演習（１）	動物学研究Ⅰ（３） 動物学研究Ⅱ（３）	7
	広域基礎科目		選択					
単位数				42	45	31	6	124

（　）は単位数

【資料7】

実習の具体的計画　資料１

【実習の具体的計画】

＜実習先の確保の状況＞

実習先は生物資源科学部のキャンパスが設置されている神奈川県及び近隣県となっている。

実習校

中学校及び高等学校（生物資源科学部）

教育実習	体験活動		
		学級数の合計	中学校 192 学級、高等学校 491 学級
○	×	学校名	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校（神奈川県茅ケ崎市下寺尾 128） 学級数：21 学級　生徒数：829 人
		教員数	58 人　（内訳）教諭５０人、講師６人、養護教諭２人
○	×	学校名	鵠沼高等学校（神奈川県藤沢市鵠沼藤が谷 4-9-10） 学級数：23 学級　生徒数：791 人
		教員数	74 人　（内訳）教諭３２人、講師４０人、養護教諭１人、養護助教諭１人
○	×	学校名	東京都立農業高等学校（東京都府中市寿町 1-10－2） 学級数：23 学級　生徒数：607 人
		教員数	88 人　（内訳）教諭６２人、講師２４人、養護教諭２人
○	×	学校名	静岡県立焼津水産高等学校（静岡県焼津市焼津 5-5-2） 学級数：15 学級　生徒数：504 人
		教員数	61 人　（内訳）教諭５０人、講師１０人、養護教諭１人
○	×	学校名	日本大学鶴ヶ丘高等学校（東京都杉並区和泉 2-26-12） 学級数：36 学級　生徒数：1321 人
		教員数	59 人　（内訳）教諭５４人、講師４人、養護教諭１人
○	×	学校名	日本大学藤沢高等学校（神奈川県藤沢市亀井野 1866） 学級数：41 学級　生徒数：1733 人
		教員数	113 人　（内訳）教諭５３人、講師５８人、養護教諭２人
○	×	学校名	日本大学高等学校（神奈川県横浜市港北区箕輪町 2-9-1） 学級数：39 学級　生徒数：1543 人
		教員数	111 人　（内訳）教諭５３人、講師５７人、養護教諭１人
○	×	学校名	日本大学豊山高等学校（東京都文京区大塚 5-40-10） 学級数：37 学級　生徒数：1547 人
		教員数	52 人　（内訳）教諭４８人、講師４人
○	×	学校名	日本大学豊山女子高等学校（東京都板橋区中台 3-15-1） 学級数：25 学級　生徒数：828 人
		教員数	77 人　（内訳）教諭３６人、講師４１人
○	×	学校名	日本大学三島高等学校（静岡県三島市文教町 2-31-145） 学級数：56 学級　生徒数：1854 人
		教員数	149 人　（内訳）教諭６９人、講師７９人、養護教諭１人
○	×	学校名	日本大学明誠高等学校（山梨県上野原市上野原 3200） 学級数：28 学級　生徒数：1088 人
		教員数	72 人　（内訳）教諭３５人、講師３６人、養護教諭１人

○	×	学校名	日本大学第一高等学校（東京都墨田区横網 1-5-2） 学級数：26 学級　生徒数：1044 人
		教員数	61 人　（内訳）教諭 41 人、 講師 20 人
○	×	学校名	千葉日本大学第一高等学校（千葉県船橋市習志野台 8-34-1） 学級数：27 学級　生徒数：1045 人
		教員数	69 人　（内訳）教諭 41 人、 講師 27 人、 養護教諭 1 人
○	×	学校名	日本大学第二高等学校（東京都杉並区天沼 1-45-33） 学級数：33 学級　生徒数：1257 人
		教員数	89 人　（内訳）教諭 56 人、 講師 32 人、養護教諭 1 人
○	×	学校名	日本大学第三高等学校（東京都町田市図師町 11-2375） 学級数：32 学級　生徒数：1120 人
		教員数	77 人　（内訳）教諭 44 人、 講師 33 人
○	×	学校名	目黒日本大学高等学校（東京都目黒区目黒 1-6-15） 学級数：29 学級　生徒数：990 人
		教員数	62 人　（内訳）教諭 35 人、 講師 26 人、 養護助教諭 1 人
○	×	学校名	日本大学藤沢中学校（神奈川県藤沢市亀井野 1866） 学級数：9 学級　生徒数：363 人
		教員数	18 人　（内訳）教諭 15 人、 講師 3 人
○	×	学校名	日本大学中学校（神奈川県横浜市港北区箕輪町 2-9-1） 学級数：16 学級　生徒数：650 人
		教員数	44 人　（内訳）教諭 24 人、 講師 20 人
○	×	学校名	日本大学豊山中学校（東京都文京区大塚 5-40-10） 学級数：18 学級　生徒数：728 人
		教員数	31 人　（内訳）教諭 28 人、 講師 3 人
○	×	学校名	日本大学豊山女子中学校（東京都板橋区中台 3-15-1） 学級数：11 学級　生徒数：391 人
		教員数	28 人　（内訳）教諭 17 人、 講師 11 人
○	×	学校名	日本大学三島中学校（静岡県三島市文教町 2-31-145） 学級数：6 学級　生徒数：156 人
		教員数	36 人　（内訳）教諭 15 人、 講師 20 人、 養護教諭 1 人
○	×	学校名	日本大学第一中学校（東京都墨田区横網 1-5-2） 学級数：15 学級　生徒数：640 人
		教員数	28 人　（内訳）教諭 20 人、 講師 8 人
○	×	学校名	千葉日本大学第一中学校（千葉県船橋市習志野台 8-34-1） 学級数：19 学級　生徒数：735 人
		教員数	53 人　（内訳）教諭 29 人、 講師 24 人
○	×	学校名	日本大学第二中学校（東京都杉並区天沼 1-45-33） 学級数：18 学級　生徒数：716 人
		教員数	45 人　（内訳）教諭 29 人、 講師 15 人、 養護教諭 1 人
○	×	学校名	日本大学第三中学校（東京都町田市図師町 11-2375） 学級数：21 学級　生徒数：837 人
		教員数	53 人　（内訳）教諭 32 人、 講師 20 人、 養護教諭 1 人
○	×	学校名	目黒日本大学中学校（東京都目黒区目黒 1-6-15） 学級数：9 学級　生徒数：261 人
		教員数	16 人　（内訳）教諭 14 人、 講師 2 人
○	×	学校名	藤嶺学園藤沢中学校（神奈川県藤沢市西富 1-7-1） 学級数：11 学級　生徒数：314 人
		教員数	26 人　（内訳）教諭 18 人、 講師 7 人、養護教諭 1 人
○	×	学校名	寒川町立旭が丘中学校（神奈川県高座郡寒川町小動 933） 学級数：15 学級　生徒数：600 人
		教員数	30 人　（内訳）教諭 28 人、 講師 1 人、養護教諭 1 人

○	×	学校名	寒川町立寒川東中学校（神奈川県高座郡寒川町岡田 718） 学級数：13 学級　生徒数：379 人
		教員数	26 人　（内訳）教諭25人、 養護教諭1人
○	×	学校名	寒川町立寒川中学校（神奈川県高座郡寒川町一之宮 3-9-1） 学級数：11 学級　生徒数：284 人
		教員数	21 人　（内訳）教諭19人、 講師1人、養護教諭1人

【資料8】

日 本 大 学 教 職 員 就 業 規 則

昭和49年11月25日制定　平成９年７月４日改正　平成22年３月５日改正
昭和51年５月14日改正　平成９年４月１日施行　平成22年４月１日施行
昭和52年11月４日改正　平成10年３月６日改正　平成22年７月２日改正
昭和54年７月６日改正　平成10年４月１日施行　平成22年６月30日施行
昭和54年４月１日施行　平成10年５月１日改正　平成23年３月18日改正
昭和58年５月20日改正　平成10年４月１日施行　平成23年４月１日施行
昭和58年４月１日施行　平成11年３月５日改正　平成24年５月11日改正
昭和61年６月６日改正　平成11年４月１日施行　平成24年４月１日施行
昭和61年４月１日施行　平成12年４月14日改正　平成25年３月８日改正
昭和61年９月19日改正　平成12年４月１日施行　平成25年４月１日施行
昭和62年２月６日改正　平成12年10月６日改正　平成26年３月７日改正
昭和63年３月18日改正　平成12年９月１日施行　平成26年４月１日施行
昭和63年４月１日施行　平成13年３月２日改正　平成27年２月６日改正
昭和63年７月１日改正　平成13年４月１日施行　平成27年４月１日施行
昭和63年４月１日施行　平成13年４月13日改正　平成28年２月５日改正
平成元年４月７日改正　平成13年４月１日施行　平成28年４月１日施行
平成元年４月１日施行　平成15年３月７日改正　平成29年７月７日改正
平成元年７月７日改正　平成15年４月１日施行　平成29年７月１日施行
平成元年４月１日施行　平成15年７月４日改正　平成30年３月30日改正
平成４年５月８日改正　平成15年４月１日施行　平成30年４月１日施行
平成４年４月１日施行　平成17年４月１日改正　平成31年３月１日改正
平成６年５月６日改正　平成19年６月１日改正　平成31年４月１日施行
平成６年４月１日施行　平成19年４月１日施行　令和２年５月８日改正
平成７年４月14日改正　平成21年４月３日改正　令和２年６月１日施行
平成７年４月１日施行　平成21年４月１日施行　令和２年12月４日改正
平成８年４月５日改正　平成22年２月５日改正　令和３年１月１日施行
平成８年４月１日施行　平成22年４月１日施行

第１章　総　　則

（目　的）

第１条　この規則は，学校法人日本大学（以下「大学」という）の目的及び使命を達成するため，教職員の就業に関しその規律及び条件について基本的事項を定めたものである。

２　教職員の服務については，関係法令その他別に定めある場合のほかこの規則の定めるところによる。

（大学の基本態度と教職員の責務）

第２条　大学は，教職員が健康で文化的な生活を営むことができるように，その就業条件の改善と福利厚生の向上を図るものとする。

２　教職員は，建学の精神を体し，一致協力して大学の興隆発展に寄与しなければならない。

（教職員の定義）

第３条　この規則にいう教職員とは，第２章に定める手続により採用され，　　に勤務する者をいう。

（遵守事項）

第４条　教職員は，服務に関し次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

①　互いに協調して職場の秩序を維持し，諸規則を守って誠実に職務を遂行すること。

②　職制によって定められた上長者の指示命令に従い，上長者は，常に所属教職員の人格を尊重するとともに，自ら率先垂範して指導監督の責務を遂行すること。

③　職務上知り得た情報を漏らし，又は許可なく他に閲覧複写させないこと。また，大学が保有す

る情報に不正にアクセスしないこと。

④　許可を得ないで，公職若しくは他の職務に就き，又は大学外の業務に従事し，若しくは事業を営まないこと。

⑤　職務上の地位を利用し，私的利益を図らないこと。

⑥　セクシュアル・ハラスメント，マタニティ・ハラスメント及びパワー・ハラスメント等個人の尊厳を不当に傷つけ，又は就学・就業環境を悪化させるような相手方の意に反した言動を行わないこと。

⑦　その他大学の指示に反する行為をしないこと。

第２章　人　　事

第１節　採用及び異動

（通　則）

第５条　教職員の採用は，別に定めある場合のほかこの節の定めるところによる。

（就職希望者の提出書類）

第６条　教職員として就職を希望する者は，次の書類を提出しなければならない。

①　自筆の履歴書及び３か月以内撮影の名刺型写真

②　最終出身学校の卒業証明書及び成績証明書

③　住民票記載事項証明書及び身分証明書

④　大学付属病院又は大学が指定する病院の健康診断書

⑤　免許証等を要する職務についてはその写し

⑥　その他大学が必要と認める書類

（採　用）

第７条　教職員の採用は，学識，経験，技能，健康，人物等について審査選考の上，決定する。

（採用時の提出書類）

第８条　前条により採用された者は，速やかに次の書類を提出しなければならない。

①　誓　約　書

②　その他大学が必要と認める書類

（試用期間）

第９条　新たに採用される職員の試用期間は，６か月とする。ただし，大学が相当と認めた者については，試用期間を短縮し，又は免除することができる。

２　試用期間中に職員としての適格性を欠くと認めた場合又は不正の方法で試用された場合には，本採用しない。

３　試用期間は，勤続年数に算入する。

（異動及び職種変更）

第10条　大学は，業務上の必要により教職員に対し，所属の異動又は職種の変更を命ずることができる。この場合，教職員の能力，経験，健康などを考慮して，公正に行うものとする。

２　教職員は，正当な理由がない限り，前項の命令を拒むことができない。

（出　向）

第11条　大学は，業務上の必要により教職員に対し，大学外に出向を命ずることができる。

２　教職員は，正当な理由がない限り，前項の命令を拒むことができない。

３　出向の取扱いについては，別に定める。

（着　任）
第12条　第10条により異動する場合には，発令の日から10日以内に新任地に着任しなければならない。
２　前項の期間内に着任することができないときには，あらかじめ新任地の所属長の許可を得なければならない。
（事務引継）
第13条　第10条及び第11条の場合には，遅滞なく一切の事務を処理し，文書をもって後任者に引き継がなければならない。

第２節　休職及び復職

（休職事由）
第14条　教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，休職を命ずる。
①　私傷病のため引き続き欠勤して次の期間を経過したとき。
(1)　在職５年未満の者　　６か月
(2)　在職５年以上10年未満の者　　９か月
(3)　在職10年以上の者　　１か年
②　私傷病以外の事由で大学が許可した欠勤が引き続き１か月に及んだとき。
③　本人の願い出により大学が認めたとき。
④　刑事事件により起訴されたとき。
⑤　職制の改廃又は定員の改定その他やむを得ない大学の事情によるとき。
（休職期間）
第15条　休職期間は，前条に定める休職の事由により次のとおり定める。
①　休職が前条第１号による場合
(1)　在職５年未満の者　　５か月
(2)　在職５年以上の者　　在職年数１年につき１か月とし，24か月を限度とする。
ただし，結核性疾病のときには，休職期間が１年に満たない者についても１年とする。
②　休職が前条第２号による場合　　１か月
③　休職が前条第３号による場合　　依願休職中の期間
④　休職が前条第４号による場合　　一審判決言渡しまでの期間
⑤　休職が前条第５号による場合　　１か年
（休職中の身分）
第16条　休職中の者は，教職員としての身分を保有する。ただし，職務に従事することはできない。
（復　職）
第17条　大学は，休職事由が消滅したと判断した場合には，復職を命ずることができる。
（復職判定）
第18条　第14条第１号により休職を命ぜられた者が，休職期間中に復職を希望する場合，大学は復職の可否を判定するために，産業医の意見を聴いて次の各号の措置を講ずることができる。ただし，当該措置については，本人の承諾を得なければならない。
①　大学が指定する医師の診断
②　１か月を超えない観察出勤
２　前項第２号の観察出勤期間は，休職期間に算入しない。
（人事・給与委員会の意見聴取）

第19条　第14条第４号又は第５号により休職を命ずる場合には，大学の人事・給与委員会の意見を聴かなければならない。

（勤務年数の計算）

第20条　休職中の期間は，勤続年数に算入しない。ただし，第14条第５号による場合は，この限りでない。

第３節　解職及び退職

（解職事由等）

第21条　大学は，教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，解職することができる。

①　教職員としての能力を欠き，職務に適しないと認められたとき。

②　疾病又は身体障害のため勤務に堪えないと認められたとき。

③　公傷病で療養中の者が打切り補償を受けたとき。

④　無断欠勤が１か月に及んだとき。

⑤　試用期間中の職員が，職員としての適格性を欠くと認められたとき。

⑥　その他やむを得ない大学の事情があるとき。

２　前項の規定によって解職するときは，少なくとも30日前に予告するか，又は30日分の平均賃金を支給する。ただし，天災事変その他やむを得ない事由によって事業の継続が不可能となった場合又は教職員の責に帰すべき事由による場合であって，あらかじめ行政官庁の認定を受けたときは，この限りでない。

３　前項の予告日数の一部について平均賃金を支払った場合には，その日数だけ予告日数を短縮する。

（人事・給与委員会の意見聴取）

第22条　前条の解職をする場合には，大学の人事・給与委員会の意見を聴かなければならない。

（解職時期の制限）

第23条　教職員が業務上負傷し，又は疾病にかかり療養のために休業する期間及びその後30日間並びに産前産後の休暇期間及びその後30日間は，第21条の規定にかかわらず解職しない。ただし，打切り補償を支払う場合又は天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合においては，この限りでない。

（退　職）

第24条　教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，退職とする。

①　死亡したとき。

②　定年に達したとき。

③　休職期間が満了しても復職を命ぜられないとき。

④　期間を定めて雇い入れた者の契約期間が満了したとき。

⑤　退職を願い出て大学が承認したとき。

⑥　退職を願い出て大学が正当な理由なく承認しないときは，願い出後２週間を経過したとき。

２　教員規程第２条第１項に定める教授の職にある者の，前項第２号による退職後の再雇用については，別に定める。

（退職の申出）

第25条　教職員が自己の都合により退職する場合は，できる限り業務の妨げにならない時期を選び，退職を希望する日の１か月前までに大学に申し出るものとする。

（有給公務員就任）

第26条　教職員が国会議員，地方公共団体の議員，都道府県知事，市区町村長その他常勤の有給公務員に就任したときは，就任の日をもって依願退職したものとみなす。

（退職・解職に伴う遵守事項）

第27条　教職員が退職し，又は解職された場合は，次の事項を守らなければならない。

①　所属長の指示に従い，後任者に事務の全てを引き継ぐこと。

②　大学から貸与を受けた金品を速やかに返却すること。

③　大学の身分証明書，私立学校教職員共済加入者証その他求められた書類を返却すること。

④　大学の施設に居住しているときは，退職又は解職の日から３か月以内に明け渡すこと。

⑤　職務上知り得た情報については，退職又は解職後において漏らしてはならないこと。また，大学が保有する情報に不正にアクセスしないこと。

⑥　その他大学の指示に従うこと。

第４節　定　　年

（定　年）

第28条　教職員は，満65歳に達した日をもって定年とする。

２　前項の規定にかかわらず，教員規程第２条第１項に定める教授，准教授及び講師の職にある者については，満65歳に達した日の属する年度の末日をもって定年とする。

（定年の延長）

第29条　定年は，教員に限り次の各号に掲げる場合，理事会の議を経て，延長することができる。

①　学長及び学部長が任期の中途において定年に達したとき，その任期の終了まで。

②　付属高等学校及び小学校の校長が年度の中途において定年に達したとき，その年度の末日まで。

③　その他特別の事由により必要と認めたとき。

２　前項第１号及び第２号による定年の延長は，満70歳を超えてはならない。

３　第１項の規定にかかわらず，同項第３号による定年の延長は，日本大学学則第４条第１項に定める教授の職にある者に限るものとし，その延長の限度は，次の各号のとおりとする。

①　平成24年３月31日までに定年に達する者は，満70歳を超えてはならない。

②　平成24年４月１日から平成28年３月31日までに定年に達する者は，平成29年３月31日を超えてはならない。

第３章　勤　　務

第１節　始業・終業時刻及び休憩時間

（始業・終業時刻及び休憩時間）

第30条　始業・終業時刻及び休憩時間は，次のとおりとする。

①　昼間勤務

始　業　　時　　分

終　業　　時　　分（土曜日は　　時　　分）

休　憩　　時　　分から　　時　　分まで（土曜日は　　時　　分から　　時　　分まで）

②　夜間勤務

始　業　　時　　分

終　業　　時　　分（土曜日は　　時　　分）

休　憩　　時　　分から　　時　　分まで（土曜日は　　時　　分から　　時　　分まで）

２　大学が業務の都合その他必要があると認める場合には，前項の定めにかかわらず，特別の定めを

して教職員の全部又は一部について，始業及び終業時刻の変更又は休憩時間の変更を行うことができる。

3　前２項の規定にかかわらず，教職員の全部又は一部について，１年を平均して１週間の所定労働時間が第１項に定める時間を超えない範囲で，毎年４月１日を起算日とする１年単位の変形労働時間制によるものとすることができる。この場合は事前に勤務割表を各人に明示する。

4　前項の場合における各日の勤務時間，始業及び終業時刻並びに休憩時間については，別に定める。

（出退勤の記録）

第31条　教職員は，出勤及び退勤の際に，所定の方法により出退勤の時刻を自ら記録しなければならない。

第２節　遅刻・早退・外出及び欠勤

（遅　刻）

第32条　第30条に定める始業時刻に遅れた場合は，遅刻とする。

2　遅刻する場合は，あらかじめその事由及び時間を申し出て所属長の許可を得なければならない。ただし，あらかじめ申し出ができないやむを得ない事由があったときは，事後速やかにその承認を得なければならない。

（早　退）

第33条　第30条に定める終業時刻より早く退勤する場合は，早退とする。

2　早退する場合は，あらかじめその事由を申し出て所属長の許可を得なければならない。

（外　出）

第34条　勤務時間中にやむを得ない事由により外出する場合は，あらかじめその事由を申し出て所属長の許可を得なければならない。ただし，休憩時間中はこの限りでない。

（欠　勤）

第35条　教職員が私傷病その他やむを得ない事由により欠勤しようとする場合は，あらかじめその事由及び予定日数を申し出て所属長の許可を得なければならない。ただし，その余裕がないときは，事後速やかにその承認を得なければならない。

2　私傷病による欠勤が引き続き７日以上に及ぶときは，前項の申出書に療養欠勤日数を予定した医師の診断書を添付しなければならない。予定日数経過後引き続き欠勤するときも同様とする。

3　前項の欠勤者につき必要があると認めたときは，大学の指定した医師の診断を受けさせることがある。

（長期病欠）

第36条　私傷病による欠勤が引き続き１か月以上に及んだ者は，長期病欠者とする。

2　長期病欠者が勤務を再開し，その日数が180日を超えずに同一又は類似の傷病のため再度欠勤した場合は，前後の欠勤は連続したものとみなす。

第３節　休日及び休暇

（休　日）

第37条　休日は，次のとおりとする。

①　日　曜　日

②　国民の祝日に関する法律で休日とされる日

③　創立記念日（10月４日）

④　年末及び年始（12月29日から翌年１月７日まで）

２　業務上必要あるときは，前項の休日を臨時に変更することができる。
３　１年単位の変形労働時間制によって勤務する教職員に対しては，前２項で定めた休日によらず，勤務割表によって休日を与える。
（休日の振替）
第38条　教職員が前条第１項に規定する休日に勤務を必要とする場合は，所属長は，当該休日を他の勤務日に振り替えることができる。
２　前項の場合，所属長は，事前に振替による休日を指定しなければならない。
（年次有給休暇）
第39条　大学は，前年度所定勤務日数の８割以上出勤した教職員に対し，20日の年次有給休暇を与える。ただし，新たに採用された者については，６か月勤務した時点で10日を与える。
２　年次有給休暇は１日，半日又は時間の単位で取得することができる。ただし，半日又は時間を単位として取得する年次有給休暇の運用等については，別に定める。
３　年次有給休暇を取得するときは，できる限り早期に所属長に申し出なければならない。ただし，業務の正常な運営に支障があるときは，所属長は当該申出による休暇日を他の日に変更することができる。
４　年次有給休暇が10日以上与えられた教職員に対しては，付与日から１年以内に，当該教職員の有する年次有給休暇のうち５日について，所属長が教職員の意見を聴取し，あらかじめ時季を指定して取得させるものとする。ただし，第２項及び次項による年次有給休暇を取得した場合においては，当該取得した日数分を５日から控除するものとする。
５　労働者代表との書面による協定により，各教職員の有する年次有給休暇日数のうち５日を超える部分について，あらかじめ時季を指定して計画的に取得させることができる。ただし，時間を単位とする年次有給休暇を充てることはできない。
６　前項による場合，取得させることのできる日数は５日を上限とする。
７　年次有給休暇の有効期間は，付与の日から２年間とする。
（特別休暇）
第40条　次の場合には，特別休暇を与える。
①　慶弔休暇
(1)　本人の結婚　７日間
(2)　子の結婚　２日間
(3)　兄弟姉妹の結婚　１日
(4)　配偶者（内縁関係を含む。以下同じ）の出産
７日。ただし，出産予定日の１週間前から出産後14日目までの期間とする。
(5)　父母，配偶者又は子の死亡　７日間
(6)　祖父母，兄弟姉妹及び配偶者の父母の死亡　３日間
(7)　同居親族の死亡　１日
②　産前産後の休暇
(1)　産前６週間（多胎妊娠の場合は14週間）。ただし，本人から請求があったときに限る。
(2)　産後８週間。ただし，産後６週間を経過した女性教職員が請求したときには，その者について医師が支障がないと認めた業務に就かせることができる。
③　母性保護のための通院休暇等

期間及び運用等については，別に定める。

④　育児休業及び介護休業

期間及び運用等については，別に定める。

⑤　育児時間

産後１年以内，１日２回各30分。ただし，本人から請求があったときに限る。

⑥　看護休暇及び介護休暇

日数及び運用等については，別に定める。

⑦　就業が著しく困難な生理日

⑧　災害休暇　　３日

⑨　公民権行使のための時間　　必要な時間

２　所属長は，慶弔休暇の取得について，合理的と認められる範囲内で往復の所要日数を加算することができる。

３　前２項に定める休暇の期間は，別に定めある場合を除き，有給とする。

（特別休暇の手続）

第41条　教職員は，前条に定める休暇（第１項第３号，第４号及び第６号を除く）を請求しようとする場合は，あらかじめ所属長に願い出なければならない。ただし，やむを得ない事由があるときは，事後速やかにその承認を得なければならない。

第４節　時間外勤務・休日勤務及び出張

（時間外勤務及び休日勤務）

第42条　大学は，業務の都合により教職員に対し労働基準法第32条（労働時間），第35条（休日）及び第61条（深夜業）に定める範囲内で，若しくは同法第36条（時間外及び休日の労働）の定めに従い，この規則に定める勤務時間を超えて早出若しくは残業を命じ，又はこの規則に定める休日に勤務を命ずることができる。

２　教職員は，正当な理由がない限り，前項の命令を拒むことができない。

３　月60時間を超えて時間外勤務を行った教職員には，労働基準法第37条第３項に定める休暇（以下「代替休暇」という）を付与することができる。

４　前項の代替休暇の運用等については，別に定める。

（日直及び宿直）

第43条　大学は，業務の都合により教職員に対し，日直又は宿直を命ずることができる。

２　教職員は，正当な理由がない限り，前項の命令を拒むことができない。

（出　張）

第44条　大学は，業務上必要があるときは，教職員に対し出張を命ずる。

２　教職員は，正当な理由がない限り，前項の命令を拒むことができない。

第５節　適　用　除　外

（教員についての適用除外）

第45条　学部又はこれに準ずる部署に勤務する教員について本章の規定により難い場合は，別に定めるところによる。

（特別の勤務者の適用除外）

第46条　この規則第30条は，次の各号のいずれかに該当する者については，適用しない。

①　管理職者で，別表に定める者

② 監視・断続的業務に従事する者であって，労働基準監督署長の許可を受けたもの。

第４章　給与その他の手当

（給　与）

第47条　教職員の給与については，別に定める給与規程による。

（出張旅費・慶弔慰金及び退職金）

第48条　教職員の出張旅費・慶弔慰金及び退職金については，別に定める規程による。

第５章　表彰及び懲戒

第１節　通　　則

（表彰及び懲戒の手続）

第49条　表彰及び懲戒は，大学が行う。ただし，懲戒については，所属長及び大学の人事・給与委員会の意見を聴かなければならない。

（通　知）

第50条　表彰及び懲戒の結果は，所属長を経由して本人に通知するとともに学内に公表することがある。

第２節　表　　彰

（表彰事由）

第51条　教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，表彰する。

① 大学の発展に特に功績のあったとき。
② 学術上顕著な研究業績のあったとき。
③ 教育実践上功績のあったとき。
④ 業務遂行上功績のあったとき。
⑤ 国家的・社会的功績があり大学の名誉を高めたとき。
⑥ 災害を未然に防止し，又は災害に際し特に功労があったとき。
⑦ 永年誠実に勤務したとき。
⑧ その他特に表彰の必要があると認めたとき。

（表彰の方法）

第52条　表彰は，次の各号の①又は②以上を併せて行う。

① 賞　　状
② 賞　　品
③ 賞　　金
④ 昇　　給
⑤ 昇　　格

第３節　懲　　戒

（懲戒事由）

第53条　教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，懲戒する。

① 職務上の義務に違背し，又は職務を怠ったとき。
② 学内の秩序を乱したとき。
③ 大学の名誉を傷つけ，又は信用を失墜する行為があったとき。
④ 教職員としてその品位を傷つけ，又は体面を汚す行為があったとき。
⑤ 故意又は過失により大学に損害を与えたとき。

⑥　経歴を偽り，又は不正の方法で採用されたとき。
⑦　その他この規則又は大学の諸規定に違背する行為があったとき。

（懲戒の種類）

第54条　懲戒の種類は，情状によりけん責，減給，出勤停止，降格，停職及び懲戒解雇（諭旨解雇を含む）の６種とする。

（けん責）

第55条　けん責は，始末書を取り，将来を戒める。

（減　給）

第56条　減給は，一回の不都合行為について平均賃金の半日分以下を減額する。ただし，その総額は，当該月内における賃金総額の10分の１以内とする。

（出勤停止）

第57条　出勤停止は，１か月未満の期間の出勤を停止し，その期間の給与を支給しない。

（降　格）

第58条　降格は，役職を免じ，又は２等級の範囲内で給与の等級を下す。

（停　職）

第59条　停職は，１か月以上１年を超えない期間の出勤を停止し，その期間の給与を支給しない。ただし，特別の事情があると大学が判断した場合には，基本給又は月額給の一部を支給することができる。

２　停職中の期間は，勤続年数に算入しない。

（懲戒解雇）

第60条　懲戒解雇は，即時解職とする。

２　前項の場合は，第21条第２項及び第３項を準用する。

（諭旨解雇）

第61条　前条に当たる場合においても，行為の動機，態様及び結果につき特に酌量すべき事由があるときは，平常の勤務成績等を考慮し，諭旨解雇とすることができる。

（損害賠償）

第62条　懲戒処分に付された者が大学に損害を与えた場合には，その全部又は一部を賠償させることができる。

第６章　保健衛生及び安全

（健康診断）

第63条　教職員に対しては，毎年定期１回以上健康診断を行う。

２　教職員は，前項の健康診断を拒むことができない。ただし，やむを得ない事由があるときは，他の医師の健康診断書をもって代えることができる。

（安全衛生管理）

第63条の２　教職員の安全衛生管理については，別に定める規程による。

（就業禁止）

第64条　教職員が感染症又はその他の疾患にかかり，医師の診断により就業に不適当と認められる場合には，就業させないことができる。

２　就業禁止期間は，勤務を要する日から除外する。

（非常事故の措置）

第65条　教職員は，火災その他異常事態を発見し，又はそのおそれがあることを知った場合には，臨機の措置をとるとともに被害を防止するよう努めるものとする。

第７章　災　害　補　償

（災害補償）

第66条　災害補償については，労働基準法第８章災害補償の規定による。

第８章　福　利　厚　生

（厚生施設）

第67条　教職員は，福利及び厚生に関する大学の諸施設を所定の手続を経て利用することができる。

第９章　雑　　則

（嘱託，任期制職員及び臨時職員）

第68条　嘱託については，嘱託規程に定めるほかこの規則を準用する。

２　任期制職員については，日本大学任期制職員規程に定めるほかこの規則を準用する。

３　臨時職員については，日本大学臨時職員就業規則に定めるほかこの規則を準用する。

（任期制教員）

第69条　任期制教員については，日本大学任期制教員規程に定めるところによる。

（規則の変更）

第70条　この規則の変更については，労働基準法第90条の規定による。

附　　則

１　この規則は，令和３年１月１日から施行する。

２　昭和38年７月１日制定の日本大学教職員服務規則は，廃止する。

３　昭和18年４月14日制定の定年規程は，廃止する。

４　昭和38年７月１日制定の表彰規程は，廃止する。

５　昭和38年７月１日制定の懲戒規程は，廃止する。

６　昭和38年７月１日制定の休職規程は，廃止する。

７　昭和38年７月１日制定の解職規程は，廃止する。

８　昭和32年10月１日制定の臨時職員規程は，平成13年３月31日をもって廃止する。

９　この規則施行前既に教職員となっている者は，第２章の定めるところにより就任したものとみなす。

10　第29条第１項第３号は，同条第３項の適用者がいなくなった時点で廃止する。

11　第36条第２項については，平成30年４月１日以降に欠勤を開始した者から適用する。

12　平成25年３月31日以前に行われた懲戒事由に該当する行為に対する第５章第３節の適用については，なお従前の例による。

第30条に定める各部科校の始業・終業時刻及び休憩時間は，次のとおりとする。

部科校名	昼･夜の別	始業・終業時刻	休憩時間
本部	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	12時から13時
	夜	15時から22時 (土曜日は13時から20時)	18時から18時45分 (土曜日は16時から16時45分)
法学部	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	13時から14時 (土曜日は11時10分から12時10分)
	夜	13時から20時	18時から18時45分
文理学部	昼	８時30分から16時30分 (土曜日は12時30分)	12時30分から13時30分
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
経済学部	昼	８時50分から16時50分 (土曜日は12時50分)	12時30分から13時30分
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
商学部	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	11時30分から12時30分
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
芸術学部	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	12時から13時
国際関係学部	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	11時30分から12時30分
	夜	14時から21時	19時から19時45分
三軒茶屋キャンパス (危機管理学部・スポーツ科学部)	昼	９時から17時 (土曜日は13時)	13時から14時 (土曜日は12時から13時)
理工学部	昼	９時から17時 (土曜日①９時から13時 ②13時から17時)	13時から14時
	夜	13時30分から20時30分	18時から18時45分

生産工学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	13時から14時
	夜	14時から21時	19時から19時45分
工学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	13時から14時 （土曜日は11時から12時）
医学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	12時から13時
歯学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	12時から13時
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
松戸歯学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	12時から13時
	夜	14時から21時	19時から19時45分
生物資源科学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	13時から14時 （土曜日は12時から13時）
薬学部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	12時から13時
通信教育部	昼	９時から17時 （土曜日は13時）	12時から13時
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
日大 高校 中学校	昼	教員　８時20分から16時10分 （土曜日は12時55分） 職員　８時10分から16時 （土曜日は12時45分）	12時35分から13時20分 11時45分から12時30分 （土曜日を除く）
櫻丘高校	昼	８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	12時30分から13時30分 （土曜日は11時30分から12時30分）
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分
鶴ヶ丘高校	昼	教員　８時20分から16時10分 （土曜日は13時10分） 職員　８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	12時40分から13時30分 15時30分から15時40分 （土曜日を除く） 12時から13時 （土曜日を除く）

藤沢高校 藤沢中学校	昼	教員　８時20分から16時10分 （土曜日は13時10分）	12時40分から13時20分 14時10分から14時20分 土曜日は11時40分から11時50分 12時40分から13時10分
		職員　８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	11時50分から12時40分
豊山高校 豊山中学校	昼	８時から16時 （土曜日は12時）	12時から13時 （土曜日は11時から12時）
	夜	14時から21時	19時から19時45分
豊山女子高校 豊山女子中学校	昼	８時10分から16時 （土曜日は13時）	12時から13時
三島高校 三島中学校	昼	教員　８時25分から16時15分 （土曜日は13時15分）	12時30分から13時30分 （土曜日は12時から13時）
		職員　８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	11時30分から12時30分 （土曜日は11時から12時）
明誠高校	昼	教員　８時20分から16時20分 （土曜日は12時20分）	12時25分から13時５分 15時50分から16時10分 （土曜日は11時30分から12時）
		職員　８時20分から16時20分 （土曜日は12時20分）	13時から14時 （土曜日は11時30分から12時）
山形高校	昼	８時30分から16時30分 （土曜日は13時15分）	11時50分から12時50分
	夜	14時から21時	19時から19時45分
習志野高校	昼	８時20分から16時10分 （土曜日は13時10分）	12時30分から13時20分
東北高校	昼	教員　８時30分から16時25分 （土曜日は12時55分）	10時40分から10時50分 12時40分から13時25分 15時15分から15時20分
		職員　８時10分から16時 （土曜日は13時）	11時40分から12時40分
藤沢小学校	昼	教員　８時20分から16時10分 （土曜日は13時10分）	12時30分から13時20分 （土曜日は13時10分）
		職員　８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	11時50分から12時40分 （土曜日を除く）
幼稚園	昼	８時30分から16時30分 （土曜日は12時30分）	13時から14時
	夜	14時30分から21時30分	19時から19時45分

第46条第１号に定める適用除外者は，次のとおりとする。

別　表

校長　教頭　専門学校長　園長　副園長 部長　事務局長　部次長　事務局次長　事務長　経理長　課長

【資料9】

主な学術雑誌一覧（動物学科）

No	雑誌名
1	日経サイエンス
2	NEWTON
3	National Geographic（日本語版）
4	日本農学図書館協議会誌
5	飼料月報
6	地盤工学会誌
7	化学工学+英文誌他
8	遺伝　生物の科学
9	ビオストーリー
10	化学と工業+英文誌他
11	実験医学
12	食品と科学
13	どうぶつと動物園
14	博物館研究
15	日本食品科学工学会誌+英文誌他
16	昆虫と自然
17	日経バイオテク
18	日本食品微生物学会雑誌
19	森林防疫
20	月刊むし
21	日本草地学会誌+英文誌他
22	New food industry
23	デーリィマン
24	デーリィ・ジャパン
25	ミート・ジャーナル
26	臨床獣医
27	Journal of Modern Veterinary Medicine

【資料10】

日本大学ＦＤ推進センターに関する内規

（平成20年２月26日制定　平成25年３月12日改正
平成20年４月１日施行　平成25年４月１日施行
平成22年３月16日改正　平成27年３月24日改正
平成22年４月１日施行　平成27年４月１日施行）

（名称及び設置）

第１条　この組織は，日本大学ＦＤ推進センター（以下「センター」という）と称し，日本大学（以下「本大学」という）に置く。

（目　的）

第２条　センターは，本大学のファカルティ・デベロップメント（以下「ＦＤ」という）を全学的に推進するとともに，大学院，学部，通信教育部及び短期大学部（以下「学部等」という）のＦＤの支援を行い，もって本大学の教育の質的向上に資することを目的とする。

（活　動）

第３条　センターは，前条の目的を達成するため，次の活動を行う。

①　学内外のＦＤ情報の収集及び調査並びにＦＤ推進に係る各種の分析されたデータの提供
②　授業改善のための基本方針の策定
③　教員に対する研修会，講習会及び講演会等の開催
④　教員の教授活動のための相互研鑽の実施
⑤　学部等におけるＦＤの推進支援
⑥　学生による授業評価の全学的推進
⑦　本大学学生生活実態調査結果の教育的活用
⑧　自己点検・自己評価等の調査との連携
⑨　教員の教育・研究業績評価方法の検討
⑩　その他ＦＤに関する事項

（センター長）

第４条　センターに，センター長を置く。

２　センター長は，センターを代表し，その業務を統括する。

３　センター長は，副学長（学務担当）とする。

（副センター長）

第５条　センターに，副センター長を置く。

２　副センター長は，センター長を補佐する。

３　センター長に事故あるときは，副センター長がその職務を代理し，センター長が欠けたときは，その職務を代行する。

４　副センター長は学長が任命し，その任期は1年とする。ただし，再任を妨げない。

（全学ＦＤ委員会）

第６条　センターに，第３条各号に定める事業を推進するため，全学ＦＤ委員会（以下「委員会」という）を置く。

（委員会の構成）

第７条　委員会は，次の者をもって構成し，委員及び幹事は大学が委嘱する。

① 委　員

（1） センター長

（2） 副センター長

（3） 学務部長

（4） 本部部長及び部次長　　若干名

（5） 各学部長，通信教育部長，大学院独立研究科長及び専門職大学院研究科長が推薦する教員　各１名

（6） 短期大学部各校舎次長が推薦する教員　　各１名

（7） センター長が指名する者　　若干名

② 幹　事

（1） 学務課長

（2） 本部部課長　　若干名

（委員長）

第８条　委員会の委員長は，センター長とする。

（委員会の招集）

第９条　委員会は，委員長が招集し，その議長となる。

（委員及び幹事の任期）

第10条　委員長，委員及び幹事の任期は，1年とする。ただし，再任を妨げない。

２　補充の委員及び幹事の任期は，前任者の残任期間とする。

（学長の出席）

第11条　学長は，随時，委員会に出席することができる。

（構成員以外の者の出席）

第12条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。

（専門委員会）

第13条　委員長は，必要に応じて，専門委員会を置くことができる 。

２　専門委員会の委員長及び委員は，センター長の推薦に基づき，本大学が委嘱する。

（所　管）

第14条　センターに関する事務は，学務部が行う。

（内規の改正）

第15条　この内規を改正する場合は，委員会の審議を経て，常務理事会で決定しなければならない。

（内規等）

第16条　センターの運営その他に関し必要ある場合は，別に内規等で定めることができる。

附　　則

この内規は，平成27年４月１日から施行する。

【資料11】

日本大学生物資源科学部ＦＤ委員会内規

令和３年１月 21 日制定

（設　置）

第１条　生物資源科学部（以下「学部」という）に日本大学生物資源科学部ＦＤ委員会（以下「委員会」という）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に定める事項について，審議する。

①　学内外のＦＤ情報の収集及び調査並びにＦＤ推進に係る各種の分析されたデータの提供に関する事項

②　教員に対する研修会，講習会及び講演会等の開催に関する事項

③　学部・大学院におけるＦＤ活動の推進に関する事項

④　学生による授業評価の推進に関する事項

⑤　授業公開及び参観の実施に関する事項

⑥　ＦＤ活動における広報活動の推進に関する事項

⑦　その他ＦＤに関する事項

（委員会の構成）

第３条　委員会は，次の者をもって構成し，委員及び幹事は学部長が委嘱する。

①　委員長

②　副委員長

③　委　員

（１）　学部次長

（２）　学務担当

（３）　学生担当

（４）　研究担当

（５）　企画広報担当

（６）　就職指導担当

（７）　学務委員会副委員長

（８）　学科主任

（９）　事務局次長

(10)　事務長

(11)　経理長

(12)　教務課長

(13)　学部長が指名する者　若干名

④　幹　事　若干名

（委員長）

第４条　委員会の委員長は，学務担当とする。

２　委員長に事故あるときは，副委員長又は委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（副委員長）
第５条　副委員長は，委員長を補佐する。
（任　期）
第６条　委員長，副委員長，委員及び幹事の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
（委員会の招集）
第７条　委員会は，必要に応じて委員長が招集し，その議長となる。
２　委員長は，必要に応じて委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。
（小委員会）
第８条　委員会に，小委員会を設けることができる。
（所　管）
第９条　委員会に関する事務は，教務課が行う。

附　　則

この内規は，令和３年１月 21 日から施行する。

【資料12】

生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科
「授業評価アンケート」実施要項

令和３年２月 22 日制定
令和３年４月　１日施行

（趣　旨）
第１条　個々の授業の改善及び生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科のカリキュラム改善のために学生による授業評価（以下「評価」という）を行う。

（対　象）
第２条　この評価は，生物資源科学部の全ての授業科目を対象とし，生物資源科学研究科及び獣医学研究科においては，ＦＤ委員会が必要と認めた科目について毎年これを実施する。ただし，次の科目は，評価の対象から除く。
①　学外で集中的に実施される実習科目
②　研究室単位で実施される実験・実習・演習科目（卒業研究含む）
③　履修者が 20 名以下の授業科目
④　大学院科目のうち，特別研究
２　前項各号のうち授業科目担当者が評価の実施を希望する場合は，この限りではない。
３　非常勤講師が担当する授業科目も調査対象とする。

（実施時期）
第３条　評価は，授業科目担当者が実施日を設定し，授業期間内に行う。

（実施方法）
第４条　評価は，生物資源科学部ＦＤ委員会（以下「委員会」という）が作成した電子アンケートを使用し，別途作成する実施手順に従い実施する。

（集計処理の依頼）
第５条　評価の集計は，教務課が行う。

（集計結果の処理，データの保管）
第６条　委員会は，教務課より教員名及び授業科目が特定できないように加工されたデータを受領し，これを分析・検討する。分析・検討後のデータは，教務課が保管する。

（集計結果の報告と公表）
第７条　委員会は，集計結果を分析・検討し，それらの結果を取りまとめてホームページに公開する。
２　必要に応じて授業科目担当者から「授業改善レポート」の提出を受け，学部ポータルサイト（LiveCampus）に公開する。
３　授業科目担当者は集計結果を受け，フィードバックコメントを作成し，学生へ通知する。

附　　則
この要項は，令和３年４月１日から，これを施行する。

【資料13】

日 本 大 学 本 部 事 務 分 掌 規 程

昭和38年７月１日制定	昭和57年４月１日施行	平成25年４月１日施行
昭和41年７月５日改正	昭和59年11月９日改正	平成25年６月７日改正
昭和43年５月７日改正	昭和59年９月７日施行	平成27年３月20日改正
昭和43年11月30日改正	昭和60年５月10日改正	平成27年４月１日施行
昭和44年６月20日改正	昭和60年４月１日施行	平成28年２月５日改正
昭和44年11月14日改正	昭和62年３月６日改正	平成28年４月１日施行
昭和45年１月23日改正	昭和62年４月１日施行	平成28年12月２日改正
昭和45年１月30日改正	平成２年５月18日改正	平成29年４月１日施行
昭和45年12月18日改正	平成２年４月１日施行	平成30年11月２日改正
昭和47年10月６日改正	平成６年２月４日改正	平成31年２月１日改正
昭和47年12月15日改正	平成５年４月１日施行	平成31年４月１日施行
昭和48年10月５日改正	平成11年４月２日改正	平成31年３月１日改正
昭和49年11月15日改正	平成11年４月１日施行	平成31年４月１日施行
昭和50年７月４日改正	平成18年３月３日改正	令和元年７月５日改正
昭和51年１月23日改正	平成17年12月１日施行	令和２年２月７日改正
昭和51年５月14日改正	平成18年３月３日改正	令和２年４月１日施行
昭和51年６月11日改正	平成18年４月１日施行	令和３年３月12日改正
昭和54年３月９日改正	平成22年３月５日改正	令和３年３月１日施行
昭和56年６月５日改正	平成22年４月１日施行	令和４年３月11日改正
昭和57年５月７日改正	平成25年３月８日改正	令和４年２月８日施行

（趣　旨）

第１条　この規程は，日本大学事務職組織規程（以下「組織規程」という）第９条に基づき，本部の事務分掌について定める。

２　組織規程第４条第１項により本部に設置された部に置く各課の事務分掌は，次条から第10条までに定めるところによる。

（総務部各課の分掌事務）

第２条　総務部に，総務課，法務課及び秘書課を置き，次の事務を分掌する。

①　総　務　課

（１）　学校法人に関する事項

（２）　学長選出に関する事項

（３）　部科校との連絡に関する事項

（４）　評議員会及び理事会等に関する事項

（５）　事務局長会議及び諸会議に関する事項

（６）　諸式，諸行事に関する事項

（７）　自動車の配車に関する事項

（８）　日本大学会館（以下「会館」という）の清掃，警備，防災及び秩序維持等の管理上必要な事項

（９）　会館の使用に関する事項

(10)　学外各種団体に関する事項

(11)　経営戦略に関する事項

(12)　準付属校制度に基づく法人業務に関する事項

(13)　各部の所管に属さない事項

②　法　務　課

（１）　法務対応の手続に関する事項

（２） 文書の取扱い，整理及び保管に関する事項
（３） 諸規程の制定，改廃及び審査に関する事項
（４） 公印の作成及び保管に関する事項
（５） 公式文書等の草案作成に関する事項
（６） 放射性物質及び放射性廃棄物の取扱いに係る安全管理に関する事項
（７） 個人情報保護に関する事項
（８） 人権擁護に関する事項
（９） 公益通報に関する事項
(10) その他法務及びコンプライアンスに関する事項
③ 秘 書 課
（１） 理事長及び学長等の秘書に関する事項
（財務部各課の分掌事務）
第３条 財務部に，主計課，経理課及び資金課を置き，次の事務を分掌する。
① 主 計 課
（１） 予算編成に関する事項
（２） 予算の管理及び統制に関する事項
（３） 全学の収納・支払業務全般の管理及び統制に関する事項
（４） 決算に関する事項
（５） 中・長期財政計画に関する事項
（６） 経理長の職印及び引継書等に関する事項
（７） 税務に係る業務の管理に関する事項
（８） 税務及び公認会計士の監査対応に関する事項
（９） 財務の統計及び報告等に関する事項
(10) その他財務に関する事項
② 経 理 課
（１） 本部予算及び決算に関する事項
（２） 本部予算の管理及び統制に関する事項
（３） 本部の支払業務全般に関する事項
（４） 人件費，教育研究経費・管理経費及び施設設備等の経理に関する事項
（５） 日本大学共済財団及び私立大学退職金財団の経理に関する事項
（６） 厚生施設及び学生寮の経理に関する事項
（７） 日本私立学校振興・共済事業団，雇用保険及び労災保険等の経理に関する事項
（８） マイナンバー制度に関する事項
（９） 本部付属機関の経理に関する事項
(10) その他経理に関する事項
③ 資 金 課
（１） 金銭の出納に関する事項
（２） 資金の調達及び管理運用に関する事項
（３） 基金の管理運用に関する事項
（４） 学校債に関する事項

（５） 金融機関等との取引に関する事項
（６） 補助金の申請及び報告等に関する事項
（７） 補助金等に係る外部団体による調査及び監査の対応に関する事項
（８） 寄付金の申請及び報告等に関する事項
（９） 募金の募集・受入の計画策定及び実施に関する事項
(10) 本部と部科校間の取引に関する事項
(11) その他資金に関する事項

（人事部各課の分掌事務）

第４条 人事部に，人事課及び給与課を置き，次の事務を分掌する。

① 人 事 課
（１） 全学に係る人事計画の策定に関する事項
（２） 全学の人事配置の適正維持に関する事項
（３） 理事，監事，評議員，協議員及び顧問等の発令に関する事項
（４） 名誉学長，名誉理事長及び名誉教授の称号授与に関する事項
（５） 教職員等の定員，採用，異動及び退職に関する事項
（６） 教職員等の勤務に関する事項
（７） 教職員等の休職，解職，表彰及び懲戒に関する事項
（８） 教職員等の出張及び海外出張に関する事項
（９） 教職員の福利厚生に関する事項
(10) 教職員の安全衛生に関する事項
(11) 大学組織の機能維持に資する教職員の資質向上に関する事項
(12) 各種研修に関する事項
(13) 労働保険に関する事項
(14) 教職員の団体等に関する事項
(15) その他人事に関する事項

② 給 与 課
（１） 全学的な給与施策の検討に関する事項
（２） 教職員等の給与に関する事項
（３） 教職員等の給与調整及び統一に関する事項
（４） 学内外教職員等の給与等調査及び統計に関する事項
（５） 私立大学退職金財団の事務に関する事項
（６） 日本私立学校振興・共済事業団に関する事項
（７） その他給与に関する事項

（管財部各課の分掌事務）

第５条 管財部に，管財課，営繕課及びＩＴ管理課を置き，次の事務を分掌する。

① 管 財 課
（１） 固定資産及び物品（図書及び工業所有権を除く。以下同じ）の管理保全に関する事項
（２） 固定資産会計（棚卸しを含む）に関する事項
（３） 固定資産及び物品の取得（検収，配布等を含む），修繕，借入れ等の諸手続に関する事項
（４） 固定資産及び物品の処分に関する事項

（５） 固定資産及び物品に係る公租公課免税等手続に関する事項
（６） 本部所管施設の管理に関する事項
（７） 施設・設備等の損害保険契約に関する事項
（８） 全学における物品等の調達共同化推進に関する事項
（９） 印刷に関する事項
(10) 放射性物質，放射性廃棄物及び特別管理産業廃棄物等の施設管理，調達並びに廃棄に関する事項
(11) 株式会社日本大学事業部（以下「事業部」という）との連携に関する事項
(12) 事業部連絡協議会等の関連諸会議に関する事項
(13) その他管財，用度及び事業部に関する事項

② 営 繕 課
（１） 全学における建物及び構築物等の設計及び工事等の共同化推進に関する事項
（２） 建物及び構築物等の調査並びに計画等に関する事項
（３） 建物及び構築物等の設計，見積り，契約並びに検査等に関する事項
（４） 建物及び構築物等に係る各種申請，届出並びに許可等に関する事項
（５） 省エネルギー及び地球温暖化対策に関する事項
（６） 建物及び構築物等の工事監理等に関する事項
（７） 建物及び構築物等の保安並びに維持に関する事項
（８） 本部施設の営繕及び機能保全に関する事項
（９） その他施設計画及び工事監理等に関する事項

③ ＩＴ管理課
（１） 全学における情報基盤の整備に関する事項
（２） 情報システム，情報インフラ等の企画，立案及び開発に関する事項
（３） 情報関連機器による事務の効率化の推進に関する事項
（４） 全学に係る情報システム構築及び維持の技術的支援に関する事項
（５） 情報関連機器，情報システム及び情報インフラ等の管理，運用並びに保守に関する事項
（６） ソフトウェア及びデータの管理，運用並びに保守に関する事項
（７） 情報セキュリティに関する事項
（８） 情報関連機器の調達共同化の推進に関する事項
（９） 情報システムの仕様等の共通化に関する事項
(10) 部科校における情報事務担当者等との連絡及び調整に関する事項
(11) その他ＩＴ管理に関する事項

（企画広報部各課の分掌事務）
第６条 企画広報部に，企画課及び広報課を置き，次の事務を分掌する。

① 企 画 課
（１） 全学の企画及び広報の統合並びに調整に関する事項
（２） 広報の企画立案に関する事項
（３） 記念事業及び周年行事の企画並びに実施に関する事項
（４） その他広報の企画及び周年行事に関する事項

② 広 報 課

（１） 学内に対する公示の周知徹底に関する事項
（２） 学外に対する広報及び資料の提供に関する事項
（３） 大学行事の取材並びに広報関係資料の収集，整理及び保管に関する事項
（４） 映像の制作に関する事項
（５） ホームページの制作及び統一化に関する事項
（６） 全学的な各種広報媒体による情報発信に関する事項
（７） 大学機関紙等印刷物の編集，発行及び配布に関する事項
（８） 報道関係機関への情報発信及び取材対応に関する事項
（９） 事件事故等に係る報道関係機関への対応及び学内調整に関する事項
(10) 日本大学新聞社に関する事項
(11) 大学史の編纂及び刊行に関する事項
(12) 年表，紀要等の作成に関する事項
(13) 創立者等の伝記の作成に関する事項
(14) 大学の史料の収集，展示及び保管に関する事項
(15) その他広報及び大学史編纂に関する事項

（学務部各課の分掌事務）

第７条　学務部に，学務課，国際交流課，付属学校課及び入学課を置き，次の事務を分掌する。

① 学　務　課

（１） 教学に関わる基本方針の策定支援及び推進に関する事項
（２） 学則に関する事項
（３） カリキュラムに係る調査，分析及び検討に関する事項
（４） 学部長会議及び大学院委員会等に関する事項
（５） 大学院研究科，学部，学科，短期大学部の学科等の増設及び改廃に関する事項
（６） 入学及び卒業に関する事項
（７） 特待生に関する事項
（８） 教員資格に関する事項
（９） 学位記，卒業証書及び賞状等に関する事項
(10) 学位授与に関する事項
(11) 名誉博士の称号授与に関する事項
(12) 客員教授に関する事項
(13) ファカルティ・デベロップメントに関する事項
(14) 部科校間，準付属校及び本大学以外の教育機関との連携強化及び一貫教育に関する事項
(15) 教学戦略に関する事項
(16) 教育改善に資するデータの収集及び分析（教学ＩＲ）に関する事項
(17) 学生の基本情報収集及び管理に関する事項
(18) 大学院独立研究科のうち廃止された研究科の修了者等に係る学籍及び成績の管理並びに各種証明書の発行に関する事項
(19) 内部質保証推進に関する事項
(20) 自己点検・評価に関する事項
(21) 認証評価等外部評価に関する事項

(22)　学修満足度向上調査等に関する事項
(23)　その他学務に関する事項

②　国際交流課
（1）　全学的な国際交流計画の策定に関する事項
（2）　語学教育に関する事項
（3）　単位認定を伴う学生の海外渡航に関する事項
（4）　学生の海外への送り出しに関する事項
（5）　外国人留学生の受入れに関する事項
（6）　教員の海外への送り出しに関する事項
（7）　海外からの教員及び研究者の受入れに関する事項
（8）　海外提携校との交流に関する事項
（9）　各国の大学及び国際研究教育機関との連絡に関する事項
(10)　外務省，在日大公使館及びその他の外国出先機関との連絡に関する事項
(11)　外国文書の取扱いに関する事項
(12)　国際交流関係出版物の発行等，配布に関する事項
(13)　日本大学ゲストハウスの運営に関する事項
(14)　海外交流施設に関する事項
(15)　その他国際交流に関する事項

③　付属学校課
（1）　全学的な視点に立った付属校制度に係る施策の策定に関する事項
（2）　付属高等学校，中学校，小学校，幼稚園及び認定こども園（以下「高等学校等」という）の学則に関する事項
（3）　高等学校等の課程等の増設及び改廃に関する事項
（4）　高等学校等の入学及び卒業に関する事項
（5）　高等学校等の連絡，調整及び調査に関する事項
（6）　高等学校長会議に関する事項
（7）　高等学校等の特待生に関する事項
（8）　高等学校等の卒業証書及び賞状等に関する事項
（9）　高等学校等の研修に関する事項
(10)　準付属校制度の運用に関する事項
(11)　その他高等学校等に関する事項

④　入　学　課
（1）　全学の入試制度に係る施策の策定及び一元化の推進に関する事項
（2）　全学の学生募集に係る施策の検討に関する事項
（3）　一般入学試験に関する事項
（4）　外国人留学生及び帰国生の入学試験に関する事項
（5）　付属推薦入学試験等に関する事項
（6）　入学案内及び入試関係印刷物の編集及び配布に関する事項
（7）　学生募集広告及び入試情報の発信に関する事項
（8）　国内外進学説明会等に関する事項

（９） 入試に関する各種統計及び資料の作成並びに分析に関する事項
（10） 全国高等学校，新聞社，受験雑誌社等との連絡及び資料提供に関する事項
（11） 入試問題再使用時の著作権者からの許諾の取得に関する事項
（12） その他入学試験，入試情報及び学生募集に関する事項

（学生部各課の分掌事務）

第８条 学生部に，学生課及び就職課を置き，次の事務を分掌する。

① 学 生 課

（１） 学生（留学生を含む。以下同じ）の生活に係る全学的施策並びに調査及び計画に関する事項
（２） 学生の賞罰に関する事項
（３） 学生の課外活動の指導及び育成に関する事項
（４） 学生の諸行事に関する事項
（５） 単位認定を伴わない学生の海外渡航に関する事項
（６） 学生の事故等に関する事項
（７） 学生の健康管理に関する事項
（８） 学生の調査，照会及び証明に関する事項
（９） 障がい学生の支援に関する事項
（10） 学生支援センターに関する事項
（11） 学生の経済援助に関する事項
（12） 学生の福利厚生及びその施設に関する事項
（13） 学生寮に関する事項
（14） 奨学金に関する事項
（15） その他学生に関する事項

② 就 職 課

（１） キャリア形成支援に係る行事の企画，立案及び実施に関する事項
（２） キャリア形成に係る相談及び指導に関する事項
（３） 就職支援に係る行事の企画，立案及び実施に関する事項
（４） 学生の就職開拓及びあっせんに関する事項
（５） 就職関係の渉外に関する事項
（６） 就職関係の情報収集に関する事項
（７） 学生就職の調査，統計及び資料等に関する事項
（８） 就職支援センターに関する事項
（９） その他キャリア形成及び就職に関する事項

（競技スポーツ部各課の分掌事務）

第９条 競技スポーツ部に，スポーツマネジメント課，スポーツプロモーション課及びスポーツサポート課を置き，次の事務を分掌する。

① スポーツマネジメント課

（１） 日本大学競技部（以下「競技部」という）に係る全学的施策並びに調査及び計画に関する事項
（２） 競技部の運営に関する事項

（３） 競技部指導者の選考等に関する事項
（４） 競技施設及び設備の活用等に関する事項
（５） 競技部の広報に関する事項
（６） 競技部学生の諸手続に関する事項
（７） その他競技スポーツ部各課の所管に属さない事項

② スポーツプロモーション課
（１） 競技部推薦入学試験に係る施策の検討に関する事項
（２） 競技部学生の入部及び退部に関する事項
（３） 競技部学生の修学指導に関する事項
（４） 競技部学生の生活指導に関する事項
（５） 競技部学生に係る奨学金に関する事項
（６） 競技部学生寮に関する事項
（７） その他競技部の振興に関する事項

③ スポーツサポート課
（１） 競技部監督会及び選手会の活動に関する事項
（２） 競技部指導者及び学生の研修に関する事項
（３） 競技部指導者及び学生の相談窓口に関する事項
（４） 競技部学生の競技中等における傷害事故等に関する事項
（５） 競技部学生の健康及び衛生管理に関する事項
（６） 日本大学スポーツサポートシステムの活用に関する事項
（７） その他競技部のサポートに関する事項

（研究推進部各課の分掌事務）
第10条 研究推進部に，研究推進課，学術情報管理課及び知財課を置き，次の事務を分掌する。

① 研究推進課
（１） 学術研究に関わる基本方針の策定支援及び推進に関する事項
（２） 学術研究及び助成に関する事項
（３） 学内外から給付を受けた研究費等の内部監査に関する事項
（４） 研究費等に係る外部団体による調査及び監査の対応に関する事項
（５） 大学が行った研究成果の刊行に関する事項
（６） 各研究所等との連絡，調整及び調査に関する事項
（７） 総合科学研究所の事務に関する事項
（８） 学術研究改善に資するデータの収集及び分析に関する事項
（９） その他学術研究に関する事項

② 学術情報管理課
（１） 学術情報全般の収集，整理，保管，共有及び提供に関する事項
（２） 学術情報システムの運用及び保守に関する事項
（３） 学術情報利用促進に係る研修会及び講習会等に関する事項
（４） 教育研究推進に関わる情報基盤整備の企画，立案及び実施に関する事項
（５） 図書館の統括に関する事項
（６） 図書館の機能向上の検討及び推進に関する事項

（７） 図書館関連業務の研修に関する事項
（８） 貴重書の収集，管理及び公開に関する事項
（９） その他学術情報に関する事項
③ 知 財 課
（１） 知的財産及び技術移転に係る企画，立案並びに広報に関する事項
（２） 知的財産の創出，管理及び活用に関する事項
（３） 商標の登録及び管理に関する事項
（４） 受託研究等に関する事項
（５） 教職員の起業支援に関する事項
（６） 日本大学産官学連携知財センターに関する事項
（７） その他産官学連携に関する事項

（その他の事務組織）

第11条 組織規程第11条に基づき，本大学が特に必要と認めた場合に，特定の目的又は臨時的な業務を遂行するため，以下の事務組織を設置することができる。
① オフィスは，業務執行理事である理事長，学長，副理事長，常務理事又は副学長の所管下に設置する。
② 室は，既存の本部部局と同列又はその所管下に設置する。

２ 前項による事務組織を設置する場合は，設置時に必要事項を定め，常務理事会において決定する。

３ 前項において設置した事務組織の名称，目的，所管事項等について，理事会の承認を得るものとする。

（他部との連携）

第12条 各部の事務において，必要がある場合は，他部と連携して事務を遂行するものとする。

２ 複数の部の所管に属すると判断される事務で，主管部が明確でない場合は，関係部で協議し主管部を定めた上，関係部が連携して分掌する。

３ 前項の協議により主管部が定まらない場合は，総務部が理事長と協議の上，決定する。

附 則

１ この規程は，令和４年２月８日から施行する。

２ この規程は，施行日から５年を目途に点検・評価を行い，必要に応じて見直しを図るものとする。

３ 平成31年３月31日をもって廃止した独立大学院事務課で分掌していた事務のうち大学院総合社会情報研究科に係るものは，通信教育部で分掌するものとする。

４ この規程（令和２年２月７日改正）第２条第２号（６）に定める危機管理及びリスク管理に関する事項及び同条同号（７）に定める全学的な各種災害対策に関する事項は，同条同号にかかわらず，第11条に基づき設置した危機管理オフィスが分掌する。

５ 第11条に定める事務組織については，施行日以前に設置したオフィス及び室を含むものとし，その分掌事務等については，別表のとおりとする。

（ 別 表 ）

1　オフィス関連（日本大学本部事務分掌規程第11条第１項第１号の規定に基づく組織）

病院経営指導管理オフィス	
【設置の目的】	日本大学病院及び本大学の各種付属病院の経営の安定化及び健全化の推進
【　組　織　】	理事長の直轄部署として設置
【所管事項】	①　各病院における厚生労働省等への各種申請等に関する事項 ②　各病院における厚生労働省等への各種申請等の内容に係る調査，検証，助言及び指導に関する事項 ③　各病院における適正な保険診療の遂行及び保険請求の推進に関する事項 ④　各病院に対する経営指導に関する事項 ⑤　日本大学病院経営会議に関する事項 ⑥　各病院に対する指導及び業務監査に関する事項 ⑦　その他病院経営指導管理に関する一切の事項

板橋病院建設準備オフィス	
【設置の目的】	板橋病院建て替えに係る業務の統括
【　組　織　】	理事長の直轄部署として設置（理事長は，必要に応じて当該オフィスの責任者として，副学長又は常務理事を任命することができる）
【所管事項】	①　大学病院としての基本構想に関する事項 ②　板橋病院建て替えに係る基本計画に関する事項 ③　板橋病院建て替えに係る建物及び什器，機器等の仕様の検討・調達に関する事項（一元化を含む） ④　開業準備に関する事項 ⑤　行政庁との折衝及び申請に関する事項 ⑥　板橋病院建て替えに係る諸会議に関する事項 ⑦　現板橋病院の短・中期的な耐震・安全対策の実施支援に関する事項 ⑧　その他板橋病院建て替えに関する一切の事項

危機管理オフィス	
【設置の目的】	不正・不祥事案が発生した際の早急な危機管理対応及び平常時からの危機管理の充実
【　組　織　】	理事長の直轄部署として設置（危機管理総括責任者の下において活動）
【所管事項】	①　危機管理及びリスク管理に関する事項 ②　全学的な各種災害対策に関する事項 ③　その他所管部署にかかわらず危機管理及びリスク管理に関する事項全般 ※　各部局の分掌事項において日本大学危機管理規程に規定する危機事象が発生した場合の危機管理及びリスク管理も含む。

日本大学キャンパスサポートオフィス	
【設置の目的】	事業部の清算及び事業部取扱業務の精査並びに清算後に法人として引き継ぐべき業務の遂行
【　組　織　】	管財業務を執行する常務理事の直轄部署として設置
【所管事項】	①　事業部の清算に関する事項 ②　事業部取扱業務の精査に関する事項

	③　事業部取扱業務の今後の取扱いに関する事項 ④　事業部取扱業務引継後の適正性の担保に関する事項 ⑤　事業部取扱業務のうち法人等が引き継ぐ業務に関する事項 ⑥　事業部取扱業務のうち法人が共同して行うべき業務に関する事項 ⑦　事業部が所有する資産及び物品等の取扱いに関する事項 ⑧　私立学校法上の収益事業の会計に関する事項 ⑨　その他事業部取扱業務等に関する事項

※　上記オフィスの設置目的を達成するために必要な事項は，日本大学本部事務分掌規程に規定する本部各課の分掌事項にかかわらず，分掌するものとする。

※　文書の取扱いについては，日本大学文書取扱規程を準用し，所管課を当該事務組織に読み替え，文書事務を行うものとする。

２　室関連（日本大学本部事務分掌規程第 11 条第１項第２号の規定に基づく組織）

大学評価室	
【設置の目的】	全学的な内部質保証体制の推進に係る支援
【　組　織　】	学務部に設置
【所管事項】	①　内部質保証推進に関する事項 ②　自己点検・評価の計画及び実施に関する事項 ③　自己点検・評価の結果に基づく改善及び改革に関する事項 ④　認証評価等外部評価の計画及び実施に関する事項 ⑤　認証評価等外部評価の結果に基づく改善及び改革に関する事項 ⑥　教学 IR(教育改善に資するデータの収集及び分析)に関する事項 ⑦　学修満足度向上調査等に関する事項 ⑧　その他内部質保証推進，自己点検・評価，外部評価等に関する事項

新学部開設等準備室	
【設置の目的】	新学部等開設に係る業務の遂行
【　組　織　】	学務部に設置
【所管事項】	①　新学部等開設の準備及びそれに伴う認可申請関係に関する事項 ②　学部等設置認可に伴う学則及びそれに伴う行政庁との事前協議並びに申請に関する事項 ③　新学部等開設のための関係委員会及び作業部会等の諸会議に関する事項 ④　既存の学部学科等の改組，名称変更，定員変更等に係る学部との調整及びその認可申請・届出等に関する事項 ⑤　新学部等のお茶の水地区で必要となる施設設備の整備に関する事項 ⑥　その他新学部等の開設準備に関する事項 ※　上記の設置目的を達成するために必要な事項は，日本大学本部事務分掌規程に規定する本部各部局の分掌事項にかかわらず，分掌するものとする。

※　文書の取扱いについては，日本大学文書取扱規程を準用し，所管課を当該事務組織に読み替え，文書事務を行うものとする。

＊　その他（日本大学本部事務職組織規程第10条の規定に基づく組織）

監査室	
【設置の目的】	監事が実施する監査及び内部監査の充実

【　組　織　】	理事長の直轄部署として設置（事務組織上は，既存の部局と同列）
【所管事項】	①　監事監査の事務支援に関する事項 ②　本部各部との連携による内部監査に関する事項 ③　監事及び会計監査人との連携に関する事項 ④　その他，監事監査及び内部監査に関する事項

※　文書の取扱いについては，日本大学文書取扱規程を準用し，所管課を当該事務組織に読み替え，文書事務を行うものとする。

【資料14】

日本大学就職支援センター設置内規

（平成17年３月１日制定　平成24年４月１日施行
平成17年４月１日施行　平成25年３月12日改正
平成22年３月16日改正　平成25年４月１日施行
平成22年４月１日施行　平成28年３月22日改正
平成24年５月15日改正　平成28年４月１日施行）

（名称及び設置）

第１条　この組織は，日本大学就職支援センター（以下「センター」という）と称し，日本大学（以下「本大学」という）に置く。

（目　的）

第２条　センターは，本大学の総合力と総合性を生かし，本大学大学院，学部，通信教育部，短期大学部（以下「学部等」という）に在学中の学生若しくは卒業生（大学院修了者を含む）（以下「学生等」という）で，就職希望者及び公務員採用試験受験希望者への支援を行うものとする。

２　センターは，学部等が行う就職及び公務員試験対策事業に対して支援を行うものとする。

（事　業）

第３条　センターは，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

①　学生等の就職及び公務員試験受験志望者の支援及び受験指導
②　学部等の就職及び公務員試験対策事業に対する支援
③　就職及び公務員試験対策のための遠隔授業等新たな学習方法の開発普及
④　就職並びに公務員試験に係る情報収集及び広報活動
⑤　外部協力機関の選定
⑥　各関係機関等への採用に係る支援
⑦　就職及び公務員等キャリア支援の充実・強化を図るための事業
⑧　その他センターの目的達成に必要な事業

（センター長）

第４条　センターに，センター長を置く。

２　センター長は，センターを代表し，その業務を総括する。

３　センター長は，本大学教授のうちから，学長の推薦に基づき，本大学が委嘱する。

４　センター長の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

（副センター長）

第５条　センターに，必要に応じて，２名以内の副センター長を置くことができる。

２　副センター長は，センター長を補佐し，センター長の命を受け，センターの業務を統括する。

３　センター長に事故あるとき又は欠けたときは，あらかじめセンター長が指名した副センター長がその職務を代理し，又は代行する。

４　副センター長は，本大学教授のうちから，センター長の推薦に基づき，本大学が委嘱する。

５　副センター長の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

（指導教員）

第６条　センターに，指導教員を置くことができる。

２　指導教員は，学生等の就職支援又は公務員試験受験指導に当たる。

３　指導教員は，学外者及び本大学教員のうちから，本大学が委嘱する。

４　指導教員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
５　指導教員には，別に定める指導教員手当基準により，手当を支給する。
（外部協力機関）
第７条　本大学は，センターの活動を推進するに当たり，必要に応じて，外部の就職支援又は受験指導機関との間で業務委託契約を締結することができる。
（運営委員会）
第８条　センターに，センターの運営全般に関する事項を審議するため，運営委員会（以下「委員会」という）を置く。
（委員会の構成）
第９条　委員会の委員は，次の者をもって構成し，委員は大学が委嘱する。
①　センター長
②　副センター長
③　学部長のうちから若干名
④　学務部長
⑤　学生部長
⑥　学務委員会委員のうちから若干名
⑦　学生生活委員会委員のうちから若干名
⑧　就職委員会委員のうちから若干名
⑨　その他学内外の有識者からセンター長が推薦した者　若干名
（委員長）
第10条　委員会の委員長は，センター長とする。
２　委員長に事故あるとき又は欠けたときは，あらかじめ委員長が指名した副センター長がその職務を代行する。
（委員の任期）
第11条　委員長及び委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
２　補充の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員会の招集）
第12条　委員会は，委員長が招集し，その議長となる。
２　委員長は，必要に応じて委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。
（審議事項）
第13条　委員会は，次の事項を審議する。
①　センターの事業計画に関する事項
②　就職及び公務員試験講座科目の設定及びカリキュラムの編成に関する事項
③　指導教員の人選及び報酬に関する事項
④　センターの予算及び決算に関する事項
⑤　学部等実施の就職及び公務員試験対策事業に係る人的，物的，財的支援に関する事項
⑥　受講料金（教材費相当）の設定及び改定に関する事項
⑦　その他センター事業の推進及び運営に関する事項
（専門委員会）
第14条　委員長は，必要に応じ専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会の委員は，委員会委員及び委員以外の者から，委員長が指名する。
３　専門委員の任期は，任務に応じ，委員長が定める。
（経　理）
第15条　センターの経理は，本大学の一般会計に属するものとする。
（監　査）
第16条　センターの予算及び決算は，本大学の予算書及び決算書に記載し，それぞれ所定の監査を受けなければならない。
（報告義務）
第17条　センター長は，所定の期日までに当年度における業務の経過及び次年度における業務計画を書面をもって大学に報告しなければならない。
（所　管）
第18条　センターに関する事務は，学生部が行う。
（要項等）
第19条　この内規に関するその他の必要事項は，要項等で別に定めることができる。

附　　則

この内規は，平成28年４月１日から施行する。

【資料15】

日 本 大 学 学 部 事 務 分 掌 規 程

昭和47年７月７日制定　平成28年３月４日改正
昭和50年７月４日改正　平成28年４月１日施行
昭和51年５月14日改正　平成31年２月１日改正
平成15年９月５日改正　平成31年４月１日施行
平成15年４月１日施行　令和２年２月７日改正
平成27年２月６日改正　令和２年４月１日施行
平成27年４月１日施行

第１条　この規程は，日本大学事務職組織規程（以下「組織規程」という）第22条に基づき，学部の事務分掌について定める。

第２条　組織規程第19条第１項により設置された課の事務分掌は，次条以下に定めるところによる。

第３条　庶務課は，次の事務を分掌する。

① 本部及び各部科校並びに諸官庁等との連絡に関する事項
② 文書の取扱い及び整理・保管に関する事項
③ 公印の保管に関する事項
④ 諸式・諸行事に関する事項
⑤ 諸会議に関する事項
⑥ 日本大学共済財団及び日本私立学校振興・共済事業団の加入・脱退に関する事項
⑦ 雇用・事業・団体保険の加入・脱退に関する事項
⑧ 経常費補助金等に関する事項
⑨ 広報に関する事項
⑩ 保安・防災及び清掃に関する事項
⑪ 施設の運営に関する事項
⑫ 電話の交換及び自動車の配車に関する事項
⑬ 教職員の人事・給与事務に関する事項
⑭ 教職員の服務に関する事項
⑮ 教職員の福利厚生及び保健に関する事項
⑯ 校友会，後援会等に関する事項
⑰ 各課の所管に属さない事項

第４条　教務課は，次の事務を分掌する。

① 学則に関する事項
② 学科等の増設及び改廃等に関する事項
③ 入学，休学，退学，除籍及び卒業に関する事項
④ 学籍及び成績に関する事項
⑤ 授業及び試験に関する事項
⑥ 学生募集に関する事項
⑦ 入学事務に関する事項
⑧ 留学生及び聴講生に関する事項
⑨ 特待生に関する事項
⑩ 学位に関する事項

⑪　学生証及び証明書発行に関する事項
⑫　教職課程及び教員免許状並びに各種資格に関する事項
⑬　第12条第１号に定める事項
⑭　その他教務に関する事項

第５条　会計課は，次の事務を分掌する。
①　予算及び決算に関する事項
②　経理統計及び報告に関する事項
③　金銭の出納に関する事項
④　授業料台帳の作成整理保管に関する事項
⑤　教職員の給与支払に関する事項
⑥　補助金の経理に関する事項
⑦　助成金の経理に関する事項
⑧　奨学資金の経理に関する事項
⑨　後援会等の経理に関する事項
⑩　日本大学共済財団及び日本私立学校振興・共済事業団の経理に関する事項
⑪　雇用・事業・団体保険等の経理に関する事項
⑫　学生寮，厚生寮等の経理に関する事項
⑬　その他経理に関する事項

第６条　学生課は，次の事務を分掌する。
①　学生の厚生補導に関する事項
②　学生の健康管理（室）に関する事項
③　学生生活関係諸会議に関する事項
④　学生の賞罰に関する事項
⑤　学生の海外渡航に関する事項
⑥　学生の団体及び行事並びにその施設に関する事項
⑦　奨学生に関する事項
⑧　学生定期，学割，学生手帳等に関する事項
⑨　学生寮に関する事項
⑩　学生の厚生寮使用に関する事項
⑪　購買部，食堂等に関する事項
⑫　障がい学生の支援に関する事項
⑬　学生支援室に関する事項
⑭　第11条及び第12条第２号以下に定める事項
⑮　その他学生に関する事項

第７条　管財課は，次の事務を分掌する。
①　土地・建物及び備品等の管理保全に関する事項
②　施設の営繕及び改修に関する事項
③　電気及び冷暖房に関する事項
④　土地・建物等の取得，処分に関する事項
⑤　備品の調達及び用度に関する事項

⑥　火災保険その他損害保険等に関する事項
⑦　各種補助金による物品の購入に関する事項
⑧　その他管財に関する事項

第８条　図書館事務課は，次の事務を分掌する。
①　日本大学図書館の共同運営に関する事項
②　図書の購入及び資料の収集に関する事項
③　図書の整理及び保管に関する事項
④　図書及び資料の出納並びに貸出しに関する事項
⑤　図書及び資料の冊子目録作成に関する事項
⑥　文献複写及び学内外諸機関との資料相互貸借に関する事項
⑦　各研究室の図書及び資料の整理並びに保管に関する事項
⑧　参考事務及び読書指導に関する事項
⑨　欠損の図書及び雑誌等の合本・製本に関する事項
⑩　図書委員会に関する事項
⑪　総合目録作成に関する事項
⑫　図書館館勢の調査・統計に関する事項
⑬　その他図書館に関する事項

第９条　研究事務課は，次の事務を分掌する。
①　研究助成金及び研究補助金に関する事項
②　教職員の研究業績に関する事項
③　委託・共同研究に関する事項
④　産官学連携研究に関する事項
⑤　研究委員会に関する事項
⑥　付置研究所の事務に関する事項
⑦　その他学術研究支援に関する事項

第10条　組織規程第19条第２項によって，就職指導課及び体育課を設置した場合の事務分掌は，第４条第13号及び第６条第14号の規定にかかわらず次条以下に定めるところによる。

第11条　就職指導課は，次の事務を分掌する。
①　学生の就職指導に関する事項
②　学生の就職開拓に関する事項
③　学生の就職指導委員会に関する事項
④　学生の就職指導講座に関する事項
⑤　学生就職の調査，統計，資料等に関する事項
⑥　学生就職の学内選考・推薦に関する事項
⑦　学生の就職関係証明に関する事項
⑧　学生の人物考査に関する事項
⑨　その他学生の就職指導に関する事項

第12条　体育課は，次の事務を分掌する。
①　正課体育に関する事項
②　体育施設の管理に関する事項

③　学生の体育用具の管理に関する事項
④　学生の体育団体に関する事項
⑤　学生の健康診断に関する事項
⑥　その他体育に関する事項

第13条　組織規程第19条第３項によって設置した大学院事務課は，専門職大学院に関する事務を分掌し，その内容は当該関連学部が別に定めるものとする。

第14条　組織規程第19条第２項によって，課を減じた場合の事務分掌は，別に定める。

附　　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

【資料16】

日本大学生物資源科学部就職指導委員会内規

（昭和61年９月18日制定　平成19年３月23日改正
昭和63年３月17日改正　平成19年４月１日施行
平成８年３月５日改正　平成28年11月17日改正
平成８年４月１日施行　平成28年６月３日施行）

（委員会の設置）

第１条　日本大学生物資源科学部（以下「学部」という）に学部長の諮問機関として就職指導委員会（以下「委員会」という）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，学部の就職指導に関する事項について審議答申する。

２　委員会は，前項に関連ある事項について審議し，学部長に意見を上申することができる。

（構 成）

第３条　委員会は，次の者をもって構成し，委員及び幹事は学部長が委嘱する。

①　委　員

（１）　就職指導担当

（２）　就職指導課長

（３）　学部長が指名する者 若干名

②　幹　事 若干名

（委員長）

第４条　委員会の委員長は，就職指導担当とする。

２　委員長に事故があるときは，副委員長又は委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（副委員長）

第５条　副委員長は，委員長を補佐する。

（常任委員）

第６条　学部長は，必要に応じ，委員の中から常任委員を委嘱することができる。

２　常任委員は，委員長の命を受けて必要な業務を行う。

（委員の任期）

第７条　委員長，副委員長，常任委員，委員及び幹事の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

２　補充の委員及び幹事の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員会の招集）

第８条　委員会は，委員長が招集し，その議長となる。

（構成員以外の出席）

第９条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。

（小委員会）

第10条　委員長は，必要に応じ，学部長の承認を得て，委員及び委員以外の者を委嘱して小委員会を置くことができる。

２　小委員会については，別に定める。

（議事録）

第11条　委員会の議事については，議事の経過及び議決事項を記載した議事録を作成するものとする。

２　議事録は，次条に規定する所管課長が保管する。

（所 管）

第12条　委員会に関する事務は，就職指導課が行う。

附　　則

この内規は，平成28年６月３日から施行する。

日本大学生物資源科学部

動物学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況..... 3
１）学生の確保の見通し..... 3
（ア）定員充足の見込み..... 3
（イ）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要..... 6
（ウ）学生納付金の設定の考え方..... 7
２）学生確保に向けた具体的な取り組み状況..... 8
（２）人材需要の動向等社会の要請..... 10
１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的..... 10
２）上記１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 12

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

１）学生の確保の見通し

（ア）定員充足の見込み

①18 歳人口の推計と進学率

ⅰ）日本の将来推計人口

「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計)」（出生中位・死亡中位仮定）（国立社会保障･人口問題研究所）によれば、日本の総人口は減少傾向にあり、平成27（2015）年に 127,095,000 人であったのが、令和 12（2030）年には 119,125,000 人、令和 27（2045）年には、106,421,000 人にまで減少すると推計されている。

都道府県別の総人口に占める割合は、平成 27（2015）年は東京都（10.6％）が最も多く、ついで神奈川県（7.2％)、大阪府（7.0％）である。令和27（2045）年には、東京都（12.8％)、神奈川県（7.8％)、大阪府（6.9％）と推計されている。

ⅱ）18 歳人口

大学受験年齢となる 18 歳人口を指数でみると、令和 5（2023）年の 18 歳人口を 100 とした時、令和 14（2032）年には全国で 93.3、南関東では 98.0、埼玉県 95.3、千葉県 93.1、東京都 103.4、神奈川県 96.5 となる。千葉県を除き、全国と比べ、減少は緩やかであり、東京都では若干増加すると推計される（【資料１】)。

ⅲ）南関東の進学率の推移

平成 23（2011）年から令和 2（2020）年にかけての南関東の大学・短期大学・専門学校の進学率（現役）の推移をみると、南関東全体では、大学進学率は平成 23（2011）年に56.0％であったが、令和2（2020）年には58.6%と2.6ポイント上昇している（【資料２】)。

上記のとおり、日本大学生物資源科学部（以下「本学部」）の所在する神奈川県のある南関東では、全国的な人口減少の影響は避けられないものの、18 歳人口の減少は比較的緩やかであり、進学率も上昇傾向にある。また、本学部では高校生に選ばれる大学・学部・学科となるため、社会環境の変化に対応し、社会的要請に応えられる教育改革等を行っており、学部改組はその一環である。

学部改組にあたり、本学部の教育内容等を高校生に周知するための取り組みを行い、高校生の理解を深めることで、学生確保は十分可能であると考える。

【資料１】18 歳人口の推計

【資料２】大学・短期大学・専門学校の進学率（現役）の推移

②私立大学の入試動向

ⅰ）全国・南関東の私立大学の入試動向

『私立大学・短期大学等入学志願動向（平成 14 年度～令和 3 年度)』（日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センター）（【資料３】）によれば、全私立大学の志願者数は、平成 23（2011）年に 3,210,052 人だったのが、令和 3（2021）年には 3,834,862 人となり、624,810 人増加した。南関東では 467,323 人から 601,551 人で、134,228 人の増加、東京都では 1,345,824 人から 1,429,351 人で 83,527 人に増加している。

【資料３】全国・南関東・東京の私立大学の入試動向

ⅱ）農学系分野の志願状況

「系統別私立大学の志願者動向」（【資料４】）をみると、農学分野の志願者数は、平成 23（2011）年に 69,494 人だったのが、令和 3（2021）年には 78,039 人となり、過去10年間で8,545人増加している。過去5年間（平成28（2016）年から令和3（2021）年）では 5,501 人減少しているが、長期的には増加している。理工系、医療系に比べ、増加は少ないものの、堅調に推移しているといえる。

「農学分野の私立大学の入試動向」（【資料５】）をみると、過去 10 年間（平成 23（2011）年から令和3（2021）年）に、入学定員は2,042人増加し、志願倍率（志願者数／入学定員）は、令和 3（2021）年には 8.63 倍となっており、十分な志願者数が存在している。入学定員充足率は、過去10年間で充足していないのは、平成30（2018）年の99.36%、令和3（2021）年96.4%である。その他の年度は充足しており、安定的に入学定員を充足しているといえる。

【資料４】系統別の私立大学の志願動向

【資料５】私立大学・短期大学等入学志願動向

③高校生の進学希望分野における農学分野の割合

【資料６】は、高校生の進学分野の調査（「進学ブランド力調査 2021」（リクルート進学総研））の結果である。関東エリア（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県)、東海エリア（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の4県)、関西エリア（大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、滋賀県の2府4県） の高校生 120,000 人を対象とした調査であり、有効回答数は 12,271 人である。この調査では進学希望分野についても調査しており、「生物・農・獣医・林産・水産」分野は、2019年は7.2%、2020年は7.3%、2021年は7.4%の高校生が希望している。地球温暖化等の環境問題への社会的関心の高まりを背景に、2年連続して増加している。

【資料６】「進学ブランド力調査 2021」（リクルート進学総研）

④動物学科と同系統学部・学科（競合校）の入試状況

本学部が開設する動物学科（入学定員 136 人）は、養成する人材として「幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。」としている。

本学部の令和3（2021）年度の入学者を都道府県別にみると、入学者がいないのは富山県、滋賀県、和歌山県、鳥取県、高知県、佐賀県の 6 県である（後掲【資料 11-1】参照）。したがって、本学部が開設を予定する動物学科は全国の同系統の学部・学科と競合すると考えられる。

競合する私立大学農学系の定員は、東海大学生物学部生物学科（北海道）70 人、北里大学獣医学部動物資源科学科（青森県）130 人、日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科（東京都）100 人、東京農業大学農学部動物科学科（神奈川県）140 人、麻布大学獣医学部動物応用科学科（神奈川県）130 人、東海大学農学部応用動物科学科（熊本県）80 人、摂南大学農学部応用生物科学科（大阪府）80 人である。これら大学の直近 2 年間の入試状況（一般入試・大学入学共通テスト利用方式）における志願者状況をみると、2020 年度は 6,088 人が志願しており、合格者は 2,565 人であり、競争倍率は2.4倍であった。2021年度は4,529人志願しており、合格者は2,794人であり、競争倍率は 1.6 倍であった（【資料７】）。18 歳人口の減少が進む中においても高校生の将来の進路先分野としてのニーズは高いといえる。

以上のことから、本学部動物学科においては、既存競合と同水準以上の志願者数を確保できると考える。

【資料７】動物学科の競合校の入試状況（一般選抜・大学入学共通テスト利用方式）

⑤動物学科と同系統学部・学科（競合校）の収容定員充足率

本学部が開設する動物学科の競合校の収容定員充足率をみると、東海大学生物学部生物学科（北海道）98.6%、北里大学獣医学部動物資源科学科（青森県）97.3%、日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科（東京都）97.5%、東京農業大学農学部動物科学科（神奈川県）106.3%、麻布大学獣医学部動物応用科学科（神奈川県）104.2%、東海大学農学部応用動物科学科（熊本県）81.3%、摂南大学農学部応用生物科学科（大阪府）86.3%である（【資料８】）。

【資料８】動物学科の競合校の収容定員充足率

⑥日本大学生物資源科学部の入試結果の推移

【資料９】は、本学部の過去 5 年間のすべての入試形態の総括表である。志願者数は、平成 29（2017）年の 10,455 人から、令和 3（2021）年には 7,177 人となり、3,278 人減少しているが、募集定員の 4.72 倍であり、安定的に志願者を確保している。

また、基礎となる既存学科の動物資源科学科の志願者数は、令和 3（2021）年には 530 人で、募集定員の 3.90 倍であり、安定的に志願者を確保している。

【資料９】日本大学生物資源科学部の入試結果の推移

⑦日本大学生物資源科学部の収容定員充足率

【資料 10】は、本学部各学科の収容定員充足率である。生物環境工学科は 99.6%となっているが、基礎となる既存学科の動物資源科学科では 102.2%、また学部全体では 104.2%と十分に収容定員を充足している。

【資料 10】日本大学生物資源科学部の収容定員充足率

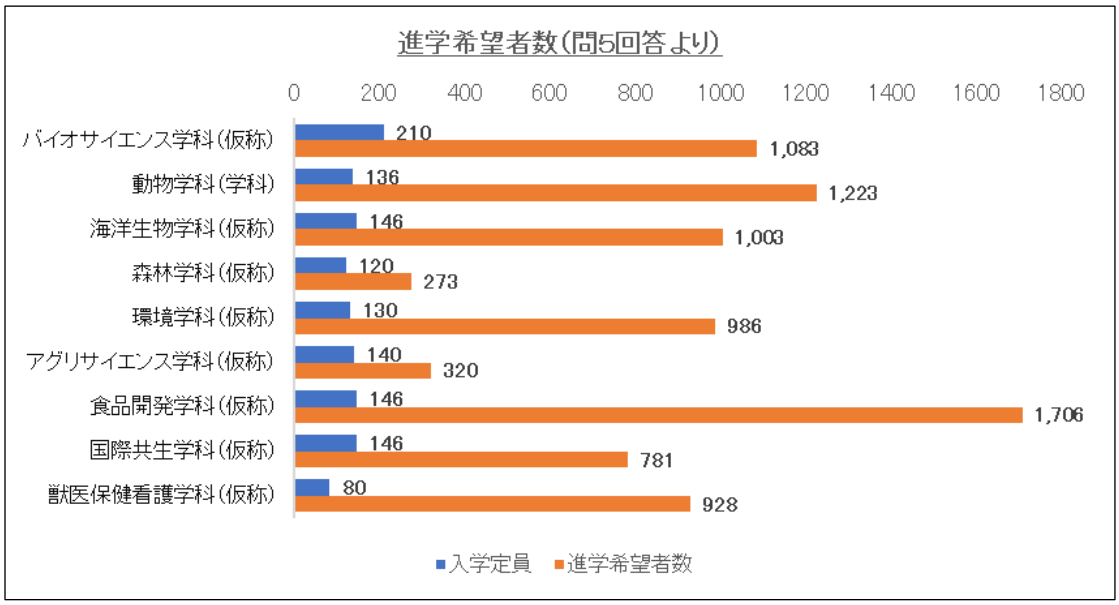
（イ）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学部が開設予定する動物学科の学生確保の見通しを明らかにするために、高校 2 年生（調査実施時）を対象として、「入学意向アンケート調査」を実施した。調査結果は次の通りである。

日本大学生物資源科学部改組に向けた「入学意向アンケート調査」の概要

調査時期	令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月
アンケート実施対象校数	273 校
アンケート回収件数	40,697 件（回収件数：40,700 件。うち、全ての設問に無回答だった 3 件を無効回答とした。）
調査実施対象高校	本学部の入学者は全国的であるため、47 都道府県の高校を対象に実施（【資料 11】参照）。

グラフ 1　日本大学生物資源科学部改組に向けた「入学意向アンケート調査」結果（抜粋）



上記の「入学意向アンケート調査」において、「問 5　あなたが進学を希望する学科をお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください)。」に対して、回答者 40,697 人中 1,223 人（3.0%）が、動物学科と回答した。これは、入学定員 136 人の 8.99 倍である（【資料 12】)。

上記のアンケート調査結果から、本学部が開設を予定する動物学科では入学定員の 136 人を充足する見込みである。

【資料 12】日本大学生物資源科学部入学意向アンケート調査報告書

（ウ）学生納付金の設定の考え方

動物学科の学費は以下の表のとおりに設定した。競合校とほぼ同水準の金額であり、なおかつ継続的に教育研究に取り組み、経営基盤を支えることのできる設定としている（表 1)。

また、本学では経済的にも安心して学修に取り組めるように 60 種類を超える奨学金制度を設けているほか、「高等教育の修学支援新制度」の利用が可能である。

表１　日本大学生物資源科学部動物学科と競合校の学費

	大学	学部	学科	入学金	授業料・教育充実	初年度納入金合計	2年目以降納入金/年	4年間学納金合計
	日本	**生物資源科学**	**動物**	**260,000**	**1,440,000**	**1,700,000**	**1,440,000**	**6,020,000**
1	東海	生物	生物	200,000	1,293,200	1,493,200	1,275,000	5,318,200
2	北里	獣医	動物資源科学	250,000	1,100,000	1,350,000	1,300,000	5,250,000
4	日本獣医生命科学	応用生命	動物科学	250,000	1,370,000	1,620,000	1,350,000~1,400,000	5,770,000
5	東京農業	農	動物科学	270,000	1,253,400	1,523,400	1,286,400~1,386,400	5,532,600
6	麻布	獣医	動物応用科学	250,000	1,574,600	1,824,600	1,567,000	6,525,660
7	東海	農	応用動物科学	200,000	1,404,200	1,604,200	1,275,000	5,429,200
9	摂南	農	応用生物科学	250,000	1,400,000	1,650,000	1,500,000	6,150,000
							出典：各大学ホームページより（令和3年5月1日現在）	

２）学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学部では、ホームページや SNS 等を活用した広報活動を行うほか、日本大学進学ガイドや入学者選抜募集要項などの媒体で広く周知を図っている。また、オープンキャンパスや各種進学相談会への参加、南関東や本学付属高校への訪問を積極的に行い、本学部の教育の特色や魅力を伝えるなど、志願者数増加のための取り組みを行っている。

具体的には、次のとおりである。

【学生確保に向けた具体的な取り組み】

①オープンキャンパス・入試相談会・学部説明会

本学部のオープンキャンパスでは、学部・学科の内容紹介、キャンパスや施設見学、模擬授業、入試に関する説明会、在学生との交流などを通じて、本学部の理解を深め、五感を通して魅力を実感できるよう工夫している。令和３（2021）年度はオープンキャンパスを７月に４日間、８月に２日間実施した。８月は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインに変更して実施した。また、適宜入試相談会と進学相談会を実施しており、令和３（2021）年度はオープンキャンパスと合わせて、来場者 1,514 人、オンライン参加者 719 人の参加を得た（表２）。

令和４（2022）年度は、高校生・保護者に本学部キャンパスの雰囲気を実感してもらう機会として、新型コロナウイルス感染症の予防に努めながらオープンキャンパス・進学相談会を実施する。開催日等については、ホームページへの掲載、SNS 等での発信、高等学校への案内などにより周知を図る予定である。

表２　令和３（2021）年度オープンキャンパス・入試相談会・学部説明会の開催実績

開催日	来場者	参加者	内容
7/10・17・24・31	862		オープンキャンパス（対面式）
7/22・23	54		入試相談会
8/4	8		入試相談会
8/8・8/9		719	オープンキャンパス（オンラインに変更）
8/17～20	153		入試相談会
8/23～27	134		入試相談会
8/30・31	69		入試相談会
10/9	39		学部説明会
10/23	67		学部説明会
10/30	78		学部説明会
11/13	21		学部説明会
11/27	20		学部説明会
12/4	9		学部説明会
合　　計	1,514	719	

②高校訪問

本学部の所在する神奈川県、隣接する東京都を中心に高校訪問を実施している。各高校の進路指導部を訪れ、本学部紹介、募集要項の説明、ガイドブック等印刷物の配布・掲示・配置の依頼を行っている。訪問は入学センターの職員を中心に、複数名の担当者により実施し、令和３（2021）年度は、入学実績校を中心に163校を訪問した。高校訪問は、ことに本学部で学ぶ意欲を持つ高校生を獲得する学校推薦型選抜、総合型選抜等入試の募集・広報には非常に重要な機会であり、令和４（2022）年度も令和３（2021）年度以上の高校の訪問を予定している。

③高校説明会への参加

本学部では、高校で行われる学部説明会・系統別説明会等には積極的に参加し、高校生に本学に対する理解を深めてもらえるよう努めている。また、同時に授業内容を高校生に体験してもらう模擬授業も行っている。令和３（2021）年度は学部説明会・系統別説明会には61回参加し、模擬授業は15回実施した。

④学外説明会への参加

ｉ）農学・獣医学・生物環境系大学連合等主催の学外説明会

農学・獣医学・生物環境系大学連合は、農学・獣医学・生物環境系の学部を持つ大学が共同で広報活動を行う組織である。同連合会が主催する進学相談会は全国で実施されており、令和　3（2021）年度、本学部は全国各地　11　回の進学相談会に参加した。

令和 4（2022）年度も同程度の回数の参加を予定している。また、「農学・生命科学系系統別大学フェア」（主催：株式会社さんぽう）にも参加した。

ⅱ）オール日大説明会

外部企業・団体が主催し、本学全学部が参加するオール日大説明会に、令和3（2021）年度は 8 回参加した。日本大学の全国的に高い知名度を生かし、本学部を強く志望する高校生と接触する貴重な機会である。令和4（2022）年度も同程度の参加を予定している。

令和4（2022）年度も、学外説明会を志願者獲得との機会と捉えて積極的に活用する予定である。

⑤募集・広報印刷物

主な募集・広報用印刷物としては、本学全学部を紹介する「日本大学進学ガイド」、本学部を紹介する「日本大学生物資源科学部ガイドブック」、入試に関しては「日本大学生物資源科学部受験Q&A」、本学部各学科の内容を紹介する「学科リーフレット」を制作している。いずれも紙媒体、ホームページからダウンロード可能な web 媒体双方で本学部及び各学科の内容を紹介している。紙媒体は、高校訪問、オープンキャンパス、入試相談会、学部説明会、学外説明会、各種進学イベントなどの様々な機会で配布し、また、希望者への送付も行い、認知を高めるツールとして活用している。

⑥ホームページ、SNS 等の web の活用

高校生が多く利用する web を募集・広報に活用している。本学部のホームページでは、高校生の興味を惹くコンテンツを充実させている。「学部の YouTube チャンネル」、「学部のすべてがわかる動画ギャラリー」を設け、動画による学科紹介、研究内容紹介、キャンパスライフの紹介を行っている。また、LINE やFacebook では、本学部の入学センターのキャラクター「しげまる」を登場させ、各学科の活動を紹介するなど、高校生に親しまれる情報発信を行っている。令和4（2022）年度もさらにホームページ、SNS 等の web コンテンツを充実し、本学部の認知度の向上を図る。

（２）人材需要の動向等社会の要請

１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学部が開設する動物学科の養成する人材像、教育研究上の目的は次の通りである。

①養成する人材像

幅広い動物学の教育研究活動を通して，生態系の重要な要素としての動物の地位と動物が有する様々な潜在能力を理解し，近年の環境問題の解決から動物が有する特異的能力の人類の文化的生活への応用を考え，実践できる人材を養成する。動物学が包

含する専門分野のスペシャリスト養成のみならず，多様化する社会の幅広い分野に対応できる，優れた思考力・応用力・適応力を有した動物学に関するジェネラリストを養成する。

②教育研究上の目的

「生命史」,「生命科学」,「保全と環境」を主軸分野とし，それぞれの分野を相互に関連づけた総合的かつ特徴的なカリキュラム・学問体系を構築し，これらの教育・研究を通して，基礎的な動物の生活史の理解から，動物が関わる全ての環境問題，動物の能力を利用した多角的な応用技術を修得させることを教育目標とする。

③学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

動物学科は,「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している多様な環境下の動物に関するヒトを含めたさまざまな問題を発見・解決し，科学・技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源としての動物に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。動物学科では，これらの基本理念と教育目標に基づき,「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ動物学科で展開する教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

具体的な到達目標

【自ら学ぶ】

〔DP1〕　豊かな教養と動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全・修復に貢献できる。

〔DP2〕　日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

〔DP3〕　広義の動物学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的に思考することができる。

〔DP4〕　日本や国際社会が直面している動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

〔DP5〕　動物学の学問領域および動物に関する科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などにより得られた研究成果を発信することができる。

〔DP6〕　動物学に関する英語や日本語で書かれた文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

〔DP7〕　動物学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
〔DP8〕　地域社会，日本及び世界における動物の生命と生命史及びそれらを取り巻く環境に関わる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，動物に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

２）上記１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会的人材需要の動向

学校基本調査によると、他大学の農学系学部の卒業生（令和 3 年度）の就職状況は以下のとおりとなっている（出典：令和 3 年度学校基本調査)。

農学系学部の卒業生 17,668 人のうち、就職者は 11,723 人（66.4%)、大学院への進学者が 4,375 人（24.8%）となっており、就職者と大学院進学者を足した 16,098 人は全体の 91.1%となっている。なお、大学の全分野の学部の卒業者数は 583,518 人であり、就職者と大学院進学者の合計 496,124 人の割合は、85.0%である。

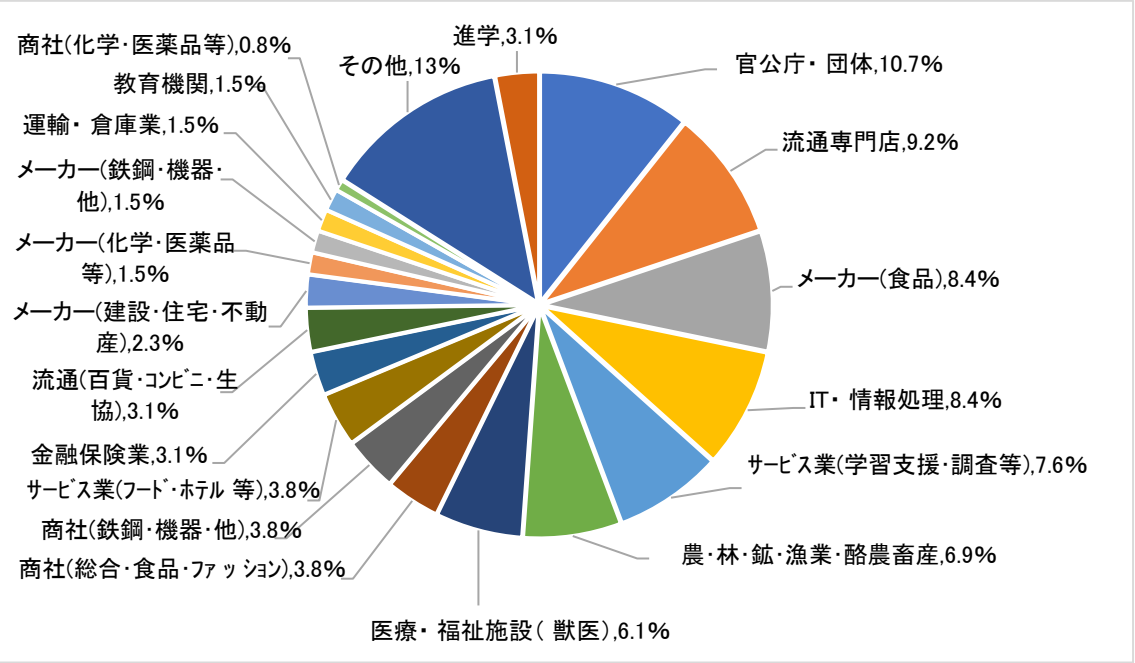
上記の状況から、農学部の卒業生の人材需要は、全学部の平均よりも 6 ポイント程度堅調であり、90%以上の就職率（大学院進学を含む）となっている。本学部の卒業者は 4 年間の農学の学びを通じて、社会から求められる人材を養成することで、大学院進学を含め就職率 100%を目指していく。

②想定される進路

本学部が開設する動物学科の卒業生の想定される進路としては、①一般企業（環境アセスメント、サービス業、出版、教育関連、通信・情報、理化学・生化学関連などの各分野)、②中学校・高等学校教諭、③博物館等の学芸員、④国家公務員、地方公務員、⑤大学院への進学等が想定される。

以下のグラフは、基礎となる既存学科の日本大学生物資源科学部動物資源科学科の令和 2（2020）年度の進路実績である。官公庁・団体 10.7%、流通専門店 9.2%、メーカー(食品 8.4%、IT・情報処理 8.4%、サービス業(学習支援･調査等 7.6%、進学 3.1%と進路は多様である。本学部が開設する動物学科も同様に多様な進路が想定される。

グラフ２　動物資源科学科の就職実績（令和２年度）



④日本大学生物資源科学部改組構想に係わる人材需要アンケート調査

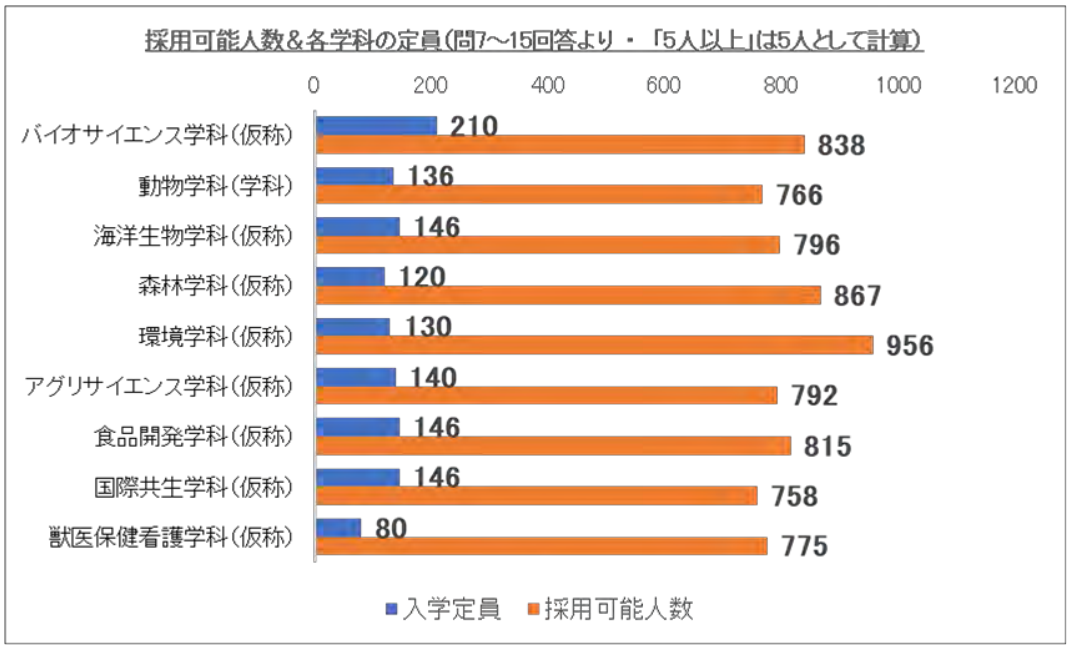
本学部が開設する生物資源科学部動物学科の人材需要の見通しを測定するため、令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月にかけて、本学部卒業生の採用実績のある企業及び採用が想定される上場企業の人事・採用担当者を対象として、「採用意向アンケート調査」を実施した。

就職先として想定される企業の事業所 4,722 カ所に依頼し、736 件の回答を得た。調査結果は次の通りである。

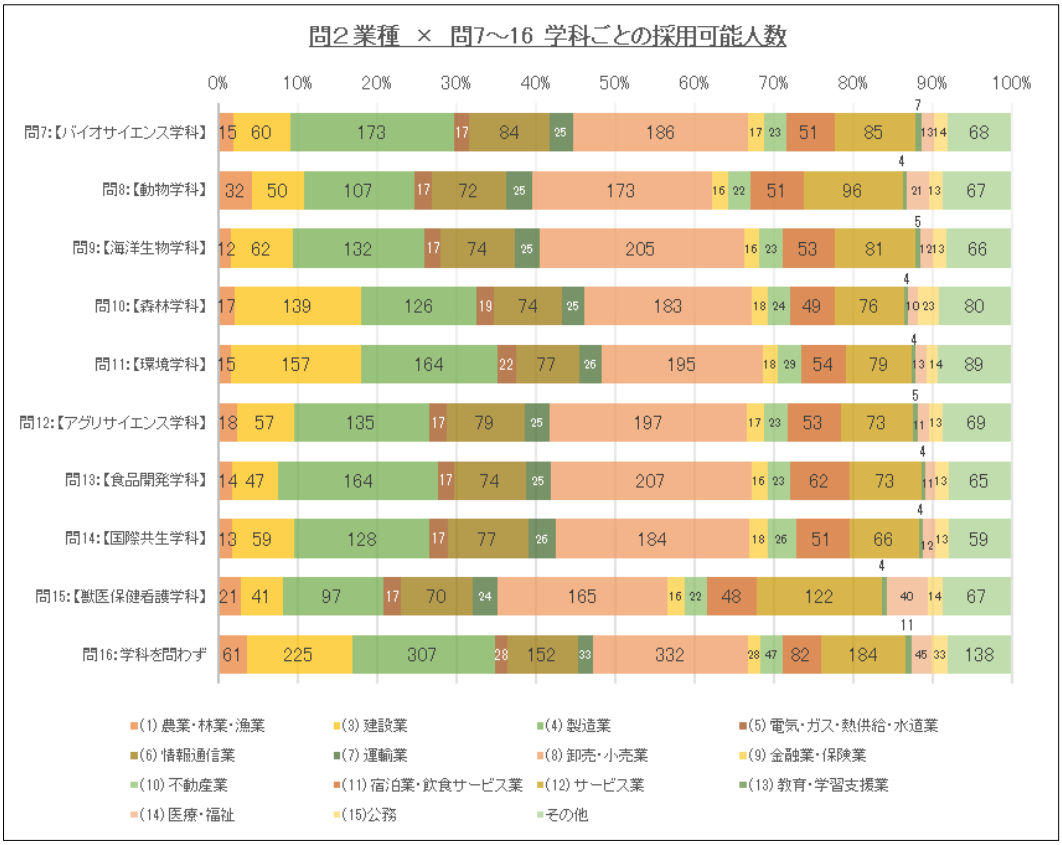
調査の概要

調査の実施時期	令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月
調査対象	・日本大学生物資源科学部に就職実績のある企業 ・製造業、卸売業、小売業、サービス業、建設業、農林水産業など、人材需要が見込まれる業種の上場企業
アンケート回答数	736 件（回収率 15.6%）

グラフ３　日本大学生物資源科学部改組に向けた「人材需要アンケート調査」結果（抜粋 1/2）



グラフ４　日本大学生物資源科学部改組に向けた「人材需要アンケート調査」結果（抜粋 2/2）



本学部が開設する動物学科に対する採用可能人数は、766 人であった。入学定員 136 人の 5.6 倍に相当する（グラフ３）。採用すると回答した業種は、卸売・小売業が 22.6％と最も高く、次いで製造業 14.0％であったが、多様な業種から採用意欲が示された（グラフ４）。

なお、本学部の養成する人材の社会的ニーズを問う設問（問6）には、26.9％が「ニーズは極めて高い」、55.4％が「ニーズはある程度高い」と回答しており、高い期待感が示された（【資料 13】）。

【資料 13】日本大学生物資源科学部人材需要アンケート調査報告書

以上の通り、本学部が開設する動物学科に対する社会的・地域的人材需要は十分にあると考える。

日本大学生物資源科学部 動物学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

資　料　目　次

【資料 １ 】 18 歳人口の将来推計

【資料 ２ 】 大学・短期大学・専門学校の進学率（現役）の推移

【資料 ３ 】 全国・南関東・東京の私立大学の入試動向

【資料 ４ 】 系統別の私立大学の志願動向

【資料 ５ 】 農学分野の私立大学の入試動向

【資料 ６ 】 進学ブランド力調査 2021（リクルート進学総研）

【資料 ７ 】 動物学科の競合校の入試状況（一般選抜・大学入学共通テスト利用方式）

【資料 ８ 】 動物学科の競合校の収容定員充足率

【資料 ９ 】 日本大学生物資源科学部の入試結果の推移

【資料 10】 日本大学生物資源科学部の収容定員充足率

【資料 11】 令和 3（2021）年度日本大学生物資源科学部＜都道府県別入学者数＞

【資料 12】 日本大学生物資源科学部入学意向アンケート調査報告書

【資料 13】 日本大学生物資源科学部採用意向アンケート調査報告書

【資料 1】

18 歳人口の将来推計

		R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	増加率 （R5→R14）
全国	人数	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963	
	割合	100.0	96.9	99.3	99.5	99.0	97.5	97.3	95.7	94.3	93.3	93.3%
南関東	人数	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670	
	割合	100.0	97.4	100.6	101.5	101.1	100.5	100.3	98.3	98.2	98.0	98.0%
埼玉	人数	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587	
	割合	100.0	97.8	100.4	100.5	100.5	99.9	98.9	96.0	95.5	95.3	95.3%
千葉	人数	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742	
	割合	100.0	96.2	99.0	99.0	100.7	98.6	97.7	95.9	94.1	93.1	93.1%
東京	人数	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791	
	割合	100.0	97.9	102.0	103.7	100.8	101.4	101.7	100.8	101.9	103.4	103.4%
神奈川	人数	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550	
	割合	100.0	97.4	100.0	100.9	102.4	101.1	101.2	98.6	98.5	96.5	96.5%

出典：文部　科学省　学校基本調査
　　リクルート総研　18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向　2020

【資料2】

大学・短期大学・専門学校進学率（現役）の推移

			H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
			2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
南関東	卒業者数		258,475	262,514	274,289	265,566	272,945	273,689	277,147	275,934	276,073	272,506
	進学者数	大学	144,689	147,703	153,626	150,636	157,421	158,134	160,276	158,255	158,870	159,675
		短期大学	11,863	11,344	11,083	10,442	10,419	9,904	9,394	8,980	8,449	8,202
		専門学校	36,217	39,373	42,923	41,632	41,657	41,414	40,936	39,951	42,357	43,849
	進学率（現役）	大学	56.0%	56.3%	56.0%	56.7%	57.7%	57.8%	57.8%	57.4%	57.5%	58.6%
		短期大学	4.6%	4.3%	4.0%	3.9%	3.8%	3.6%	3.4%	3.3%	3.1%	3.0%
		専門学校	14.0%	15.0%	15.6%	15.7%	15.3%	15.1%	14.8%	14.5%	15.3%	16.1%
埼玉	卒業者数		54,160	55,086	57,520	55,057	57,093	57,150	57,262	56,970	56,992	56,643
	進学者数	大学	27,968	28,524	29,505	28,425	29,860	29,801	30,311	30,037	30,241	30,715
		短期大学	2,798	2,747	2,859	2,639	2,694	2,599	2,542	2,407	2,372	2,286
		専門学校	8,765	9,414	10,154	9,687	9,906	9,791	9,544	9,679	10,139	10,384
	進学率（現役）	大学	51.6%	51.8%	51.3%	51.6%	52.3%	52.1%	52.9%	52.7%	53.1%	54.2%
		短期大学	5.2%	5.0%	5.0%	4.8%	4.7%	4.5%	4.4%	4.2%	4.2%	4.0%
		専門学校	16.2%	17.1%	17.7%	17.6%	17.4%	17.1%	16.7%	17.0%	17.8%	18.3%
千葉	卒業者数		45,990	46,565	49,111	47,553	49,065	48,944	49,330	49,149	48,998	48,289
	進学者数	大学	22,938	23,166	24,196	23,617	25,119	25,390	25,594	25,526	25,256	25,317
		短期大学	2,193	2,122	2,132	1,967	2,011	1,982	1,800	1,770	1,636	1,635
		専門学校	7,703	8,347	9,082	9,038	9,064	8,734	8,766	8,828	9,352	9,412
	進学率（現役）	大学	49.9%	49.7%	49.3%	49.7%	51.2%	51.9%	51.9%	51.9%	51.5%	52.4%
		短期大学	4.8%	4.6%	4.3%	4.1%	4.1%	4.0%	3.6%	3.6%	3.3%	3.4%
		専門学校	16.7%	17.9%	18.5%	19.0%	18.5%	17.8%	17.8%	18.0%	19.1%	19.5%
東京	卒業者数		97,511	99,042	102,657	99,359	101,482	101,558	103,462	102,928	102,864	101,281
	進学者数	大学	60,179	61,676	63,798	62,684	64,973	65,084	65,931	64,435	65,016	65,530
		短期大学	3,560	3,374	3,080	2,946	2,806	2,536	2,347	2,220	1,986	1,986
		専門学校	11,055	11,955	13,256	12,563	12,024	12,431	12,082	10,851	11,902	12,316
	進学率（現役）	大学	61.7%	62.3%	62.1%	63.1%	64.0%	64.1%	63.7%	62.6%	63.2%	64.7%
		短期大学	3.7%	3.4%	3.0%	3.0%	2.8%	2.5%	2.3%	2.2%	1.9%	2.0%
		専門学校	11.3%	12.1%	12.9%	12.6%	11.8%	12.2%	11.7%	10.5%	11.6%	12.2%
神奈川	卒業者数		60,814	61,821	65,001	63,597	65,305	66,037	67,093	66,887	67,219	66,293
	進学者数	大学	33,604	34,337	36,127	35,910	37,469	37,859	38,440	38,257	38,357	38,113
		短期大学	3,312	3,101	3,012	2,890	2,908	2,787	2,705	2,583	2,455	2,295
		専門学校	8,694	9,657	10,431	10,344	10,663	10,458	10,544	10,593	10,964	11,737
	進学率（現役）	大学	55.3%	55.5%	55.6%	56.5%	57.4%	57.3%	57.3%	57.2%	57.1%	57.5%
		短期大学	5.4%	5.0%	4.6%	4.5%	4.5%	4.2%	4.0%	3.9%	3.7%	3.5%
		専門学校	14.3%	15.6%	16.0%	16.3%	16.3%	15.8%	15.7%	15.8%	16.3%	17.7%

出典：文部科学省　学校基本調査

リクルート総研　18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向　2020

【資料3】

全国・南関東・東京の私立大学の入試動向

区分		項目	平成23（2011）年度	平成24（2012）年度	平成25（2013）年度	平成26（2014）年度	平成27（2015）年度	平成28（2016）年度	平成29（2017）年度	平成30（2018）年度	令和元（2019）年度	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	2016→2021 5年間増減	2011→2021 10年間増減
全大学		集計学部数	1,593	1,618	1,635	1,659	1,688	1,712	1,743	1,776	1,814	1,849	1,878	166	285
		入学定員：A	452,997	455,780	458,456	460,251	463,697	467,525	477,662	484,986	487,065	491,012	495,162	27,637	42,165
		志願者数：B	3,210,052	3,198,128	3,390,171	3,464,428	3,513,499	3,629,277	3,882,572	4,158,495	4,425,625	4,368,215	3,834,862	205,585	624,810
		受験者数：C	3,091,333	3,074,603	3,266,528	3,329,843	3,376,430	3,489,798	3,732,227	3,999,532	4,246,911	4,174,803	3,663,962	174,164	572,629
		合格者数：D	1,079,546	1,117,758	1,147,250	1,195,738	1,241,262	1,245,863	1,238,559	1,211,499	1,250,373	1,348,219	1,437,906	192,043	358,360
		入学者数：E	481,959	474,893	484,024	477,630	487,064	488,209	499,677	497,773	500,083	503,830	494,213	6,004	12,254
		集計大学数	572	577	576	578	579	577	581	582	587	593	597	20	25
		志願倍率：B／A	7.09	7.02	7.39	7.53	7.58	7.76	8.13	8.57	9.09	8.90	7.74	−0.02	0.65
		合格率：D／C	0.35	0.36	0.35	0.36	0.37	0.36	0.33	0.30	0.29	0.32	0.39	0.04	0.04
		歩留率：E／D	0.45	0.42	0.42	0.40	0.39	0.39	0.40	0.41	0.40	0.37	0.34	−0.05	−0.10
		入学定員充足率：E／A	1.06	1.04	1.06	1.04	1.05	1.04	1.05	1.03	1.03	1.03	1.00	−0.05	−0.07
南関東	（埼玉・千葉・神奈川）	集計学部数	238	242	246	248	257	260	266	274	275	281	283	23	45
		入学定員：A	75,539	75,511	76,095	75,479	76,744	76,946	77,660	79,062	79,220	78,720	78,159	1,213	2,620
		志願者数：B	467,323	491,098	518,914	519,858	536,276	567,347	588,005	632,706	702,801	707,998	601,551	34,204	134,228
		受験者数：C	449,698	472,014	499,614	498,953	514,861	544,842	564,322	607,434	673,805	676,515	573,941	29,099	124,243
		合格者数：D	172,951	179,880	185,473	190,415	195,010	200,995	201,672	201,950	208,173	215,646	232,242	31,247	59,291
		入学者数：E	81,475	80,180	81,379	79,260	80,837	80,663	81,220	82,249	82,726	81,966	78,472	−2,191	−3,003
		集計大学数	75	77	77	75	76	76	76	75	75	76	76	0	1
		志願倍率：B／A	6.19	6.50	6.82	6.89	6.99	7.37	7.57	8.00	8.87	8.99	7.70	0.32	1.51
		合格率：D／C	0.38	0.38	0.37	0.38	0.38	0.37	0.36	0.33	0.31	0.32	0.40	0.04	0.02
		歩留率：E／D	0.47	0.45	0.44	0.42	0.41	0.40	0.40	0.41	0.40	0.38	0.34	−0.06	−0.13
		入学定員充足率：E／A	1.08	1.06	1.07	1.05	1.05	1.05	1.05	1.04	1.04	1.04	1.00	−0.04	−0.07
東京		集計学部数	342	349	355	363	365	373	382	387	394	405	409	36	67
		入学定員：A	134,750	136,313	138,053	140,249	140,944	143,252	147,473	150,338	151,246	153,066	154,577	11,325	19,827
		志願者数：B	1,345,824	1,317,589	1,345,499	1,358,035	1,357,734	1,409,070	1,522,045	1,636,117	1,685,565	1,607,565	1,429,351	20,281	83,527
		受験者数：C	1,281,616	1,251,618	1,280,765	1,289,730	1,290,224	1,344,866	1,454,679	1,563,899	1,602,527	1,522,960	1,358,116	13,250	76,500
		合格者数：D	348,351	363,551	369,770	391,715	404,671	404,585	395,688	376,343	380,422	413,673	445,112	40,527	96,761
		入学者数：E	150,900	150,997	152,036	153,178	155,093	155,993	158,749	156,063	154,123	154,922	155,892	−101	4,992
		集計大学数	111	112	111	113	113	113	113	114	115	118	117	4	6
		志願倍率：B／A	9.99	9.67	9.75	9.68	9.63	9.84	10.32	10.88	11.14	10.50	9.25	−0.59	−0.74
		合格率：D／C	0.27	0.29	0.29	0.30	0.31	0.30	0.27	0.24	0.24	0.27	0.33	0.03	0.06
		歩留率：E／D	0.43	0.42	0.41	0.39	0.38	0.39	0.40	0.41	0.41	0.37	0.35	−0.04	−0.08
		入学定員充足率：E／A	1.12	1.11	1.10	1.09	1.10	1.09	1.08	1.04	1.02	1.01	1.01	−0.08	−0.11

出典：『私立大学・短期大学等入学志願動向（平成14年度～令和3年度）』（日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センター）

【資料4】

系統別の私立大学の志願動向

系統別	平成23（2011）年度	平成24（2012）年度	平成25（2013）年度	平成26（2014）年度	平成27（2015）年度	平成28（2016）年度	平成29（2017）年度	平成30（2018）年度	令和元（2019）年度	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	2016→2021 5年間増減	2011→2021 10年間増減
全大学全体	3,210,052	3,198,128	3,390,171	3,464,428	3,513,499	3,629,277	3,882,572	4,158,495	4,424,451	4,368,215	3,834,862	205,585	624,810
人文科学	509,202	505,144	511,677	510,840	513,232	525,219	556,791	616,582	644,739	608,854	520,901	▲ 4,318	11,699
社会科学	1,195,979	1,133,237	1,157,434	1,147,300	1,182,405	1,264,473	1,421,465	1,557,832	1,665,089	1,576,350	1,379,159	114,686	183,180
理工系	528,263	553,717	607,166	651,819	665,838	664,238	694,118	728,042	795,496	842,140	751,179	86,941	222,916
農学	69,494	72,512	77,662	82,167	85,235	83,540	85,357	83,392	80,940	87,982	78,039	▲ 5,501	8,545
医療系	286,766	311,654	365,867	404,991	407,849	399,351	404,708	409,125	398,692	400,650	367,862	▲ 31,489	81,096
その他	620,348	621,864	670,365	667,311	658,940	692,456	720,133	763,522	839,495	852,239	737,722	45,266	117,374

出典：『私立大学・短期大学等入学志願動向（平成14年度～令和3年度）』（日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センター）

【資料5】

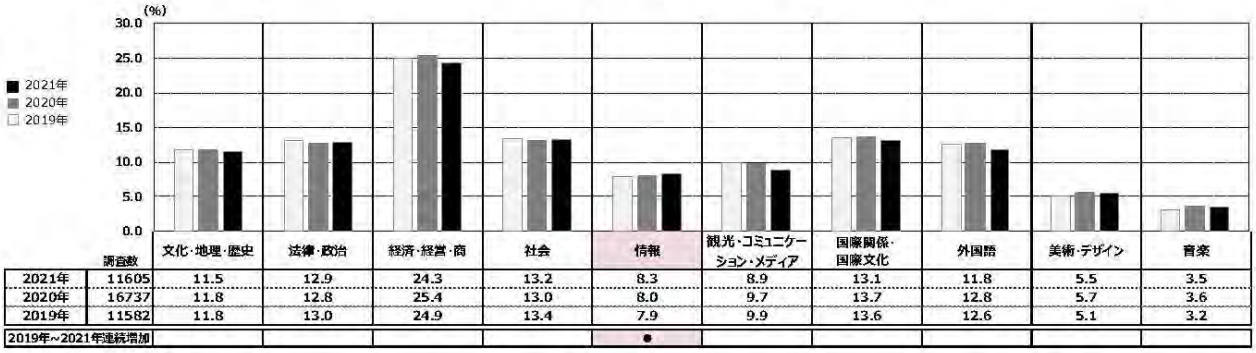
農学分野の私立大学の入試動向

	平成23(2011)年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	2016→2021 5年間増減	2011→2021 10年間増減
集計学校数	17	17	17	17	18	18	18	21	22	23	25	7	8
入学定員:A	7,000	6,960	6,960	6,960	7,515	7,515	7,741	8,309	8,409	8,784	9,042	1,527	2,042
志願者数:B	69,494	72,512	77,662	82,167	85,235	83,540	85,357	83,392	80,940	87,982	78,039	▲ 5,501	8,545
受験者数:C	66,487	69,536	74,596	78,620	81,261	79,288	80,682	78,650	76,236	81,478	72,644	▲ 6,644	6,157
合格者数:D	20,722	20,988	20,640	21,842	24,459	24,805	25,443	25,821	28,139	32,993	34,714	9,909	13,992
入学者数:E	8,096	7,921	7,814	7,789	8,491	8,416	8,174	8,256	8,641	8,973	8,717	301	621
志願倍率:B／A	9.93	10.42	11.16	11.81	11.34	11.12	11.03	10.04	9.63	10.02	8.63	−2.49	−1.30
合格率:D／C	31.17%	30.18%	27.67%	27.78%	30.10%	31.28%	31.53%	32.83%	36.91%	40.49%	47.79%	16.51%	16.62%
歩留率:E／D	39.07%	37.74%	37.86%	35.66%	34.72%	33.93%	32.13%	31.97%	30.71%	27.20%	25.11%	−8.82%	−13.96%
入学定員充足率:E／A	115.66%	113.81%	112.27%	111.91%	112.99%	111.99%	105.59%	99.36%	102.76%	102.15%	96.41%	−15.58%	−19.25%

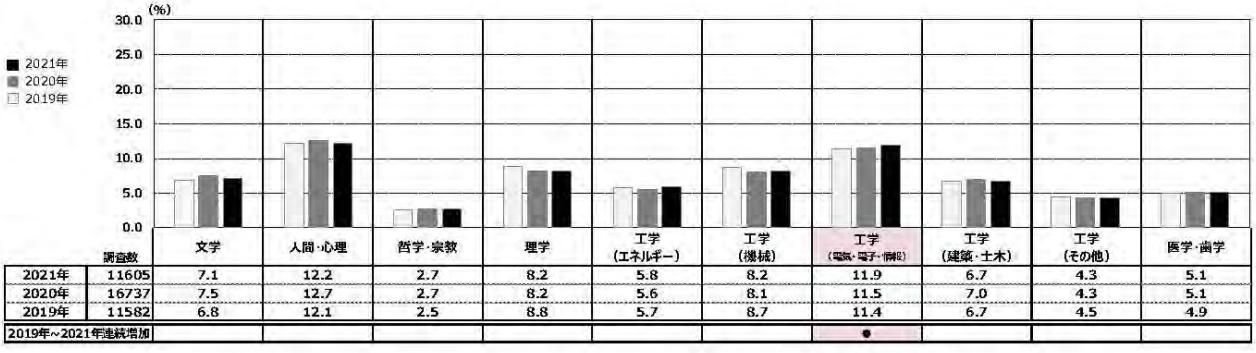
出典:『私立大学・短期大学等入学志願動向(平成14年度～令和3年度)』(日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センター)

【資料6】

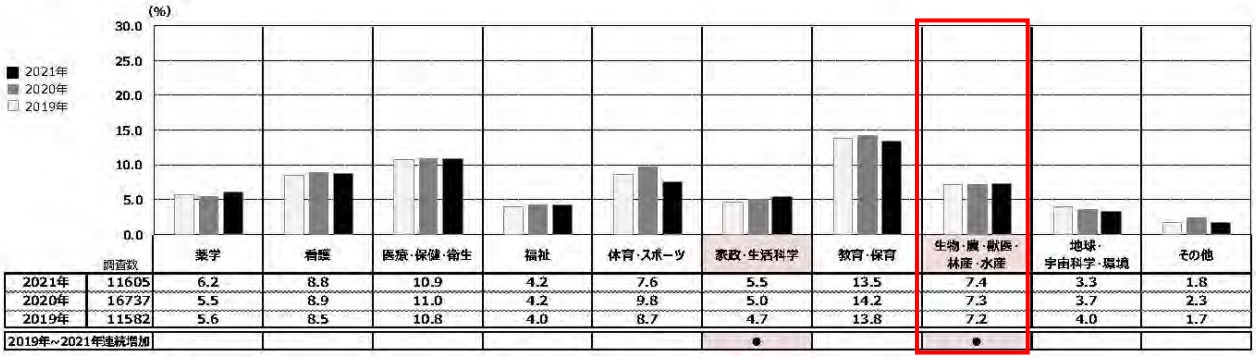
■ 進学希望分野（「関東」＋「東海」＋「関西」全体／各複数回答）　単位：%



	調査数	文化・地理・歴史	法律・政治	経済・経営・商	社会	情報	観光・コミュニケーション・メディア	国際関係・国際文化	外国語	美術・デザイン	音楽
2021年	11605	11.5	12.9	24.3	13.2	8.3	8.9	13.1	11.8	5.5	3.5
2020年	16737	11.8	12.8	25.4	13.0	8.0	9.7	13.7	12.8	5.7	3.6
2019年	11582	11.8	13.0	24.9	13.4	7.9	9.9	13.6	12.6	5.1	3.2
2019年~2021年連続増加						●					



	調査数	文学	人間・心理	哲学・宗教	理学	工学（エネルギー）	工学（機械）	工学（電気・電子・情報）	工学（建築・土木）	工学（その他）	医学・歯学
2021年	11605	7.1	12.2	2.7	8.2	5.8	8.2	11.9	6.7	4.3	5.1
2020年	16737	7.5	12.7	2.7	8.2	5.6	8.1	11.5	7.0	4.3	5.1
2019年	11582	6.8	12.1	2.5	8.8	5.7	8.7	11.4	6.7	4.5	4.9
2019年~2021年連続増加								●			



	調査数	薬学	看護	医療・保健・衛生	福祉	体育・スポーツ	家政・生活科学	教育・保育	生物・農・獣医・林産・水産	地球・宇由科学・環境	その他
2021年	11605	6.2	8.8	10.9	4.2	7.6	5.5	13.5	7.4	3.3	1.8
2020年	16737	5.5	8.9	11.0	4.2	9.8	5.0	14.2	7.3	3.7	2.3
2019年	11582	5.6	8.5	10.8	4.0	8.7	4.7	13.8	7.2	4.0	1.7
2019年~2021年連続増加							●		●		

※東名阪を合算するに当たり、各エリア内の男女比だけでなく、3エリア間の生徒数比を加味してウエイトバックを行っている
※2年連続増加した分野は薄赤の網がけ

出典：「進学ブランド力調査 2021（リクルート進学総研）」P.12

【資料７】

動物学科の競合校の入試状況（一般選抜・大学入学共通テスト利用方式）

	大学	学部	学科	所在地	2021年	2017				2018				2019				2020				2021				志願者数増減		備　考
					入学定	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	**志願者**	**受験者**	**合格者**	**実質倍率**	17/21	21/20	
参考	日本	生物資源科学	動物資源科学	東京都藤沢市	136	740	702	217	3.2	679	620	191	3.2	529	469	233	2.01	579	501	336	1.49	422	372	283	1.3	57.0%	72.9%	
1	東海	生物	生物	北海道札幌市	70	613	587	266	2.2	529	502	193	2.6	577	548	269	2.0	534	498	279	1.8	410	396	277	1.4	66.9%	76.8%	
2	北里	獣医	動物資源科学	青森県十和田市	130	829	734	333	2.2	1019	935	346	2.7	789	707	394	1.8	828	740	529	1.4	658	566	550	1.0	79.4%	79.5%	
4	日本獣医生命科学	応用生命	動物科学	東京都武蔵野市	100	665	643	295	2.2	613	590	326	1.8	697	665	373	1.8	575	560	323	1.7	441	430	422	1.0	66.3%	76.7%	
5	東京農業	農	動物科学	神奈川県厚木市	140	1856	1810	558	3.2	2137	2092	508	4.1	1799	1762	574	3.1	1471	1435	540	2.7	1097	1057	456	2.3	59.1%	74.6%	
6	麻布	獣医	動物応用科学	神奈川県相模原市	130	770	748	454	1.6	980	923	410	2.3	873	827	307	2.7	755	705	352	2.0	540	505	432	1.2	70.1%	71.5%	
7	東海	農	応用動物科学	熊本県熊本市	80	369	344	212	1.6	405	370	184	2.0	390	365	208	1.8	330	305	224	1.4	293	267	211	1.3	79.4%	88.8%	
9	摂南	農	応用生物科学	大阪府枚方市	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1595	1419	318	4.5	1090	911	446	2.0	-	68.3%	

出典：「ガイドライン」（河合塾）／各大学ホームページより作成

【資料８】

動物学科の競合校の収容定員充足率

	大学	学部	学科	所在地	収容定員	現員	収容定員充足率	備考
1	東海	生物	生物	北海道札幌市	280	276	98.6%	
2	北里	獣医	動物資源科学	青森県十和田市	520	506	97.3%	
3	日本獣医生命科学	応用生命	動物科学	東京都武蔵野市	400	390	97.5%	
4	東京農業	農	動物科学	神奈川県厚木市	560	595	106.3%	
5	麻布	獣医	動物応用科学	神奈川県相模原市	520	542	104.2%	
6	東海	農	応用動物科学	熊本県熊本市	320	260	81.3%	
7	摂南	農	応用生物科学	大阪府枚方市	160	138	86.3%	※2020年開設、1～2年生按分
					出典：各大学ホームページより（令和3年5月1日現在）			

【資料９】

日本大学生物資源科学部の入試結果

学科	募集人員	平成29（2017）年度				平成30（2018）年度				平成31（2019）年度				令和2（2020）年度				令和3（2021）年度			
		志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率	志願者	受験者	合格者	実質倍率
生命農	130	1,028	976	395	2.5	706	650	316	2.1	461	422	340	1.2	806	736	479	1.54	602	549	464	1.2
生命化学	130	854	825	336	2.5	694	656	321	2.0	581	541	343	1.6	734	651	431	1.51	618	555	431	1.3
獣医	120	2,229	2132	237	9.0	1,683	1,546	218	7.1	1,450	1,331	239	5.6	1,485	1,304	290	4.50	1,403	1,255	237	5.3
動物資源科学	136	852	814	302	2.7	796	737	284	2.6	624	564	325	1.7	656	578	413	1.40	530	475	383	1.2
食品ビジネス	136	637	621	216	2.9	526	499	274	1.8	594	551	230	2.4	727	677	272	2.49	582	542	281	1.9
森林資源科学	130	641	616	289	2.1	435	407	312	1.3	457	416	366	1.1	698	645	354	1.82	406	366	343	1.1
海洋生物資源科学	136	1,027	981	310	3.2	953	907	264	3.4	754	705	282	2.5	855	771	349	2.21	816	743	324	2.3
生物環境工	130	502	485	258	1.9	366	332	276	1.2	388	348	274	1.3	622	565	353	1.60	383	345	307	1.1
食品生命	136	747	725	310	2.3	717	694	335	2.1	520	491	336	1.5	638	577	352	1.64	571	517	392	1.3
国際地域開発	130	540	514	251	2.0	413	388	221	1.8	569	538	236	2.3	595	560	234	2.39	417	383	256	1.5
応用生物科学	126	876	845	326	2.6	633	586	304	1.9	586	532	371	1.4	702	627	439	1.43	544	483	340	1.4
くらしの生物	80	522	496	227	2.2	401	379	151	2.5	249	231	181	1.3	325	288	227	1.27	305	272	216	1.3
合計	1,520	10,455	10,030	3,457	2.9	8,323	7,781	3,276	2.4	7,233	6,670	3,523	1.9	8,843	7,979	4,193	1.90	7,177	6,485	3,974	1.6

【資料１０】

日本大学生物資源科学部の収容定員充足率

学科	収容定員	現員	収容定員充足率
生命農	520	540	103.8%
生命化	520	531	102.1%
獣医	720	799	111.0%
動物資源科学	544	556	102.2%
食品ビジネス	544	571	105.0%
森林資源科学	520	522	100.4%
海洋生物資源科学	544	588	108.1%
生物環境工	520	518	99.6%
食品生命	544	567	104.2%
国際地域開発	520	552	106.2%
応用生物科学	504	523	103.8%
くらしの生物	320	320	100.0%
合計	6,320	6,587	104.2%
		（令和3年5月1日）	

【資料１１】

令和3（2021）年度日本大学生物資源科学部＜出身高校所在地（都道府県）別・入学者数＞

都道府県	生命農	生命化	獣医	動物資源科学	食品ビジネス	森林資源科学	海洋生物資源科学	生物環境工	食品生命	国際地域開発	応用生物科学	くらしの生物	合　計
北海道	3	1	1	0	1	0	0	0	1	1	3	1	12
	2.29%	0.77%	0.80%	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.70%	0.75%	2.44%	1.25%	0.79%
青森県	0	1	0	0	2	3	0	1	0	0	2	0	9
	0.00%	0.77%	0.00%	0.00%	1.42%	2.44%	0.00%	0.82%	0.00%	0.00%	1.63%	0.00%	0.59%
岩手県	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	6
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.44%	1.25%	0.39%
宮城県	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0	6
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.75%	2.44%	0.00%	0.39%
秋田県	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.20%
山形県	1	1	1	2	1	0	1	0	0	1	2	0	10
	0.76%	0.77%	0.80%	1.49%	0.71%	0.00%	0.70%	0.00%	0.00%	0.75%	1.63%	0.00%	0.65%
福島県	1	2	1	2	1	1	2	2	3	3	2	1	21
	0.76%	1.54%	0.80%	1.49%	0.71%	0.81%	1.40%	1.64%	2.11%	2.26%	1.63%	1.25%	1.38%
茨城県	9	8	5	5	5	8	4	7	3	4	3	4	65
	6.87%	6.15%	4.00%	3.73%	3.55%	6.50%	2.80%	5.74%	2.11%	3.01%	2.44%	5.00%	4.26%
栃木県	4	6	4	2	1	4	6	5	5	4	5	4	50
	3.05%	4.62%	3.20%	1.49%	0.71%	3.25%	4.20%	4.10%	3.52%	3.01%	4.07%	5.00%	3.27%
群馬県	1	1	2	0	1	3	1	1	0	2	2	0	14
	0.76%	0.77%	1.60%	0.00%	0.71%	2.44%	0.70%	0.82%	0.00%	1.50%	1.63%	0.00%	0.92%
埼玉県	7	4	2	5	3	6	6	7	0	10	6	3	59
	5.34%	3.08%	1.60%	3.73%	2.13%	4.88%	4.20%	5.74%	0.00%	7.52%	4.88%	3.75%	3.86%
千葉県	6	4	9	6	8	1	12	2	10	0	3	3	64
	4.58%	3.08%	7.20%	4.48%	5.67%	0.81%	8.39%	1.64%	7.04%	0.00%	2.44%	3.75%	4.19%
東京都	29	29	26	36	39	38	43	31	31	37	30	24	393
	22.14%	22.31%	20.80%	26.87%	27.66%	30.89%	30.07%	25.41%	21.83%	27.82%	24.39%	30.00%	25.74%
神奈川県	50	47	31	51	51	30	45	38	58	38	46	22	507
	38.17%	36.15%	24.80%	38.06%	36.17%	24.39%	31.47%	31.15%	40.85%	28.57%	37.40%	27.50%	33.20%
新潟県	1	0	1	0	4	0	0	3	1	1	2	3	16
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	2.84%	0.00%	0.00%	2.46%	0.70%	0.75%	1.63%	3.75%	1.05%
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
石川県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.07%
福井県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.07%
山梨県	0	4	0	3	4	10	3	1	3	10	1	2	41
	0.00%	3.08%	0.00%	2.24%	2.84%	8.13%	2.10%	0.82%	2.11%	7.52%	0.81%	2.50%	2.69%
長野県	2	4	3	1	2	1	1	2	6	1	3	1	27
	1.53%	3.08%	2.40%	0.75%	1.42%	0.81%	0.70%	1.64%	4.23%	0.75%	2.44%	1.25%	1.77%
岐阜県	0	1	1	2	1	0	1	0	1	1	0	1	9
	0.00%	0.77%	0.80%	1.49%	0.71%	0.00%	0.70%	0.00%	0.70%	0.75%	0.00%	1.25%	0.59%
静岡県	6	10	1	12	6	5	8	12	14	8	2	5	89
	4.58%	7.69%	0.80%	8.96%	4.26%	4.07%	5.59%	9.84%	9.86%	6.02%	1.63%	6.25%	5.83%
愛知県	1	1	3	1	0	3	0	3	1	0	1	0	14
	0.76%	0.77%	2.40%	0.75%	0.00%	2.44%	0.00%	2.46%	0.70%	0.00%	0.81%	0.00%	0.92%

都道府県	生命農	生命化	獣医	動物資源科学	食品ビジネス	森林資源科学	海洋生物資源科学	生物環境工	食品生命	国際地域開発	応用生物科学	くらしの生物	合　計
三重県	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.71%	0.00%	1.40%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.20%
滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
京都府	0	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	6
	0.00%	0.00%	2.40%	0.75%	0.00%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.75%	0.00%	0.00%	0.39%
大阪府	0	0	8	2	0	0	0	0	0	2	0	0	12
	0.00%	0.00%	6.40%	1.49%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.50%	0.00%	0.00%	0.79%
兵庫県	1	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	6
	0.76%	0.00%	0.00%	0.75%	0.00%	0.00%	1.40%	0.00%	0.00%	1.50%	0.00%	0.00%	0.39%
奈良県	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	0.00%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.00%	0.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%
和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
島根県	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4
	0.00%	0.00%	0.80%	0.75%	0.00%	0.81%	0.00%	0.82%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.26%
岡山県	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.70%	0.00%	0.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%
広島県	0	0	2	0	1	1	0	0	1	2	1	0	8
	0.00%	0.00%	1.60%	0.00%	0.71%	0.81%	0.00%	0.00%	0.70%	1.50%	0.81%	0.00%	0.52%
山口県	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.82%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.26%
徳島県	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	0.00%	0.77%	0.00%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%
香川県	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	0.00%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.00%	0.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%
愛媛県	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.71%	0.00%	0.70%	0.82%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.20%
高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
福岡県	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	5
	0.00%	0.00%	0.80%	0.00%	0.71%	0.00%	0.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	0.33%
佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
長崎県	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	2	8
	0.76%	0.77%	0.80%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.00%	0.70%	0.75%	0.00%	2.50%	0.52%
熊本県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.07%
大分県	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.00%	0.00%	0.80%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.07%
宮崎県	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	2	0	9
	0.76%	0.00%	0.80%	0.00%	0.71%	0.00%	0.70%	0.82%	0.70%	0.75%	1.63%	0.00%	0.59%
鹿児島県	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	5
	0.00%	0.77%	0.80%	0.00%	0.71%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.75%	0.00%	0.00%	0.33%
沖縄県	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	5
	0.00%	0.00%	1.60%	0.00%	0.71%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.25%	0.33%
その他（外国等）	3	3	7	1	2	1	0	3	1	1	0	0	22
	2.29%	2.31%	5.60%	0.75%	1.42%	0.81%	0.00%	2.46%	0.70%	0.75%	0.00%	0.00%	1.44%
合　計	131	130	125	134	141	123	143	122	142	133	123	80	1527

【資料 12】

日本大学生物資源科学部

バイオサイエンス学科／動物学科／海洋生物学科／森林学科／環境学科／
アグリサイエンス学科／食品開発学科／国際共生学科／獣医保健看護学科

入学意向アンケート調査

報告書

令和４年　２月

株式会社高等教育総合研究所

目　次

1.「入学意向アンケート調査」実施概要　1
2.「入学意向アンケート調査」集計結果　2
3. 学生確保の見通しについて（「入学意向アンケート調査」結果ポイント）　8

添付資料　13

1.「入学意向アンケート調査」実施概要

調査目的	本調査は、日本大学生物資源科学部が、令和 5 年 4 月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
調査対象	令和 5 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和 3 年度高校 2 年生をアンケートの対象とした。調査対象として、全国の高校 2,553 校に調査を依頼し、273 校にご協力いただいた。
調査内容	・回答者の基本情報（居住地、性別、高校卒業後の進路、興味を持っている学問分野） ・日本大学生物資源科学部「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」への進学意向および併願意向 ・上記学科への進学を希望しない場合、日本大学の既存の学部・学科への進学意向 以上、全 8 問で全て選択式である。
調査時期	令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月
調査方法	対象先高等学校の進路指導担当者宛てにアンケート調査用紙を郵送し、調査対象者へのアンケート調査用紙の配布を依頼。回答後に回収の上、返送を得る形とした。 なお、紙媒体でのアンケート調査と同様の設問・概要資料・リーフレットを用いて Web でのアンケート実施環境を用意し、Web アンケートを希望した高校にアンケートフォームを送付した。各校の教職員から調査対象者をアンケートフォームへ誘導し、パソコンもしくはタブレット、スマートフォン等から回答を得た。
有効回答件数	40,697 件（回収件数：40,700 件。うち、全ての設問に無回答だった 3 件を無効回答とした。）

2.「入学意向アンケート調査」集計結果

※構成比(%)はいずれも、小数第2位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100%とは一致しない。

2～7ページはアンケートで回答を得た40,697件の有効回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1　あなたがお住まいの都道府県をお答えください(あてはまるもの1つにマークをしてください)。

選択項目		回答数	構成比
1	北海道	197	0.5%
2	青森県	802	2.0%
3	岩手県	579	1.4%
4	宮城県	1,425	3.5%
5	秋田県	631	1.6%
6	山形県	550	1.4%
7	福島県	631	1.6%
8	茨城県	1,067	2.6%
9	栃木県	467	1.1%
10	群馬県	1,259	3.1%
11	埼玉県	4,232	10.4%
12	千葉県	2,673	6.6%
13	東京都	7,924	19.5%
14	神奈川県	12,320	30.3%
15	新潟県	483	1.2%
16	富山県	174	0.4%
17	石川県	0	0.0%
18	福井県	111	0.3%
19	山梨県	410	1.0%
20	長野県	486	1.2%
21	岐阜県	591	1.5%
22	静岡県	834	2.0%
23	愛知県	320	0.8%
24	三重県	1	0.0%
25	滋賀県	11	0.0%

26	京都府	69	0.2%
27	大阪府	368	0.9%
28	兵庫県	5	0.0%
29	奈良県	37	0.1%
30	和歌山県	10	0.0%
31	鳥取県	0	0.0%
32	島根県	0	0.0%
33	岡山県	64	0.2%
34	広島県	14	0.0%
35	山口県	110	0.3%
36	徳島県	0	0.0%
37	香川県	212	0.5%
38	愛媛県	79	0.2%
39	高知県	31	0.1%
40	福岡県	183	0.4%
41	佐賀県	206	0.5%
42	長崎県	449	1.1%
43	熊本県	308	0.8%
44	大分県	171	0.4%
45	宮崎県	56	0.1%
46	鹿児島県	88	0.2%
47	沖縄県	4	0.0%
	無回答	55	0.1%
合計		40,697	100.0%

問2　あなたの性別をお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	男性	19,828	48.7%
2	女性	19,276	47.4%
3	回答しない	1,330	3.3%
	無回答	263	0.6%
合計		40,697	100.0%

問3　高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	大学	34,624	85.1%
2	短期大学	1,706	4.2%
3	専門学校	5,890	14.5%
4	就職	2,034	5.0%
5	その他	657	1.6%
	無回答	151	0.4%

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 ＝ 回答数 ÷ 40,697 人（全回答者数）

問4　あなたが興味を持っている学問分野をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	農・畜産・水産	3,146	7.7%
2	文学・歴史・心理	6,540	16.1%
3	経済・経営・ビジネス	8,793	21.6%
4	法学・政治	3,803	9.3%
5	社会・社会福祉・観光	3,168	7.8%
6	外国語・国際関係	4,458	11.0%
7	教育・保育	5,374	13.2%
8	理学・工学・情報	10,005	24.6%
9	医学・歯学・薬学	4,561	11.2%
10	看護・保健学	4,983	12.2%
11	栄養学・家政学	2,600	6.4%
12	スポーツ・健康科学	4,727	11.6%
13	芸術	3,895	9.6%
14	その他	3,552	8.7%
	無回答	145	0.4%

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 ＝ 回答数 ÷ 40,697 人（全回答者数）

問5　あなたが進学を希望する学科をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	バイオサイエンス学科（仮称）	1,083	2.7%
2	動物学科（学科）	1,223	3.0%
3	海洋生物学科（仮称）	1,003	2.5%
4	森林学科（仮称）	273	0.7%
5	環境学科（仮称）	986	2.4%
6	アグリサイエンス学科（仮称）	320	0.8%
7	食品開発学科（仮称）	1,706	4.2%
8	国際共生学科（仮称）	781	1.9%
9	獣医保健看護学科（仮称）	928	2.3%
10	上記学科には進学を希望しない	30,224	74.3%
	無回答	2,170	5.3%
合計		40,697	100.0%

次の問6は、問5　でいずれかの学科に進学を希望した計 8,303 人に対し、回答を求めた。

問6　あなたが併願を希望する学科をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	バイオサイエンス学科（仮称）	759	9.1%
2	動物学科（学科）	1,143	13.8%
3	海洋生物学科（仮称）	817	9.8%
4	森林学科（仮称）	371	4.5%
5	環境学科（仮称）	894	10.8%
6	アグリサイエンス学科（仮称）	365	4.4%
7	食品開発学科（仮称）	991	11.9%
8	国際共生学科（仮称）	508	6.1%
9	獣医保健看護学科（仮称）	626	7.5%
10	上記学科には併願を希望しない	1,709	20.6%
	無回答	120	1.4%
合計		8,303	100.0%

次の問7は、問6で「上記学科には併願を希望しない」と回答した計 1,709 人に対し、回答を求めた。

問7　日本大学の下記の学部・学科のうち、併願を希望する学科をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	生物資源科学部（食品ビジネス学科）	112	6.6%
2	生物資源科学部（獣医学科）	51	3.0%
3	法学部	62	3.6%
4	文理学部	114	6.7%
5	経済学部	92	5.4%
6	商学部	65	3.8%
7	芸術学部	65	3.8%
8	国際関係学部	115	6.7%
9	危機管理学部	5	0.3%
10	スポーツ科学部	81	4.7%
11	理工学部	191	11.2%
12	生産工学部	4	0.2%
13	工学部	56	3.3%
14	医学部	53	3.1%
15	歯学部	13	0.8%
16	松戸歯学部	4	0.2%
17	薬学部	81	4.7%
18	上記の学部・学科には進学を希望しない	466	27.3%
	無回答	79	4.6%
合計		1,709	100.0%

次の問8は、問5で「上記学科には進学を希望しない」と回答した計 30,224 人に対し、回答を求めた。

問8　日本大学の下記の学部・学科のうち、併願を希望する学科をお答えください（あてはまるもの1つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	生物資源科学部（食品ビジネス学科）	151	0.5%
2	生物資源科学部（獣医学科）	131	0.4%
3	法学部	1,242	4.1%
4	文理学部	1,543	5.1%
5	経済学部	2,226	7.4%
6	商学部	835	2.8%
7	芸術学部	939	3.1%
8	国際関係学部	644	2.1%
9	危機管理学部	81	0.3%
10	スポーツ科学部	1,275	4.2%
11	理工学部	3,114	10.3%
12	生産工学部	151	0.5%
13	工学部	1,222	4.0%
14	医学部	673	2.2%
15	歯学部	197	0.7%
16	松戸歯学部	31	0.1%
17	薬学部	855	2.8%
18	上記の学部・学科には進学を希望しない	14,448	47.8%
	無回答	466	1.5%
合計		30,224	100.0%

3. 学生確保の見通しについて（「入学意向アンケート調査」結果ポイント）

Point 1	首都圏を中心に、幅広い地域の高校生 40,697 人が回答。 回答者のうち 85.1%が希望進路について「大学」と回答。

日本大学生物資源科学部が、令和５年４月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科」「動物学科」「海洋生物学科」「森林学科」「環境学科」「アグリサイエンス学科」「食品開発学科」「国際共生学科」「獣医保健看護学科」についての「入学意向アンケート調査」において、有効回答 40,697 件の集計を行った。

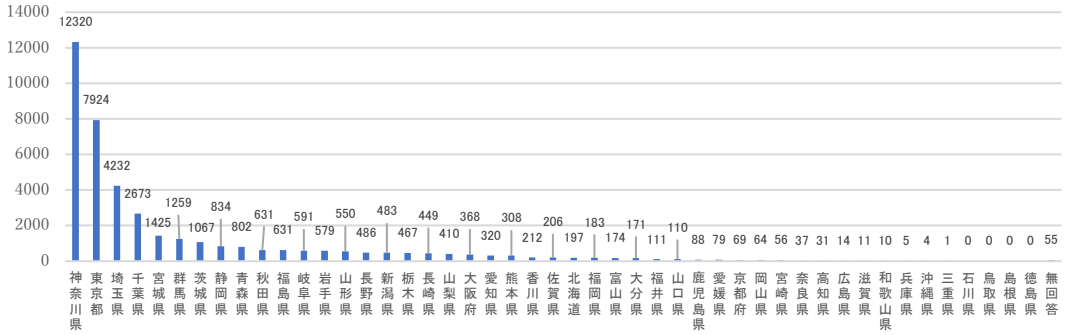
その結果、回答者を居住地別にみると、「神奈川県」が 12,320 人で最も多く、次いで「東京都」が 7,924 人、「埼玉県」が 4,232 人であった。その他、様々な地域の高校 2 年生から回答を得た。

性別では「男性」が 48.7%にあたる 19,828 人、「女性」が 47.4%にあたる 19,276 人、「回答しない」が 3.3%にあたる 1,330 人であり、男女比は概ね半数ずつであった。

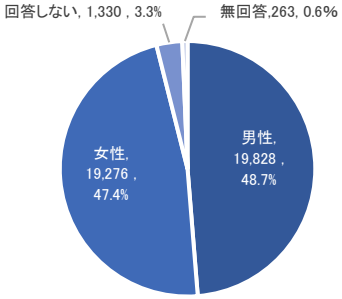
高校卒業後の希望進路については「大学」が 85.1%にあたる 34,624 人で最も多く、次いで「専門学校」が 14.5%にあたる 5,890 人、「就職」が 5.0%にあたる 2,034 人であった。

【グラフ・表】回答者の属性について

居住地（問1結果より）

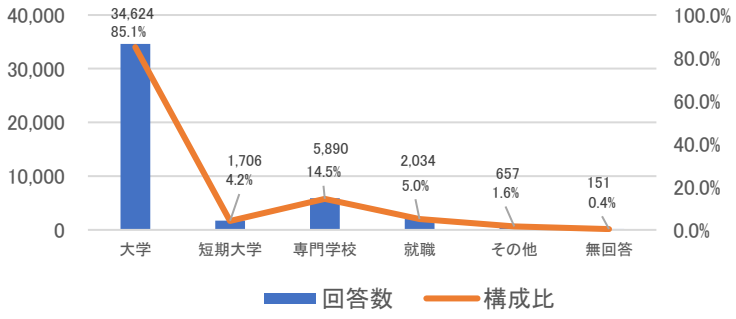


性別（問2回答より）



高校卒業後の進路（問3回答より）

※複数回答項目のため、回答数は延べ※ 各構成比 ＝ 回答数 ÷ 40,697 人（全回答者数）



Point 2	**全ての学科において、入学定員を大きく上回る、進学を希望する回答が得られた。**

日本大学生物資源科学部に新設する 9 学科ごとに、回答者の進学意向について回答を求めた。**その結果、全ての学科において、入学定員を大きく上回る進学意欲を示す回答が得られた。**

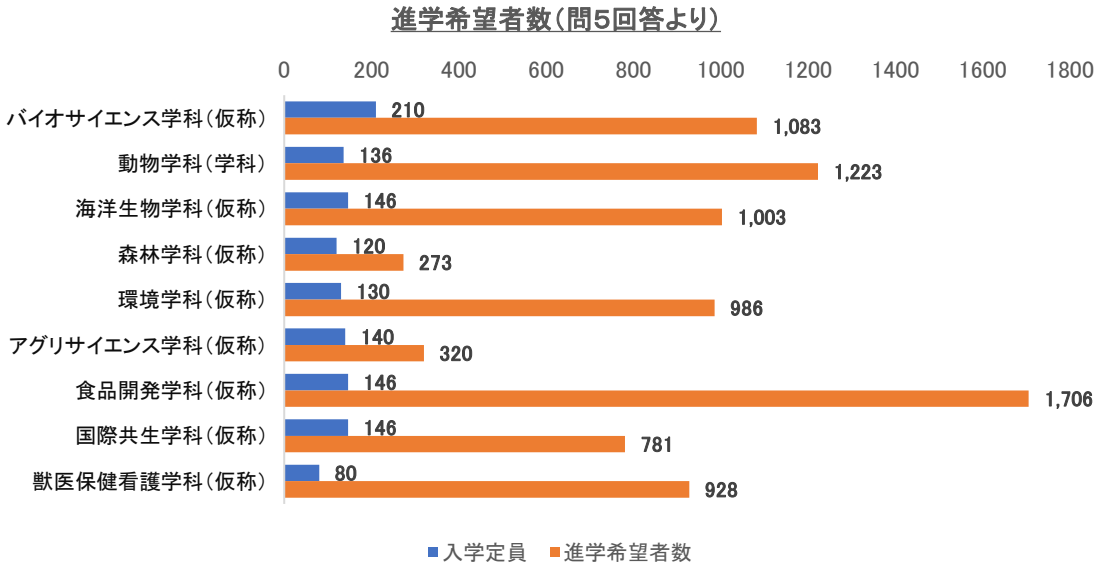
入学定員と進学希望人数の詳細としては、バイオサイエンス学科（仮称）は定員 210 人に対し合計 1,083 人の進学意向、動物学科（仮称）は定員 136 人に対し合計 1,223 人の進学意向、海洋生物学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 1,003 人の進学意向、森林学科（仮称）は定員 120 人に対し合計 273 人の進学意向、環境学科（仮称）は定員 130 人に対し合計 986 人の進学意向、アグリサイエンス学科（仮称）は定員 140 人に対し合計 320 人の進学意向、食品開発学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 1,706 人の進学意向、国際共生学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 781 人の進学意向、獣医保健看護学科（仮称）は定員 80 人に対し合計 928 人の進学意向が得られた。

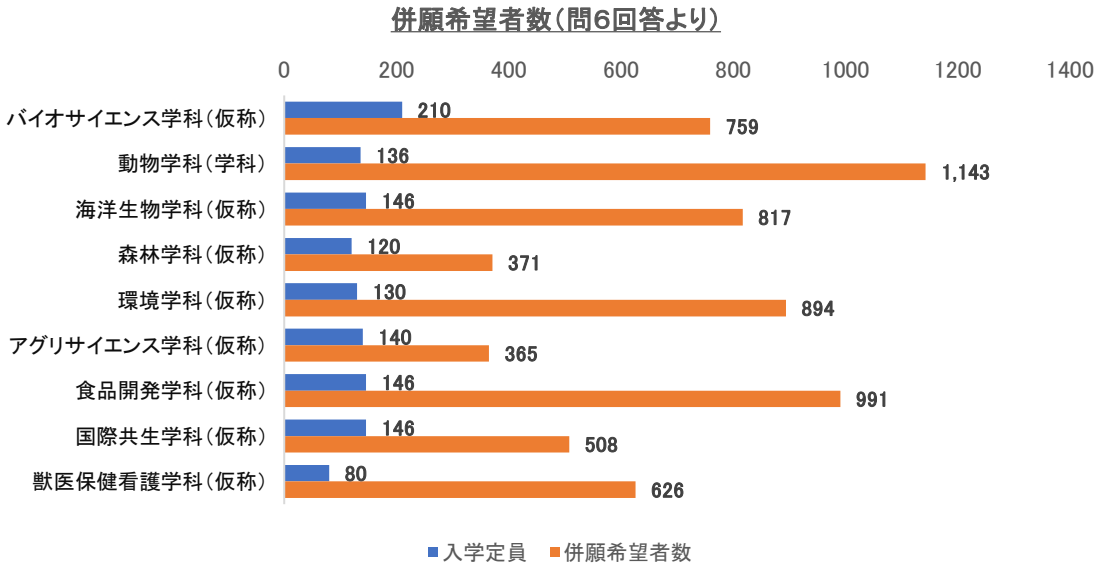
回答者の進学意欲と性別でクロス集計を行ったところ、進学を希望している回答者の男女比に大きな差は見られなかった。学科別に見ると、「バイオサイエンス学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」においては「男性」の割合が 6 割を超えており、「食品開発学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」では「女性」の割合が 6 割を超えていた。他の学科については、男女比に大きな差は見られなかった。

また、「大学」に進学を希望すると回答した回答者の、日本大学生物資源科学部に新設する 9 学科への進学意向についてクロス集計を行ったところ、全ての学科において入学定員を上回る進学意向が得られた。入学定員と進学希望人数の詳細としては、バイオサイエンス学科（仮称）は定員 210 人に対し合計 1,027 人の進学意向、動物学科（仮称）は定員 136 人に対し合計 966 人の進学意向、海洋生物学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 891 人の進学意向、森林学科（仮称）は定員 120 人に対し合計 234 人の進学意向、環境学科（仮称）は定員 130 人に対し合計 905 人の進学意向、アグリサイエンス学科（仮称）は定員 140 人に対し合計 266 人の進学意向、食品開発学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 1,459 人の進学意向、国際共生学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 705 人の進学意向、獣医保健看護学科（仮称）は定員 80 人に対し合計 740 人の進学意向が得られた。

以上を踏まえると、日本大学生物資源科学部が令和 5 年 4 月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」の各学科は、いずれも入学ニーズが極めて高いことが示されており、学生確保については問題ないと推察される。

【グラフ・表】進学・併願希望者数について





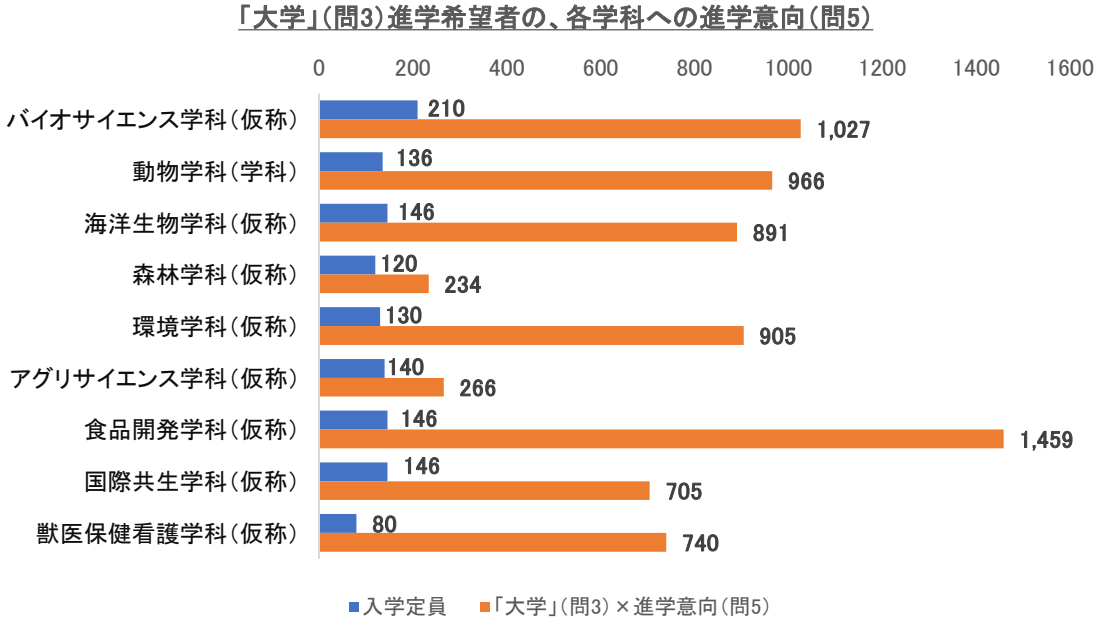
問 2 性別 × 問 5 進学希望								
	男性		女性		回答しない		計	
バイオサイエンス学科（仮称）	655	60.7%	384	35.6%	40	3.7%	1,079	100.0%
動物学科（仮称）	550	45.3%	616	50.8%	47	3.9%	1,213	100.0%
海洋生物学科（仮称）	660	66.3%	297	29.8%	39	3.9%	996	100.0%
森林学科（仮称）	177	65.6%	82	30.4%	11	4.1%	270	100.0%
環境学科（仮称）	614	62.5%	336	34.2%	32	3.3%	982	100.0%
アグリサイエンス学科（仮称）	146	45.8%	133	41.7%	40	12.5%	319	100.0%
食品開発学科（仮称）	530	31.4%	1127	66.7%	32	1.9%	1,689	100.0%
国際共生学科（仮称）	294	38.0%	453	58.6%	26	3.4%	773	100.0%
獣医保健看護学科（仮称）	203	22.0%	695	75.4%	24	2.6%	922	100.0%
上記学科には進学を希望しない	14916	49.6%	14186	47.2%	949	3.2%	30,051	100.0%
無回答	1,083	50.6%	967	45.2%	90	4.2%	2,140	100.0%
計	19,828	49.0%	19,276	47.7%	1,330	3.3%	40,434	100.0%

※問2の無回答者は 263 名

問 2 性別 × 問 6 併願希望								
	男性		女性		回答しない		計	
バイオサイエンス学科（仮称）	458	60.6%	271	35.8%	27	3.6%	756	100.0%
動物学科（仮称）	487	42.9%	603	53.2%	44	3.9%	1,134	100.0%
海洋生物学科（仮称）	513	63.3%	271	33.4%	27	3.3%	811	100.0%
森林学科（仮称）	237	64.2%	118	32.0%	14	3.8%	369	100.0%
環境学科（仮称）	518	58.3%	340	38.3%	30	3.4%	888	100.0%
アグリサイエンス学科（仮称）	161	44.4%	176	48.5%	26	7.2%	363	100.0%
食品開発学科（仮称）	338	34.3%	620	62.9%	28	2.8%	986	100.0%
国際共生学科（仮称）	214	42.5%	267	53.1%	22	4.4%	503	100.0%
獣医保健看護学科（仮称）	171	27.4%	436	70.0%	16	2.6%	623	100.0%
上記学科には併願を希望しない	684	40.4%	963	56.8%	47	2.8%	1,694	100.0%
無回答	48	41.4%	58	50.0%	10	8.6%	116	100.0%
計	3,829	46.5%	4,123	50.0%	291	3.5%	8,243	100.0%

※問2の無回答者は 60 名

「大学」(問 3)進学希望者の、各学科への進学意向(問 5)		
	進学意向	入学定員
バイオサイエンス学科(仮称)	1,027	210
動物学科(仮称)	966	136
海洋生物学科(仮称)	891	146
森林学科(仮称)	234	120
環境学科(仮称)	905	130
アグリサイエンス学科(仮称)	266	140
食品開発学科(仮称)	1,459	146
国際共生学科(仮称)	705	146
獣医保健看護学科(仮称)	740	80
上記学科には進学を希望しない	25,695	



添付資料

日本大学生物資源科学部・学科の概要

「日本大学生物資源科学部入学意向アンケート調査」
「日本大学生物資源科学部入学意向アンケート調査」WEB アンケートフォーム画面

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

・日本大学生物資源科学部・学科の概要（表面）

日本大学生物資源科学部 学科の概要

2023年4月、日本大学生物資源科学部に9つの新学科が誕生します！

Department of Bioscience
バイオサイエンス学科 ※仮称 設置構想中

Department of Zoological Science
動物学科 ※仮称 設置構想中

Department of Marine Science
海洋生物学科 ※仮称 設置構想中

Department of Forest Science
森林学科 ※仮称 設置構想中

Department of Environmental Studies
環境学科 ※仮称 設置構想中

Department of Agri-Science
アグリサイエンス学科 ※仮称 設置構想中 既存

Department of Food Business
食品ビジネス学科 既存

Department of Food Science and Technology
食品開発学科 ※仮称 設置構想中

Department of Global Coexistence Studies
国際共生学科 ※仮称 設置構想中

Department of Veterinary Nursing
獣医保健看護学科 ※仮称 設置構想中

Department of Veterinary Medicine
獣医学科 既存

生物資源科学部 初年次学費（予定）

学科名	納入区分	入学金（※1）	授業料	実験実習料	合計（※2）
バイオサイエンス 動物 海洋生物 森林 環境 アグリサイエンス 食品開発 獣医保健看護	入学金（※1）／前期学費	260,000円	575,000円	75,000円	910,000円
	後期学費	——	575,000円	75,000円	650,000円
国際共生	入学金（※1）／前期学費	260,000円	475,000円	50,000円	785,000円
	後期学費	——	475,000円	50,000円	525,000円

※1……入学金は初年次の納入。※2……上記のほか、施設設備資金（国際共生学科170,000円、バイオサイエンス・動物・海洋生物・森林・環境・アグリサイエンス・食品開発・獣医保健看護の各学科200,000円）、諸費用（30,000円）、校友会費（10,000円）の納入が必要となります。

各学科の類似する大学

学科名	大学・学部・学科
バイオサイエンス	東京農業大学 生命科学部 バイオサイエンス学科・分子生命化学科
	明治大学 農学部 農芸化学科・生命科学科
動物	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科
	東京農業大学 農学部 動物科学科・生物資源開発学科
海洋生物	東海大学 海洋学部 海洋地球科学科・海洋生物学科
	北里大学 海洋生命科学部 海洋生命科学科
森林	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科
	玉川大学 農学部 環境農学科
環境	東京都市大学 環境学部 環境創生学科
	東海大学 教養学部 人間環境学科

学科名	大学・学部・学科
アグリサイエンス	東京農業大学 農学部 農学科
	明治大学 農学部 農学科
食品開発	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科
	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科
国際共生	東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科
	明治大学 農学部 食料環境政策学科
獣医保健看護	日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科
	帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科

アクセス

東京駅
JR中央線
新宿駅
JR東海道線
小田急小田原線
藤沢駅
小田急江ノ島線
相模大野駅
小田急江ノ島線
大和駅
小田急江ノ島線
六会日大前駅
徒歩2分
日本大学生物資源科学部

日本大学生物資源科学部 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
最寄駅から5分でアクセス・小田急江ノ島線「六会日大前」駅より徒歩2分

（日本大学生物資源科学部は4校舎中の1校。記載の内容から変更になる場合があります）

本紙「日本大学生物資源科学部・学科の概要」をご覧の上、別紙「高校生アンケート」にご回答ください。

日本大学は2023年4月に、生物資源科学部の改組を構想しています。この改組により、本学部は11学科の体制となります。今回、生物資源科学部に関する高校生アンケートを実施することで、2023年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆様からさまざまなご意見をお聞きし、改組構想の参考とさせていただきたいと考えています。皆様からいただいた情報は、改組構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は、日本大学から委託された第三者機関（株式会社教育総合研究所）が実施しています。

（日本大学生物資源科学部は4校舎中の1校。記載の内容から変更になる場合があります）

・日本大学生物資源科学部・学科の概要（裏面）

日本大学生物資源科学部・学科の概要

日本大学生物資源科学部・学科の概要

所在地：神奈川県厚木市船子1866　生命学部(2020年4月開設予定)　相模原市緑区

学科名（収容定員）/入学定員		学科のポイント	卒業後の進路（国家試験受験資格・免許・取得可能な称号など）
バイオサイエンス学科 入学定員：210名		健康増進と持続可能で快適な暮らしを実現するために「発酵」「醸造」「発酵とケミカルバイオロジー」「微生物と植物」の3分野を中心としたバイオサイエンスの基礎学術を身につけ、最先端のバイオテクノロジーを用いて持続可能な社会の実現に貢献できる応用力を身につけます。 [学びのキーワード]微生物学、ケミカルバイオロジー、ゲノム編集	ヘルスケア：製薬、医薬品、医療（研究職、営業/MR、プロジェクトマネジメント）、食品（研究職、品質管理、生産管理、営業）、化粧品（研究職、品質管理、営業）、医療機器（研究職、営業）、臨床検査技師、国家公務員、地方公務員、大学院への進学など
動物学科 入学定員：136名		「生命史」「生命科学」「保全と環境」を主軸分野とし、それぞれの分野を相互に関連づけた総合的かつ特徴的なカリキュラム・学問体系を構築しています。動物が持つ多様な機能・かたち・行動・生態を研究対象とし、未知の機能やヒトに対する有用性などについて研究します。 [学びのキーワード]自然史、動物行動学、動物園飼育管理学	国際アドミニストレーター、サービス業、出版、教育関連、通信、情報、研究（学術研究機関などに所属する）職種、食品、製薬、化粧品、医療機器、臨床検査技師、国家公務員、地方公務員、大学院への進学など
海洋生物学科 入学定員：146名		海洋生物と海洋生物を取り巻く海洋環境を理解するための基礎的知識を身につけるとともに、海洋生物の多様性維持と持続可能な利用に必要な生物資源に関する知識と技術を身につけます。海洋生物の生理・生態・育成・利用ならびに海洋環境の保全などについて研究します。 [学びのキーワード]海洋環境、水産増養、水産資源学	食品の製造・流通・分析・検査、環境アセスメント、海洋関連調査員、水産業（養殖、漁業）、公務員（水産・海洋関連）、大学院への進学など
森林学科 入学定員：120名		実際の森林フィールドを活用した実習や多彩な実験などの体験型学習と、3つの専門系統（森林生態・環境系、森林共生系、バイオマス利用系）で well-being な特別演習や専門研究により、森林生態系のしくみや地球環境・持続可能な社会に役立つ森林の働きを学びます。豊かで未来をつくるために森林を多角的に探究します。 [学びのキーワード]森林生態系、森林バイオマス、森林アメニティ	住宅産業、建材・建設業、緑パルプ産業、造園業/造園施工業、サービス業などに就職する一般企業、国家公務員（林野庁）、地方公務員、森林組合、大学院への進学など
環境学科 入学定員：130名		地球環境系、自然環境系および都市環境系に関する知識を多面的に学びます。環境についての実社会のニーズや問題点を見出すとともに、持続可能な未来と健康な生活を実現するために、地球規模で生じている環境問題の解決法や自然環境の保全などについて研究します。 [学びのキーワード]地球環境、持続可能な社会、環境保全	環境アセスメント、建設業、住まメーカー、国際協力等機関企業、サービス業、通信/情報企業、国家公務員、地方公務員、環境調査員、中学校・高等学校教諭、大学院への進学など
アグリサイエンス学科 入学定員：140名		「動物性食資源」「植物性食資源」「フラワーサイエンス」の3つのコースを設置します。商品価値の高い農品質な畜産物を生産するための知識と技術や食味を評価する知識と技術を身につけます。食生活を豊かにする ことを目指し、生活に潤いを与える食品を充満テクノロジーで育成することを研究します。 [学びのキーワード]フラワーサイエンス、スマート農業、プラント農産物	地球プラント食品企業、JA、種苗会社、肥料、農薬、飼料農業資材会社、農業法人、食品会社農産部門、サービス業などに就職する一般企業、国家公務員、地方公務員（獣医師、中学校・高等学校教諭、大学院への進学など
食品開発学科 入学定員：146名		食品開発における幅広い知識および技術に加えて、自ら課題設定し、解決方を見出すことができる論理的思考力、高い倫理性、想像力・思考力・柔軟性・コミュニケーション能力・リーダーシップを身につけます。「ヒトの健康」に貢献できる新しい食品を創造する能力を身につけ、研究します。 [学びのキーワード]おいしさの科学、スポーツ食品科学、食品分析	食品の製造・流通・分析・検査、飲料・食品・化粧品・医薬品・医療機器・臨床検査関連企業、サービス業、通信/情報企業、国家公務員、地方公務員、大学院への進学など
国際共生学科 入学定員：146名		動植物などの生物資源とそれらを取り巻く環境を理解し、生物資源、環境とヒトとの共生、生物資源を持続的に利用しての共生を図り、国際的に生物資源をマネジメントできる基礎を養成する文系の学科です。 [学びのキーワード]データサイエンス、流通、国際社会	食品の製造・流通・分析・検査、飲料・食品・化粧品・医薬品・医療機器・臨床検査関連企業、サービス業、通信/情報企業、国家公務員、地方公務員、大学院への進学など
獣医保健看護学科 入学定員：80名		動物の健康維持・増進、ならびに動物をかんとヒトの健康と福祉に貢献することのできる専門知識と能力を身につけます。動物医療の分野で活躍できる獣医動物看護師や動物看護・ペットフードなどの動物関連産業分野における専門技術者の養成を目指します。 [学びのキーワード]動物医療、動物福祉、ヒトと動物の関係学	動物病院、動物医薬品関連（研究開発、ペット関連、製薬関連企業）、動物園関係施設、食品関連企業、医療機関関連企業、製薬企業、医療機器メーカー、国際公務員、地方公務員、中学校・高等学校教諭、大学教員、一般企業（獣医師資格、大学院など）

学部改組のねらい

今日、世界は食糧問題や環境問題などはじめ様々な課題の出現など、多くの解決すべき問題を抱えています。

こうした社会的背景を踏まえて日本大学生物資源科学部は、自然や生物との共生を図り、生命・食糧・環境に関する研究を展開し、日本や国際社会が直面している さまざまな問題を解決できる有能な人材を育成するために生まれ変わります。さらに将来の世代により良い地球を残すため、科学技術の発展や持続可能な社会の実現に向けて、これまで以上に教育・研究を強化することが狙いです。

実践的な学び

自然や研究を肌で感じながら学ぶ、本学部独自の「フィールドサイエンス教育」を通じて、実践的な学修を展開し、グローバルな視点をもち、生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性、豊かな教養、人間性豊かな教養、人間性豊かな教養、人間性

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

アンケート用紙（２ページ目/全２ページ）

2023年4月学部改組に向け構想中

日本大学 生物資源科学部

バイオサイエンス学科／動物学科／海洋生物学科／森林学科／環境学科
アグリサイエンス学科／食品開発学科／国際共生学科／獣医保健看護学科
※学科名称はいずれも仮称であり、変更となる場合があります。

入学意向アンケート調査

対象：2021年度　高校2年生のみなさん

日本大学 生物資源科学部（神奈川県藤沢市亀井野1866）は2023年4月に「食品ビジネス学科」「獣医学科」の２学科に加え、「バイオサイエンス学科」「動物学科」「海洋生物学科」「森林学科」「環境学科」「アグリサイエンス学科」「食品開発学科」「国際共生学科」「獣医保健看護学科」（※学科名称はいずれも仮称）の９学科の新設を予定しています。
本学ではこのアンケート調査を通して、生物資源科学部の改組を予定する年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生のみなさんからご意見をお聞きし、生物資源科学部改組の構想内容に反映したいと考えています。回答いただいたみなさんから得られた情報は、文部科学省への提出書類の資料以外に転用することはございません。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※本アンケート調査は、日本大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。

正しい回答　誤った回答

上の正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。誤った回答のような場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

問１ あなたがお住まいの都道府県をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問２ あなたの性別をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 男性　○ 女性　○ 回答しない

問３ 高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

○ 大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ その他

問４ あなたが興味を持っている学問分野をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

○ 農・畜産・水産	○ 文学・歴史・心理	○ 経済・経営・ビジネス	○ 法学・政治
○ 社会・社会福祉・観光	○ 外国語・国際関係	○ 教育・保育	○ 理学・工学・情報
○ 医学・歯学・薬学	○ 看護・保健学	○ 栄養学・家政学	○ スポーツ・健康科学
○ 芸術	○ その他		

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

アンケート用紙（２ページ目/全２ページ）

「日本大学生物資源科学部・学科の概要」をご覧になった上で、ご回答ください。

問５ あなたが進学を希望する学科をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ バイオサイエンス学科（仮称）　○ 動物学科（仮称）　○ 海洋生物学科（仮称）
○ 森林学科（仮称）　○ 環境学科（仮称）　○ アグリサイエンス学科（仮称）
○ 食品開発学科（仮称）　○ 国際共生学科（仮称）　○ 獣医保健看護学科（仮称）
○ 上記学科には進学を希望しない⇨問８へお進みください

問６は、問５にていずれかの学科を選んだ方のみお答えください。

問６ あなたが併願を希望する学科をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ バイオサイエンス学科（仮称）　○ 動物学科（仮称）　○ 海洋生物学科（仮称）
○ 森林学科（仮称）　○ 環境学科（仮称）　○ アグリサイエンス学科（仮称）
○ 食品開発学科（仮称）　○ 国際共生学科（仮称）　○ 獣医保健看護学科（仮称）
○ 上記学科には併願を希望しない⇨問７へお進みください

問７は、問６にて「上記学科には併願を希望しない」と回答した方のみお答えください。

問７ 日本大学の下記の学部・学科のうち、併願を希望する学科をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 生物資源科学部（食品ビジネス学科）　○ 生物資源科学部（獣医学科）　○ 法学部　○ 文理学部　○ 経済学部　○ 商学部
○ 芸術学部　○ 国際関係学部　○ 危機管理学部　○ スポーツ科学部　○ 理工学部　○ 生産工学部　○ 工学部　○ 医学部
○ 歯学部　○ 松戸歯学部　○ 薬学部　○ 上記の学部・学科には進学を希望しない

問８は、問５にて「上記学科には進学を希望しない」と回答した方のみお答えください。

問８ 日本大学の下記の学部・学科のうち、進学を希望する先をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 生物資源科学部（食品ビジネス学科）　○ 生物資源科学部（獣医学科）　○ 法学部　○ 文理学部　○ 経済学部　○ 商学部
○ 芸術学部　○ 国際関係学部　○ 危機管理学部　○ スポーツ科学部　○ 理工学部　○ 生産工学部　○ 工学部　○ 医学部
○ 歯学部　○ 松戸歯学部　○ 薬学部　○ 上記の学部・学科には進学を希望しない

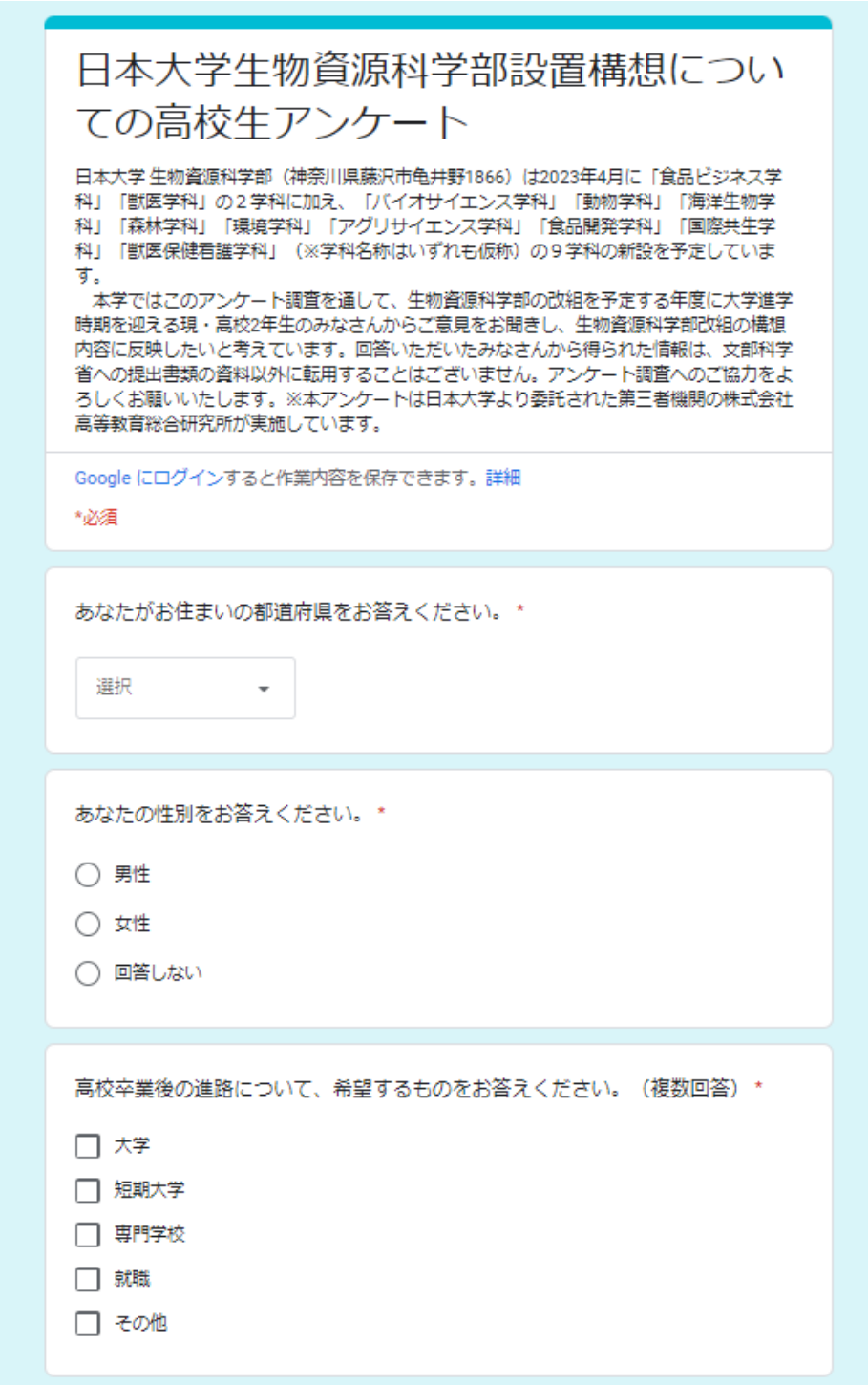
2

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（１ページ目/全７ページ）



日本大学生物資源科学部設置構想についての高校生アンケート

日本大学 生物資源科学部（神奈川県藤沢市亀井野1866）は2023年4月に「食品ビジネス学科」「獣医学科」の２学科に加え、「バイオサイエンス学科」「動物学科」「海洋生物学科」「森林学科」「環境学科」「アグリサイエンス学科」「食品開発学科」「国際共生学科」「獣医保健看護学科」（※学科名称はいずれも仮称）の９学科の新設を予定しています。

本学ではこのアンケート調査を通して、生物資源科学部の改組を予定する年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生のみなさんからご意見をお聞きし、生物資源科学部改組の構想内容に反映したいと考えています。回答いただいたみなさんから得られた情報は、文部科学省への提出書類の資料以外に転用することはございません。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。※本アンケートは日本大学より委託された第三者機関の株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

あなたがお住まいの都道府県をお答えください。 *

選択

あなたの性別をお答えください。 *

- 男性
- 女性
- 回答しない

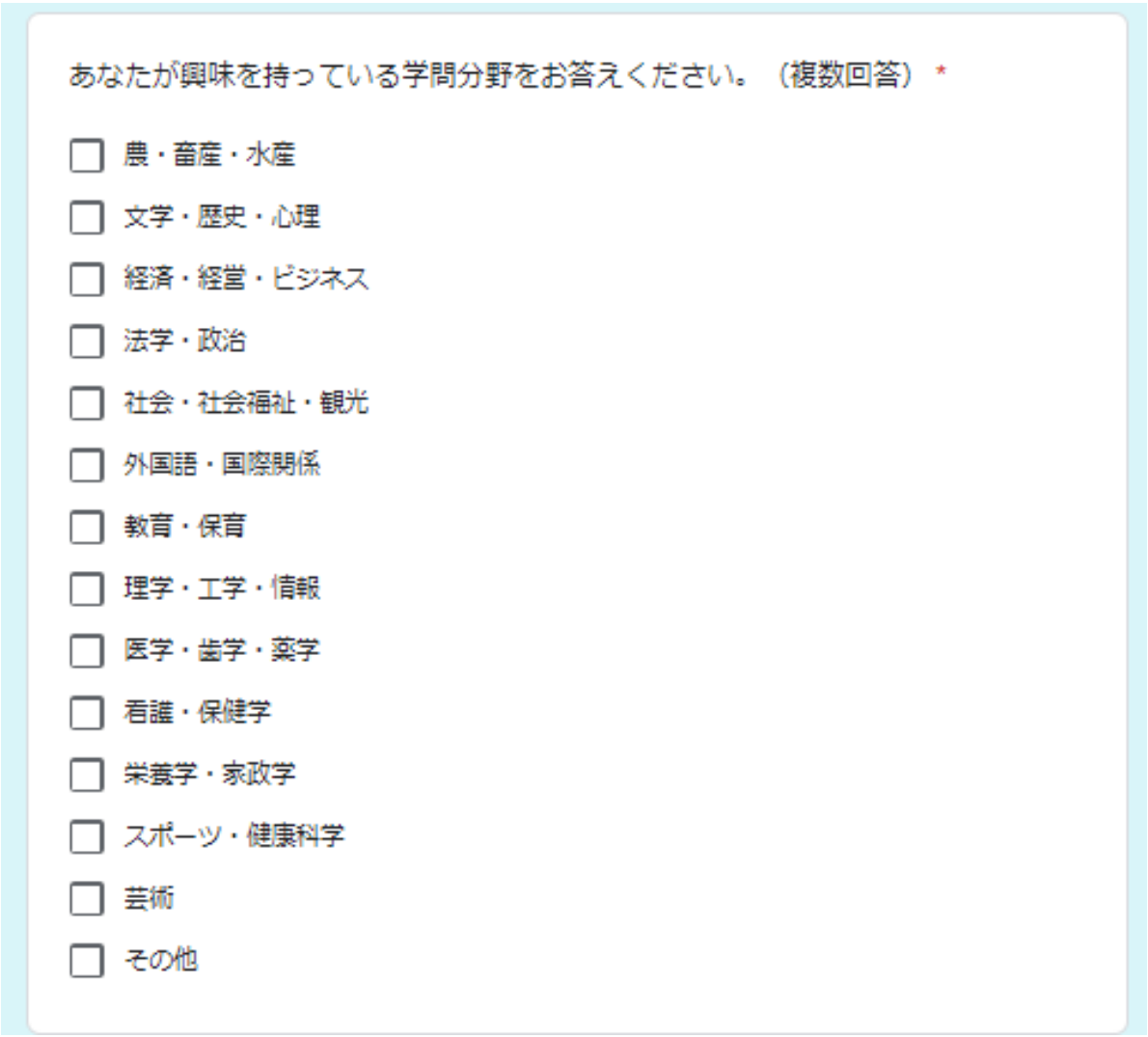
高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください。（複数回答） *

- 大学
- 短期大学
- 専門学校
- 就職
- その他

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（２ページ目/全７ページ）



「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（３ページ目/全７ページ）

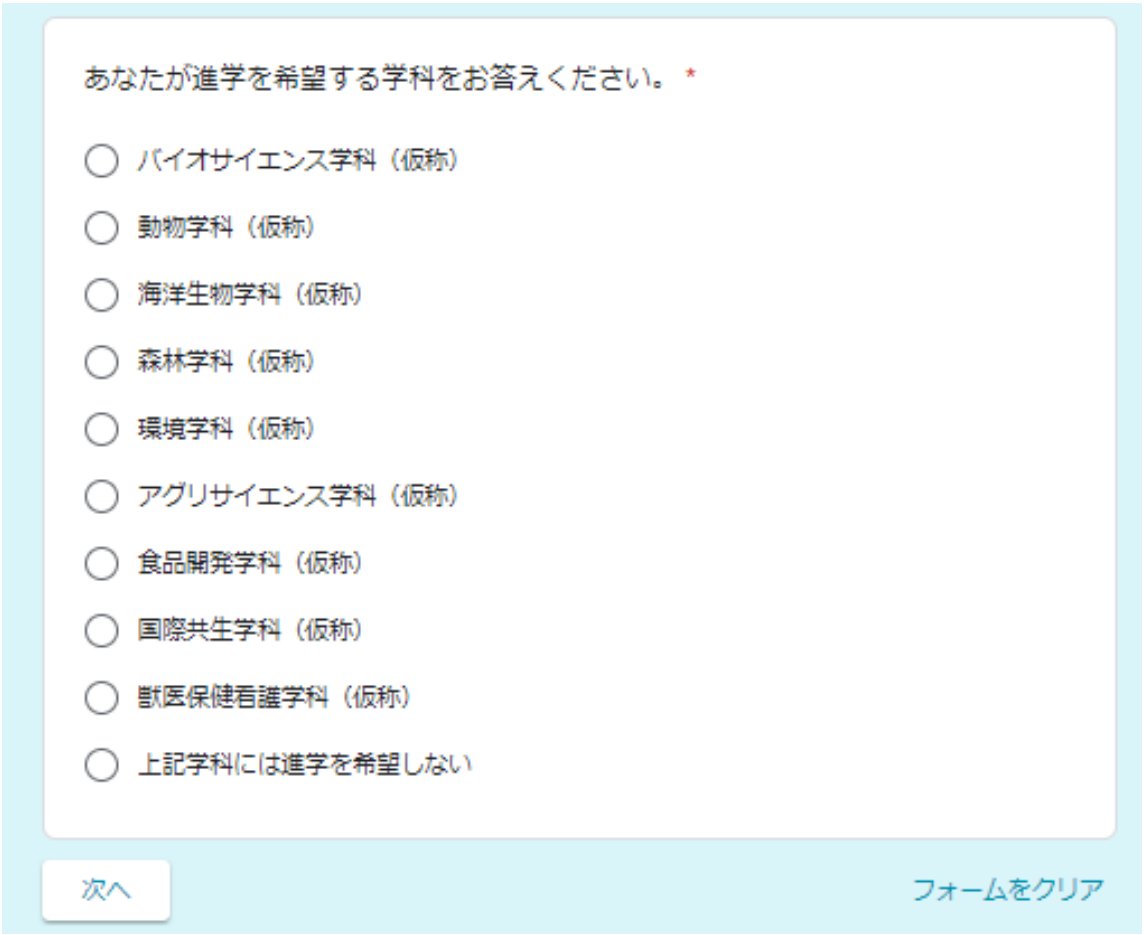
日本大学生物資源科学部・学科の概要（表面）

日本大学生物資源科学部・学科の概要（裏面）

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

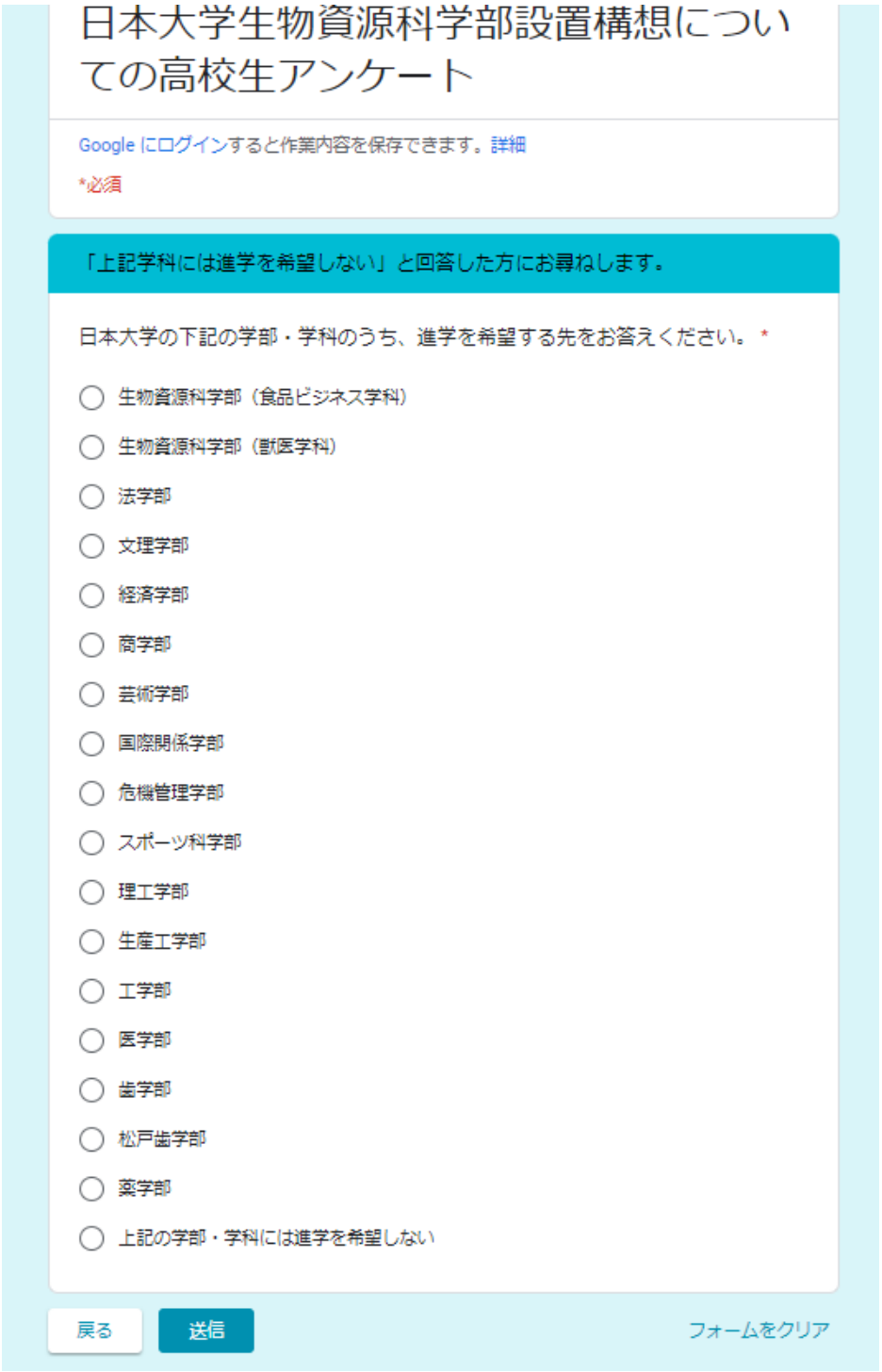
（４ページ目/全７ページ）



「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（５ページ目/全７ページ）



日本大学生物資源科学部設置構想についての高校生アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

「上記学科には進学を希望しない」と回答した方にお尋ねします。

日本大学の下記の学部・学科のうち、進学を希望する先をお答えください。 *

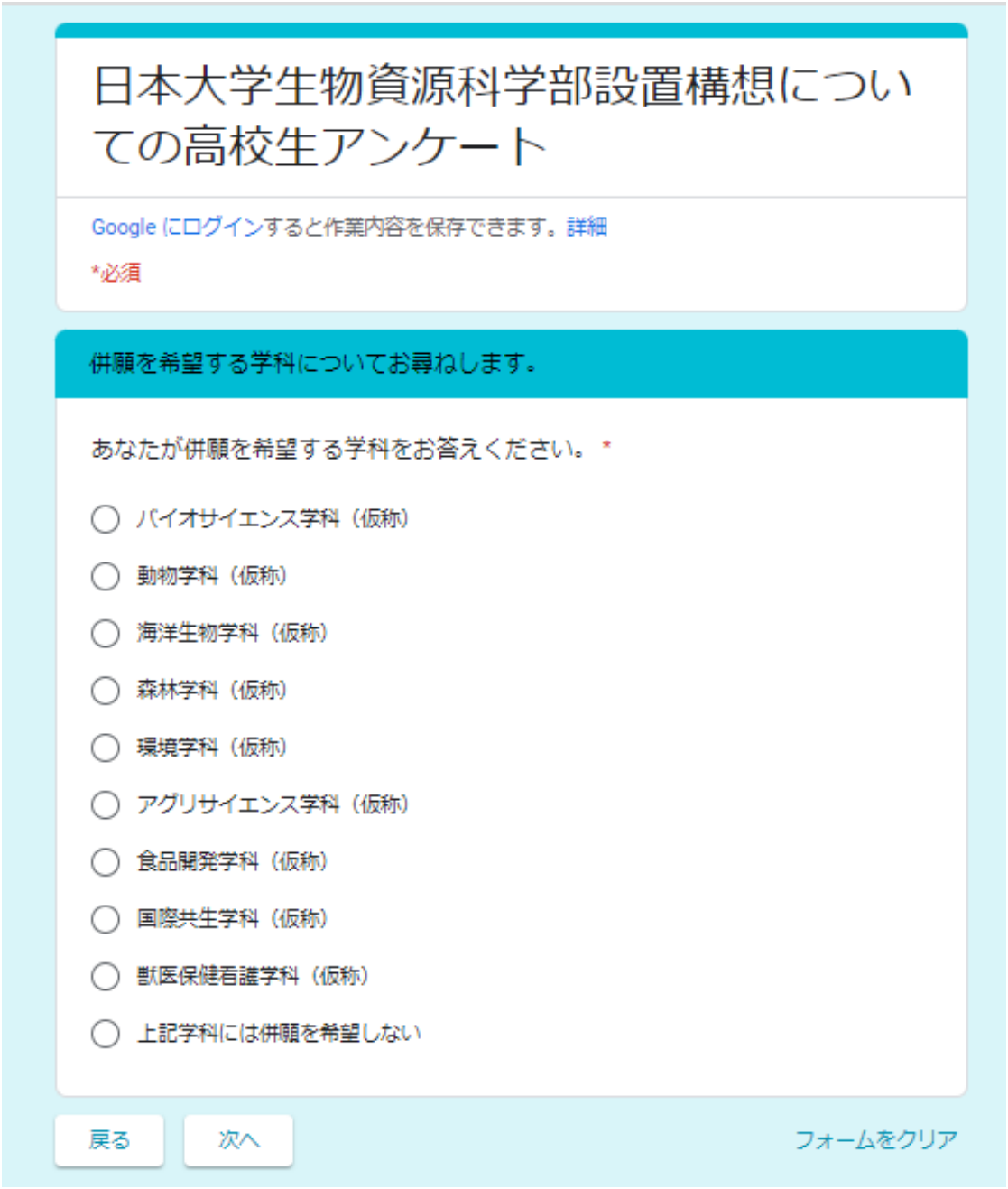
- ○ 生物資源科学部（食品ビジネス学科）
- ○ 生物資源科学部（獣医学科）
- ○ 法学部
- ○ 文理学部
- ○ 経済学部
- ○ 商学部
- ○ 芸術学部
- ○ 国際関係学部
- ○ 危機管理学部
- ○ スポーツ科学部
- ○ 理工学部
- ○ 生産工学部
- ○ 工学部
- ○ 医学部
- ○ 歯学部
- ○ 松戸歯学部
- ○ 薬学部
- ○ 上記の学部・学科には進学を希望しない

戻る　送信　フォームをクリア

「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

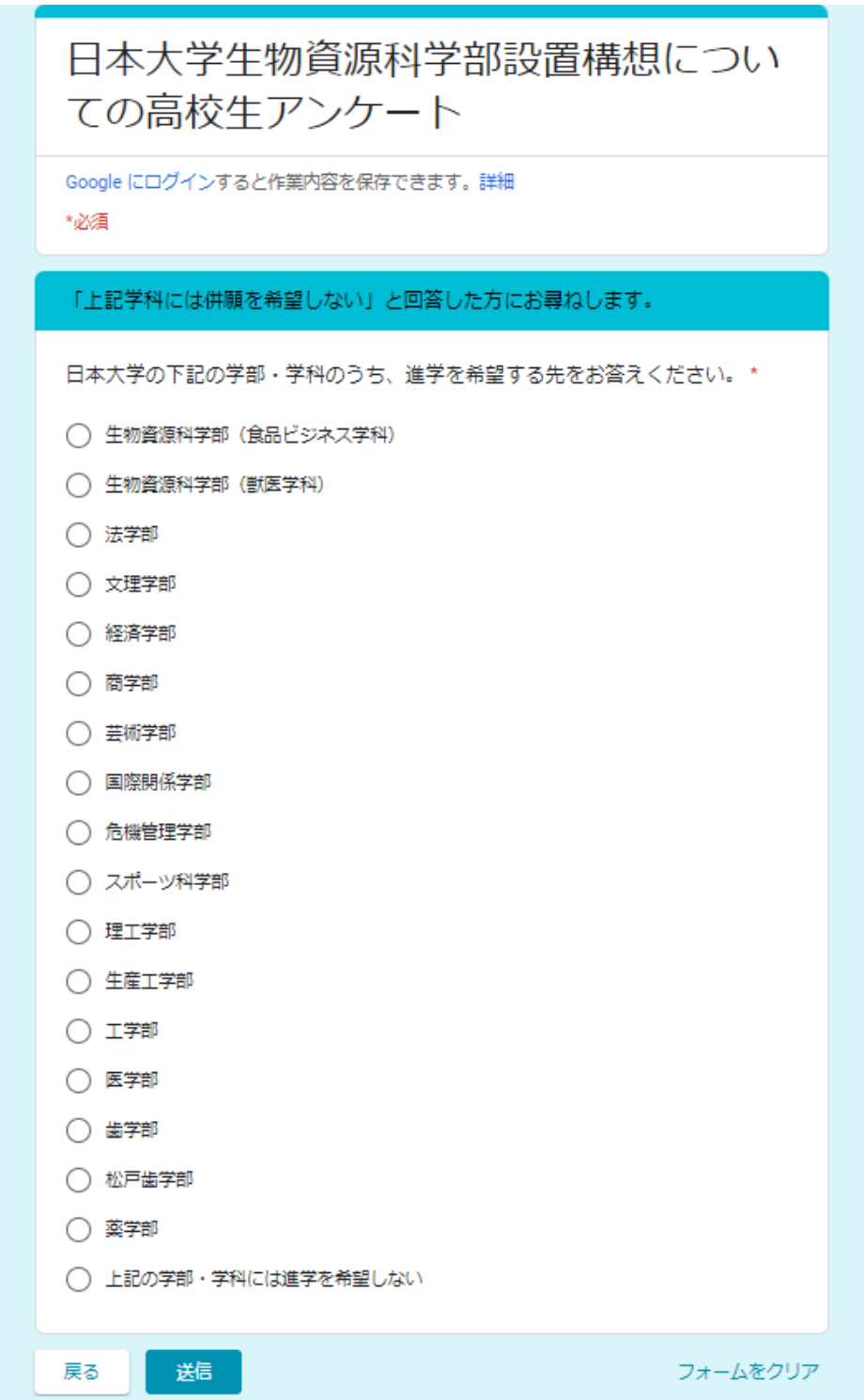
（６ページ目/全７ページ）



「日本大学生物資源科学部　入学意向アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（７ページ目/全７ページ）



日本大学生物資源科学部設置構想についての高校生アンケート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

「上記学科には併願を希望しない」と回答した方にお尋ねします。

日本大学の下記の学部・学科のうち、進学を希望する先をお答えください。 *

- ○ 生物資源科学部（食品ビジネス学科）
- ○ 生物資源科学部（獣医学科）
- ○ 法学部
- ○ 文理学部
- ○ 経済学部
- ○ 商学部
- ○ 芸術学部
- ○ 国際関係学部
- ○ 危機管理学部
- ○ スポーツ科学部
- ○ 理工学部
- ○ 生産工学部
- ○ 工学部
- ○ 医学部
- ○ 歯学部
- ○ 松戸歯学部
- ○ 薬学部
- ○ 上記の学部・学科には進学を希望しない

戻る　送信　フォームをクリア

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（１ページ目/全６ページ）

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（２ページ目/全６ページ）

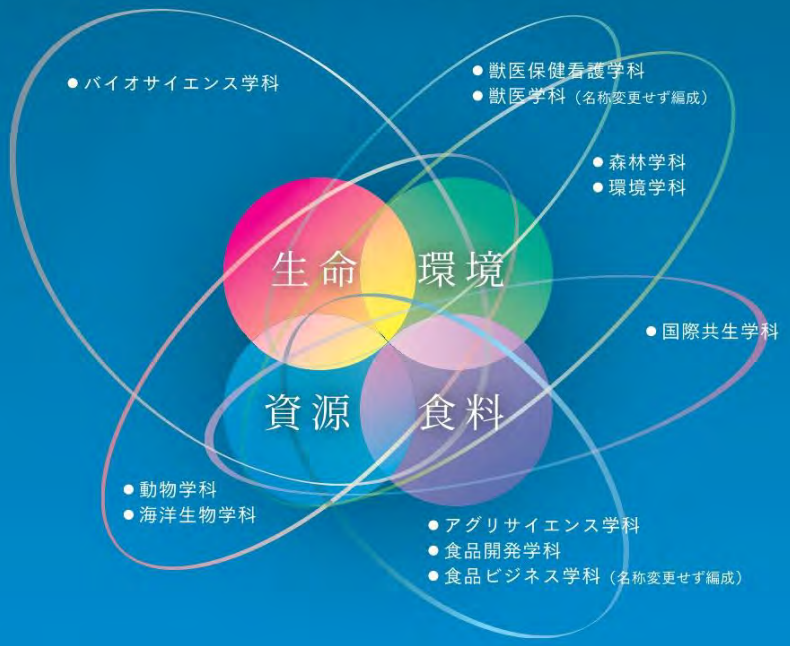
Renewal

学部改組の趣旨と狙い

現在、世界は人口の急速な増加、それに伴う食料問題や環境問題をはじめ、新型コロナウイルス感染症に代表されるような新興感染症の出現など多くの解決すべき問題を抱えています。生物資源科学部は、早くから「生命」「環境」「食料」「資源」に関する教育・研究とこれらの諸問題を解決し、将来を担うことのできる人材の育成に積極的に取り組んできました。しかしながら、急速にグローバル化・ボーダーレス化した社会において、これまで経験したことのない問題や一層複雑化した問題がでてまいりました。

国連はSDGs（持続可能な開発目標）を掲げ、先進国・発展途上国を問わず、諸課題を解決するための取り組みを進めています。また、One Healthのように、人・動物とそれを取り巻く環境（生態系）の健全性を「一つの健康」として包括的に捉え、関連する学術分野が連携して問題解決に当たる必要がでてまいりました。

生物資源科学部では、今日の「生命」「環境」「食料」「資源」の諸問題を解決するためには、新たな視点から教育・研究に取り組み、さらに最先端の知識・技術とSDGsやOne Healthの意識をもって対応できる優秀な人材の育成が急務であると考えています。この度、これからの時代を見据えて、既存の学科の内容・構成を大きく見直し、９つの学科を新設して全11学科の構成で新たな生物資源科学部としてスタートを切ることとなりました。



生命・環境・食料・資源をつなぐ人材育成

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（３ページ目/全６ページ）

新しくなる生物資源科学部の学科内容をご紹介します

私たちのくらしに重要な生命・環境・食料・資源の課題を複眼的に捉え、
自ら解決できる「実践力」のある人材を育成します

【仮称・設置構想中】

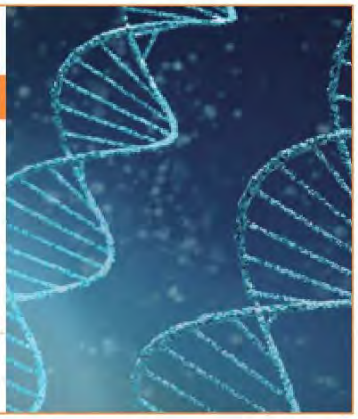
バイオサイエンス学科

バイオテクノロジー×IT×生命現象

バイオテクノロジーを用いて生命活動を解明し
深刻化する社会問題を解決していきます

人間をはじめ動物・植物・微生物のさまざまな“はたらき”や“メカニズム”を、先端的バイオテクノロジーで解明し、社会に還元することで新たな産業を生みだすことを目的とします。健康で持続可能な快適なくらしを実現する技術の発展と創生を教育のコンセプトにしています。

栄養と健康
発酵とケミカルバイオロジー
微生物と植物



主な仕事

ヘルスケア・化粧品・医薬品の開発、製造／医療関係／サプリメント・食品や香料の開発、製造／種苗の開発・改善など／IT関連／バイオ産業に関係する企業や団体／中学校・高等学校教諭／国家公務員・地方公務員（技術職）／博物館などの学芸員／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

動　物　学　科

生体機能×進化×多様性

動物のさまざまな潜在能力、生体機能を学び
人類の文化的生活への応用を考えます

多様な動物種を対象として、それぞれの動物が有する特徴的な機能・かたちから、動物が示す行動や自然界での生態を学び、さらには進化の様相を探究します。その学びにより、自然環境や人間社会への対応を考え、実践できる人材の育成を目指します。

生体機能
動物の生態
進化と多様性

主な仕事

環境アセスメント／サービス業／出版／通信・情報／教育関連／理化学・生化学に関連する企業、団体／中学校・高等学校教諭／博物館などの学芸員／国家公務員・地方公務員／動物学が不可欠な職場でのジェネラリスト・スペシャリストとして／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

海　洋　生　物　学　科

海洋環境×水族館×魚類・海生ほ乳類

海洋生物や棲息環境に関する知識と技術を応用し
海洋資源の活用と人のくらしの調和を創造します

地球の七割は海です。そこに棲息する海洋生物は多種多様で、食料資源としても大きな役割を果たしています。海洋生物の多様性維持と生物資源としての効率的な生産や利用は、海洋環境保全と持続的発展には不可欠な分野です。本学科は人の豊かな暮らしと海洋環境の調和を創造できる人材の養成を目指しています。

海洋生物
海洋資源の生産・利用
海洋環境

主な仕事

食品の製造・流通・分析・検査／環境アセスメント／海洋関連研究機関／製薬関係／通信・情報関連／建設に関連する企業・団体／水族館／博物館などの学芸員／中学校・高等学校教諭／国家公務員・地方公務員（技術職を含む）　など

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（４ページ目/全６ページ）

【仮称・設置構想中】

森　林　学　科

生態系×バイオマス×アメニティ

森林を多角的に研究し、持続可能な社会に役立つ森林の働きを学びます

森林は人類の生存にとって不可欠な緑豊かな環境を提供してくれる存在であり、また地球上で最も現存量の多い生物資源なのです。森林生態系のしくみや人間社会との関わりを理解し、持続可能な社会の実現のため、森林の有効活用や自然環境の保全に関する課題と向き合う知識と技術を身につけていきます。

主な仕事　林業・造園／土木・緑化／環境アセスメント／国家公務員（林野庁など）・地方公務員（林業職）／住宅産業に関連する企業・団体／建材加工・建設／紙パルプ、製紙関係／測量関係／森林関係のコンサルタント／中学校・高等学校教諭　など

【仮称・設置構想中】

環　境　学　科

地球環境×自然環境保全×持続可能社会

地球規模で発生している環境問題の解決方法や自然環境の保全について学びます

現在、国際社会の大きな課題となっている環境問題について学びます。その内容は、地球環境や自然環境から食料生産、資源循環、都市・住居環境まで広範囲に及びます。広い視野とグローバルな視点も備えた、人と自然の共生環境を保全・修復・創造できる「確かな人材」を育成していきます。

主な仕事　建築・土木施行技術者／環境計画コンサルタント／造園技術者／建築・空間デザイン／環境分析技術者／環境保全エンジニア／環境教育指導者／生物生産アドバイザー／観光関連／通信・情報関連の企業・団体／国家公務員・地方公務員／博物館などの学芸員／中学校・高等学校教諭　など

【仮称・設置構想中】

アグリサイエンス学科

フラワー装飾×食資源×ブランド化

先端技術を駆使した食料生産とフラワー装飾へ生命科学の知識と技術を習得します

生命科学のさまざまな理論を学び、キャンパス内のフィールドでは作物生産や動物飼育などの技術を習得します。理論→実践→検証の相互循環型学習から、価値の高い植物・動物性食資源を生産し、安定的に供給するしくみの構築や、多様化する消費者ニーズに対応する能力を育成します。

主な仕事　地域ブランド食品関連企業／農学専門職／種苗の開発／農薬・肥料に絡む仕事／農業資材関係／農業法人／食品企業の農産物部門／食品メーカー／サービス業／造園業／農産物の小売・市場／国家公務員・地方公務員／中学校・高等学校教諭　など

食品ビジネス学科

「食」に関わるさまざまな課題を掘り下げ、「食をプロデュースする人材」を育てます

食品産業、農業、流通、消費、食品科学など幅広い視点からフードシステムを学び、実践的に「食」を創造し、「食」の未来を追究していきます。

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（５ページ目/全６ページ）

【仮称・設置構想中】

食品開発学科

食品開発の基礎×実践的実験・実習×新たな食品

人の健康の維持・増進に役立ち
安全な新食品を開発する力を養います

新食品の開発
食品の栄養・機能
最先端の食品製造技術

食品開発に必要な知識を「食品科学」「食品加工学」「食品安全」「食品機能」の視点から専門的に学んでいきます。最先端の食品製造や食品の栄養・機能に触れ、理解を深めることは、食の安全・健康志向の高まる現代には必須の能力です。新たな食品を開発し、人々の豊かな食生活に貢献できる技術や知識を習得する学科です。

主な仕事

資格を取得することで食品衛生管理者、食品衛生責任者、食品衛生監視員など、企業や地方自治体の専門的な仕事／水産・食品・食料メーカー／流通・フードサービス業／食品アドバイザー／食品のコーディネーター／商社の食品部門や関連／卸・小売業／食品製造／化学工業関係／中学校・高等学校教諭　ほか

【仮称・設置構想中】

国際共生学科

データサイエンス×貿易×国際社会

多様化時代の生物資源・環境と人の共生を
多角的な視点からマネジメントします

コミュニケーション・データサイエンス
国際社会
生物資源流通

グローバル化・多様化の時代に不可欠な「多角的な視点から、国際的な共生を図ることができる知識と思考力の養成」を教育のコンセプトに掲げ、教養と専門の両面から学際的な学修を提供します。コミュニケーション能力や共生力をもって、生物資源をマネジメントしていける人材を育成します。

主な仕事

生命・食・環境に関する生物資源の貿易、流通、サービス／観光関係／商社／金融・保険／不動産／建設関係／通信・情報に関連する企業や団体／国家公務員・地方公務員／中学校・高等学校の教諭／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

獣医保健看護学科

動物福祉×ヒトと動物の関係×動物愛護

獣医師と協働して動物の健康と福祉に
貢献する愛玩動物看護師を養成します

動物看護
愛玩動物の適正飼養
チーム獣医療

動物の健康管理や看護に必要な専門知識と技術を幅広く学び、動物の診療補助や適正な飼養、疾病の予防からリハビリテーション、公衆衛生まで、動物管理における実践的な対応力の習得を目指します。また附属の動物病院と連携した実習を通じ、高い技術力を持った「愛玩動物看護師」を養成します。

主な仕事

動物病院／動物関連産業（ペット保険、ペット飼料、動物書籍出版など）／動物臨床検査／医科学研究機関／実験動物施設／医療器機メーカー／製薬／医療関連のサービスや企業・団体／公務員／中学校・高等学校教諭／獣医学系学部への編入や進学、大学院進学　など

獣医学科

最先端の動物医療を通して、
動物の健康と公衆衛生に貢献する
獣医師を養成します

生命活動のメカニズムやさまざまな動物疾病の診断・治療や予防、公衆衛生、野生動物の保護と管理など、広範な領域を学び、最先端の知識と技術を身につけた獣医師を養成します。

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（６ページ目/全６ページ）

ありのままの自然、そして世界を体感するフィールドサイエンス教育

講義で得た知識を実践力に進化させるポイントがフィールドサイエンス教育です。充実した施設・設備の活用だけではなく、ありのままの自然や環境に触れることで学修を深めます。また多様な観点の指導は広く視野を開き、さまざまな考え方や分析能力も習得していきます。さらに日本大学のネットワークを活用した海外との交流は人間性の成長にもつながる、大学らしい学びの場になっています。

2 演習林（藤沢、水上、八雲、君津）

3 富士自然教育センター

4 下田臨海実験所

1 農場

5 動物病院

6 図書館

7 骨の博物館

8 動物医科学研究センター

9 先端食機能研究センター

10 総合研究所

11 国際地域研究所

12 生命科学研究所

13 食品加工実習センター

14 生物環境科学研究センター

※掲載の写真は、学部案内パンフレット・学部紹介ポスターなどからの転載を含んでいます。

日本大学 生物資源科学部

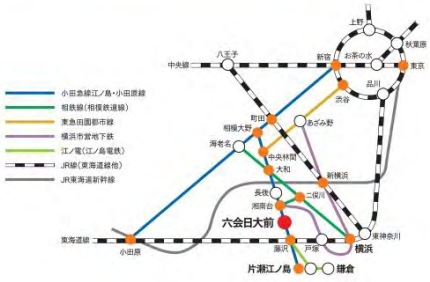
NIHON UNIVERSITY | College of Bioresource Sciences

2023年4月・新学科体制へ －学部改組構想中－

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866　TEL. 0466-84-3811

小田急江ノ島線「六会日大前」下車 徒歩２分

https://www.brs.nihon-u.ac.jp



【資料 13】

日本大学生物資源科学部

バイオサイエンス学科／動物学科／海洋生物学科／森林学科／環境学科／
アグリサイエンス学科／食品開発学科／国際共生学科／獣医保健看護学科

人材需要アンケート調査

報告書

令和４年　２月

株式会社高等教育総合研究所

目　次

1.「人材需要アンケート調査」実施概要　1
2.「人材需要アンケート調査」集計結果　2
3. 人材需要の見通しについて（「人材需要アンケート調査」結果ポイント）　25

添付資料　30

1.「人材需要アンケート調査」実施概要

調査目的	本調査は、日本大学生物資源科学部が、令和 5 年 4 月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」の人材需要の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
調査対象	日本大学生物資源科学部が、令和 5 年 4 月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」の卒業生採用が想定される以下の企業の事業所、計 4,722 箇所をアンケートの対象とした。 ● 日本大学生物資源科学部に就職実績のある企業 ● 製造業、卸売業、小売業、サービス業、建設業、農林水産業など、人材需要が見込まれる業種の上場企業
調査内容	・回答機関・企業の基本情報（所在地、業種、従業員数、企業名） ・採用活動に際して重要視している要素（修めた学問系統、履修科目） ・日本大学生物資源科学部「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」を修了した人材の必要性、人材需要 ・日本大学生物資源科学部に対する要望等 以上、全 18 問で主に選択式。一部記述を含む。
調査時期	令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月
調査方法	対象先の人事採用担当者宛てにアンケート調査用紙を郵送し、回答ならびに返送を求めた。 なお、紙媒体でのアンケート調査と同様の設問・概要資料・リーフレットを用いて Web でのアンケート実施環境を用意し、Web アンケートを希望した企業にアンケートフォームを送付した。調査対象者をアンケートフォームへ誘導し、パソコンもしくはタブレット、スマートフォン等から回答を得た。
有効回答件数	736 件（回収件数：737 件。うち、WEB アンケートの回答を二重に送信していた 1 件を無効回答とした。）

2.「人材需要アンケート調査」集計結果

※構成比(%)はいずれも、小数第 2 位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100%とは一致しない。

2～24 ページはアンケートで回答を得た 736 件の有効回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問 1:御社の主たる所在地をお答えください。

選択項目		回答数	構成比
1	北海道	7	1.0%
2	青森県	5	0.7%
3	岩手県	2	0.3%
4	宮城県	6	0.8%
5	秋田県	3	0.4%
6	山形県	0	0.0%
7	福島県	8	1.1%
8	茨城県	13	1.8%
9	栃木県	6	0.8%
10	群馬県	13	1.8%
11	埼玉県	23	3.1%
12	千葉県	19	2.6%
13	東京都	352	47.8%
14	神奈川県	108	14.7%
15	新潟県	15	2.0%
16	富山県	2	0.3%
17	石川県	1	0.1%
18	福井県	1	0.1%
19	山梨県	2	0.3%
20	長野県	17	2.3%
21	岐阜県	5	0.7%
22	静岡県	18	2.4%
23	愛知県	25	3.4%
24	三重県	1	0.1%
25	滋賀県	0	0.0%
26	京都府	4	0.5%
27	大阪府	36	4.9%

28	兵庫県	11	1.5%
29	奈良県	1	0.1%
30	和歌山県	0	0.0%
31	鳥取県	1	0.1%
32	島根県	0	0.0%
33	岡山県	3	0.4%
34	広島県	7	1.0%
35	山口県	0	0.0%
36	徳島県	0	0.0%
37	香川県	3	0.4%
38	愛媛県	2	0.3%
39	高知県	1	0.1%
40	福岡県	6	0.8%
41	佐賀県	1	0.1%
42	長崎県	2	0.3%
43	熊本県	1	0.1%
44	大分県	0	0.0%
45	宮崎県	1	0.1%
46	鹿児島県	1	0.1%
47	沖縄県	1	0.1%
	無回答	2	0.3%
合計		736	100.0%

問 2:御社の業種についてお答え下さい。

選択項目		回答数	構成比
1	(1) 農業・林業・漁業	23	3.1%
2	(2) 鉱業	0	0.0%
3	(3) 建設業	94	12.8%
4	(4) 製造業	177	24.0%
5	(5) 電気・ガス・熱供給・水道業	8	1.1%
6	(6) 情報通信業	67	9.1%
7	(7) 運輸業	17	2.3%
8	(8) 卸売・小売業	120	16.3%
9	(9) 金融業・保険業	17	2.3%
10	(10) 不動産業	16	2.2%
11	(11) 宿泊業・飲食サービス業	20	2.7%
12	(12) サービス業	66	9.0%
13	(13) 教育・学習支援業	10	1.4%
14	(14) 医療・福祉	13	1.8%
15	(15) 公務	23	3.1%
16	その他	63	8.6%
	無回答	2	0.3%
合計		736	100.0%

問2 (15)その他 記述内容
建設コンサルタント
獣医業
技術サービス
建設コンサルタント、測量業
外食、中食、内食、給食
生活協同組合
レジャー施設(テーマパーク、ホテル、水族館)
動物病院
官公庁団体
娯楽業(スポーツ施設提供業)
動物病院経営
団体
協同組合
生活協同組合
医療サービス
技術サービス業
フランチャイジー事業
産業廃棄物処理業
各種事務受託及びシステム開発・運用
建設コンサルタント
複合サービス(協同組合)
倉庫業
土木工事業
不動産管理業
技術サービス業(受託分析)
獣医業
半導体設計
財団法人

問 3:御社の従業員数(正規社員数)についてお答えください。

選択項目		回答数	構成比
1	(1) 50 名未満	70	9.5%
2	(2) 50 名以上 100 名未満	56	7.6%
3	(3) 100 名以上 500 名未満	258	35.1%
4	(4) 500 名以上 1000 名未満	138	18.8%
5	(5) 1000 名以上 5000 名未満	172	23.4%
6	(6) 5000 名以上	40	5.4%
	無回答	2	0.3%
合計		736	100.0%

問 4:どのような学問系統を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか(あてはまるものすべてを選択してください)。

選択項目		回答数	構成比
1	(1) 学部や学問系統にはこだわらない	414	56.3%
2	(2) 農・畜産・水産	170	23.1%
3	(3) 文学・歴史・心理	27	3.7%
4	(4) 経済・経営・ビジネス	109	14.8%
5	(5) 法学・政治	71	9.6%
6	(6) 社会・社会福祉・観光	32	4.3%
7	(7) 外国語・国際関係	42	5.7%
8	(8) 教育・保育	13	1.8%
9	(9) 理学・工学・情報	262	35.6%
10	(10) 医学・歯学・薬学	30	4.1%
11	(11) 看護・保健学	23	3.1%
12	(12) 栄養学・家政学	35	4.8%
13	(13) スポーツ・健康科学	29	3.9%
14	(14)芸術	12	1.6%
15	(15)その他	22	3.0%
	無回答	6	0.8%

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 ＝ 回答数 ÷ 736 人(全回答者数)

問 5:御社では採用した人材の大学等における履修科目を参考にされていますか。

選択項目		回答数	構成比
1	極めて重要視している	36	4.9%
2	ある程度参考にしている	391	53.1%
3	あまり参考にしていない	220	29.9%
4	参考にしていない	73	9.9%
5	わからない	5	0.7%
	無回答	11	1.5%
合計		736	100.0%

問 6:日本大学 生物資源科学部が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	198	26.9%
2	ニーズはある程度高い	408	55.4%
3	ニーズはあまりない	43	5.8%
4	ニーズは全くない	8	1.1%
5	わからない	73	9.9%
	無回答	6	0.8%
合計		736	100.0%

問 7～問 15 は、生物資源科学部に新設する 9 学科ごとの採用可能な人数をお答えください。

問 7:【バイオサイエンス学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	295	40.1%
2	2 人	50	6.8%
3	3 人	16	2.2%
4	4 人	0	0.0%
5	5 人以上	79	10.7%
6	採用しない	204	27.7%
	無回答	92	12.5%
合計		736	100.0%

問 8:【動物学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	231	31.4%
2	2 人	48	6.5%
3	3 人	15	2.0%
4	4 人	1	0.1%
5	5 人以上	78	10.6%
6	採用しない	272	37.0%
	無回答	91	12.4%
合計		736	100.0%

問 9:【海洋生物学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	250	34.0%
2	2 人	43	5.8%
3	3 人	12	1.6%
4	4 人	1	0.1%
5	5 人以上	84	11.4%
6	採用しない	252	34.2%
	無回答	94	12.8%
合計		736	100.0%

問 10:【森林学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	261	35.5%
2	2 人	59	8.0%
3	3 人	23	3.1%
4	4 人	1	0.1%
5	5 人以上	83	11.3%
6	採用しない	227	30.8%
	無回答	82	11.1%
合計		736	100.0%

問 11:【環境学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	317	43.1%
2	2 人	64	8.7%
3	3 人	26	3.5%
4	4 人	2	0.3%
5	5 人以上	85	11.5%
6	採用しない	165	22.4%
	無回答	77	10.5%
合計		736	100.0%

問 12:【アグリサイエンス学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	258	35.1%
2	2 人	48	6.5%
3	3 人	16	2.2%
4	4 人	0	0.0%
5	5 人以上	78	10.6%
6	採用しない	242	32.9%
	無回答	94	12.8%
合計		736	100.0%

問 13:【食品開発学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	239	32.5%
2	2 人	56	7.6%
3	3 人	15	2.0%
4	4 人	1	0.1%
5	5 人以上	83	11.3%
6	採用しない	250	34.0%
	無回答	92	12.5%
合計		736	100.0%

問 14:【国際共生学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	268	36.4%
2	2 人	42	5.7%
3	3 人	12	1.6%
4	4 人	0	0.0%
5	5 人以上	74	10.1%
6	採用しない	242	32.9%
	無回答	98	13.3%
合計		736	100.0%

問 15:【獣医保健看護学科】

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	219	29.8%
2	2 人	40	5.4%
3	3 人	14	1.9%
4	4 人	1	0.1%
5	5 人以上	86	11.7%
6	採用しない	287	39.0%
	無回答	89	12.1%
合計		736	100.0%

問 16:学科を問わず、生物資源科学部に新設される 9 学科から卒業生を採用する場合の採用可能人数をお答えください。

選択項目		回答数	構成比
1	1 人	196	26.6%
2	2 人	131	17.8%
3	3 人	77	10.5%
4	4 人	17	2.3%
5	5 人以上	191	26.0%
6	採用しない	74	10.1%
	無回答	50	6.8%
合計		736	100.0%

問 17:日本大学　生物資源科学部に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

※「特になし」、もしくはそれに類する内容の記述は省略した。

※回答した企業や個人を特定できる固有名詞は、伏字（例:●●）とした。

	記述内容	業種
1	採用しないと選択している学科でも、本人が志望してくだされば採用いたします。	(3) 建設業
2	上記問 7-15 に関して:当社は人物ベースで採用しますので学部に応じて採用数何名とはお答えできかねます。	(4) 製造業
3	いつも大変お世話になっております。 弊社では、取締役をはじめ、御校の OB、OG が多く在籍しております。長年採用担当をしておりますが、御校の学生様は多岐にわたる学部から様々なご経験を経て、社会では幅広い分野でご活躍される方が多いイメージを持っております。 しかしながら、弊社では現在新卒採用の活動をストップしている次第であります。 今後、活動を再開した際には、御校の学生様とお会いできることを願っております。 何卒、よろしくお願い申し上げます。	(12) サービス業
4	弊社は、情報サービス産業なので、採用は難しいと考えます。	(6) 情報通信業
5	問 1～16 ですが、出身学部で採用基準を設けておりません。弊社と合う方がいらしたら、学校学部を問わず採用しておりますので、「採用しない」と回答致しましたが、弊社に就職を希望しご縁がありましたら採用をいたします。	(7) 運輸業
6	申し訳ございませんが、23 年度の採用を見送っておりますので、採用可能人数は控えさせていただきます。	(8) 卸売・小売業
7	どの学科もとても重要視されている分野であると思います。是非当社の分析検査職や営業職にお越しいただきたいと感じました。 今後良いご縁をいただけましたら幸いです。	医療サービス
8	採用人数の回答は全て 1 人としておりますが、当社は学部学科不問の為、特に学科ごとでの人数の記載ができない為になります。例年 10～20 名の採用を行っております。	(4) 製造業
9	学部学科関係なく、意欲的に学んでいる方を採用したく考えております。	(14) 医療・福祉
10	弊社の募集職種が SE 職のため、対象の学科にて履修される学問が、直接的に弊社業務に反映できるかというと、正直申し上げて難しいのかなと思います。 ただし理系学科の学生の、根気よく課題や研究に取り組む素地については、大変期待が高いものでございます。 例えば、日ごろから自主的にプログラミングに取り組まれている、あるいは研究の過程でプログラミングに触れる機会が多かった、という方々でございましたら、ぜひともご応募いただいたいと考えております。	(6) 情報通信業
11	・問 4 にて「学部や学問系統にはこだわらない」と答えておりますので、問 7～問 15 にあるような学科別の採用人数は回答できかねます。(「採用しない」を選択しております。)	(10) 不動産業
12	採用人数を各 1 名で回答いたしましたが、大学、学部、学科ごとでの採用人数は定めておりません。一級建築士や土木施工管理技士の受験資格を得られるカリキュラムを継続していただき、建設業に興味を持つ学生さんを今後も育てていただけますと幸いです。	(3) 建設業
13	人数については採用計画によって変わりますので未定です。	(3) 建設業
14	弊社も今年度より採用コースに「バイオサイエンスコース(名称は変更の可能性が有ります)」を新設しており、バイオ系に対する期待度は高いと認識しております。 今後とも、よろしくお願いいたします。	(6) 情報通信業
15	専攻学科における幅広い知識、論理的な思考、社会的倫理観	(6) 情報通信業
16	当社は会場で使う製品(魚群探知機やレーダー等)を扱っているため、海洋生物について学ばれた方は特にお客様が求める製品像や昨今の現状等、私たちよりもより身近にお客様目線での意見や案を出していただけるのではないかと思っています。また、学部・学科と当社の製品が直接結びつかなくても、数学が好き、考えることが好き、人と話すことが好き、といったところが一つでも当てはまれば、条件としては十分です。生物資源科学部の OB・OG も活躍しておりますので、是非この縁が続いてほしいと願っております。	(4) 製造業

17	今後とも有望な人材の育成に期待しています。	(1) 農業・林業・漁業
18	学科を問わず、目的意識を持って、自信の学びたいことを追求できるような学生教育・環境作りをして頂きたいです。	(12) サービス業
19	いつも大変お世話になっております。貴校学部出身者は弊社社員でも優秀な方が多いため、特に要望等はございません。今後とも宜しくお願い致します。	(8) 卸売・小売業
20	大学で何を学んできているかはあまり考慮しないので、どの学部の方も当社の考えと自分自身のやりたいことがあっていれば、ご入社いただけたらと考えております。	(11) 宿泊業・飲食サービス業
21	上記アンケートについて、どの学科に関わらず、選考を通して弊社で働いてもらいたいと思えば採用させていただくかと思います。特に弊社は水産を扱いますので水産・食品の採用可能人数を多くさせていただきました。 期待する点については、コロナ禍で難しいとは思いますが、ぜひ学科授業等を通して、さまざまな経験を学生さんにしていただけると良いかと思います。	(8) 卸売・小売業
22	毎年優秀な学生様をお送り頂いております。御校の引き続きのご発展を祈念しております。	(3) 建設業
23	専攻の学科だけでなく幅広い分野の習得を目指すことが好ましいと考えます。例えば、バイテクだけでなくそれを利用する工学に関すること、また法律や社会の受容に関することなど。弊社では幅広いお客様とお取引があり、産業廃棄物も多様なため専門をもちつつ視野の広い学生を採用したいと考えています。	産業廃棄物処理業
24	弊社が IT ソリューションを主な業務としておりますことから IT に関連した内容で恐縮ですが、新設される各学科で学ばれるそれぞれの分野・業界にも今後 IT 技術との連携や IT 技術の活用はますます増えていくかと存じますため、分野の知識習得のみならず、その知識を使って、各分野の未来の姿(近い未来からある程度先の未来くらい)を模索できる様な学生に育てていただけますと幸いです。	(6) 情報通信業
25	自己研鑽力とリベラルアーツ的に偏らない知見	(1) 農業・林業・漁業
26	御校の学生様には学生生活で学んだことを実務に活かしながら活躍をしていただいております。	(8) 卸売・小売業
27	上記回答について、学部学科にこだわらない為、特定の学科からの採用可能人数は、極端な話「採用基準を満たせば何人でも可能」であるし、「採用基準を満たさなければ 0 人」となるため、上記選択肢に適切なものがなく「採用しない」と回答した	(4) 製造業
28	機械メーカーであるため、弊社では新設学科の多くは専門性を活かしにくいと思います。文系職種であれば採用の可能性はありますが・・・	(4) 製造業
29	直接関係のある分野ではありませんが、貴重な分野の教育だと思いますので、今後も更に社会で活躍できる人材を送り出して頂きたいです。	(3) 建設業
30	毎年多く入社頂いています。生物資源科学部限定の 1DAY 仕事体験会も可能です。今後ともよろしくお願い致します。	(4) 製造業
31	チャレンジ精神を持っている方を期待しております。	(10) 不動産業
32	問 7～15 は問 6 で回答した通り、わかりませんが、そのような項目がないため、採用しないとした。 履修で習得した専門知識を活かした仕事を希望の場合、当社にはそのようなポジションはないと思われます。	(6) 情報通信業
33	畜産学についても継続して取り組みいただけると幸いです。	複合サービス(協同組合)
34	弊社にとりまして積極採用学部ですので、今後ともよろしくお願いいたします。	(4) 製造業
35	IT 企業ですので、直接的に履修した学問がその後の仕事に結びつくことはありませんが、それでもかまわず、素質を生かしたいという学生様がいらっしゃればお受入れしたいと考えております。	(6) 情報通信業
36	いち企業の人事担当として、また本学部卒業生として、御校との更なるご縁が紡げることを願っております。また、当社のビジネスモデルと、この度の学部改組のねらいは一致するものと思っております。学びの場としての御校の取り組みにわずかながら尽力できるものもあるかと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。	(8) 卸売・小売業
37	直ぐに仕事を辞めてしまう学生さんが多いため、職場意識をしっかり育む教育に期待致します。	(12) サービス業
38	弊社の開発職として新しい発想で新たな風を吹き込んでほしい。	(4) 製造業

39	世界の課題を把握し、今後どんなことが求められるのか考える力を身に付けていただきたいと思います。	(9) 金融業・保険業
40	学生の SDGs についての知見が深まることを期待します	(4) 製造業
41	学術的分野だけに偏らない広い視野を持った人材育成に期待致します。	土木工事業
42	当社においても卒業生が活躍されており今後も積極的に採用したいと思います。	(4) 製造業
43	弊社は人物重視で採用を行っておりますので、全ての学科の採用人数を仮で 1 人とさせていただいております。ご了承ください。	(8) 卸売・小売業
44	弊社、紙パルプ業の製造業であるため、学部学科不問で採用活動を行なっております。履修科目に注視はしませんが、なぜ、その学問を専攻したのか、などと言った人物の背景に対して注視をして選考を行って参ります。	(4) 製造業
45	将来的には水産やエネルギー資源等の課題がより大きくなると考えます。環境全体の改善に繋がる方々を輩出していただけることを期待しております。	(8) 卸売・小売業
46	フィールドワークは実際の植物環境を体感するとても重要な時間だと考えます。以前の必修(履修)時間から減らないことを希望します。	(3) 建設業
47	あまり他校でも本格的に取り組みができていないような分野も見られるので、期待しております。	(10) 不動産業
48	2023 年 4 月に生物資源科学部が新設されるとの事で、SDGs への取り組みに積極的な印象を受けました。当社でもデータセンターの環境配慮型データセンターを目指して様々な取組みを進めています。	(6) 情報通信業
49	食品開発学科に期待します	(4) 製造業
50	環境問題に対応する課題は製造業とも深くかかわる内容である。よって環境についての知識をもった人材は今後も必要となると考える。	(4) 製造業
51	環境関連の国家資格の教育を積極的に行うこと(たとえば公害防止管理者など)	(4) 製造業
52	専門的知識を深めつつも広い視野を持ち、豊かな社会と人との共生の実現に貢献できる人材を育まれることを期待します。	(3) 建設業
53	当社には現在 3 名在籍しており、大変期待しております。	(8) 卸売・小売業
54	時代のニーズを的確に捉え、VUCA時代に対してとても強い学部だと考えます。	(3) 建設業
55	学科名称から専攻する学問領域が分かり辛い印象を受けました。弊財団のポイントとしては，食品衛生監視員の資格取得可否は重要のため，学科案内等に明記して頂けると幸いです。	技術サービス業(受託分析)
56	当社採用については、大学、大学院で身に付けたスキルはもちろんですが、人物なども含めて総合的に判断させていただくもので、一概に学部学科で判断するものではございません。また、たくさんの大学の学生のみなさんからエントリーいただいておりますが、当社の新卒採用人数は毎年 10 名前後と少なく、問 7～16 の貴学改組後の採用可能人数に対しての回答はかなり難しいと感じております。回答必須項目ですので、1 名のみ採用可能という意味ではございませんが、1 名の箇所にチェックを入れておりますことをご了承いただけます様お願いいたします。 また、貴学の学部改組については、サステナブルの時流にあった改組だと感じております。私ども食品製造業も安心安全な製品を提供するだけでなく、企業や社会の持続可能を考えるうえで、自然との共生はとても重要と考えております。その中で、貴学生物資源科学部を改組され、持続可能な社会を目指すための専門教育・研究を進めていかれることは、今後、ニーズがより多様化してくる食に関わる事業の中でも役立つことが多いと考えます。	(4) 製造業
57	いつも大変お世話になっております。弊社は動物病院を運営しておりまして、貴学獣医学科からも毎年数名、ご縁をいただいております。この度、2023 年度より獣医保健看護学科も新設されるとの事、動物看護師職についても良いご縁につながると期待を膨らませております。要望としましては、企業説明会の場を頂き、一人でも多くの学生様に弊社の紹介ができればと思っております。身動きが取りにくいこのような状況下ですので、皆様に弊社を知っていただく機会を少しでもいただきたく、対面もしくはオンラインでの開催を定期的に頂戴できますと幸いです。是非、ご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。	(14) 医療・福祉
58	現時点では、次年度の採用人数等は未定です。	(4) 製造業

59	弊社でも卒業生が活躍しております。学び続ける姿勢、勉強が好き、探究心がある、PDCA サイクルを回すことができる等が弊社の仕事で必要になります。そのような学生を期待します。	(3) 建設業
60	問 7～問 16 まで全て「採用しない」とさせていただきましたが、これは特定の学校から採用することは予定していないという意味であり、選考の結果、貴校の学生を採用する可能性はあります。弊社は化粧品・健康食品の OEM メーカーですので、バイオサイエンス学科の学生には、活躍するフィールドはあるかもしれません。	(4) 製造業
61	新学科の誕生おめでとうございます。弊社は分野違いのため採用はございませんが、他の様々な企業様で活躍してくださることと思います。応援しています。	半導体設計
62	生物資源と釣りというレジャーは大変結びつきの強いものだと考えております。釣りの最中に糸が切れ、水の中に釣具が残った時点で釣具ではなくゴミと化す。そんな中でも釣具業界が、釣り人が昨今の SDGs 問題を少しでも前向きにクリアする為にはどうしたら良いか学生様のご意見をお聞かせ願いたいです。	(8) 卸売・小売業
63	業種・職種の垣根を越えて、科学の高い専門性を存分に発揮される人財が、これからも増えます様に願っております。	(8) 卸売・小売業
64	企業は SDGsを含む持続可能な事業経営を柱とする傾向です。その中で事業と自然科学環境等と連携を推進するための方策提案できるような研究を希望します。	(8) 卸売・小売業
65	実験動物に関する知識（飼育・生理学・栄養・繁殖。遺伝等）と応用。生殖工学関係（遺伝子組み換え、胚操作、凍結胚作製）	(12) サービス業
66	昨今のウィルス、ワクチン、生物など 未知のものが多い中で 正確な情報の提供を出来る機関が出来ると 頼もしいと思います	(10) 不動産業
67	問 7～16 について、学科毎の採用可能人数については答えられませんでした。 その学科だからという事ではなく、個人個人を評価して採用しております。 そのような意味で、回答は「採用しない」と記入させていただきました。 ご理解を頂ければ幸いです。 宜しくお願いいたします。	(8) 卸売・小売業
68	専門性の理系人材の育成に期待しております。	財団法人
69	弊社社員に生物資源学部卒が 3 名在籍しています。是非またご紹介下さい。	(10) 不動産業
70	積極的に卒業生を OB へ紹介して欲しい	(14) 医療・福祉
71	弊社及びグループ企業において幅広くご活躍いただけることを期待しています。	(12) サービス業
72	特にございません。弊社は学部学科にこだわっておりませんので、ご縁のあった学生さん全ての方と面接でお会いしたいと思っております。	(7) 運輸業
73	SDGs を考えていく社会に向けた創造性を持った思考の人材を求めたい	(3) 建設業
74	弊社は学部学科不問ですが、大学で学んだ知識を活かせる仕事が充分に整っておりますので 専門的な分野で働きたいと思う方も大歓迎です。	(4) 製造業
75	食と医療福祉に関わる弊社の事業と生物資源科学部の学生の皆様の学ばれる知識、専門性は弊社でも活かすことのできる内容かと思います。あまり知られていない業界ではありますが、多くの方に弊社の様な事業もあることをしっていただければ良いなと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。	(11) 宿泊業・飲食サービス業
76	海洋生物学科や環境系統学科からの入社実績はございますが、回答における採用可能人数については状況によるところが大きく、その点ご考慮の上、ご活用いただければ幸いです。	(3) 建設業
77	SDGs を意識した取り組みは、今はどの業界にも求められることであり、そうした視点の学科新設は大変意義あることと思います。	(6) 情報通信業
78	当社は食品の総合商社として、飼料畜産部では精肉から飼料まで取り扱い、業務用商品本部では小麦粉などの原料から燃料まで取り扱っています。それらの専門知識を専攻していた方を求めています。	(8) 卸売・小売業
79	地球環境問題は深刻であり、生物資源科学部・学科は非常にニーズが高いと思っております。弊社は建設会社であり、技術系（理工系）の人材を多く必要としておりますが、総務部門にも従来の文系学部・学科だけではなく、他分野の学部・学科の知識が必要	(3) 建設業

	であると考えております。例えば、会社として取り組む環境問題の対策や立案等取り組める業務は多々あると思います。このような一般企業にも興味をお持ちいただける学生様がみえると有難いと思っております。	
80	上記人数に関しては、決まったものではなく、当社に合致する学生の方であれば、何名でも来ていただきたいと思っております。	(12) サービス業
81	現時点では生物系の学部を特に注力して採用する予定はありませんが、理系学生の採用は積極的に行っております。	(4) 製造業
82	弊社社員の中で日本大学生物資源科学部様卒業者は、前向きに粘り強く行動できる人材が多いと感じています。学んだ知識を自身の拘りや興味の実現に発揮するのみでなく、周囲に伝え導いていける力が発揮されるとどのような環境でも活躍されるのではないかと感じます。	(4) 製造業
83	貴校貴学部から毎年多数の学生様が、インターンおよび就職イベントに参加していただいています。また、多くの卒業生が活躍されています。新設学科からも多くの学生に来ていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。	(8) 卸売・小売業
84	議論すること(考えを持ち、述べるということ) IT ツールの活用(PC の基礎操作) 論理的思考の強化など ※専門的なことよりも、社会に適応するために学生時代からのトレーニングが必要であると思います。	(6) 情報通信業
85	問 16 までの回答ですが、もし採用するなら最大でも〇名、という解釈で回答しております。 生物資源科学部は今後の社会でも非常に重要な学問だと思います。新設学科の学生様とお会いできる日を楽しみにしています。	(8) 卸売・小売業
86	採用可能人数の項の対象職種は営業職となります	(4) 製造業
87	今後の課題として気候変動により野菜生産計画の見直しや品種選定、や消費者ニーズの高い作目、農業所得の向上に向けたあらゆる方策など、JA事業における営農事業で活躍できるのではないかと期待しています。	(1) 農業・林業・漁業
88	専門性が高い学問を学ばれているため、入社後も自身の成長のため専門的な知識であっても吸収していける人材を多く輩出いただける	(12) サービス業
89	就職活動において、当社事業に興味がある学生であれば選考時点で学部や学科の専攻内容がネックになることはありませんが、学んできたことを仕事に活かしたい方は分野が異なるので採用接点として難しいと感じます。以上のことから特にこのアンケートでは何を判断すべきなのかよくわかりませんでした。	(10) 不動産業
90	大学での経験・知識が活かされる分野でのご活躍を期待します。	(4) 製造業
91	基礎的な化学の知識とエクセルワードの基礎知識を身につけてから卒業させてください。	(4) 製造業
92	獣医看護師が国家資格を有して卒業できる環境を整えていただければと思います。	(12) サービス業
93	平素より大変お世話になりまして誠にありがとうございます。 株式会社●●人事部採用担当の●●と申します。 弊社は採用人数が例年 15～30 名程度とあまり多くはありませんが、ここ数年、毎年 1～2 名継続してご入社いただいております。 今後とも良いご縁をいただけますと幸いです。 引き続き何卒よろしくお願い致します。	(4) 製造業
94	設問に対しての回答ではありませんが、弊社では学科専攻による採用人数の枠を設けておりません。このため採用可能人数は全て1人と答えておりますが、それが枠ではないことをご理解ください。	(4) 製造業
95	産業(各々の業務)が直面する問題、課題解決に、我々が扱う情報システムが役立ってます。御校で育った問題解決できる方々に、当方を卒業後に活躍できる(問題解決能力を活かす)場として入社ご検討いただきたいです。	(6) 情報通信業
96	これまでは理系中心の学部でしたが、文系的な学部も増えております。食品メーカーなので、やはり理系中心の採用がメインとなります。	(4) 製造業

97	弊社の採用につきましては、学部学科・人数について制限は設けておらず、学生個々の能力について選考いたしますので、採用人数につきましては 5 人以上としておりますが、0 の場合もございますのでご了承ください。	(3) 建設業
98	専門的な学びを習得させ、社会で活躍できる人材を育成していただきたい。	(3) 建設業
99	業種、職種的に貴学部で学ばれた知識と業務が直接つながらないことも多いかとは思いますが、課題へのアプローチなどといった「考え方」「臨み方」といった部分で学んだものが活かされることを期待しております。	(8) 卸売・小売業
100	問 7～問 16 は全て『1 人』と回答しましたが、弊社では人物重視の採用選考を行うため、学科ごとの採用可能人数はございません。	(4) 製造業
101	採用しないとお答えしているのは、大学ごと、学部ごとに、採用を決めているわけではないので、そのようにお答えさせていただきました。よろしくお願いいたします。	(4) 製造業
102	学科問わず、今後も良い人材がいましたらぜひ採用させていただきく存じます。ぜひ多くの学生さんが弊社へ興味を持っていただけたら幸いです！	(8) 卸売・小売業
103	専門分野+IT で現状を変えることができる柔軟な発想を持った人材教育が必要だと感じています。	(6) 情報通信業
104	獣医学科の採用希望があります。	(9) 金融業・保険業
105	学部学科を区別して採用人数を決めていないため、問7～16 は採用しないを回答。	(9) 金融業・保険業
106	弊社への入社も多く、優秀な学生が非常に多い印象です	(8) 卸売・小売業
107	当社は建設業である為、森林学科や環境学科を中心とした採用になると思いますが、一部職種については学部学科不問としておりますのでご相談ください。	(3) 建設業
108	意思を持って行動できる OB,OG が多いです。自身が興味のある事を学ぶという選択を大学進学時にしているからなのか、理由は分かりません。しかしながら、たとえ内向的であっても意見を持っているように感じます。	(6) 情報通信業
109	貴校の生物資源科学部から入社された OB・OG の社員は素直で前向きな方が多く、どの職種に配属されても真面目に仕事に取り組んでくれて、とても良い印象をもっています。当社を希望される学生は、バイオ系や食品系の学生からの応募が多いため、今回の選択肢の中で該当する学部を多めに選択させていただきましたが、学部にこだわりは特にございませんので、次年度以降も引き続きご応募いただければ幸いです。よろしくお願い致します。	(4) 製造業
110	上記アンケートの採用可能人数は、具体的に決められるものではないので、すべてにおいて 5 人以上にチェックをしています。弊社のサービスには直接的に関わりのある学科内容ではありませんが、なにかしら役立てる機会もあると思います。また学んだことを社会に出てから活用できるように学んでいただきたいなと思います。	(12) サービス業
111	貴学部卒業生です。地方中小企業で人事採用担当をしております。貴学は、全国から学生が集まると思います。是非、貴学部出身の方々が地元や地方で活躍頂けると嬉しいです。	(3) 建設業
112	土木工学と関連性がある分野に興味があります	技術サービス
113	特に、国際共生学科に期待をしています。 弊社は●●市でデータ分析を事業としている企業ですので、 データサイエンスを心得た、地域になじみのある学生さんに来ていただけると嬉しいです。 また、他の学科の学生さまでも、学生時代に少しでもデータに触れる機会があり、データ分析に興味を持っていただける方がいらっしゃいましたら歓迎いたします。 生物資源学科ご出身の方も在籍しております。 ゼミや学校での出張説明会なども承っておりますので、お気軽にご相談下さいませ。	(6) 情報通信業
114	今後の学内合説に参加させて頂きたく、よろしくお願い申し上げます。 コロナ禍で暫く伺えておらず、機会を頂けますと幸いです。	(8) 卸売・小売業
115	問 7～問 16 につきまして、当社は学部学科不問のため学科ごとの採用可能人数は問いません。必須項目につき 5 人以上を選択させていただいております。	(4) 製造業
116	採用に当たって、学部や学科の制限を設けていないという観点から、上記のとおり回答いたします。しかしながら、弊社では現在採用試験を中止しておりますため、採用を実施していることを仮定しての回答とさせていただきます。	(7) 運輸業

117	SDGsの取組が活発化している現在、貴学部の取組はより重要になってくると感じました。また農業に携わる企業として、食や環境に目を向けてくださる学生様が増えることは大変嬉しく思います。	(4) 製造業
118	どの職種も応募いただくのに学部・学科は問いませんが、生物資源科学部の皆さまには特に製造職でご活躍いただけると考えております。	(4) 製造業
119	業務内容から森林学科に期待することが多くなりますが、フィールドから学ぶ姿勢を養うことに期待いたします。資格としましては、測量士補及び技術士補などの社会に出てから活躍の場が多く、かつ取得の難しい資格を取得できるようにすることで、就活の際に選択肢を広げられるようにしていただければと思います。ただし、大学は社会人を育成する場としての役割だけではありませんので、学問を究める場としてなくてはならない存在としてあり続けるよう期待しております。	建設コンサルタント、測量業
120	問 7～15 の設問の回答はもう少し選択肢を増やして欲しい。30 名程度の採用企業故に、回答がやや難しい。	(10) 不動産業
121	2018 年に生物資源科学部を卒業した弊社に入社した従業員が活躍しております。仕事にかかわる知識も重要なのですが、自分で気づいて行動できる姿勢が活躍している要因かと感じています。 今後も彼のような優秀な方が弊社のような法人経営の畜産の現場を就職先として検討してもらえると幸いです。	(1) 農業・林業・漁業
122	学部学科は問いませんので、必須項目は 1 名と回答させていただきましたが、それ以上の採用も可能です。	(6) 情報通信業
123	日本の食をささえる農業の新しい形を創造していける先進的な教育を行ってほしいと思います。	(1) 農業・林業・漁業
124	2021 年 4 月入社にて貴大学より 1 名弊社に入社頂き、ありがとうございました。採用人数については、例年 5 名～8 名程度を採用しております。上記設問には現状未定であるため、一律 1 名にてご回答させて頂きます。2023 年度の採用が始まりましたら、是非学生の皆様にご応募いただけますと幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。	(7) 運輸業
125	動物に興味を持っていただける方が多くいらっしゃると良いと思いました。	(1) 農業・林業・漁業
126	陸上養殖の設計及び運営に期待します。陸上養殖を増やす計画がある為です。	外食、中食、内食、給食
127	弊社では、「土木職」「造園職」を積極的に採用しているため、ご紹介いただけると幸いです。	(3) 建設業
128	毎年多くの学生様とご縁があるので、新学科の誕生を受け、より弊会と親和度が高まりそうです。今後ともよろしくお願いします。 ※問 7～15 につきまして 学科ごとでの採用人数は定めていないため、2 名程度で回答しております。実際には回答人数より、上回ることも下回ることもございます。ご了承下さい。	生活協同組合
129	時代ニーズや今後の社会情勢をとらえた人材育成が企業で活躍されることを期待しております。	(8) 卸売・小売業
130	SDGsが注目されている今だからこそ、こうした学部も必要となってくると感じています。	(14) 医療・福祉
131	いつもたいへんお世話になっております。学生が卒業後に「社会人として即戦力」になれるよう、挨拶、明るい振る舞い、声の大きさ、対話の基本(例：相槌や間のとり方等)を在学中に鍛えられる必修授業の導入をお願いしたいと存じます。4 年制なら 4 年次、獣医学科なら 5 年次(オスキー＆シービーティーの試験に組み込む等)が理想的と考えています。ほとんどの大学では実践されておりませんが、実践されれば日本大学のブランディング強化にもなると思います。ぜひご検討いただければ幸いでございます。	動物病院
132	異業界では御座いますが、福祉業界に対しての志望意欲のある方は学部学科問わず採用しております。 面接ではコミュニケーション能力や協調性を重視しております。	(14) 医療・福祉
133	公務員獣医師が不足しているため、地域への人材輩出について、特に御配慮いただきたい。	(15) 公務
134	積極性と柔軟性があり、他人を思いやる心を持った人材の育成を期待します。	動物病院経営

135	弊社は生物や資源に関わる業態ではありませんが、今後の社会において重要な問題となり得る課題について学べる学科は学生からも世界からも需要が高まると思います。個人的には動物学科に興味があります。	(8) 卸売・小売業
136	今年度は、学内での企業説明会の実施や来年度の企業説明会等、様々な形でご協力や情報提供をいただきましてありがとうございました。引き続き、貴学のお力添えを賜りたく存じます。	(5) 電気・ガス・熱供給・水道業
137	品質、衛生はもちろん、安全で安心な食品をつくるという責任と楽しさを学生に伝えていただけると大変うれしく思います。	(4) 製造業
138	弊社は動物病院グループですので獣医師、看護師になれる学生を多く採用したいです。	(14) 医療・福祉
139	素直で明るい子が多いのでその校風を大事にしていただきたいです。	(11) 宿泊業・飲食サービス業
140	弊社も SDGs に貢献した製品を開発していますので、御学の環境学科の学びは弊社でも活かせるのではないのかと考えます。	(3) 建設業
141	アンケート回答にあたり、採用可能人数は、本市の筆記試験の合否によるため、はっきりと答えられないため各学科1名と回答させていただきました。	(15) 公務
142	人柄を重視する	(7) 運輸業
143	今後も生物資源の生産と利用について多くのことを知識や教養として学んだ意欲的な学生の送り出しを期待しております。	(4) 製造業
144	生物資源科学部出身の社員は当社で非常に活躍しているため今後もご縁がありましたらぜひ採用したいと考えております。	(4) 製造業
145	動物業界に関わる学科が増えるのは大変喜ばしいです。	(12) サービス業
146	学生生活で学ばれた豊富な知識を是非活かしてほしいと思います。	生活協同組合
147	問題解決や目標達成に対して、徹底的に追及できる人材の養成を期待しております。	(6) 情報通信業
148	学内説明会の参加	(8) 卸売・小売業
149	弊社が●●に本社を置く建設資材商社であり、木材を多く取り扱っていることから、私大では数少ない森林やバイオマスを学ぶ御校の学生には是非ご興味頂きたくこれまで採用実績がありますが今後もご縁が継続できれば幸いです。今回の新学科創設においては、まさに SDGs などこれからの日本に必要なテーマとのつながりを感じ社会で活かせる内容であると感じます。	(8) 卸売・小売業
150	自然調査のみならず、公害を防止するための知識をつけて頂けるとより当社はありがたいです。 ※人間の活動が及ぼしている悪影響についてなど動物の生態、人間の活動に動きをおいた学習。日大の学生さんは、コミュニケーション能力も学習意欲も高く毎年採用できたらくらいの気持ちでおります。	環境計量証明業
151	今年も御校の生物資源科学部卒業の方を採用し、今現在、1年間の研修期間を設け様々な現場等を体験してもらい来年の1月に配属先と配属部署の決定を考えております。社会人として頑張っておりますし、とても真面目な卒業生です。また、今後弊社に興味を持って頂いた学生さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介頂きたく存じます。今後ともよろしくお願い致します。	(3) 建設業
152	当社では水産系、栄養系の学生様を重宝させていただいております。引き続きよろしくお願い致します。	(4) 製造業
153	現在、新卒採用は行っておりません。	(1) 農業・林業・漁業
154	学科ごとの採用枠は設けておりません。	(4) 製造業
155	学生が希望するならば、学部を問わず受け入れ致します。	(3) 建設業
156	弊社は建設業であり、採用人数の 9 割を占める技術職のほとんどが工学系の学部の学生であるため問 7～問 15 のような回答とさせて頂いております。しかし、今後の世界基準での課題である食糧問題や環境問題に対して関心を持ち専門的に学ぶ意欲のある学生は、専門分野は違えど事務職社員として積極的な働きぶりが期待できると考えております。	(3) 建設業
157	生産、開発分野については専門性が必要と思いますが、一般商事会社ではいづれの学科でも問わず営業ができる人材養成をしていただきたい。	(8) 卸売・小売業

158	問 7～16 に関して適正等でマッチされる方がいらしたら学科問わず採用可能となります。よって採用可能人数としては回答し難いです。生物資源科学部に関しては、今後も環境影響の解決に必要となってくると思います。環境学科から人類の危機について広めて欲しいと思います。	(6) 情報通信業
159	SDGs の取り組みがどこへ行っても目につくようになった現在にとても期待できる学科ばかりですね。	(1) 農業・林業・漁業
160	求人票を直接ではなくネットを介して「キャリア UC」を行うようになってから獣医学科まで情報が届いているのか全く分からない	(12) サービス業
161	技術系の学科ですが、最低限のビジネスマナーも必要。	(12) サービス業
162	当院では本学の出身者が多く、看護学科には大変期待しています。	(14) 医療・福祉
163	当社は建設、電気、設備エンジニアを必要とする為、残念ながら新設の学部学科の卒業生に対するニーズはありません。	(3) 建設業
164	平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。貴学貴学部からは定期的に優秀な学生に入社を頂いておりまして今年度は内定者5名中2名が貴学部生となっております。来年度以降につきましても引き続きよろしくお願い致します。	(8) 卸売・小売業
165	製造業のエンジニア採用が中心となりますので機械、電気電子系の学部院卒の採用が多いですが、理系学部出身として、データ取り扱い、読み方、論理的な構成ができる考え方などの素養が備わっていれば企業に限らず活躍できる機会は多いと思いますので、学生の力を伸ばしていって頂ければと思います。	(4) 製造業
166	弊社は建設コンサルタントです。主に公共事業として社会のインフラのコンサルタント（調査から設計まで）を生業としております。これからは新しく作る公共事業から国民や環境を守る公共事業に対応する必要があり関連する間口は広くなっていきます。これに対応できる人材を期待しております。	(12) サービス業
167	激しい環境変化が続く社会において求められる知識やスキルが変化し続けまた、大学での学びや体験を通じて自己の関心が変わっていくこともあるため、そういった変化する学生に対して学びの柔軟性を担保することを期待している。	(12) サービス業
168	理系の学生採用に当たっては、「どのようなことを学習、研究してきたか」、「学習、研究の内容が弊社の事業に活かせるか」という点に着目している。アカデミックな研究が重要であることは承知しているが、実際の社会のどの分野のどの部分で学習した内容を活かすことができるかという点をキャリア教育の一貫として早期に学生に意識付け頂きたい。	(4) 製造業
169	当社業務での関連性が薄いため「採用しない」と回答いたしましたが、他のフィールドでの活躍が期待できる学部だと思います。	(4) 製造業
170	動物病院を経営しています。現在、獣医師や動物看護師が不足していることを実感しています。即戦力となる小動物獣医師や愛玩動物看護師の育成を期待しています。	獣医療
171	持続可能な漁業はどういうものなのかを考え水産小売りのあるべき姿を提案できる人材を養成していただきたい。	(8) 卸売・小売業
172	専攻のみならず様々な観点から採用者を決定する為問 7～問 16 は回答出来かねます。保険業のため、コミュニケーション能力、提案力が必要となります。	(1) 農業・林業・漁業
173	上記回答は、当社は採用人数5人程度のためです。貴校のバイタリティのある学生は当社で多く活躍してくれてます。	(4) 製造業
174	各学科で学ぶ教養を基に広い視野を持った日大生として社会から望まれるような人材を育成・教育して欲しい。	倉庫業
175	海洋生物調査、現場もできて資料までまとめられる人材	(3) 建設業
176	毎年沢山の学生の方に説明会にお越しいただき受験していただいております。ほぼ毎年入社していただいており、活躍していただいております。学内説明会にも毎年お声がけ頂き御礼申し上げます。引き続き学生の方とコンタクトとれる機会をいただけると有難く存じます。	(3) 建設業
177	貴学卒業生が弊社にて活躍しております。大いに期待しております。	(12) サービス業
178	建設業であるため現状ではご期待に沿える回答はできませんが将来的には必ず必要になる分野かと思います。	(3) 建設業

179	生物資源科学部所属学生は食への興味が高く、当社インターンシップ参加割合も多い為、生物資源科学部限定とした当社オリジナルのインターンシップ（就活イベント）を実施できる機会を頂けたら幸いでございます。	(11) 宿泊業・飲食サービス業
180	弊社は、卸売業を営んでおります。新卒採用は定期的に行っておりますが貴学部の専門知識を活かせるような職種は残念ながらございません。しかしながら応募していただいた方に対しては他の方と同様に対応させていただきます。	(8) 卸売・小売業
181	弊社は土木の会社でありますので、土木施工管理技士1級の内容に関する勉学を行っている学生を積極的に採用したいと考えております。期待する点としては、力学を学んでいる学生の増加です。	(3) 建設業
182	現在動物部門の「動薬部」にて貴学の卒業生が多数活躍しております。	(8) 卸売・小売業
183	大変申し訳ございませんが、弊社は純粋持株会社であり、新卒者の採用は例年実施しておりません。	(6) 情報通信業
184	金属部品の製造業においては採用が難しい	(4) 製造業
185	専門的な知識はもちろんのこと、多角的に物事を見ることができる幅広い教養を持った人材を育てて頂きたい	(12) サービス業
186	当社は建設業の中でも土木工事を主としている為、土木に関する資格が取れる学科を増やしてもらいたい思いです。 また、アスファルトの製造販売も行っている為、工場での品質管理を行う試験職も募集しているので、幅広い学科より採用を予定しています。	(3) 建設業
187	問 7～16 については、採用試験直前まで、採用可能人数が固まらないことから、回答不可としております。 これまで、多数の優秀な学生を本県へ輩出いただいておりますが、新学科の設置により、より一層、多くの学生の輩出について、御協力願います。	(15)公務
188	当組合は、地域の組合員様、或いは地域に住んでいる利用者様の為に働く職場です。農協は総合事業なので、様々な部署や業種が存在します。どこへ配属となっても接客業であり営業職に近いものとなるので、コミュニケーション能力や、主体性、向上心といった点が低い学生様であれば、当農協の風土に馴染むことが難しいと考えます。学歴・学部等についてのこだわりは特段ありませんので、上記の点について、学生様の働き方、スタイルに合う条件であれば歓迎致します。毎年若干名ではありますが求人を募集していますので、ぜひご応募頂きたく思います。	協同組合
189	今後、当組合では、営農・販売・経済事業の成長を目指しており、農作物（畜産）の生産から加工まで担う人材を育てて欲しい。	協同組合
190	現在、貴大学の卒業生（海洋生物学科卒）が在職しており、活躍しています。 過去には、工学部の卒業生で、大手同業企業を退職した後、数年にわたり、弊社業務および技術指導にご尽力いただいた事もありました。 今後も、貴大学の卒業生で弊社への入社希望者がいらっしゃいましたら歓迎いたします。	(3) 建設業
191	探求心旺盛な社会人となるべく育成を期待しております。	土木専門サービス業
192	学びをこれからのビジネスにどういかしていきたいのか、セミナー等でお話伺えたらと思っています。	(4) 製造業
193	SDGs や今後の科学的発展の貢献に期待しております。ありがとうございました。	(8) 卸売・小売業
194	当社では、すべての学校学部学科を採用の対象としています	(4) 製造業
195	食品開発について、学ばれる学生に強い興味感心があり、ぜひ採用したく考えております。 「営業職」として、コーヒーを提案いただいたり、本社、マーケティング部にて学んだ知識を活かしていただけるのではないかと考えております。 事業内容：コーヒー関連	(4) 製造業
196	アグリサイエンス学科の学びのキーワード“スマート農業”に興味を持ちました。 弊社も AI を使った農業の研究をした経験があり（継続中）、その方面の専門知識を学んだ学生（特に農業の方）とお会いしたいと思います。	(6) 情報通信業
197	学科・人数を問わず、当社での活躍が期待できそうな人材がいらっしゃれば積極的に採用させて頂きます。 ※当社は農業機械の提案・販売やサービスを通じて地域社会に貢献しております。	(1) 農業・林業・漁業

198	建築に関する学科を卒業の学生のみを対象としている為、申し訳有りません。	(3) 建設業
199	生物資源科学部様の卒業生が 16 名在籍しております。 優秀な社員が多く、全国で活躍しておられます。 23 年以降も是非ご縁が続きます様お願い申し上げます。	(4) 製造業
200	問7～15に関して補足　採用しないにチェックを付けた学科以外、出身学科は問いません。	(4) 製造業
201	学生時代に学んだことをベースに、新しい事や、未知のことへも、積極的にチャレンジしていける学生の育成を期待したい。大学時代に学ぶことが全てではない、社会に出てからがスタートだということをしっかり自覚できる学生が欲しい。	(4) 製造業
202	問7～16につきましては、職員採用試験に合格した方を採用していますので、お答えしかねます。	(15)公務
203	御校の学生の皆様のみを対象としたインターンシップを開催させて頂きたいです。	その他
204	採用可能な人数についてお答えいたしましたが、学科で判断するというよりも、”人”を重視しております。ご興味のある学生様がいらしたら是非一度説明会などにご参加いただければと思います。当社では貴学の OB の方が多く在籍しています。学内で開催されます合同企業説明会など、是非参加させて頂きますと幸いです。今後も貴学から学生様をお迎えしたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。	(8) 卸売・小売業
205	我社の業務の内容は世間的認知度が低いため、学生たちに周知して頂ける機会があると嬉しいです。我々の業界は生物を『制御・こん絶』するのが目的ですのでそのような内容についてもふれてくれると嬉しいかぎりです。	(12) サービス業
206	当協会は、肥料、土壌等の分析、栽培試験を業務としており、現在、貴学部の卒業生3名に活躍してもらっています。今回改組新設される学科では、採用対象となる学生はアグリサイエンス学科で教育を受けることになると推察しますが、大学だからこそ基盤となる分野の教育に引き続き力を入れていただくことを期待します。なお、問12、問16で回答した人数は確定数ではなく、必要が生じた場合の人数となります。	(1) 農業・林業・漁業
207	様々な環境問題を、専門的にだけでなく、幅広く全体感を持って研究できる広い視野が必要だと思われる。政治や法律、経済も含めた総合的な学びによって、実行力が伴う人材を育成出来ると考えます。なお、問7～15に関し、事務営業職においては学科不問です。	(3) 建設業
208	今後、実験動物学を学べる研究室があると当社の業界としてはありがたいです。	(8) 卸売・小売業
209	潜在能力が高い方が多いので、当社の適性検査に合格すれば内定候補者として検討したい。	(6) 情報通信業
210	学部や学問系統にこだわらず採用しているため、問7～16はお答えできません。	(15)公務
211	当社は、文理問わず採用をしていますが、今後は理系に注力していきます。また、大学名、学部、学科などでの選別はしません。これは、近年、上記条件が同じであっても、大差があり、基準とならないからです。私たちが求めるのは、論理的思考とコミュニケーション力といった、エンジニアに求められる能力を持った学生です。よって文系学生であっても持っている学生はおり、理系学生であっても持ち合わせていない学生がおります。（論理的ということで屁理屈と勘違いしている学生も散見されます。）そして、一緒に働きたいと思ってもらえる自分であるか。そのようなことも重要と考えています。当社に興味を持っていただけるのでしたら、どの学部学生でもエントリーいただけますとありがたく存じます。（当社 WEB ページよりエントリーが可能です。）	(6) 情報通信業
212	ご要望は特にございません。引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。	(8) 卸売・小売業
213	各学科での専門的な知識の習得はもちろんですが、社会で活躍できる広い視野を持った人材の育成に期待しております。	(8) 卸売・小売業
214	飲食業なので学問的なことはあまり無くても良い。やる気と行動力さえあれば誰でも活躍できます。	(11) 宿泊業・飲食サービス業
215	問7～問15については、特定の学部、学科から採用することを定めていませんので、ご回答しかねます。	その他
216	食品製造業に興味をお持ちの学生さんがいらっしゃいましたら是非弊社へのご紹介をお願いしたいと存じます。	(4) 製造業

217	学部学生の専門知識は活かせないかもしれませんが、社会人として、人ときちんと接することが出来る人であれば喜んで採用したいと思います。採用に際しては個々の能力と個性をしっかり確認させていただき決めさせていただきます。	(14) 医療・福祉
218	世の中のニーズは、サステナビリティ等の観点からとても高いと思いますが、当社の事業内容(精密機械製造業)とはあまりマッチしていません。	(4) 製造業
219	私ども森林管理局の職員は、国家公務採用試験の合格者から採用することになります。大卒程度の場合、試験区分「行政」「土木」「建築」「林学」のいずれかで受けた合格者から採用することになります。※採用予定者は「林学」が圧倒的に多いところです。採用試験の合格者であることをもって、その試験区分における知識・理解度は一定のレベル以上であることが担保されることから、採用に当たっては出身学部・学科にこだわりはありません。問7～16は、貴大学から合格者が多数輩出されたとの前提での回答となります。なお、「林学」での受験にあたっては、9学科のうち、森林学科を学ばれていることが最も有利かつ望ましいと存じます。	(15)公務
220	林野庁では、採用人数を拡大しており、公務及び森林・林学に関心のある学生を広く求めています。貴大学からも多くの学生が志望していただければ幸いです。	(15)公務
221	SDGsの企業的な役割や活動内容、どうやって企業の仕事と並列し進めていくのかを理解している人材を採用したいです。	その他
222	業界・業種によっては今後の社会的ニーズは高いと考える。弊社は計測危機の製造業であるため、貴校生物資源科学部の学生様からするとイメージのない業界かもしれないが、エントリーがあった際に積極的に積極的に採用を考えたい。(現時点で採用可能人数は定まっていない。)	(4) 製造業
223	どのような学部・学科にいるか、よりもどのようにしてその分野に向き合って学生生活を送っているのかが大切だと考えております。不動産とは直結しない学部かとは思いますが、日本大学の学生さんのご応募をお待ちしております。	(10) 不動産業
224	貴校の学生を採用しております。特に食品開発学科等は当社の考え方に大変近く、学生の応募が期待出来ると考えます。	(8) 卸売・小売業
225	採用可能人数は年度により異なる。土木・建築関連の知識を有する方については、ニーズが高い。一般事務職については、学部学科を問わないため、幅広いへの興味や知識がある人材のニーズが高い	(15)公務
226	コミュニケーション能力の高い学生。協調性に富んだ学生。	(4) 製造業
227	学科ごとの採用人数は設けておりませんので、問 7～15 は空欄とさせていただきました。ご縁があれば、人数の制限なく採用させていただきます。	(6) 情報通信業
228	弊社でも生物資源科学科に類似する方が多く在籍されていますが、皆様大変活躍頂いております。是非採用させて頂きたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。	(6) 情報通信業
229	問7～問 16 については、現在のところ不明にて回答できない。参考:採用職種、①総合職(農業保険事業の加入促進。損害評価業務及び関連業務)②獣医職(獣医師としての診療、保健業務)	その他
230	私も日本大学生物資源科学部出身です。弊社には私の他にも何名か出身者がおります。先日、弊社社長より、日大生物資源科学部の出身者は一人も退職者がいないというお話がありました。そのように、どんな社会や会社でも努力し対応していける、そんな人材育成をしていただけたら……と個人的に思います。	(4) 製造業
231	●●は海外へのリユースを目的としてサービスしており、カンボジア、タイ、マレーシア、フィリピンなどの発展途上国や、SDGs などに興味がある学生さんを採用したいと考えております。社長の大学での講演等も行っておりますので、ぜひ貴校の一助になればと思います。	(7) 運輸業
232	畜産動物に触れあえるような機会(例えば、豚舎実習や牛舎実習など)が少しでも設けていただければありがたいです	(1) 農業・林業・漁業
233	弊社ではお茶や食の開発・販売をしております。新卒採用では店舗でお客様の接客を担当する販売職の採用が中心です。企業として農業事業を開始したこともあり、環境に優しく安心・安全な商品づくりに力を入れています。入り口は販売職になりますが、ゆくゆくは農業事業や、商品開発ができるように、御校の学部のような、理系の学生を採用できたらと思っております。	(8) 卸売・小売業

234	当社は東京都●●区にて大正 2 年創業の造園業者です。伝統技能の継承により、長年造園業を営んでまいりましたが環境の変化や社会のニーズに伴い、若者の柔軟な発想から事業の可能性を広げていきたいと思っております。	その他
235	基本的に橋りょうの技術に興味があれば、学科問わず受け付けております。	(4) 製造業
236	※定期的な採用はしておりません。	(15)公務
237	貴学部の学生からのご応募をお待ちしております。	(6) 情報通信業
238	問5～問 16 に関して履修学科を問わず、人事院試験(試験区分:土木、農業農村工学、林学、農学、建築、機械、電気・電子・情報、物理、化学)	(15)公務
239	・広い視野と長期的ビジョンを持つ人材の育成 ・専門的スキルと一般教養を兼ねそなえた人材の育成 上記を期待します。	(12) サービス業
240	採用人数は希望される部署に寄ります。時期に応じて変動があります。	(14) 医療・福祉
241	面接重視で行っておりますので、人柄がよく、何事にも積極的な人材を期待いたします。	(12) サービス業
242	特化した学科能力の向上と共に、ワイドな考え方を持ち、コミュニケーション力も育成していただくことを期待します。	その他
243	各学科で学ぶ内容からすると、現代における各方面のニーズや課題解決にマッチするのではと思います。人材を育成し、社会に貢献していただきたいと思います。なお、当社では新卒者採用にあたっては学部・学科等にはこだわっておりません。当社の採用基準をクリアしていれば採用する可能性は十分にあります。ただし、当社の業務内容からすると、生物資源科学部で学んだ方が当社を志望するとは考えられないため、問7～問 16 は無回答とさせていただきます。	(7) 運輸業
244	お世話になっております。弊社の事業と学科概要が合わないため現在採用の予定は厳しい状況です。しかしながら世界的なエネルギー、環境、等の問題を含め、今後必要不可欠な領域であり、ライフやワークの未来を決定する(切り開く)学問であると思います。大変期待をしております。	(4) 製造業
245	現在弊社●●では偶然ではありますが日本大学生物資源科学部の卒業生 2 名が社員として在籍しております。内、1 名は新卒で入社し、現在 3 年目で、社内の若年ながら新しい社員を引っ張るような存在へと成長し、頼もしいかぎりでございます。大学で学んだことを活かせる程の会社かわかりかねますが、今後もよろしくお願いいたします。	その他
246	数多くある社会問題について多面的、多角的に考えられる人材の育成、社会問題だけでなく、人と誠実に向き合うことのできる人材の育成。	(7) 運輸業
247	学科の専門性があり、追求して学習されることは、社会で役立つことは多いと考えられます。	(4) 製造業
248	旧学科が新学科のどこの部分に適応されるのかを詳しく知りたい	(3) 建設業
249	学科が細分化されて、よりニーズが明確された感じです。日大の食品学科やバイオサイエンス学科は素晴らしい学科です。明治大学にまけないように！！以前より注目する学科が豊かになり、学生も採用側も明確になりました。	その他
250	今まで何人かの卒業生の皆さんに頑張っていただきました。今新たに畜産業(肉牛生産・仔牛の生産より肉牛まで)地域に根ざし、飼料(とうもろこし・米・サイレージ)も生産等、大地の恵みを目ざして努力しております。希望する若い人たちをこの地に来て頂き、新たに生産農業をしたいと望む若者を育てる会社です。よろしく。	(1) 農業・林業・漁業
251	地域を志向する学生の育成に力を入れていただきたい。 青森県をはじめ、各種採用情報が学生に直接届く体制(システム)を整えていただきたい。	(15)公務
252	学部改組による新学科につきましては、これからの社会において必要な学部学科であると思います。残念ながら当組合では学習したことを活かせる業務を行っていないため、採用可能人数は0とさせていただきましたが、これからの社会において、非常にニーズは高いと考えております。	その他
253	バイオマスプラント等を手掛けており、マッチングする分野かと思います。再生可能エネルギー等、今後必要とされる分野の学べる学部学科かと思います。	(3) 建設業

254	たくさんの経験を積んだ、コミュニケーション能力を有する人材の育成をしていただけると幸いです。	(12) サービス業
255	毎年日本大学生物資源科学部の学生が弊社の会社説明会及び選考に進んで頂いています。今後も学びの質が高まるよう願っています。	(8) 卸売・小売業
256	令和元年度発生した未曽有の台風 19 号災害から 2 年が経ち、先般は地元紙にも「災禍の教訓」という記事が記載されていました。特に災害業務においては熟練の技術力が必要となります。技術者の高齢化問題と併せ、若い技術者の「担い手の確保と育成」が喫緊の課題となっております。数多くの技術者を輩出できるような工学系学科に力を入れて社会資本整備発展に寄与する学生を育ててもらいたい。	その他
257	ライフサイエンス（化学として＆医療として）分野で当社の未来を作っていただける方を是非お迎えしたいです。	(6) 情報通信業
258	過去に御校卒業生を理科教員として採用しています。教員希望者がいれば、採用試験に応募して欲しい。	(13) 教育・学習支援業
259	問7～16については、現在将来の採用枠が確定していないため「採用しない」にマークしています。	(15)公務
260	回答した人数については、あくまでも想定でして、実際は応募があれば、随時、検討いたします。	(3) 建設業
261	本県では、獣医師の確保が課題となっていることから、以下の点についてお伝えさせていただきます。 ・公務員獣医師について、機会があれば啓発等を行っていただきたいと思います。 ・就職説明会等を開催するのであれば、出向いて説明をさせていただくことも可能です。 ・本県では、インターンシップにより学生の受け入れも可能です。 ・本県では、産業獣医師修学資金給付事業も実施しておりますので、学生へ周知いただければと思います。	(15)公務

3.　人材需要の見通しについて（「人材需要アンケート調査」結果ポイント）

Point 1	首都圏を所在地とする企業が約半数であり、他にも全国の企業から回答を得た。業種は「製造業」を中心に様々であり、企業規模も多様。

日本大学生物資源科学部が、令和５年４月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」に関する「人材需要アンケート調査」において、企業等から回答を得た有効回答 736 件の集計を行った。

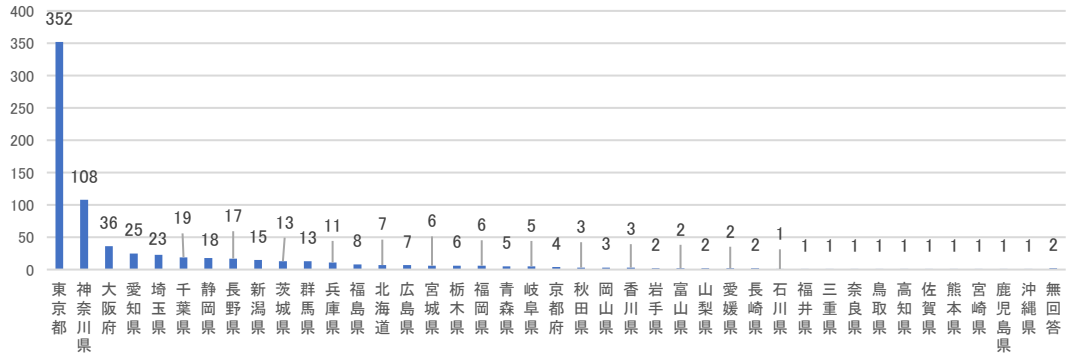
回答企業等の所在地については、「東京都」が 47.8%にあたる 352 件で最も多く、次いで「神奈川県」が 14.7%にあたる 108 件、「大阪府」が 4.9%にあたる 36 件であった。

回答企業等の業種については、「製造業」が 24.0%にあたる 177 件で最も多く、次いで「卸売・小売業」が 16.3%にあたる 120 件、「建設業」が 12.8%にあたる 94 件であった。

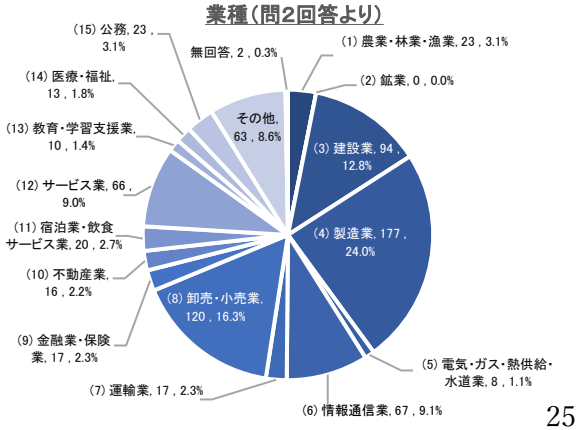
回答企業等の従業員数については、「100 名以上 500 名未満」が 35.1%にあたる 258 件で最も多く、次いで「1000 名以上 5000 名未満」が 23.4%にあたる 172 件、「500 名以上 1000 名未満」が 18.8%にあたる 138 件であった。

【グラフ】回答企業について

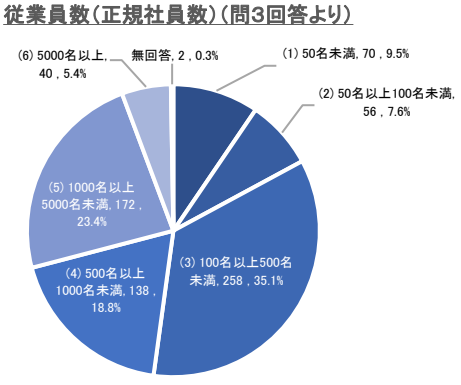
所在地（問1結果より）



業種（問2回答より）



従業員数（正規社員数）（問3回答より）



Point 2	8割以上の回答企業から、日本大学生物資源科学部の養成する人材に対しての、社会的ニーズの高さを示す回答が得られた。

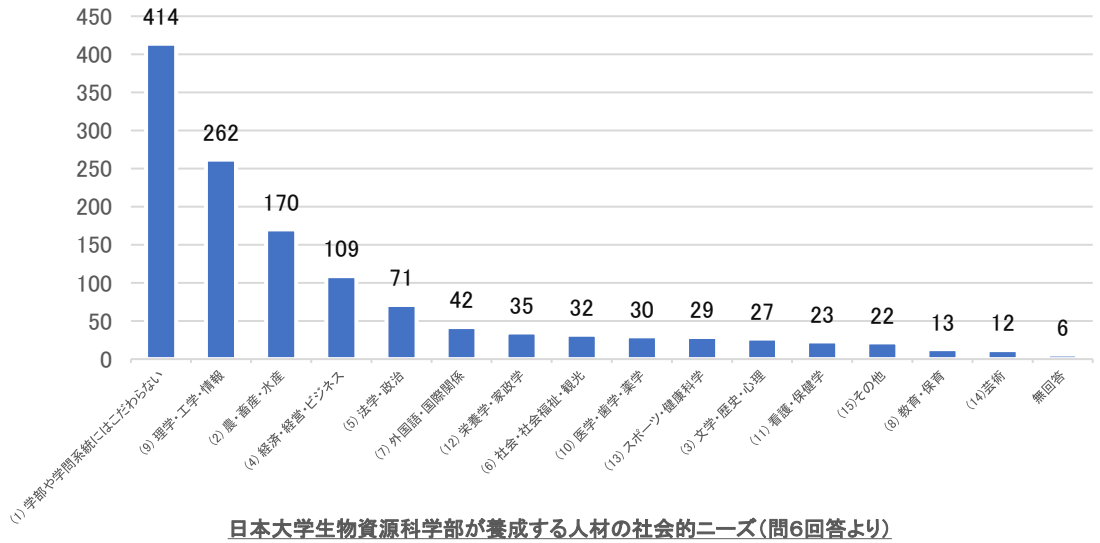
企業等がどのような学問系統を修めた人物を求めているのか、また、日本大学生物資源科学部の養成する人材の社会的ニーズについて回答を求めた。

どのような学問系統を修めた人物を積極的に採用したいかについては、「学部や学問系統にはこだわらない」が414件で最も多く、次いで「理学・工学・情報」が262件、「農・畜産・水産」が170件であった。

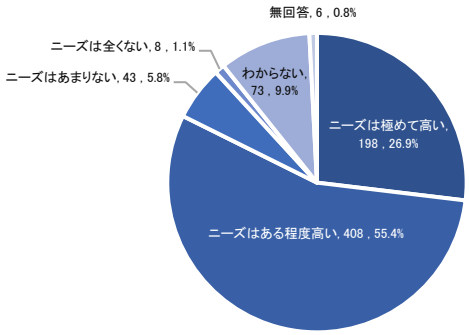
日本大学生物資源科学部が養成する人材の社会的ニーズについては、「ニーズはある程度高い」が55.4%にあたる408件で最も多く、次いで「ニーズは極めて高い」が26.9%にあたる198件であった。上記二つの項目を合わせると、合計で8割以上の回答企業から、日本大学生物資源科学部の養成する人材に対しての、社会的ニーズの高さを示す回答が得られた。

【グラフ】企業の求める人材

どのような学問系統を修めた人物を積極的に採用したいか（問4回答より）
※複数回答項目のため、回答数は延べ



日本大学生物資源科学部が養成する人材の社会的ニーズ（問6回答より）



Point 3	**日本大学生物資源科学部の全ての新設学科において、入学定員を大きく上回る、企業からの採用意向が示された。**

日本大学生物資源科学部に新設する 9 学科ごとに、企業が採用可能な人数について回答を求めた。その結果、**全ての学科において、入学定員を大きく上回る採用意向を示す回答が得られた。**

入学定員と採用可能人数の詳細としては、バイオサイエンス学科（仮称）は定員 210 人に対し合計 838 人の採用意向、動物学科（仮称）は定員 136 人に対し合計 766 人の採用意向、海洋生物学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 796 人の採用意向、森林学科（仮称）は定員 120 人に対し合計 867 人の採用意向、環境学科（仮称）は定員 130 人に対し合計 956 人の採用意向、アグリサイエンス学科（仮称）は定員 140 人に対し合計 792 人の採用意向、食品開発学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 815 人の採用意向、国際共生学科（仮称）は定員 146 人に対し合計 758 人の採用意向、獣医保健看護学科（仮称）は定員 80 人に対し合計 775 人の採用意向が得られた。「学科を問わず、生物資源科学部に新設される 9 学科から卒業生を採用する場合」の採用可能人数については、合計 1,712 人であった。

また、回答企業の業種と採用人数でクロス集計を行ったところ、「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」においては「建設業」の企業からの採用意向が目立った。また、「バイオサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」においては「製造業」の企業からの採用意向が目立った。また、全ての学科において「製造業」「卸売・小売業」の企業からの採用意向が目立った。

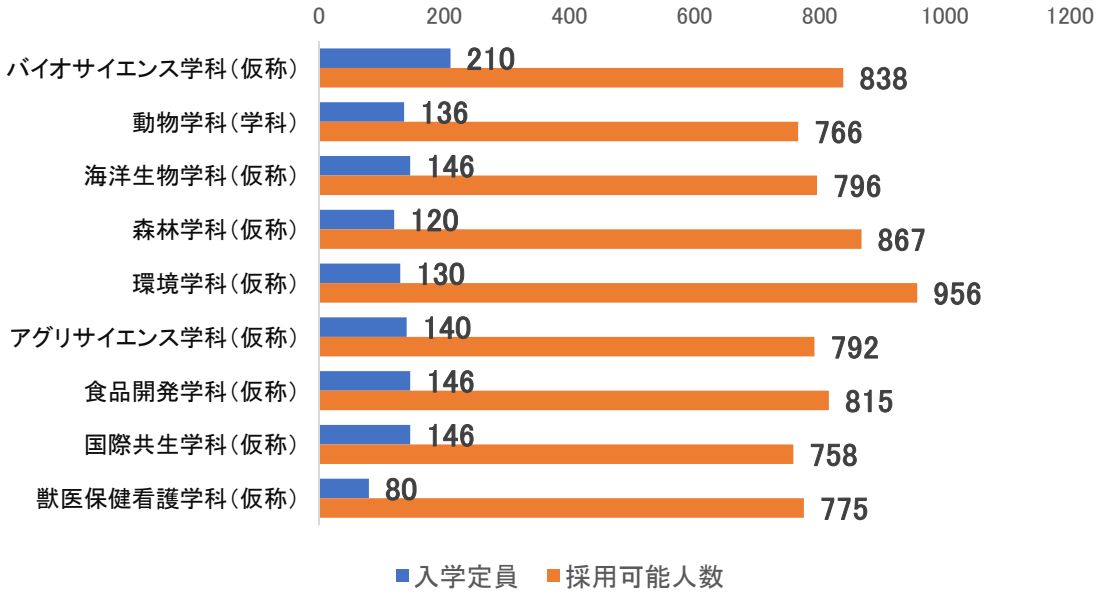
以上を踏まえると、日本大学生物資源科学部が令和 5 年 4 月学部改組に向けて新設学科として構想中の「バイオサイエンス学科（仮称）」「動物学科（仮称）」「海洋生物学科（仮称）」「森林学科（仮称）」「環境学科（仮称）」「アグリサイエンス学科（仮称）」「食品開発学科（仮称）」「国際共生学科（仮称）」「獣医保健看護学科（仮称）」の各学科は、いずれも採用ニーズが極めて高いことが示されており、人材需要については問題ないと推察される。

【表・グラフ】生物資源科学部に新設する 9 学科ごとの採用可能な人数

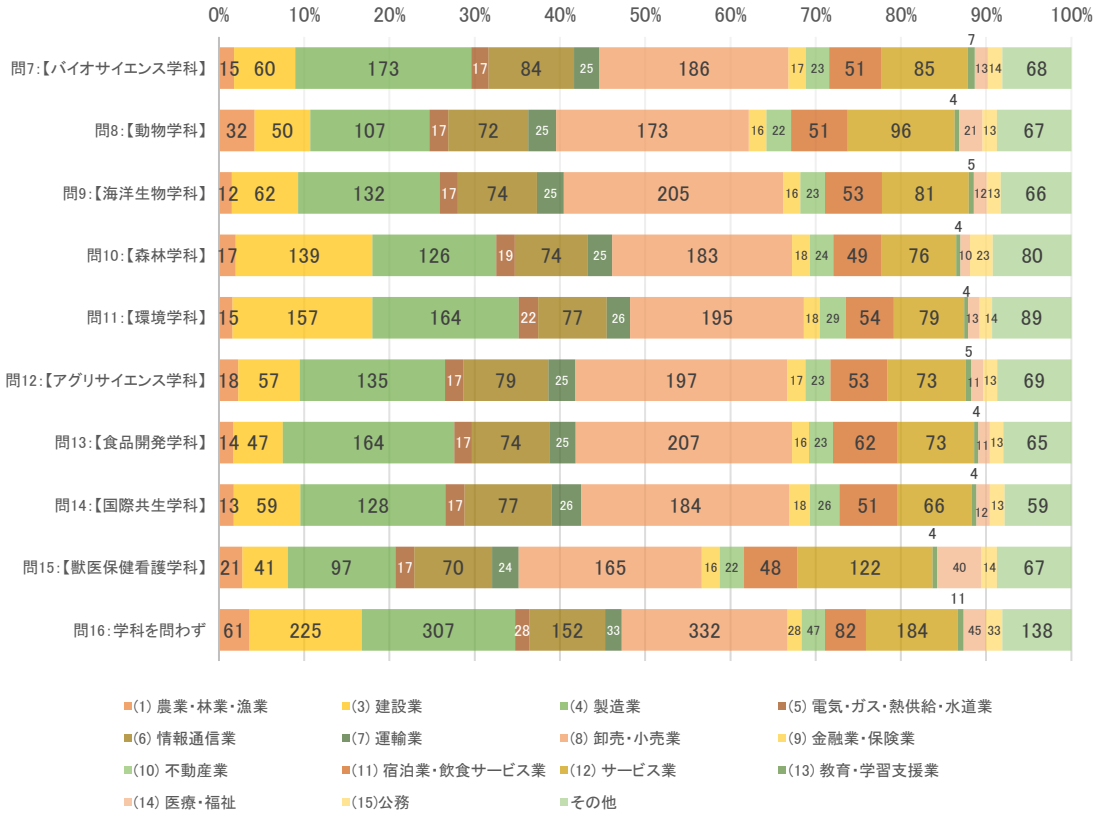
採用可能人数（問 7～15 回答より ・「5 人以上」は 5 人として計算）

	合計人数	内訳				
		1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上
問 7:【バイオサイエンス学科】	**838**	295	50	16	0	79
問 8:【動物学科】	**766**	231	48	15	1	78
問 9:【海洋生物学科】	**796**	250	43	12	1	84
問 10:【森林学科】	**867**	261	59	23	1	83
問 11:【環境学科】	**956**	317	64	26	2	85
問 12:【アグリサイエンス学科】	**792**	258	48	16	0	78
問 13:【食品開発学科】	**815**	239	56	15	1	83
問 14:【国際共生学科】	**758**	268	42	12	0	74
問 15:【獣医保健看護学科】	**775**	219	40	14	1	86
問 16:学科を問わず	**1,712**	196	131	77	17	191

採用可能人数＆各学科の定員（問7～15回答より ・「5人以上」は5人として計算）



問2 業種 × 問7～16 学科ごとの採用可能人数



	問7:【バイオサイエンス学科】	問8:【動物学科】	問9:【海洋生物学科】	問10:【森林学科】	問11:【環境学科】	問12:【アグリサイエンス学科】	問13:【食品開発学科】	問14:【国際共生学科】	問15:【獣医保健看護学科】	問16:学科を問わず	計
(1) 農業・林業・漁業	15	32	12	17	15	18	14	13	21	61	218
	1.8%	4.2%	1.5%	2.0%	1.6%	2.3%	1.7%	1.7%	2.7%	3.6%	2.4%
(3) 建設業	60	50	62	139	157	57	47	59	41	225	897
	7.2%	6.5%	7.8%	16.0%	16.4%	7.2%	5.8%	7.8%	5.3%	13.1%	9.9%
(4) 製造業	173	107	132	126	164	135	164	128	97	307	1,533
	20.6%	14.0%	16.6%	14.5%	17.2%	17.0%	20.1%	16.9%	12.5%	17.9%	16.9%
(5) 電気・ガス・熱供給・水道業	17	17	17	19	22	17	17	17	17	28	188
	2.0%	2.2%	2.1%	2.2%	2.3%	2.1%	2.1%	2.2%	2.2%	1.6%	2.1%
(6) 情報通信業	84	72	74	74	77	79	74	77	70	152	833
	10.0%	9.4%	9.3%	8.5%	8.1%	10.0%	9.1%	10.2%	9.0%	8.9%	9.2%
(7) 運輸業	25	25	25	25	26	25	25	26	24	33	259
	3.0%	3.3%	3.1%	2.9%	2.7%	3.2%	3.1%	3.4%	3.1%	1.9%	2.9%
(8) 卸売・小売業	186	173	205	183	195	197	207	184	165	332	2,027
	22.2%	22.6%	25.8%	21.1%	20.4%	24.9%	25.4%	24.3%	21.3%	19.4%	22.3%
(9) 金融業・保険業	17	16	16	18	18	17	16	18	16	28	180
	2.0%	2.1%	2.0%	2.1%	1.9%	2.1%	2.0%	2.4%	2.1%	1.6%	2.0%
(10) 不動産業	23	22	23	24	29	23	23	26	22	47	262
	2.7%	2.9%	2.9%	2.8%	3.0%	2.9%	2.8%	3.4%	2.8%	2.7%	2.9%
(11) 宿泊業・飲食サービス業	51	51	53	49	54	53	62	51	48	82	554
	6.1%	6.7%	6.7%	5.7%	5.6%	6.7%	7.6%	6.7%	6.2%	4.8%	6.1%
(12) サービス業	85	96	81	76	79	73	73	66	122	184	935
	10.1%	12.5%	10.2%	8.8%	8.3%	9.2%	9.0%	8.7%	15.7%	10.7%	10.3%
(13) 教育・学習支援業	7	4	5	4	4	5	4	4	4	11	52
	0.8%	0.5%	0.6%	0.5%	0.4%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.6%
(14) 医療・福祉	13	21	12	10	13	11	11	12	40	45	188
	1.6%	2.7%	1.5%	1.2%	1.4%	1.4%	1.3%	1.6%	5.2%	2.6%	2.1%
(15)公務	14	13	13	23	14	13	13	13	14	33	163
	1.7%	1.7%	1.6%	2.7%	1.5%	1.6%	1.6%	1.7%	1.8%	1.9%	1.8%
その他	68	67	66	80	89	69	65	59	67	138	768
	8.1%	8.7%	8.3%	9.2%	9.3%	8.7%	8.0%	7.8%	8.6%	8.1%	8.5%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	5	7	6	18
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.9%	0.4%	0.2%
計	838	766	796	867	956	792	815	758	775	1,712	9,075
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

添付資料

日本大学生物資源科学部・学科の概要

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」
「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」WEB アンケートフォーム画面

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

・日本大学生物資源科学部・学科の概要（表面）

日本大学生物資源科学部 学科の概要

2023年4月、日本大学生物資源科学部に9つの新学科が誕生します！

Department of Bioscience
バイオサイエンス学科 ※仮称 設置構想中

Department of Zoological Science
動物学科 ※仮称 設置構想中

Department of Marine Science
海洋生物学科 ※仮称 設置構想中

Department of Forest Science
森林学科 ※仮称 設置構想中

Department of Environmental Studies
環境学科 ※仮称 設置構想中

Department of Agri-Science
アグリサイエンス学科 ※仮称 設置構想中

Department of Food Business
食品ビジネス学科 ※仮称 設置構想中

Department of Food Science and Technology
食品開発学科 ※仮称 設置構想中

Department of Global Coexistence Studies
国際共生学科 ※仮称 設置構想中

Department of Veterinary Nursing
獣医保健看護学科 ※仮称 設置構想中

Department of Veterinary Medicine
獣医学科 ※仮称 設置構想中

本紙「日本大学生物資源科学部・学科の概要」をご覧の上、別紙「高校生アンケート」にご回答ください。

日本大学は2023年4月に、生物資源科学部の改組を構想しています。この改組により、本学部は11学科の体制となります。今回、生物資源科学部に関する高校生アンケートを実施することで、2023年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆様からさまざまなご意見をお聞きし、改組構想の参考とさせていただきたいと考えています。皆様からいただいた情報は、改組構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は、日本大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

（日本大学生物資源科学部5学科構想中のため、記載の内容から変更になる場合があります）

生物資源科学部 初年次学費（予定）

学科名	納入区分	入学金(※1)	授業料	実験実習料	合計(※2)
バイオサイエンス 動物 海洋生物 森林 環境 アグリサイエンス 食品開発 獣医保健看護	入学金(※1)／前期学費	260,000円	575,000円	75,000円	910,000円
	後期学費	——	575,000円	75,000円	650,000円
国際共生	入学金(※1)／前期学費	260,000円	475,000円	50,000円	785,000円
	後期学費	——	475,000円	50,000円	525,000円

※1……入学金は初年次の納入。※2……上記のほか、施設設備資金（国際共生学科170,000円、バイオサイエンス・動物・海洋生物・森林・環境・アグリサイエンス・食品開発・獣医保健看護の各学科200,000円）、諸費用（30,000円）、校友会費（10,000円）の納入が必要となります。

各学科の類似する大学

学科名	大学・学部・学科
バイオサイエンス	東京農業大学 生命科学部 バイオサイエンス学科・分子生命化学科
	明治大学 農学部 農芸化学科・生命科学科
動物	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科
	東京農業大学 農学部 動物科学科・生物資源開発学科
海洋生物	東海大学 海洋学部 海洋地球科学科・海洋生物学科
	北里大学 海洋生命科学部 海洋生命科学科
森林	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科
	玉川大学 農学部 環境農学科
環境	東京都市大学 環境学部 環境創生学科
	東海大学 教養学部 人間環境学科

学科名	大学・学部・学科
アグリサイエンス	東京農業大学 農学部 農学科
	明治大学 農学部 農学科
食品開発	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科
	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科
国際共生	東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科
	明治大学 農学部 食料環境政策学科
獣医保健看護	日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科
	帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科

アクセス

東京駅
JR中央線
新宿駅
JR東海道線
藤沢駅
小田急小田原線
小田急江ノ島線
相模大野駅
大和駅
小田急江ノ島線
六会日大前駅
徒歩2分
日本大学生物資源科学部

日本大学生物資源科学部 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
最寄駅から5分でアクセス▶小田急江ノ島線「六会日大前」駅より徒歩2分

（日本大学生物資源科学部5学科構想中のため、記載の内容から変更になる場合があります）

・日本大学生物資源科学部・学科の概要（裏面）

日本大学生物資源科学部・学科の概要

日本大学生物資源科学部・学科の概要

所在地：神奈川県厚木市船子1866　生命学部/生命学科　修業年限：4年

学科名（所在地：世田谷キャンパス）	入学定員	学科のポイント	卒業後の進路（国家試験等）	取得可能な資格・免許（取得時期）の例（※）
バイオサイエンス学科	210名	健康増進と持続可能で快適な暮らしを実現するために「発酵」「醸造」「発酵とケミカルバイオロジー」「微生物と植物」の3分野を中心としたバイオサイエンスの基礎学術を身につけ、最先端のバイオテクノロジーを用いて持続可能な社会の実現に貢献できる応用力を身につけます。 [学びのキーワード]微生物学、ケミカルバイオロジー、ゲノム編集	ヘルスケア：製薬、医薬品、医療、化粧品、香料／食品：食品メーカー、飲料、乳業、製菓、製パン／化学：化学メーカー、素材／教職：高等学校教諭、中学校教諭、養護教諭／公務員：国家公務員、地方公務員／研究：大学院への進学など	中学校教諭1種（保健）、高等学校教諭1種（理科）、食品衛生管理者、食品衛生監視員、危険物取扱者（甲種）、自然再生士補
動物学科	136名	「生命史」「生命科学」「保全と環境」を主軸分野とし、それぞれの分野を相互に関連づけた総合的かつ特徴的な学力（カリキュラム・学問体系）を構築しています。動物が持つ多様な機能・かたち・行動・生態を研究対象とし、未知の機能やヒトに対する有用性などについて研究します。 [学びのキーワード]自然史、動物行動学、動物園飼育管理学	国際アセスメント・サービス業、出版、教育関連、通信・情報、研究・開発（学術機関含む）、医療、製薬、食品、化学品、農業、畜産、水産業、動物園、水族館、公務員（国家公務員、地方公務員）、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員
海洋生物学科	146名	海洋生物と海洋生物を取り巻く海洋環境を理解するための基礎的知識を身につけるとともに、海洋生物の多様性維持と持続可能な利用に必要な生物資源に関する知識と技術を身につけます。海洋生物の生理・生態・育成・利用ならびに海洋環境の保全などについて研究します。 [学びのキーワード]海洋環境、水産増殖、水産養殖学	食品の製造・流通・分析・検査、環境アセスメント・海洋関連調査、水産業、養殖業、情報、通信、製薬、化学、公務員（国家公務員、地方公務員）、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員、食品衛生監視員
森林学科	120名	実際の森林フィールドを活用した実習や多彩な学びなどの体験型学習と、3つの専門系統（森林生態・環境系、森林共生系、バイオマス利用系）で体系的な特別演習や専門研究により、森林生態系のしくみや地球環境・持続可能な社会に役立つ森林の働きを学びます。自ら力で未来をつくるために森林を多角的に探究します。 [学びのキーワード]森林生態系、森林バイオマス、森林アメニティ	住宅産業、建材・建設業、緑パルプ産業、造園業／情報産業：サービス業などに就職する一般企業、国家公務員（林野庁、地方公務員（林業職）、中学校・高等学校教諭、大学院への進学など	中理科教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（農業）、学芸員、樹木医補、測量士補
環境学科	130名	地球環境系、自然環境系および都市環境系に関する知識を多面的に学びます。環境についての実社会のニーズや問題点を見出すとともに、持続可能な未来と健康な生活を実現するために、地球規模で生じている環境問題の解決法や自然環境の保全などについて研究します。 [学びのキーワード]地球環境、持続可能な社会、環境保全	環境アセスメント・調査業、住まいメーカー、国際条件等：総合商社、メーカー、サービス業などに就職する一般企業、国家公務員、地方公務員、環境調査会社、中学校・高等学校教諭、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、学芸員、樹木医補
アグリサイエンス学科	140名	「動物性食資源」「植物性食資源」「フラワーサイエンス」の3つのコースを設置します。商品価値の高い食品や広義の生産物を生産するための知識と技術や資材の研究開発を通して、食と生活を豊かにする ことを目指し、生活に潤いを与える食品を充実させることを研究します。 [学びのキーワード]フラワーサイエンス、スマート農業、プラント農産物	地球プラント食品企業、JA、酪農会社、肉業、農材産業、農業資材会社、農業法人、食品会社農産部門、サービス業などに就職する一般企業、国家公務員、地方公務員（獣医師、中学校・高等学校教諭、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員
食品開発学科	146名	食品開発における幅広い知識および技術に加えて、自ら課題設定し、解決方を見出すことができる論理的思考力、高い倫理性、想像力・思考力の柔軟性・コミュニケーション能力・リーダーシップを身につけます。「ヒトの健康」に貢献できる新しい食品を創造する能力を身につけ、研究します。 [学びのキーワード]おいしさの科学、スポーツ食品科学、食品分析	食品の製造・流通・分析・検査、メーカー（飲料、乳業、製菓、製パン）、サービス業（ホテル、レストラン）、公務員（国家公務員、地方公務員）、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員、食品衛生監視員
国際共生学科	146名	動植物などの生物資源とそれらを取り巻く環境を理解し、生物資源、環境とヒトとの共生、生物資源を持続的利用しての共生を図り、国際的に生物資源をマネジメントできる基礎を養成する文系の学科です。 [学びのキーワード]データサイエンス、流通、国際社会	食品、食品の製造・流通・サービス、観光、農業、畜産、水産、製薬、医療、福祉、化学品、農業資材、動物関連施設産業、国際的企業、国家公務員、地方公務員、大学院への進学など	中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員
獣医保健看護学科	80名	動物の健康維持・増進、ならびに動物をかんとヒトの健康と福祉に貢献することのできる専門知識と能力を身につけます。動物医療の分野で活躍できる愛玩動物看護師や動物看護・ペットフードなどの動物関連産業分野における専門技術者の養成を目指します。 [学びのキーワード]動物医療、動物福祉、ヒトと動物の関係学	動物病院、動物関連産業（ペット関連、ペット関連、動物関連施設、動物関連研究施設、医薬品関連企業、製薬企業、医療関連企業、国家公務員、地方公務員、大学教員、一般企業（獣医師、保健師、公務員など	愛玩動物看護師、中学校教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）、学芸員

学部改組のねらい

Pickup

今日、世界は食糧問題や環境問題などはじめ所得格差の出現など、多くの解決すべき問題を抱えています。

こうした社会的背景を踏まえて日本大学生物資源科学部は、自然や生物との共生を図り、生命・食糧・資源・環境に関する研究を推進し、日本や国際社会が直面している さまざまな問題を解決できる有能な人材を育成するために生まれ変わります。さらに将来の世代により良い地球を残すため、科学技術の発展や持続可能な社会の実現に向けて、これまで以上に教育・研究を強化することが狙いです。

実践的な学び

自然や研究を肌で感じながら学ぶ、本学部独自の「フィールドサイエンス教育」を通じて、実践的な学修を展開し、グローバルな視点をもち、生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性、豊かな教養、人間力等の涵養を目指します。

地球の未来を見つめて、ずっと前からSDGsな学部です。

2030年までの達成をめざし、世界中で取り組みが進められている持続可能な開発目標（SDGs Sustainable Development Goals）です。また、人と動物、環境の健全性を「1つの健康」として包括的に捉えるのが「ワンヘルス」の概念です。生物資源科学部は、このSDGsやワンヘルスに先駆けて、早くから持続可能な社会の実現と人・動物・環境の健康の貢献に向けた教育・研究活動を学部全体として展開しています。

教育を支える充実した環境

このたびの改組により、本キャンパスは生物資源科学部1学科・大学院生物資源科学研究科1専攻学部研究科の体制となります。

本学部は、都心からわずか約60分程度の距離であるにもかかわらず、東京ドーム12個分に相当する広大なキャンパスを有し、未来都市を思わせる近代的な校舎と緑豊かな自然がバランス良く共存しています。キャンパス内には先端の設備を有する各種研究センター、博物館、動物飼育施設、図書館、広大な農場、演習林等を併設して充実した学、自ら に実習可能な環境が整っています。また、北海道・群馬県（水上）・静岡県（御殿場）や海外でも学修ができる環境も魅力です。

（日本大学生物資源科学部は建物内のため、記載の際から変更となる場合があります）

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

アンケート用紙（１ページ目/全４ページ）

2023年4月学部改組に向け構想中

日本大学 生物資源科学部

バイオサイエンス学科／動物学科／海洋生物学科／森林学科／環境学科
ア グリサイエンス学科／食品開発学科／国際共生学科／獣医保健看護学科
※学科名称はいずれも仮称であり、変更となる場合があります。

人材需要アンケート調査

対象：人事・採用ご担当者様

日本大学 生物資源科学部（神奈川県藤沢市亀井野1866）は、2023年4月に「食品ビジネス学科」「獣医学科」の２学科に加え、「バイオサイエンス学科」「動物学科」「海洋生物学科」「森林学科」「環境学科」「アグリサイエンス学科」「食品開発学科」「国際共生学科」「獣医保健看護学科」（※学科名称はいずれも仮称）の９学科の新設を予定しています。

本学ではこのアンケート調査を通して、将来、卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、生物資源科学部改組の構想内容に反映したいと考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は文部科学省への提出書類の資料以外に転用することはございません。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※本アンケート調査は日本大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。

正しい回答　誤った回答

上の正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。誤った回答のような場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

問１ 御社の主たる所在地をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問２ 御社の業種についてお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 農業・林業・漁業	○ 鉱業	○ 建設業
○ 製造業	○ 電気・ガス・熱供給・水道業	○ 情報通信業
○ 運輸業	○ 卸売・小売業	○ 金融業・保険業
○ 不動産業	○ 宿泊業・飲食サービス業	○ サービス業
○ 教育・学習支援業	○ 医療・福祉	○ 公務
○ その他		

問３ 御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 50名未満	○ 50名以上100名未満	○ 100名以上500名未満
○ 500名以上1,000名未満	○ 1,000名以上5,000名未満	○ 5,000名以上

1

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

アンケート用紙（２ページ目/全４ページ）

問４ どのような学問系統を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

○ 学部や学問系統にはこだわらない	○ 農・畜産・水産	○ 文学・歴史・心理
○ 経済・経営・ビジネス	○ 法学・政治	○ 社会・社会福祉・観光
○ 外国語・国際関係	○ 教育・保育	○ 理学・工学・情報
○ 医学・歯学・薬学	○ 看護・保健学	○ 栄養学・家政学
○ スポーツ・健康科学	○ 芸術	○ その他

問５ 御社では採用した人材の大学等における履修科目を参考にされていますか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 極めて重要視している　○ ある程度参考にしている　○ あまり参考にしていない　○ 参考にしていない
○ わからない

問６以降は「日本大学生物資源科学部・学科の概要」をお読みになった上で、あてはまるもの１つにマークしてください。

問６ 日本大学 生物資源科学部が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

○ ニーズは極めて高い　○ ニーズはある程度高い　○ ニーズはあまりない　○ ニーズは全くない
○ わからない

問7～問15は、生物資源科学部に新設する９学科ごとの採用可能な人数をお答えください。
※学科名称はいずれも仮称であり、変更する場合がございます。

問７ 【バイオサイエンス学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問８ 【動物学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問９ 【海洋生物学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問10 【森林学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問11 【環境学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問12 【アグリサイエンス学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問13 【食品開発学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

アンケート用紙（３ページ目/全４ページ）

問 14 【国際共生学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問 15 【獣医保健看護学科】

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問 16 学科を問わず、生物資源科学部に新設される９学科から卒業生を採用する場合の採用可能人数をお答えください。

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 採用しない

問 17 日本大学 生物資源科学部に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

問 18 御社名を教えてください。※どの企業にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、本アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として公表されることはございません。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

アンケート用紙（４ページ目/全４ページ）

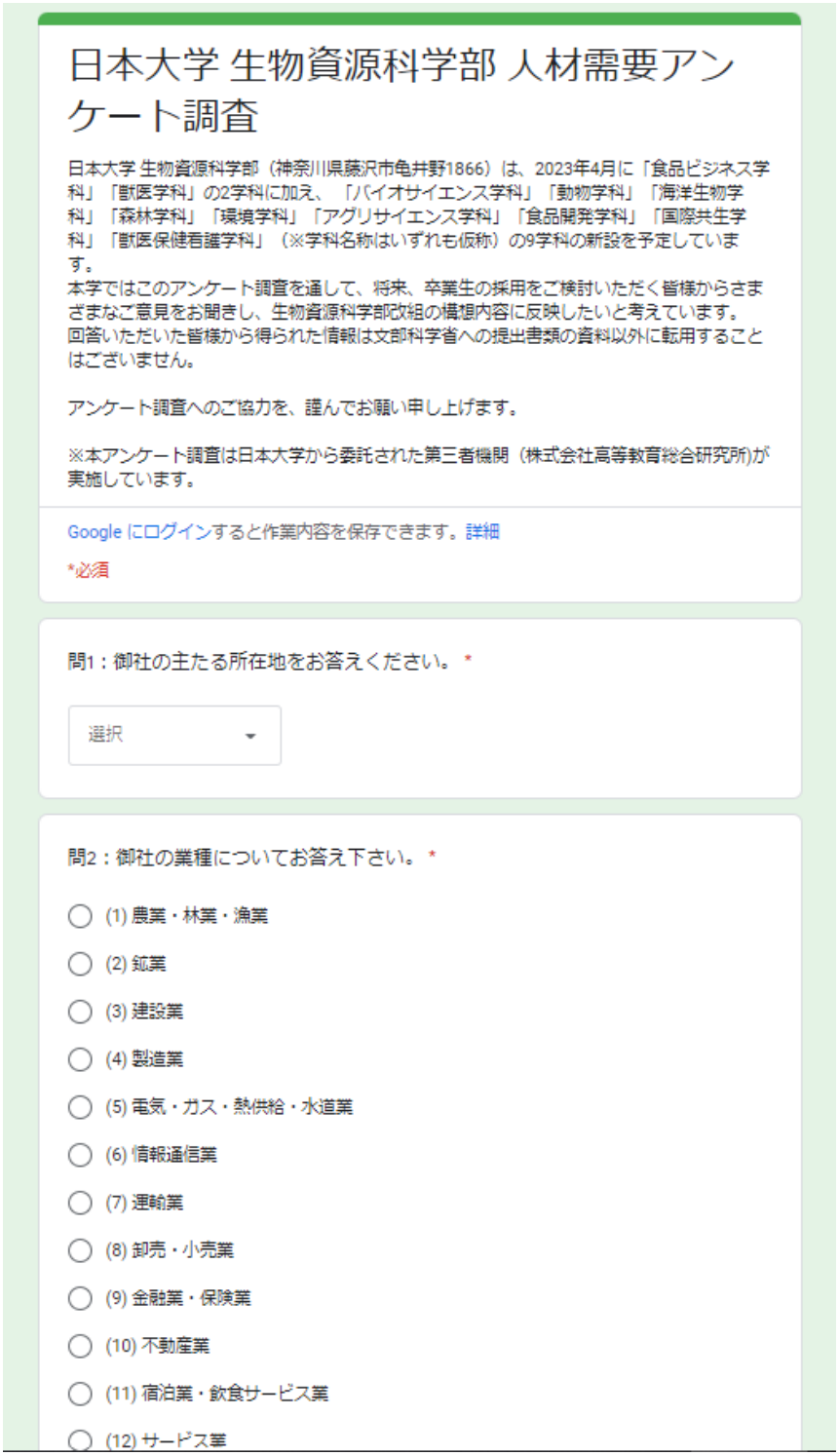
4

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（１ページ目/全６ページ）



日本大学 生物資源科学部 人材需要アンケート調査

日本大学 生物資源科学部（神奈川県藤沢市亀井野1866）は、2023年4月に「食品ビジネス学科」「獣医学科」の2学科に加え、「バイオサイエンス学科」「動物学科」「海洋生物学科」「森林学科」「環境学科」「アグリサイエンス学科」「食品開発学科」「国際共生学科」「獣医保健看護学科」（※学科名称はいずれも仮称）の9学科の新設を予定しています。
本学ではこのアンケート調査を通して、将来、卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、生物資源科学部改組の構想内容に反映したいと考えています。
回答いただいた皆様から得られた情報は文部科学省への提出書類の資料以外に転用することはございません。

アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※本アンケート調査は日本大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問1：御社の主たる所在地をお答えください。 *

選択

問2：御社の業種についてお答え下さい。 *

- (1) 農業・林業・漁業
- (2) 鉱業
- (3) 建設業
- (4) 製造業
- (5) 電気・ガス・熱供給・水道業
- (6) 情報通信業
- (7) 運輸業
- (8) 卸売・小売業
- (9) 金融業・保険業
- (10) 不動産業
- (11) 宿泊業・飲食サービス業
- (12) サービス業

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（２ページ目/全６ページ）

(12) サービス業

(13) 教育・学習支援業

(14) 医療・福祉

(15) 公務

その他:

問3：御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。 *

(1) 50名未満

(2) 50名以上100名未満

(3) 100名以上500名未満

(4) 500名以上1000名未満

(5) 1000名以上5000名未満

(6) 5000名以上

問4：どのような学問系統を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてを選択してください）。 *

(1) 学部や学問系統にはこだわらない

(2) 農・畜産・水産

(3) 文学・歴史・心理

(4) 経済・経営・ビジネス

(5) 法学・政治

(6) 社会・社会福祉・観光

(7) 外国語・国際関係

(8) 教育・保育

(9) 理学・工学・情報

(10) 医学・歯学・薬学

(11) 看護・保健学

(12) 栄養学・家政学

(13) スポーツ・健康科学

(14)芸術

(15)その他

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（３ページ目/全６ページ）

問5：御社では採用した人材の大学等における履修科目を参考にされていますか。 *

- ◯ 極めて重要視している
- ◯ ある程度参考にしている
- ◯ あまり参考にしていない
- ◯ 参考にしていない
- ◯ わからない

問6以降は「日本大学生物資源科学部・学科の概要」をお読みになった上で、ご回答ください。

問6：日本大学 生物資源科学部が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。 *

- ◯ ニーズは極めて高い
- ◯ ニーズはある程度高い
- ◯ ニーズはあまりない
- ◯ ニーズは全くない
- ◯ わからない

問7～問15は、生物資源科学部に新設する9学科ごとの採用可能な人数をお答えください。
※学科名称はいずれも仮称であり、変更する場合がございます。

問7：【バイオサイエンス学科】 *

- ◯ 1人
- ◯ 2人
- ◯ 3人
- ◯ 4人
- ◯ 5人以上
- ◯ 採用しない

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（４ページ目/全６ページ）

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（５ページ目/全６ページ）

問11：【環境学科】 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 採用しない

問12：【アグリサイエンス学科】 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 採用しない

問13：【食品開発学科】 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 採用しない

問14：【国際共生学科】 *

- ○ 1人
- ○ 2人

「日本大学生物資源科学部　人材需要アンケート調査」

WEB アンケートフォーム画面

（６ページ目/全６ページ）

問15：【獣医保健看護学科】 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 採用しない

問16：学科を問わず、生物資源科学部に新設される9学科から卒業生を採用する場合の採用可能人数をお答えください。 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 採用しない

問17：日本大学 生物資源科学部に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

回答を入力

問18：御社名を教えてください。（※どの企業にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、本アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として公表されることはございません。） *

回答を入力

送信　　フォームをクリア

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（１ページ目/全６ページ）

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（２ページ目/全６ページ）

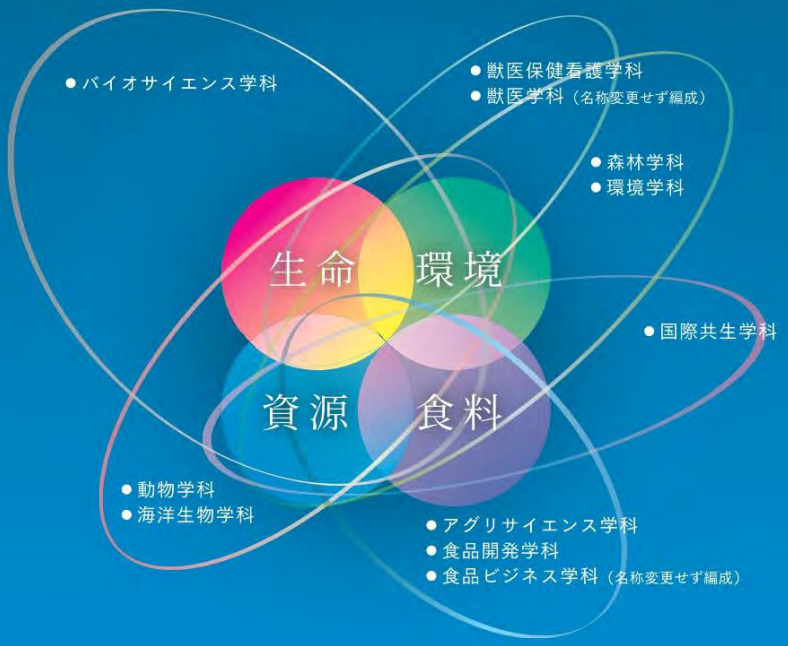
Renewal

学部改組の趣旨と狙い

現在、世界は人口の急速な増加、それに伴う食料問題や環境問題をはじめ、新型コロナウイルス感染症に代表されるような新興感染症の出現など多くの解決すべき問題を抱えています。生物資源科学部は、早くから「生命」「環境」「食料」「資源」に関する教育・研究とこれらの諸問題を解決し、将来を担うことのできる人材の育成に積極的に取り組んできました。しかしながら、急速にグローバル化・ボーダーレス化した社会において、これまで経験したことのない問題や一層複雑化した問題がでてまいりました。

国連はSDGs（持続可能な開発目標）を掲げ、先進国・発展途上国を問わず、諸課題を解決するための取り組みを進めています。また、One Healthのように、人・動物とそれを取り巻く環境（生態系）の健全性を「一つの健康」として包括的に捉え、関連する学術分野が連携して問題解決に当たる必要がでてまいりました。

生物資源科学部では、今日の「生命」「環境」「食料」「資源」の諸問題を解決するためには、新たな視点から教育・研究に取り組み、さらに最先端の知識・技術とSDGsやOne Healthの意識をもって対応できる優秀な人材の育成が急務であると考えています。この度、これからの時代を見据えて、既存の学科の内容・構成を大きく見直し、９つの学科を新設して全11学科の構成で新たな生物資源科学部としてスタートを切ることとなりました。



生命・環境・食料・資源をつなぐ人材育成

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（３ページ目/全６ページ）

新しくなる生物資源科学部の学科内容をご紹介します

私たちのくらしに重要な生命・環境・食料・資源の課題を複眼的に捉え、
自ら解決できる「実践力」のある人材を育成します

【仮称・設置構想中】

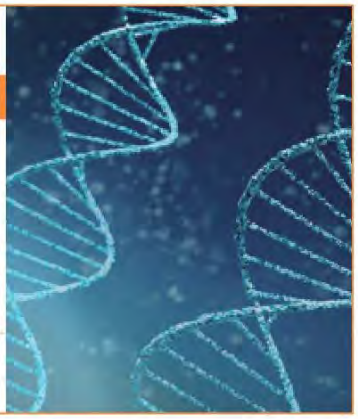
バイオサイエンス学科

バイオテクノロジー×IT×生命現象

バイオテクノロジーを用いて生命活動を解明し
深刻化する社会問題を解決していきます

人間をはじめ動物・植物・微生物のさまざまな“はたらき”や“メカニズム”を、先端的バイオテクノロジーで解明し、社会に還元することで新たな産業を生みだすことを目的とします。健康で持続可能な快適なくらしを実現する技術の発展と創生を教育のコンセプトにしています。

栄養と健康
発酵とケミカルバイオロジー
微生物と植物



主な仕事

ヘルスケア・化粧品・医薬品の開発、製造／医療関係／サプリメント・食品や香料の開発、製造／種苗の開発・改善など／IT関連／バイオ産業に関係する企業や団体／中学校・高等学校教諭／国家公務員・地方公務員（技術職）／博物館などの学芸員／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

動　物　学　科

生体機能×進化×多様性

動物のさまざまな潜在能力、生体機能を学び
人類の文化的生活への応用を考えます

多様な動物種を対象として、それぞれの動物が有する特徴的な機能・かたちから、動物が示す行動や自然界での生態を学び、さらには進化の様相を探究します。その学びにより、自然環境や人間社会への対応を考え、実践できる人材の育成を目指します。

生体機能
動物の生態
進化と多様性

主な仕事

環境アセスメント／サービス業／出版／通信・情報／教育関連／理化学・生化学に関連する企業、団体／中学校・高等学校教諭／博物館などの学芸員／国家公務員・地方公務員／動物学が不可欠な職場でのジェネラリスト・スペシャリストとして／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

海　洋　生　物　学　科

海洋環境×水族館×魚類・海生ほ乳類

海洋生物や棲息環境に関する知識と技術を応用し
海洋資源の活用と人のくらしの調和を創造します

地球の七割は海です。そこに棲息する海洋生物は多種多様で、食料資源としても大きな役割を果たしています。海洋生物の多様性維持と生物資源としての効率的な生産や利用は、海洋環境保全と持続的発展には不可欠な分野です。本学科は人の豊かな暮らしと海洋環境の調和を創造できる人材の養成を目指しています。

海洋生物
海洋資源の生産・利用
海洋環境

主な仕事

食品の製造・流通・分析・検査／環境アセスメント／海洋関連研究機関／製薬関係／通信・情報関連／建設に関連する企業・団体／水族館／博物館などの学芸員／中学校・高等学校教諭／国家公務員・地方公務員（技術職を含む）　など

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（４ページ目/全６ページ）

【仮称・設置構想中】

森　林　学　科

生態系×バイオマス×アメニティ

森林を多角的に研究し、持続可能な社会に
役立つ森林の働きを学びます

森林は人類の生存にとって不可欠な緑豊かな環境を提供してくれる存在であり、また地球上で最も現存量の多い生物資源なのです。森林生態系のしくみや人間社会との関わりを理解し、持続可能な社会の実現のため、森林の有効活用や自然環境の保全に関する課題と向き合う知識と技術を身につけていきます。

主な仕事　林業・造園／土木・緑化／環境アセスメント／国家公務員（林野庁など）・地方公務員（林業職）／住宅産業に関連する企業・団体／建材加工・建設／紙パルプ、製紙関係／測量関係／森林関係のコンサルタント／中学校・高等学校教諭　など

【仮称・設置構想中】

環　境　学　科

地球環境×自然環境保全×持続可能社会

地球規模で発生している環境問題の
解決方法や自然環境の保全について学びます

現在、国際社会の大きな課題となっている環境問題について学びます。その内容は、地球環境や自然環境から食料生産、資源循環、都市・住居環境まで広範囲に及びます。広い視野とグローバルな視点も備えた、人と自然の共生環境を保全・修復・創造できる「確かな人材」を育成していきます。

主な仕事　建築・土木施行技術者／環境計画コンサルタント／造園技術者／建築・空間デザイン／環境分析技術者／環境保全エンジニア／環境教育指導者／生物生産アドバイザー／観光関連／通信・情報関連の企業・団体／国家公務員・地方公務員／博物館などの学芸員／中学校・高等学校教諭　など

【仮称・設置構想中】

アグリサイエンス学科

フラワー装飾×食資源×ブランド化

先端技術を駆使した食料生産とフラワー装飾へ
生命科学の知識と技術を習得します

生命科学のさまざまな理論を学び、キャンパス内のフィールドでは作物生産や動物飼育などの技術を習得します。理論→実践→検証の相互循環型学習から、価値の高い植物・動物性食資源を生産し、安定的に供給するしくみの構築や、多様化する消費者ニーズに対応する能力を育成します。

主な仕事　地域ブランド食品関連企業／農学専門職／種苗の開発／農業・肥料に絡む仕事／農業資材関係／農業法人／食品企業の農産物部門／食品メーカー／サービス業／造園業／農産物の小売・市場／国家公務員・地方公務員／中学校・高等学校教諭　など

食品ビジネス学科

「食」に関わるさまざまな課題を
掘り下げ、「食をプロデュース
する人材」を育てます

食品産業、農業、流通、消費、食品科学など幅広い視点からフードシステムを学び、実践的に「食」を創造し、「食」の未来を追究していきます。

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（５ページ目/全６ページ）

【仮称・設置構想中】

食品開発学科

食品開発の基礎×実践的実験・実習×新たな食品

人の健康の維持・増進に役立ち
安全な新食品を開発する力を養います

新食品の開発
食品の栄養・機能
最先端の食品製造技術

食品開発に必要な知識を「食品科学」「食品加工学」「食品安全」「食品機能」の視点から専門的に学んでいきます。最先端の食品製造や食品の栄養・機能に触れ、理解を深めることは、食の安全・健康志向の高まる現代には必須の能力です。新たな食品を開発し、人々の豊かな食生活に貢献できる技術や知識を習得する学科です。

主な仕事

資格を取得することで食品衛生管理者、食品衛生責任者、食品衛生監視員など、企業や地方自治体の専門的な仕事／水産・食品・食料メーカー／流通・フードサービス業／食品アドバイザー／食品のコーディネーター／商社の食品部門や関連／卸・小売業／食品製造／化学工業関係／中学校・高等学校教諭　ほか

【仮称・設置構想中】

国際共生学科

データサイエンス×貿易×国際社会

多様化時代の生物資源・環境と人の共生を
多角的な視点からマネジメントします

コミュニケーション・データサイエンス
国際社会
生物資源流通

グローバル化・多様化の時代に不可欠な「多角的な視点から、国際的な共生を図ることができる知識と思考力の養成」を教育のコンセプトに掲げ、教養と専門の両面から学際的な学修を提供します。コミュニケーション能力や共生力をもって、生物資源をマネジメントしていける人材を育成します。

主な仕事

生命・食・環境に関する生物資源の貿易、流通、サービス／観光関係／商社／金融・保険／不動産／建設関係／通信・情報に関連する企業や団体／国家公務員・地方公務員／中学校・高等学校の教諭／大学院進学　など

【仮称・設置構想中】

獣医保健看護学科

動物福祉×ヒトと動物の関係×動物愛護

獣医師と協働して動物の健康と福祉に
貢献する愛玩動物看護師を養成します

動物看護
愛玩動物の適正飼養
チーム獣医療

動物の健康管理や看護に必要な専門知識と技術を幅広く学び、動物の診療補助や適正な飼養、疾病の予防からリハビリテーション、公衆衛生まで、動物管理における実践的な対応力の習得を目指します。また附属の動物病院と連携した実習を通じ、高い技術力を持った「愛玩動物看護師」を養成します。

主な仕事

動物病院／動物関連産業（ペット保険、ペット飼料、動物書籍出版など）／動物臨床検査／医科学研究機関／実験動物施設／医療器機メーカー／製薬／医療関連のサービスや企業・団体／公務員／中学校・高等学校教諭／獣医学系学部への編入や進学、大学院進学　など

獣医学科

最先端の動物医療を通して、
動物の健康と公衆衛生に貢献する
獣医師を養成します

生命活動のメカニズムやさまざまな動物疾病の診断・治療や予防、公衆衛生、野生動物の保護と管理など、広範な領域を学び、最先端の知識と技術を身につけた獣医師を養成します。

日本大学生物資源科学部紹介リーフレット

（６ページ目/全６ページ）

ありのままの自然、そして世界を体感するフィールドサイエンス教育

講義で得た知識を実践力に進化させるポイントがフィールドサイエンス教育です。充実した施設・設備の活用だけではなく、ありのままの自然や環境に触れることで学修を深めます。また多様な観点の指導は広く視野を開き、さまざまな考え方や分析能力も習得していきます。さらに日本大学のネットワークを活用した海外との交流は人間性の成長にもつながる、大学らしい学びの場になっています。

2 演習林（藤沢、水上、八雲、君津）

3 富士自然教育センター

4 下田臨海実験所

1 農場

5 動物病院

6 図書館

7 骨の博物館

8 動物医科学研究センター

9 先端食機能研究センター

10 総合研究所

11 国際地域研究所

12 生命科学研究所

13 食品加工実習センター

14 生物環境科学研究センター

※掲載の写真は、学部案内パンフレット・学部紹介ポスターなどからの転載を含んでいます。

日本大学 生物資源科学部

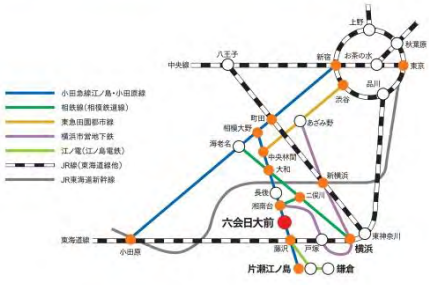
NIHON UNIVERSITY | College of Bioresource Sciences

2023年4月・新学科体制へ －学部改組構想中－

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866　TEL. 0466-84-3811

小田急江ノ島線「六会日大前」下車 徒歩２分

https://www.brs.nihon-u.ac.jp



別記様式第３号

教　員　名　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏　名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	加藤直人（かとうなおと） ＜令和2年9月＞		博士 （文学）		日本大学学長 （令和 2.9～5.8）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（生物資源科学部動物学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲﾜｻ　ﾏｻﾋﾛ 岩佐　真宏 〈令和5年4月〉		博士 (地球環境科学)		最新の動物学※	1前	0.1	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平16.4)	5日
							動物系統分類学	1後	2	1		
							動物学基礎実験Ⅰ	1後	4	4		
							動物学基礎実験Ⅱ	2前	4	4		
							動物科学論文講読	2後	1	1		
							動物生態学	2前	2	1		
							フィールド調査実習	2後	2	2		
							動物自然史博物学実習	3前	2	2		
							環境科学	2前	2	1		
							都市動物学	3前	2	1		
							動物学演習	3後	1	1		
							動物学研究Ⅰ	4前	3	1		
							動物学研究Ⅱ	4後	3	1		
2	専	教授	ｶﾉ　ｺｳｲﾁﾛｳ 加野　浩一郎 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		最新の動物学※	1前	0.6	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平12.4)	5日
							動物形態学	1後	2	1		
							動物学基礎実験Ⅰ	1後	4	4		
							動物学基礎実験Ⅱ	2前	4	4		
							動物科学論文講読	2後	1	1		
							動物発生学	2前	2	1		
							再生生物学	3前	2	1		
							動物学特別講義	3前	1	1		
							動物学演習	3後	1	1		
							動物学研究Ⅰ	4前	3	1		
							動物学研究Ⅱ	4後	3	1		
3	専	教授	ｷｼﾀﾞ　ﾀｸｼ 岸田　拓士 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		最新の動物学※	1前	0.1	1	ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授 (令2.6)	5日
							動物遺伝学	1後	2	1		
							動物学基礎実験Ⅰ	1後	4	4		
							動物学基礎実験Ⅱ	2前	4	4		
							動物科学論文講読	2後	1	1		
							古動物学	3前	2	1		
							動物学応用実験	2後	2	2		
							動物学演習	3後	1	1		
							動物学研究Ⅰ	4前	3	1		
							動物学研究Ⅱ	4後	3	1		
4	専	教授	ﾀｶﾊｼ(ｽｷﾞ)　ｷｮｳｺ 髙橋(杉)　恭子 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		最新の動物学※	1前	0.1	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平18.4)	5日
							生化学	1後	2	1		
							動物学基礎実験Ⅰ	1後	4	4		
							動物学基礎実験Ⅱ	2前	4	4		
							動物科学論文講読	2後	1	1		
							免疫生物学	2前	2	1		
							動物学応用実験	2後	2	2		
							動物学演習	3後	1	1		
							動物学研究Ⅰ	4前	3	1		
							動物学研究Ⅱ	4後	3	1		
5	専	教授	ﾆｼﾑﾗ　ﾄﾓﾖｼ 西村　知良 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎生物学	1･2･3･4前	10	5	日本大学 生物資源科学部 教授 (平21.4)	5日
							総合生物学	1･2･3･4後	10	5		
							最新の動物学※	1前	0.1	1		
							動物学基礎実験Ⅰ	1後	4	4		
							動物学基礎実験Ⅱ	2前	4	4		
							動物科学論文講読	2後	1	1		
							動物学応用実験	2後	2	2		
							時間生物学	3後	2	1		
							動物学演習	3後	1	1		
							動物学研究Ⅰ	4前	3	1		
							動物学研究Ⅱ	4後	3	1		

6	専	教授	ﾎｿﾔ ﾀﾀﾞﾂｸﾞ 細谷 忠嗣 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 昆虫体系学 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 動物自然史博物学実習 動物地理学 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2前 2後 3前 3後 3後 4前 4後	0.1 4 2 4 1 2 2 1 3 3	1 4 1 4 1 2 1 1 1 1	九州大学 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター学術研究員 特任准教授 (令2.6)	5日
7	専	教授	ﾔﾏﾑﾛ ﾕﾀｶ 山室 裕 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		動物生理学 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 実験動物学 神経生物学 動物学演習	1後 1後 2前 2後 2後 3前 3後	2 4 4 1 2 2 1	1 4 4 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平7.4)	5日
	兼任	講師	ﾔﾏﾑﾛ ﾕﾀｶ 山室 裕 〈令和8年4月〉		博士 (農学)		動物生理学 実験動物学 神経生物学	1後 2後 3前	2 2 2	1 1 1		
8	専	准教授	ﾅｶｼﾏ ﾖｼﾋﾛ 中島 啓裕 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 哺乳類・鳥類学 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 フィールド生態調査法 フィールド調査実習 野生動物管理学 保全生物学実習 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2前 2後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	0.1 4 2 4 1 2 2 2 2 1 3 3	1 4 1 4 1 1 2 1 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平26.4)	5日
9	専	准教授	ﾊﾀｹﾔﾏ ﾖｼﾉﾘ 畠山 吉則 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 応用昆虫学 微生物学 動物学応用実験 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2後 2前 2後 3後 4前 4後	0.1 4 4 1 1 1 2 1 3 3	1 4 4 1 1 1 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平18.4)	5日
10	専	講師	ｱｲｻﾞﾜ ｼｭｳ 相澤 修 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 分子生物学 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 動物学応用実験 動物バイオテクノロジー 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2前 2後 2後 3後 3後 4前 4後	0.1 4 2 4 1 2 2 1 3 3	1 4 1 4 1 2 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平26.4)	5日
11	専	講師	ｵｷ ﾖｼﾅｵ 沖 嘉尚 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物組織学 動物科学論文講読 生物統計学 動物学応用実験 生物情報学 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後	0.1 4 4 2 1 2 2 2 1 3 3	1 4 4 1 1 1 2 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平22.4)	5日
12	専	講師	ｿﾉﾀﾞ ﾕﾀｶ 園田 豊 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 動物行動学 生殖生物学 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3後 4前 4後	0.1 4 4 1 2 2 1 3 3	1 4 4 1 1 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平4.4)	5日

13	専	講師	ﾅｶﾆｼ ﾕｳｽｹ 中西 祐輔 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		最新の動物学※ 動物細胞生物学 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 応用免疫学 動物学応用実験 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2後 2後 3後 4前 4後	0.1 2 4 4 1 2 2 1 3 3	1 1 4 4 1 1 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平29.4)	5日
14	専	講師	ﾐﾀﾆ ﾅﾎ 三谷 奈保 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 フィールド調査実習 外来動物管理学 保全生物学 動物と社会 保全生物学実習 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 2後 2前 2後 3前 3前 3後 4前 4後	0.1 4 4 1 2 2 2 2 2 1 3 3	1 4 4 1 2 1 1 1 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平24.4)	5日
15	専	助教	ｶﾅｻﾞﾜ ﾄﾓｺ 金澤 朋子 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		最新の動物学※ 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 動物と社会 保全生物学実習 動物の採餌と飼料 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後	0.1 4 4 1 2 2 2 1 3 3	1 4 4 1 1 2 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 助教 (平27.4)	5日
16	専	助教	ﾅｶｲ ｼｽﾞｺ 中井 静子 〈令和5年4月〉		博士 (生命科学)		最新の動物学※ 動物の多様性 動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 海岸生物学 保全生物学実習 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	0.1 2 4 4 1 2 2 1 3 3	1 1 4 4 1 1 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 助教 (平22.4)	5日
17	専	助教	ﾐｮｳｼｭ ﾋｶﾘ 明主 光 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		動物学基礎実験Ⅰ 動物学基礎実験Ⅱ 動物科学論文講読 フィールド調査実習 動物自然史博物学実習 動物学演習 動物学研究Ⅰ 動物学研究Ⅱ	1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	4 4 1 2 2 1 3 3	4 4 1 2 2 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 助教 (令2.4)	5日
18	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾀｶｼ 井上 貴史 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		物理学入門 基礎力学 物理学演習 物理学概論Ⅰ 物理学概論Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 2前 2後	10 6 2 2 2	5 3 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平22.4)	
19	兼担	教授	ｳｴﾀﾞ ｼﾝｺﾞ 上田 眞吾 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		基礎化学 総合化学 地球環境を考える 化学実験	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 3後	6 4 6 2	3 2 3 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平11.4)	
20	兼担	教授	ｴｶﾞｼﾗ ﾐﾅﾄ 江頭 港 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		基礎化学 総合化学 地球環境を考える 化学概論Ⅱ 化学実験	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 2後 3後	12 6 4 2 2	6 3 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平25.4)	
21	兼担	教授	ｵｻﾞﾜ ﾋﾛｶｽﾞ 小沢 広和 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎地球科学 総合地球科学 地学概論Ⅰ 地学概論Ⅱ 地学実験	1･2･3･4前 1･2･3･4後 4前 4後 4後	8 8 2 2 2	4 4 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平24.4)	

22	兼担	教授	ｶﾈﾅｶ ﾋﾛﾐ 兼中 裕美 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	4 4 1 1 2 2	4 4 1 1 2 2	日本大学 生物資源科学部 教授 (平12.4)	
23	兼担	教授	ｸﾛﾀｷ ﾃﾂﾔ 黒滝 哲哉 〈令和5年4月〉		文学修士		歴史学入門 日本の歴史	1･2･3･4前 1･2･3･4後	10 10	5 5	公益財団法人日本美術刀剣保存協会 たたら課長 (平21.4)	
24	兼担	教授	ｺﾄﾞｳ ﾄｼﾀｶ 小堂 俊孝 〈令和5年4月〉		教育学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	3 3 3 3	3 3 3 3	日本大学 生物資源科学部 教授 (平12.4)	
25	兼担	教授	ｻｶﾓﾄ ｸﾐｺ 阪本 久美子 〈令和5年4月〉		Ph.D. in English (英国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 3 3 1 1	1 1 3 3 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平14.4)	
26	兼担	教授	ｼﾌﾞﾔ ﾋｻｼ 渋谷 久 〈令和5年4月〉		Ph.D. (米国)		海外フィールド実習	1･2･3･4前･後	1	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平12.4)	
27	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ(ｸｻｶﾘ) ﾐﾕｷ 清水(草苅) みゆき 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平8.4)	
28	兼担	教授	ｽｴ ﾀｶｼ 須江 隆 〈令和5年4月〉		博士 (文学)		歴史学入門 世界の歴史 生物資源科学概論※	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1前	10 10 0.4	5 5 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平9.4)	
29	兼担	教授	ｽｶﾞﾇﾏ ｹｲｺ 菅沼 桂子 〈令和5年4月〉		博士 (経済学)		経済学入門 経済と現代社会	1･2･3･4前 1･2･3･4後	8 8	4 4	日本大学 生物資源科学部 教授 (平23.4)	
30	兼担	教授	ｽﾅｶﾞ ﾕﾀｶ 須永 豊 〈令和5年4月〉		Master of Arts in African-American World Studies (米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平14.4)	
31	兼担	教授	ｾｷ ﾀｲｲﾁﾛｳ 関 泰一郎 〈令和6年4月〉		博士 (農学)		基礎栄養学	2後	2	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (昭61.4)	
32	兼担	教授	ﾀｷｻﾞﾜ ﾋﾃﾞｷ 瀧澤 英紀 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平8.4)	
33	兼担	教授	ﾅﾝﾊﾞ ｹﾝｼﾞ 難波 謙二 〈令和5年4月〉		経済学士		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ スポーツ科学	1前・後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4 4	4 4 2	日本大学 生物資源科学部 教授 (平10.4)	
34	兼担	教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾏｻｴ 長谷川 正江 〈令和5年4月〉		文学修士		日本語表現の基礎 日本の文学	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	12 8	6 4	日本大学 生物資源科学部 教授 (平10.4)	
35	兼担	教授	ﾊﾏﾀﾞ ﾀﾂﾖｼ 濱田 龍義 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		解析学 線形代数 データサイエンスの基礎 情報科学	1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	6 6 4 8	3 3 2 4	日本大学 生物資源科学部 教授 (平28.4)	
36	兼担	教授	ﾌｸｼﾏ ﾋﾃﾞﾄ 福島 英登 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平27.4)	
37	兼担	教授	ﾏﾂﾊｼ ｱｷﾋﾛ 松橋 明宏 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	1前・後 1･2･3･4前･後	5 5	5 5	日本大学 生物資源科学部 教授 (平16.4)	
38	兼担 (学部長)	教授	ﾏﾙﾔﾏ ｿｳｲﾁ 丸山 総一 〈令和7年4月〉		博士 (獣医学)		野生動物と飼育動物の感染症学	3後	2	1	日本大学 生物資源科学部 教授 (昭60.4)	
39	兼担	教授	ﾏﾙﾔﾏ ﾄﾓﾕｷ 丸山 智幸 〈令和5年4月〉		理学博士		物理学入門 基礎力学 物理学実験	1･2･3･4前 1･2･3･4後 4前	6 8 2	3 4 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平11.4)	
40	兼担	教授	ﾓﾘ ﾅｶﾞﾋﾃﾞ 森 長秀 〈令和5年4月〉		修士 (法学)		法学入門 日本国憲法 現代社会と福祉 ボランティア論	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前	8 8 8 1	4 4 4 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平15.4)	

41	兼担	教授	ﾖｺﾔﾏ ｱｷｺ 横山 安紀子 〈令和5年4月〉		文学 博士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 4 4 1 1	2 2 4 4 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平9.4)	
42	兼担	准教授	ｷﾀﾜｷ ﾐﾁﾖ 北脇 実千代 〈令和5年4月〉		博士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後 1前 1後	1 1 6 6	1 1 6 6	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平26.4)	
43	兼担	准教授	ｺﾝﾄﾞｳ ﾅｵｷ 近藤 直樹 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 3 3 2 2	2 2 3 3 2 2	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平25.4)	
44	兼担	准教授	ｻｻﾀﾞ ｶﾂﾋﾛ 笹田 勝寛 〈令和5年4月〉		博士 (農学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平13.4)	
45	兼担	准教授	ｼｻﾞﾜ ﾔｽﾋｺ 志澤 泰彦 〈令和5年4月〉		修士 (農学)		基礎化学 化学概論Ⅰ	1･2･3･4前･後 2前	8 2	4 1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平28.4)	
46	兼担	准教授	ﾀｹﾏﾀ ﾄｼﾛｳ 竹俣 壽郎 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ スポーツ実技Ⅲ スポーツ科学	1前・後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4前･後	7 2 1 4	7 2 1 2	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平24.4)	
47	兼担	准教授	ﾅｶﾞｻﾜ ﾌﾐｺ 長澤 郁子 〈令和5年4月〉		修士(教育学)		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	1前・後 1･2･3･4前･後	7 3	7 3	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平26.4)	
48	兼担	准教授	ﾅｶﾑﾗ ﾄｸﾋﾛ 中村 篤博 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎化学 総合化学 地球環境を考える	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	8 8 6	4 4 3	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平31.4)	
49	兼担	准教授	ﾌｸｻﾞﾜ ﾒｸﾞﾐ 福澤 めぐみ 〈令7年4月〉		博士 (学術)		動物心理学	3前	2	1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平21.4)	
50	兼担	准教授	ﾔﾏｼﾀ ﾏｻﾐﾁ 山下 正道 〈令和5年4月〉		博士 (薬学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平19.4)	
51	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾀｲｽｹ 渡邉 泰祐 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		生物資源科学概論※	1前	0.3	1	日本大学 生物資源科学部 准教授 (平27.4)	
52	兼担	講師	ｱｲｻﾞﾜ(ｳﾗｲ) ﾄﾓｺ 相澤(浦井) 朋子 〈令和5年4月〉		博士 (生物資源科学)		基礎生物学	1･2･3･4前	2	1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平26.4)	
53	兼担	講師	ｱｶﾐﾈ ｼﾝﾀﾛｳ 赤嶺 新太郎 〈令和5年4月〉		博士 (数理学)		統計学入門 推計学入門 解析学 線形代数	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	4 4 6 6	2 2 3 3	日本大学 生物資源科学部 講師 (令2.4)	
54	兼担	講師	ｽｶﾞ ﾏｲｺ 須賀 真以子 〈令和5年4月〉		博士 (人文科学)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語表現の基礎 日本の文学	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	1 1 8 8	1 1 4 4	日本大学 生物資源科学部 講師 (令2.4)	
55	兼担	講師	ｽﾐｽ･ｺﾙﾑ Colm Smyth 〈令和6年4月〉		Master of Arts in Applied Linguistics (英国)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	7 7	7 7	日本大学 生物資源科学部 講師 (平30.4)	
56	兼担	講師	ﾀｹｳﾁ ﾋﾛﾋｺ 竹内 寛彦 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎生物学 総合生物学 両生類・爬虫類学 生物学概論Ⅰ 生物学概論Ⅱ 生物学実験	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2後 1前 1後 2後	6 6 2 2 2 2	3 3 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平29.4)	
57	兼担	講師	ﾂﾁﾔ ﾄｸｼﾞ 土屋 徳司 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		総合生物学	1･2･3･4後	2	1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平27.4)	
58	兼担	講師	ﾆｼｺﾘ ﾁﾂﾞﾙ 錦織 千鶴 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	1前・後 1･2･3･4前･後	5 7	5 7	日本大学 生物資源科学部 講師 (平27.4)	

59	兼担	講師	ﾔﾏｳﾁ ｱﾔｺ 山内 綾子 〈令和5年4月〉		Master of Arts in TESOl (米国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 4 4 1 1	2 2 4 4 1 1	日本大学 生物資源科学部 講師 (平15.4)	
60	兼担	講師	ﾖｼﾀﾞ(ﾂﾁﾔ) ｶｼﾐ 吉田(土屋) 一史美 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		生命倫理	1･2･3･4前	8	4	日本大学 生物資源科学部 講師 (平30.4)	
61	兼担	助教	ﾅﾝﾊﾞ ｺｳﾍｲ 難波 皓平 〈令和5年4月〉		修士 (人間科学)		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ スポーツ実技Ⅲ スポーツ実技Ⅳ	1前・後 1･2･3･4前・後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	9 4 1 1	9 4 1 1	日本大学 生物資源科学部 助教 (令2.4)	
62	兼任	特任教授	ｶｼﾞﾔﾏ ﾋﾛｼ 梶山 廣司 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ スポーツ科学	1前・後 1･2･3･4前・後 1･2･3･4前・後	4 4 4	4 4 2	日本大学 生物資源科学部 特任教授 (平31.4)	
63	兼任	特任教授	ｶﾓﾊﾗ ﾖｼｱｷ 蒲原 義明 〈令和5年4月〉		文学修士		日本語表現の基礎 日本の文学	1･2･3･4前・後 1･2･3･4前・後	10 10	5 5	日本大学 生物資源科学部 特任教授 (令3.4)	
64	兼任	特任教授	ﾈﾓﾄ ﾋﾛｱｷ 根本 洋明 〈令和5年4月〉		理学博士		統計学入門 解析学 線形代数 データサイエンスの基礎	1･2･3･4前・後 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前・後	4 4 4 4	2 2 2 2	日本大学 生物資源科学部 特任教授 (令2.4)	
65	兼任	特任教授	ﾏﾅﾍﾞ ｶｽﾞﾁｶ 眞邉 一近 〈令和5年4月〉		博士 (心理学)		心理学入門 行動心理学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	8 8	4 4	日本大学 生物資源科学部 特任教授 (令3.4)	
66	兼任	講師	ｱｵｷ ﾀｹﾉﾌﾞ 青木 武信 〈令和5年4月〉		文学博士		文化人類学入門 環境の文化人類学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	6 6	3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平14.4)	
67	兼任	講師	ｱｵﾔﾏ ｶﾅ 青山 加奈 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平23.4)	
68	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾋﾛｼ 安倍 弘 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎生物学 総合生物学 動物自然史博物学 動物学史	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2後 3前	10 10 2 2	5 5 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平10.4)	
69	兼任	講師	ｱﾒﾐﾔ ｸﾐ 雨宮 久美 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		哲学入門 哲学の現在	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平13.4)	
70	兼任	講師	ｱﾝﾄﾜｰﾇ･ｽﾃﾋﾞﾝｽ Antoine L.Stebbins 〈令和6年4月〉		Master of Arts in Humanities (米国)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	6 6	6 6	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平15.4)	
71	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼﾝｺﾞ 伊藤 真吾 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		推計学入門	1･2･3･4後	4	2	北里大学 一般教育部 教授 (平25.4)	
72	兼任	講師	ｲﾜﾅｶﾞ ﾖｼｴ 岩永 祥恵 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平18.4)	
73	兼任	講師	ｳﾞｧﾚﾘｰ･ｽﾞｨｱ･ｶﾞﾘｼｴ=ﾎﾝﾀﾞ Valerie Zia Honda 〈令和6年4月〉		Master-Diplôme Européen des Hautes Etudes Internationales (フランス)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	3 3	3 3	明治学院大学 教養教育センター 研究助手 (平30.4)	
74	兼任	講師	ｳｻ ｷｮｳｺ 宇佐 教子 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後	2 2	2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平27.4)	
75	兼任	講師	ｳｼｶﾞｷ ﾕｳﾔ 牛垣 雄矢 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		地理学入門 地理学の現在	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	東京学芸大学 教育学部 准教授 (平25.4)	

76	兼任	講師	ｴﾘｻﾞﾍﾞｽ・ﾏｺｰﾐｯｸ・ｲﾉｺ Elizabeth McCormick Inoko 〈令和6年4月〉		Master of Arts in English (米国)		英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	2前 2後	5 5	5 5	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平16.4)	
77	兼任	講師	ｵｵﾔﾏ ﾖｼﾐﾁ 大山 昌道 〈令和5年4月〉		文学修士		初級中国語文法Ａ 初級中国語文法Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	3 3	3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平11.4)	
78	兼任	講師	ｵｸﾞﾗ ﾐｶ 小倉 美加 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平11.4)	
79	兼任	講師	ｵｻﾞﾜ ｱｷﾋﾄ 小澤 明人 〈令和5年4月〉		商学士		自主創造の基礎 日本を考える	1前 1後	2 2	1 1	株式会社ﾘｯﾁﾋﾟｯﾁｬｰｽﾞ ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ (平26.7)	
80	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾘｶ 加藤 理加 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ	1前 1後	3 3	3 3	神奈川県立よこはま看護専門学校 非常勤講師 (平17. 4)	
81	兼任	講師	ｷｸﾁ ｱﾂｺ 菊池 貴子 〈令和7年4月〉		博士 (学術)		動物の福祉と倫理	3前	2	1	スターゼン株式会社 (令1.7)	
82	兼任	講師	ｷﾀﾑﾗ ﾀﾀﾞｼ 北村 唯司 〈令和5年4月〉		文学博士		初級韓国語文法Ａ 初級韓国語文法Ｂ 初級韓国語会話Ａ 初級韓国語会話Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 1 1	1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平26.4)	
83	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾄｼｵ 木村 聡雄 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	3 3 3 3 1 1	3 3 3 3 1 1	日本大学 生物資源科学部 教授 (平20.4)	
84	兼任	講師	ｸﾎﾞ ﾅｵﾔ 久保 尚也 〈令和5年4月〉		修士 (心理学)		心理学入門 個性の心理学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	北里大学 非常勤講師 (平22.4)	
85	兼任	講師	ｸﾘﾊﾗ ﾖﾘｺ 栗原 順子 〈令和5年4月〉		修士 (中国文学)		初級中国語文法Ａ 初級中国語文法Ｂ 中級中国語文法 中級中国語会話	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	3 3 1 1	3 3 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平17.4)	
86	兼任	講師	ｸﾛｾ ｼﾎ 黒瀬 志保 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		初級ドイツ語会話Ａ 初級ドイツ語会話Ｂ 中級ドイツ語講読Ａ 中級ドイツ語講読Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	3 3 1 1	3 3 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平16.4)	
87	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾋﾛ 小林 正弘 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		統計学入門	1･2･3･4前･後	4	2	東海大学 理学部 准教授 (平27.4)	
88	兼任	講師	ｻｻｷ ｷﾖｼ 佐々木 聖使 〈令和5年4月〉		文学修士		倫理学入門 倫理学の現在	1･2･3･4前 1･2･3･4後	8 8	4 4	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平11.4)	
89	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾀｶﾋｻ 佐藤 高尚 〈令和5年4月〉		修士 (政治学)		政治学入門 政治と現代社会	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	日本大学 法学部 非常勤講師 (平15.4)	
90	兼任	講師	ｼﾞｪﾆﾌｧｰ・ﾃﾞｨｿﾞﾝ Jennifer Dizon 〈令和6年4月〉		Bachelor of Arts in Industrial Relations (ｶﾅﾀﾞ)		英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	2前 2後	6 6	6 6	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平17.4)	
91	兼任	講師	ｼﾞｪｰﾐ ｽﾁｭｱｰﾄ ﾌｨﾝﾄﾞﾘ Jamie Stuart Findlay 〈令和6年4月〉		Master of Arts in Systematic Theology (英国)		英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	2前 2後	5 5	5 5	シェーン英会話講師 (平17.3迄勤務)	
92	兼任	講師	ｼﾀﾞ ﾏｺﾄ 志田 慎 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		初級ドイツ語文法Ａ 初級ドイツ語文法Ｂ 初級ドイツ語講読Ａ 初級ドイツ語講読Ｂ 初級ドイツ語会話Ａ 初級ドイツ語会話Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4 2 2 1 1	4 4 2 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平12.5)	

93	兼任	講師	ｼﾊﾞ ﾆｼﾞ 司馬 虹 〈令和5年4月〉		Master of Biomedical Science (米国)		初級中国語会話Ａ 初級中国語会話Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	新日本教育株式会社 中国語講師 (平10.3迄勤務)	
94	兼任	講師	ｼﾓﾀﾞ ﾀｶﾕｷ 下田 隆之 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		初級フランス語文法Ａ 初級フランス語文法Ｂ 初級フランス語会話Ａ 初級フランス語会話Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 1 1	2 2 1 1	国士舘大学 非常勤講師 (平19.4)	
95	兼任	講師	ｽｷﾞﾀ ﾖｼｷ 杉田 芳樹 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		初級ドイツ語文法Ａ 初級ドイツ語文法Ｂ 初級ドイツ語講読Ａ 初級ドイツ語講読Ｂ 検定ドイツ語Ａ 検定ドイツ語Ｂ 比較文化論 比較芸術論	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4 2 2 1 1 2 2	4 4 2 2 1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平12.5)	
96	兼任	講師	ﾀｶﾑﾗ ﾏｻｼ 高村 正志 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		情報科学	1･2･3･4前･後	4	2	青山学院大学 社会情報学部 助教 (平29.4)	
97	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｷｮｳｺ 竹内 京子 〈令和5年4月〉		学術修士		初級フランス語文法Ａ 初級フランス語文法Ｂ 初級フランス語会話Ａ 初級フランス語会話Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 1 1	2 2 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平18.4)	
98	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾛｷ 田中 弘樹 〈令和5年4月〉		人文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	2 2 3 3	2 2 3 3	鎌倉女子大学 教育学部 教授 (平23.4)	
99	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾕｷ 田中 有希 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		データサイエンスの基礎 情報科学	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 12	2 6	日本大学 医学部 非常勤講師 (平25.4)	
100	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾕﾘ 田中 ゆり 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 4 4	1 1 4 4	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平19.4)	
101	兼任	講師	ﾄｵﾔﾏ ﾏｻｺ 遠山 雅子 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	3 3 1 1	3 3 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平13.4)	
102	兼任	講師	ﾄｶﾞｼ ｽﾅﾐ 冨樫 須奈美 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	2 2 3 3	2 2 3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平25.4)	
103	兼任	講師	ﾄｶﾞｼ ﾀｹｵ 冨樫 壮央 〈令和5年4月〉		修士 (国際学)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 3 3	1 1 3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平24.4)	
104	兼任	講師	ﾄﾐﾔﾏ ﾋﾃﾞｱｷ 富山 英明 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ スポーツ科学	1前・後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4 4	4 4 2	日本大学 生物資源科学部 教授 (昭56.4)	
105	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ﾁﾎ 中川 千帆 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 3 3	1 1 3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平27.4)	
106	兼任	講師	ﾅｶﾞﾉ ﾖｼﾉﾘ 永野 良紀 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎地球科学 総合地球科学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平22.4)	
107	兼任	講師	ﾉﾌﾞﾖｼ ｼﾞｭﾝｺ 延吉 淳子 〈令和5年4月〉		教育学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平20.4)	
108	兼任	講師	ﾌｨﾘｯﾌﾟ･ｸﾞﾘｰﾝﾌﾞﾗｯﾄ Philip Greenblatt 〈令和6年4月〉		Master in Arts Applied Linguistics (英国)		英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	2前 2後	6 6	6 6	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (令3.4)	
109	兼任	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾕﾀｶ 福田 豊 〈令和7年4月〉		博士 (学術)		動物園飼育管理学	3前	2	1	公益財団法人東京動物園協会 恩賜上野動物園園長 (平29.4)	

110	兼任	講師	ホリ　ヒロハル 堀　広治 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後 1前 1後	3 3 1 1	3 3 1 1	青山学院大学 非常勤講師 (平6.4)	
111	兼任	講師	ホンダ　マキオ 本多　牧生 〈令和5年4月〉		博士 (地球環境科学)		地球環境を考える	1･2･3･4前･後	8	4	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 上席研究員 (令2.4)	
112	兼任	講師	マツザキ　シゲル 松崎　茂 〈令和5年4月〉		修士 (社会学)		社会学入門 社会学の現在	1･2･3･4前 1･2･3･4後	6 6	3 3	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平11.4)	
113	兼任	講師	モミヤマ　メリダ 籾山　メリダ 〈令和5年4月〉		Licenciado en Educacion Especialidad:Ciencias (ペルー)		初級スペイン語文法A 初級スペイン語文法B 初級スペイン語会話A 初級スペイン語会話B	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 1 1	1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平10.4)	
114	兼任	講師	ヤマグチ　マリ 山口　まり 〈令和5年4月〉		修士 (学術)		科学史 科学技術と社会	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平30.4)	
115	兼任	講師	ヤマシタ　チサト 山下　千里 〈令和5年4月〉		文学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 4 4	1 1 4 4	東海大学 非常勤講師 (平25.9)	
116	兼任	講師	ヤマダ　ヒロコ 山田　裕子 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		基礎生物学 総合生物学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	東京海洋大学 海洋科学部 博士研究員 (平20.4)	
117	兼任	講師	ヤマダ　マサモト 山田　眞幹 〈令和5年4月〉		商学士		スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	1前・後 1･2･3･4前･後	2 2	2 2	マサスポーツシステム有限会社 代表取締役 (平2.4)	
118	兼任	講師	ヤマモト　ダイスケ 山本　大介 〈令和5年4月〉		博士 (薬学)		基礎化学	1･2･3･4前･後	4	2	北里大学 薬学部 講師 (平20.4)	
119	兼任	講師	ヨコヤマ　シュンイチ 横山　俊一 〈令和5年4月〉		博士 (数理学)		情報科学	1･2･3･4前･後	8	4	東京都立大学大学院　理学研究科 准教授 (平31.4)	
120	兼任	講師	ヨシダ　マサヒロ 吉田　昌弘 〈令和5年4月〉		修士 (異文化コミュニケーション)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平27.4)	
121	兼任	講師	ルビエラ ヒメネス デ タカハシ Rubiela Jiménez de Takahashi 〈令和5年4月〉		Licenciada en Ingeniería en Ciencias Forestales (パナマ)		初級スペイン語文法A 初級スペイン語文法B 初級スペイン語会話A 初級スペイン語会話B	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 1 1	1 1 1 1	リベラルテ 講師 (平28.4)	
122	兼任	講師	ワシヅカ　ナホ 鷲塚　奈保 〈令和5年4月〉		博士 (イギリス文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平25.9)	
123	兼任	講師	ワタナベ　トシカズ 渡辺　俊一 〈令和5年4月〉		博士 (理学)		統計学入門 解析学 線形代数	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 8 8	1 4 4	日本大学 生物資源科学部 非常勤講師 (平25.4)	

(注)
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	5　人	人	1　人	人	6　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	1　人	1　人	人	人	人	2　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	3　人	1　人	人	1　人	人	5　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	1　人	2　人	人	人	人	人	3　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1　人	6　人	7　人	人	2　人	人	16　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。